

## 現場説明書(技術的事項)

工事名 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事

### 1 現場の状況

- (1) 工事場所は、竹ヶ端運動公園内です。
- (2) 工事期間中は、公園及び各施設は通常どおり利用・運営をしています。

### 2 留意事項

- (1) 工事期間中は第三者の安全確保に細心の注意を払い、必要な対策を講じてください。
- (2) 工事場所周辺では、多数の公園利用者が見込まれます。利用者の支障とならないよう事前に公園管理者と協議した上で、適切な仮設計画を作成し、監督員の承諾を受けてください。
- (3) 工事車両の出入は、芦田川側(芦田川右岸3号線)を想定しています。工事車両の構内通路においては最徐行とし、公園利用者と重複する箇所については、交通誘導員等を配置し第三者の安全対策を講じてください。なお、交通誘導員の配置については、176人を見込んでいます。
- (4) 工事用出入口から前面道路へ泥等を持ち出すことのないよう十分留意し、必要に応じてタイヤ洗浄等を行い、日常的に道路や水路の清掃に努めてください。
- (5) 工事着手時期については、監督員及び公園管理者と協議が必要です。
- (6) 公園西側は、住宅地が近接しているため、工事中の重機等による振動・騒音・粉塵等の作業を行う際は十分対策を講じてください。
- (7) 高所作業にあたっては、適切な安全対策を講じ、転落・墜落災害の防止に努めてください。
- (8) 現場の排水は周辺環境に十分配慮し、適切に処理したうえで排水してください。
- (9) 公園内の既存施設等に損傷を与えないように必要な対策を講じてください。なお、損傷を与えた場合には、監督員及び公園管理者と協議のうえ、速やかに復旧してください。
- (10) 別途工事業者との調整を行い、円滑な工事の遂行に努めてください。
- (11) 休日及び時間外に作業を行う場合は、監督員及び公園管理者と事前に協議してください。
- (12) 本工事は、建設リサイクル法の対象工事に該当します。特定建設資材の再資源化に努めるとともに、産業廃棄物は適切に処理してください。
- (13) 契約後、実施工程表は14日以内に提出するとともに、施工計画書等の承諾は速やかに受けてください。
- (14) 工事施工上必要な官庁署への手続きは、受注者の責任において速やかに行ってください。

い。

- (15) 本工事の受注者は、地元企業・地場製品の活用に努めてください。また、木工事で使用する木材は、可能な限り県産材を使用するよう努めてください。
- (16) 本工事においては、工事のイメージアップとして、仮囲いや外部足場養生シート等への環境整備費用を見込んでいます。具体的な整備内容については、工事着手前に提案し監督員の承諾を受けてください。

### 3 別途工事

- ・電気設備工事
- ・給排水衛生ガス設備工事
- ・冷暖房換気設備工事
- ・昇降機設備工事
- ・カーテン取付工事
- ・庭球場整備工事

### 4 工事における「第20回世界パラ会議福山大会2025」ロゴの標示について

「第20回世界パラ会議福山大会2025」が2025年5月18日から24日にかけて開催されます。ついては、周知と機運醸成を図るため、工事現場に掲げる標識として、大会ロゴの標示のご協力をお願いします。

- (1) 使用するロゴは「第20回世界パラ会議福山大会2025 ロゴ利用規程」に沿った指定のデザインとしてください。
- (2) 「第20回世界パラ会議福山大会2025 ロゴ利用規程」に定められた「大会ロゴ利用許諾申請書」の提出は不要です。
- (3) 使用する大会ロゴは「大会ロゴデザインガイド」にて配色等が定められているので留意してください。
- (4) 大会ロゴの標示は任意事項とし、標示する際は、発注課へ連絡してください。
- (5) ロゴ標示期限は2026年（令和8年）3月31日です。
- (6) デザインデータについては福山市建設管理部技術検査課へ問合せってください。

### 5 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に係る設計変更等

- (1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、次のとおり実施に努めてください。
  - ア 「3つの密を避けるための手引き」の活用  
各現場に配布し工事等の関係者に周知を図るとともに、作業所等で掲示してください。  
・ [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html#kokumin](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html#kokumin)
  - イ 「建設現場の「三つの密」の回避等に向けた取組事例」の活用  
各現場に配布し始業前の朝礼やKY活動等において工事等の関係者に周知してください。

・[http://chotatsu.pref.hiroshima.jp/file/kakudaibousi\\_5.pdf](http://chotatsu.pref.hiroshima.jp/file/kakudaibousi_5.pdf)

※各現場での対策事例については、TwitterやFacebook等のSNS活用により普及・展開に努めてください。

例) 「#建設現場の3密対策」を付けたツイートが行われるよう同ハッシュタグを周知する等

- (2) 上述の1を参考に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を実施することにより追加費用が発生する場合は、実施計画書(様式1)により監督員と事前に協議を行い、必要と認められる対策については変更施工計画書(変更業務計画書)を提出してください。  
なお、必要と認められる対策については、設計変更の対象とします。
- (3) 最終精算変更時点においては、実際に履行したことがわかる全ての証明書類(領収書の写し、領収書の出ないものは金額の妥当性を証明する書類等)及び実績報告書(様式2)を監督員に提出してください。
- (4) 受注者から提出された資料に虚偽の申告があった場合については、法的措置及び指名除外等の措置を行う場合があります。
- (5) 疑義が生じた場合は、監督員と協議してください。

#### 【設計変更の対象とする対策に係る費用の例】

##### <共通仮設費>

- 労働者宿舎での密集を避けるための、近隣宿泊施設の宿泊費・交通費
- 現場事務所や労働者宿舎等の拡張費用・借地料

※いずれも、その後の積算における現場管理费率や一般管理费率による計算の対象外とします。

##### <現場管理費(業務においては直接経費)>

- 現場従事者のマスク、インカム、シールドヘルメット等の購入・リース費用
- 現場に配備する消毒液、赤外線体温計等の購入・リース費用
- テレビ会議等のための機材・通信費

※いずれも、その後の積算における一般管理费率による計算の対象外とします。

このほかにも、感染拡大防止のために必要と認められる対策については、設計変更の対象とします。

## 6 墜落制止用器具の着用について

労働安全衛生法施行令第13条第3項第28号における墜落制止用器具の着用は、「墜落制止用器具の規格」(平成31年1月25日厚生労働省告示第11号)による墜落制止用器具(フルハーネス型墜落制止用器具、胴ベルト型墜落制止用器具及びランヤード等)としてください。

## 7 法定外の労災保険の付保について

本工事は、法定外の労災保険を見込んでいます。

# 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事

福山市建設局建築部営繕課			発注 2023年 5月	
主務	次長	課長補佐	営繕課長	建築部長

意匠					構造			
図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
A-0	表紙	—	A-52	【庭球場屋根】屋根伏図、立面図	1/200	S-1	建築工事 特記仕様書 構造関係	—
A-1	図面リスト	—	A-53	【庭球場屋根】天井伏図、断面図	1/200	S-2	鉄筋工事仕様書 No. 1	—
A-2	建築工事特記仕様書(1)	—	A-54	【庭球場屋根】外構図	1/150	S-3	鉄筋工事仕様書 No. 2	—
A-3	建築工事特記仕様書(2)	—	A-55	【庭球場屋根】外構詳細図(1)	1/30	S-4	鉄骨工事仕様書 No. 1	—
A-4	建築工事特記仕様書(3)	—	A-56	【庭球場屋根】外構詳細図(2)	1/6, 10, 20	S-5	鉄骨工事仕様書 No. 2	—
A-5	建築工事特記仕様書(4)	—	A-57	【庭球場屋根】既存植栽・擁壁等撤去図(1)	1/150	S-6	立体トラス工事特記仕様書	—
A-6	工事区分表	—	A-58	【庭球場屋根】既存植栽・擁壁等撤去図(2)	1/10	S-7	膜構造部仕様書	—
A-7	敷地案内図、全体配置図	1/1500	A-59	仮囲い計画図<参考図>	1/500	S-8	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	—
A-8	配置図	1/500				S-9	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	—
A-9	敷地求積図	—				S-10	鉄骨構造標準図	—
A-10	建物求積図	1/200				S-11	【管理棟】GLデッキ合成スラブ設計・施工標準	—
A-11	仕上表	—				S-12	【管理棟】FabLuxe(ファブ ラックス) DS柱はり接合工法設計標準図	—
A-12	【管理棟】平面図	1/100				S-13	【管理棟】フリートナパレロ 工法標準図	—
A-13	【管理棟】屋上平面図	1/100				S-14	【管理棟】ペーパの柱脚工法設計施工標準図	—
A-14	【管理棟】立面図	1/100				S-15	【管理棟】ハイネー-NEO工法設計施工標準	—
A-15	【管理棟】断面図	1/100				S-16	【管理棟】ジヤストベ-ス(JE二型)柱脚工法設計施工標準図	—
A-16	【管理棟】矩計図	1/30				S-17	【管理棟】梁貫通孔補強材 標準仕様書(参考)	—
A-17	【管理棟】階段断面詳細図	1/10, 30				S-18	【管理棟】ホ-リングデ-タ1	—
A-18	【管理棟】1階平面詳細図	1/50				S-19	【管理棟】ホ-リングデ-タ2	—
A-19	【管理棟】2階平面詳細図(1)	1/50				S-20	【管理棟】杭伏図・杭リスト	1/100
A-20	【管理棟】2階平面詳細図(2)	1/50				S-21	【管理棟】基礎伏図・基礎リスト	1/100
A-21	【管理棟】展開図(1)	1/50				S-22	【管理棟】1階梁床伏図・コンクリート部材リスト	1/100
A-22	【管理棟】展開図(2)	1/50				S-23	【管理棟】柱脚配置図 ペーパの柱脚工法	1/100
A-23	【管理棟】展開図(3)	1/50				S-24	【管理棟】柱脚配置図 ハイネー-NEO工法	1/100
A-24	【管理棟】展開図(4)	1/50				S-25	【管理棟】柱脚配置図 ジヤストベ-ス(JE二型)工法	1/100
A-25	【管理棟】展開図(5)	1/50				S-26	【管理棟】2階・R階梁床伏図	1/100
A-26	【管理棟】展開図(6)	1/50				S-27	【管理棟】軸組図1	1/100
A-27	【管理棟】天井伏図	1/100				S-28	【管理棟】軸組図2	1/100
A-28	【管理棟】建具配置図	1/100				S-29	【管理棟】鉄骨部材リスト・部分詳細図	1/100
A-29	【管理棟】建具表(1)	1/50				S-30	【管理棟】鉄骨架構図	1/100
A-30	【管理棟】建具表(2)	1/50				S-31	【庭球場屋根】ホ-リング 柱状図(1)	1/100, 600
A-31	【管理棟】建具表(3)	1/50				S-32	【庭球場屋根】ホ-リング 柱状図(2)	1/100
A-32	【管理棟】部分詳細図(1)	1/1, 10, 20, 30				S-33	【庭球場屋根】ホ-リング 柱状図(3)	1/100
A-33	【管理棟】部分詳細図(2)	1/3, 5, 20, 100				S-34	【庭球場屋根】杭伏図・杭リスト	1/150
A-34	【管理棟】部分詳細図(3)	1/2, 5, 10, 20, 30				S-35	【庭球場屋根】基礎伏図	1/150
A-35	【管理棟】部分詳細図(4)	1/2, 5, 10, 20, 30				S-36	【庭球場屋根】基礎リスト	1/30
A-36	【管理棟】部分詳細図(5)	1/5, 10, 30				S-37	【庭球場屋根】基礎梁・柱脚リスト	1/30
A-37	【管理棟】部分詳細図(6)	1/5, 10, 30				S-38	トラス伏図 立面図	1/200
A-38	【管理棟】部分詳細図(7)	1/5				S-39	部材配置図(上弦材)	1/150
A-39	【管理棟】建具詳細図(1)<AD-1参考図>	1/50, 100				S-40	部材配置図(斜材)	1/150
A-40	【管理棟】建具詳細図(2)<AD-1参考図>	1/5				S-41	部材配置図(下弦材)	1/150
A-41	【管理棟】建具詳細図(3)<AD-2, AD-3参考図>	1/5, 20				S-42	支承配置図 アンカブラン図 鉄骨柱図	1/60, 100, 300
A-42	【管理棟】建具詳細図(4)<AD-4参考図>	1/5, 20				S-43	支承詳細図 柱脚詳細図	1/10
A-43	【管理棟】トラス・シャワー-ス詳細図(1)<参考図>	1/5				S-44	下弦伏図 照明取付金具	1/10, 200
A-44	【管理棟】トラス・シャワー-ス詳細図(2)<参考図>	1/50				S-45	小屋伏図	1/150
A-45	【管理棟】スライディングウォール詳細図<参考図>	1/3, 10, 50				S-46	軸組図	1/150
A-46	【管理棟】昇降機設備図(1)<参考図>	1/20				S-47	断面図(1)	1/100
A-47	【管理棟】昇降機設備図(2)<参考図>	1/20, 30				S-48	断面図(2)	1/100
A-48	【管理棟】外構図	1/100				S-49	断面図(3)	1/100
A-49	【管理棟】外構詳細図	1/10, 20, 30				S-50	鉄骨詳細図	1/10
A-50	【管理棟】新設前 外構図	1/100				S-51	膜定着詳細図	1/5
A-51	【庭球場屋根】平面図	1/150				S-52	【庭球場屋根】土留め計画図(参考)	1/150

福山市建築工事特記仕様書

I 工事概要
1. 工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事
2. 工事場所 広島県福山市水呑町4748番地
3. 用途地域 第一種住居地域
4. 防火地域 防火地域 準防火地域 指定なし
5. 工事種別 新築 増築
6. 敷地面積 163,000㎡
7. 建物概要
1) 構造 【管理棟】鉄骨造2階建て、【座球場層棟】鉄骨造平屋建て
2) 面積 【管理棟】建築面積:508.13㎡、延床面積:886.27㎡
【座球場層棟】建築面積:2,800.00㎡、延床面積:2,800.00㎡

II 建築工事仕様
1. 共通仕様
2. 特記仕様
(1) 章、項目は番号に○印のついたものを適用する。
(2) 特記事項は○印のついたものを適用する。
(3) 特記事項に記載の( )内表示番号は、「建築標準仕様書」の当該項目、当該又は当該表を示す。
(4) 材料および製造所等の記載順序は不同である。
3. 引渡し後、次に示す点検を行う。(○印のついたものを適用する。)

章 項 特記事項
1 一般共通事項
① 適用基準等
② 監理(主任)技術者
③ 工事実績情報の登録
④ 別契約の関連工事との調整等
⑤ 施工管理
⑥ 電気保安技術者
⑦ 施工条件

章 項 特記事項
⑧ 施工上の安全確保
⑨ 発生材の処理
⑩ 建築材料等
⑪ 特別な材料の工法
12 技能士
⑬ 化学物質の濃度測定
14 アスベスト含有成形板の処理等
⑭ 工事及び完成写真
⑮ 完成時の提出図書

章 項 特記事項
⑰ 保証書
⑱ 施工図及び施工計画書
2 仮設
① 工事現場仮囲い
② 監督員事務所
③ 受注者事務所等
④ 工事用水
⑤ 工事用電力
⑥ 引渡しまでの熟熱対策
⑦ 安全対策
⑧ 足場その他
⑨ 現況確認
3 土工事
① 増戻及び盛土
② 建設発生土の処理
4 地業工事
5 鉄筋工事
6 コンクリート工事
7 鉄骨工事

章 項 特記事項
8 ALCパネル・押出成形セメント板工事
9 防水工事
10 改質アスファルトシート防水
11 合成高分子シート防水
12 塗膜防水
13 ケイ酸質系塗布防水
14 漏水試験

記号・略号
(一)般 (構造材料)
BM.....ベンチマーク U P.....上がる S R C.....鉄骨鉄筋コンクリート CB.....コンクリートブロック AD.....アルミ製ドア SS.....鋼製シャッター WW.....木製窓 S L.....鋼製リンググリルシャッター
GL.....基準地盤面 D N.....下がる R C.....鉄筋コンクリート S.....鉄(鋼) A W.....アルミ製窓 S T D.....ステンレス製ドア W G.....木製ガラリ S T L.....ステンレス製リンググリルシャッター
P S.....パイプスペース P C.....プレキャストコンクリート W.....木 A G.....アルミ製ガラリ S T W.....ステンレス製窓 F.....ふすま N A D.....アクリル樹脂系非水分散形塗料
W.....内法巾 D S.....ダクトスペース A L C.....軽量気泡コンクリート L G S.....軽量形鋼 S D.....鋼製ドア S T G.....ステンレス製ガラリ T D.....強化ガラス製ドア O S.....オイルステイン
H.....内法高 E V.....エレベータ S W.....鋼製窓 S T S.....ステンレス製シャッター T W.....強化ガラス製窓 P T.....耐候性塗料
WP.....木材保護塗料

章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項	章	項	特記事項	
9	シーリング用材料 (9.7.2)	(表9.7.1) シーリング材の種類 JIS A5758 記号 主成分による区分	4 セメントモルタルによるセラミック タイル張り (11.2.5)	・タイル張りの種類 工法 (表11.2.2) 施工箇所 形状(mm) きじ うわぐすり 工法 壁 ※密着張り ・改良種上げ張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・ユニットタイル ・その他のタイル 床 (11.3.1)(11.3.2) 施工箇所 形状(mm) きじ うわぐすり その他 (11.3.1)(11.3.2)	⑥ 造作用集成材 (12.2.1.3)	「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 (12.2.1.3) 造作用集成材 単材の樹種及び厚さ 施工箇所 樹種名 単材の厚さ(mm) 施工箇所 樹種名 単材の厚さ(mm) R-24(100) ヴァ ブライド(100) 検集成材 図示 事務室 カンテ 加 集成材 図示 ・化粧ばり造作用集成材 施工箇所 見付け材面の品質 芯材の樹種名 化粧薄板の樹種名 化粧薄板の厚さ(mm) 柱 ※1等 杉 ※1.0以上 かも居、なげし、隠縁 ※1等 杉 ※0.6以上 天井板 ※1等 杉 ※0.2以上 敷居 ※1等 ※1.5以上 カウンター - メラミン樹脂化粧板 ※1.0以上 ・化粧ばり構造用集成柱 施工箇所 芯材の樹種名 化粧薄板の樹種名 化粧薄板の厚さ(mm) 1階 男子・女子・シャワー室 50×50 無縁 ○ユニットタイル 1階 廊下、廊下 300×300 無縁 ○密着張り 玄関前・下・上・階段 150×150 無縁 ○密着張り 玄関前・下(注意喚起用) 300×300 無縁 ○密着張り	12 木 工事	① 適用基準等 ※「建築標準仕様書」12.1.1 : 内装の木下地、木造作及び木仕上げの工事 ・ 木造建築工事標準仕様書(官庁登録関係統一基準) : 組工法等の木造建築工事に適用 ・ 住宅金融支援機構木造住宅工事仕様書(最新版)の木造建築工事に適用 ・ 福山市公共建築物等木材利用促進方針 図面上の寸法は構造材はひき立て寸法、造作材は仕上げ寸法とする。 ② 寸法 ③ 表面仕上げ (12.1.4) ④ 木材の含水率 (12.2.1.4) 見え掛り面の表面仕上げ 見え掛り面の表面仕上げ程度は、プレーナー加工のうえ、超自動機械かんな、サンダー等により、使用箇所、樹種、仕上げ等に適したとする 下地材 ※A種 ・B種 (12.2.1.4)(表12.2.1) 造作材 ※A種 ・B種 (ただし、5~8項で含水率が規定されているものは、その規定による) ホルムアルデヒドの放散量 ※☆☆☆ (※1) ※1 : F☆☆☆☆又はホルムアルデヒド放散量表示がない場合は、塗装していないものは「非ホルムアルデヒド系接着剤使用」塗装したものは「非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用」 ⑤ 製材 「製材の日本農林規格」による製材 ○下地用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(耳付材・押角)、含水率、保存処理、表面の材質 施工箇所 樹種 寸法 等級 形状(耳付材・押角) 含水率 保存処理 表面の材質 指示板 (7) (ワ) (式) 木脚縁 杉 図示 ・1級 ※2級 ・1級 ※2級 ・15%以下 素地 ・1級 ※2級 ・%以下 ・1級 ※2級 ・%以下 ○造作用針葉樹製材 樹種、寸法、等級、形状(板類・角類)、含水率、保存処理、表面の品質 施工箇所 樹種 寸法 等級 形状(板類・角類) 含水率 保存処理 表面の材質 掃除道具掛 画框 ベイカ 図示 ・無節 ※上小節 ・小節 ・15%以下 SOP塗装 建具 額縁 検 図示 ・無節 ※上小節 ・小節 ・15%以下 木材保護塗料塗り ・無節 ※上小節 ・%以下 ・無節 ※上小節 ・%以下 ・広葉樹製材 樹種、寸法、等級、含水率、保存処理、表面の品質 施工箇所 樹種 寸法 等級 含水率 保存処理 表面の材質 ・特等 ※1等・2等 ※10%以下 ・特等 ※1等・2等 ※10%以下 ・特等 ※1等・2等 ※10%以下 ・特等 ※1等・2等 ※10%以下 「製材の日本農林規格」以外による製材 ○下地、造作及び仕上げに用いる製材 樹種、寸法、表面の品質、防虫処理、含水率 施工箇所 樹種 寸法 表面の品質 防虫処理 含水率 ・%以下 ・%以下 ・%以下 ・%以下 ・造作材の表面の品質 ※A種 ・B種 (表12.2.2) 樹種 区分 樹種 下地材 壁・天井下地 ・杉・松・( ) ※表面処理された鉄製 畳下・下張り用床板等 造作材 ・杉・松・ひのき・( )	7 造作用単板積層材 (12.2.1.4)	「JAS0701」に規定する造作用単板積層材 (12.2.1.4) 単板積層材 施工箇所 表面の品質 防虫処理 「JAS0701」に規定するもの以外の造作用単板積層材 単板積層材 施工箇所 表面の品質 防虫処理 含水率 ※15%以下 ※14%以下 ※14%以下 8 直交集成材 (12.2.1.5) 「JAS 3079」に規定する直交集成材 直交集成材 品名 曲げ強度(強度等級) 種別 接着性能(使用環境) 樹種名 寸法 「合板の日本農林規格」による下地用合板 ○普通合板 厚さ(mm) 接着の程度 表面の品質 ※5・5 ※1類 ・2類 ・1等 ※2等 ○構造用合板 厚さ(mm) 接着の程度 表面の品質 ※1.2 ・特類 ※1類 ※C-D その他合板 ・「JIS A 5908」によるパーティクルボード 厚さ(mm) 耐水性 曲げ強さ ※1.5 ・M377 ・P377 ・1877 ※1377 ・877 ・「JAS 0360」による構造用パネル 厚さ(mm) 寸法 ・「JIS A 5905」によるミディアムデンシティファイバーボード(MDF) 厚さ(mm) 耐水性 曲げ強さ	13 屋根及び 壁とい 工事	12 防虫処理 (12.3.2) ・行わない (12.3.2) 13 鉄筋コンクリ造等の 内部間仕切り組 及び床組 (12.4.1) 14 窓、出入口その他 (12.5.1) 窓、出入口その他に用いる木材 吊元種、水掛りの下枠及び敷居 (・ひのき ) その他 (・松 ・杉 ) 15 床板張り (12.6.1) 縁板及び仕上げがまちに用いる木材 (・ひのき ) 16 壁及び天井下地 (12.7.1) 木材 (・杉 ・松 )
		⑧ シーリング材の試験 (9.7.5)										

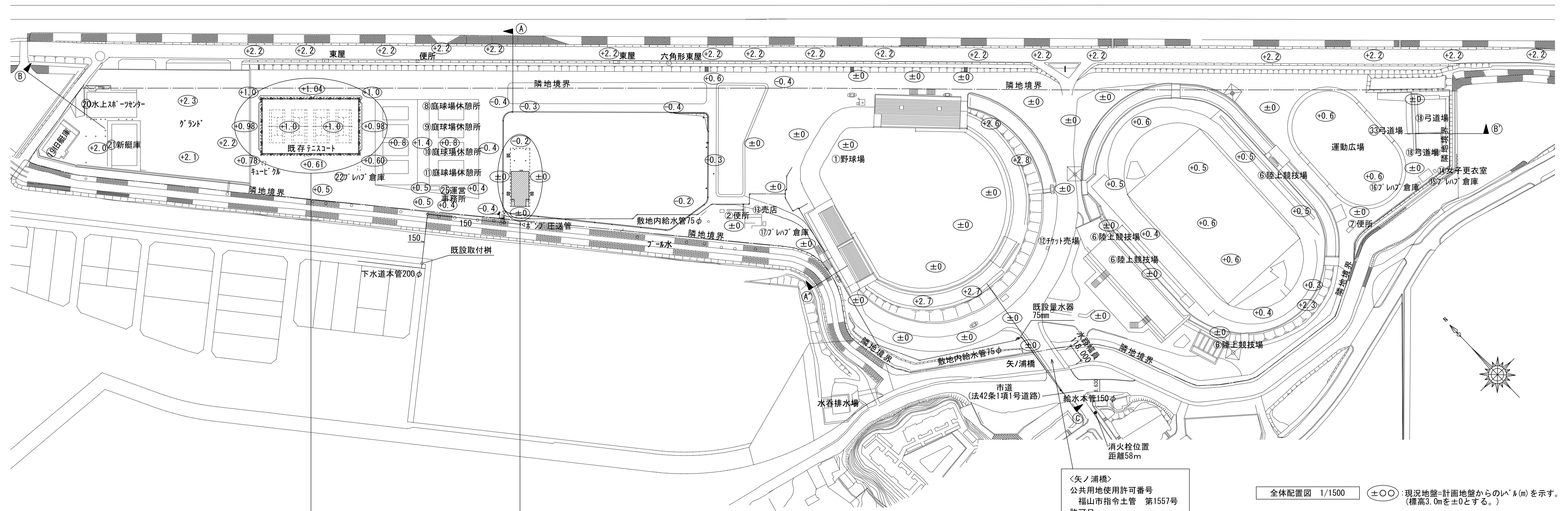






福山市工事区分表							区分							区分								
分類	項目	区分					分類	項目	区分					分類	項目	区分						
		建	電	給	空	ガ			昇	建	電	給	空			ガ	昇	建	電	給	空	ガ
1	設備基礎	※ <sup>1</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	1	湧水槽、蓄熱槽等のRC造躯体、断熱層、内外の防水及び仕上げ	—	—	—	—	—	1	昇降路内ビットの防水、集水槽の製作及び設置	※	—	—	—	—		
1	大規模な機器類の基礎や架台の製作及び設置	※ <sup>1</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	1	同上マンホール蓋及びタラップの設置	—	—	—	—	—	2	昇降路内点検用タラップの製作及び設置	—	—	—	—	※		
	同上アンカーボルト、箱入れ、埋込み設置		※	※	※	※	2	同上付属蓋類及びタラップの設置	※	—	—	—	—	3	出入り口三方枠取付け用下地鉄骨の設置（S造に限る）	※	—	—	—	—		
	小規模な機器類の基礎や架台の製作及び設置		※	※	※	※	3	同上内設備配管類の架台の製作及び設置		※	※	※	※	4	出入り口扉三方枠及び咨摺の製作及び設置	—	—	—	—	※		
	外灯基礎の製作及び設置		※	—	—	—	4	屋内マンホールのRC造躯体、錆蓋及び化粧蓋の設置	—	—	—	—	—	5	同上柵廻り空隙の充填及び補修	※	—	—	—	—		
2	設備機器類の取付け用インサート及び吊りボルトの製作及び設置		※	※	※	※	5	同上化粧蓋の仕上	—	—	—	—	—	6	軌条、中間ビーム、ブラケット等昇降路内の鋼製部材一式の製作及び設置（S造に限る）	※	※	—	—	※		
	鉄骨造の設備機器類吊り下げ用取付け金物の製作及び設置	※ <sup>1</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	6	浄化槽設備のRC造躯体、内外防水及び仕上げ	—	—	—	—	—	7	軌条、中間ビーム、ブラケット等昇降路内の鋼製部材一式の製作及び設置（S造を除く）	—	—	—	—	—		
	設備機器類の取付け用下地補強	※ <sup>1</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	※ <sup>2</sup>	7	同上用マンホール蓋及びタラップの設置	—	—	—	—	—	8	機械室天井フックの製作及び設置（S造に限る）	※	—	—	—	—		
							8	FRP製浄化槽等の設置（RC造躯体は除く）	—	—	—	—	—	9	機械室天井フックの製作（S造を除く）	—	—	—	—	※		
3	地中梁の連通管、通気管及び人通孔の製作、設置及び開口補強	※	—	—	—	—	9	排水槽、浄化槽等の内外装置の設置	—	—	—	—	—	10	同上の設置	※	—	—	—	—		
	地下室等の二重壁内の水抜き管の製作及び設置	—	—	—	—	—	10	湧水槽、蓄熱槽等用液面電極取付け座の設置	—	—	—	—	—	11	ホール押し錠、インジケーター、鋼索等の躯体開口の設置及び補強	※	—	—	—	—		
	S、SRC造梁貫通鋼管スリーブの製作、設置及び開口補強	※	—	—	—	—	11	同上各種満減水警報、液面電極棒取付け	—	—	—	—	—	12	昇降路、ビット内の保守用コンセントの設置	—	—	—	—	—		
	RC造梁貫通スリーブの製作及び設置	※	※	※	※	※	12	同上電気配管配線工事	—	—	—	—	—	13	昇降機の制御盤及び二次側電気配管配線工事	—	—	—	—	—		
4	同上開口補強	※	—	—	—	—	13	自家発電設備用オイルタンク及びサービスタンクの製作・設置及び油配管工事	—	—	—	—	—	14	昇降路内の換気設備の設置	—	—	—	—	—		
	床や壁の貫通及び半貫通部分のスリーブ、箱等の製作及び設置	※	※	※	※	※	14	同上用防油堤RC造躯体及び仕上げ	—	—	—	—	—	15	昇降路内の煙感知器の設置	—	—	—	—	—		
	同上開口補強	※	—	—	—	—	15	自家発電設備用一次側給排水配管工事	—	—	—	—	—	16	昇降路内の煙感知器の設置	—	—	—	—	—		
	各貫通穴あけ箇所空隙の充填及び補修	※	※	※	※	※	16	機器類付属制御盤の設置及び二次側電気配管配線工事	—	—	—	—	—	17	昇降路内の換気設備及び煙感知器の電気配管配線工事	—	—	—	—	—		
5	防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※	17	自動制御などの現場盤への電源接続	—	—	—	—	—	18	昇降路外の遠方操作盤及び警報監視インターホン用電気配管配線工事	—	—	—	—	—		
							18	設備用機器、付属制御盤への電源接続及び接地工事	—	—	—	—	—	19	遠方操作盤、警報監視盤及びインターホンの設置及び調整	—	—	—	—	—		
							19	洗し台、ガス台、戸棚及びフードの製作及び設置	—	—	—	—	—									
							20	同上給排水管及び排水金物の接続	—	—	—	—	—									
6	工場製作の床パネル、間仕切り壁類の開口、取付け枠の製作、設置及び開口補強	※	—	—	—	—	21	同上フードへのダクト接続	—	—	—	—	—									
	現場製作の床、間仕切り壁類、天井の補強を伴う開口及び開口補強	※	—	—	—	—	22	洗面化粧台の製作及び設置	—	—	—	—	—									
	現場製作の床、間仕切り壁類、天井の補強を伴わない開口	※	※	※	※	※	23	同上給排水管接続	—	—	—	—	—									
	間仕切り壁開口部の空隙充填及び補修	※	※	※	※	※	24	同上陶製洗面器の設置	—	—	—	—	—									
7	ブロック、れんがへの設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び開口補強	—	—	—	—	—	1	ユニットバス・ユニットシャワー類の設置	—	—	—	—	—									
	ALC版、押出し成形セメント板、PC版類の設備機器取付け用開口、取付け枠の製作、設置及び開口補強	—	—	—	—	—	2	同上給排水管接続	—	—	—	—	—									
	床や壁の石材面の設備機器取付け用開口	—	—	—	—	—	3	同上ダクト接続	—	—	—	—	—									
	防火区画、排煙区画床、壁貫通部処理	※	※	※	※	※	4	同上一次側電気配管配線	—	—	—	—	—									
8	床、壁及び天井の点検口の製作及び設置	※	—	—	—	—	5	オストメイト対応トイレバック（既製品）（汚物流し・シャワー・電気温水器・ライニング含む）	—	—	—	—	—									
	外壁に取りつく大口径の給排気用ガラの製作及び配置（接続用アングル、防鳥ネット、ウェザーカバーを含む）	—	—	—	—	—	6	同上給排水管接続	—	—	—	—	—									
	外壁に取りつく小口径の給排気用ガラの製作及び配置（接続用アングル、防鳥ネット、ウェザーカバーを含む）	—	—	—	—	—	7	同上給排水管接続	—	—	—	—	—									
	外壁ガラリのチャンバーの製作及び設置	—	—	—	—	—	8	同上一次側電気配管配線	—	—	—	—	—									
9	内壁等に取りつく吹出口、吸込口のガラリ等の製作及び設置	—	—	—	—	—	9	電気湯沸器、電気温水器、電磁ヒーターの設置	—	—	—	—	—									
	同上化粧用特殊ガラリの製作及び設置	—	—	—	—	—	10	同上一次側電気配管配線	—	—	—	—	—									
	各室建具ガラリの製作及び設置	※	—	—	—	—	11	既製化粧鏡の設置（多目的便所(1)、(2)の手洗器）	—	—	—	—	—									
							12	特注化粧鏡の設置（男子便所、女子便所）	—	—	—	—	—									
10							13	大便器等水平区画の耐火区画の製作及び設置	—	—	—	—	—									
							14	手すり	—	—	—	—	—									
							15	ベビーベット、ベビーチェア	—	—	—	—	—									
							16	ペーパーホルダー	—	—	—	—	—									
11							17	洗濯機パン	—	—	—	—	—									
							18	同上給排水管接続	—	—	—	—	—									
							19	洗面器・衛生陶器の設置及び給排水管接続	—	—	—	—	—									
							20															
12							21															
							22															
							23															
							24															

芦田川

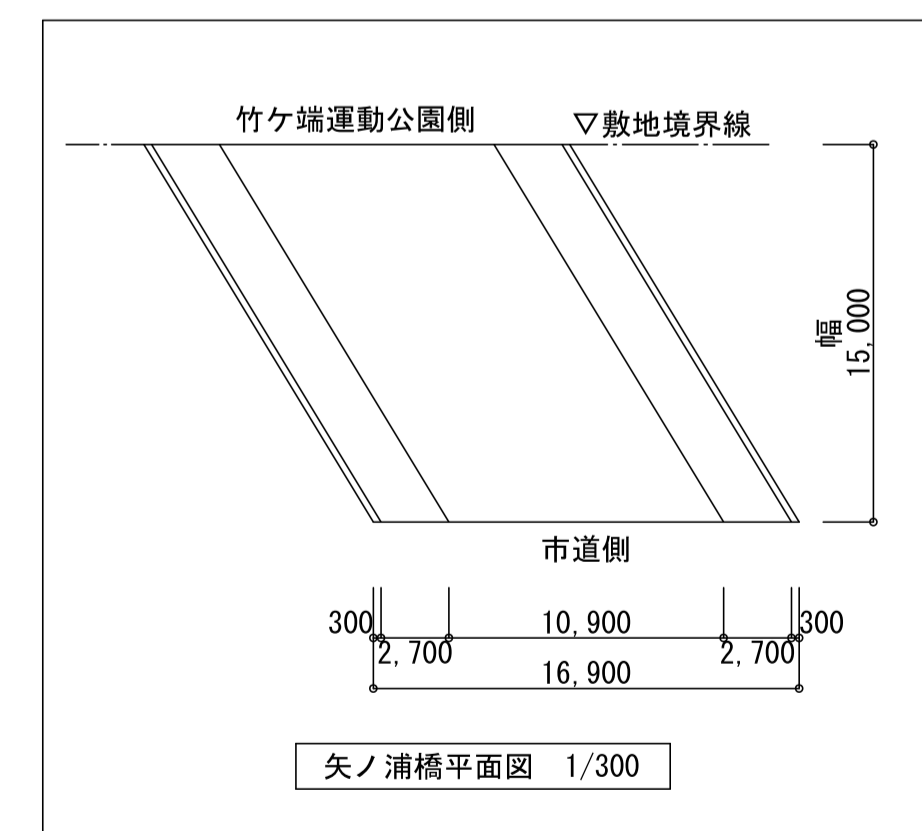
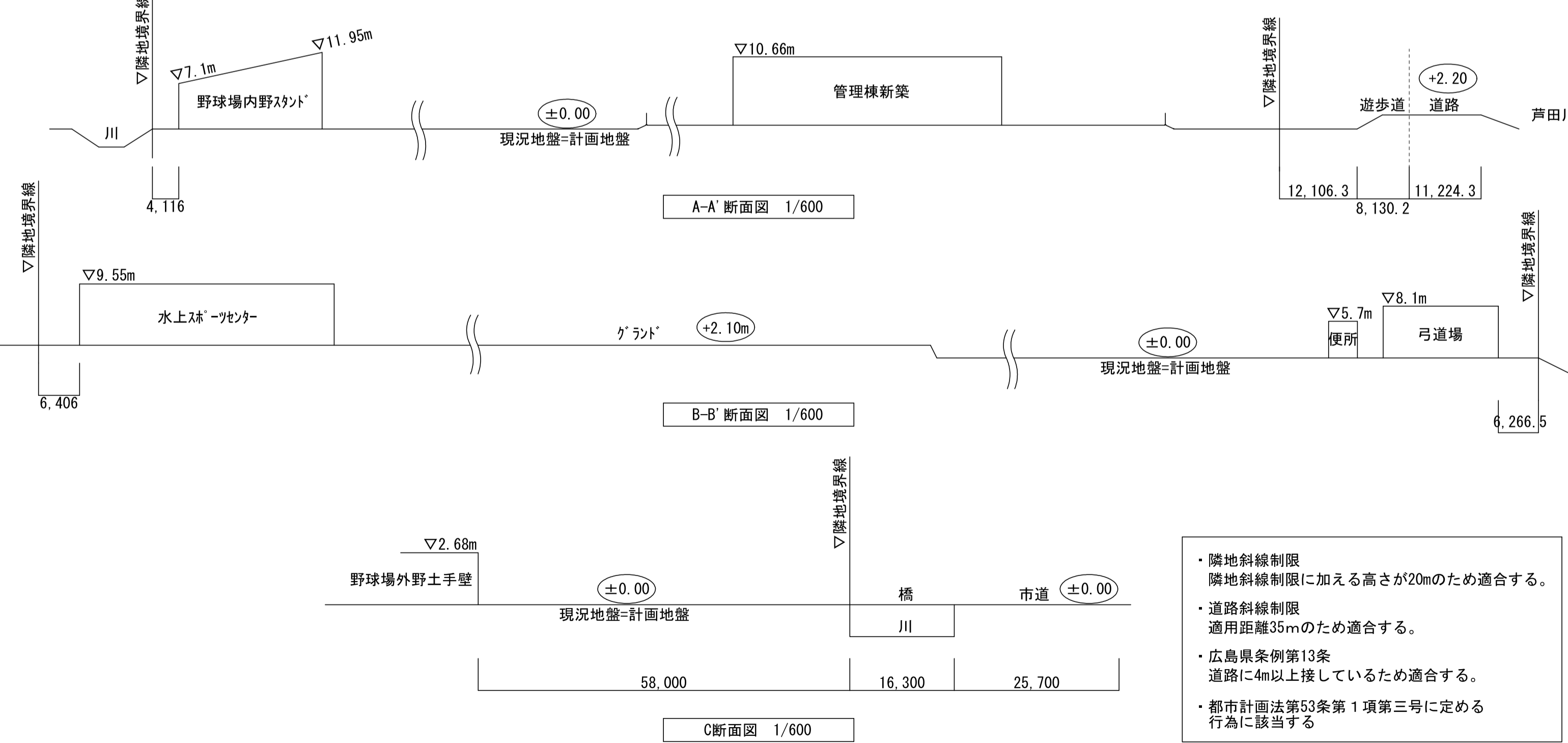


**35 庭球場屋根新築**

建物用途	スノー練習場(庭球場屋根)
建築面積	2,800.00m <sup>2</sup>
延床面積	2,800.00m <sup>2</sup>
階数	1階
構造	鉄骨造
最高高さ	16.000m
最高軒高	6.000m

**33 管理棟新築**

建物用途	事務所(庭球場管理棟)
建築面積	508.13m <sup>2</sup>
延床面積	886.27m <sup>2</sup>
階数	2階
構造	鉄骨造
最高高さ	10.660m
最高軒高	8.550m



- ・隣地斜線制限  
隣地斜線制限に加える高さが20mのため適合する。
- ・道路斜線制限  
適用距離35mのため適合する。
- ・広島県条例第13条  
道路に4m以上接しているため適合する。
- ・都市計画法第53条第1項第三号に定める  
行為に該当する

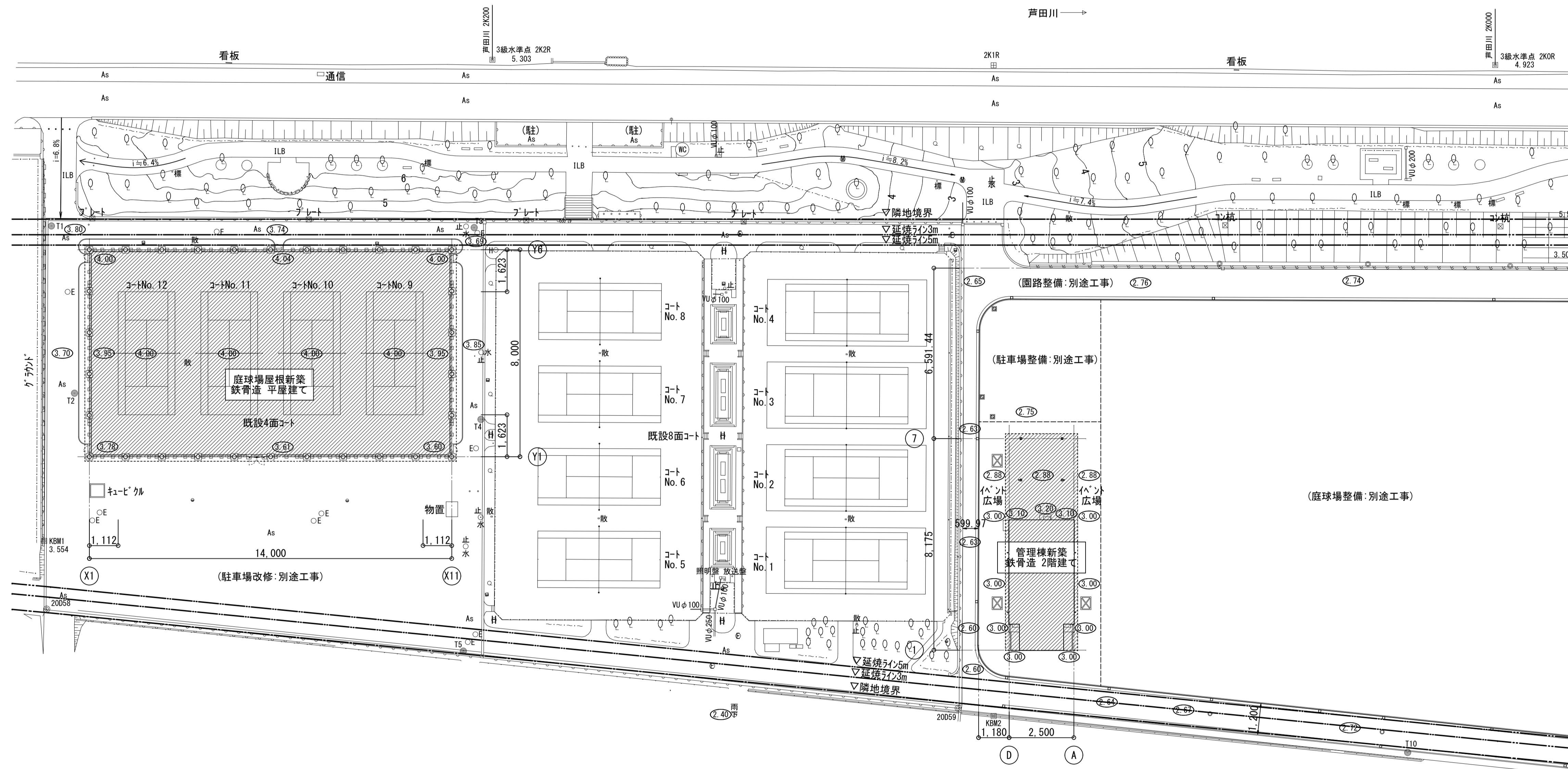
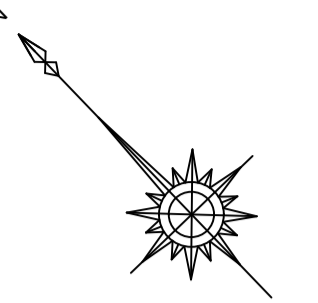
〈矢ノ浦橋〉  
公共用地使用許可番号  
福山市指令土管 第1557号  
許可日  
2010年(平成22年)9月15日

全体配置図 1/1500 ±〇〇 現況地盤=計画地盤からのレベル(m)を示す。  
(標高3.0mを±0とする。)



用途地域	第一種住居地域
工事種別	新築
敷地面積	163,000m <sup>2</sup>

工事場所:  
広島県福山市水呑町4748番地  
敷地案内図

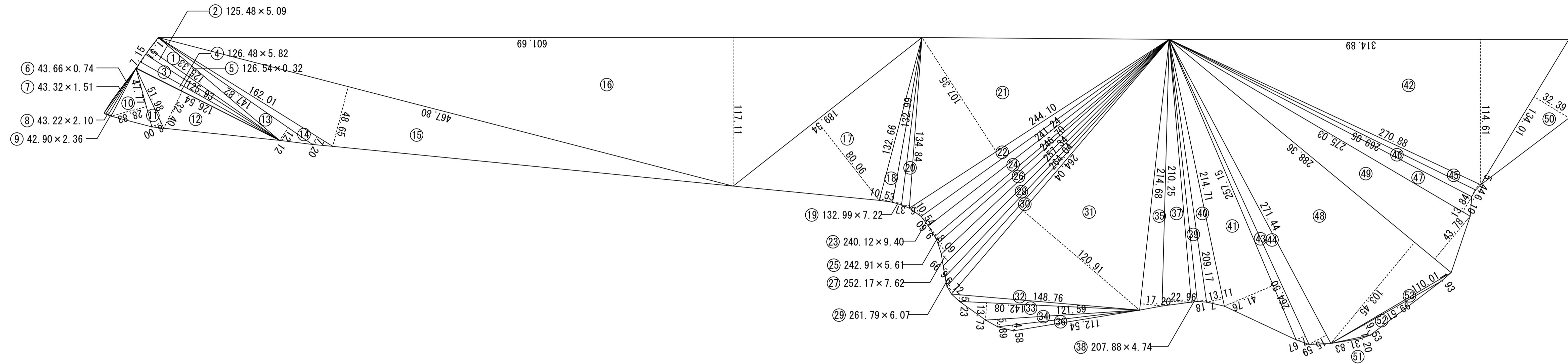


配置図 1/500

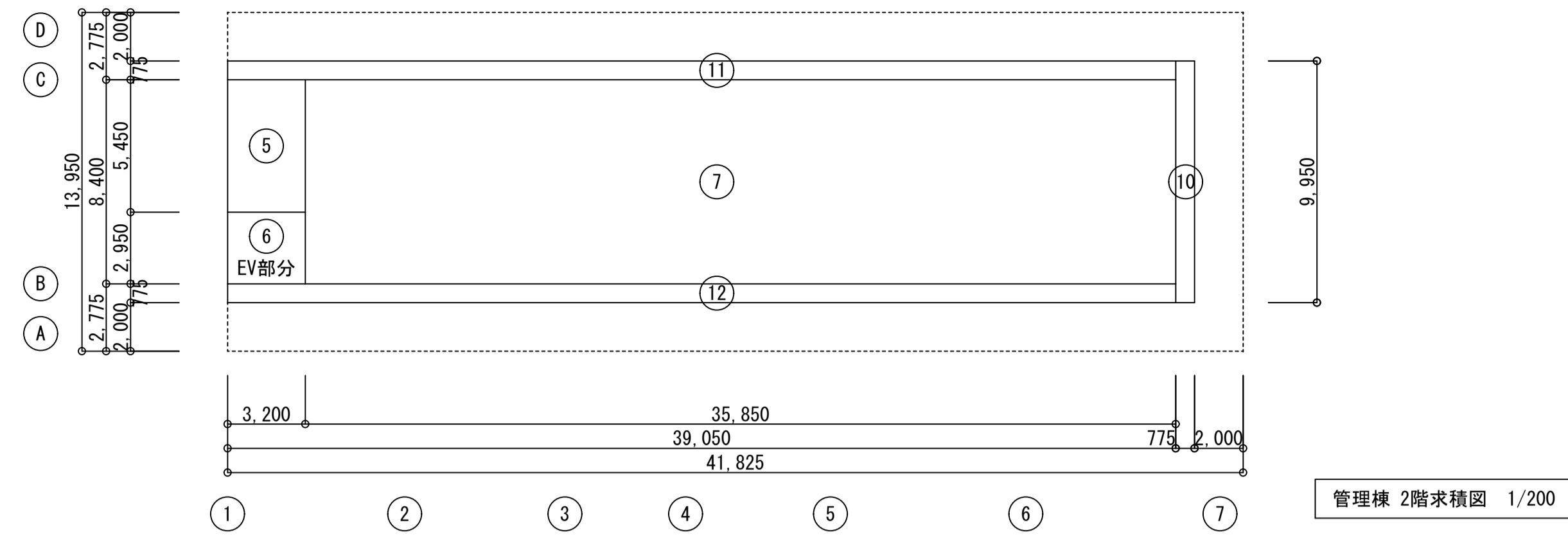
○( ) : 標高(m)を示す。  
(標高2.6m=GL±0とする。)

▨ : 今回、新築工事位置を示す。

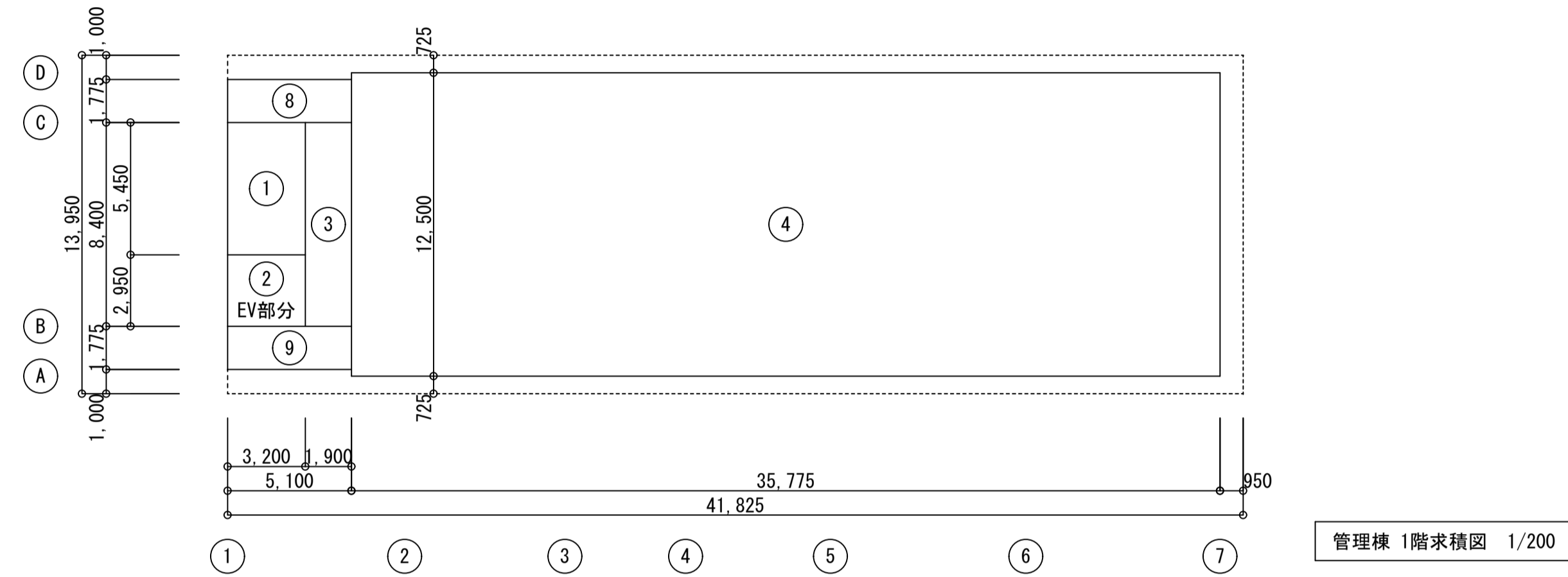
建物名 : 今回、新築工事建物を示す。



番号	底辺	高さ	倍面積	面積	番号	底辺	高さ	倍面積	面積
1	125.33	11.51	1,442.5483	721.27415	28	257.34	6.99	1,798.8066	899.40330
2	125.48	5.09	638.6932	319.34660	29	261.79	6.07	1,589.0653	794.53265
3	125.93	7.15	900.3995	450.19975	30	264.04	6.72	1,774.3488	887.17440
4	126.48	5.82	736.1136	368.05680	31	264.04	120.91	31,925.0764	15,962.53820
5	126.54	0.32	40.4928	20.24640	32	148.76	5.23	778.0148	389.00740
6	43.66	0.74	32.3084	16.15420	33	142.08	13.73	1,950.7584	975.37920
7	43.32	1.51	65.4132	32.70660	34	121.59	5.89	716.1651	358.08255
8	43.22	2.10	90.7620	45.38100	35	214.68	17.20	3,692.4960	1,846.24800
9	42.90	2.36	101.2440	50.62200	36	112.54	4.58	515.4332	257.71660
10	47.77	28.83	1,377.2091	688.60455	37	210.25	22.96	4,827.3400	2,413.67000
11	51.98	8.00	415.8400	207.92000	38	207.88	4.74	985.3512	492.67560
12	126.54	32.40	4,099.8960	2,049.94800	39	209.17	7.18	1,501.8406	750.92030
13	147.82	12.12	1,791.5784	895.78920	40	214.71	13.11	2,814.8481	1,407.42405
14	162.01	7.20	1,166.4720	583.23600	41	257.15	41.76	10,738.5840	5,369.29200
15	467.80	48.65	22,758.4700	11,379.23500	42	314.89	114.61	36,089.5429	18,044.77145
16	601.69	117.11	70,463.9159	35,231.95795	43	264.50	7.67	2,028.7150	1,014.35750
17	189.34	80.06	15,158.5604	7,579.28020	44	271.44	15.59	4,231.7496	2,115.87480
18	132.66	10.53	1,396.9098	698.45490	45	270.88	5.44	1,473.5872	736.79360
19	132.99	7.22	960.1878	480.09390	46	269.05	6.10	1,641.2050	820.60250
20	134.84	6.37	858.9308	429.46540	47	275.03	13.84	3,806.4152	1,903.20760
21	244.10	107.35	26,204.1350	13,102.06750	48	288.36	103.45	29,830.8420	14,915.42100
22	244.10	10.54	2,572.8140	1,286.40700	49	288.36	43.78	12,624.4008	6,312.20040
23	240.12	9.40	2,257.1280	1,128.56400	50	134.01	32.39	4,340.5840	2,170.29200
24	241.24	9.60	2,315.9040	1,157.95200	51	31.83	1.20	38.1960	19.09800
25	242.91	5.61	1,362.7251	681.36255	52	99.51	9.53	948.3303	474.16515
26	246.70	8.09	1,995.8030	997.90150	53	110.01	1.93	212.3193	106.15965
27	252.17	7.62	1,921.5354	960.76770					
合計					163,000.0027				
敷地面積					163,000.00 m <sup>2</sup>				



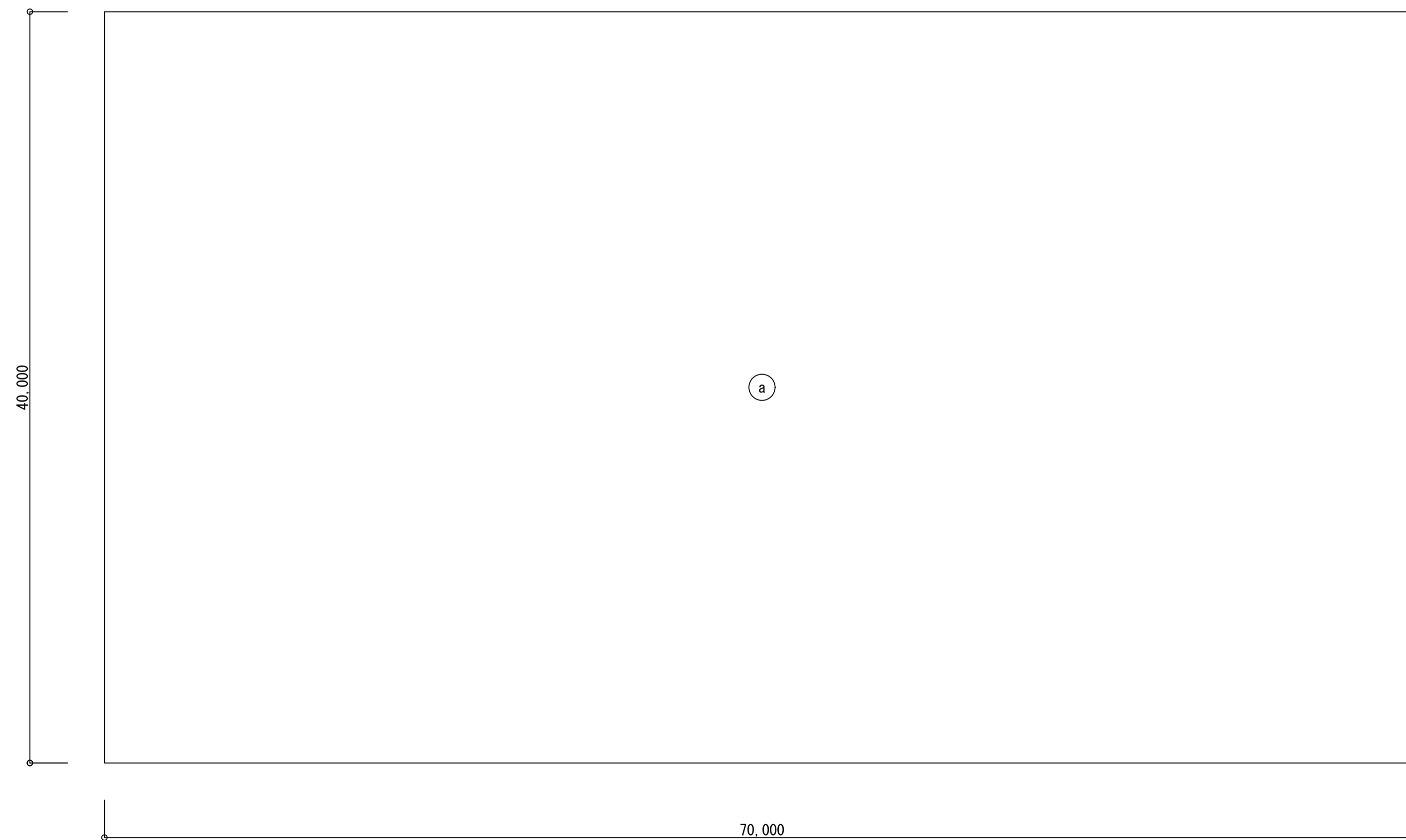
管理棟 2階求積図 1/200



管理棟 1階求積図 1/200

【管理棟】面積算出表

記号	計算式 (m×m)	計 (㎡)	
①	3.200 × 5.450	17.4400	
② EV部分	3.200 × 2.950	9.4400	
③	1.900 × 8.400	15.9600	
④	35.775 × 12.500	447.1875	
⑤	3.200 × 5.450	17.4400	
⑥ EV部分	3.200 × 2.950	9.4400	
⑦	35.850 × 8.400	301.1400	
⑧	5.100 × 1.775	9.0525	
⑨	5.100 × 1.775	9.0525	
⑩	0.775 × 9.950	7.7112	
⑪	39.050 × 0.775	30.2637	
⑫	39.050 × 0.775	30.2637	
1階床面積	① + ② + ③ + ④	490.0275	490.02 → ①
2階床面積	⑤ + ⑥ + ⑦ + ⑩ + ⑪ + ⑫	396.2586	396.25 → ②
延床面積	① + ②	886.27	
昇降機の昇降路の部分	② + ⑥	18.8800	18.88
建築面積	① + ② + ③ + ④ + ⑧ + ⑨	508.1325	508.13



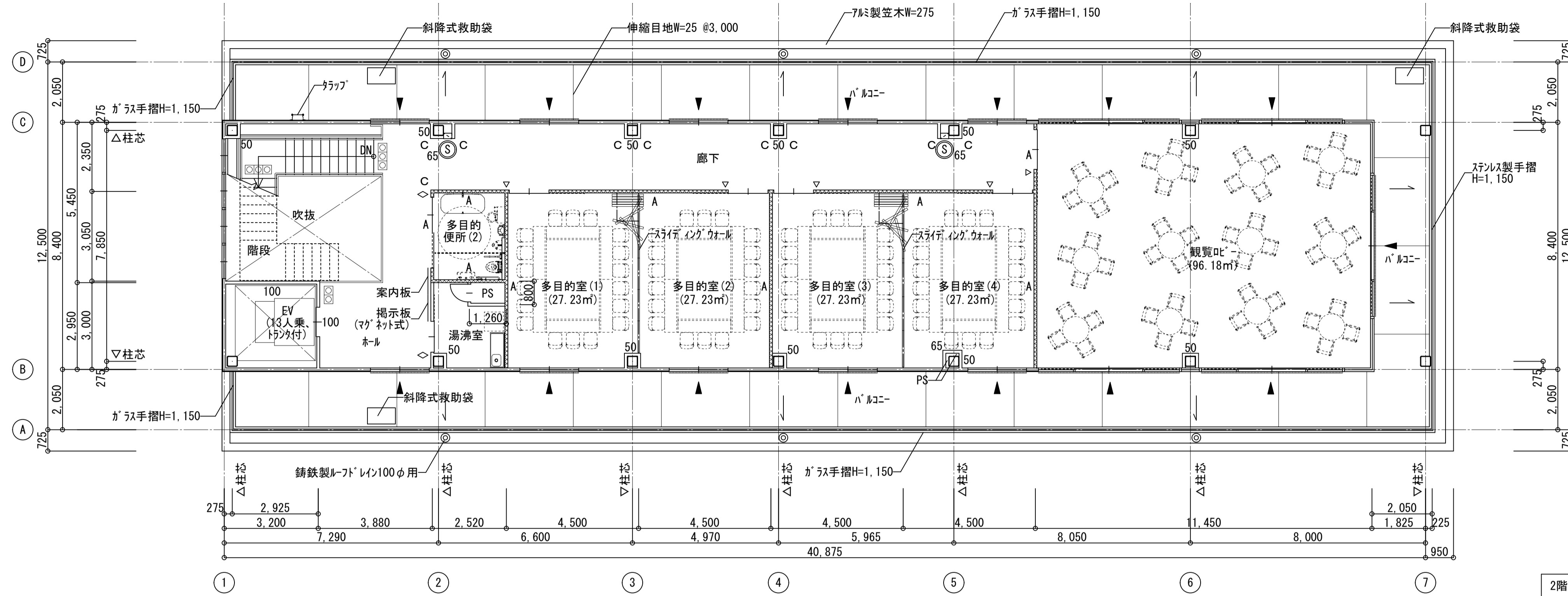
庭球場屋根求積図 1/200

【庭球場屋根】面積算出表

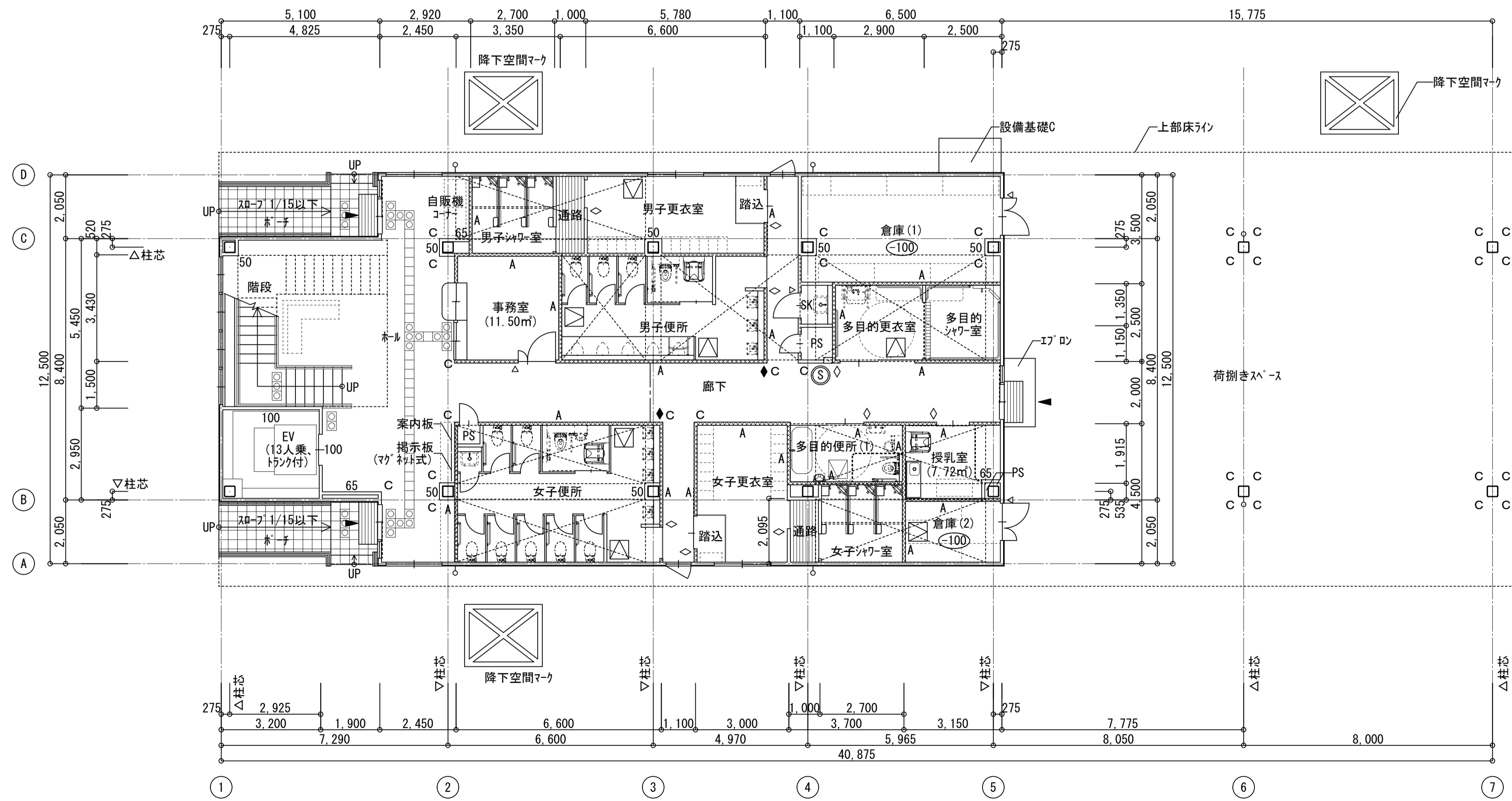
記号	計算式 (m×m)	計 (㎡)	
Ⓐ	40.000 × 70.000	2,800.0000	
延床面積	Ⓐ	2,800.0000	2,800.00
建築面積	Ⓐ	2,800.0000	2,800.00

外部仕上表(管理棟)		仕上表(庭球場屋根)		略記号		認定番号					
屋根	平場:コンクリート直均しの上合成高分子膜フリンクシート防水t=2.0 高反射塗装(カー) (S-M2工法) 水勾配:1/50 立上り:コンクリート打放し(B種)の上合成高分子膜フリンクシート防水t=2.0 高反射塗装(カー) (S-F2工法) 笠木:7mm製笠木W=275	屋根	四フ化エポキシ樹脂コーティングガラス繊維布t=0.8 酸化チタン光触媒微粒子含有(両面)同等品	C	コンクリート下地	石こうボードt=9.5	準不燃	QM-9828	バスマル(壁用、天井用)t=10	不燃	NM-5224
				LGS	軽量鉄骨下地	化粧石こうボードt=9.5[準不燃]	準不燃	QM-0524	DP塗装、EP塗装、EG塗装	不燃	NM-8585
軒天、荷捌きスペース天井	軽量鉄骨天井下地 高圧岩綿複層板t=12(木目調)	柱、トラス	鉄骨 珪藻土系塗装 柱 根巻き:コンクリート打放し(A種)の上、撥水材塗布	PB	石こうボード下地	耐水石こうボードt=12.5	準不燃	QM-0493	窯業系外壁サイディング材	不燃	NM-9744
巾木	コンクリート打放し(B種)	その他	縦種:ステンレス製 139.8φ、t=2.0 7mm焼付塗装 フェンス:ステンレス製H=3,000 防鳥ネット			NAD塗装	準不燃	QM-9816	金属系外壁サイディング材(珪藻土)	不燃	NE-0017
外壁	南面・1階:鉄骨鋼線組下地 透湿防水シート 金属系サイディング t=16 横張り(塗装品、金具留め・コーナカバー共) 南面・1階以外:鉄骨鋼線組下地 透湿防水シート 窯業系サイディング t=16 横張り(塗装品、金具留め・コーナ役物共)			参考品番	化粧石こうボードt=9.5[不燃]	不燃	NM-1864	庭球場屋根 膜材料	不燃	NM-4723	
荷捌きスペース柱	鉄骨柱 DP(3級)塗装			ベビーフ(管理棟)	TOTO(株) YKA15R	耐水石こうボードt=12.5[不燃]	不燃	NM-9639	<遮音壁> 強化石こうボードt=12.5+12.5(両面) ガラスウール 24kg/m3 t=50充填	遮音	SO1-0110
バルコニー	床:アスファルト防水(A1-3)、押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スパン層付き)t=30、 押入コンクリートt=80、防滑性ビニルシート(木目調)t=2.5 軒天:軽量鉄骨天井下地 高圧岩綿複層板t=12(木目調) 手摺:ガラス手摺H=1.150(東・西・南面)、ステンレス製手摺H=1.150(北面) ルーフ:樹脂被覆7mm製ルーフ-30×50 @=500(東・西・南面)			ベビース(管理棟)	TOTO(株) YKA24R	強化石こうボードt=12.5	不燃	NM-8615		耐火	FP60NP-0175
				フィッティングボード(管理棟)	TOTO(株) YKA41R	化粧珪酸カルシウム板t=6.0	不燃	NM-4227	<ゲッキス>	床1時間耐火 FP060FL-0101、FP060FL-0126	
ホーチ	天井:軽量鉄骨天井下地 高圧岩綿複層板t=12(木目調) 床:モルタル下地 磁器質150角タイル張り クローブ 床:モルタル下地 クローブ用磁器質150角タイル張り 外部階段 床:モルタル下地 150角タイル張り 立上り:コンクリート打放し(B種) 手摺:ステンレス製手摺34φ(2段)			ユニバーサルシート(管理棟)	(株)LIXIL AC-US-41	岩綿吸音板 t=12	不燃	NM-8599			
				防鳥ネット(庭球場屋根)	(株)フジカ BF3A'-D'ネット 50	高圧岩綿複層板t=12	不燃	NM-4133			
その他	縦種:1~2FL 硬質塩化ビニル管φ100(カー)、2~RFL SGP 100A DP(3級)塗装 屋上目隠し:7mm製目隠しルーフH=1,500 タラップ:ステンレス製タラップ、ステンレス製屋上点検用ハッチφ600角 コーナガード:軟質PVC製 65×65 t=16 HI.000			特記事項		1. 使用材料は、全て無石棉とする。 2. 内部仕上材は、F☆☆☆☆仕様とする。(接着材、塗料、合板を含む) 3. 天井裏・小室裏等仕上材は、F☆☆☆☆以上の仕様とする。 4. カーテン・カーペット・ロースクリーン等は全て防災仕様とする。 5. 工事車両は指定した進入路を通ること。 6. 仮囲いは、成形鋼板(H=2,000)とする。					

内部仕上表(管理棟)		床		巾木		壁		天井				室名札		空調区分		備考						
階	室名 < >内は温度測定箇所数を示す。	床高	下地	仕上名		下地	仕上名		塗装	グラスウール 32kg/m3, t=50充填(外壁面)	下地	仕上名		廻り縁	天井高	室名札 (2か所)	ロースクリーンボックス ブラインドボックス (カーテン窓上部)	空調区分	備考			
				下地	仕上名		下地	仕上名				塗装	グラスウール 32kg/m3, t=50敷込(天井内)									
1階	事務室<1か所> [内装制限:下地共不燃]	±0	C	コンクリート直均しの上 ビニルシートt=2.0張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP	—	LGS	化粧石こうボードt=9.5[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	平付型 (2か所)	ブラインドボックス (カーテン窓上部)	C・H	木製ハイカウンター、木製ロカンター、壁掛式キーボックス(40個用)	
	授乳室<1か所> [内装制限:下地共不燃]	±0	C	コンクリート直均しの上 防滑性ビニルシートt=2.0張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	耐水石こうボードt=12.5[不燃]の上 化粧珪酸カルシウム板t=6.0[不燃] 遮音壁+化粧珪酸カルシウム板t=6.0[不燃]	—	○	LGS	化粧石こうボードt=9.5[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	ビクトサイン (1か所)	—	C・H	ミキヤチン=1,200、ベビースシート、天井吊りカーテン(カーテンレール共)	
	男子・女子更衣室	±0	C	コンクリート直均しの上 防滑性ビニルシートt=2.0張り 踏込:モルタル下地 ビニルシートt=2.0張り 通路:コンクリート直均し		PB	ビニル巾木H=60	LGS	耐水石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP-G	○	LGS	石こうボードt=12.5[不燃]	NAD	—	塩ビ製	2.600	ビクトサイン (男子:1か所 女子:1か所)	ロースクリーンボックス	C・H	ステンレス製床見切りW=20 通路:塩ビ製すのこ、ステンレス製排水目皿50φ	
	多目的更衣室	±0	C	コンクリート直均しの上 防滑性ビニルシートt=2.0張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	耐水石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP-G	—	LGS	石こうボードt=12.5[不燃]	NAD	—	塩ビ製	2.600	ビクトサイン (1か所)	—	C・H	L型手摺	
	倉庫(1)・(2)	-100	C	コンクリート直均しの上 防塵塗料塗布		—	—	LGS	石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP	—	LGS	化粧石こうボードt=9.5[不燃]	—	—	—	2.600	平付型 (1):1か所 (2):1か所	—	—	—	—
	男子・女子シャワー室 [内装制限:準不燃]	±0	C	モルタル下地 磁器質50角タイル張り		C	モルタル下地 磁器質50角タイル張りH=100	LGS	耐水合板t=12の上 気密・防湿シート、 バスマル(壁用)t=10[不燃] 遮音壁+耐水合板t=12、気密・防湿シート、 バスマル(壁用)t=10[不燃]	—	○	LGS	バスマル(天井用)t=10[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	ビクトサイン (男子:1か所 女子:1か所)	—	—	—	シャワーブースH=1,900、コインシャワー、ステンレス製折り畳み棚、 天板付タイル掛け、シャワーカーテン(カーテンレール共)、 ステンレス製排水目皿50φ
	多目的シャワー室 [内装制限:準不燃]	±0	C	モルタル下地 磁器質50角タイル張り		C	モルタル下地 磁器質50角タイル張りH=100	LGS	耐水合板t=12の上 気密・防湿シート、 バスマル(壁用)t=10[不燃] 遮音壁+耐水合板t=12、気密・防湿シート、 バスマル(壁用)t=10[不燃]	—	○	LGS	バスマル(天井用)t=10[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	ビクトサイン (1か所)	—	—	—	塩ビ製クレーンW=150、コインシャワー、L型手摺、 シャワーカーテン(カーテンレール共(出入口三方枠上部に設置))、 ステンレス製排水目皿50φ
	男子・女子便所	±0	C	コンクリート直均しの上 抗菌・防滑性ビニルシートt=2.0張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	耐水石こうボードt=12.5[準不燃]の上 化粧珪酸カルシウム板t=6.0[不燃] 遮音壁+化粧珪酸カルシウム板t=6.0[不燃]	—	—	LGS	化粧石こうボードt=9.5[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	ビクトサイン (1か所)	—	—	—	天板:SUS t=20、トイレ-シ=2,600、隔て板H=2,600、 L型手摺、化粧鏡、ベビースシート、小便器用手摺(男子)、 汚垂石W=600、L=4,250、t=6.0(男子)、 掃除道具掛ステンレスフック(女子)
	多目的便所(1)	±0	C	コンクリート直均しの上 抗菌・防滑性ビニルシートt=2.0張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	遮音壁+化粧珪酸カルシウム板t=6.0[不燃]	—	—	LGS	化粧石こうボードt=9.5[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	ビクトサイン (1か所)	—	—	—	天板:SUS t=20、ユニバーサルシート、ベビースシート、フィッティングボード、 可動手摺、L型手摺、天井吊りカーテン(カーテンレール共)
	SK	±0	C	コンクリート直均しの上 ビニルシートt=2.0張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP	—	LGS	化粧石こうボードt=9.5[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	平付型 (1か所)	—	—	—	天板:SUS t=20、掃除道具掛ステンレスフック
ホール	±0	C	モルタル下地 磁器質300角タイル張り		PB	ステンレス製巾木H=60	LGS	石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP-G	—	LGS	石こうボードt=9.5[不燃]捨て張りの 上岩綿吸音板t=12[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	—	—	—	—	ステンレス製点字紙、案内板、掲示板(マグネット式) コーナガード(SUSHL)	
廊下	±0	C	モルタル下地 磁器質300角タイル張り		PB	ステンレス製巾木H=60	LGS	石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP-G	—	LGS	石こうボードt=9.5[不燃]捨て張りの 上岩綿吸音板t=12[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	—	—	—	—	案内サイン、消火器ボックス(埋込型) 消火器(ABC10型)共 コーナガード(SUSHL)	
2階	多目的室(1)~(4)	±0	C	コンクリート直均し セパレートリングの上 複層ビニル床タイルt=3.0(FT)張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP	○	LGS	石こうボードt=9.5[不燃]捨て張りの 上岩綿吸音板t=12[不燃]	—	○	塩ビ製	2.800	平付型 (計4か所)	ブラインドボックス	C・H	スライディングウォール	
	観覧席<2か所>	±0	C	コンクリート直均し セパレートリングの上 複層ビニル床タイルt=3.0(FT)張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP	○	LGS	石こうボードt=9.5[不燃]捨て張りの 上岩綿吸音板t=12[不燃]	—	○	塩ビ製	2.800	平付型 (1か所)	ブラインドボックス	C・H	2階床スラブ下:硬質ウレタンフォームt=25吹付	
	湯沸室	±0	C	コンクリート直均しの上 防滑性ビニルシートt=2.0張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	耐水石こうボードt=12.5[準不燃]の上 化粧珪酸カルシウム板t=6.0[不燃] 遮音壁+化粧珪酸カルシウム板t=6.0[不燃]	—	—	LGS	化粧石こうボードt=9.5[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	ビクトサイン (1か所)	—	—	ミキヤチン=1,200	
	多目的便所(2)	±0	C	コンクリート直均しの上 抗菌・防滑性ビニルシートt=2.0張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	遮音壁+化粧珪酸カルシウム板t=6.0[不燃]	—	—	LGS	化粧石こうボードt=9.5[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	ビクトサイン (1か所)	—	—	—	天板:SUS t=20、ユニバーサルシート、ベビースシート、フィッティングボード、 可動手摺、L型手摺、天井吊りカーテン(カーテンレール共)
	ホール	±0	C	コンクリート直均し セパレートリングの上 複層ビニル床タイルt=3.0(FT)張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP-G	—	LGS	石こうボードt=9.5[不燃]捨て張りの 上岩綿吸音板t=12[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	—	—	—	—	ステンレス製点字紙、案内板
廊下	±0	C	コンクリート直均し セパレートリングの上 複層ビニル床タイルt=3.0(FT)張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	石こうボードt=12.5[不燃] 遮音壁	EP-G	—	LGS	石こうボードt=9.5[不燃]捨て張りの 上岩綿吸音板t=12[不燃]	—	—	塩ビ製	2.600	—	—	—	—	消火器ボックス(埋込型) 消火器(ABC10型)共 コーナガード(SUSHL)	
共通	階段	±0	C	コンクリート直均し セパレートリングの上 複層ビニル床タイルt=3.0(FT)張り		PB	ビニル巾木H=60	LGS	石こうボードt=12.5[不燃]	EP-G	—	LGS	石こうボードt=9.5[不燃]捨て張り 捨て張りの上岩綿吸音板t=12 上表:石こうボードt=12.5[不燃] EP-G	—	—	塩ビ製	—	—	—	—	—	ステンレス製点字紙、手摺H=900・1,150、樹脂被覆2段手摺40φ、 段鼻:ステンレス製/スリッパ(タイ付)
	EVシャフト	—	C	コンクリート直均しの上 珪酸系塗布防水(C-U1)		C	コンクリート打放し(B種)の上 珪酸系塗布防水(1FLまで)	LGS	軽量鉄骨下地・鉄骨鋼線現し	—	—	C	コンクリート打放し(B種)	—	—	直天	—	—	—	—	—	—



2階平面図 1/100 ※ 特記なき床いへはFL±0とする。  
 ※ ⑤⑥はFLからの高さを示す。



1階平面図 1/100 ※ 特記なき床いへはFL±0とする。  
 ※ ⑤⑥はFLからの高さを示す。

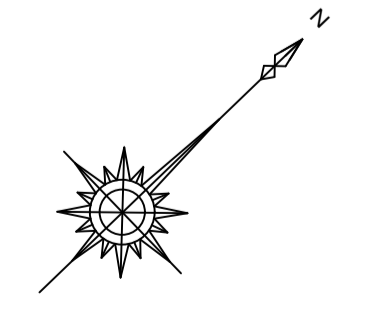
凡例

(点線)	別途工事、備品を示す。
▲	外部出入口
⑤	消火器ボックス(埋込型) 消火器(ABC10型)共
▽	室名札(平付型)
◇	ビュッセル
◆	案内サイン
□	床下点検口 600角(7桁製)
⊗	点状ブロック
⊘	ビュッセル範囲を示す。
C	コーナガード (内部: SUS製 外部: 樹脂製)

内壁 凡例

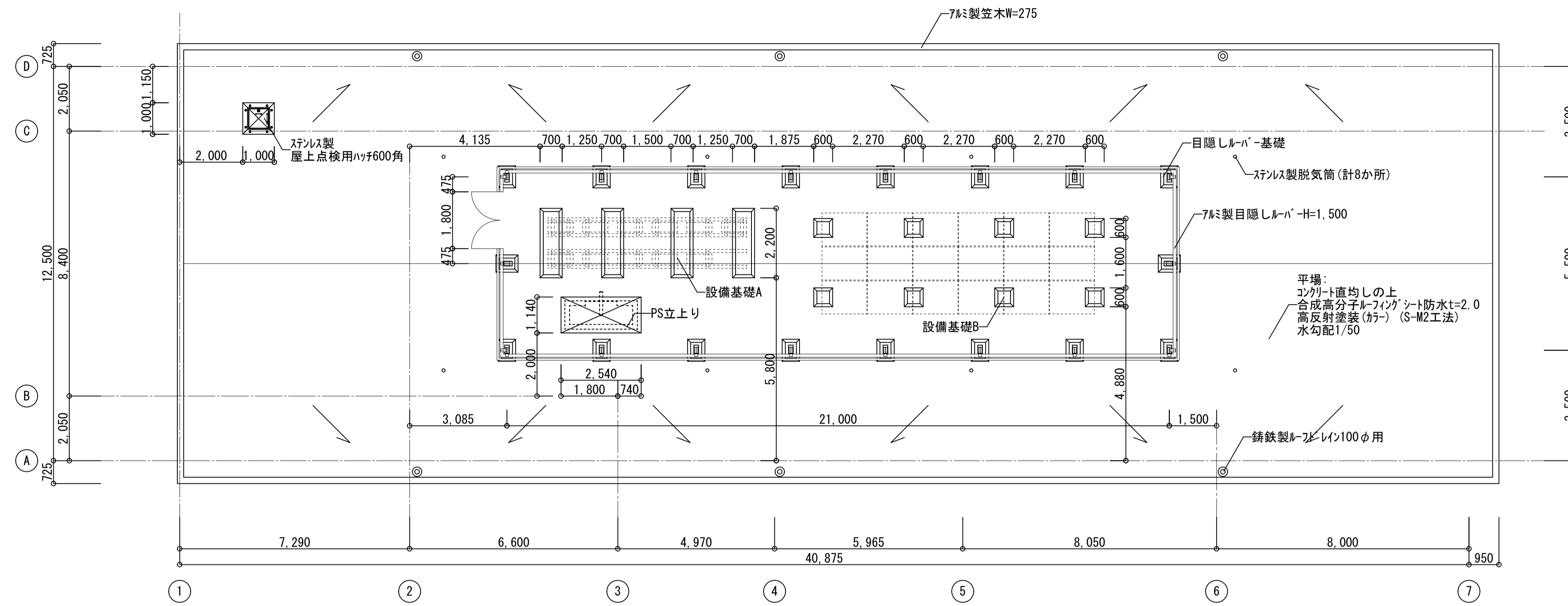
50	軽量鉄骨壁下地W=50
65	軽量鉄骨壁下地W=65
100	軽量鉄骨壁下地W=100
A	遮音壁: S01-0110(スラブ下まで)

※仕上がある外壁面の軽量鉄骨壁下地はW=50とする。  
 ※外壁面以外の特記なき軽量鉄骨壁下地はW=65とする。

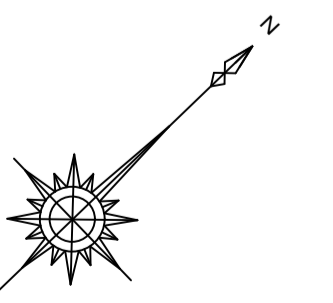


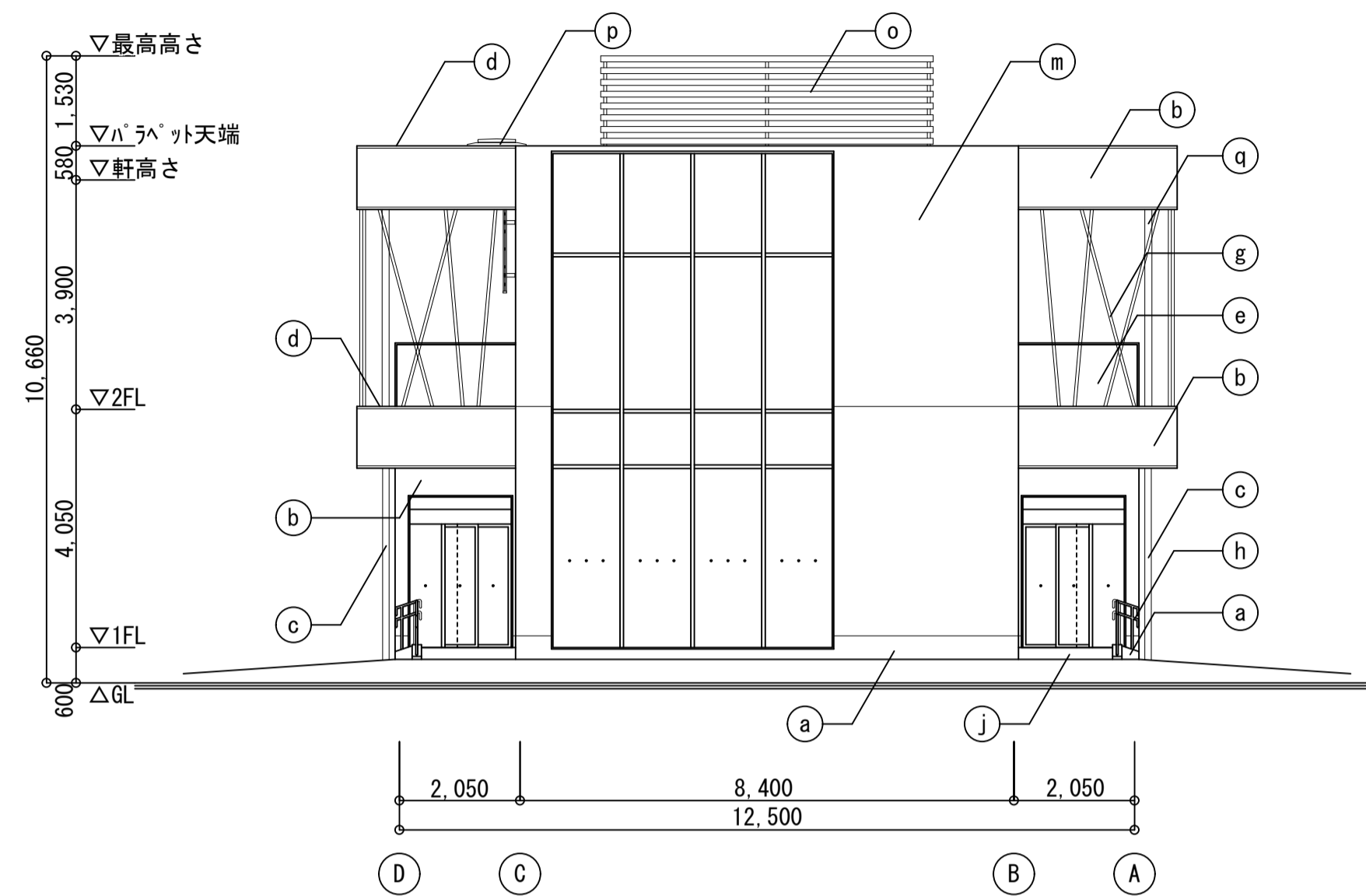


凡例  
(点線) 別途工事、備品を示す。

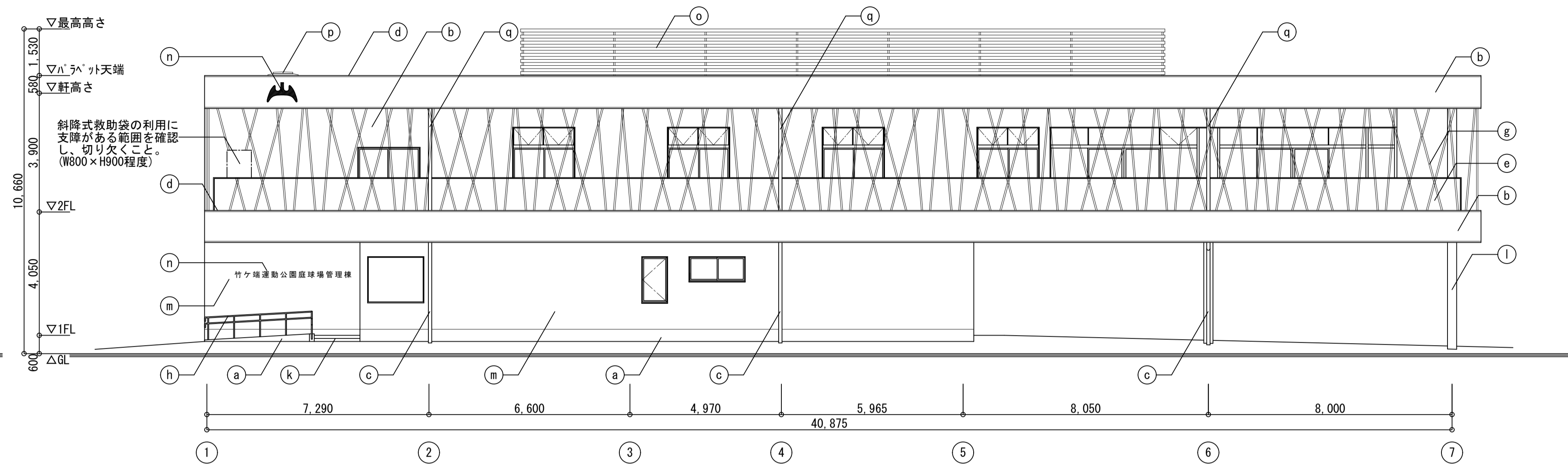


屋上平面図 1/100

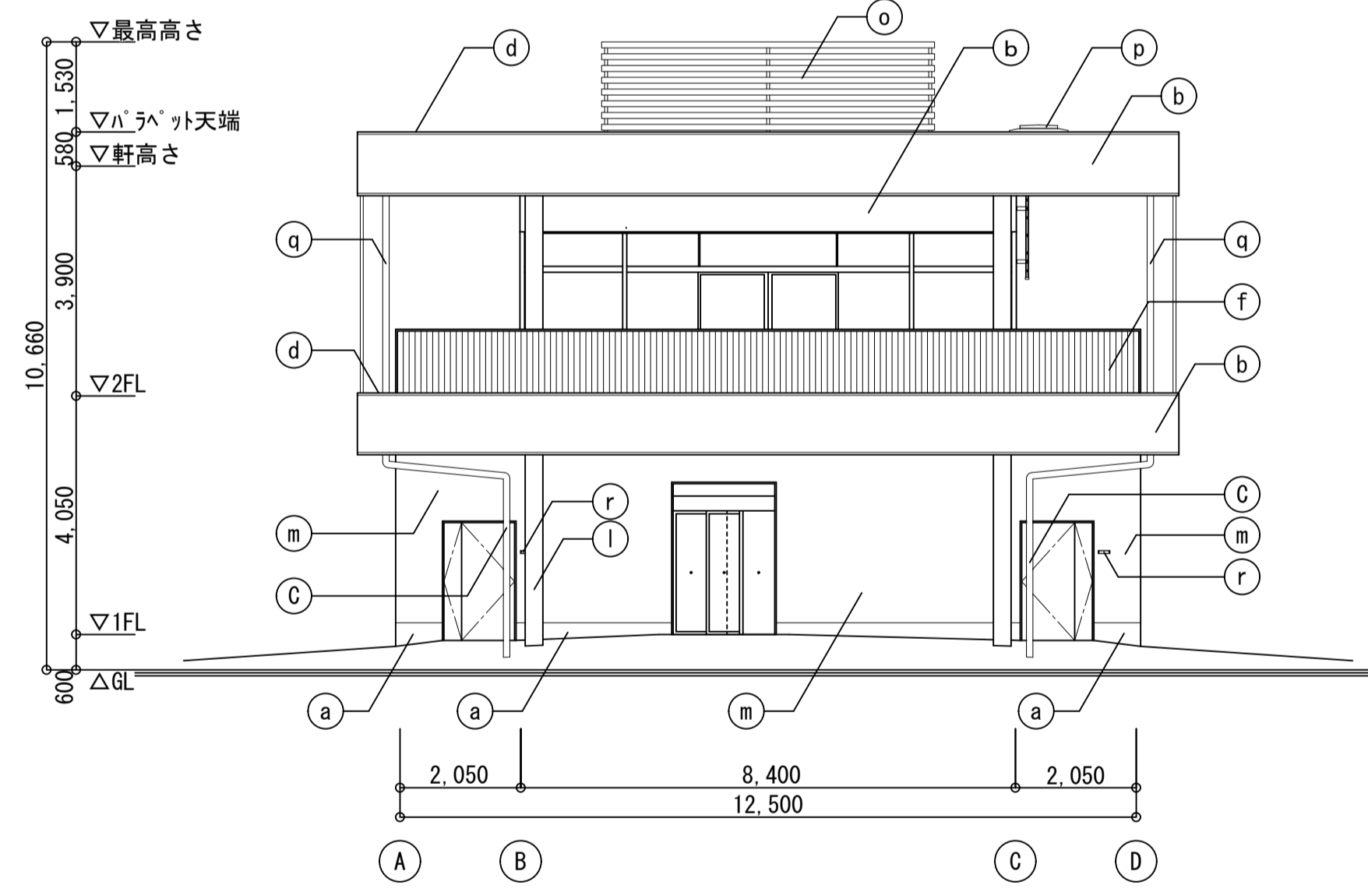




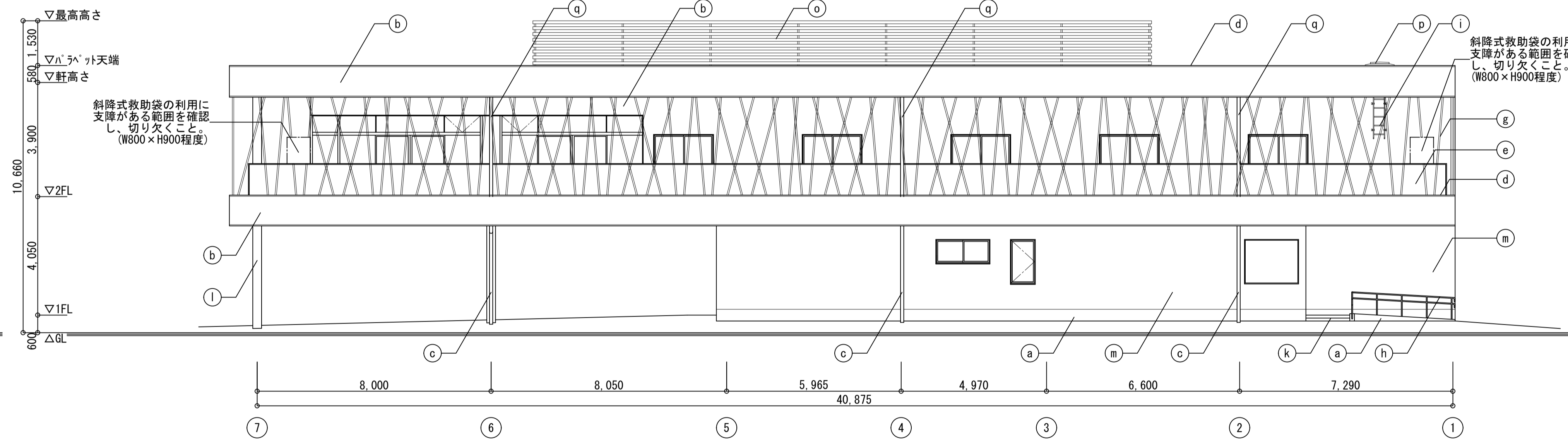
南立面図 1/100



東立面図 1/100



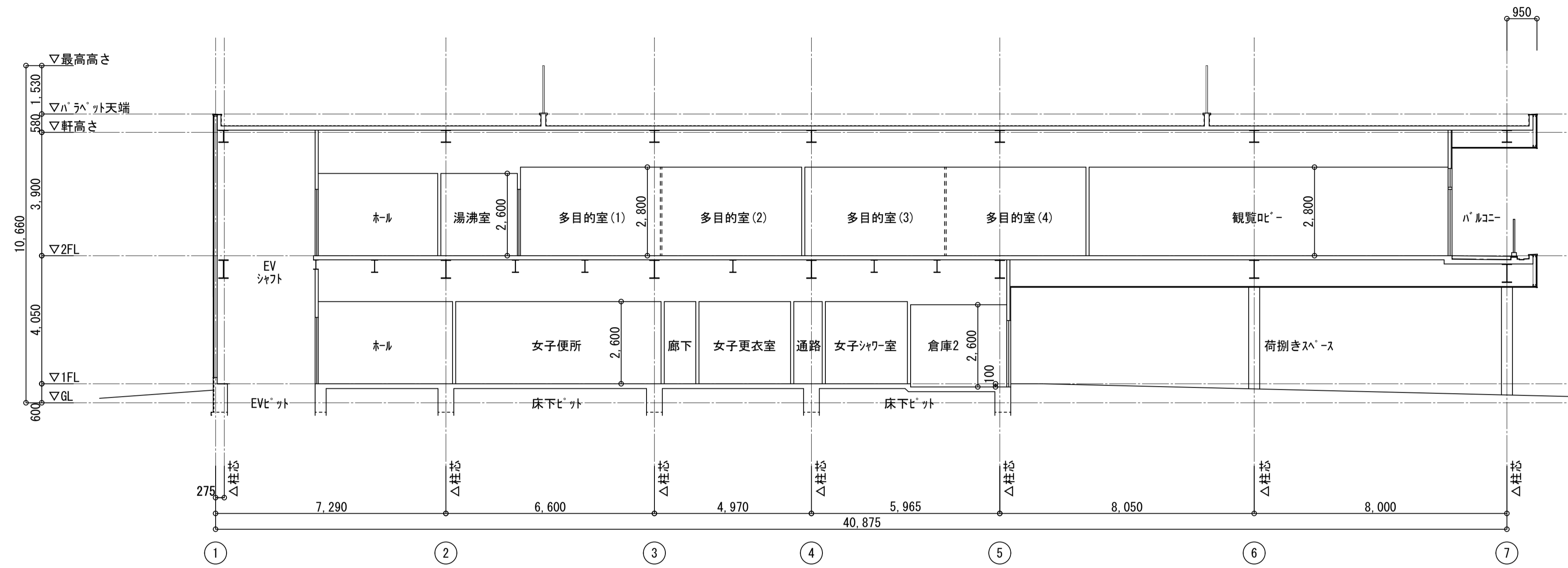
北立面図 1/100



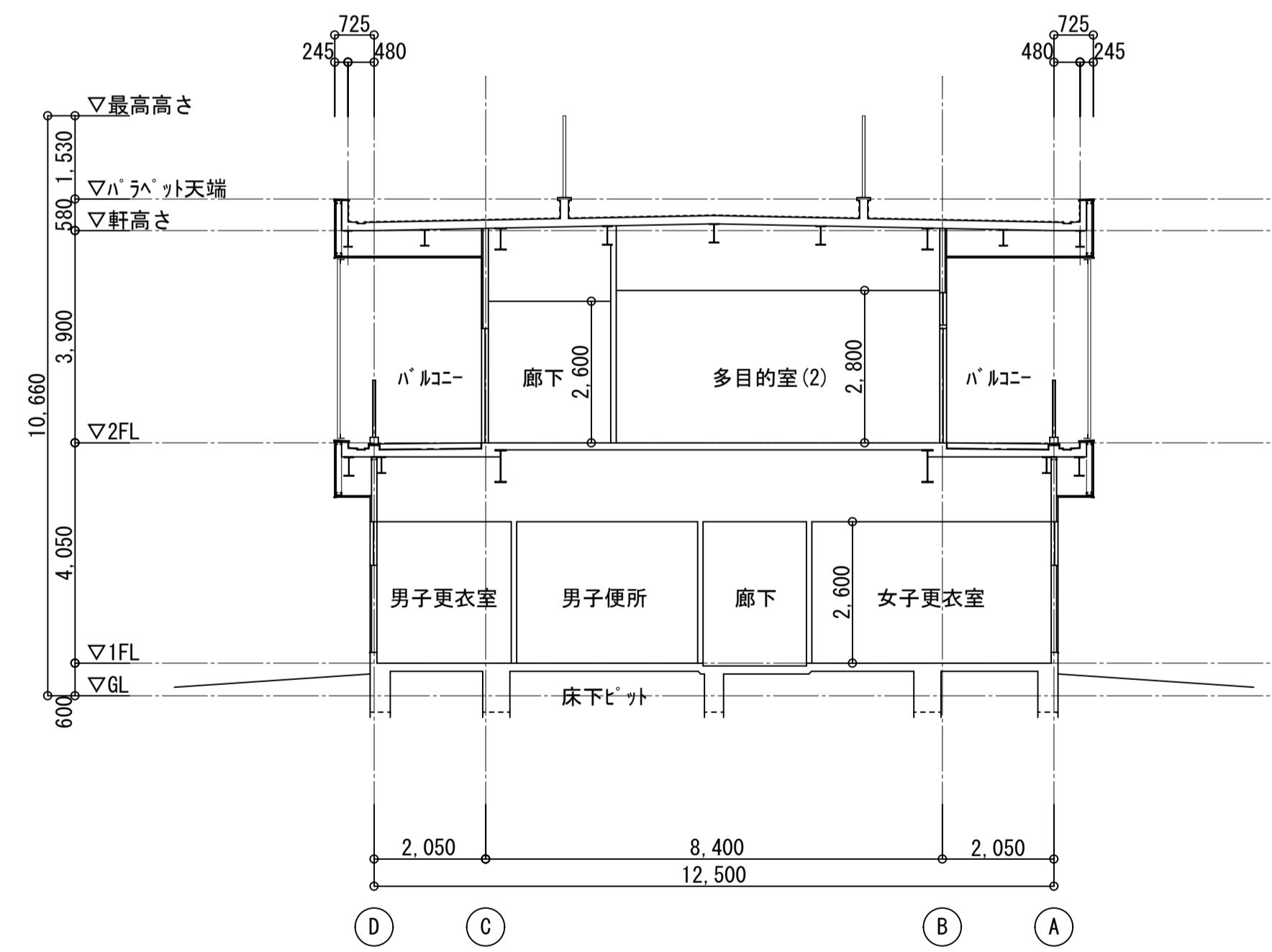
西立面図 1/100

凡例

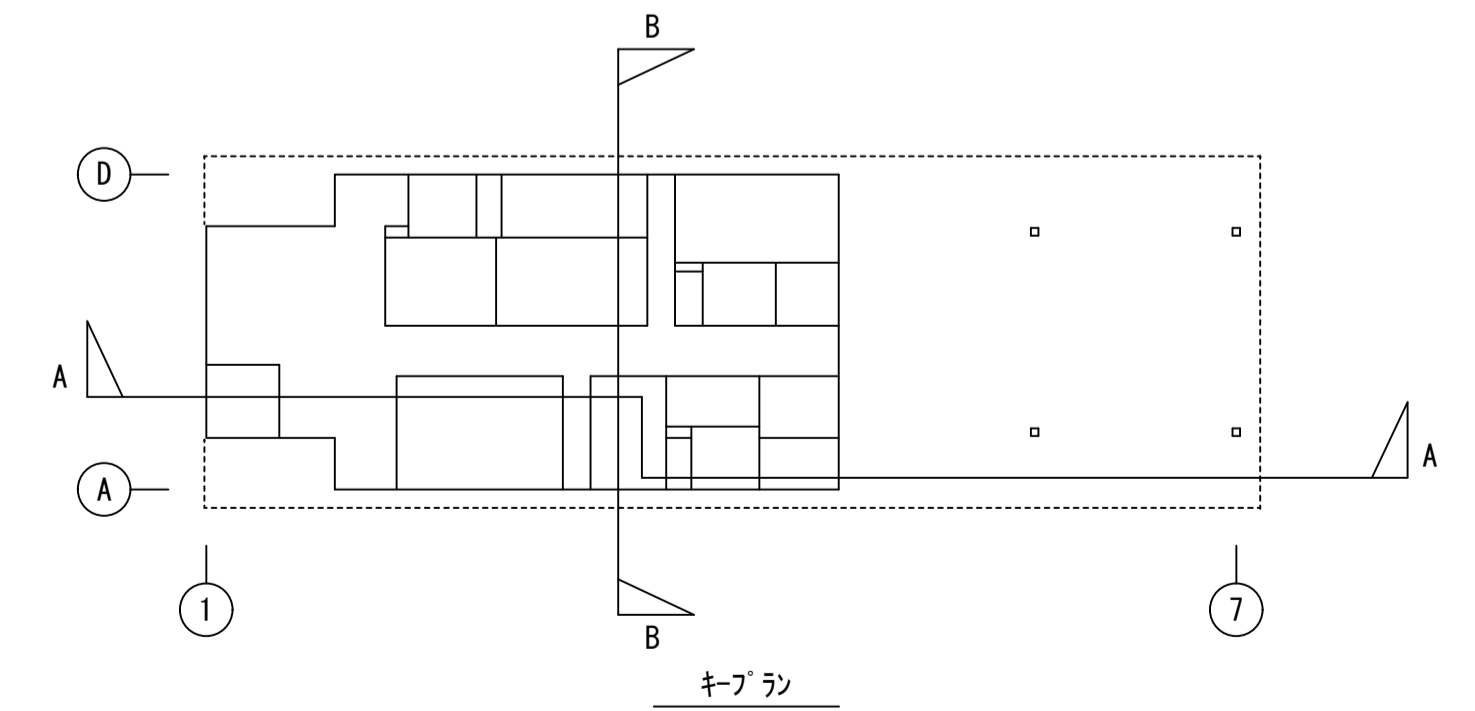
a	コンクリート打放し (B種)	g	樹脂被覆7#製ルーフ-30×50 @≒500 ※開口率50%以上とすること。	m	外壁:鉄骨脚縁組下地 透湿防水シート 金属系サイディングt=16 横張り (塗装品、金具留め・コーナ-共)
b	外壁:鉄骨脚縁組下地 透湿防水シート 産業系サイディングt=16 横張り (塗装品、金具留め・コーナ-役物共)	h	手摺:ステンレス製手摺34φ、H=950	n	館名サイン・市章
c	縦樋:硬質塩化ビニル管φ100 (カラー)	i	ステンレス製ラック	o	7#製目隠しルーフ-H=1,500
d	笠木:7#製笠木W=275	j	スロープ床:モルタル下地 スロープ用150角タイル張り	p	ステンレス製屋上点検用ハッチ
e	バルコニー手摺(東・西・南面):ガラス手摺H=1,150	k	外部階段 床:モルタル下地 150角タイル張り	q	縦樋:SGP 100A DP (3級) 塗装
f	バルコニー手摺(北面):ステンレス製手摺H=1,150	l	柱:鉄骨柱 DP (3級) 塗装	r	室名札 (平付型)

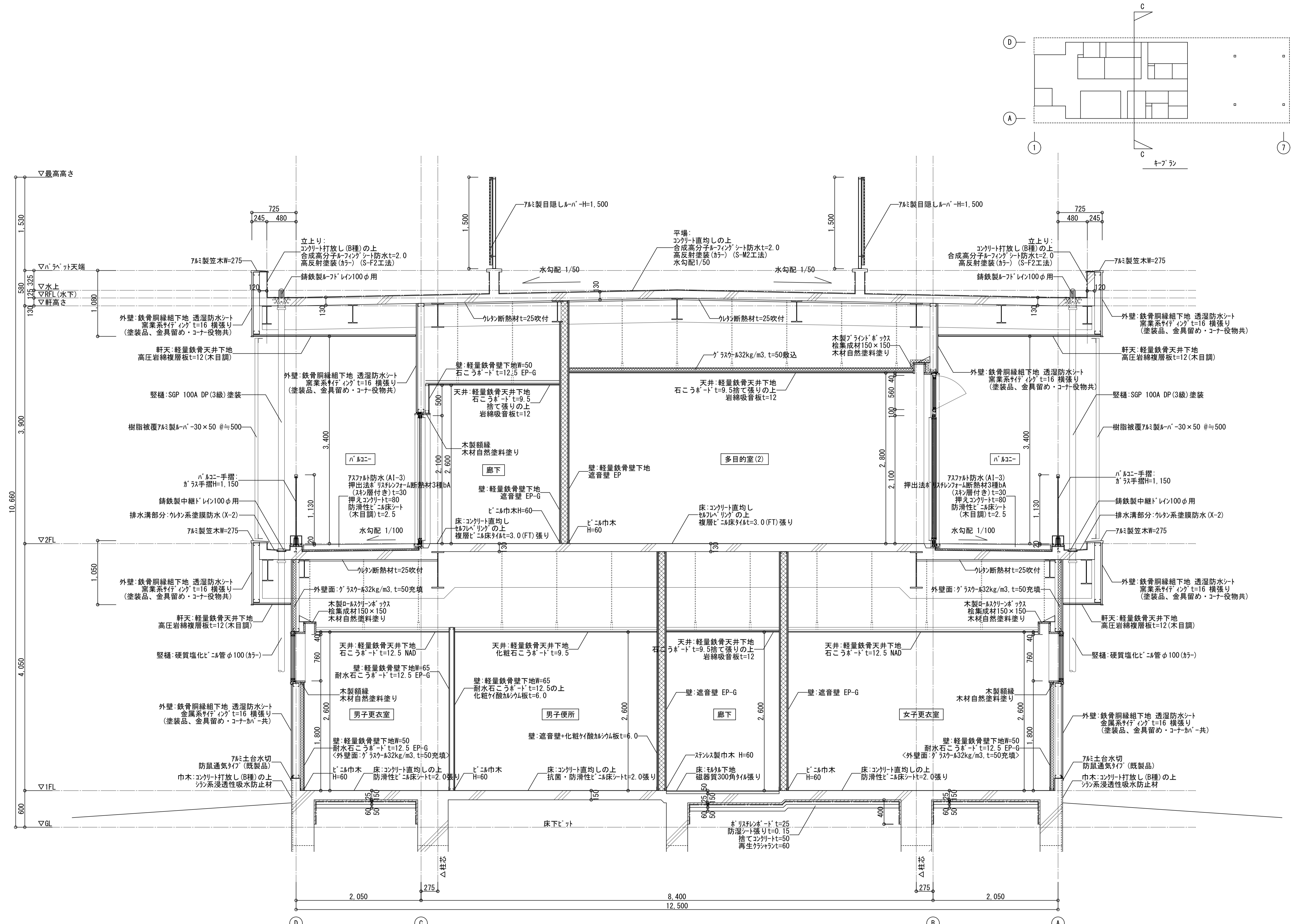


A-A断面図 1/100

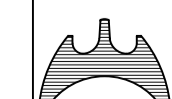
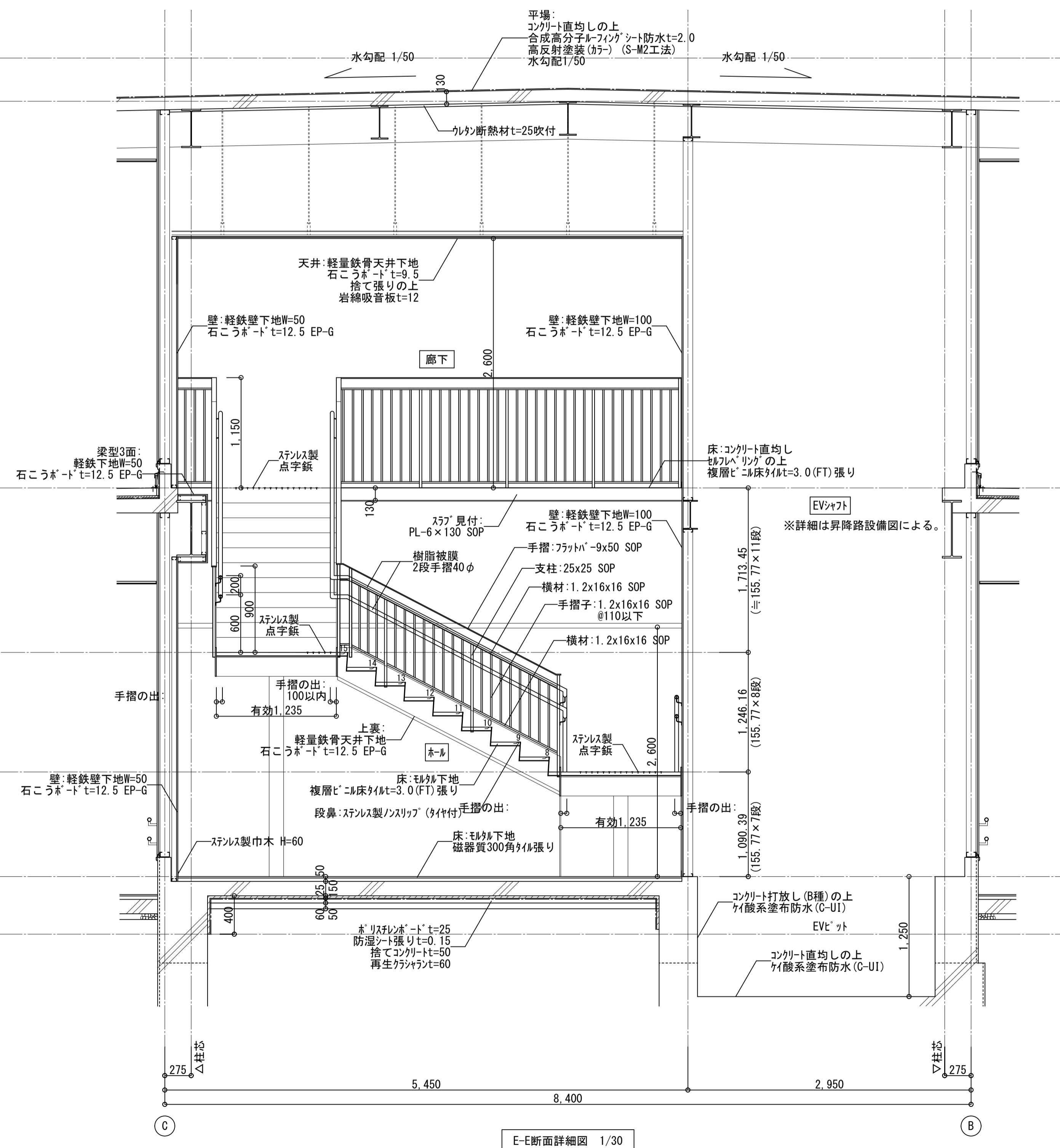
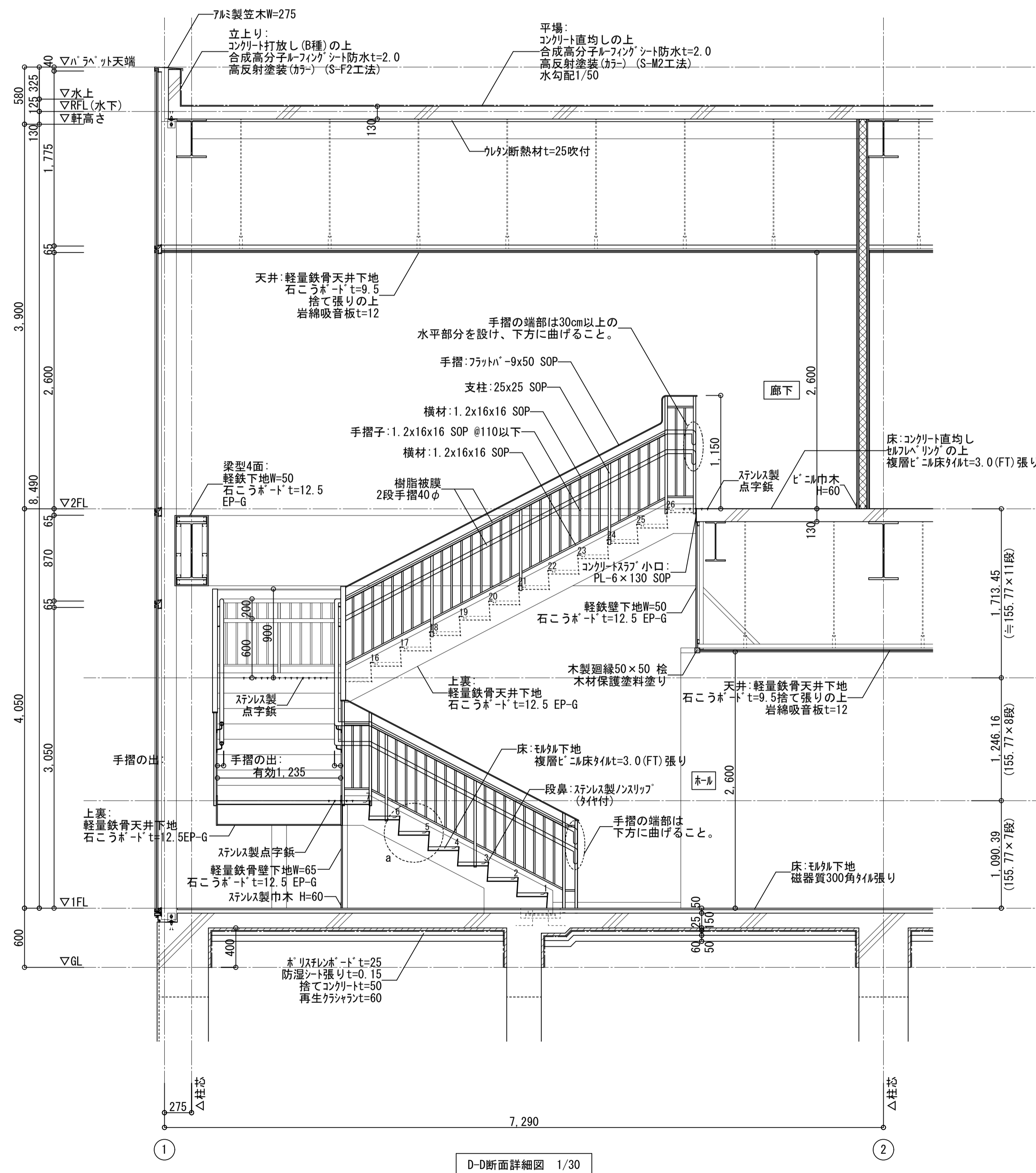
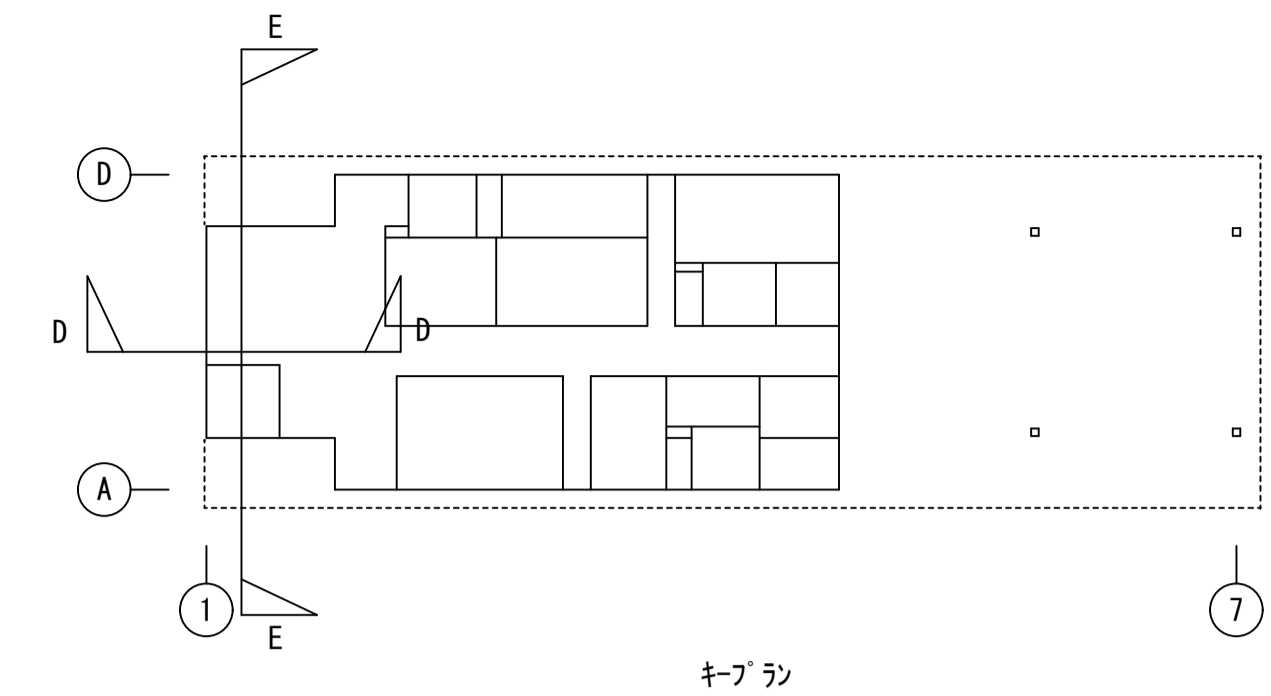
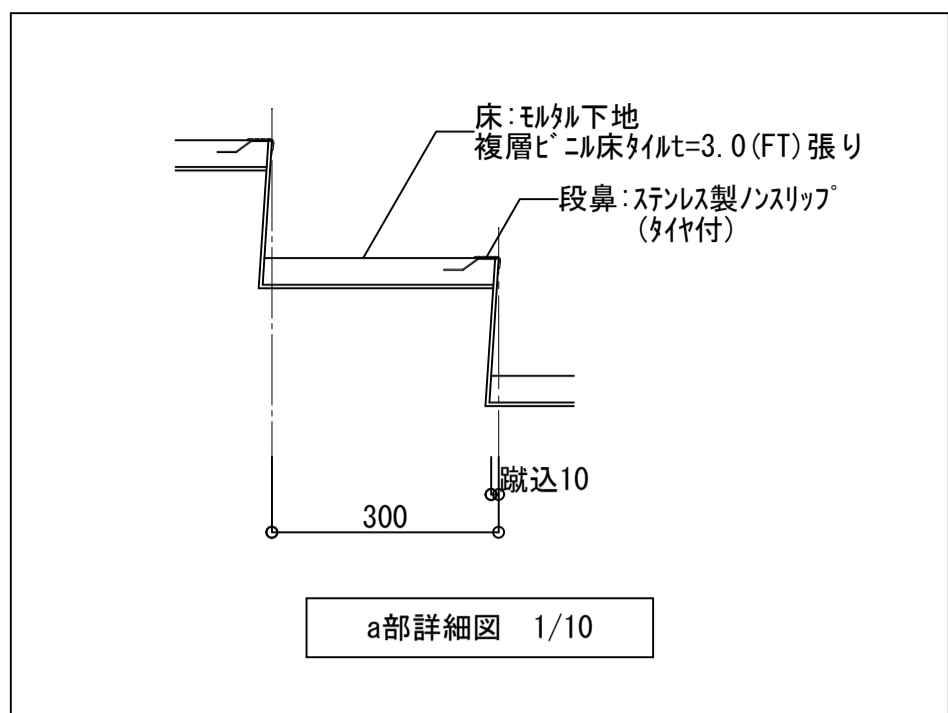


B-B断面図 1/100

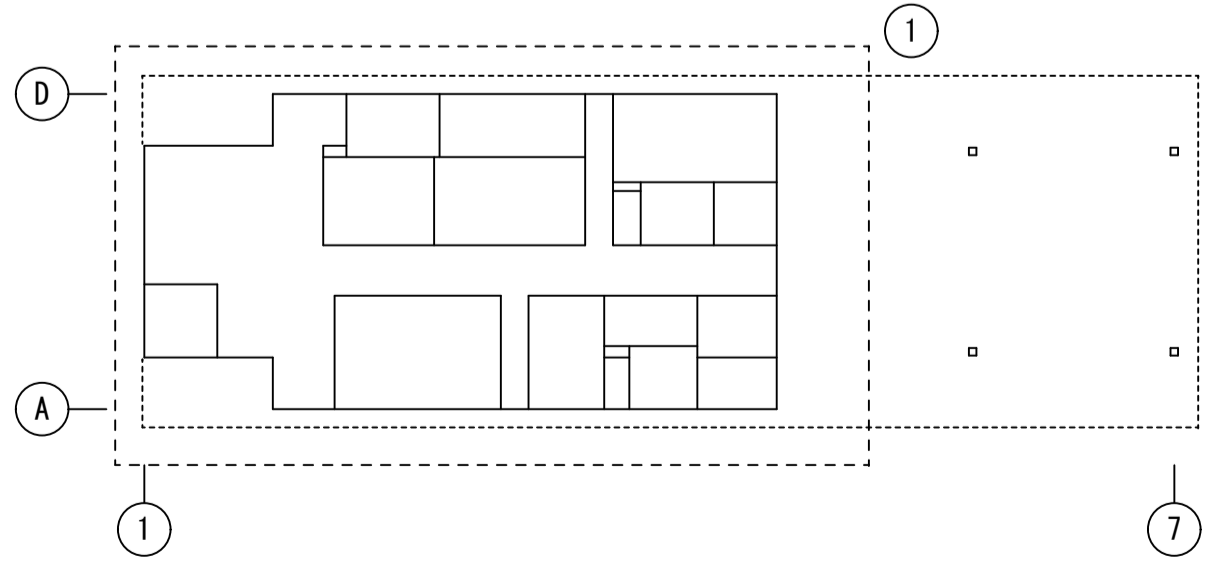
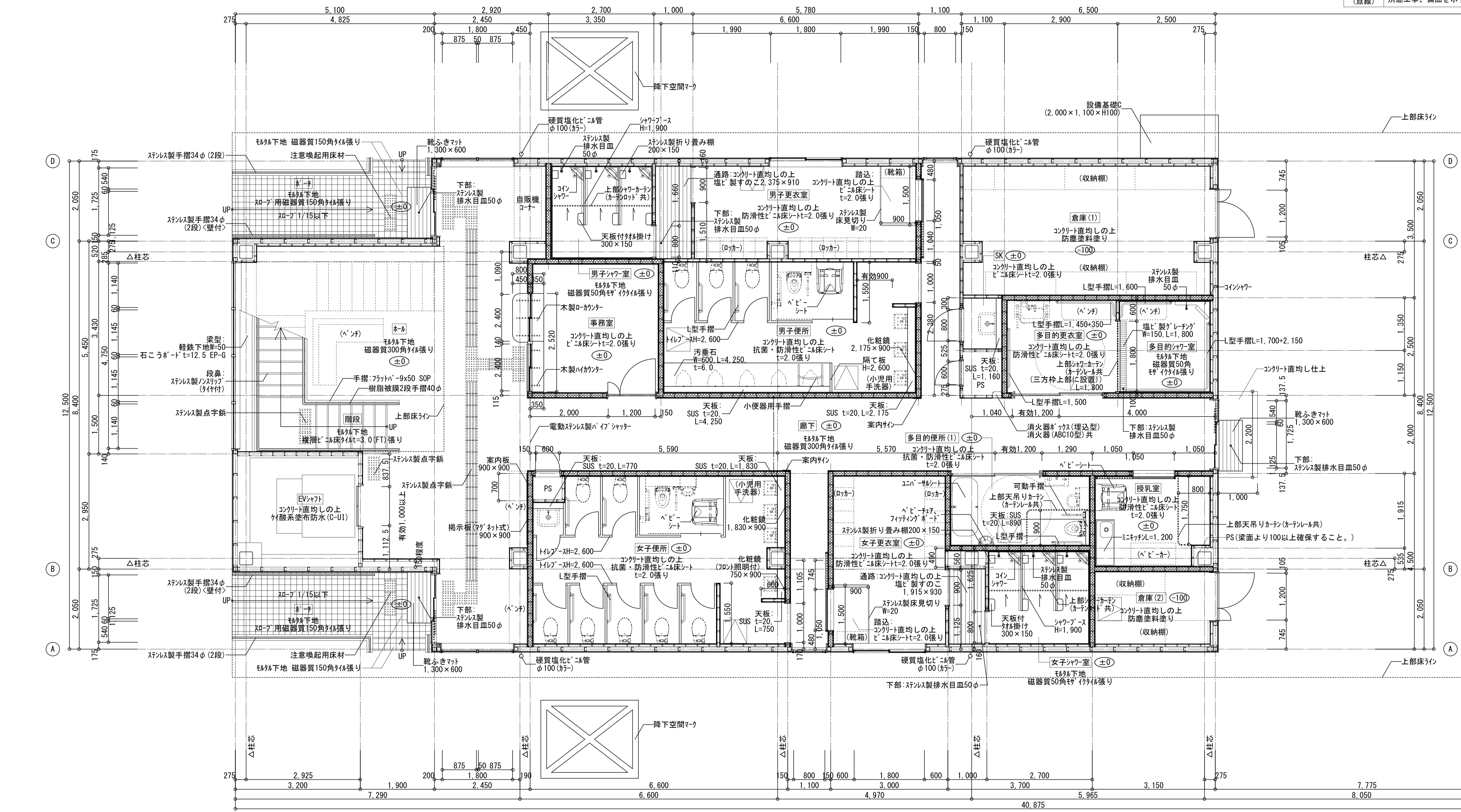




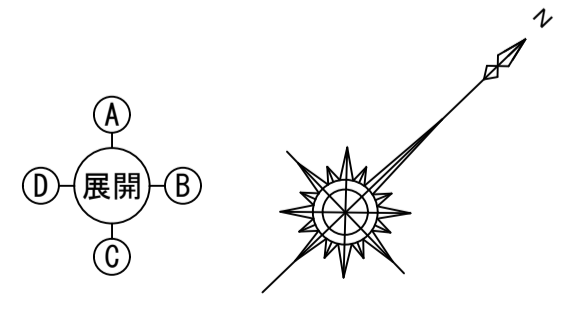
C-C 断面図 1/30 ※バルコニー手摺について、下部のカバー天端の奥行きは90mmのため、足がかりにならないものとする。



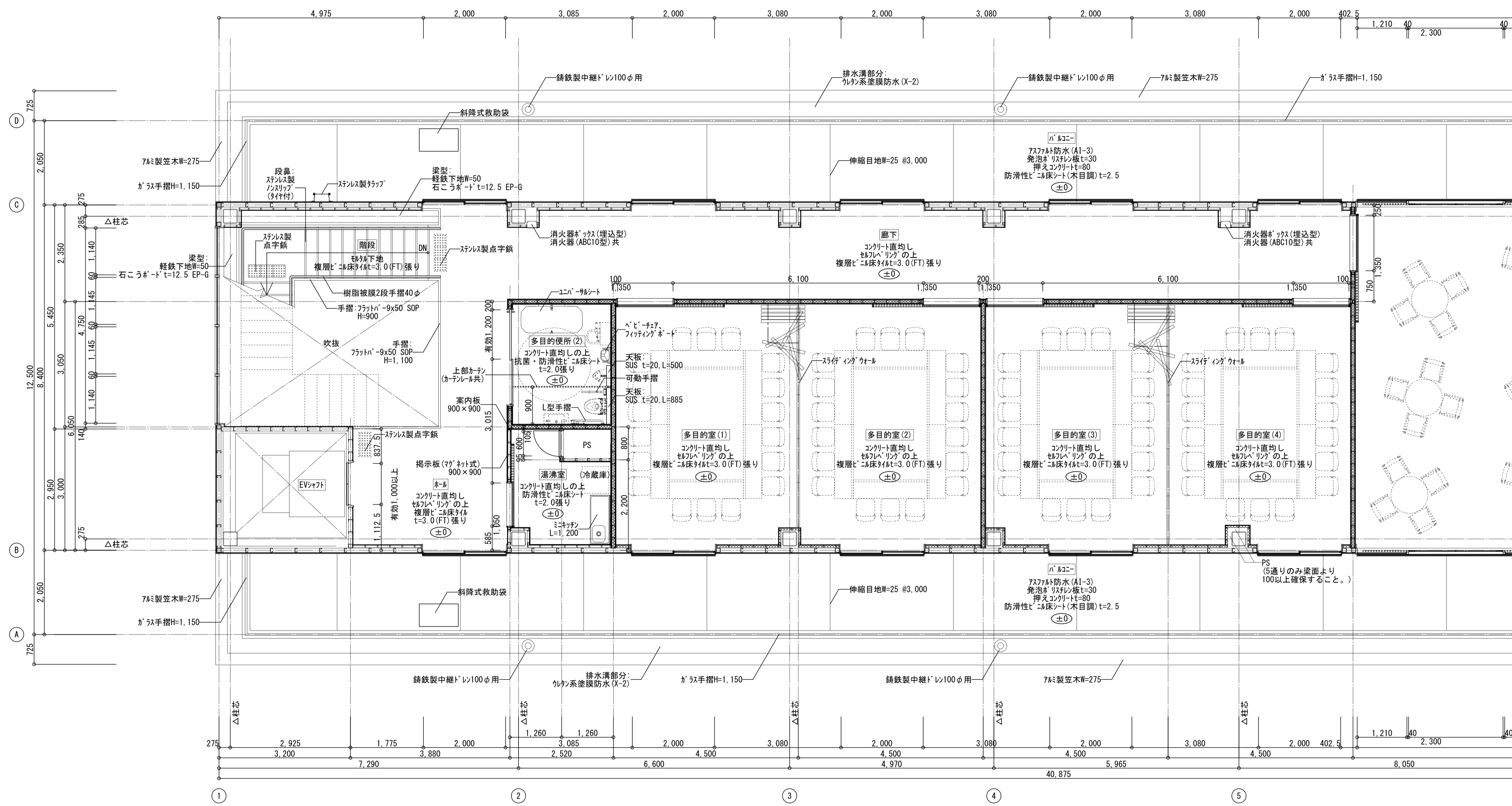
凡例  
(点線) 別途工事、備品を示す。



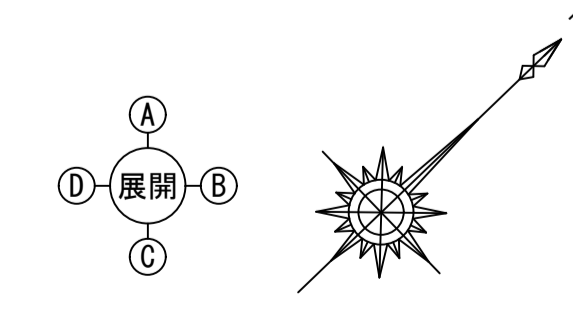
1階平面詳細図 1/50  
 ※ 特記なき床レベルはFL±0とする。  
 ※ ±○○はFLからの高さを示す。



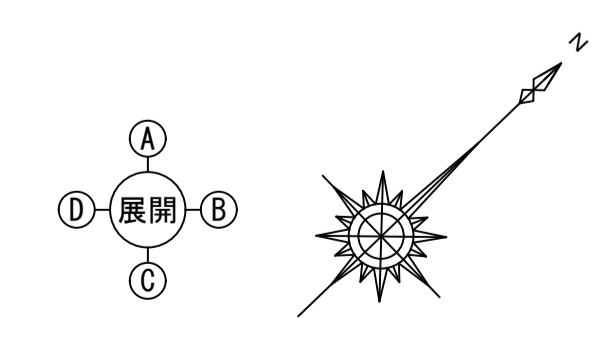
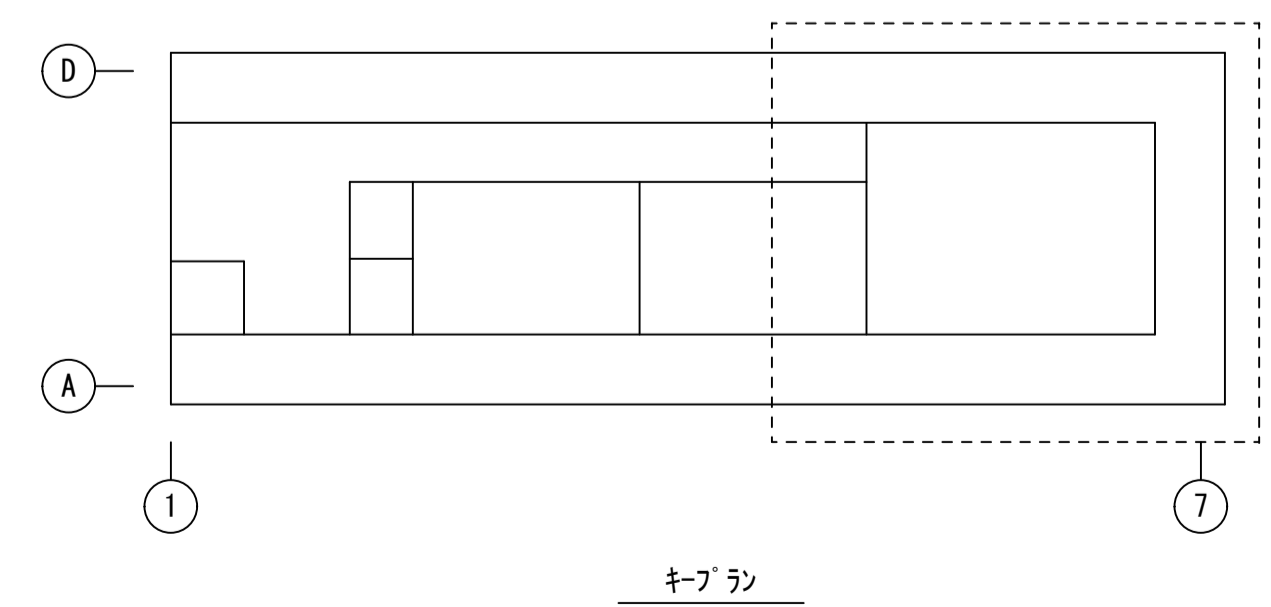
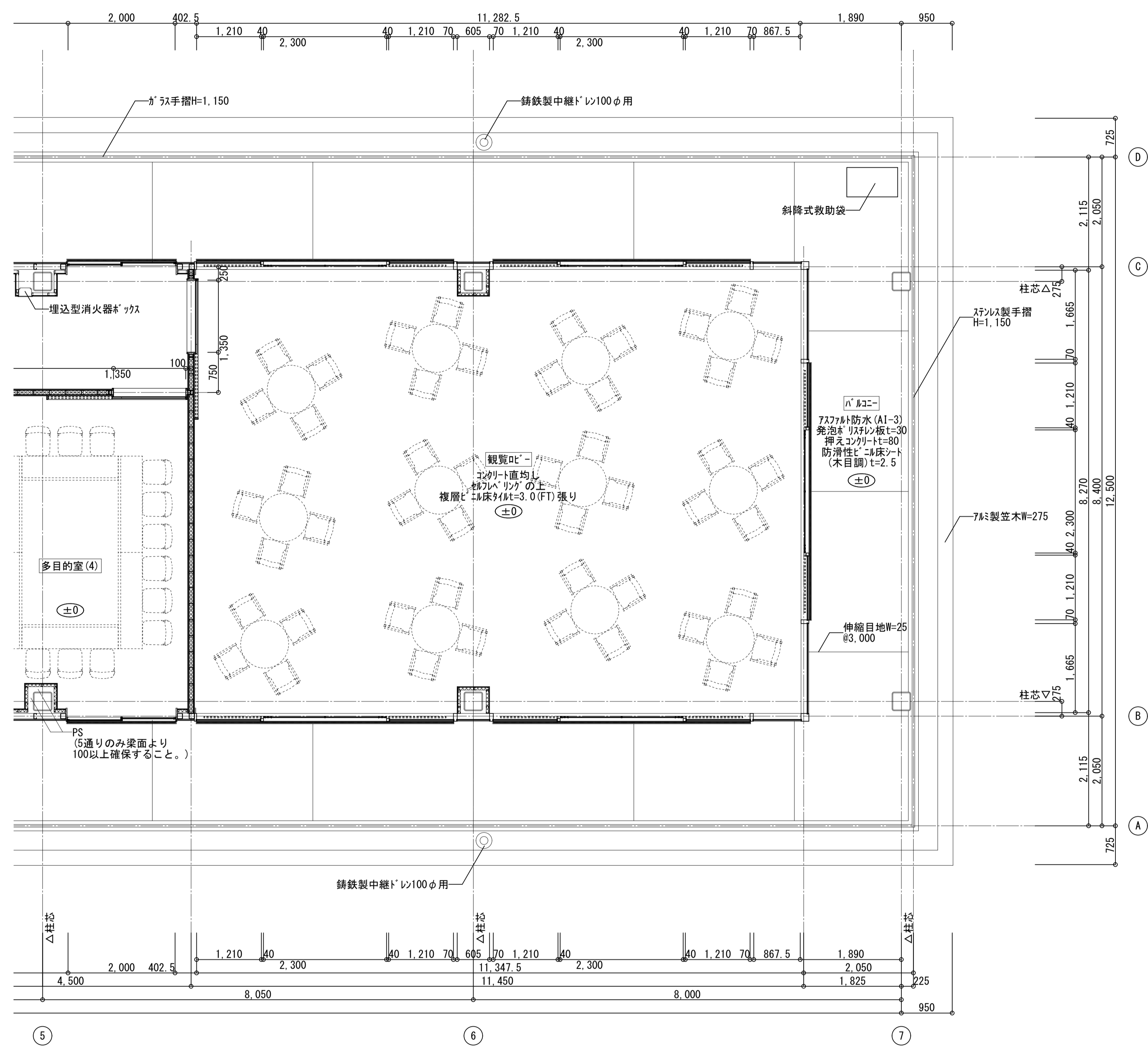
凡例  
(点線) 別途工事、備品を示す。



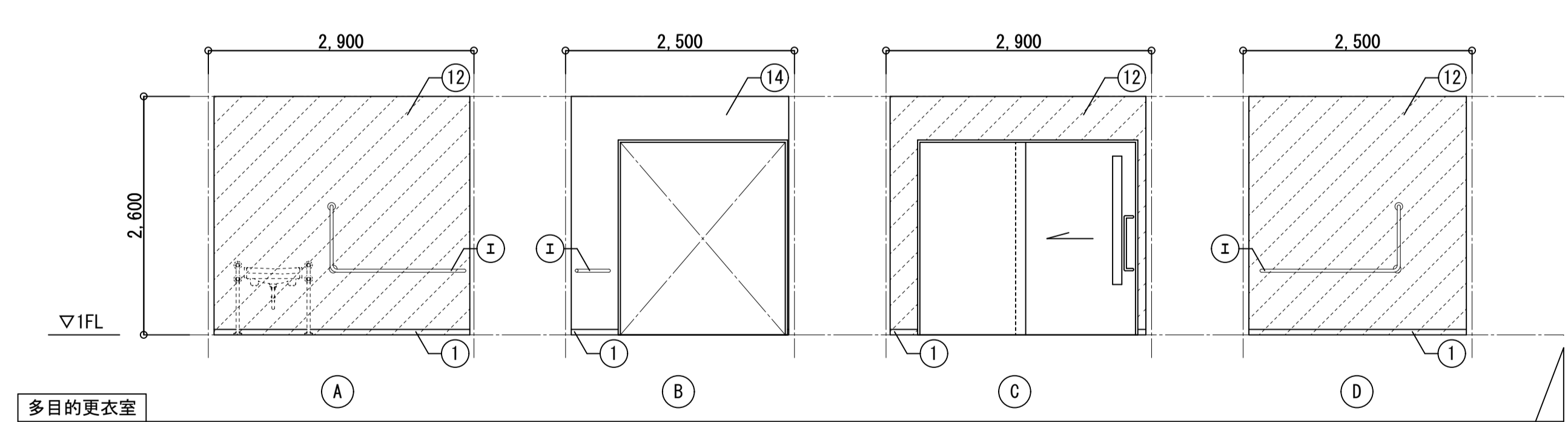
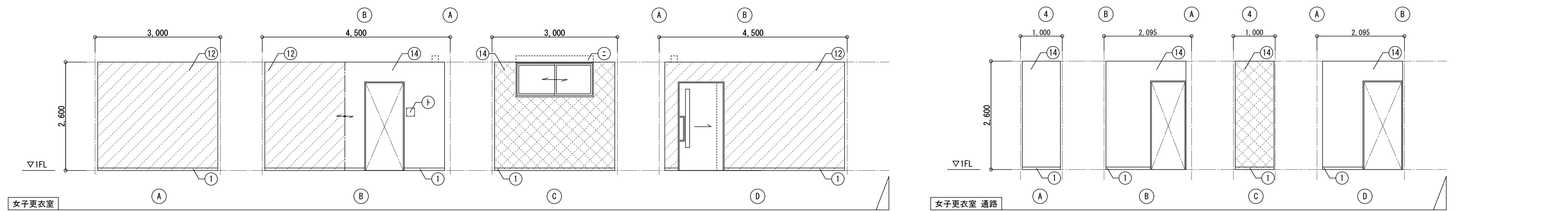
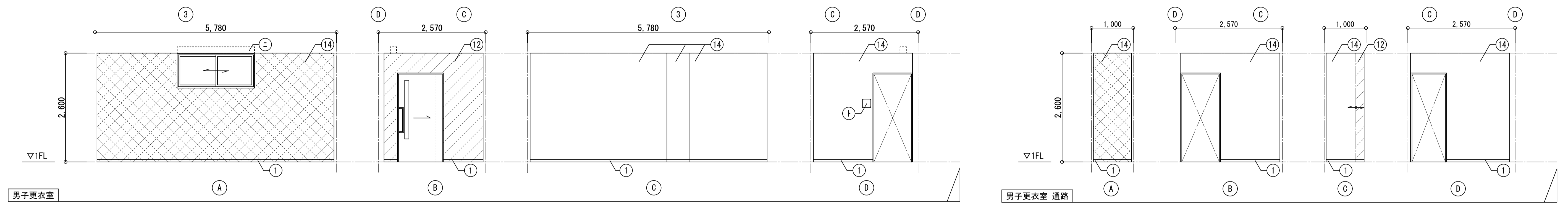
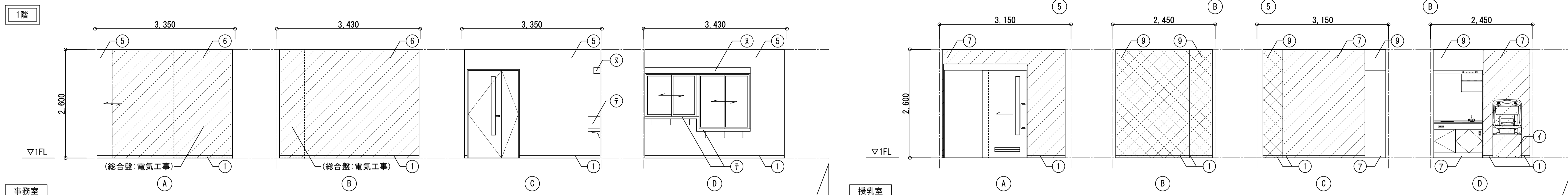
2階平面詳細図 1/50 ※ 特記なき床レベルはFL±0とする。  
 ※ ±〇〇はFLからの高さを示す。



凡例  
(点線) 別途工事、備品を示す。

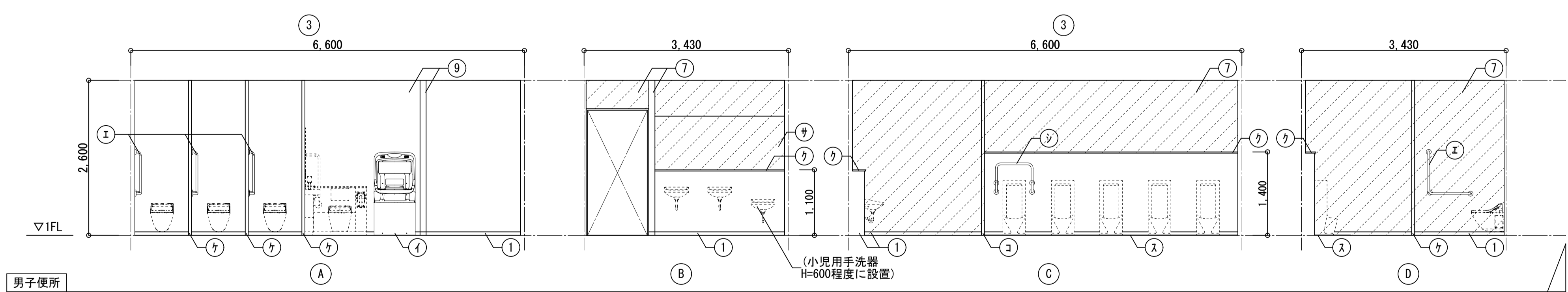
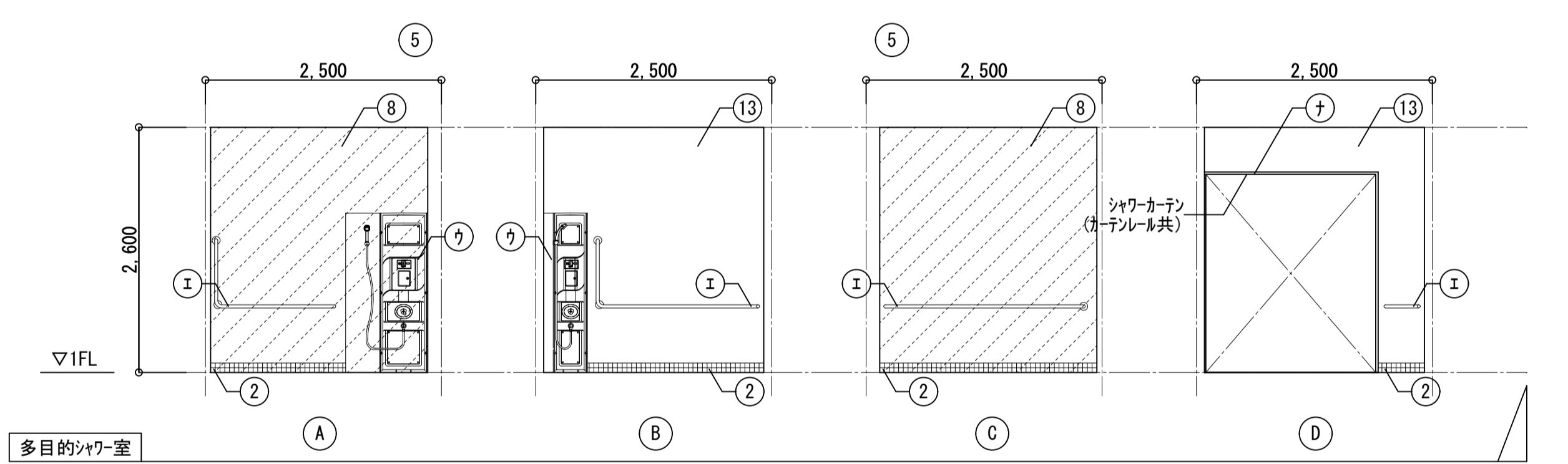
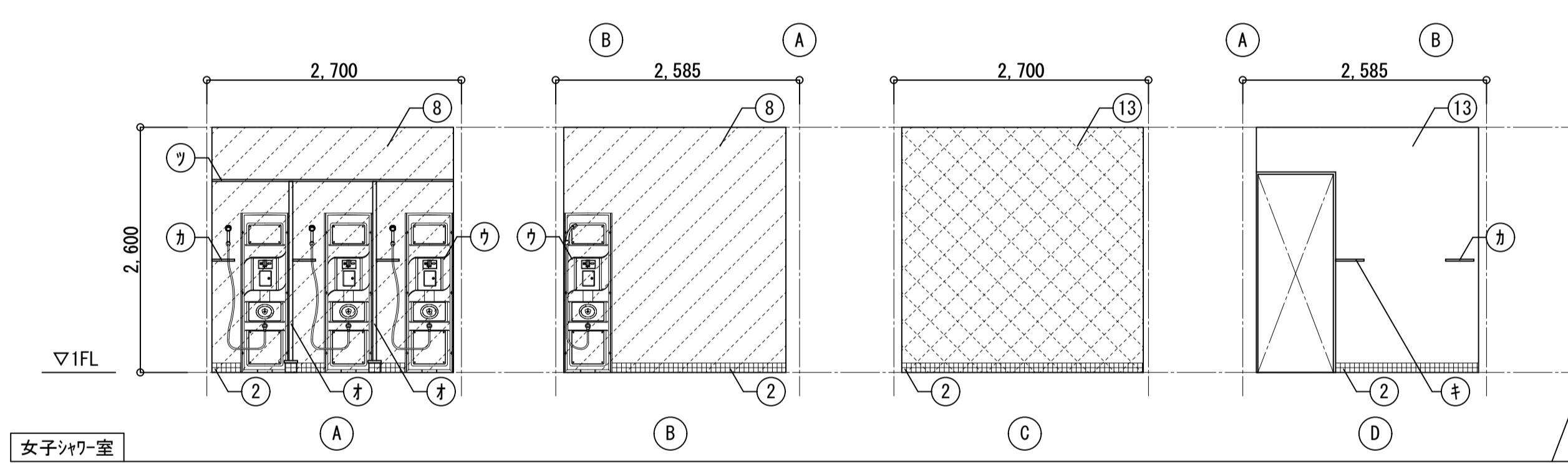
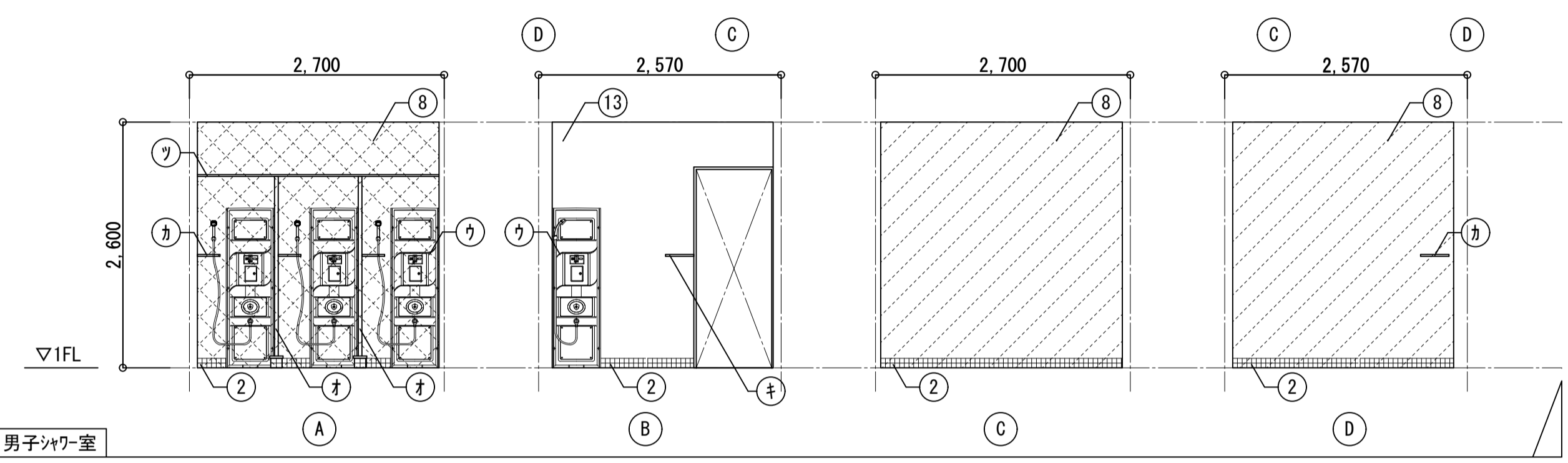
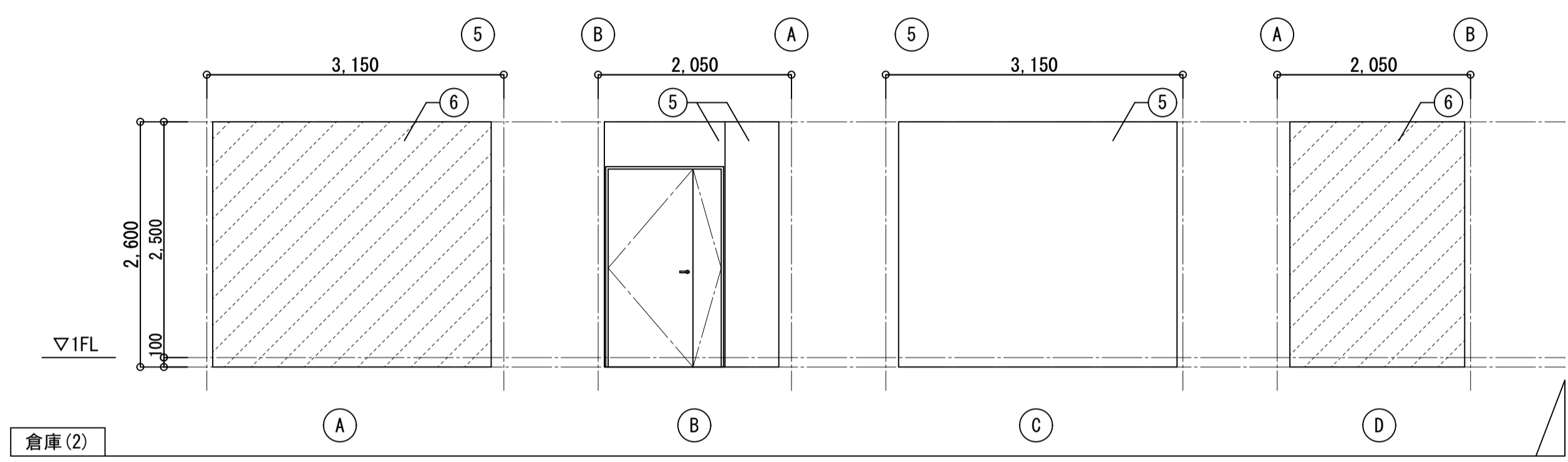
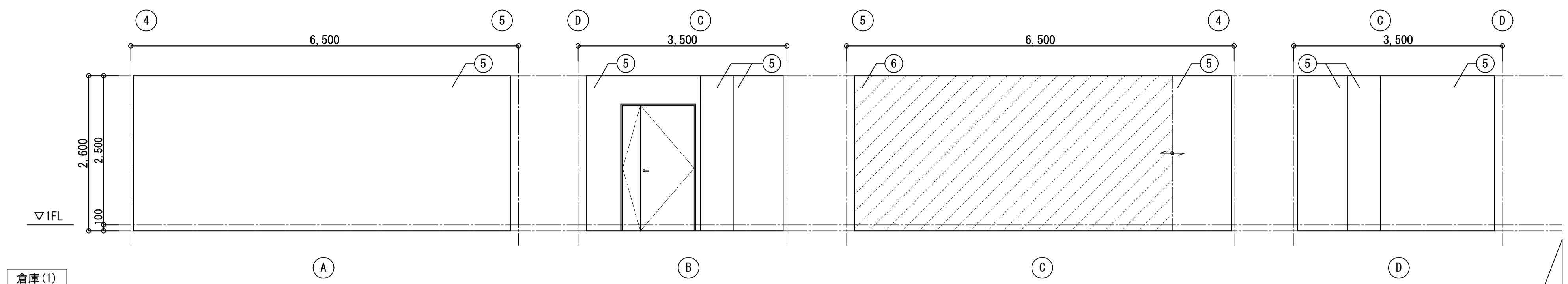






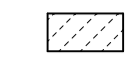

グラスカー 24kg/m<sup>3</sup> t=50充填(遮音壁)の範囲を示す。  
 グラスカー 32kg/m<sup>3</sup> t=50充填(外壁面)の範囲を示す。

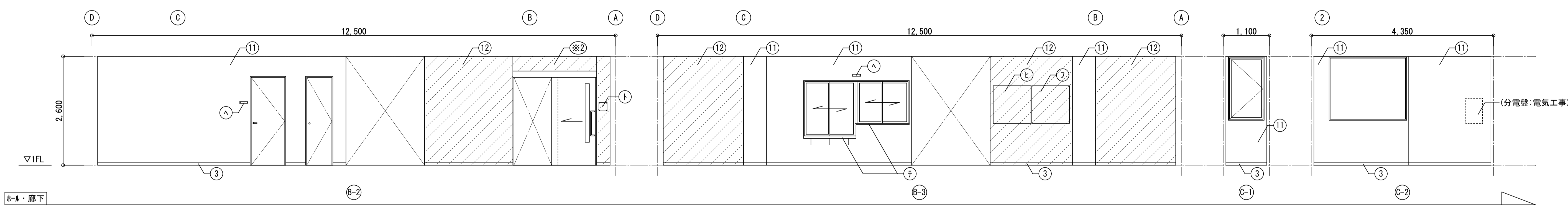
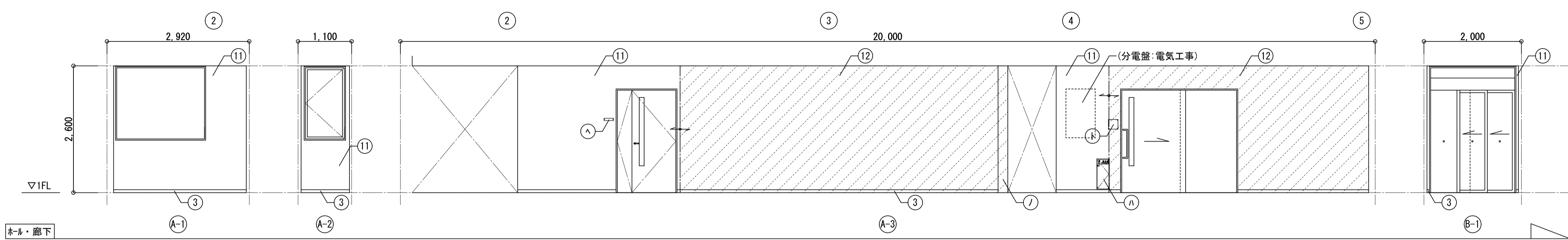
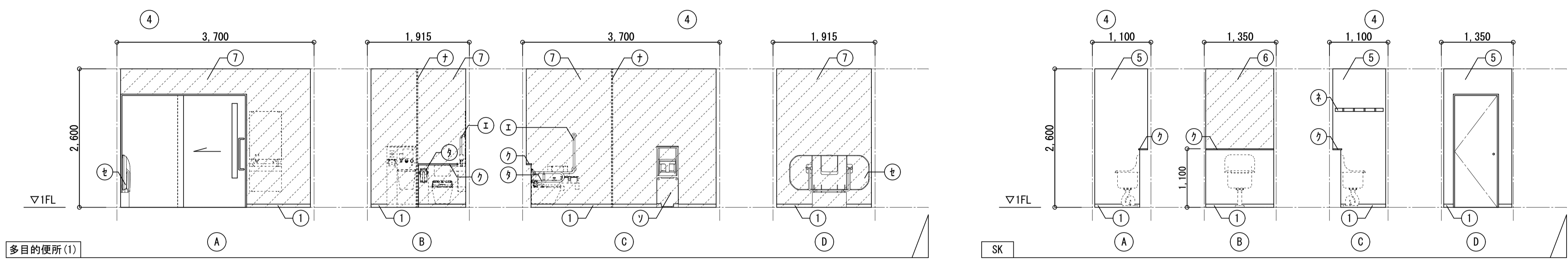
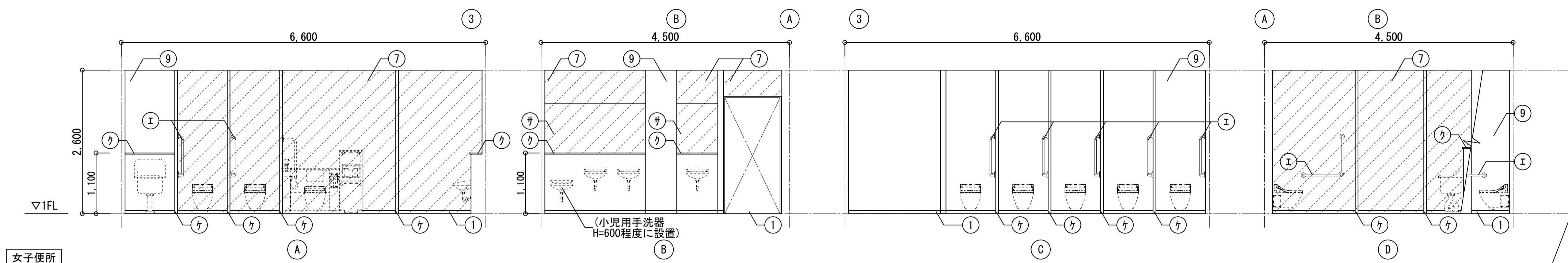
記号											
①	ビニル巾木H=60	⑥	遮音壁 EP	⑪	石こうボード t=12.5 EP-G	⑦	ミニキャナル=1,200	②	ステンレス製折り畳み棚 200x150	④	化粧鏡
②	磁器質50角タイル張りH=100	⑦	遮音壁+化粧化粧板 t=6.0	⑫	遮音壁 EP-G	⑧	パビシート	③	天板付材掛け 300x150	⑤	小便器用手摺
③	ステンレス製巾木H=60	⑧	遮音壁+耐水合板 t=12、気密・防湿シートの上パビシート(壁用)張り	⑬	耐水合板 t=12の上、気密・防湿シート、パビシート(壁用)張り	⑨	コインシャワー	⑥	天板: SUS t=20	⑦	汚垂石 W=600, L=4,250, t=6.0
④	コンクリート打放し(B種)の上化粧系塗布防水	⑨	耐水石こうボード t=12.5の上化粧化粧板 t=6.0	⑭	耐水石こうボード t=12.5 EP-G	⑩	L型手摺	④	トリアースH=2,600	⑧	ユニバーサルシート
⑤	石こうボード t=12.5 EP	⑩	軽量鉄骨壁下地現し			⑪	シャワーブースH=1,900	⑤	隔て板H=1,900	⑨	パビシート、フィッティングボード
										⑩	可動手摺
										⑪	スライディングウォール
										⑫	シャワーカーテン(カーテンラッド共)
										⑬	カーテン(カーテンラッド共)
										⑭	木製ローカントリーボックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り
										⑮	木製ブラインドボックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り
										⑯	掃除道具掛ステンレスフック=900
										⑰	案内サイン
										⑱	消火器ボックス(埋込型) 消火器(ABC10型)共
										⑲	案内板900x900
										⑳	掲示板(マグネット式)900x900
										㉑	室名札(平付型)



グラスカー 24kg/m<sup>3</sup> t=50充填(遮音壁)の範囲を示す。  
 グラスカー 32kg/m<sup>3</sup> t=50充填(外壁面)の範囲を示す。

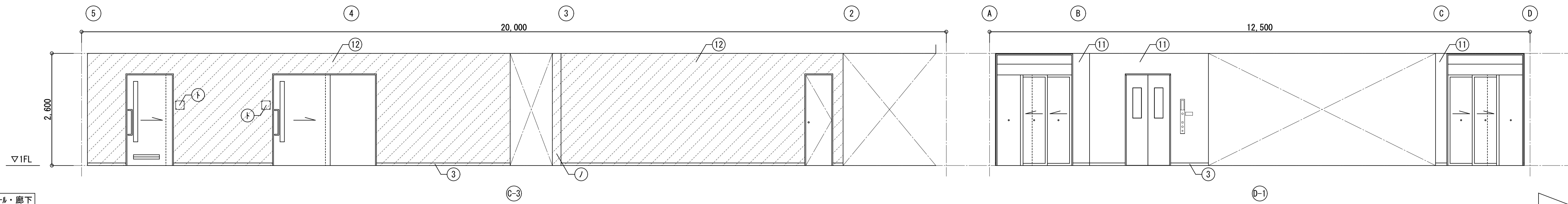
記号											
①	ビニル巾木H=60	⑥	遮音壁 EP	⑪	石こうボード t=12.5 EP-G	⑦	ミニキャナル=1,200	⑫	ステン製折り畳み棚 200x150	⑳	化粧鏡
②	磁器質50角タイル張りH=100	⑦	遮音壁+化粧化粧板 t=6.0	⑫	遮音壁 EP-G	⑧	パネーシート	⑬	天板付材掛け 300x150	㉑	小便器用指摺
③	ステン製巾木H=60	⑧	遮音壁+耐水合板 t=12、気密・防湿シートの上パネー材(壁用)張り	⑬	耐水合板 t=12の上、気密・防湿シート、パネー材(壁用)張り	⑬	コインシャワー	⑭	天板: SUS t=20	㉒	汚垂石 W=600、L=4,250、t=6.0
④	コンクリート打放し(B種)の上化粧系塗布防水	⑨	耐水石こうボード t=12.5の上化粧化粧板 t=6.0	⑭	耐水石こうボード t=12.5 EP-G	⑭	L型手摺	⑮	トイレASH=2,600	㉓	ユニバーサルシート
⑤	石こうボード t=12.5 EP	⑩	軽量鉄骨壁下地現し			⑮	シャワーASH=1,900	⑯	隔て板H=1,900	㉔	ベビークロケット、フィッティングボード

 グラスカー 24kg/m<sup>3</sup> t=50充填(遮音壁)の範囲を示す。  
 グラスカー 32kg/m<sup>3</sup> t=50充填(外壁面)の範囲を示す。



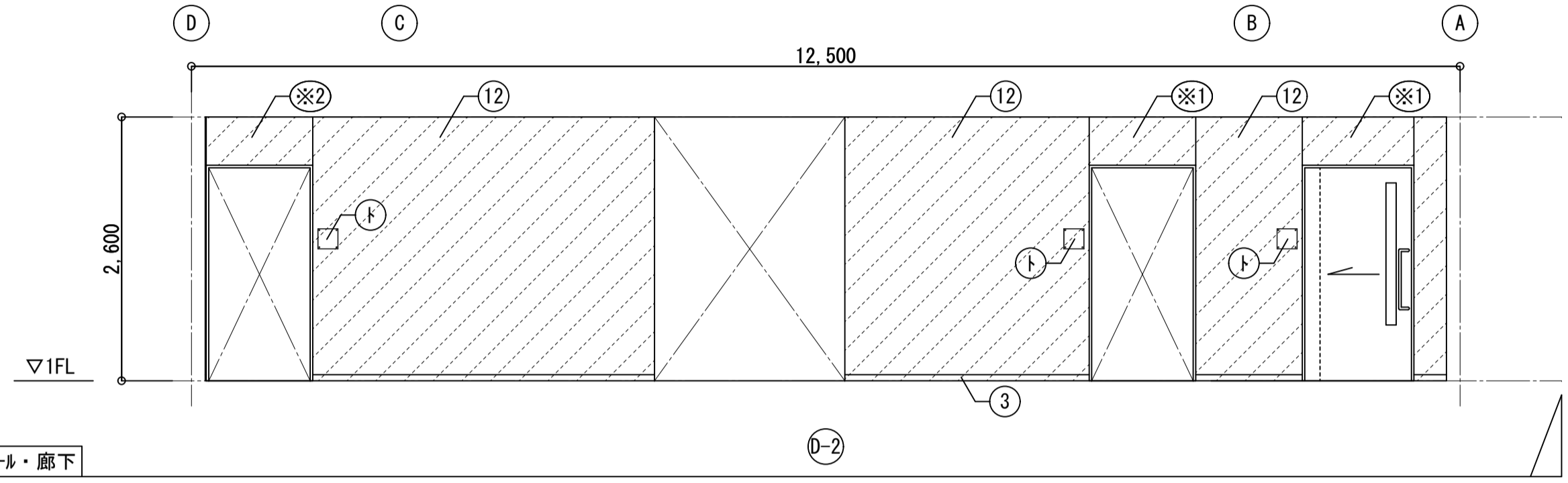
※C 更衣室、便所出入口上部はその他の範囲と塗りわけること。  
 <参考色票番号> ※2:Y07-80H

記号																	
①	ビニル巾木H=60	⑥	遮音壁 EP	⑪	石こうボード t=12.5 EP-G	⑦	ミニキャナル=1,200	⑧	ステンレス製折り畳み棚 200x150	⑨	化粧鏡	⑩	可動手摺	⑪	カーテン(カーテンル共)	⑫	消火器ボックス(埋込型) 消火器(ABC10型)共
②	磁器質50角タイル張りH=100	⑦	遮音壁+化粧珪酸カルシウム板 t=6.0	⑫	遮音壁 EP-G	⑧	ヘアシート	⑨	天板付材質掛け 300x150	⑩	小便器用手摺	⑪	スライディングウォール	⑫	木製ローションボックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り	⑬	案内板900x900
③	ステンレス製巾木H=60	⑧	遮音壁+耐水合板 t=12、 気密・防湿シートの上パズル(壁用)張り	⑬	耐水合板 t=12の上 気密・防湿シート、パズル(壁用)張り	⑨	コインシャワー	⑩	天板: SUS t=20	⑪	汚垂石 W=600, L=4,250, t=6.0	⑫	シャワーカーテン(カーテンル共)	⑬	木製ブラインドボックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り	⑭	掲示板(マグネット式)900x900
④	コンクリート打放し(B種)の上 珪酸系塗布防水	⑨	耐水石こうボード t=12.5の上 化粧珪酸カルシウム板 t=6.0	⑭	耐水石こうボード t=12.5 EP-G	⑩	L型手摺	⑪	トイレASH=2,600	⑫	エレベーター	⑬	木製バカッター、木製ローカーター	⑭	掃除道具掛ステンレスフック=900	⑮	室名札(平付型)
⑤	石こうボード t=12.5 EP	⑩	軽量鉄骨壁下地現し			⑪	シャワーASH=1,900	⑫	隔て板H=1,900	⑬	ベビースイッチ、ファイティングボード	⑭	ビニルカーテン(アクリル樹脂製)	⑮	案内サイン		



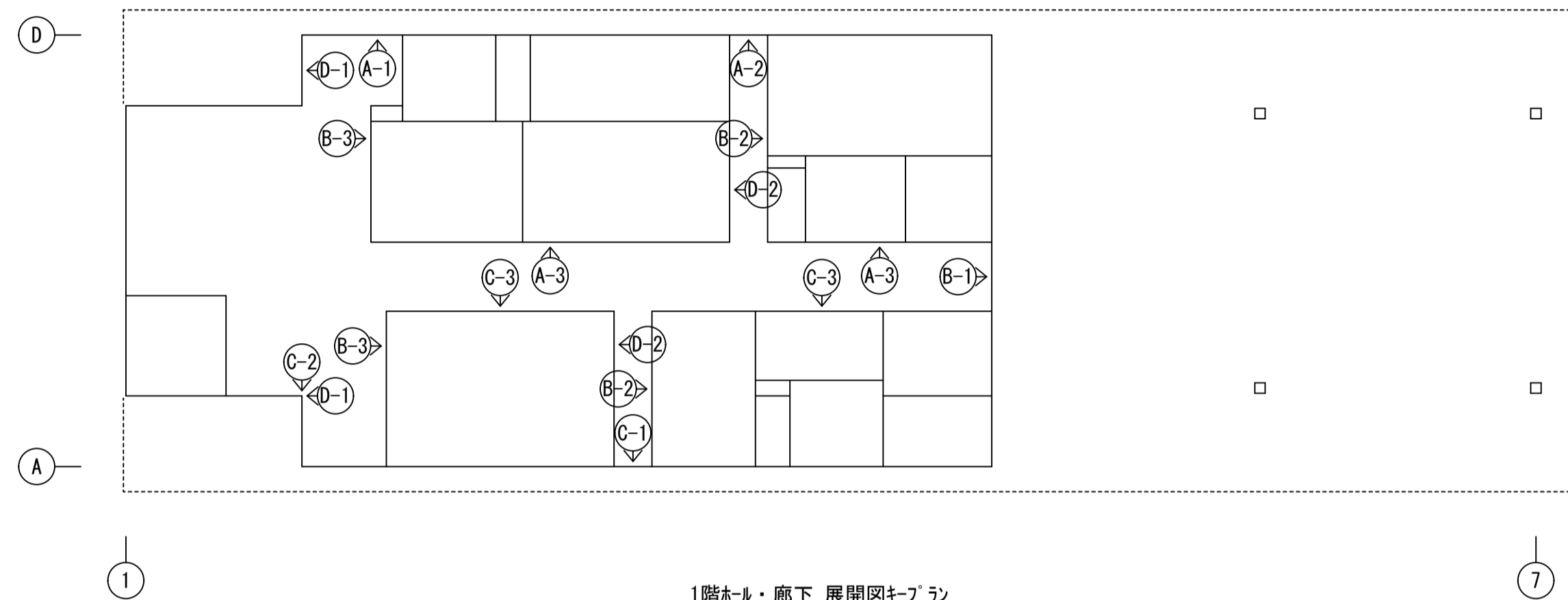
ホールの廊下

グラスカール 24kg/m<sup>3</sup> t=50充填(遮音壁)の範囲を示す。  
 グラスカール 32kg/m<sup>3</sup> t=50充填(外壁面)の範囲を示す。

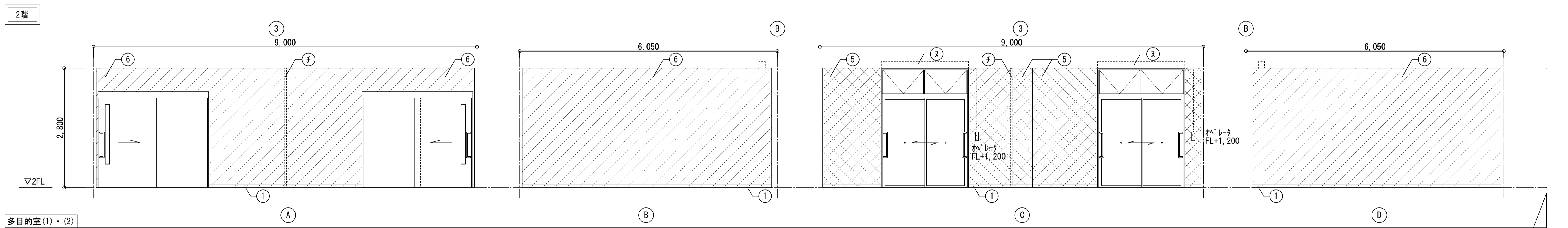


ホールの廊下

※C 更衣室、便所出入口上部はその他の範囲と塗りわけること。  
 <参考色票番号> ※1: Y69-80H  
 ※2: Y07-80H

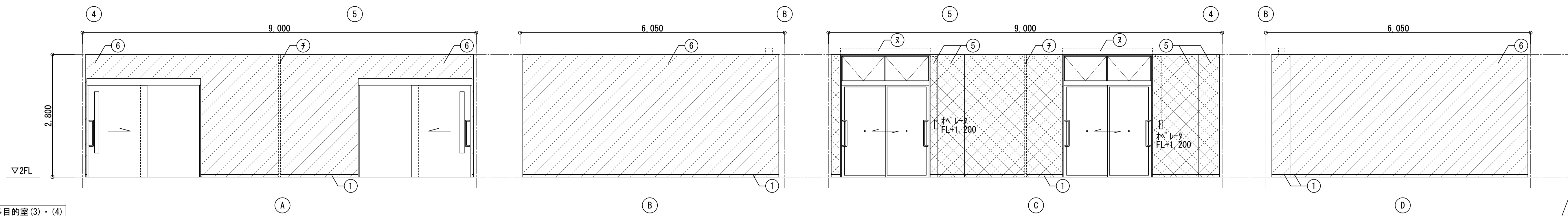


1階ホールの廊下 展開図+プラン

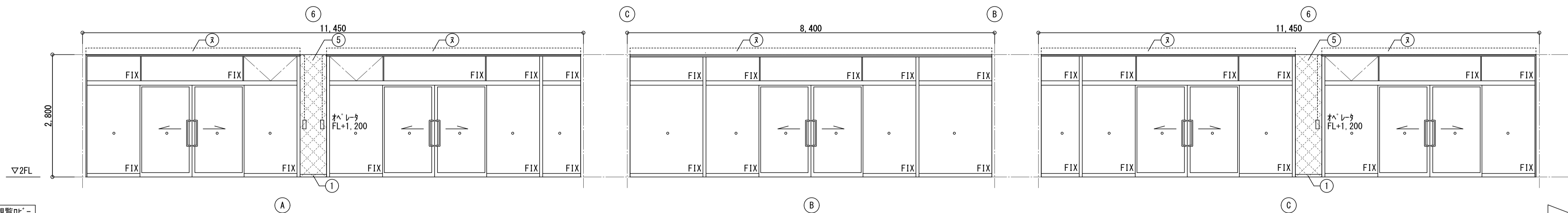


多目的室(1)・(2)

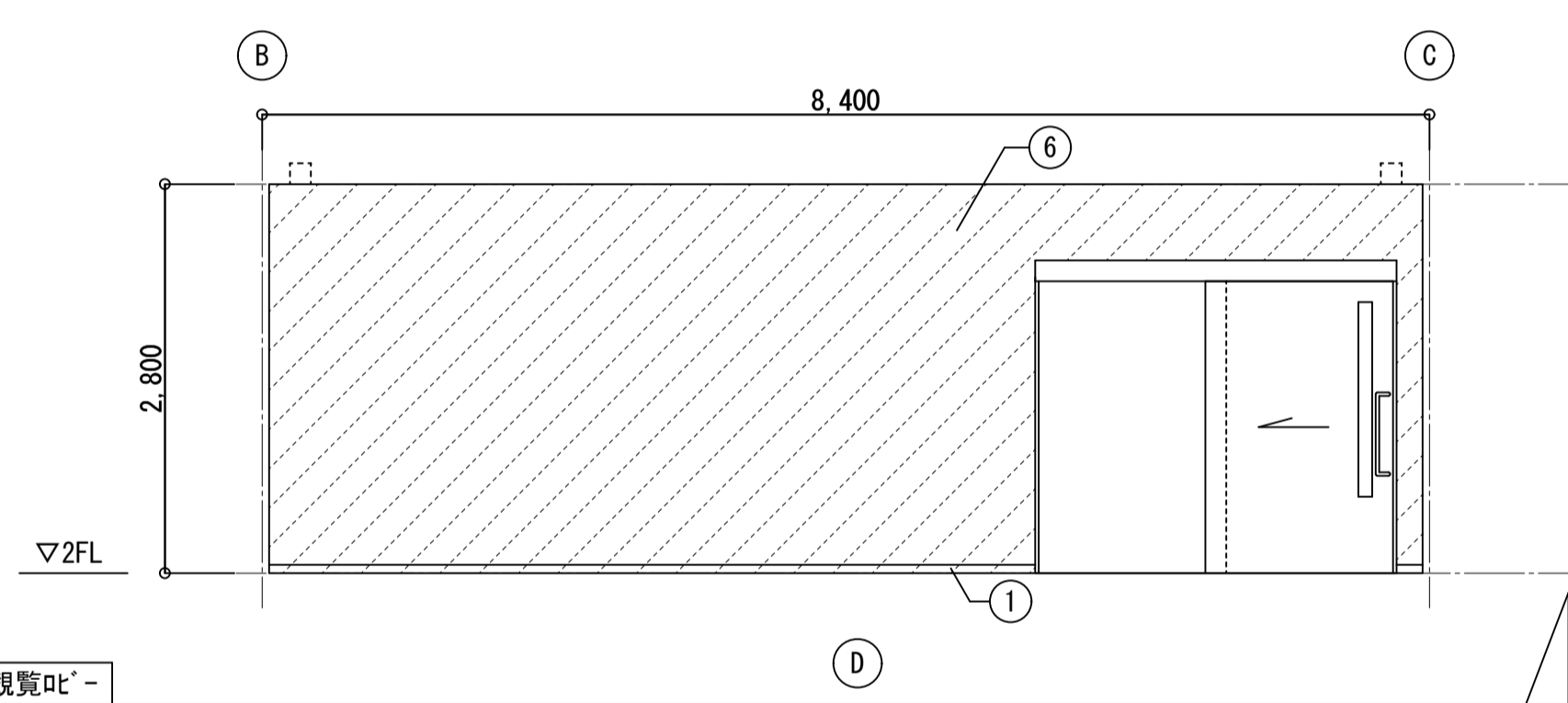
記号																	
①	ビニル巾木H=60	⑥	遮音壁 EP	⑪	石こうボード t=12.5 EP-G	⑦	ミニキャナル=1,200	⑧	ステンレス製折り畳み棚 200x150	⑨	化粧鏡	⑩	可動手摺	⑪	カーテン(カーテンル共)	⑫	消火器ボックス(埋込型) 消火器(ABC10型)共
②	磁器質50角タイル張りH=100	⑦	遮音壁+化粧珪酸カルシウム板 t=6.0	⑫	遮音壁 EP-G	⑧	パビシート	⑩	天板付材掛 300x150	⑪	小便器用手摺	⑫	スライディングウォール	⑬	木製ローションボックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り	⑭	案内板900x900
③	ステンレス製巾木H=60	⑧	遮音壁+耐水合板 t=12、気密・防湿シートの上パビシート(壁用)張り	⑬	耐水合板 t=12の上、気密・防湿シート、パビシート(壁用)張り	⑨	コインシャワー	⑪	天板: SUS t=20	⑫	汚垂石 W=600, L=4,250, t=6.0	⑬	シャワーカーテン(カーテンル共)	⑭	木製ブラインドボックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り	⑮	掲示板(マグネット式)900x900
④	コンクリート打放し(B種)の上、珪酸系塗布防水	⑨	耐水石こうボード t=12.5の上、化粧珪酸カルシウム板 t=6.0	⑭	耐水石こうボード t=12.5 EP-G	⑩	L型手摺	⑫	トリアースH=2,600	⑬	ユニバーサルシート	⑭	木製ハカランダ、木製ロカンター	⑯	掃除道具掛ステンレスアングル=900	⑰	室内名札(平付型)
⑤	石こうボード t=12.5 EP	⑩	軽量鉄骨壁下地現し			⑪	シャワーブースH=1,900	⑫	隔て板H=1,900	⑬	パビシート、ファイティングボード	⑭	ビニルカーテン(アクリル樹脂製)	⑮	案内サイン		



多目的室(3)・(4)

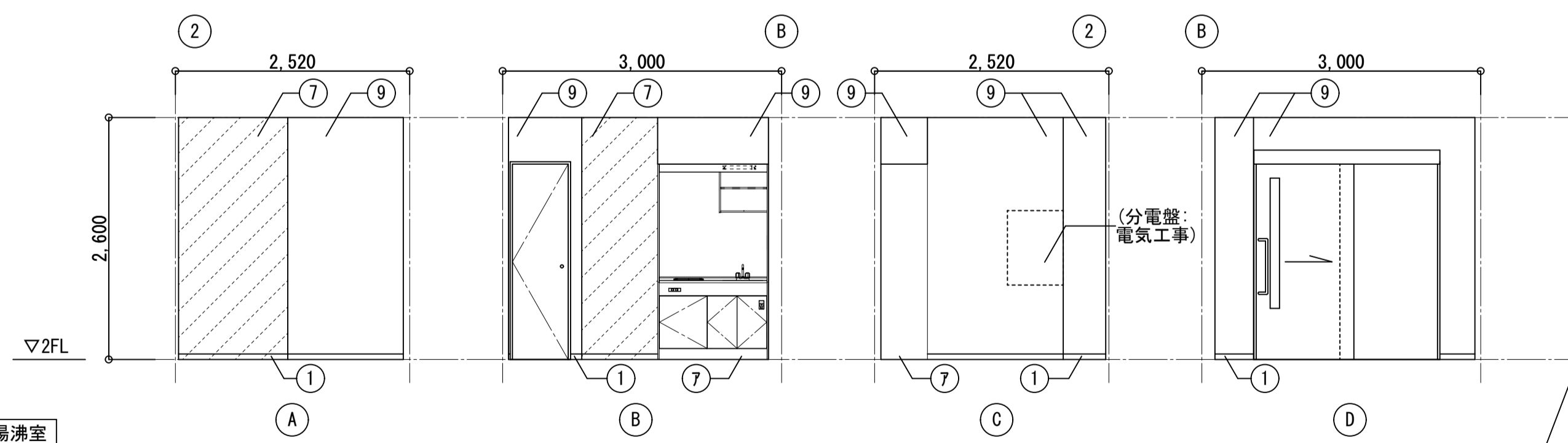


観覧台

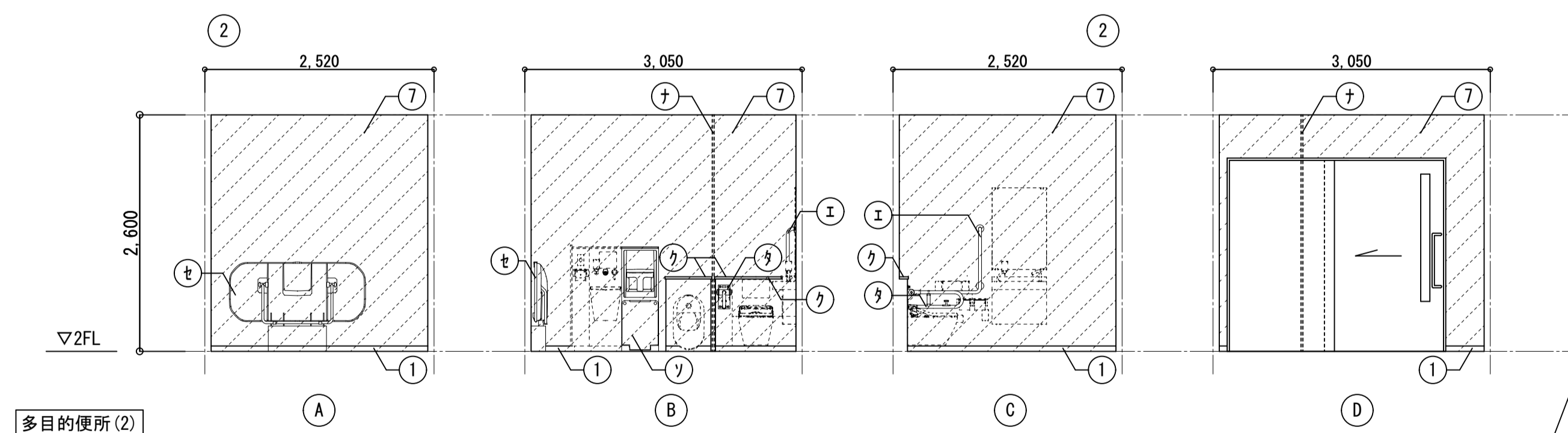


観覧台

グラスパネル 24kg/m<sup>3</sup> t=50充填(遮音壁)の範囲を示す。  
 グラスパネル 32kg/m<sup>3</sup> t=50充填(外壁面)の範囲を示す。

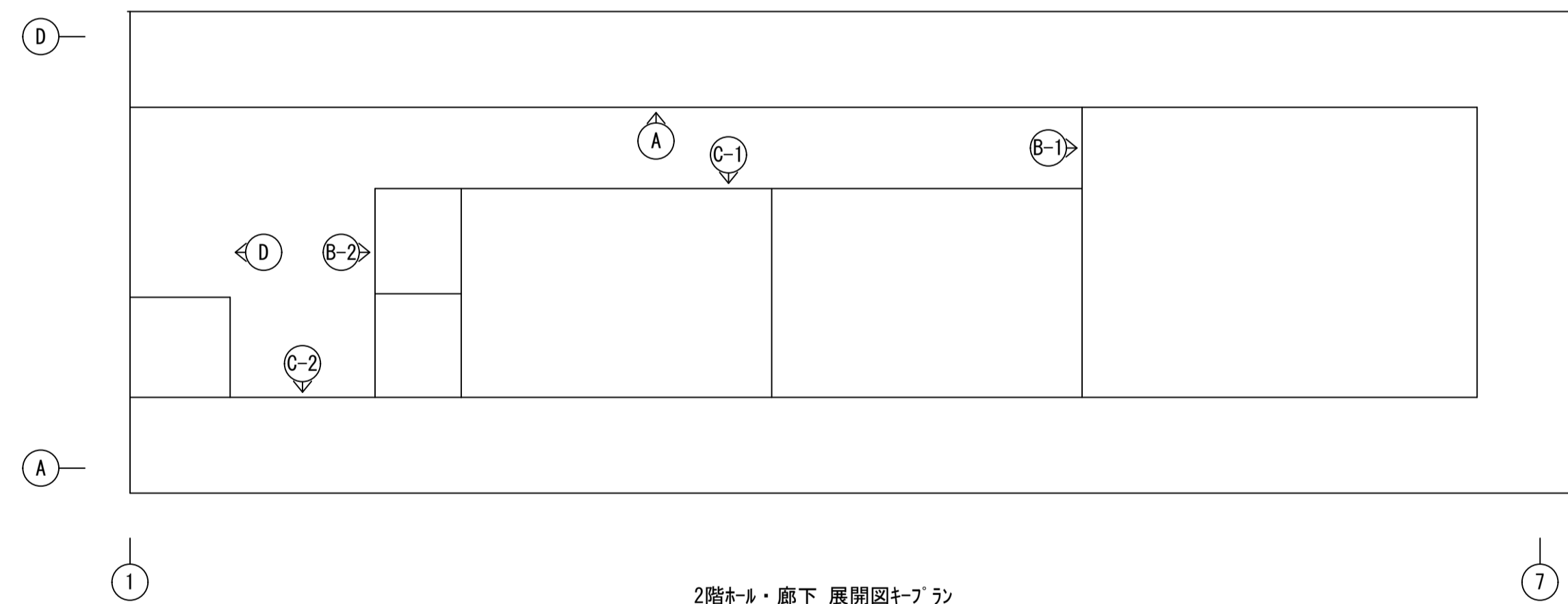
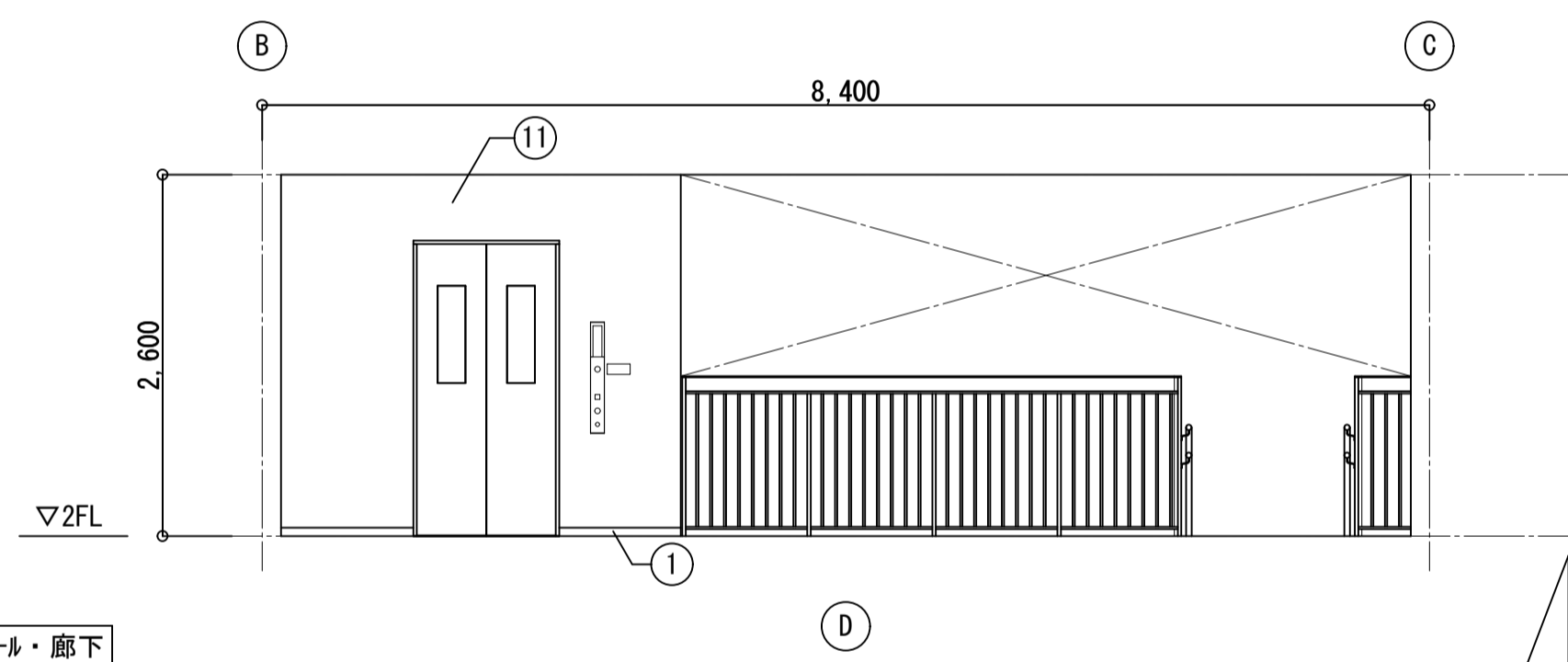
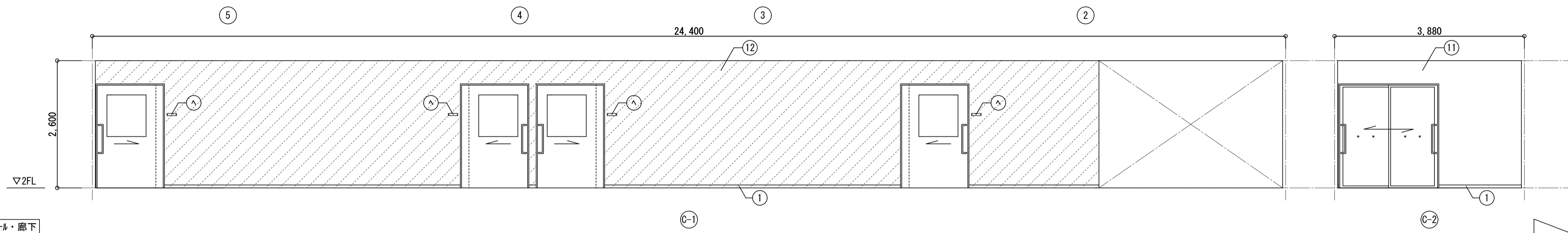
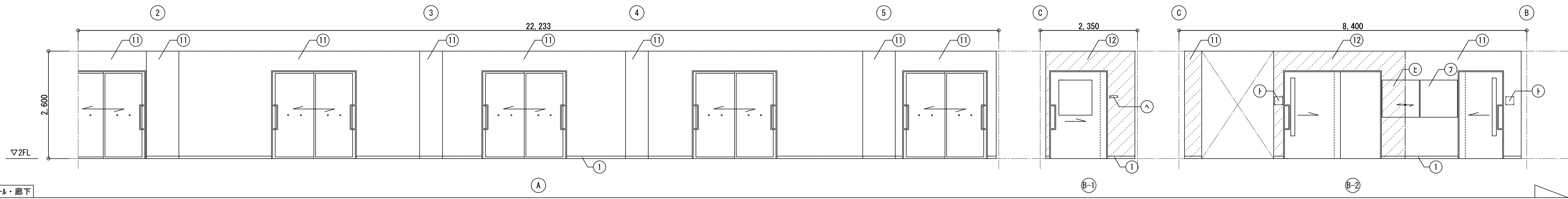


湯沸室



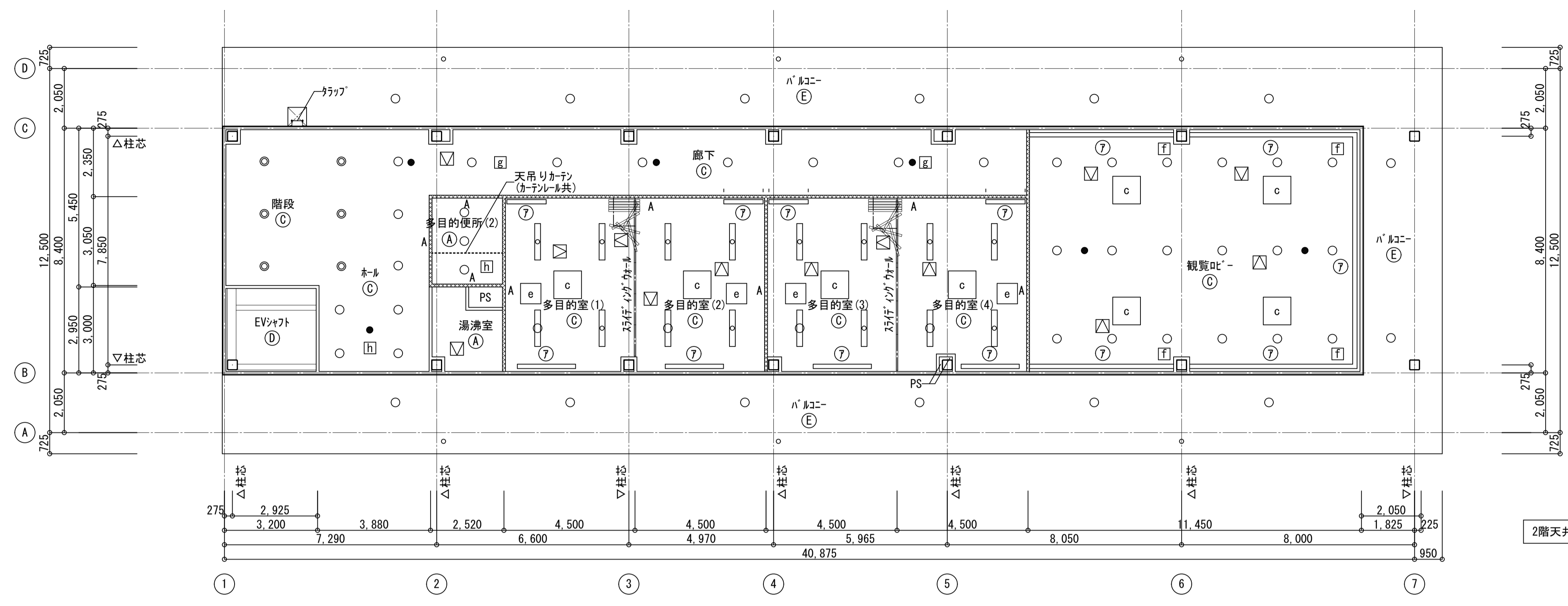
多目的便所(2)

記号														
①	ビニル巾木H=60	⑥	遮音壁 EP	⑪	石こうボード t=12.5 EP-G	⑦	ミニキャナル=1,200	⑱	ステンレス製折り畳み棚 200x150	⑳	化粧鏡	㉑	可動手摺	
②	磁器質50角タイル張りH=100	⑦	遮音壁+化粧珪酸カルシウム板 t=6.0	⑫	遮音壁 EP-G	⑧	パビシート	㉒	天板付材料掛け 300x150	㉓	小便器用手摺	㉔	スライディングウォール	
③	ステンレス製巾木H=60	⑧	遮音壁+耐水合板 t=12、気密・防湿シートの上パビシート(壁用)張り	⑬	耐水合板 t=12の上、気密・防湿シート、パビシート(壁用)張り	⑨	コインシャワー	㉕	天板: SUS t=20	㉖	汚垂石 W=600, L=4,250, t=6.0	㉗	シャワーカーテン(カーテンロッド共)	
④	コンクリート打放し(B種)の上珪酸系塗布防水	⑨	耐水石こうボード t=12.5の上化粧珪酸カルシウム板 t=6.0	⑭	耐水石こうボード t=12.5 EP-G	⑩	L型手摺	㉘	トイレASH=2,600	㉙	ユニバーサルシート	㉚	木製バカッター、木製ロカッター	
⑤	石こうボード t=12.5 EP	⑩	軽量鉄骨壁下地現し			㉑	シャワーASH=1,900	㉛	隔て板H=1,900	㉜	パビシート、ファイティングボード	㉝	ビトサイン(アクリル樹脂製)	
												㉞	カーテン(カーテンル共)	
													㉟	木製ロカッターボックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り
													㊱	木製ブラインドボックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り
													㊲	掃除道具掛ステンレスフック=900
													㊳	案内板900x900
													㊴	掲示板(マグネット式)900x900
													㊵	室内板(平付型)
													㊶	案内サイン

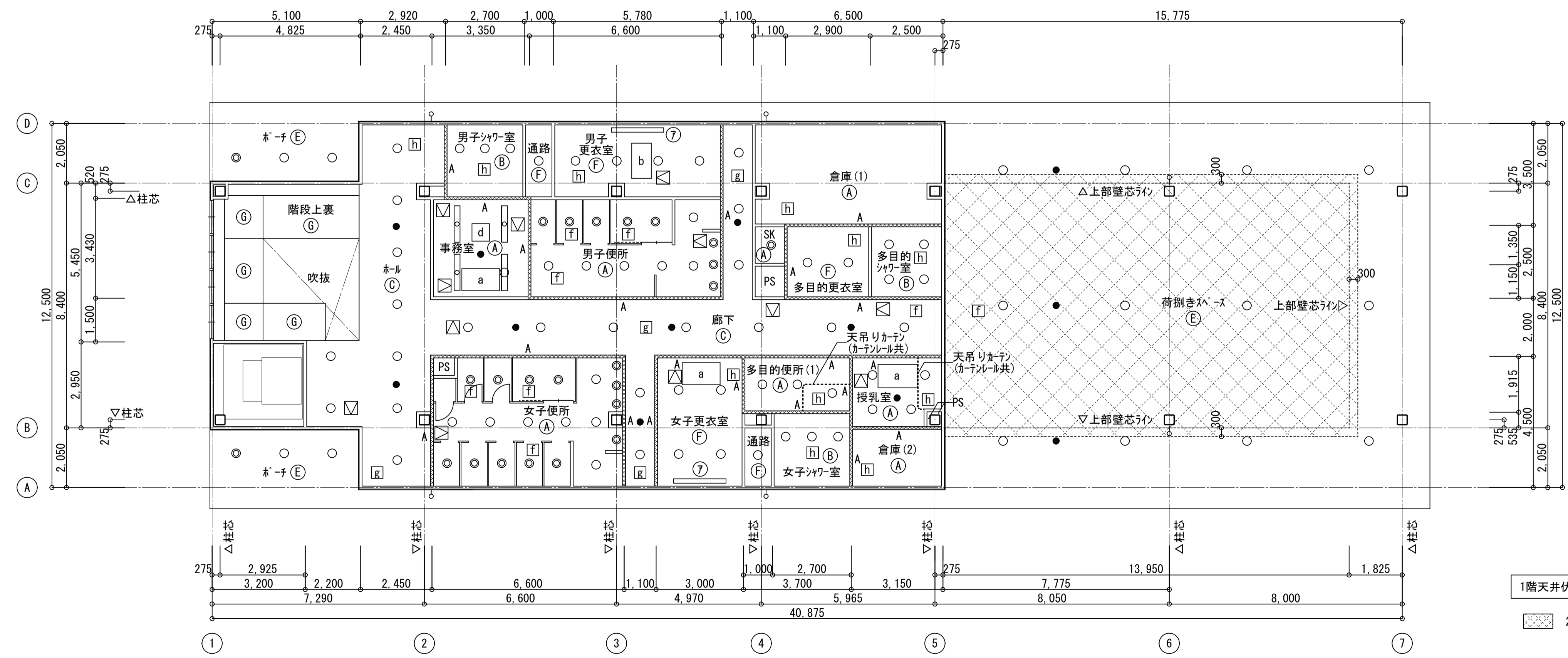


グラスカー 24kg/m3 t=50充填(遮音壁)の範囲を示す。  
 グラスカー 32kg/m3 t=50充填(外壁面)の範囲を示す。

記号																	
①	ビニル巾木H=60	⑥	遮音壁 EP	⑪	石こうボード t=12.5 EP-G	⑦	ミニキャブL=1,200	⑧	ステンレス製折り畳み棚 200x150	⑨	化粧鏡	⑩	可動手摺	⑪	カーテン(カーテンルル共)	⑫	消火器ホ-ックス(埋込型) 消火器(ABC10型)共
②	モルタル下地 磁器質50角タイル張りH=100	⑦	遮音壁+化粧ケイ酸カルシウム板 t=6.0	⑫	遮音壁 EP-G	①	ペ-ジ-シート	③	天板付材料掛け 300x150	④	小便器用手摺	⑤	スライディングウォール	⑬	木製ローションホ-ックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り	⑭	案内板900x900
③	ステンレス製巾木H=60	⑧	遮音壁+耐水合板 t=12、気密・防湿シートの上パ-スナ-ル(壁用)張り	⑬	耐水合板 t=12の上、気密・防湿シート、パ-スナ-ル(壁用)張り	②	コインシャワー	⑥	天板: SUS t=20	⑦	汚垂石W=600、L=4,250、t=6.0	⑥	シャ-カーテン(カーテンロッド共)	⑮	木製アラウンドホ-ックス 桧集成材150x150 木材自然塗料塗り	⑯	掲示板(マグネット式)900x900
④	コンクリ-ト打放し(B種)の上 ケイ酸系塗布防水	⑨	耐水石こうボード t=12.5の上 ケイ酸系塗布防水	⑭	耐水石こうボード t=12.5 EP-G	④	L型手摺	⑤	トイレ-ASH=2,600	⑦	ユニバ-サルシート	⑧	木製バ-カンター、木製ロ-カンター	⑰	掃除道具掛ステンレスフック=900	⑰	室名札(平付型)
⑤	石こうボード t=12.5 EP	⑩	軽量鉄骨壁下地現し			⑤	シャワー-ASH=1,900	⑧	隔て板H=1,900	⑨	ペ-ジ-チェア、フィッティングホ-ド	⑨	ビ-トサイン(アクリル樹脂製)	⑱	案内サイン		



2階天井伏図 1/100



1階天井伏図 1/100

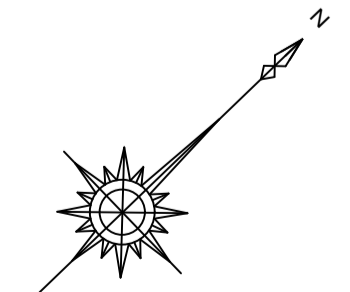
2階床スラブ下：硬質ウレタンフォームt=25吹付の範囲を示す。

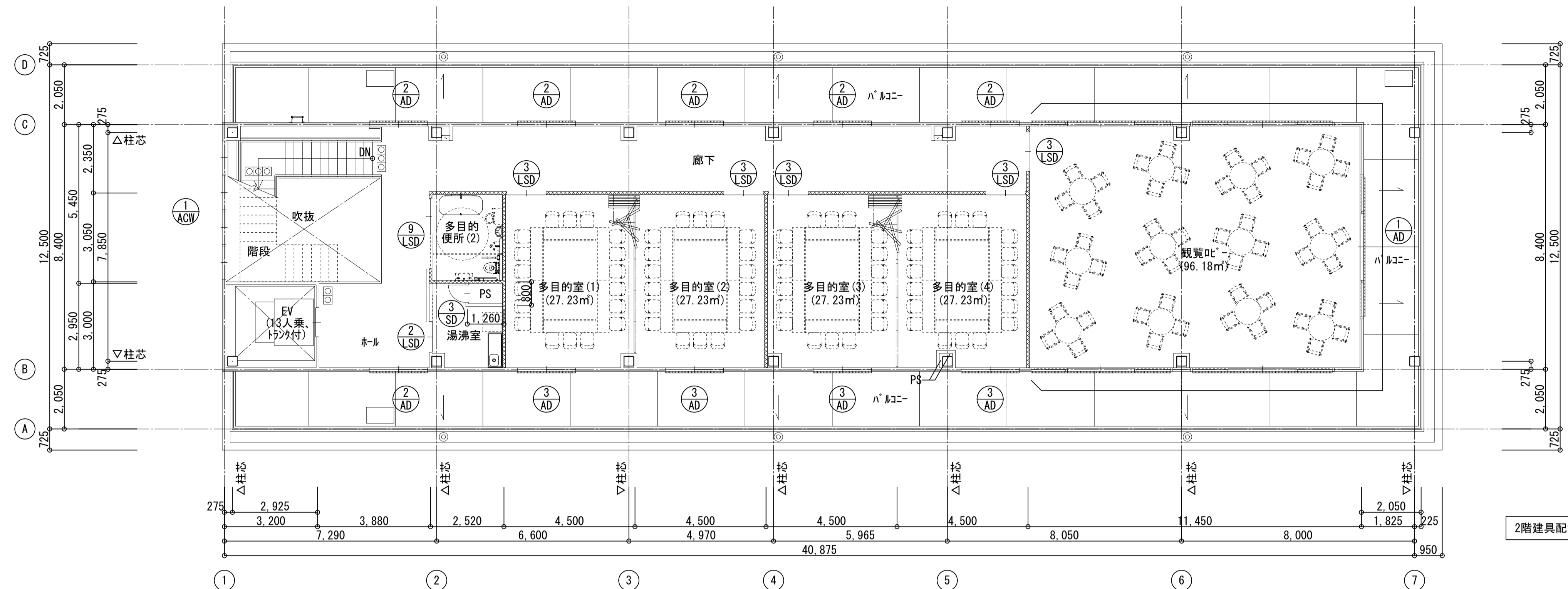
凡例

(A)	化粧石こうボードt=9.5
(B)	バースト(天井用)t=10
(C)	石こうボードt=9.5捨て張りの上、岩綿吸音板t=12
(D)	コンクリート打放し(B種)
(E)	高圧岩綿複層板t=12(木目調)
(F)	石こうボードt=12.5 NAD
(G)	石こうボードt=12.5 EP-G
(7)	木製ロースクリーン/ブラインドボックス検集成材150×150 木材保護塗料塗リ
▽	天井点検口450×450(25か所)
A	遮音壁:S01-0110(スラブ下まで)

天井開口一覧

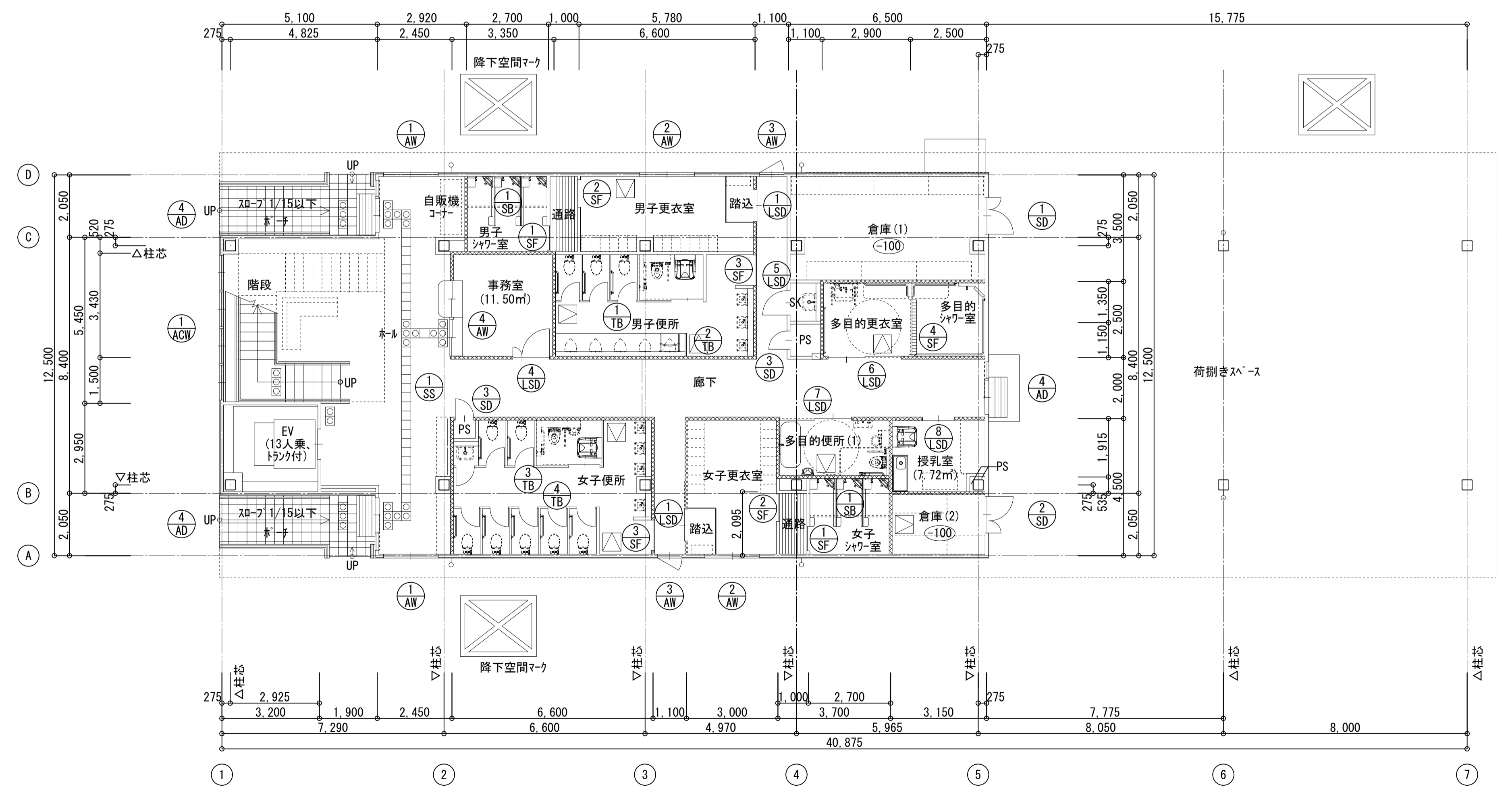
凡例	寸法	箇所数
□	1,250×150	20
○	150φ	128
●	100φ	48
a	1,300×760	3
b	1,200×670	1
c	850×850	8
d	600×600	1
e	700×700	1
f	400×400	12
g	280×280	6
h	300×300	13
▽	450×450	25



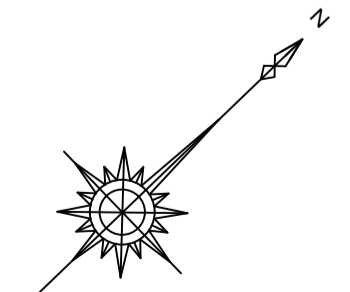


・外部コラーゲは、変成コラーゲ系 (MS-2) 10×10とすること。  
 ・排煙窓は、開放角度を45°以上とすること。

2階建具配置図 1/100 ※ 特記なき床レベルはFL±0とする。  
 ※ (R)はFLからの高さを示す。



1階建具配置図 1/100 ※ 特記なき床レベルはFL±0とする。  
 ※ (R)はFLからの高さを示す。





記号	種別	① AD 7mm製引き分け扉(5mmFIX窓・ラマ排煙窓・袖FIX窓付)		位置	箇所	2階 観覧台	1				
姿図 (室内側)							1				
塗装	枠巾	BB-1種		70							
金物	ツリゲ-錠、ステン製引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、ステンスレール、戸車、排煙装置一式、付属金物一式										
硝子	①:複層ガラス(透明ガラスt=5+空気層t=6+透明ガラスt=5)、②:複層ガラス(強化ガラスt=5+空気層t=6+透明ガラスt=5)、③:複層ガラス(強化ガラスt=6+空気層t=6+透明ガラスt=6)、④:透明ガラスt=6										
備考	木製額縁25×173 木材保護塗料塗り										
記号	種別	② AD 7mm製引き違い扉	③ AD 7mm製引き違い扉(ラマ排煙窓付)	④ AD 7mm製2枚引き自動扉(ラマFIX窓・袖FIX窓付)	① AW 7mm製FIX窓	② AW 7mm製引き違い窓					
位置	箇所	2階 ホール	6	2階 多目的室(1)~(4)	4	1階 廊下、ホール	3	1階 ホール	2	1階 男子更衣室、女子更衣室	2
姿図 (室内側)											
塗装	枠巾	BB-1種	70	BB-1種	70	BB-1種	146	BB-1種	70	BB-1種	70
金物	クレント、ステン製引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、ステンスレール、戸車、付属金物一式		クレント、ステン製引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、ステンスレール、戸車、排煙装置一式、付属金物一式		本締り錠(室内側:サムターン付)、指詰め防止ゴム、ステンスレール、エンジン装置、付属金物一式		7mm製水切W=110、付属金物一式		戸車、クレント、引手、7mm製水切W=110、付属金物一式		
硝子	強化ガラスt=5		①:複層ガラス(透明ガラスt=5+空気層t=6+透明ガラスt=5)、②:複層ガラス(強化ガラスt=5+空気層t=6+透明ガラスt=5)		①:透明ガラスt=5、②:強化ガラスt=5		透明強化ガラスt=5		複層ガラス(型板ガラスt=4+空気層t=6+透明ガラスt=5)		
備考	木製額縁25×173 木材保護塗料塗り		木製額縁25×173 木材保護塗料塗り		木製額縁25×100 木材保護塗料塗り		木製額縁25×173 木材保護塗料塗り		ステン製網戸、木製額縁25×173 木材保護塗料塗り		
記号	種別	③ AW 7mm製片開き窓	④ AW 7mm製引き違い窓	① LSD 軽量鋼製片引き扉	② LSD 軽量鋼製片引き扉	③ LSD 軽量鋼製片引き扉					
位置	箇所	1階 廊下	2	1階 事務室	1	1階 男子更衣室、女子更衣室	2	2階 湯沸室	1	2階 多目的室(1)~(4)、観覧台	5
姿図 (室内側)											
塗装	枠巾	BB-1種	70	BB-1種	70	焼付塗装鋼板	210	焼付塗装鋼板	181	焼付塗装鋼板	155
金物	7mm製水切W=110、丁番、サムターン付、付属金物一式		戸車、クレント、引手、ステンスレール、付属金物一式		本締り錠(室内側:サムターン付)、ステン製引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、付属金物一式		本締り錠、ステン製引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、付属金物一式		本締り錠、ステン製引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、付属金物一式		
硝子	型板ガラスt=6		透明ガラスt=5		型板ガラスt=4		透明ガラスt=3		型板ガラスt=4		
備考	ステン製網戸(グリーンタイプ)、木製額縁25×173 木材保護塗料塗り		木製額縁25×25(両面) 木材保護塗料塗り								
						株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES 1級建築士事務所 登録 22(1)第0587号		福山市建設局建築部営繕課 2023年 3月		工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備備上家新築工事 図面名称 【管理棟】建具表(1) 縮尺 1/50 A1版:100% A3版:50%	
										図面No A-29	

記号	種別	④ LSD	軽量鋼製親子開き扉	⑤ LSD	軽量鋼製片開き扉	⑥ LSD	軽量鋼製片引き自動扉(トレステム)	⑦ LSD	軽量鋼製片引き自動扉(トレステム)	⑧ LSD	軽量鋼製片引き扉	
位置	箇所	1階	事務室	1階	SK	1階	多目的更衣室	1階	多目的便所(1)	1階	授乳室	
姿図	(室内側)											
塗装	枠巾	120	焼付塗装鋼板	120	焼付塗装鋼板	155	焼付塗装鋼板	161	焼付塗装鋼板	210	焼付塗装鋼板	
金物	丁番、レバーハンドル&錠、フラス落し、ドアローザ、ステンレス沓摺40×20、付属金物一式		丁番、レバーハンドル&錠、7-ムスト&バー、ステンレス沓摺40×20、付属金物一式		表示錠(室内側:サムターン付)、ステンレス引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、操作スイッチ(室内側、廊下側)、付属金物一式		表示錠(室内側:サムターン付)、ステンレス引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、操作スイッチ(室内側、廊下側)、付属金物一式		表示錠(室内側:サムターン付)、ステンレス引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、付属金物一式			
硝子	透明ガラスt=3				型板ガラスt=4		型板ガラスt=4		型板ガラスt=4			
備考									7&ミ製ドアガラス600×100(開口率70%)			
記号	種別	⑨ LSD	軽量鋼製片引き扉	① SD	鋼製親子開き扉	② SD	鋼製親子開き扉	③ SD	鋼製片開き扉	① ACW	7&ミ製カーテンウォール	
位置	箇所	2階	多目的便所(2)	1階	倉庫(1)	1階	倉庫(2)	1階	PS、2階 PS	3	南面	
姿図	(室内側)											
塗装	枠巾	161	焼付塗装鋼板	246	DP-3	246	DP-3	108	DP-3			
金物	表示錠(室内側:サムターン付)、ステンレス引棒L=600(両面)、指詰め防止ゴム、付属金物一式		丁番、レバーハンドル&錠、ドアローザ、ステンレス沓摺40×20、フラス落し、付属金物一式		丁番、レバーハンドル&錠、ドアローザ、ステンレス沓摺40×20、フラス落し、付属金物一式		丁番、7-ムスト&バー、ケースト&ド、ステンレス沓摺40×20、付属金物一式					
硝子	型板ガラスt=4											
備考												
記号	種別	① SF	ステン製三方枠	② SF	ステン製三方枠	③ SF	ステン製三方枠	④ SF	ステン製三方枠			
位置	箇所	1階	男子シャワー室、女子シャワー室	2	1階	男子更衣室 通路、女子更衣室 通路	2	1階	男子便所、女子便所	2	1階	多目的シャワー室
姿図	(室内側)											
塗装	枠巾	130	HL	120	HL	161	HL	130	HL		BB-1種	
金物	ステン製見切りW=20		ステン製見切りW=20		ステン製見切りW=20		ステン製見切りW=20		付属金物一式			
硝子									①:透明ガラスt=6、②:複層ガラス(透明ガラスt=6+空気層t=6+透明ガラスt=6)、 ③:複層ガラス(透明ガラスt=5+空気層t=6+透明ガラスt=5)、④:複層ガラス(強化ガラスt=6+空気層t=6+透明ガラスt=6)			
備考									木製額縁25×146 木材保護塗料塗り			

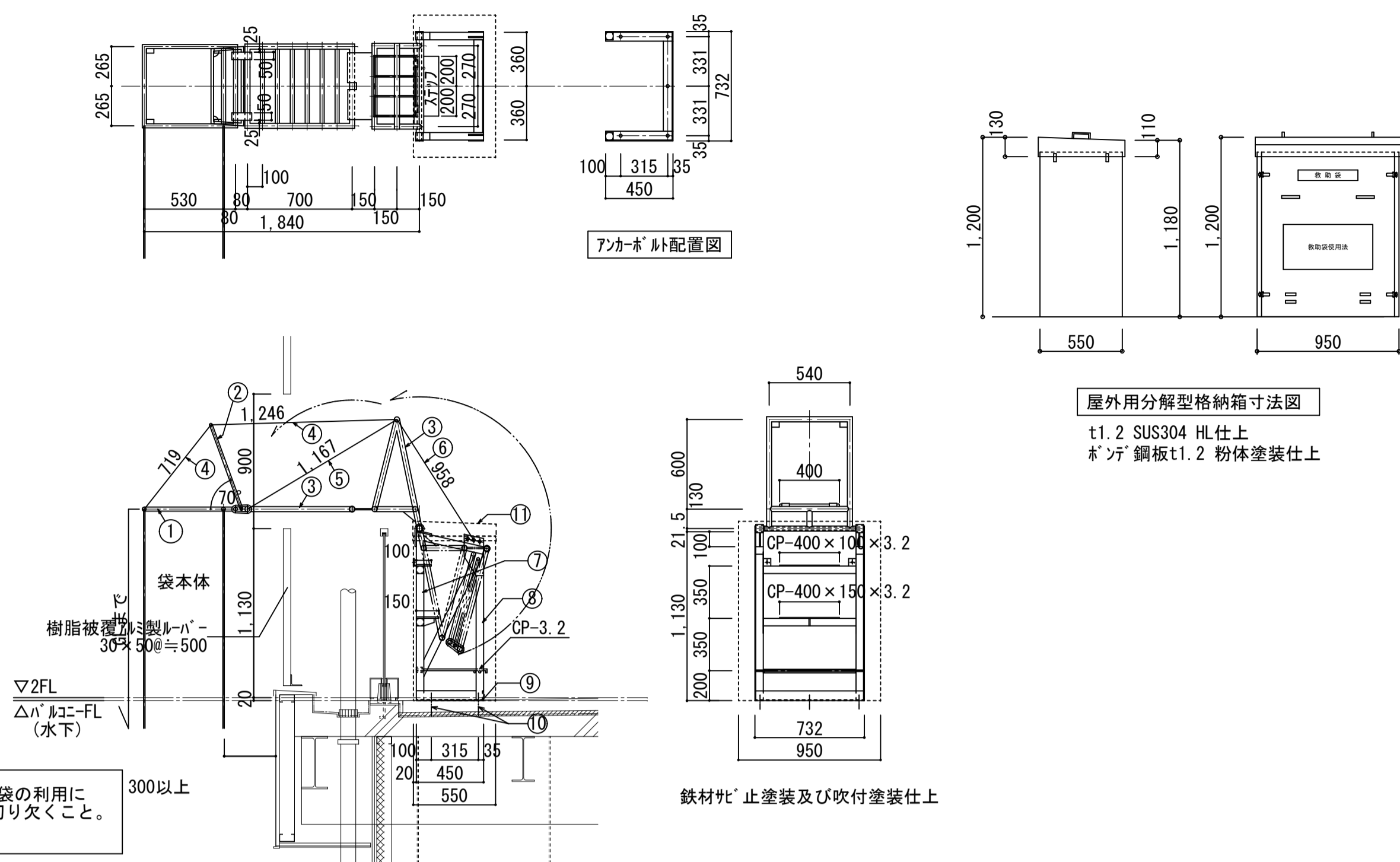
ハッチマークの範囲を示す。  
(詳細は建具詳細図による。)

記号	種別	① TB	トイレ	② TB	隔て板	③ TB	トイレ
位置	箇所	1階	男子便所	1	1階	男子便所	1
位置	箇所	1階	女子便所	1	1階	女子便所	1
姿図 (室内側)							
塗装	枠巾	高圧ポリウレタン樹脂化粧板t=40		高圧ポリウレタン樹脂化粧板t=40		高圧ポリウレタン樹脂化粧板t=40	
金物	ステン製巾木 HL仕上、芯材:ﾊﾞｰﾊﾞｰ-37、付属金物一式		ステン製巾木 HL仕上、芯材:ﾊﾞｰﾊﾞｰ-37、付属金物一式		ステン製巾木 HL仕上、芯材:ﾊﾞｰﾊﾞｰ-37、付属金物一式		
硝子							
備考							
記号	種別	④ TB	トイレ	① SB	シャワー	① SS	電動ステン製ﾊﾞｲﾌﾞｼｬｯﾀｰ
位置	箇所	1階	女子便所	1	1階	男子シャワー室、女子シャワー室	2
位置	箇所	1階	女子便所	1	1階	男子シャワー室、女子シャワー室	1
姿図 (室内側)							
塗装	枠巾	高圧ポリウレタン樹脂化粧板t=40		高圧ポリウレタン樹脂化粧板t=40		高圧ポリウレタン樹脂化粧板t=40	
金物	ステン製巾木 HL仕上、芯材:ﾊﾞｰﾊﾞｰ-37、付属金物一式		ステン製巾木 HL仕上、芯材:発泡ｽﾃﾝﾍﾞｰﾄﾞ、付属金物一式		SUS304、ステンｽﾞｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ、ステンｽﾞﾏｸﾞﾈ、ステンｽﾞ座金、ﾓﾝﾀｰ式安全装置、付属金物一式		
硝子					開閉機SG13 (0.13KW) 100V		
備考							
記号	種別						
位置	箇所						
姿図 (室内側)							
塗装	枠巾						
金物							
硝子							
備考							

斜降式救助袋詳細図

1/30

参考品番: 利一(株) 斜降式側面展張取付金具屋外用  
<2階ハコニ 右側面降下:1か所、左側面降下:2か所>

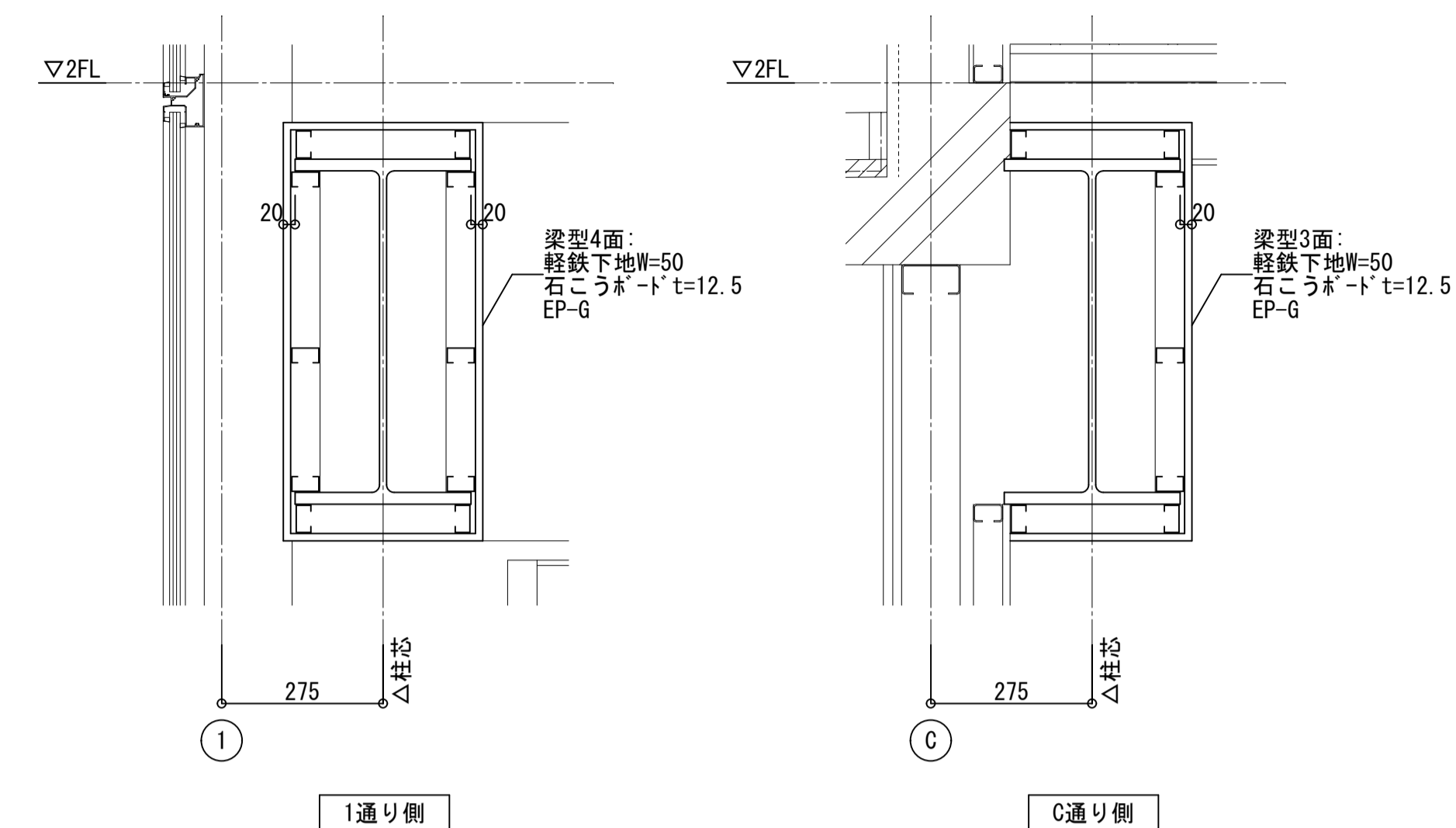


番号	名称	備考
1	入口金具①	φ27.2×2.3
2	入口金具②	φ19(L=600)
3	入口金具③	φ34.0×3.2
4	被覆ワイヤ-Ⅰ	φ6
5	被覆ワイヤ-Ⅱ	φ8
6	被覆ワイヤ-Ⅲ	φ10又はφ12
7	取付金具部材-1	□-50×50×2.3
8	取付金具部材-2	FB-50×9
9	取付金具部材-3	L-65×65×6
10	金属製拡張アンカ-貫通ボルト	M12又はM16
11	格納箱	t1.2 SUS304 HL仕上

ボルトについて、斜降式救助袋の利用に支障がある範囲を確認し、切り欠くこと。(W800×H900程度)

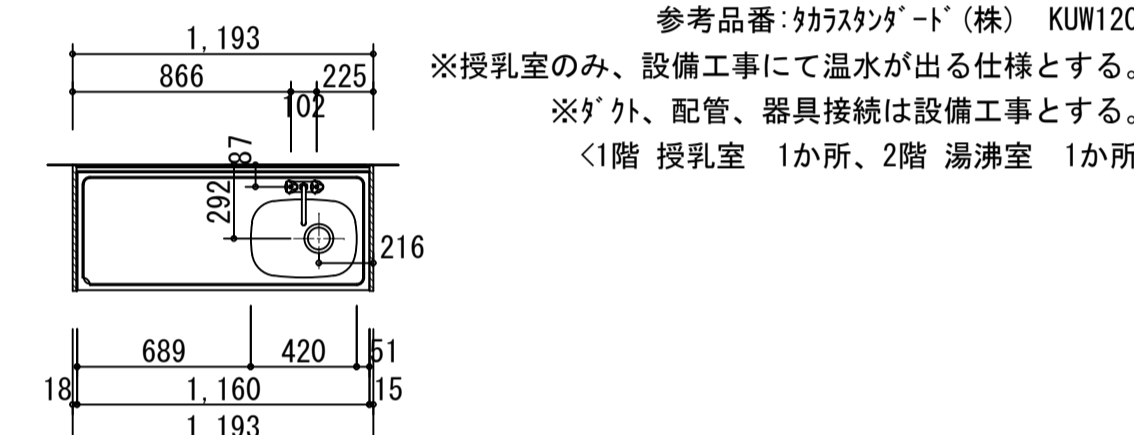
階段梁型詳細図

1/20



ミキヤン詳細図

1/30

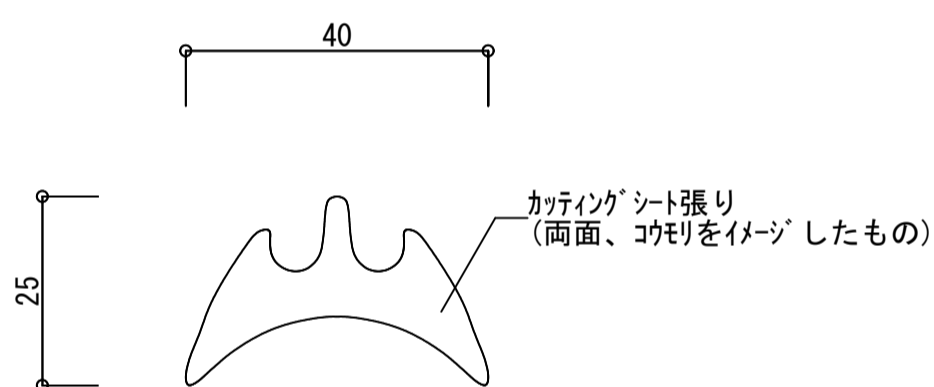


参考品番: カスタムガード(株) KUW120R  
※授乳室のみ、設備工事にて温水が出る仕様とする。  
※ガス、配管、器具接続は設備工事とする。  
<1階 授乳室 1か所、2階 湯沸室 1か所>

建具 衝突防止マーク詳細図

1/1

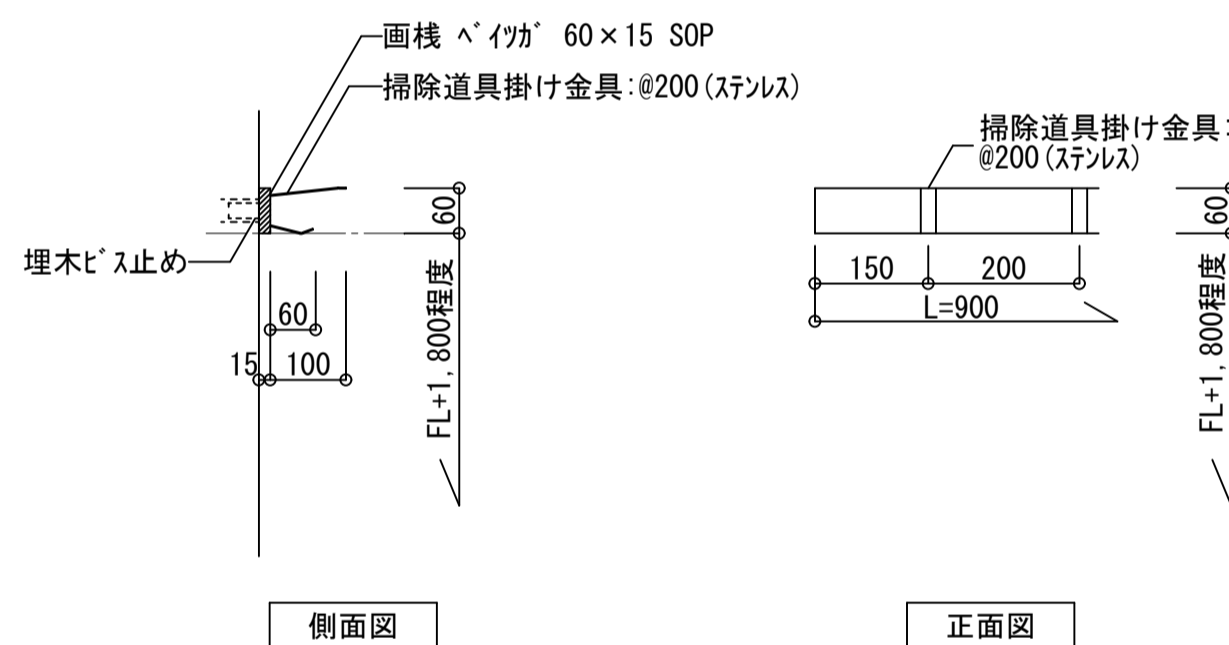
※マークの形状は監督員と相談すること。  
<72か所×2(両面)=計144か所>



掃除道具掛ステンスラック詳細図

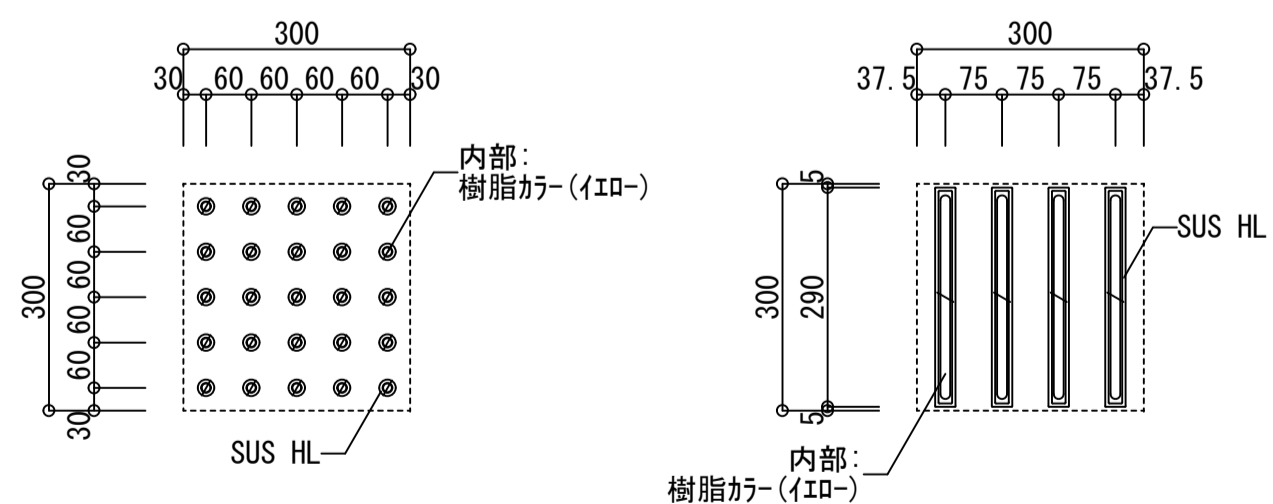
1/10

<1階 SK、女子便所 計2ヶ所>



ステンス点字鎮詳細図(屋内)

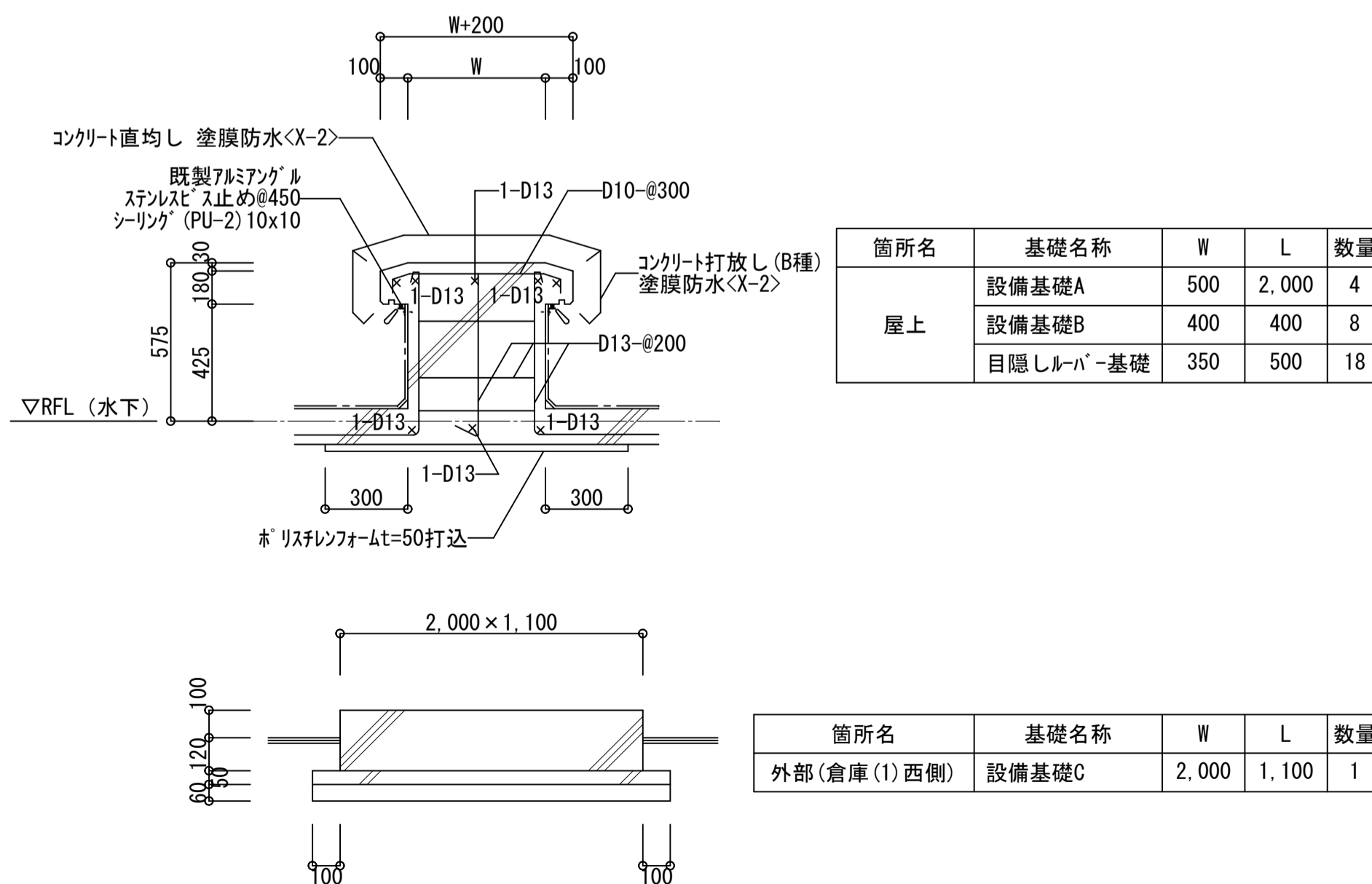
1/10



※仕様: SUS304 HL

基礎詳細図

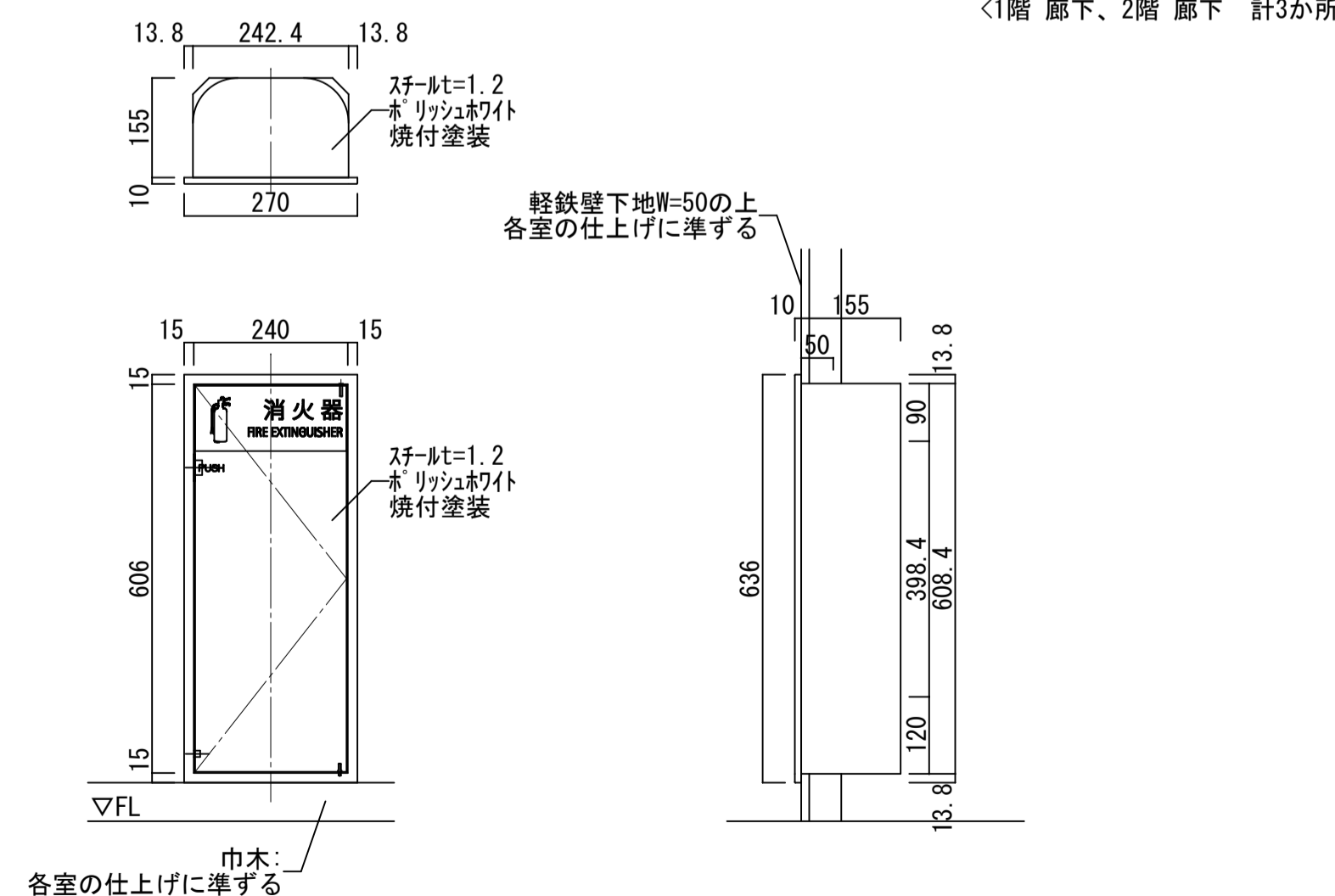
1/20



埋込型消火器ボックス詳細図

1/10

参考品番: カ工業(株) NHED-F0-P1N  
※消火器(ABC10型)も建築工事にて設置すること。  
<1階 廊下、2階 廊下 計3か所>



掲示板 (マグネット式) 詳細図 1/3、1/100

横端部曲げ加工  
マグネット掲示用 鋼板 t=2.0 焼付塗装  
石膏ボード t=12.5+12.5 EP-G  
木脚線: 杉 19×45

断面詳細図 1/3

マグネット掲示用 鋼板 t=2.0 焼付塗装  
900  
900  
1,000  
▽FL

展開図 1/50

案内板詳細図 1/20

参考品番: (株) 研創 MCG12  
※詳細の寸法は、メーカー仕様による。  
※点字、ローマ表記による室名の表示を行うこと。  
※サインの内容、取付位置は監督員と相談すること。  
〈1階 ホール 1か所、2階 ホール 1か所〉

900  
900  
1,000  
▽FL

アクリル板 (透明)  
平面案内図: カタチンクシート+インクジェットプリンター

室名札 (平付型)、ピクトサイン 1/5

※詳細の寸法は、メーカー仕様による。  
※ピクトサインはJIS規格に則したものとすること。  
※取付位置は監督員と相談すること。  
〈室名札 (平付型): 9か所、ピクトサイン: 11か所〉

ベース: 白アクリル板 t=2  
表示基板: ガラスアクリル t=3 テーパー加工 UV印刷  
化粧ビス 12φ  
クロムメッキ仕上  
200  
200

ベース: 白アクリル板 t=2  
表示基板: ガラスアクリル t=3 テーパー加工 UV印刷  
化粧ビス 12φ  
クロムメッキ仕上  
200  
200

室名札 (平付型) ピクトサイン

PS立上り詳細図 1/20

〈屋上 1か所〉

100 20 150 2,340 2,000 1,000 500 150 20

100 940 600 150 20 100

D10-φ200  
1,140×2,540  
塗膜防水X-2  
2-D13  
1-D13  
1-D13  
600×2,000  
D10-φ150  
D10-φ200  
2-D13  
D10-φ200

塗膜防水X-2  
コンクリート打放し (B種) 撥水材塗リ  
シーリング PU-2 10x10  
コンクリート直均し 塗膜防水X-2  
コンクリート打放し (B種) 塗膜防水X-2  
既製70mm角鋼  
ステンレス止めφ450  
シーリング (PU-2) 10x10

断面図 平面図

床下点検口詳細図 1/20

〈計8か所〉

70製床下点検口 (密閉型・鍵付) 600×600  
モルタル充填の上、仕上材張り  
600×600  
70製製枠  
コンクリート打放し  
▽IFL  
600  
▽GL  
300  
構造図による  
構造図による  
200 350 350 350 1,500  
ステンレススチール SUS304 22φW=400  
コンクリート直均し  
止水板  
水膨張ゴム弾性シーリング材  
△ピット内床  
コンクリート直均し仕上  
砕石 t=60  
捨てコンクリート t=50 砕石 t=60

断面図

サイン詳細図 1/20

設置箇所	W	H
手洗器 (男子便所、女子便所)	200	1,100
掃除流し (女子便所、SK)	200	1,100
小便器 (男子便所)	150	1,400
幼児用小便器	100	850
大便器 (多目的便所 (1)、(2))	100	850

各室の仕上げに準ずる  
※長さは平面詳細図による。  
シーリング MS-2 5×5  
天板: ステンレス製プレート t=1.5  
シーリング MS-2 5×5  
軽鉄壁下地 W=65の上  
各室の仕上げに準ずる  
ビニル巾木 H=100  
▽FL

洋便器 L型手摺詳細図 1/20

※軽鉄壁面に取り付ける場合は、補強板を設置する。  
トイレノールに取り付ける場合は、挟み込み固定とする。

樹脂被覆 固定L型手摺34φ  
600  
90  
360  
平面図

樹脂被覆 固定L型手摺34φ  
補強板 PL-4.5  
900  
250程度  
800  
側面図

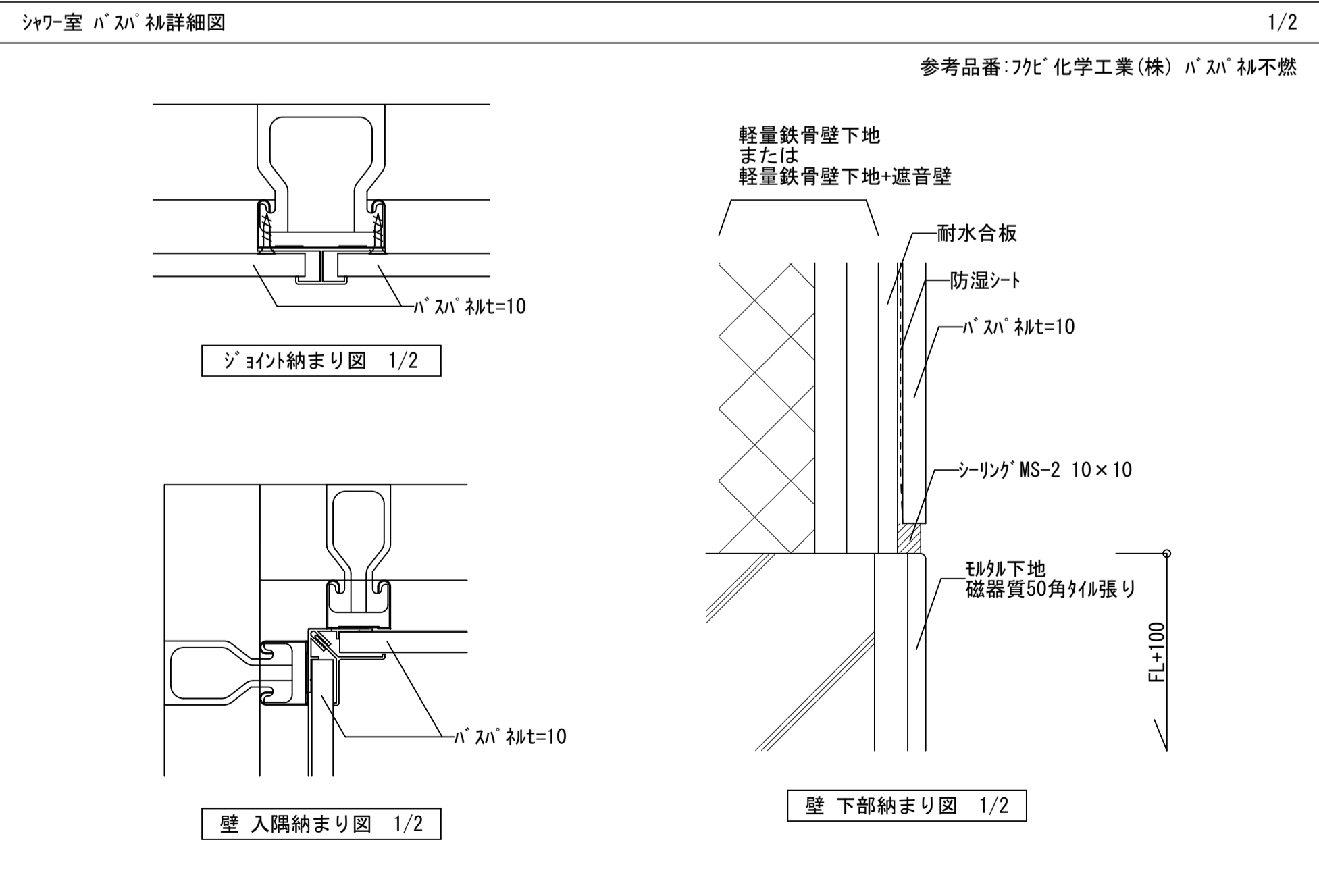
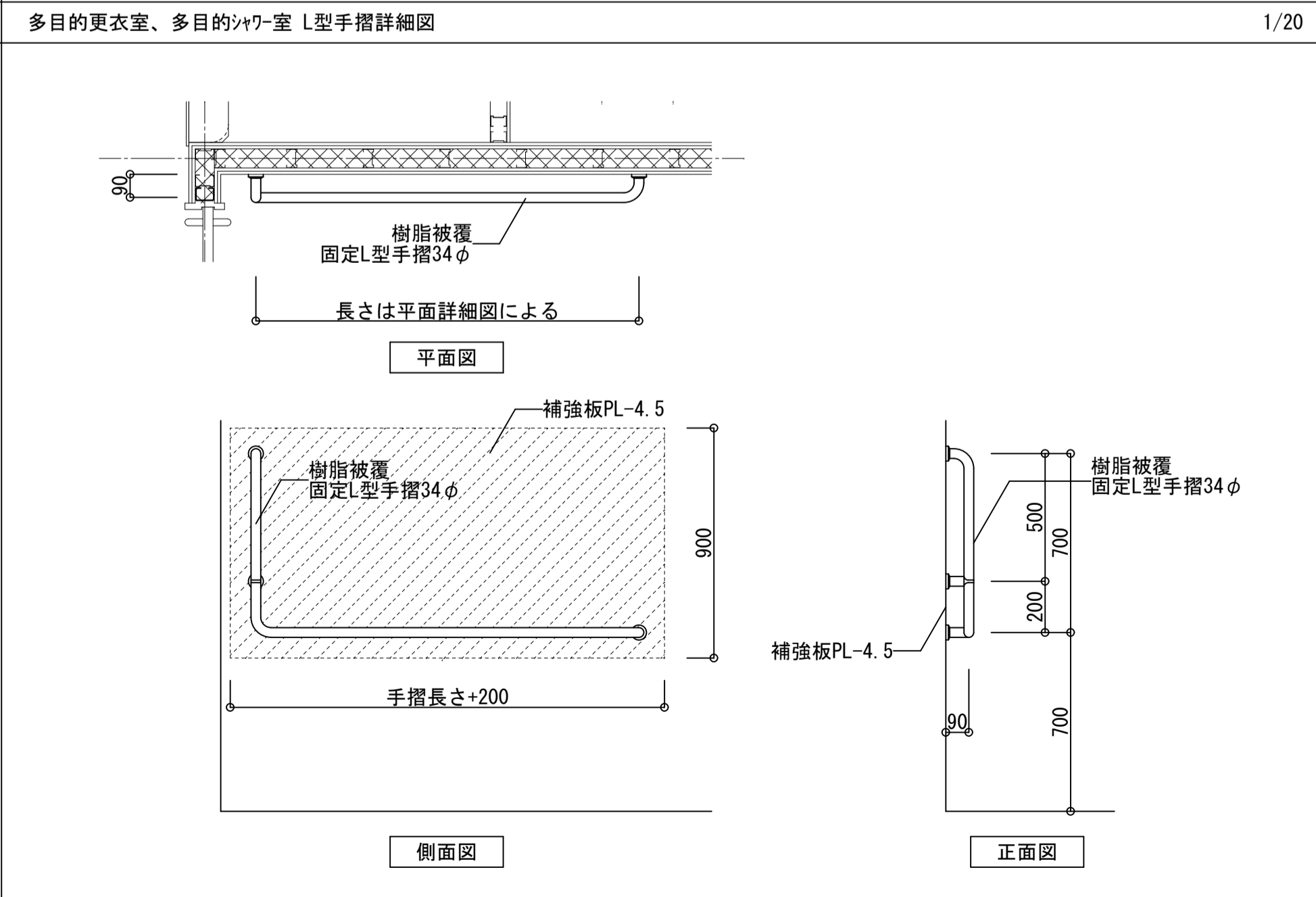
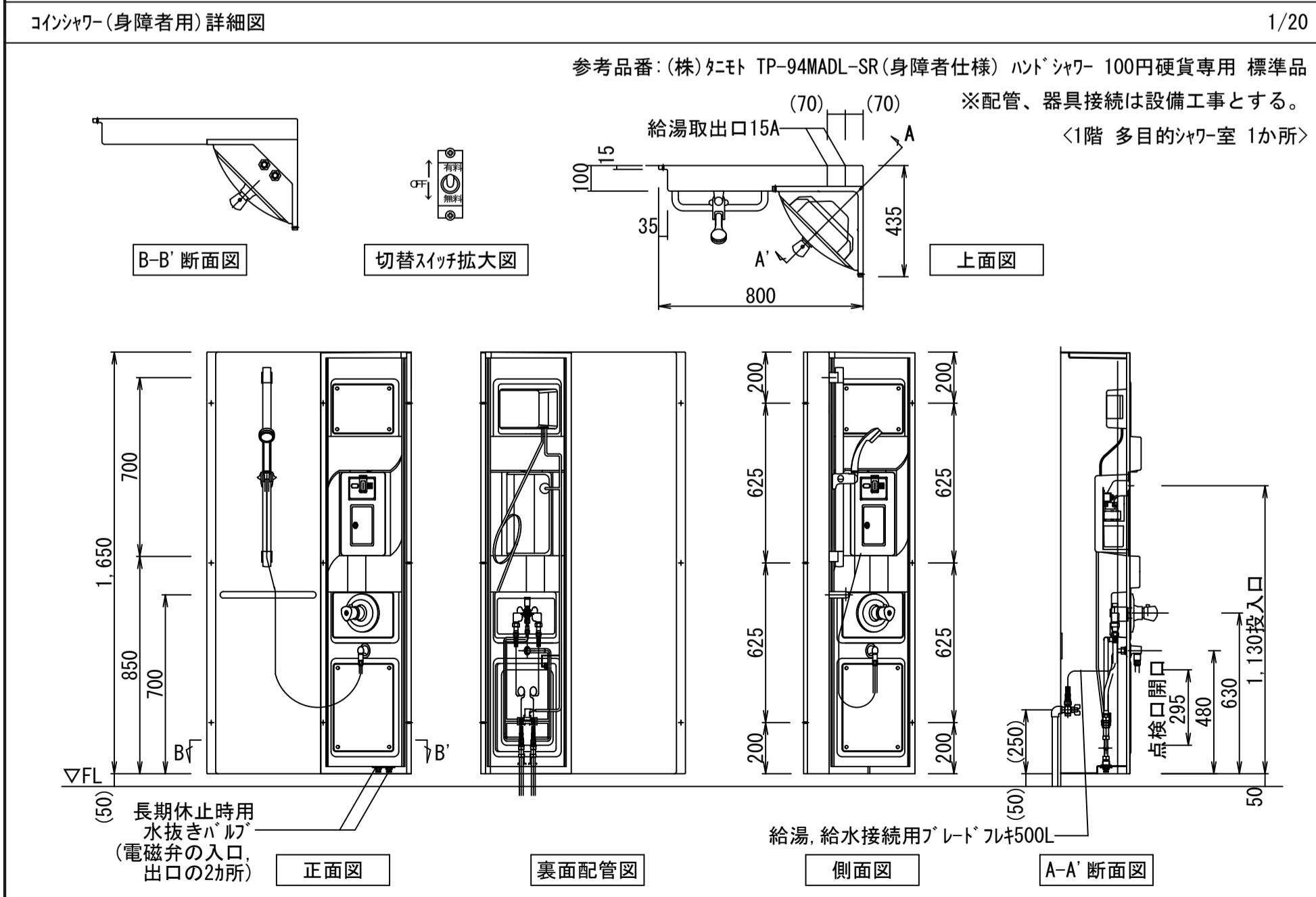
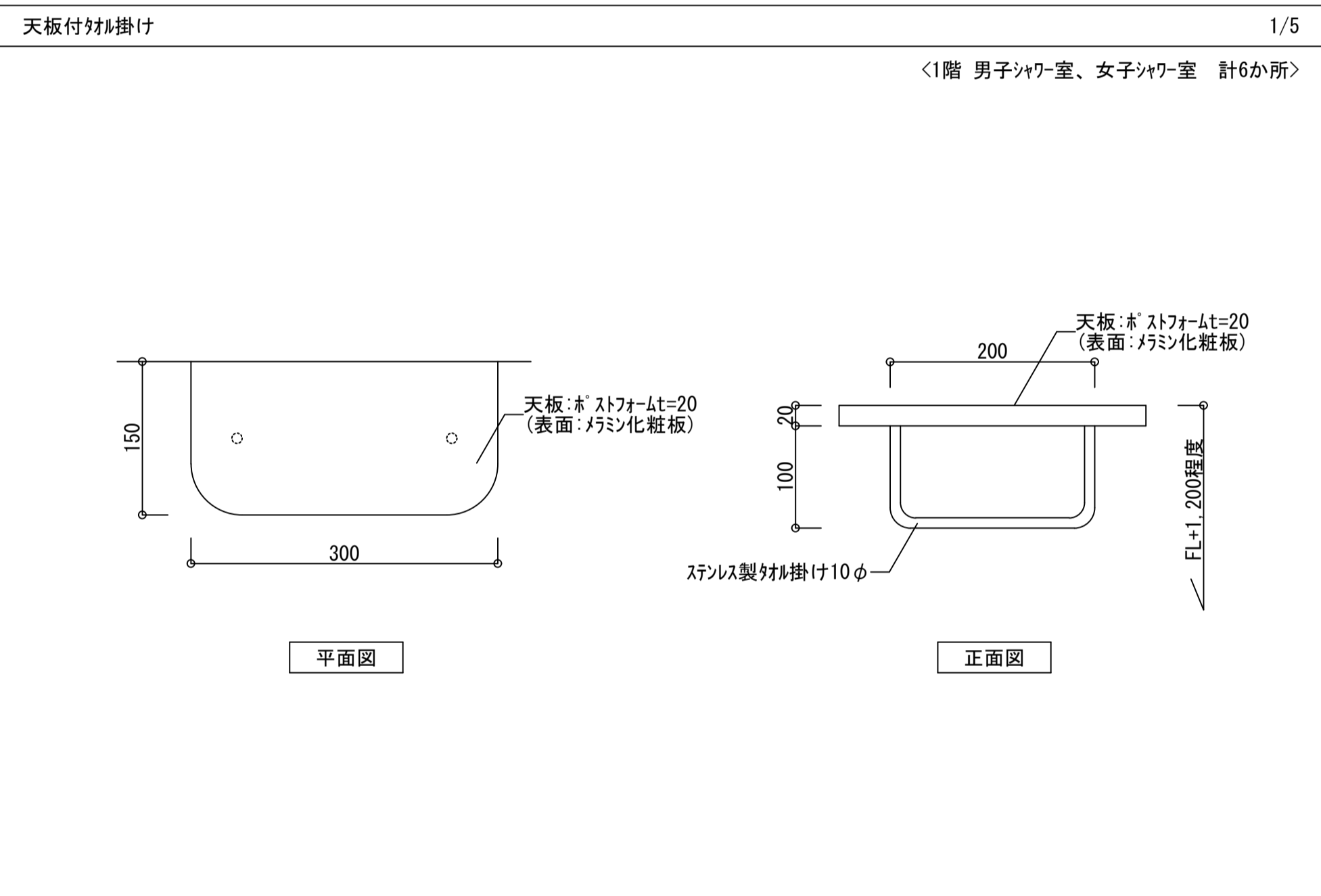
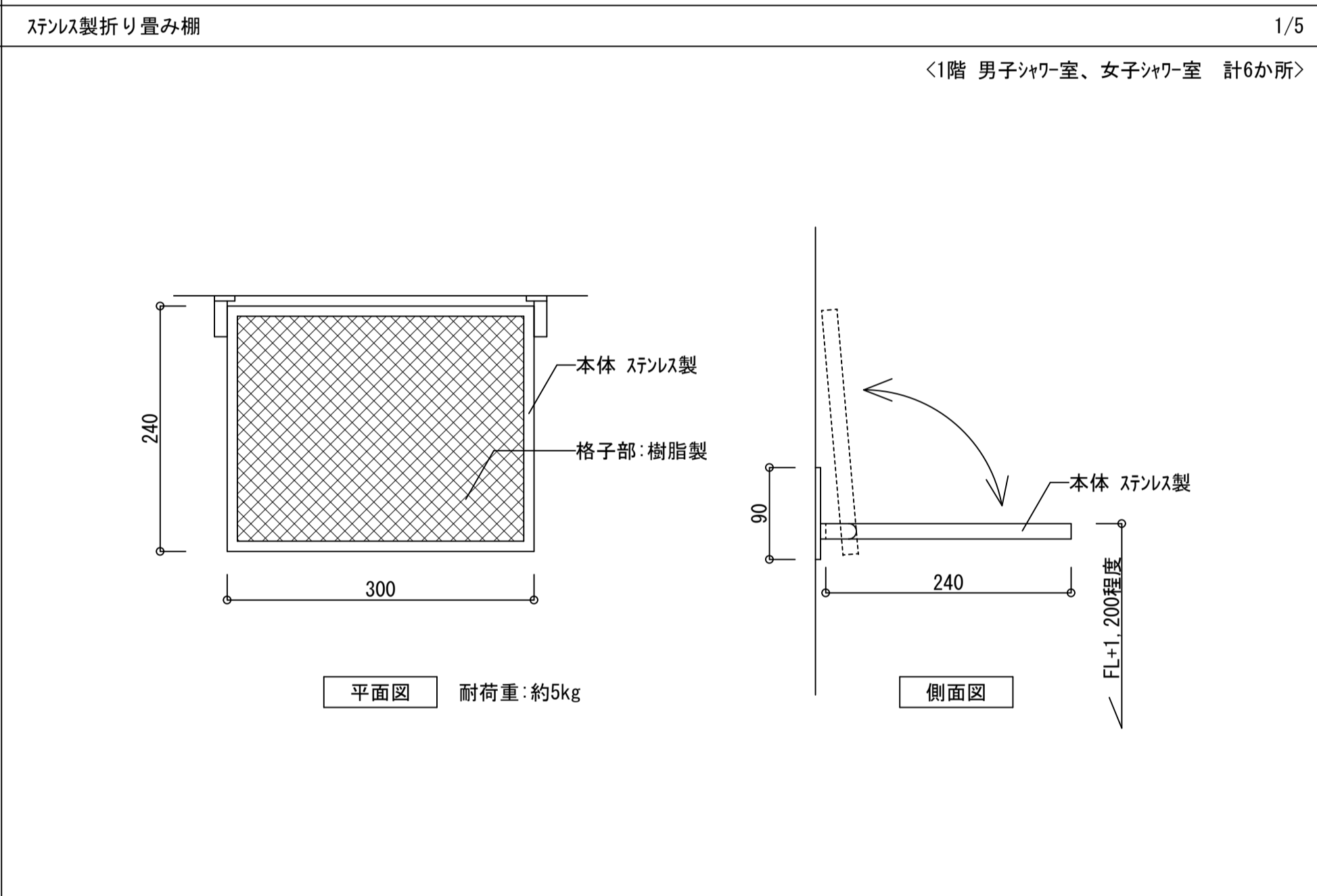
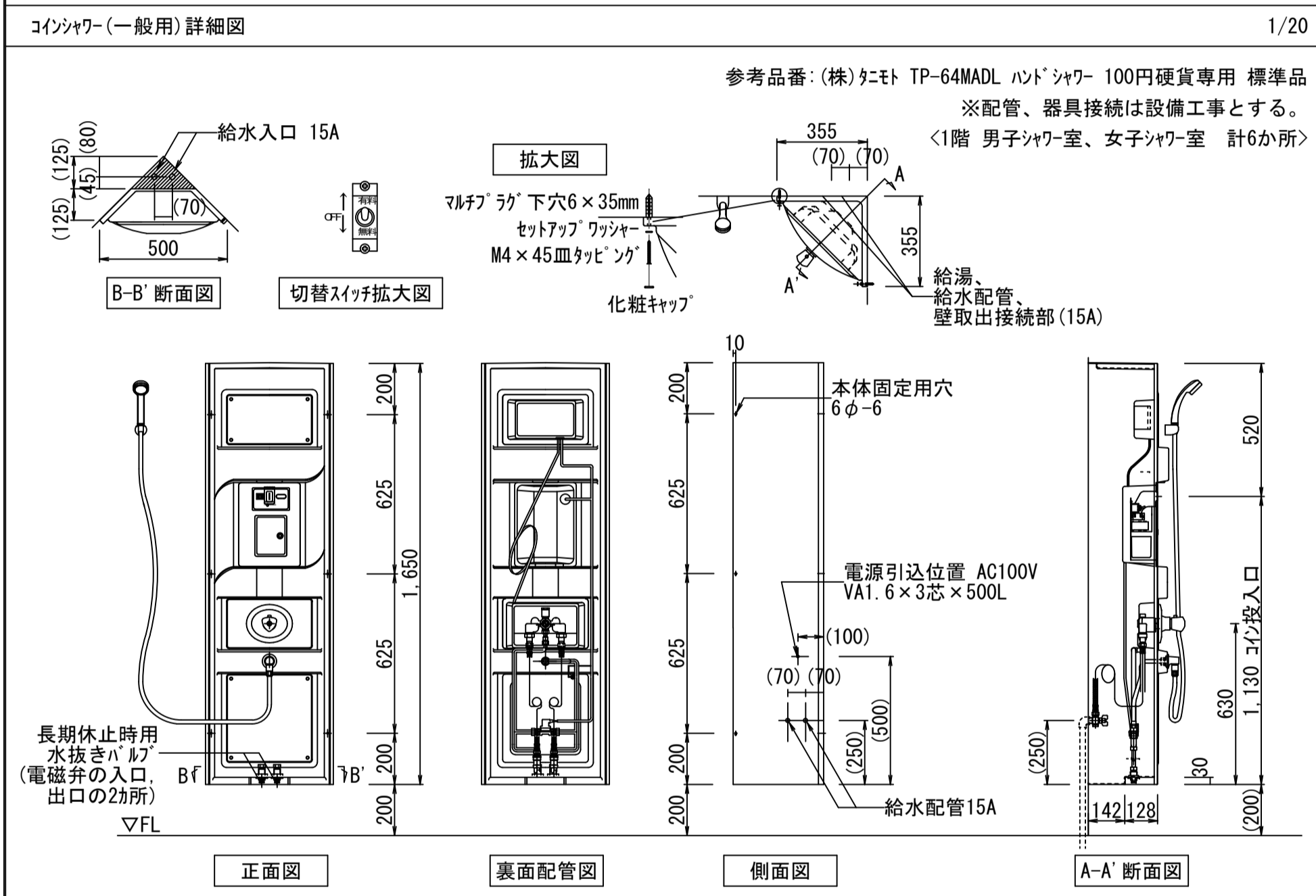
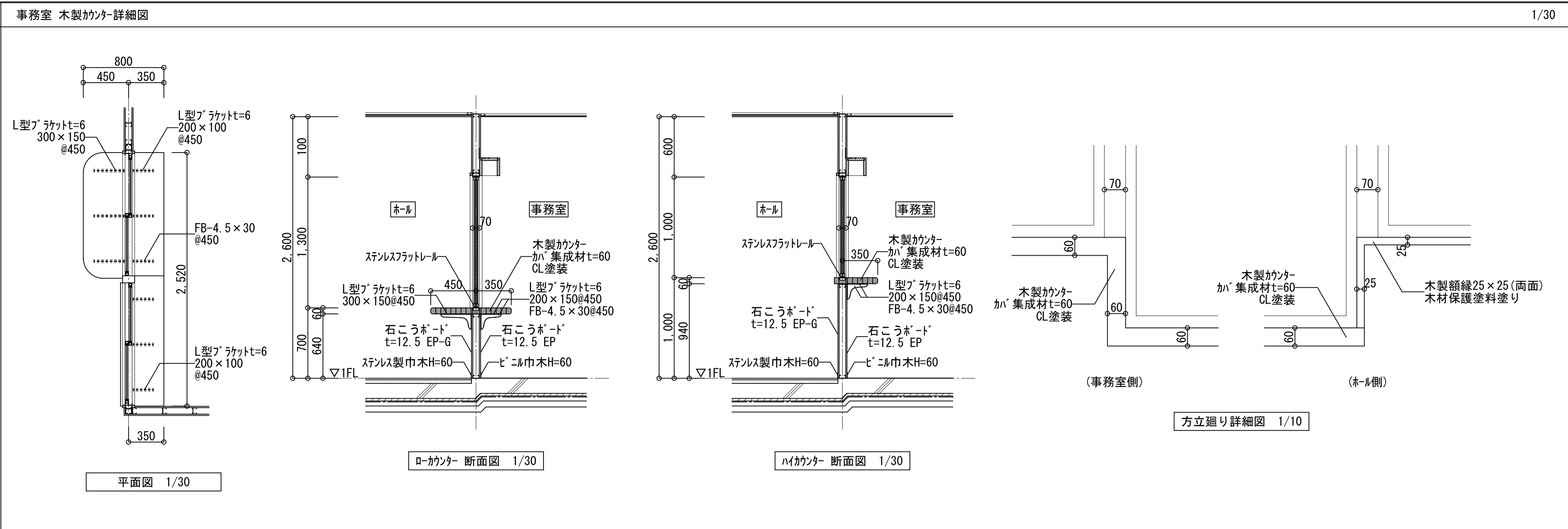
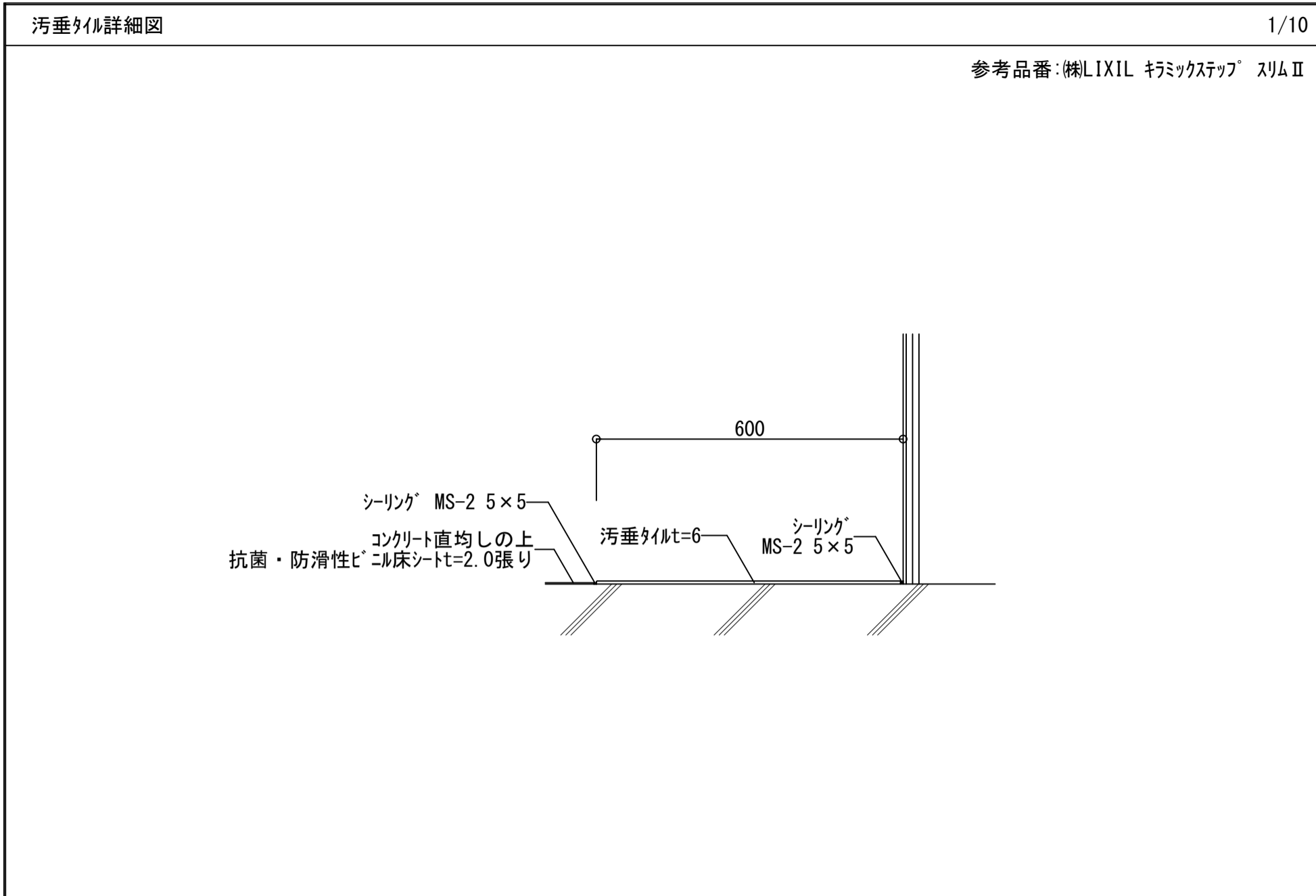
樹脂被覆 固定L型手摺34φ  
補強板 PL-4.5  
500  
700  
200  
700  
90  
正面図

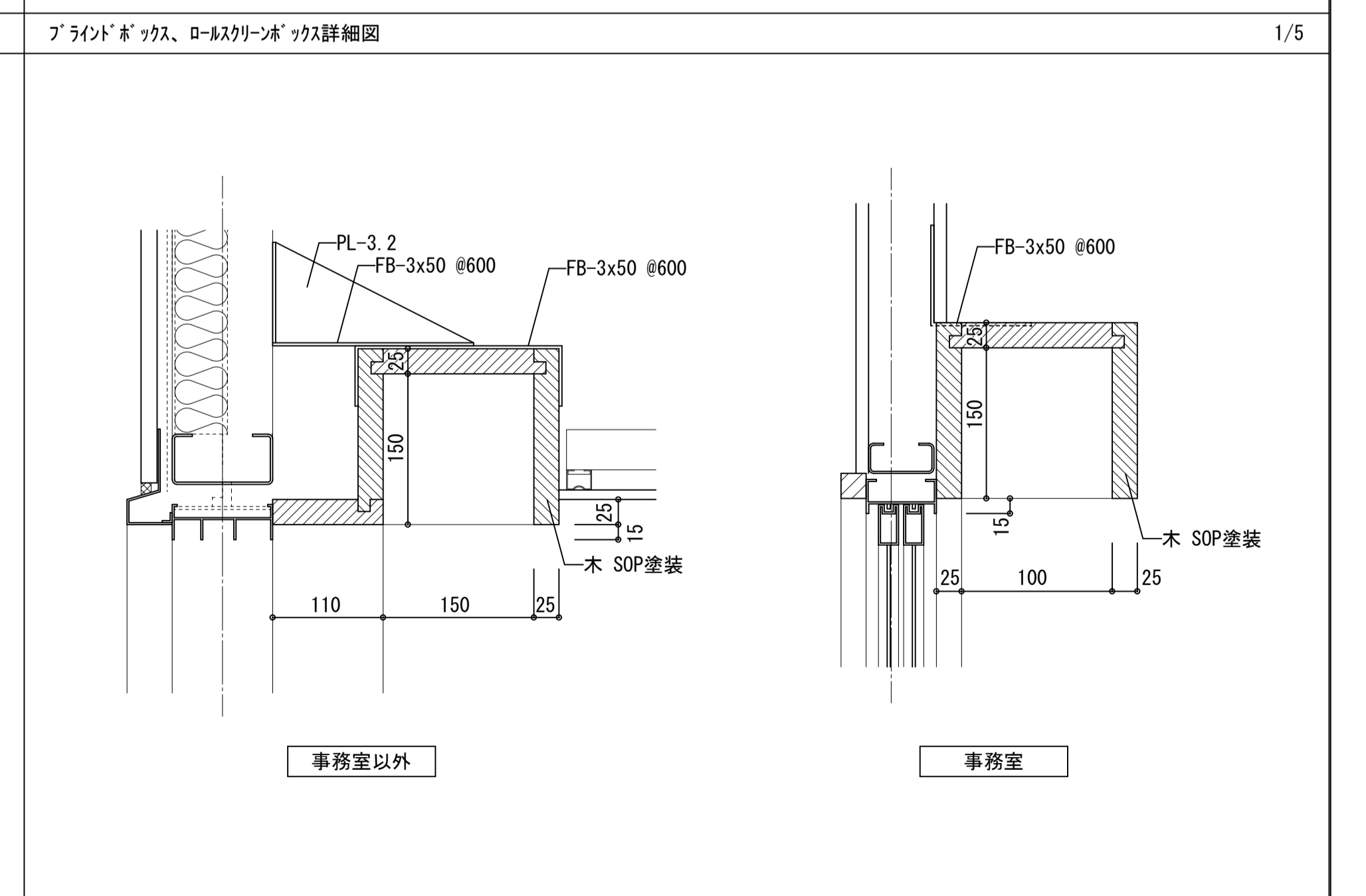
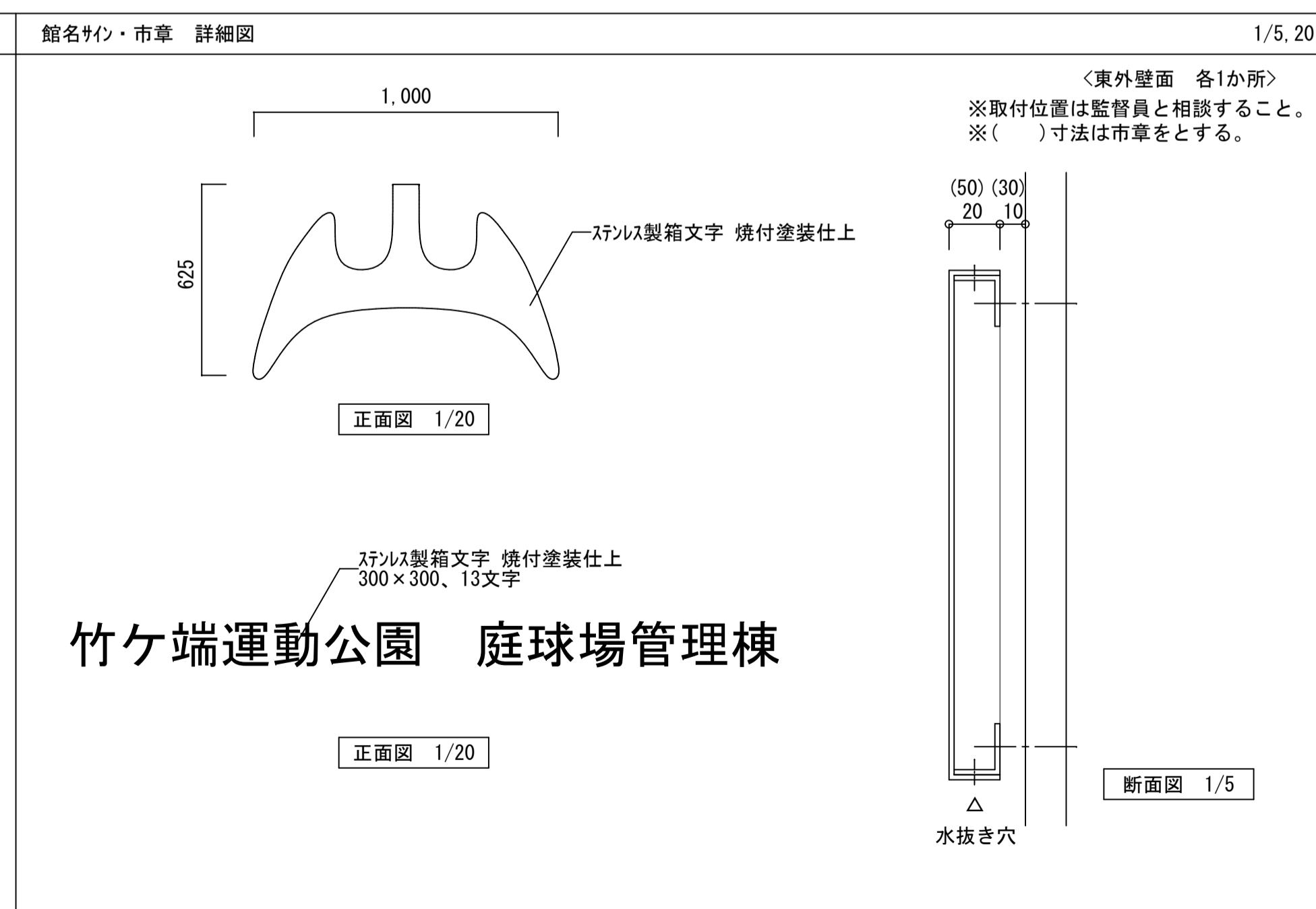
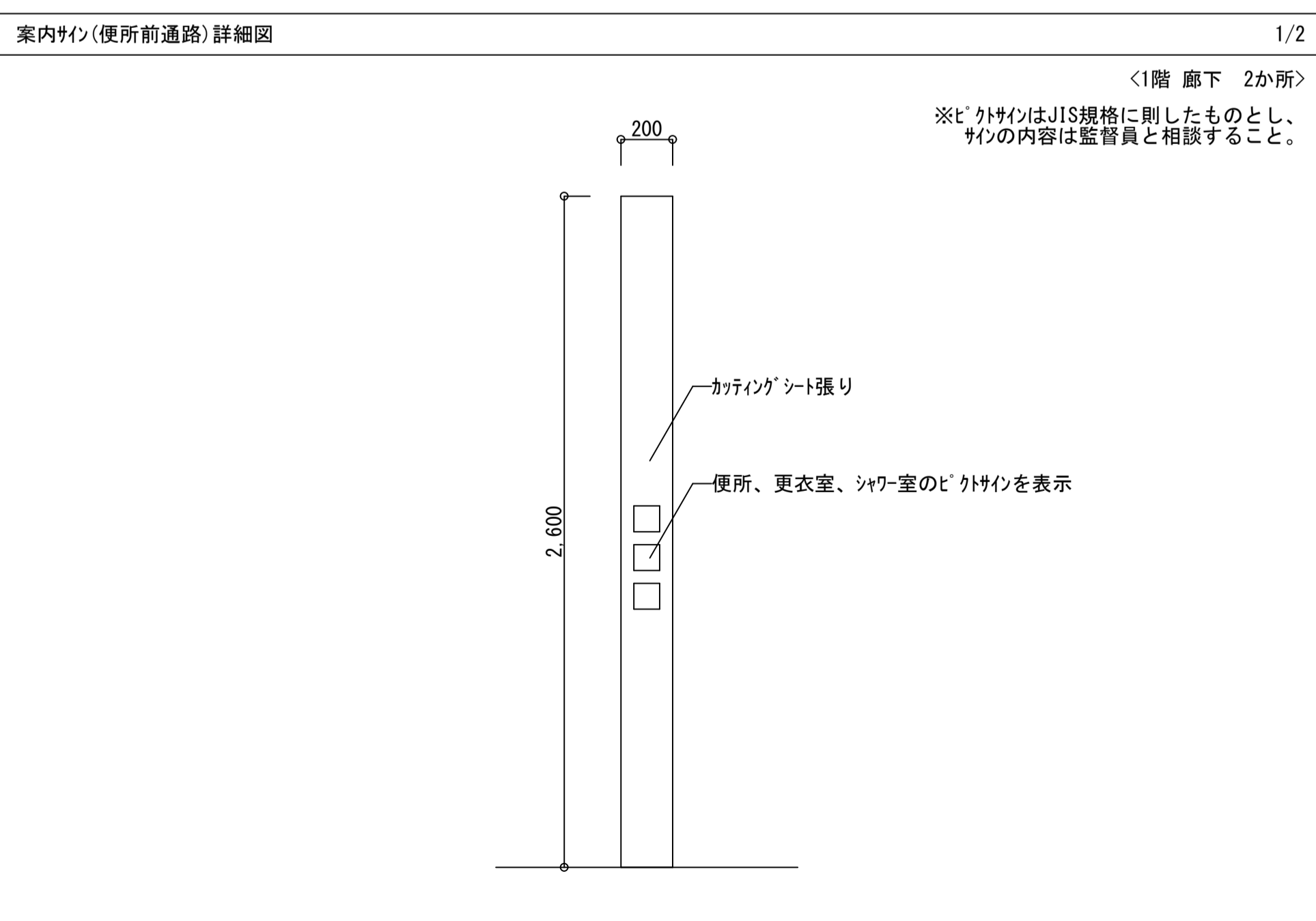
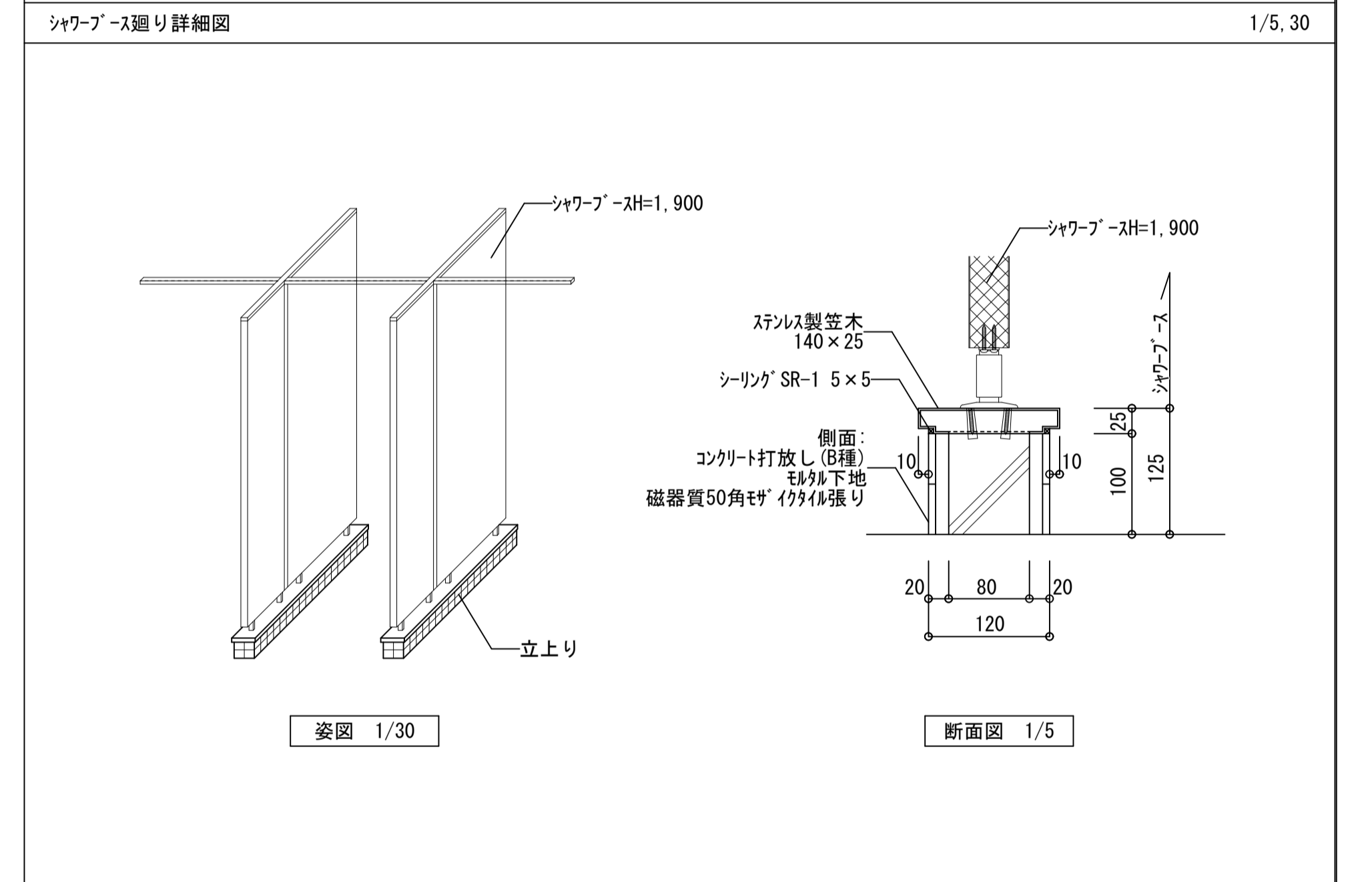
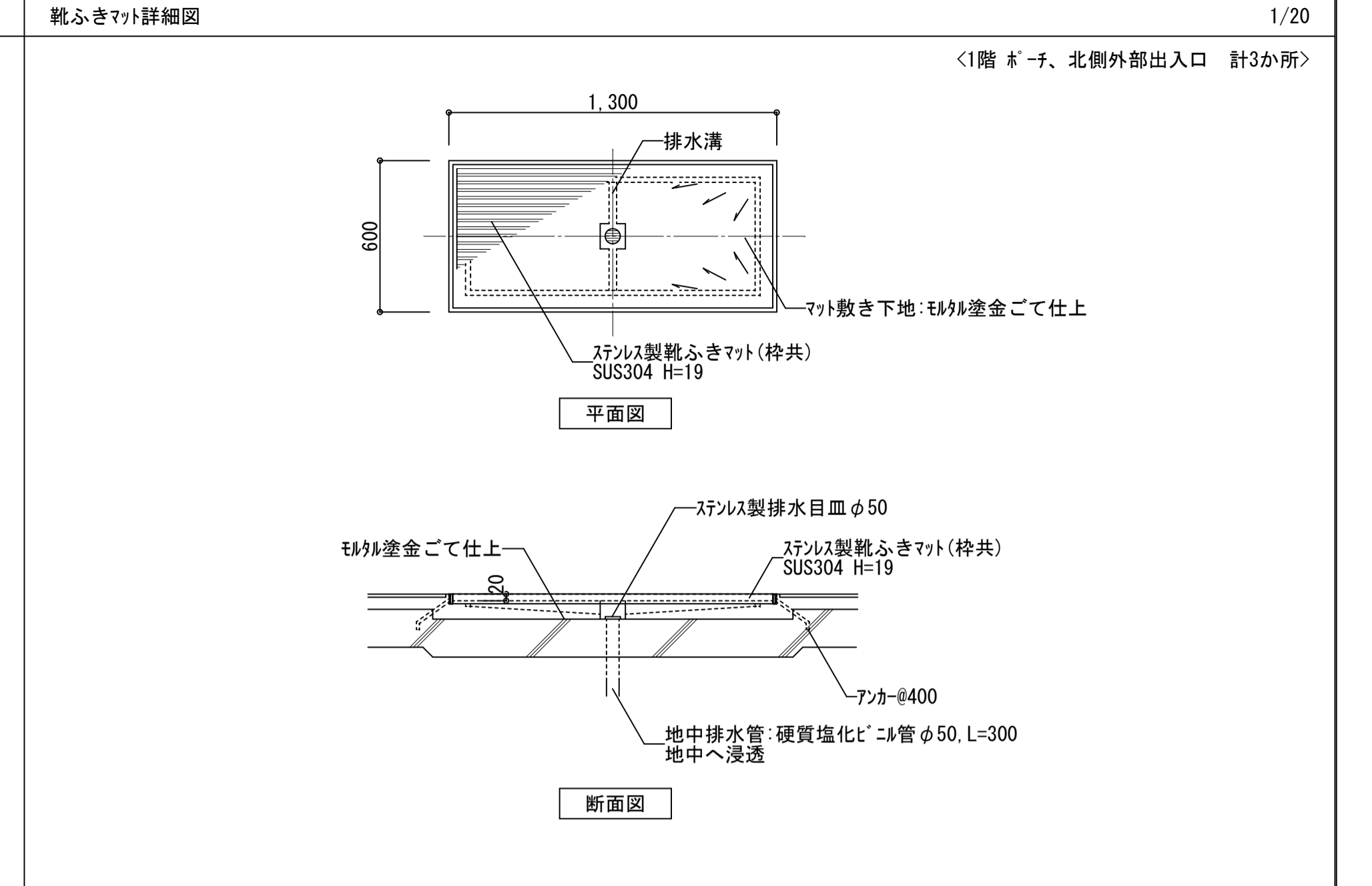
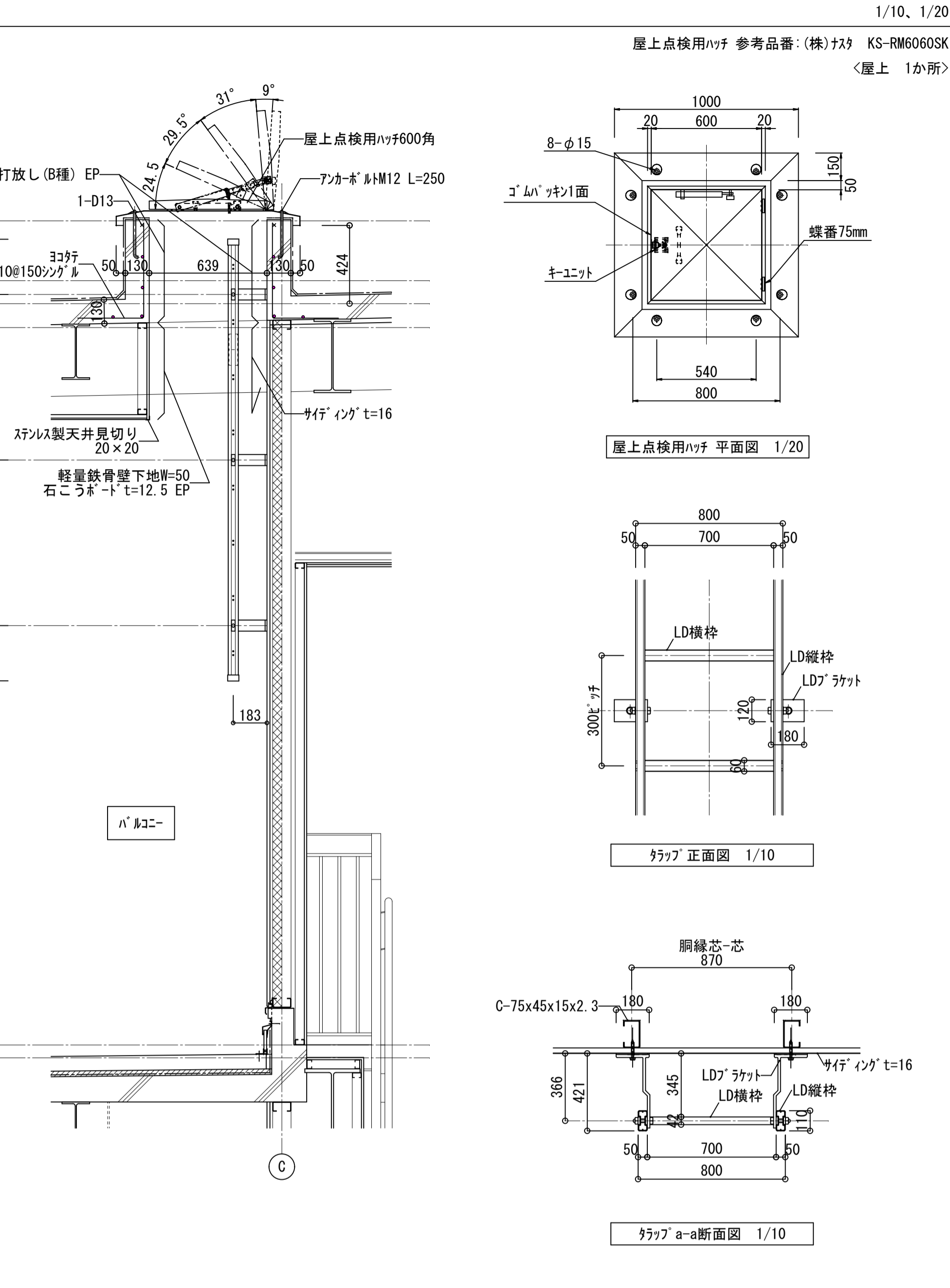
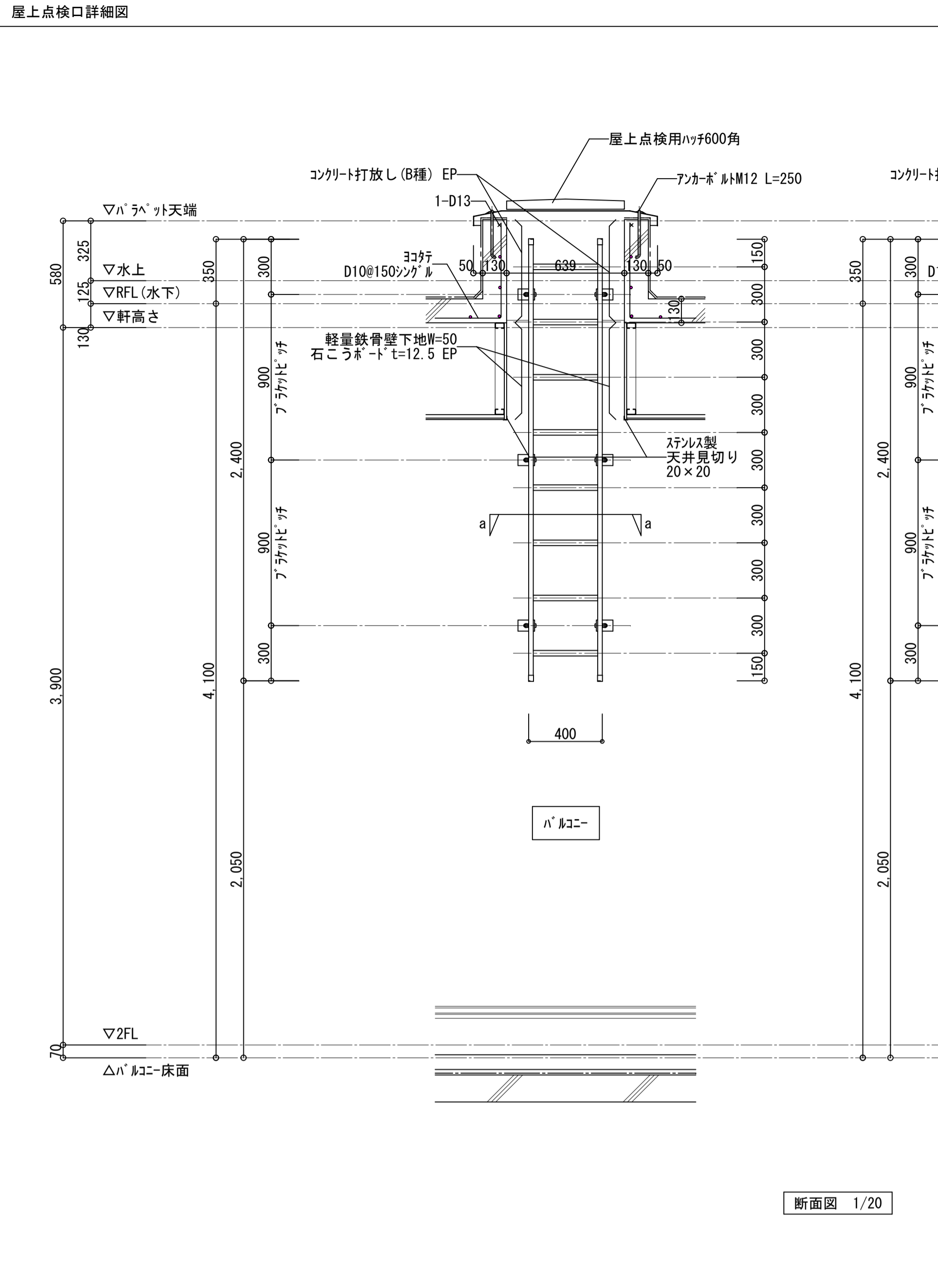
小便器用手摺詳細図 1/20

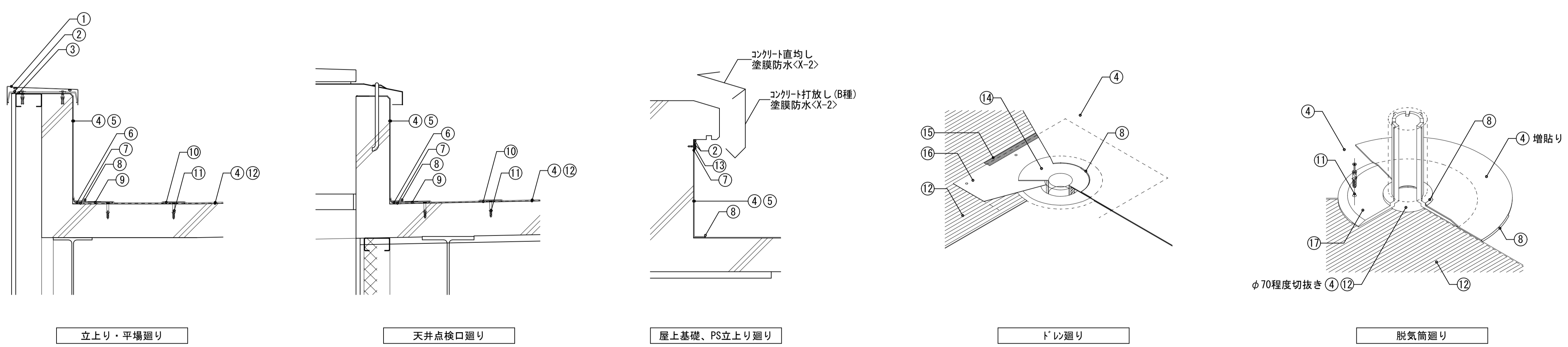
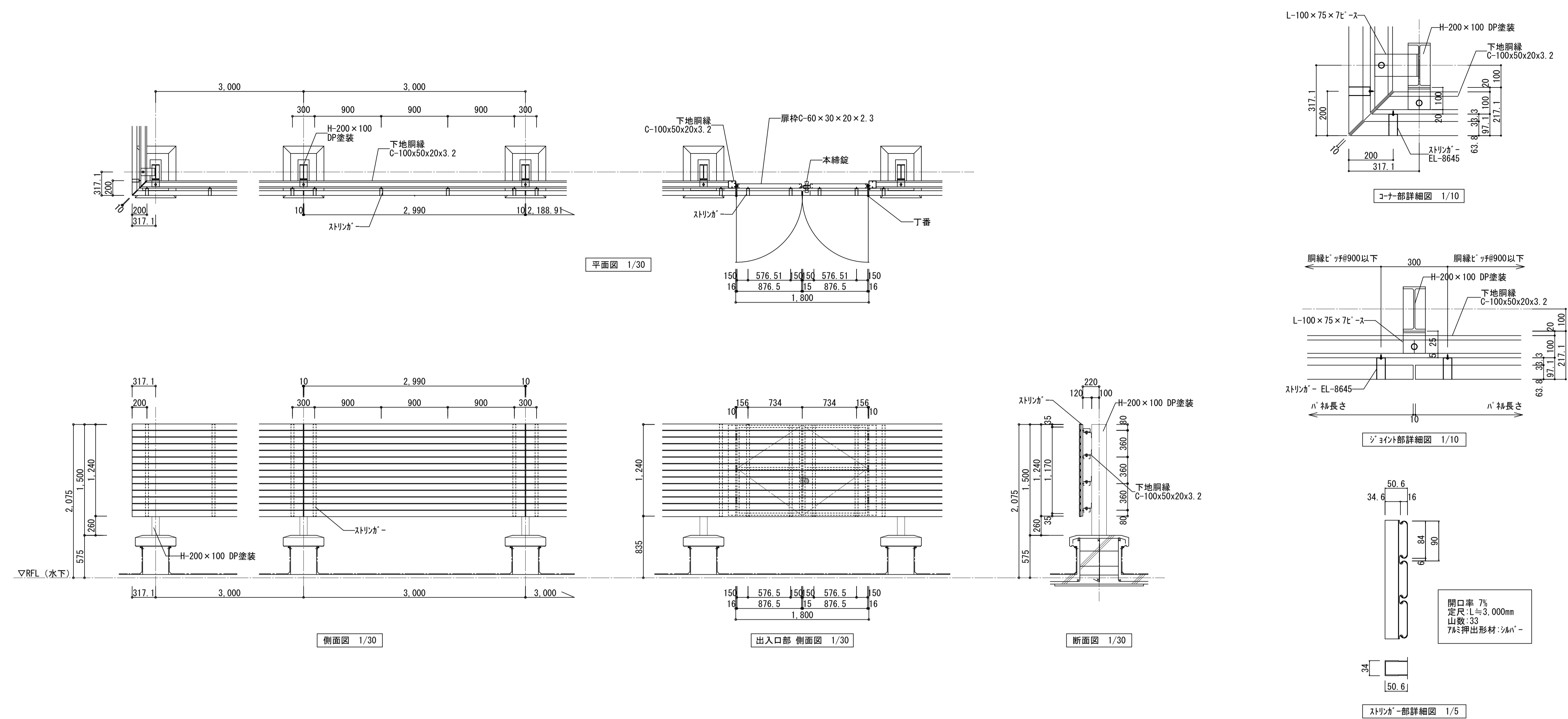
樹脂被覆小便器用手摺34φ  
250  
600  
350  
平面図

樹脂被覆小便器用手摺34φ  
補強板 PL-4.5  
600  
200  
360  
200  
正面図

樹脂被覆小便器用手摺34φ  
補強板 PL-4.5  
250 350  
600  
300  
250  
1,100  
550  
側面図





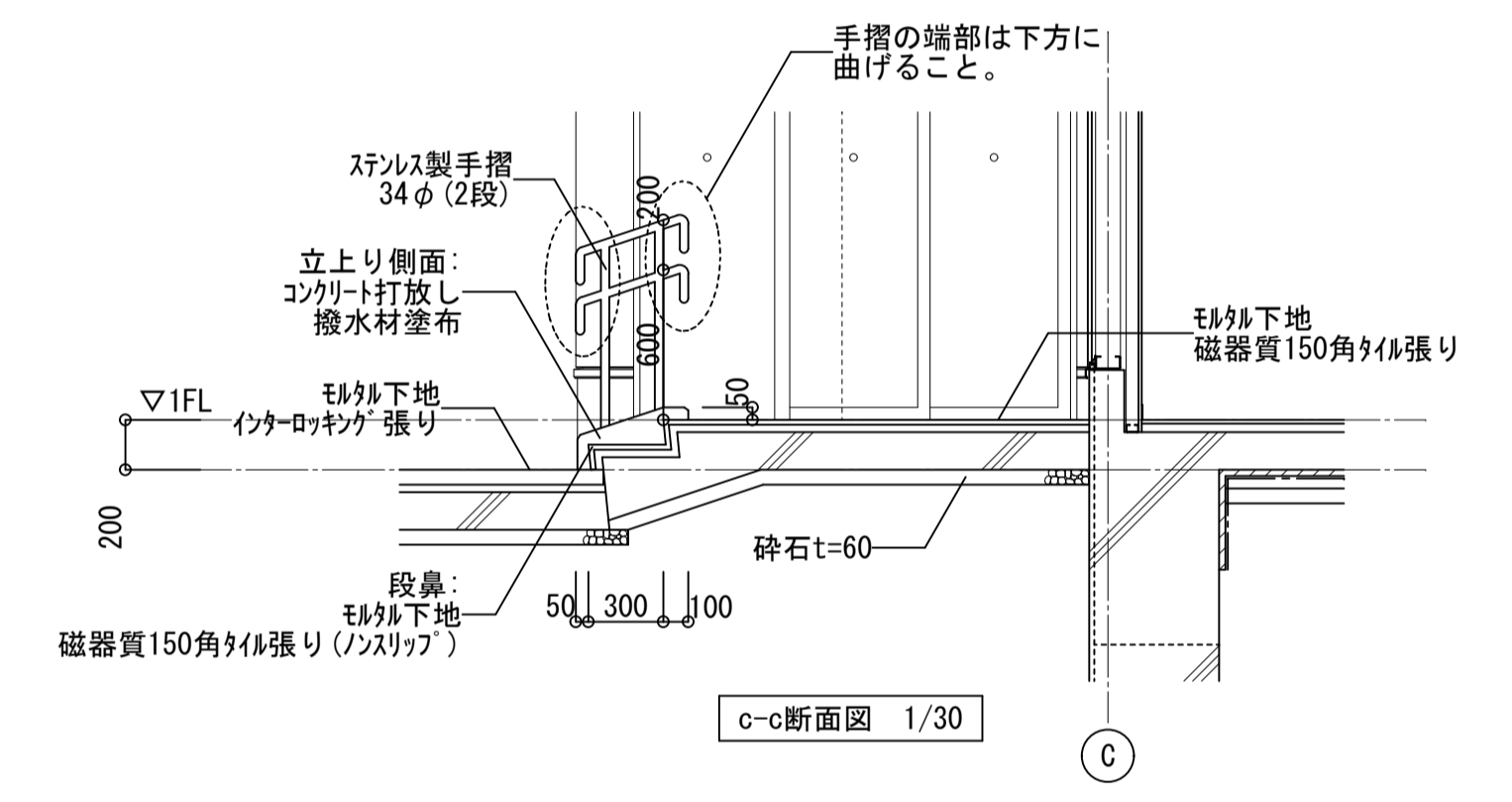
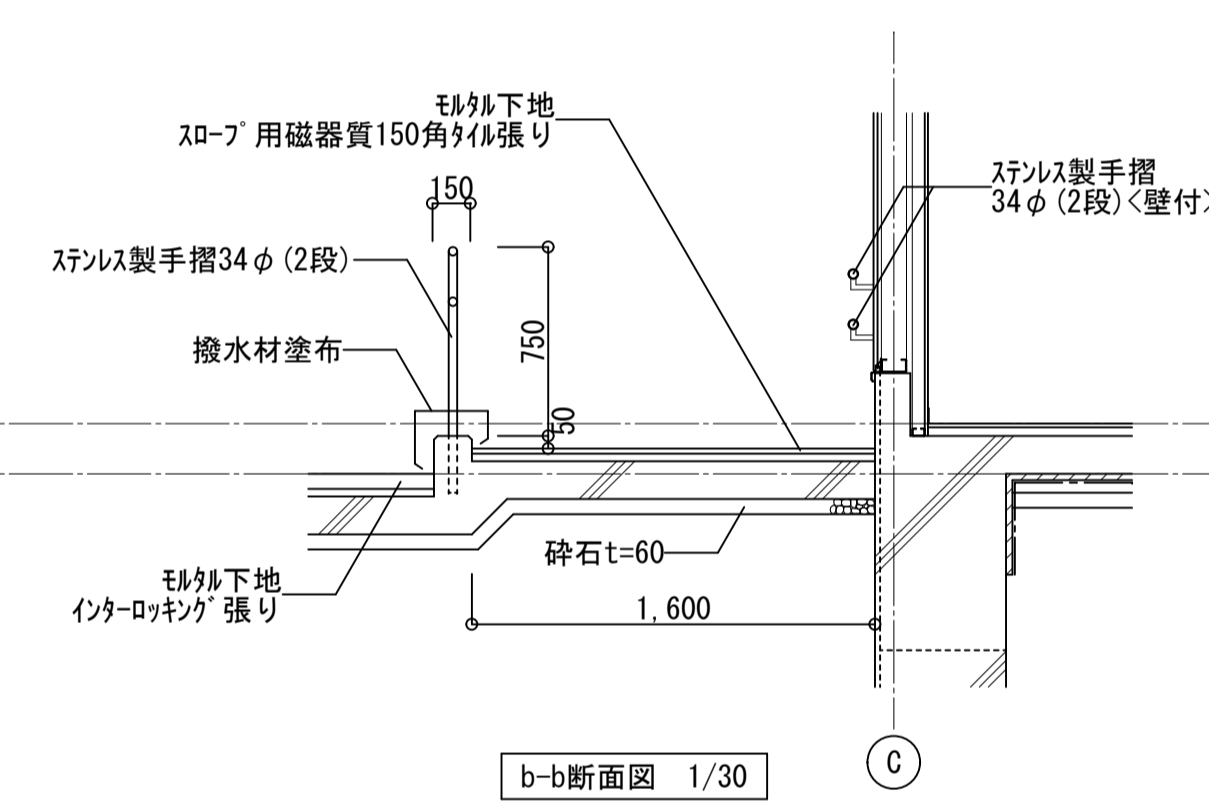
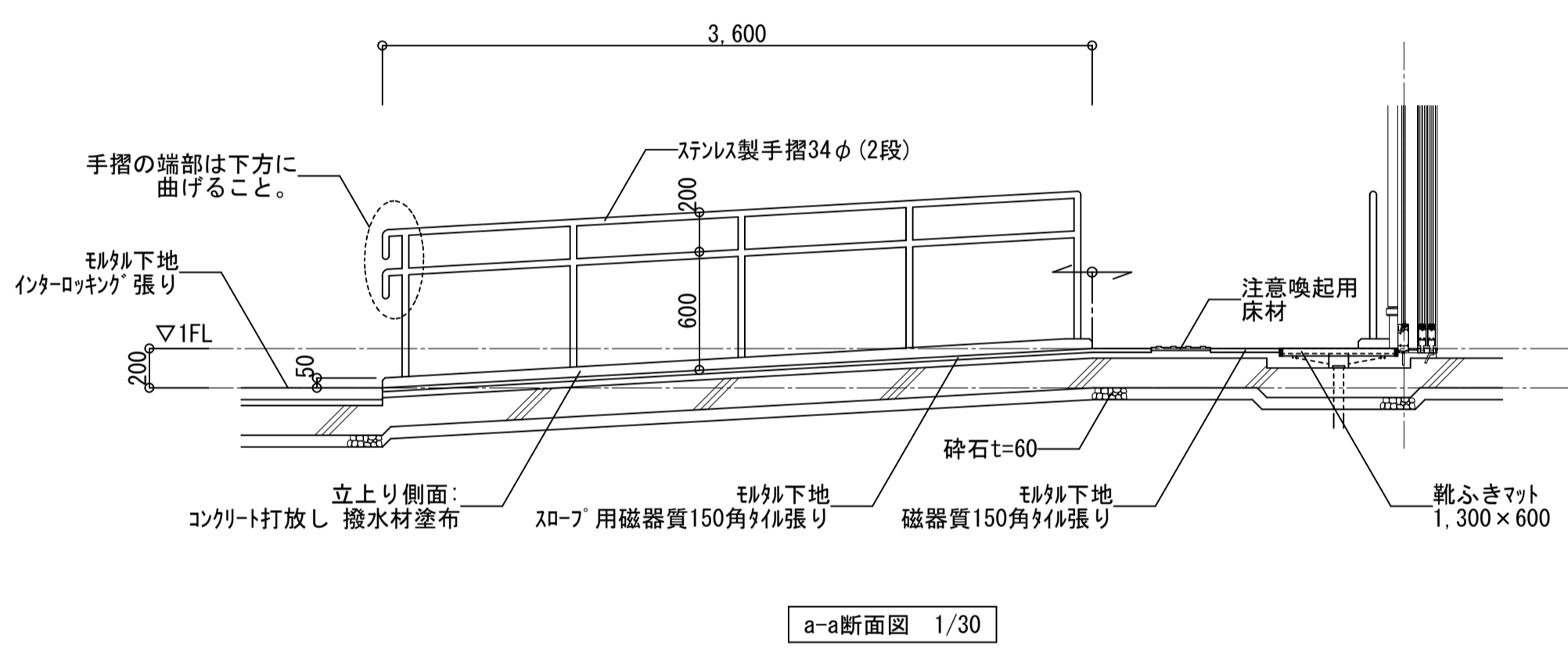
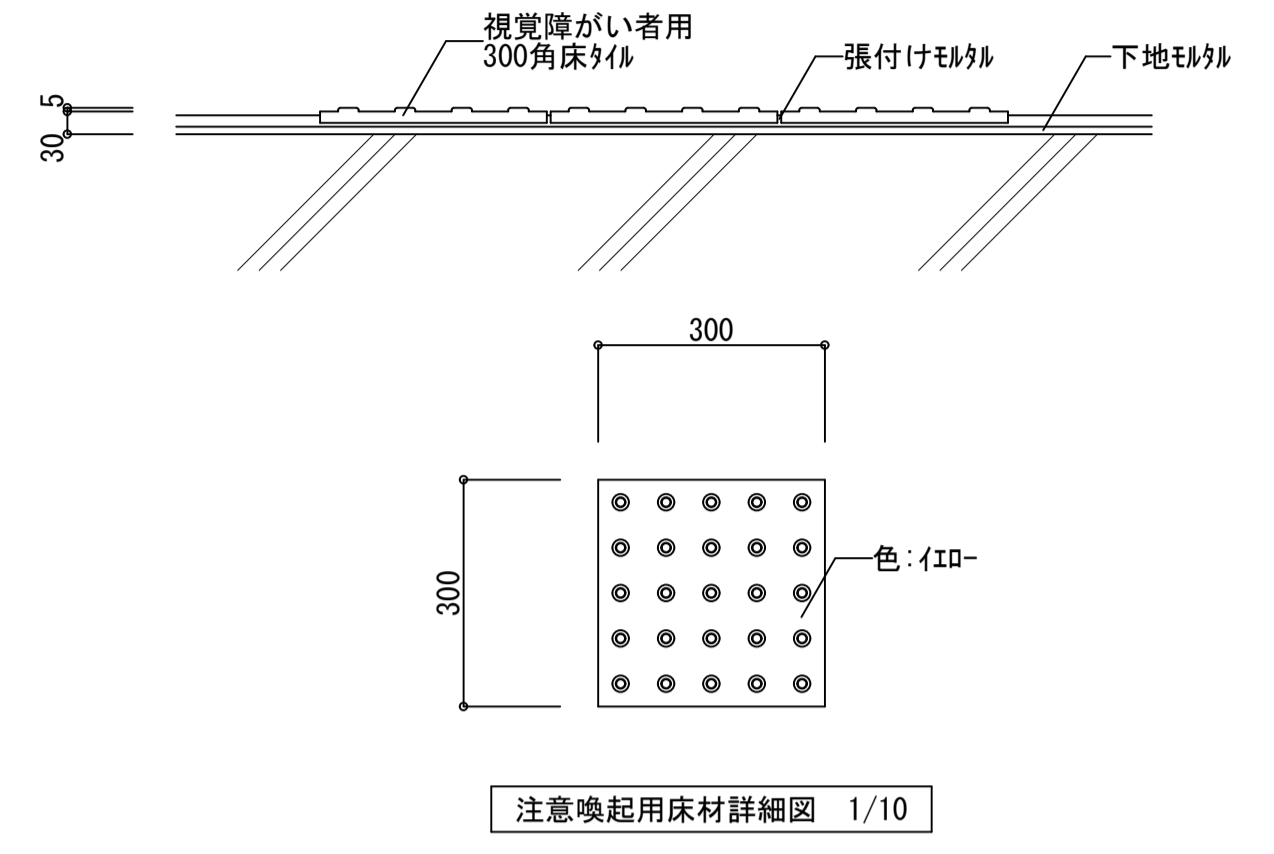
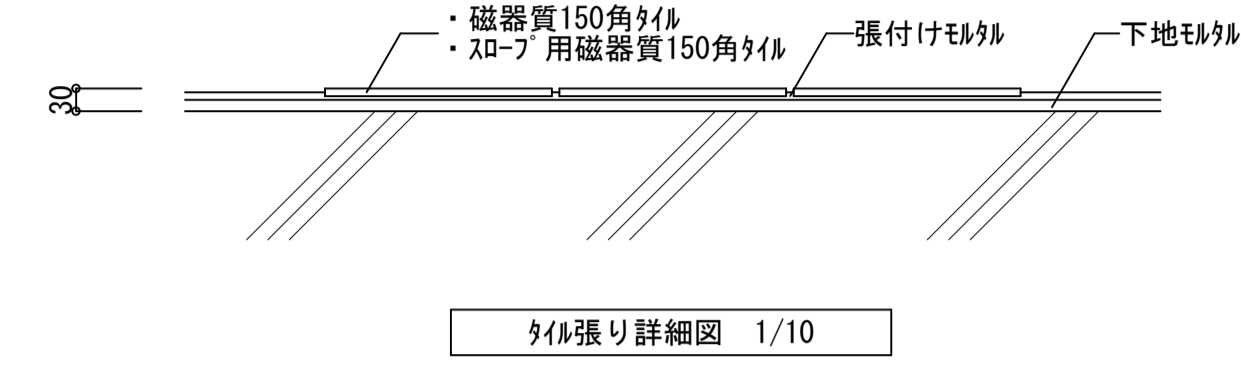
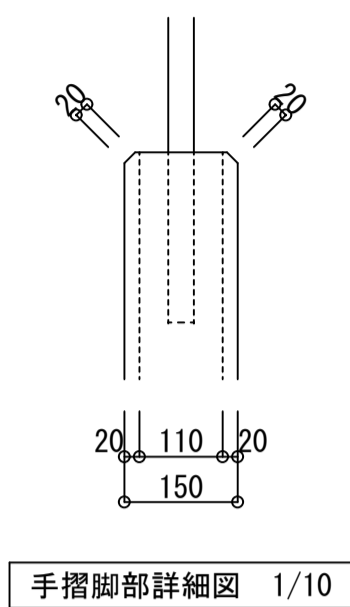
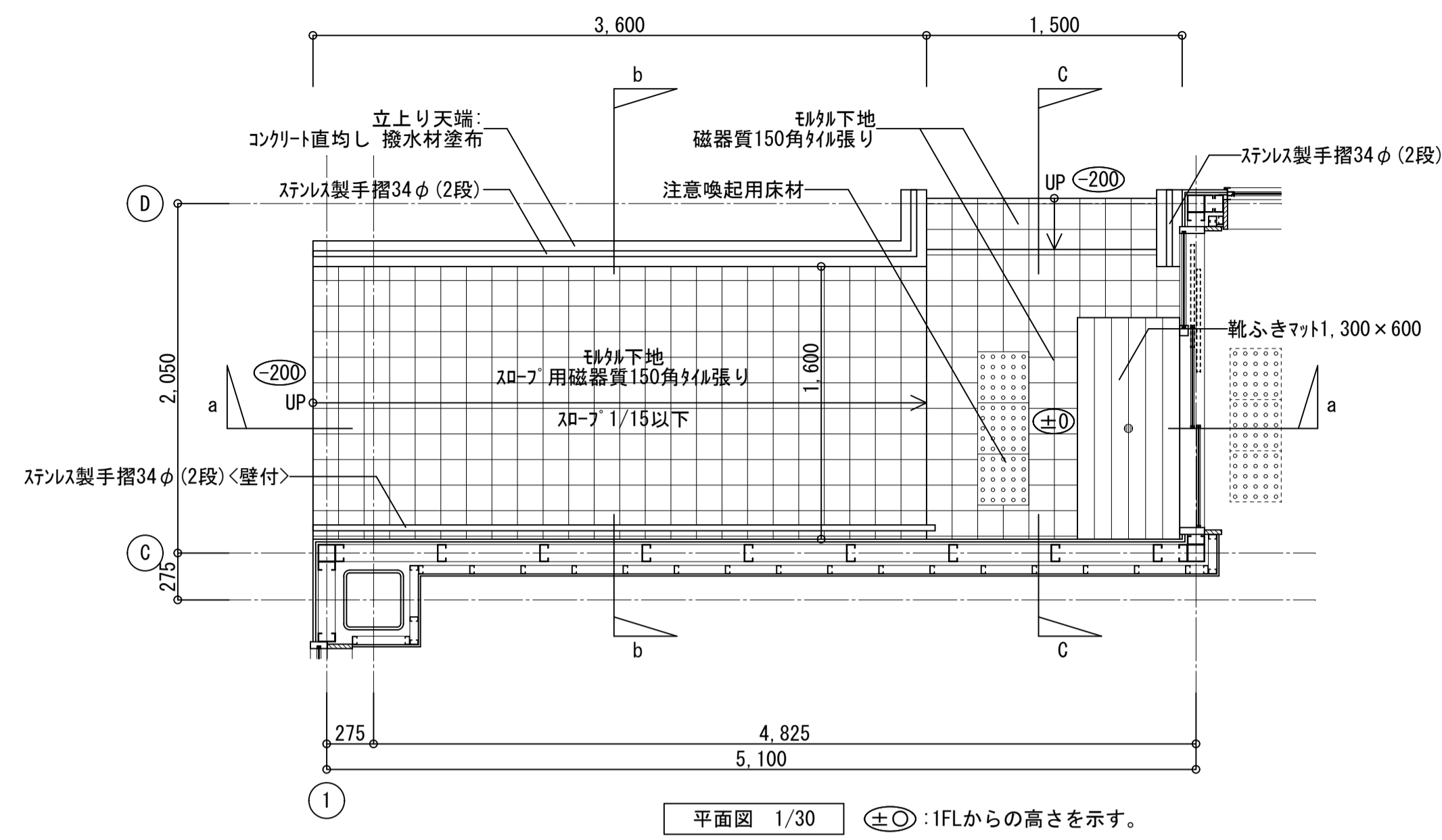


番号	名称
①	7M製笠木W=275
②	編成シリコン系シール材 (MS-1)
③	ﾌﾟﾌﾟ製ﾃｰﾌﾟ材 (幅50mm程度)
④	合成高分子ﾚｰﾌﾞﾙｼｰﾄ防水t=2.0 高反射塗装 (ｸﾞﾗｰ)
⑤	塩ビｼｰﾄ用接着剤 (ｺｰﾄﾞﾈｰﾙ系)
⑥	塩ビ被覆鋼板 (15*150)
⑦	ﾌﾟﾌﾟ製ﾃｰﾌﾟ材 (幅35mm)
⑧	ｼｰﾄ端未用シール材
⑨	養生ﾃｰﾌﾟ
⑩	塩ビ被覆ﾌﾞﾗｯｼﾞ板
⑪	ｱﾝｶｰ
⑫	絶縁ﾏｯﾄ (t=2.0, ﾎﾟﾘﾚﾝ製)
⑬	塩ビｼｰﾄ端未金物
⑭	鋳鉄製M-ﾌﾞﾚｲﾝ100φ用
⑮	7M製ﾃｰﾌﾟ
⑯	ﾄﾞﾚﾝﾌﾟﾚｰﾄ
⑰	塩ビｼｰﾄ用ｽﾀﾝﾄﾞｽﾄﾘｯﾌﾟ製脱気筒



玄関スロー・階段詳細図

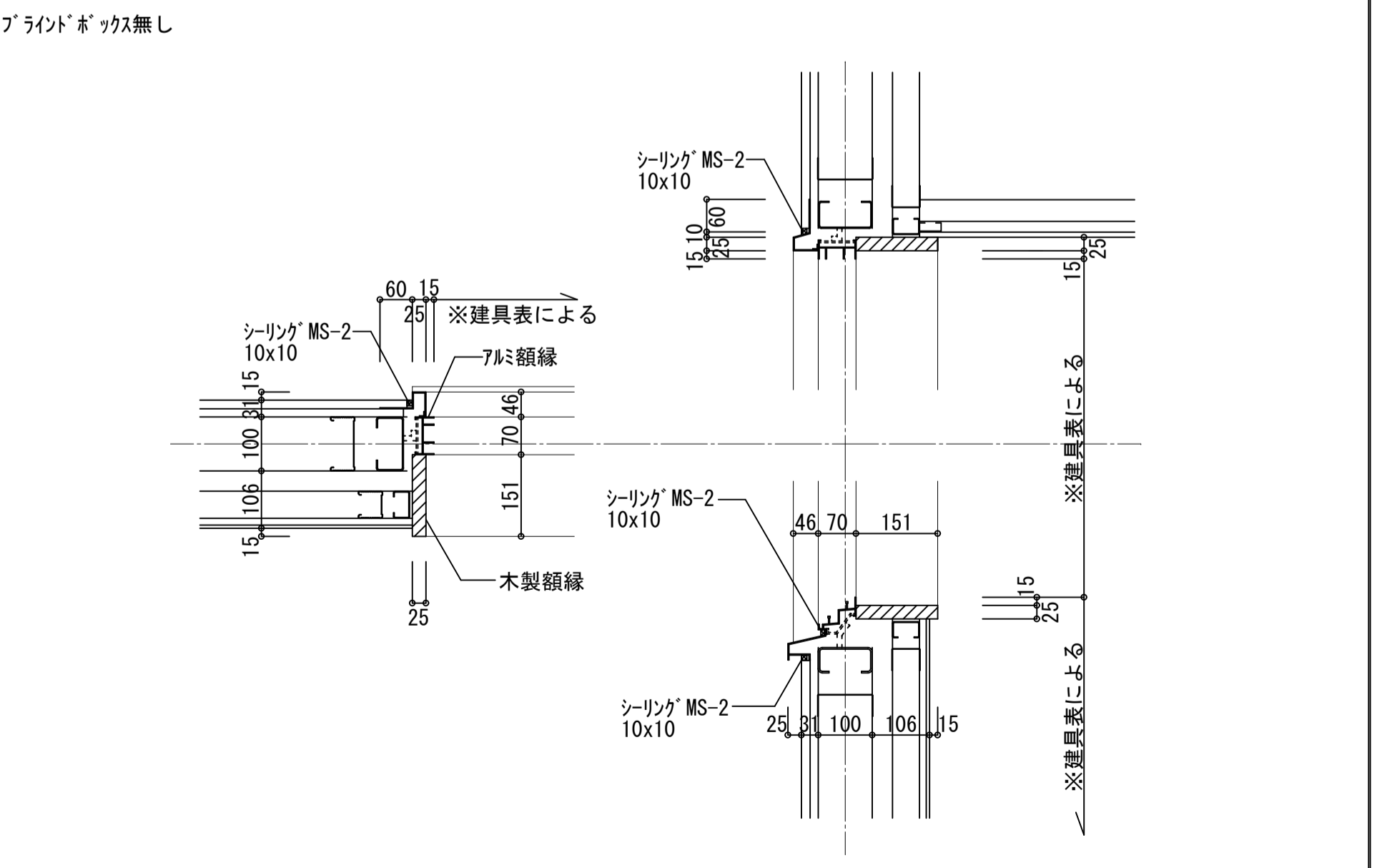
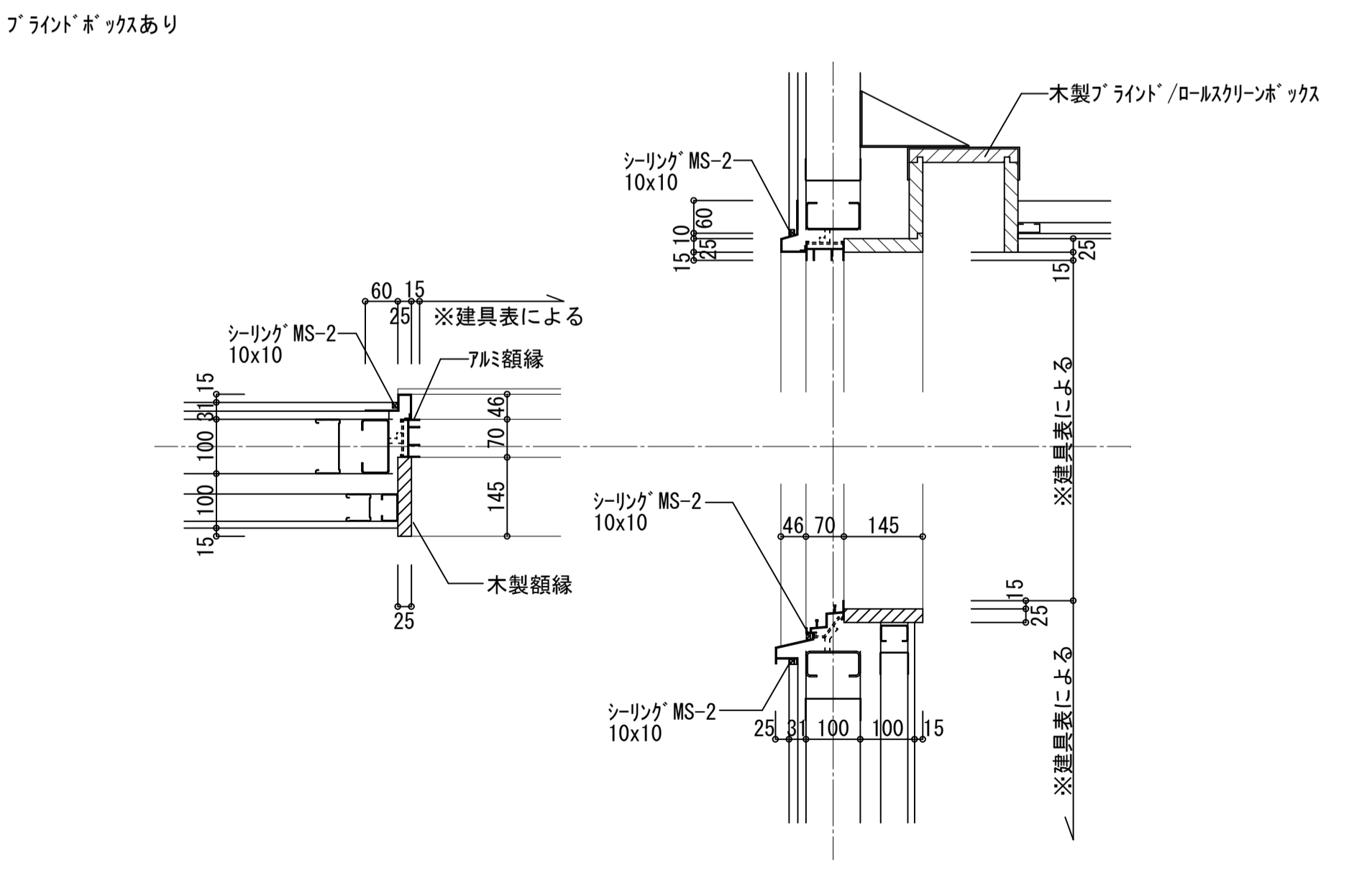
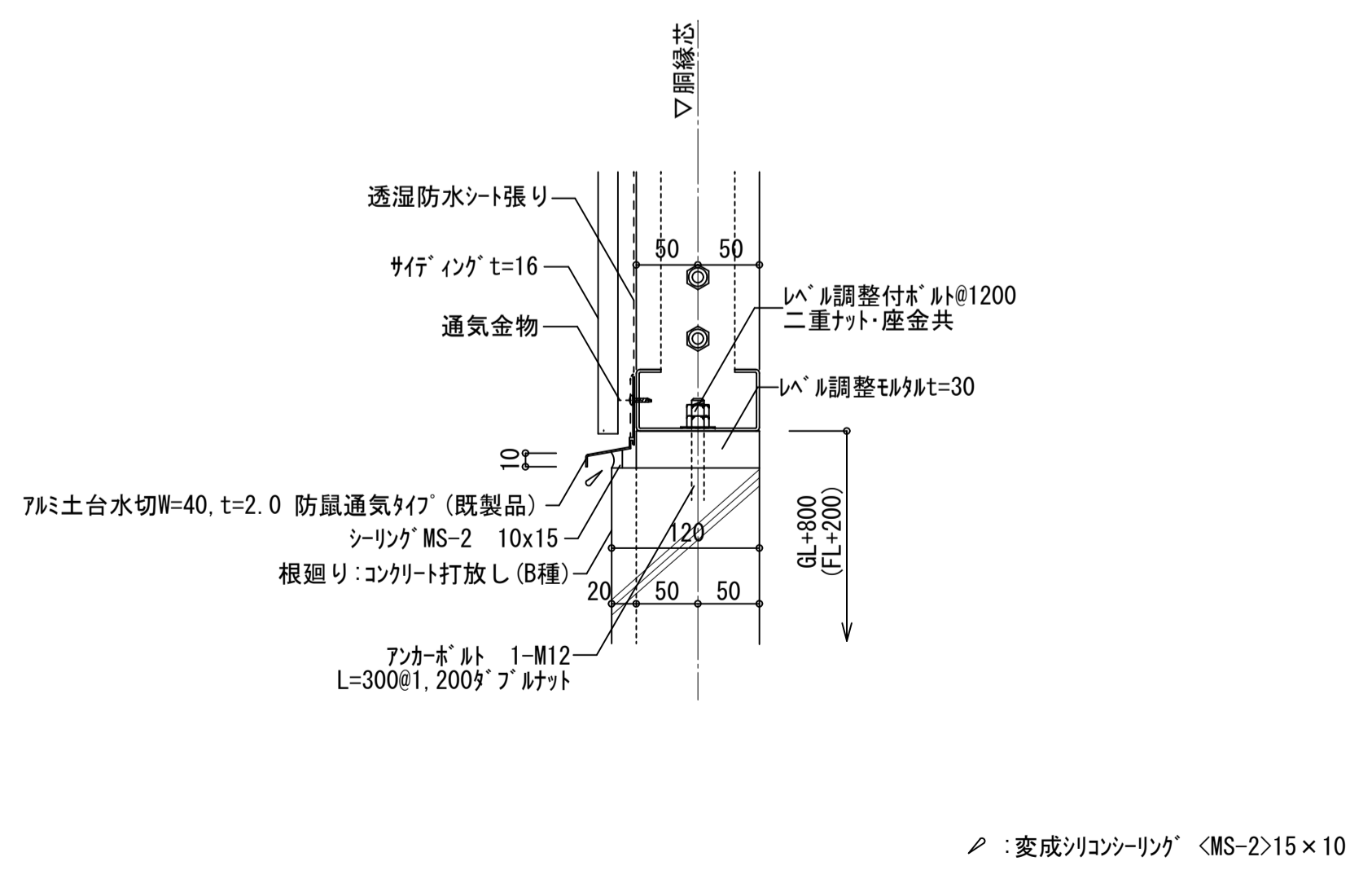
※A~B通り間は反転したもとする。



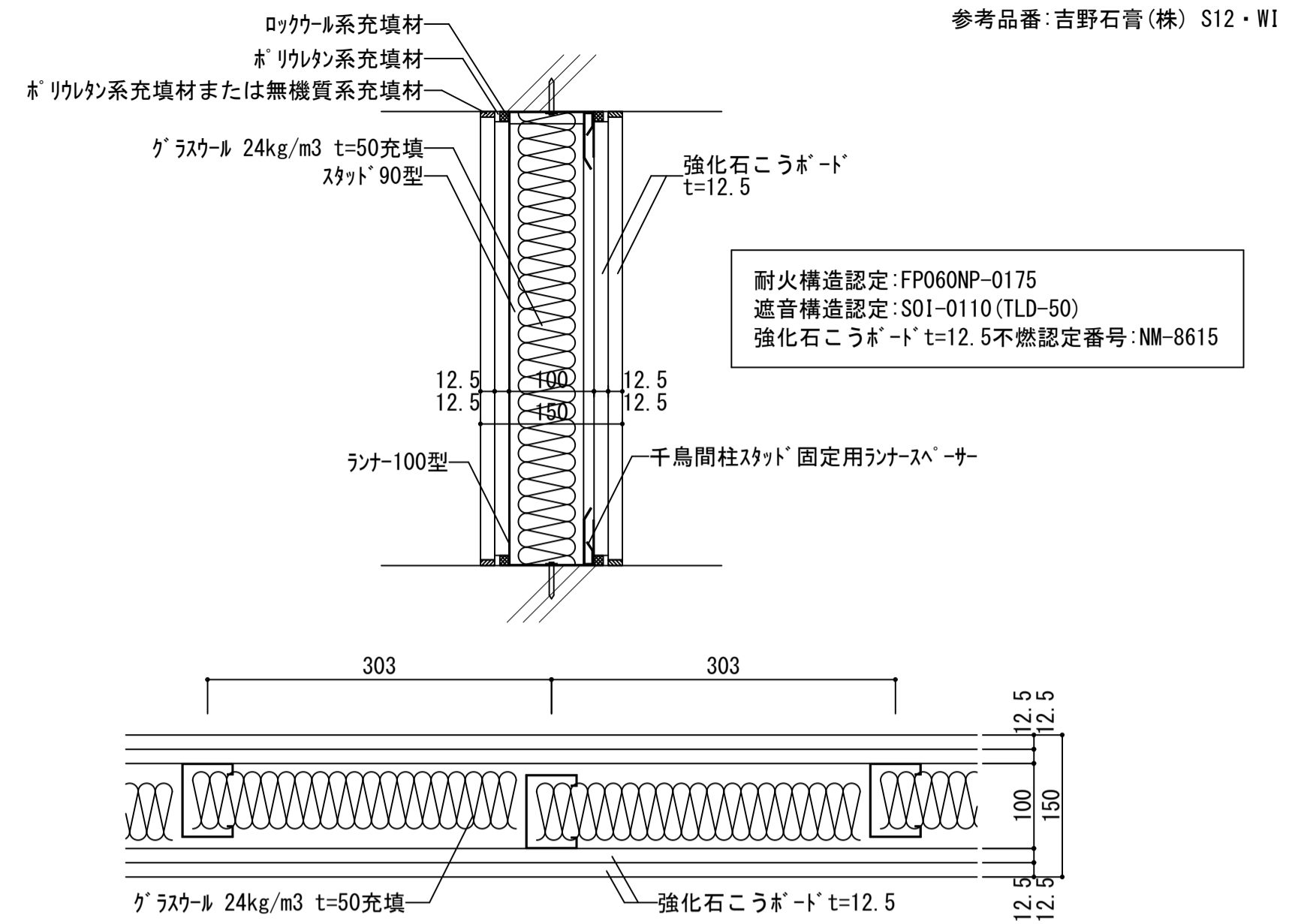
外壁サイディング コンクリート立上り廻り詳細図 1/5

外部建具 枠廻り詳細図 1/10

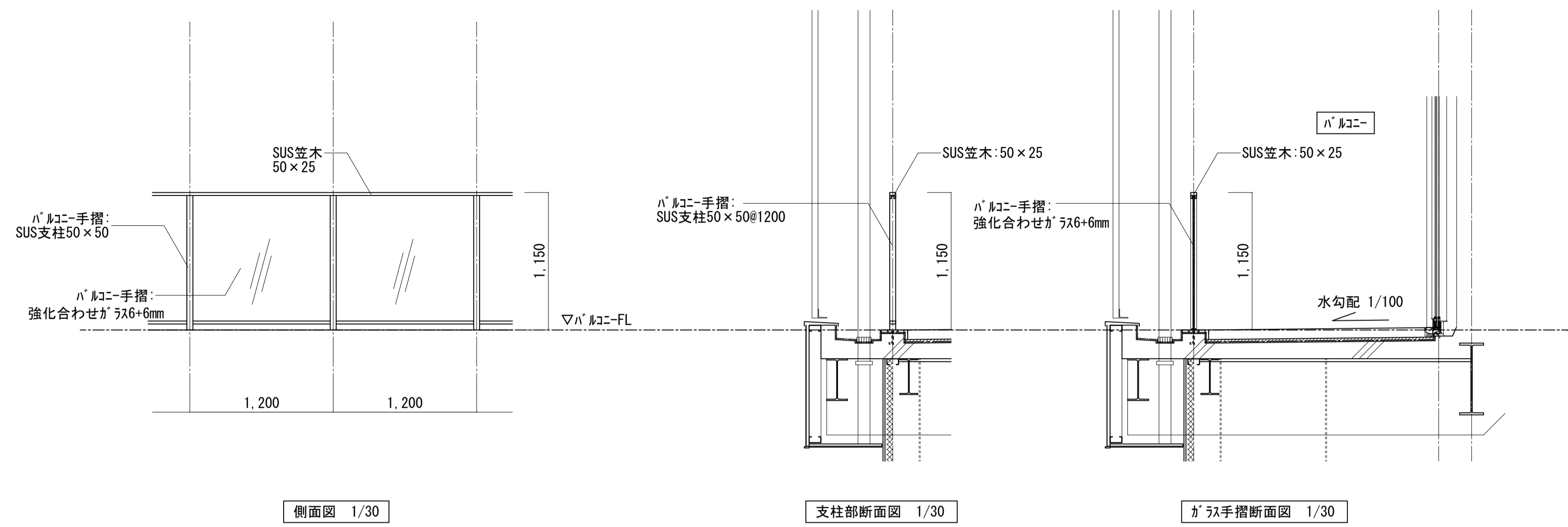
外部建具 枠廻り詳細図 1/10



遮音壁詳細図 1/5



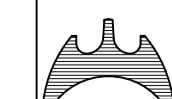
バルコニー手摺 1/30



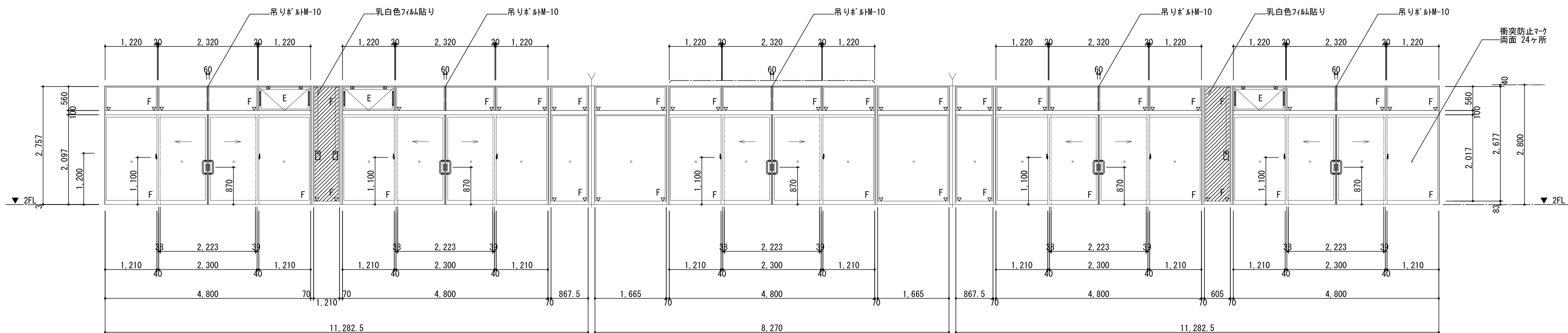
側面図 1/30

支柱部断面図 1/30

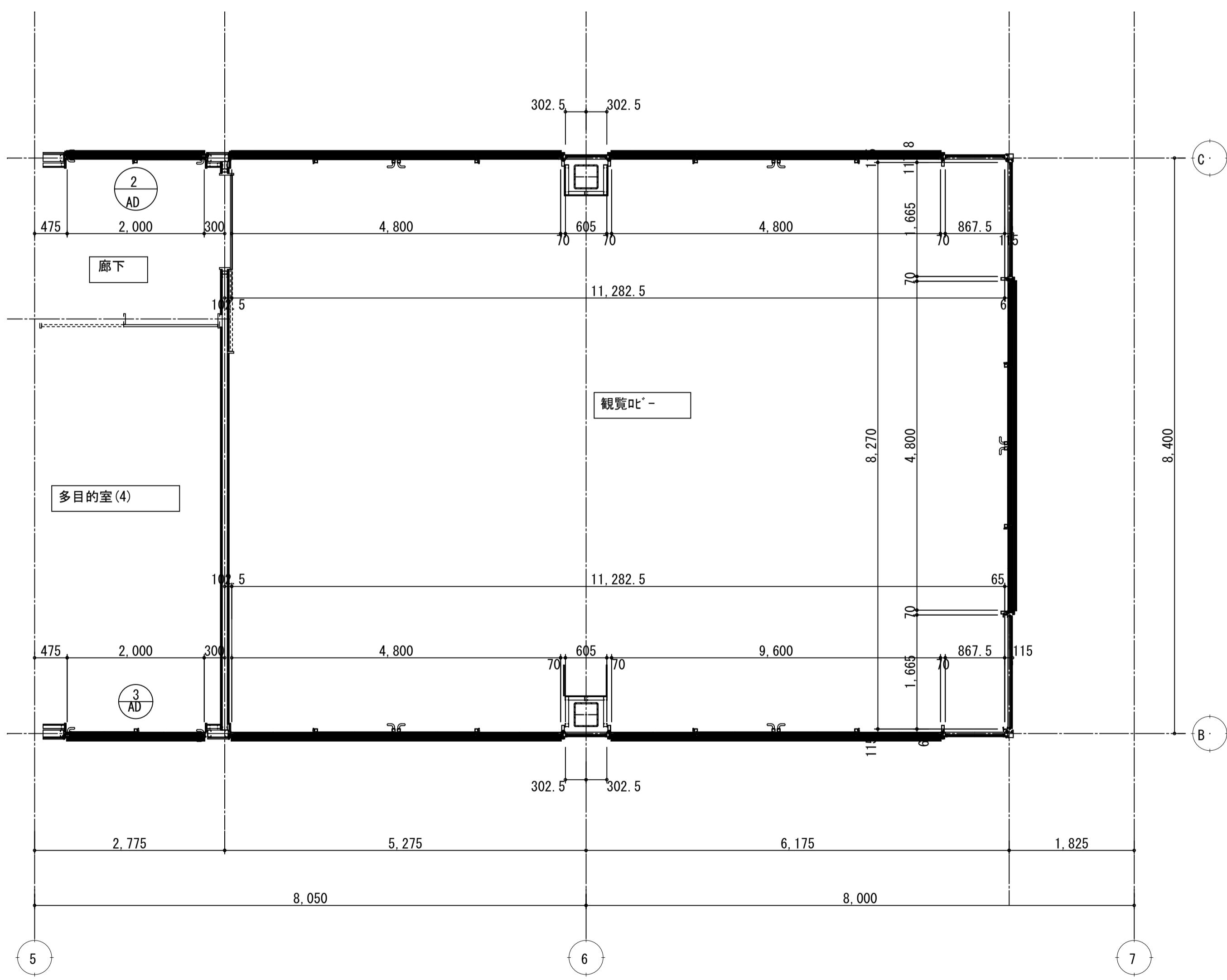
ガラス手摺断面図 1/30



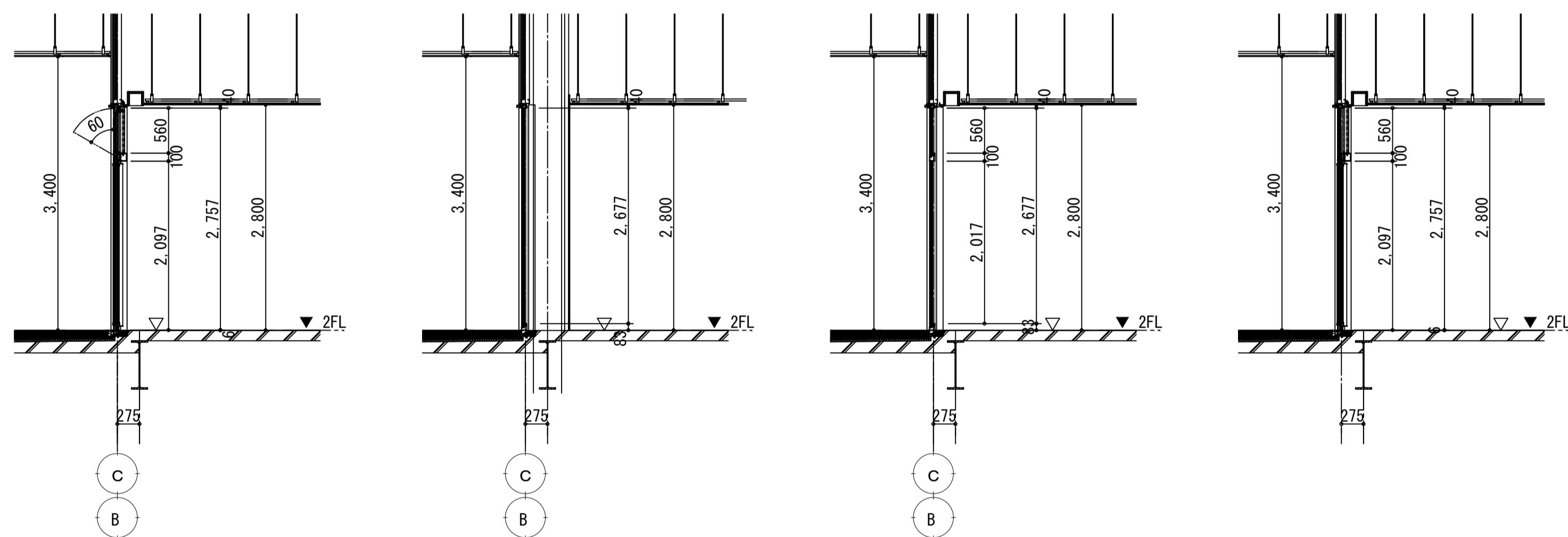
AD-1



内観姿図 1/50

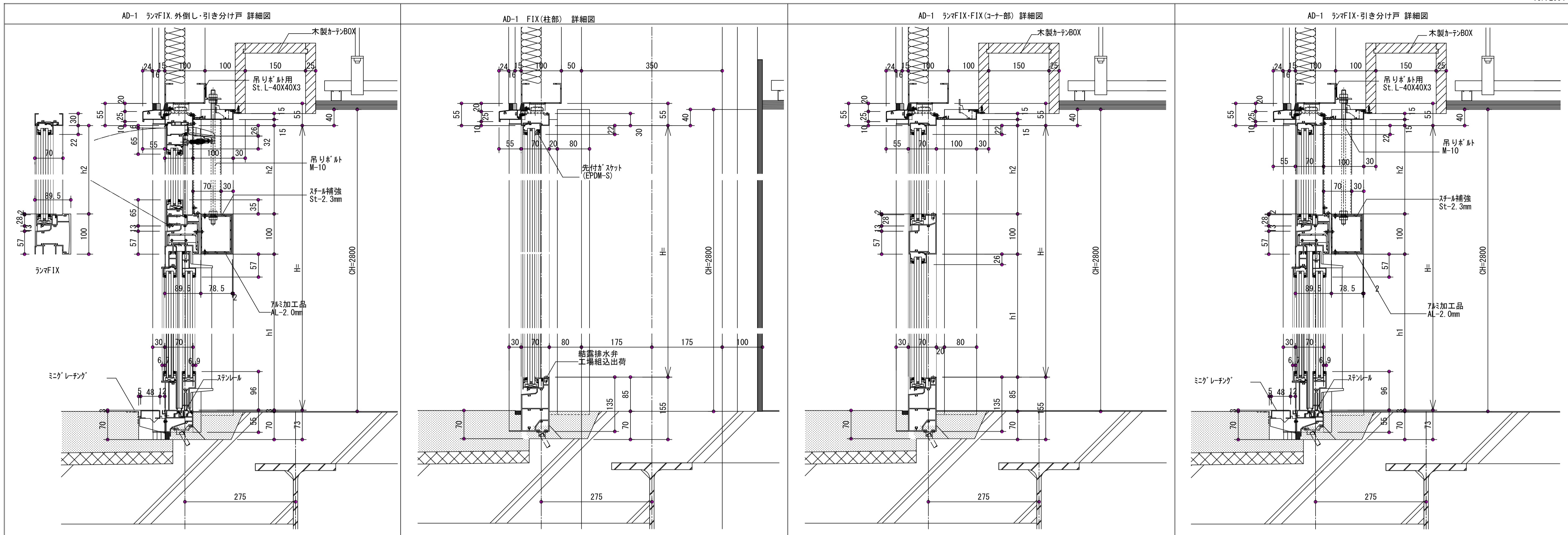


平面図 1/100

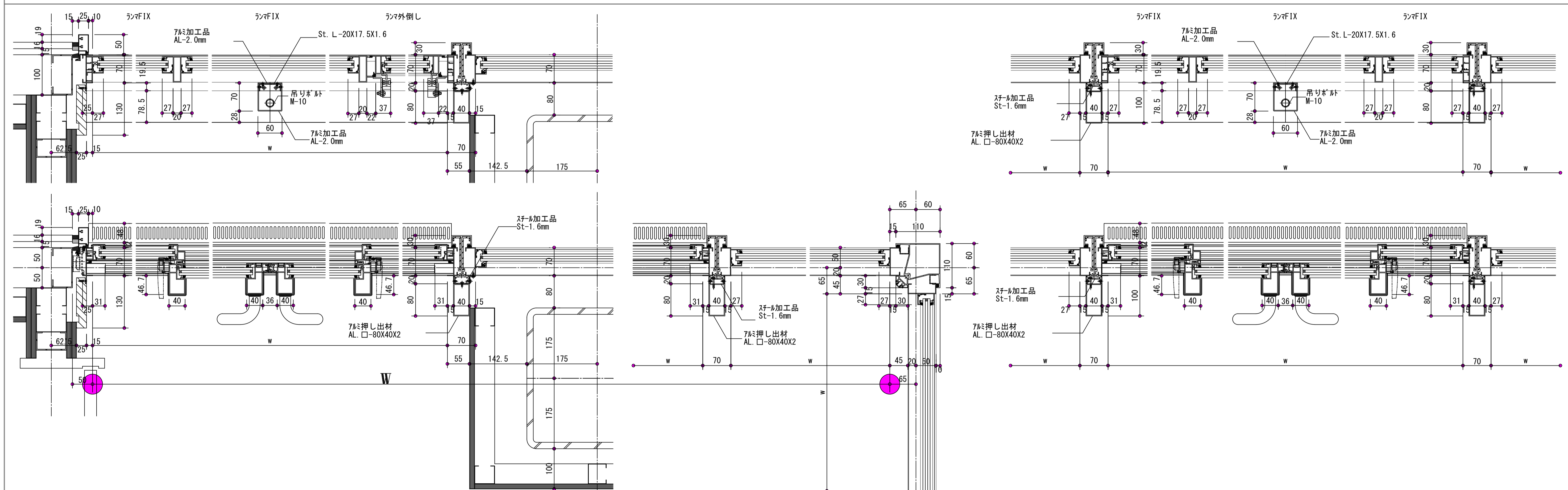


矩計図 1/50

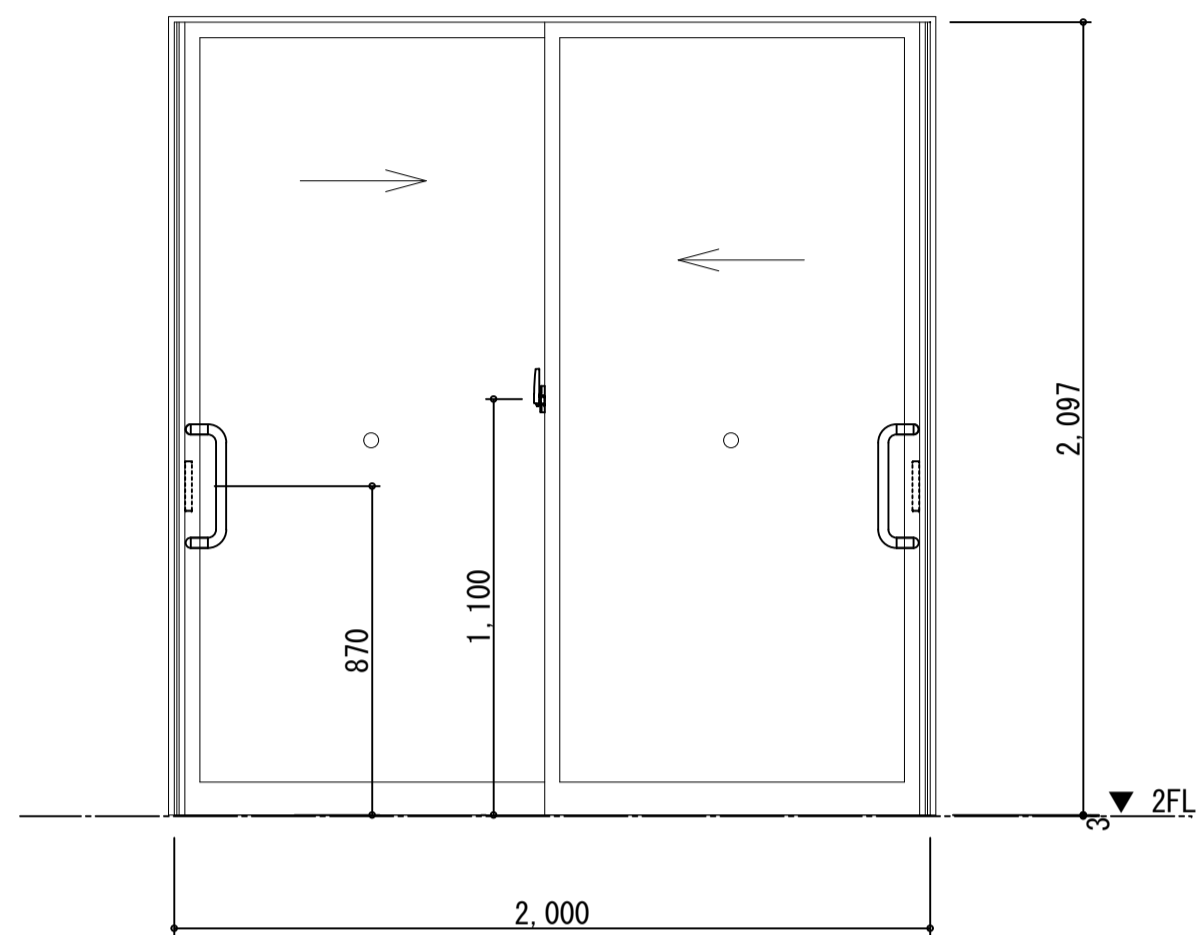
- ・耐風圧性 S-3(1600Pa)
- ・気密性 A-4
- ・水密性 W-5
- ・防火性 非防火かつ
- ・フラット下枠、指はさみ防止、ミニ「レチン」付
- ・内部：大型引手・外部：振込引手



AD-1 平面詳細図

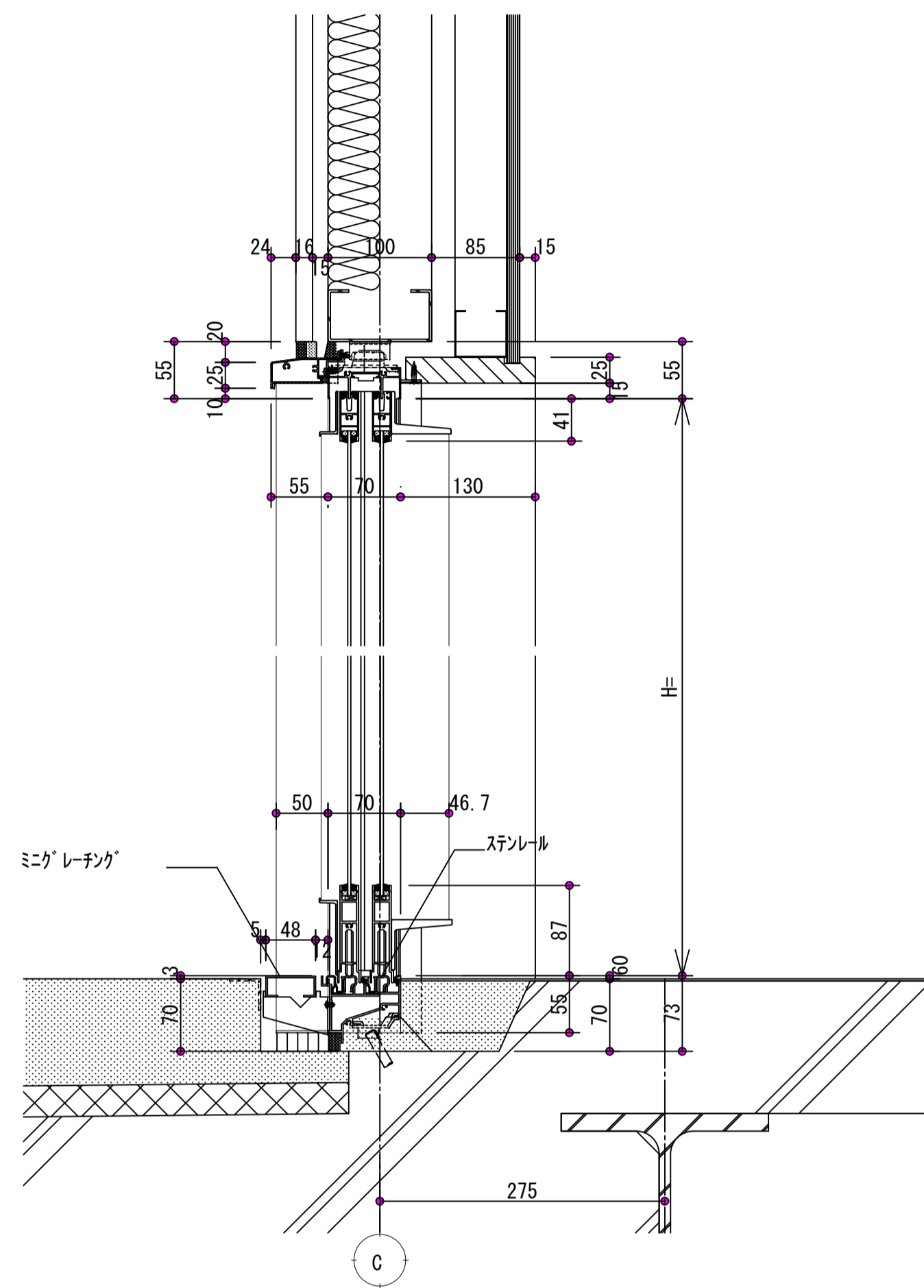


AD-2 姿図・断面詳細図

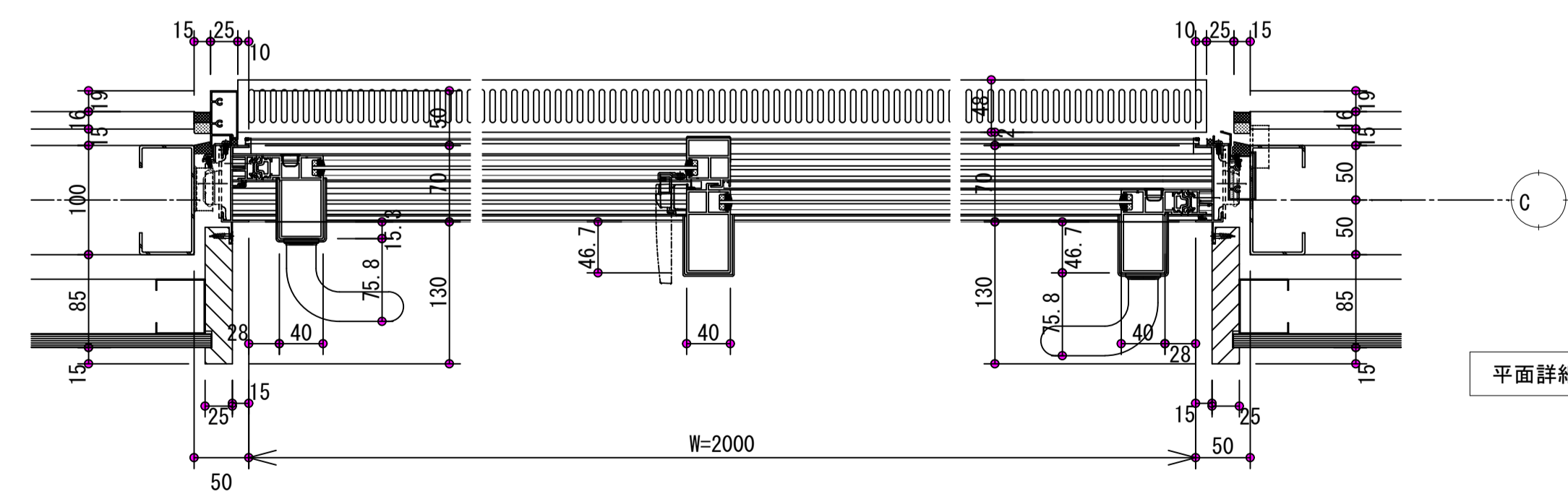


内観姿図 1/20

- ・耐風圧性 S-3 (1600Pa)
- ・気密性 A-4
- ・水密性 W-5
- ・防火性 非防火サツ
- ・フラット下枠、指はさみ防止、ミニグレチング付
- ・内部：大型引手・外部：掘込引手

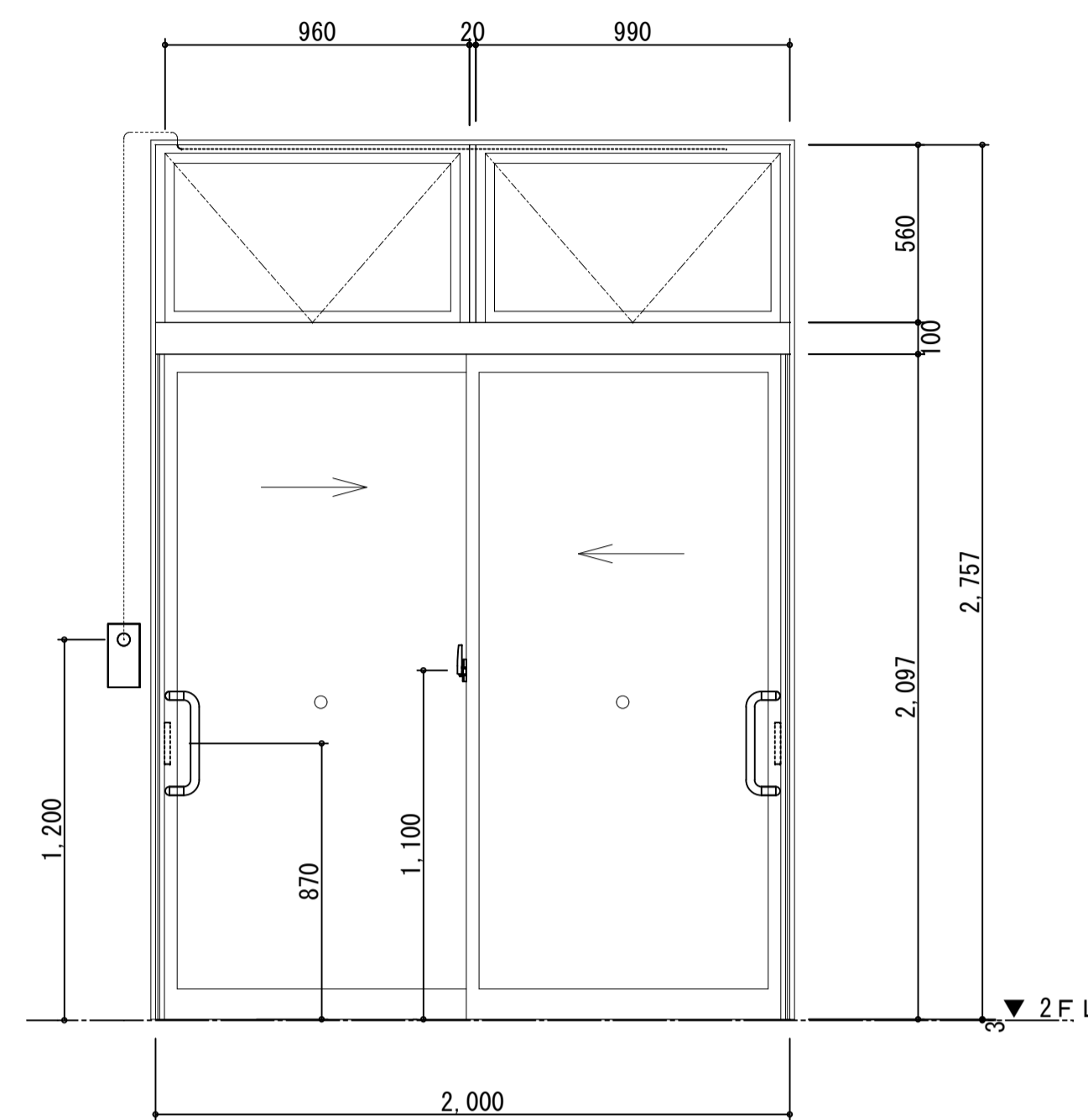


断面詳細図 1/5



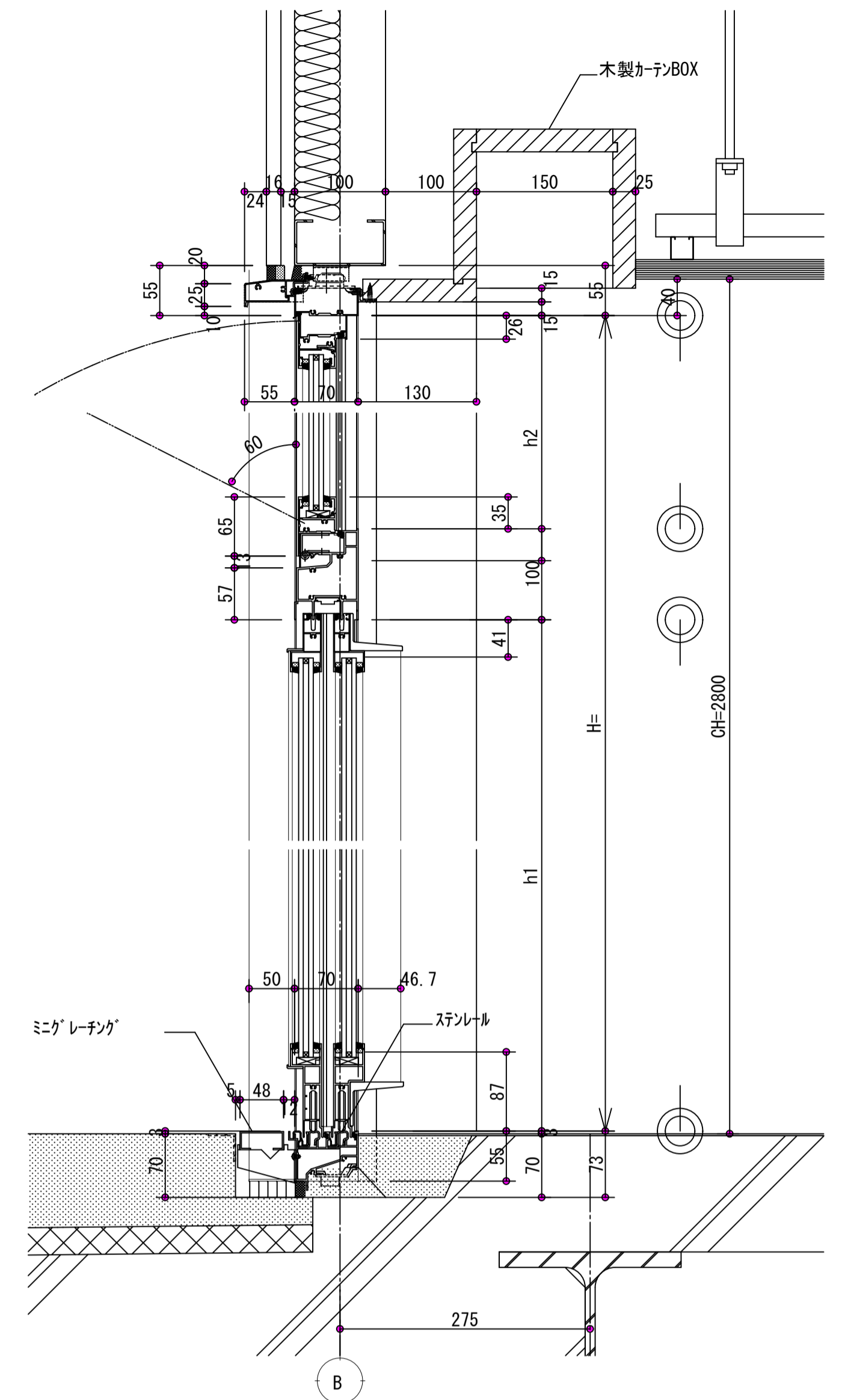
平面詳細図 1/5

AD-3 姿図・断面詳細図

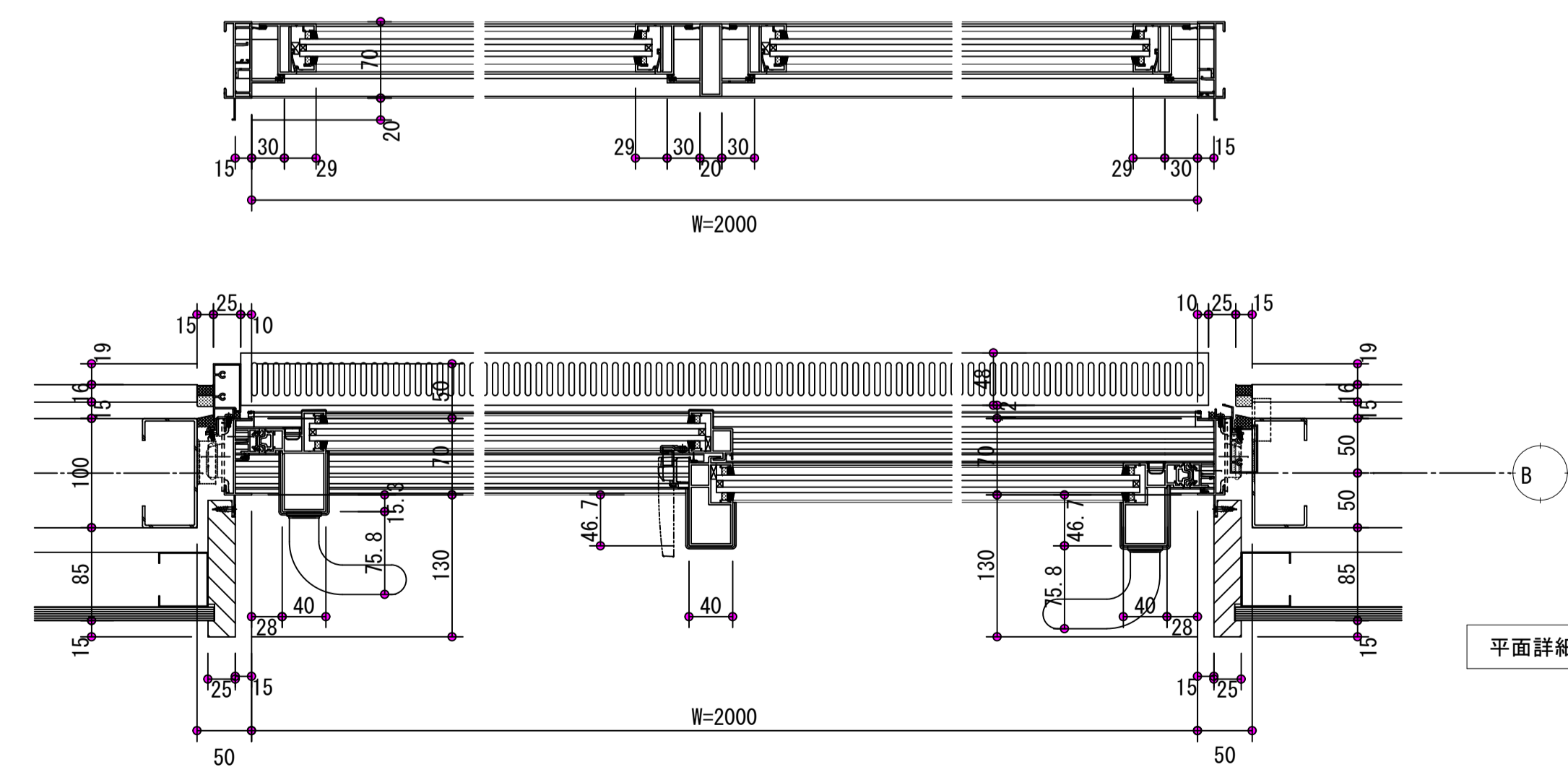


内観姿図 1/20

- ・耐風圧性 S-3 (1600Pa)
- ・気密性 A-4
- ・水密性 W-5
- ・防火性 非防火サツ
- ・フラット下枠、指はさみ防止、ミニグレチング付
- ・内部：大型引手・外部：掘込引手



断面詳細図 1/5



平面詳細図 1/5



株式会社 車田建築設計事務所  
KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES  
1級建築士事務所 登録 22(1)第0587号



福山市建設局建築部営繕課

設計 2023年 3月

工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事

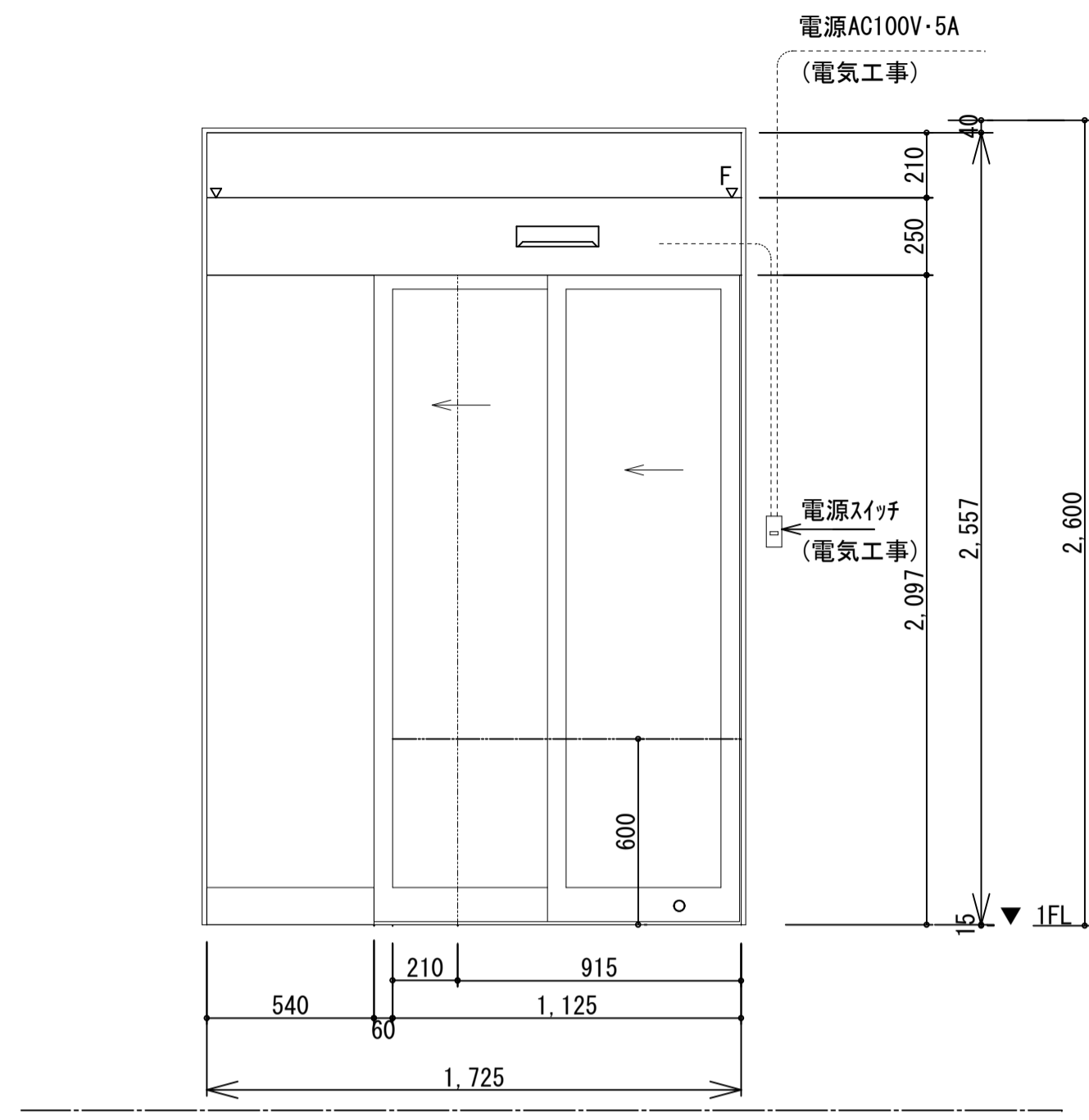
図面名称 【管理棟】建具詳細図(3)<AD-2, AD-3参考図>

縮尺 1/5, 20

A1版: 100%  
A3版: 50%

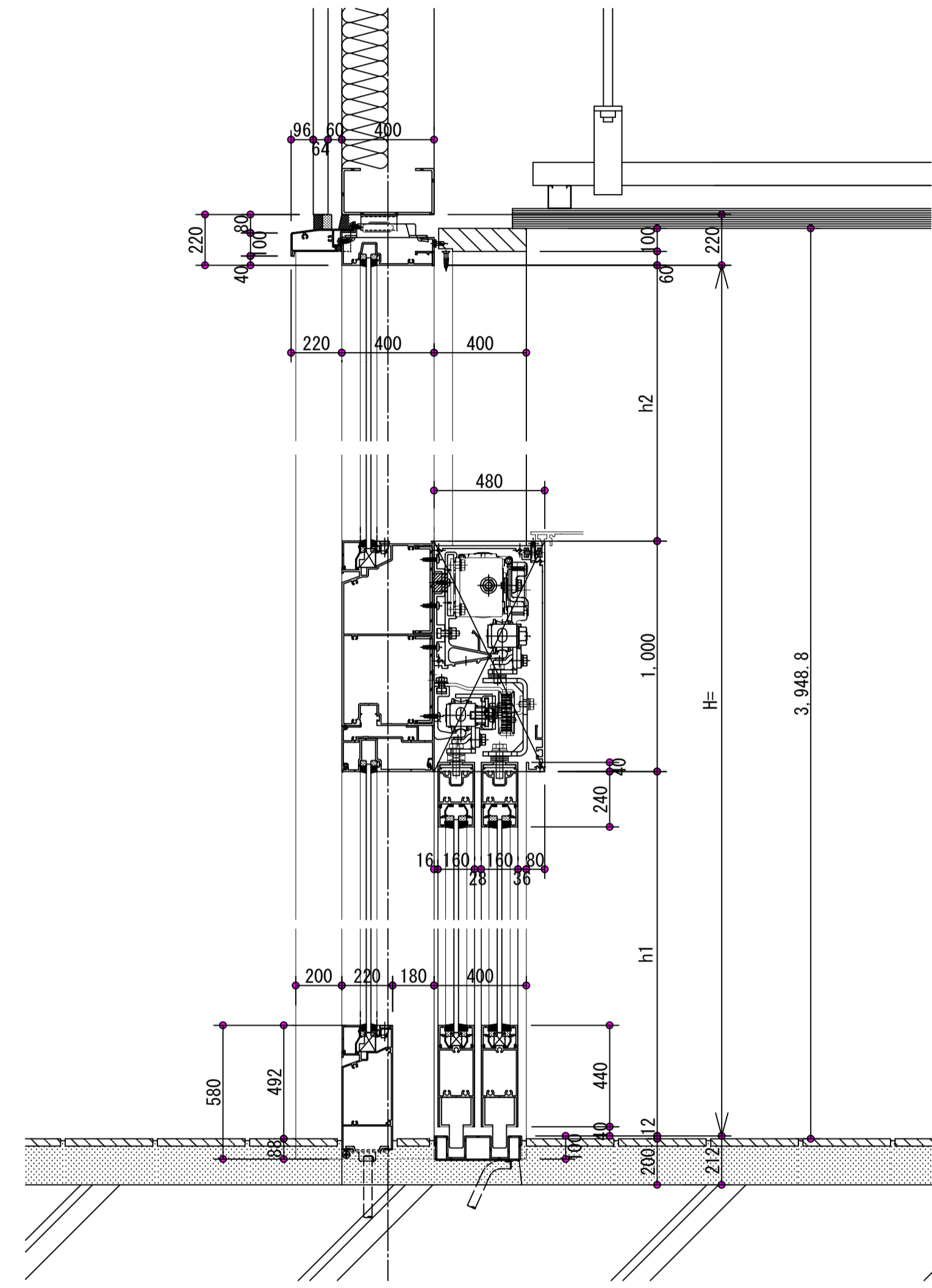
図面No

A-41

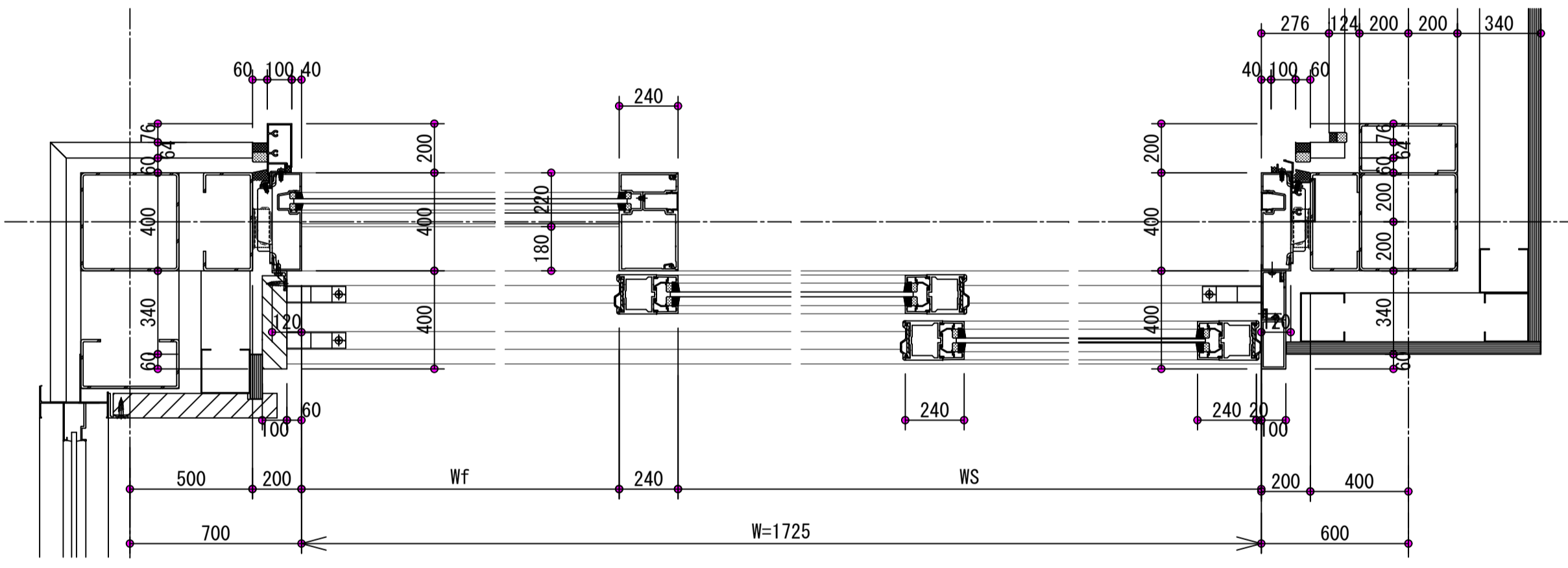
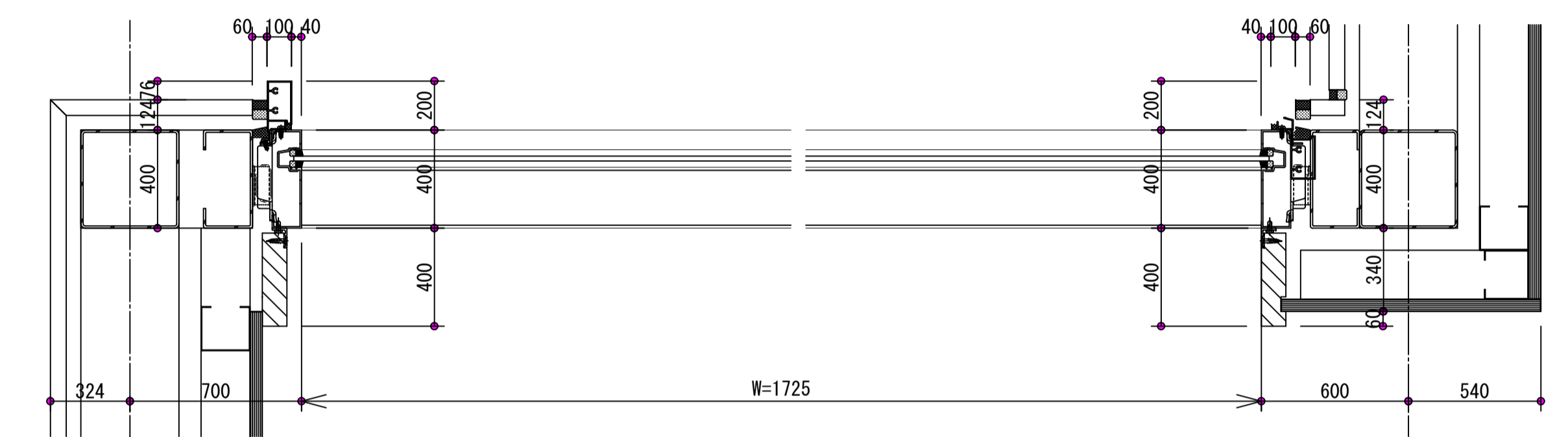


内観姿図 1/20

- ・耐風圧性 S-1 (800Pa)
- ・気密性 -
- ・水密性 -
- ・防火性 非防火サッシ

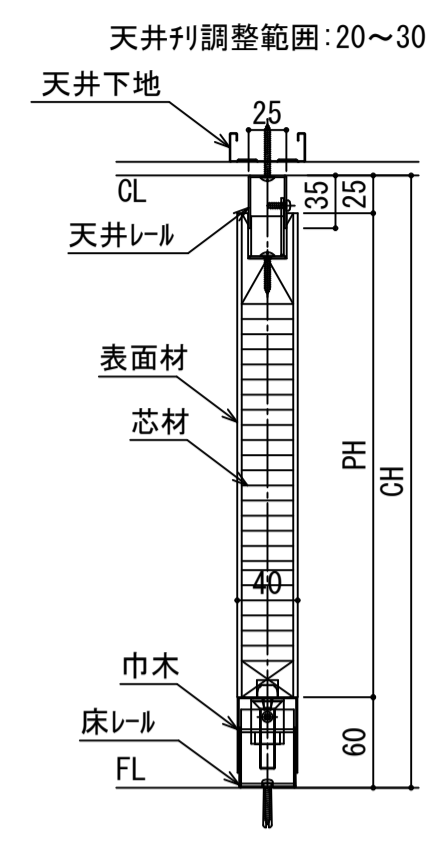


断面詳細図 1/5

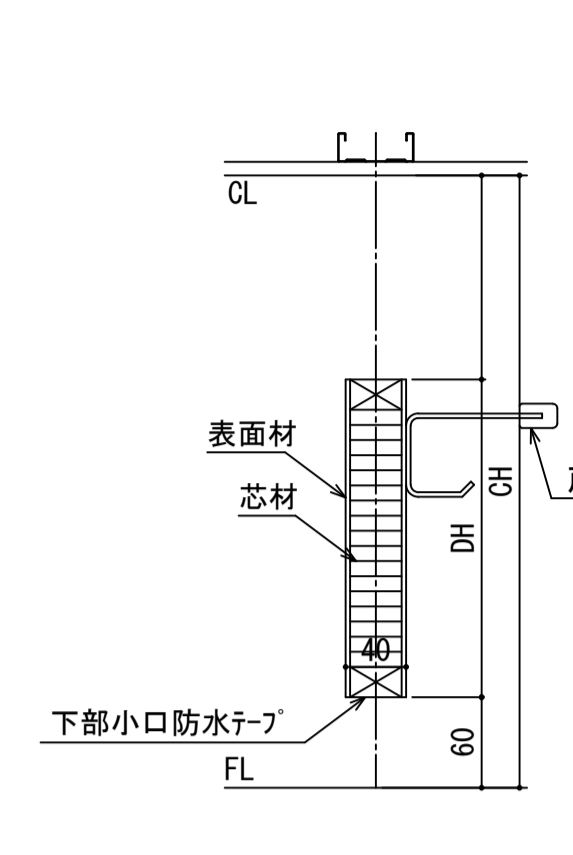


平面詳細図 1/5

ハ' 柵詳細



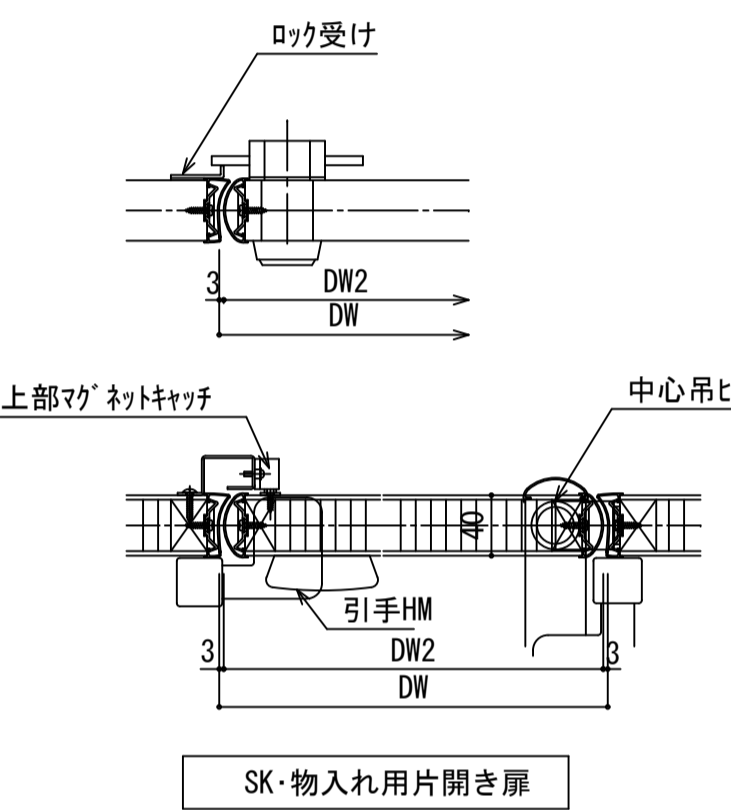
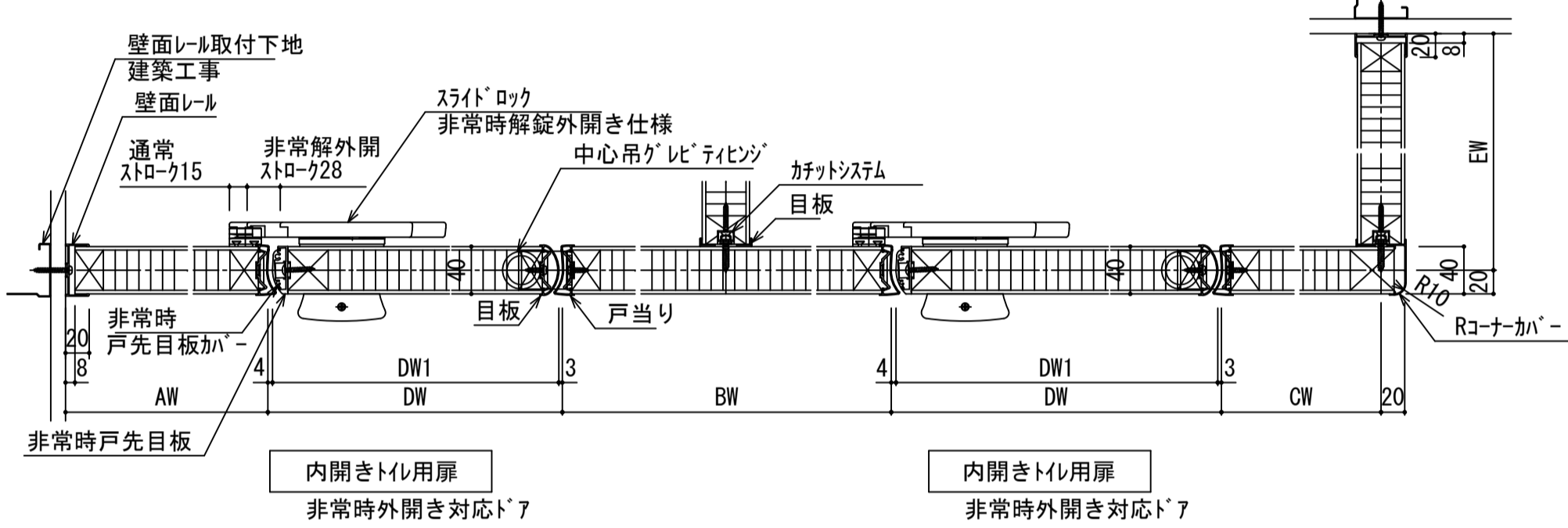
扉詳細



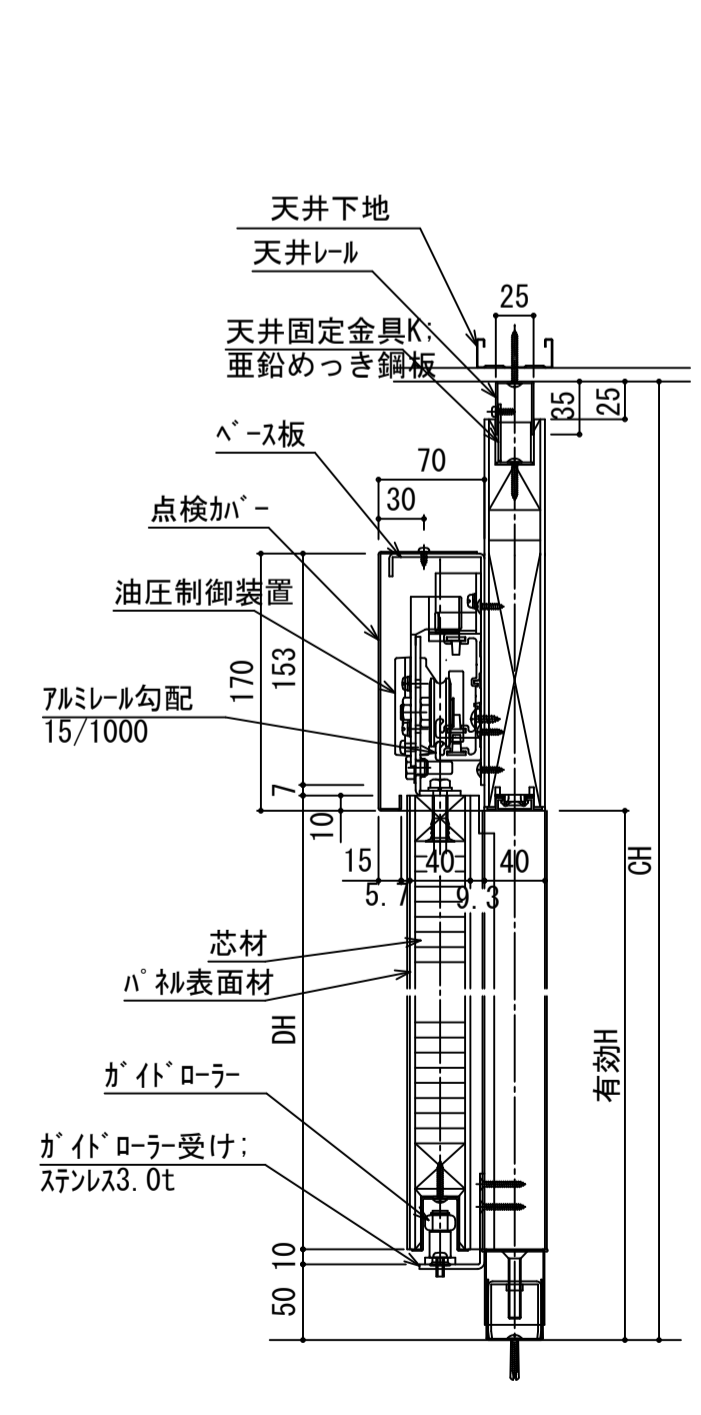
◇仕様表 (参考品番:小松ケル工業(株) サティTB-GPRタイプ)

項目	部材	材料(板厚mm)
ハ' 柵	ハ' 柵表面材	高圧メラミン樹脂化粧板(下地:MDF)
	芯材	ベ'ハ'コア
付属品	目板/戸当り	7&ミ押出形材 <7&ミマイトリア処理仕上>
	巾木/床レール	ステンレス 0.8mm <ヘアライン仕上>
	天井レール	ステンレス 1.2mm <ヘアライン仕上>
	壁面レール/コーナー	7&ミ押出形材 <7&ミマイトリア処理仕上>
	ヒンジ/SKヒンジ	中心吊りレ'ティヒンジ/中心吊ヒンジ
	ロック	スライドロックEC(非常時解錠外開き仕様)
	その他金物	戸当り帽子掛けSK/引手HM
カム	ハ' 柵表面材(ド'アハ' 柵)	高圧メラミン樹脂化粧板(下地:MDF)
	芯材(ド'アハ' 柵)	ベ'ハ'コア
	フロントゴ'ム	ホ'リ塩化ビ'ニル(PVC)
	ハ'ス板	亜鉛めっき鋼板2.3mm
	点検カバー	冷間圧延鋼板1.2mm <焼付塗装仕上>
	ロック	非常解錠付樹脂製カム<SLB-20SW>
	引手	ステンレス鏡面ハンド'ルφ25

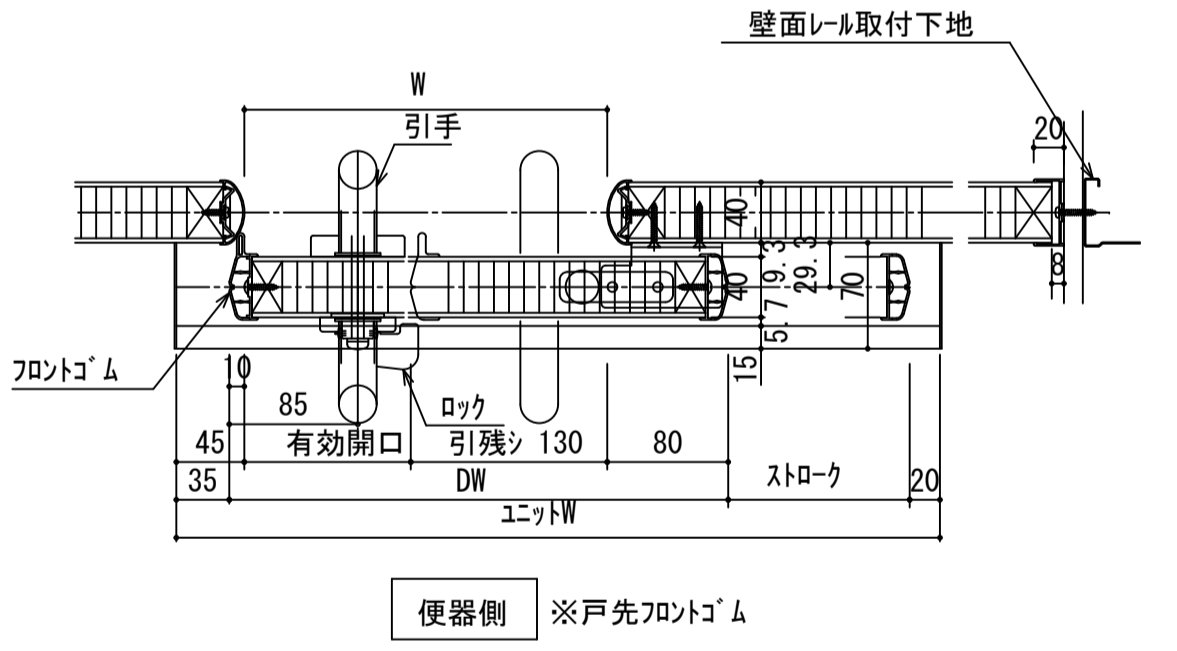
巾木調整範囲:巾木H-10~巾木H+15



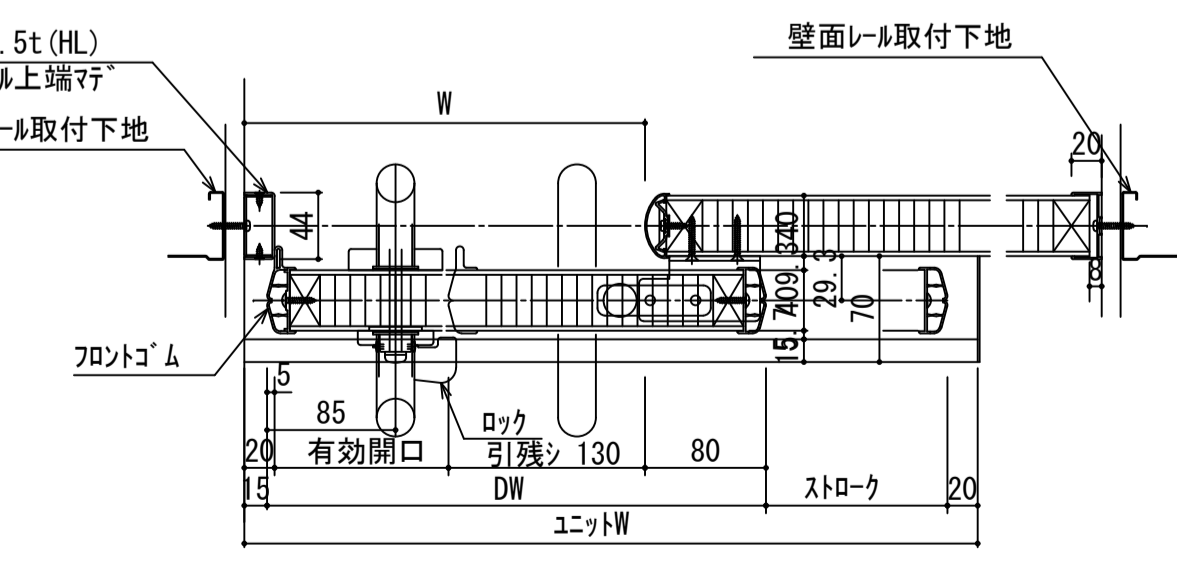
内開きトイ'用扉 非常時外開き対応'7  
内開きトイ'用扉 非常時外開き対応'7  
SK・物入れ用片開き扉



カム詳細

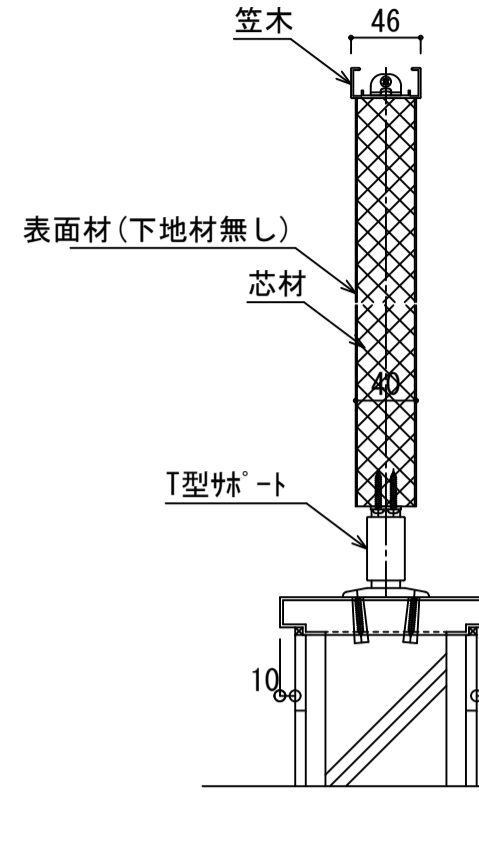


便器側 ※戸先フロントゴ'ム

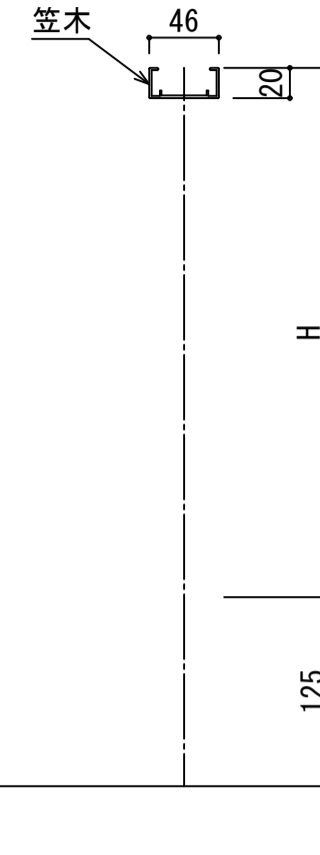


便器側 ※戸先フロントゴ'ム

SWハ' 柵詳細

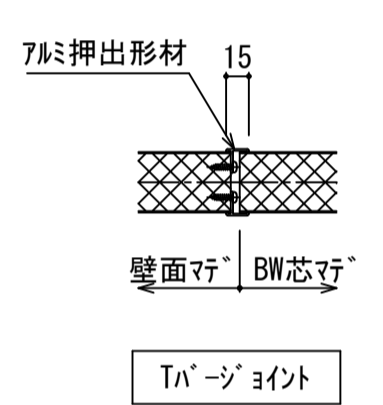
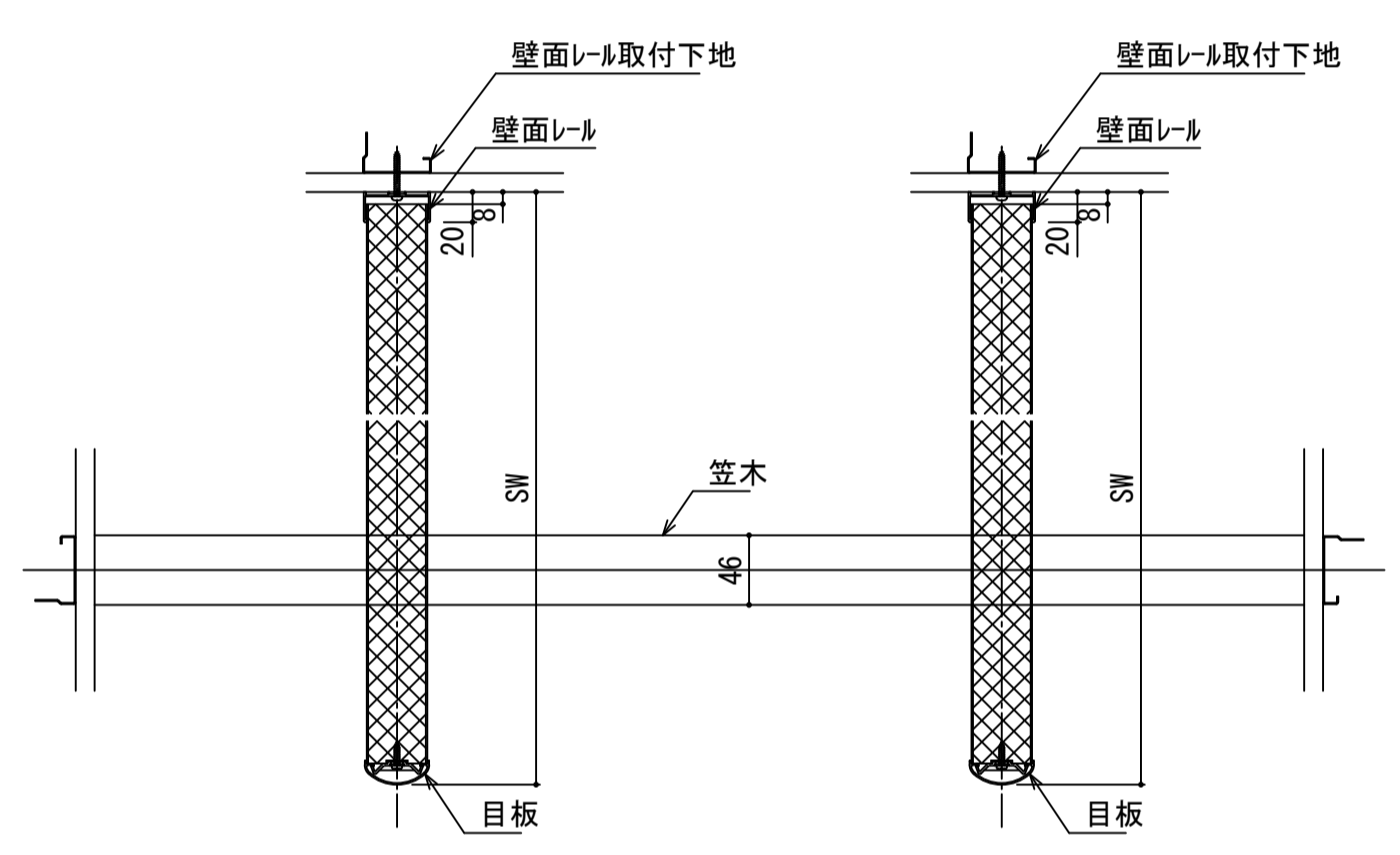


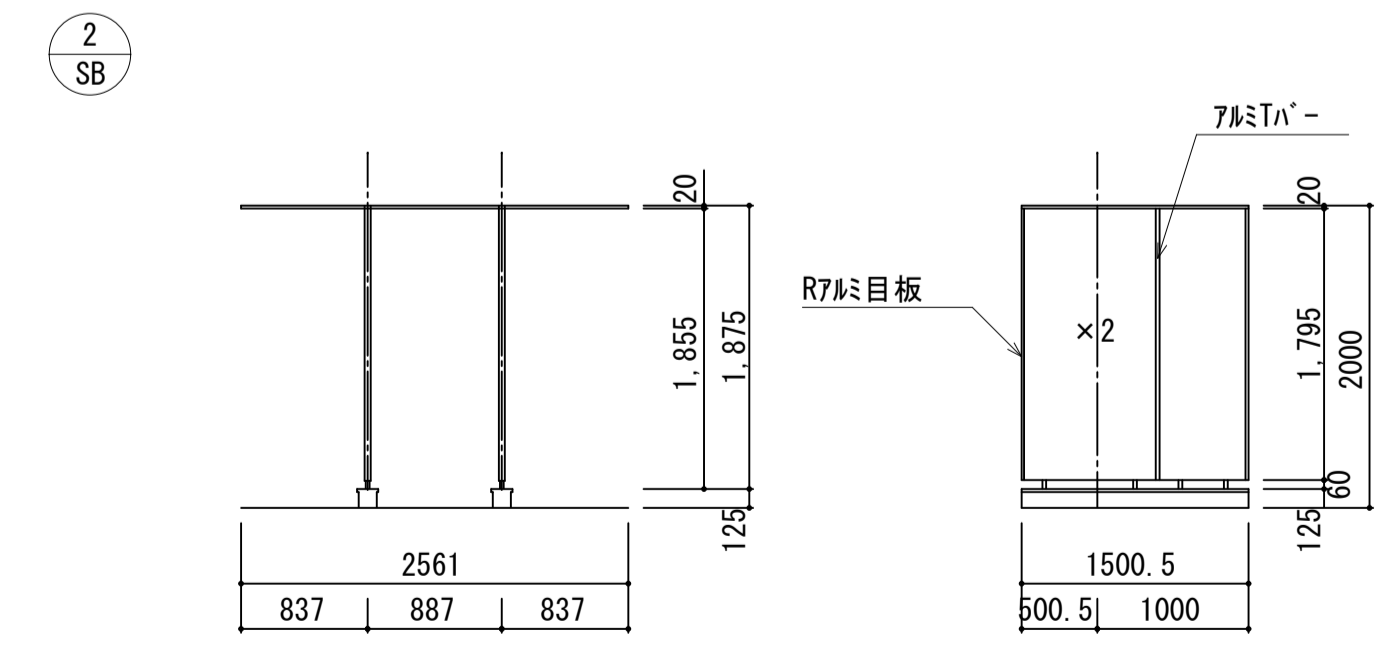
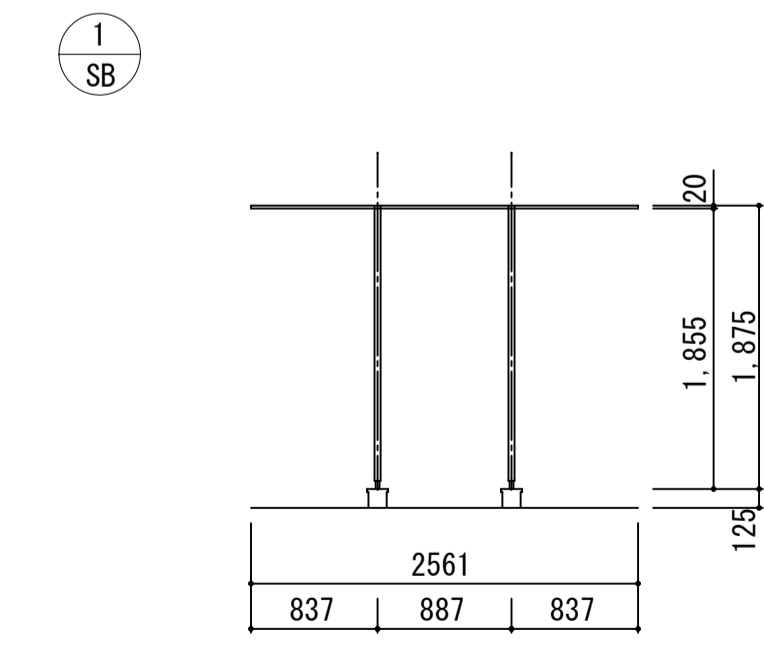
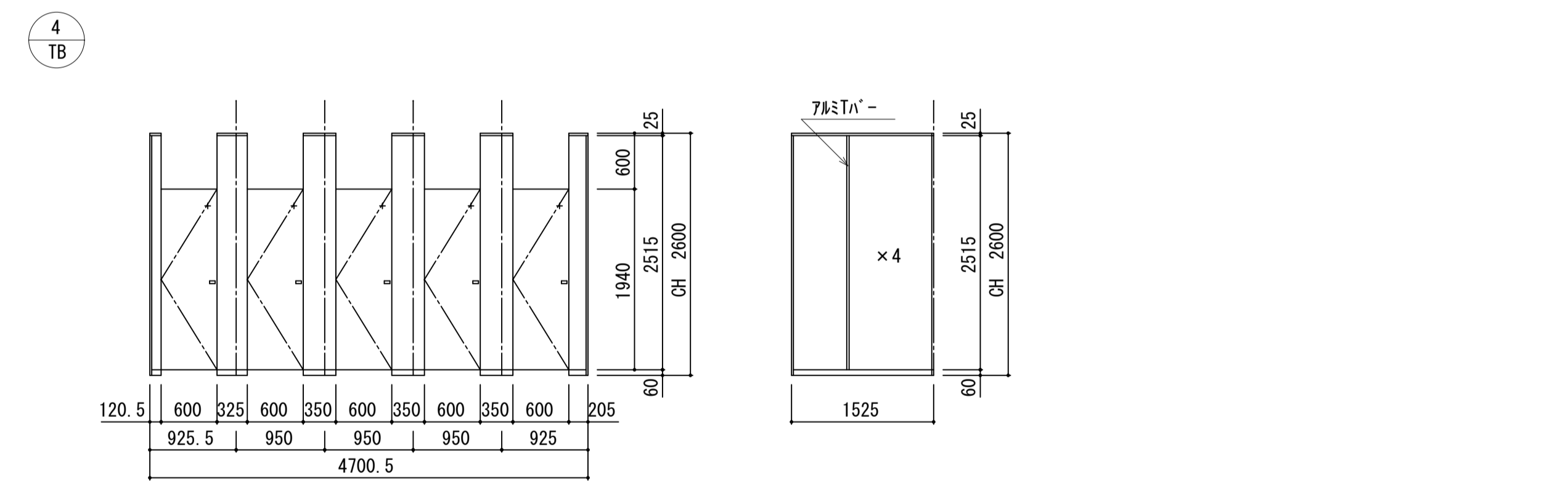
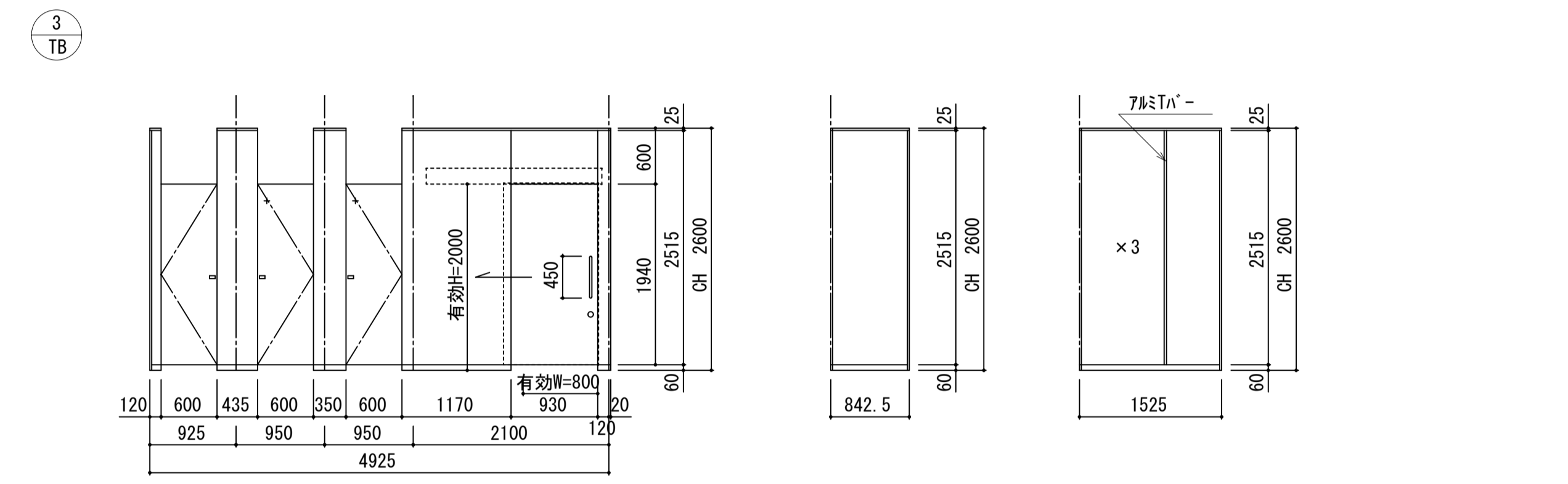
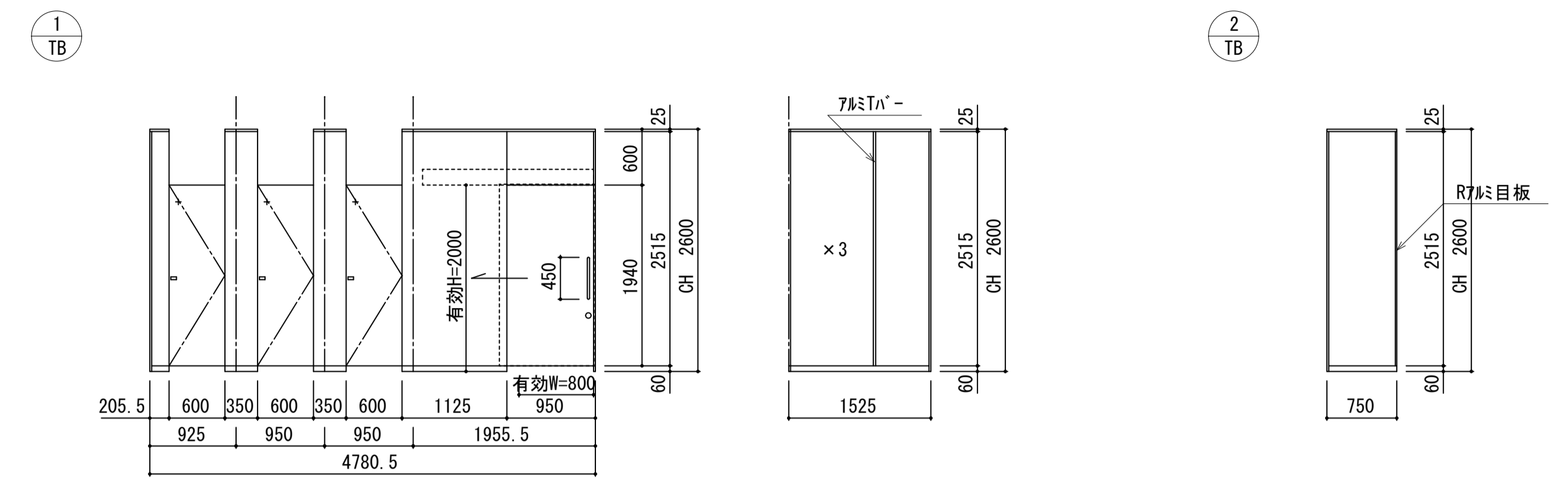
オープン部詳細



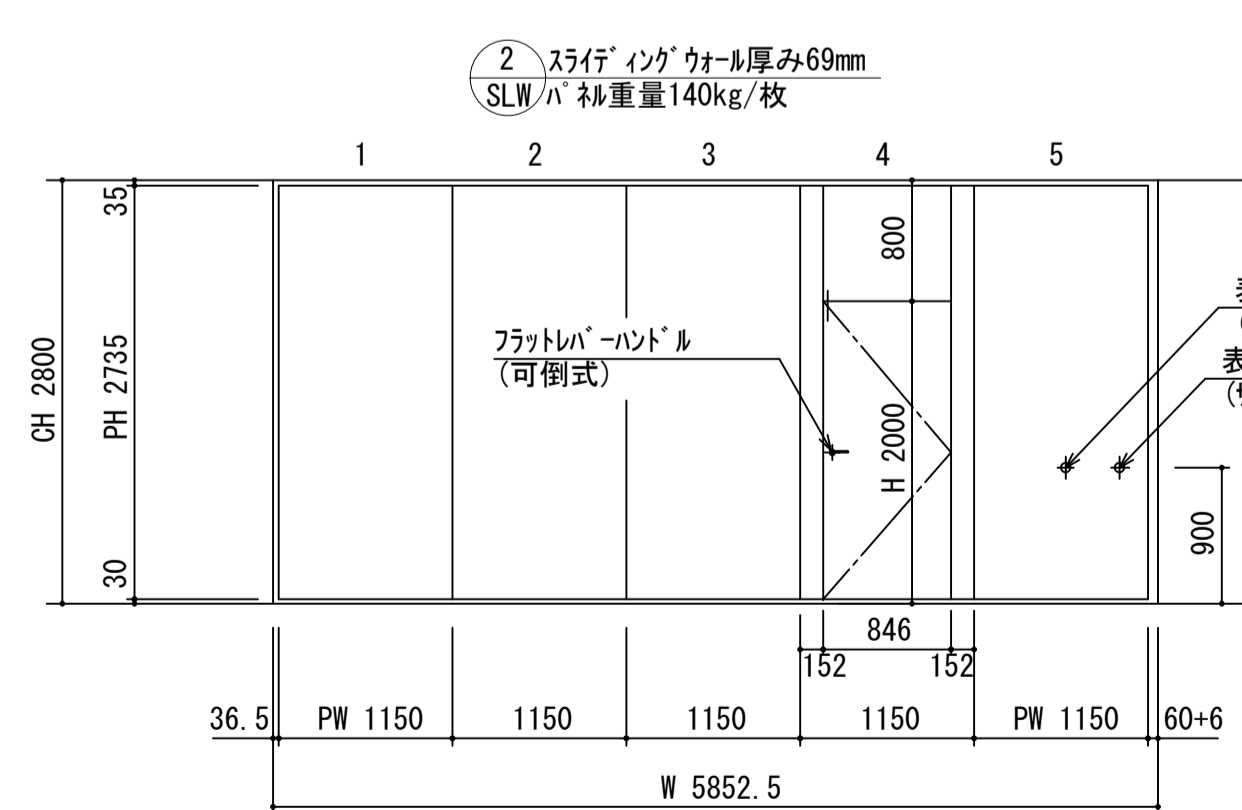
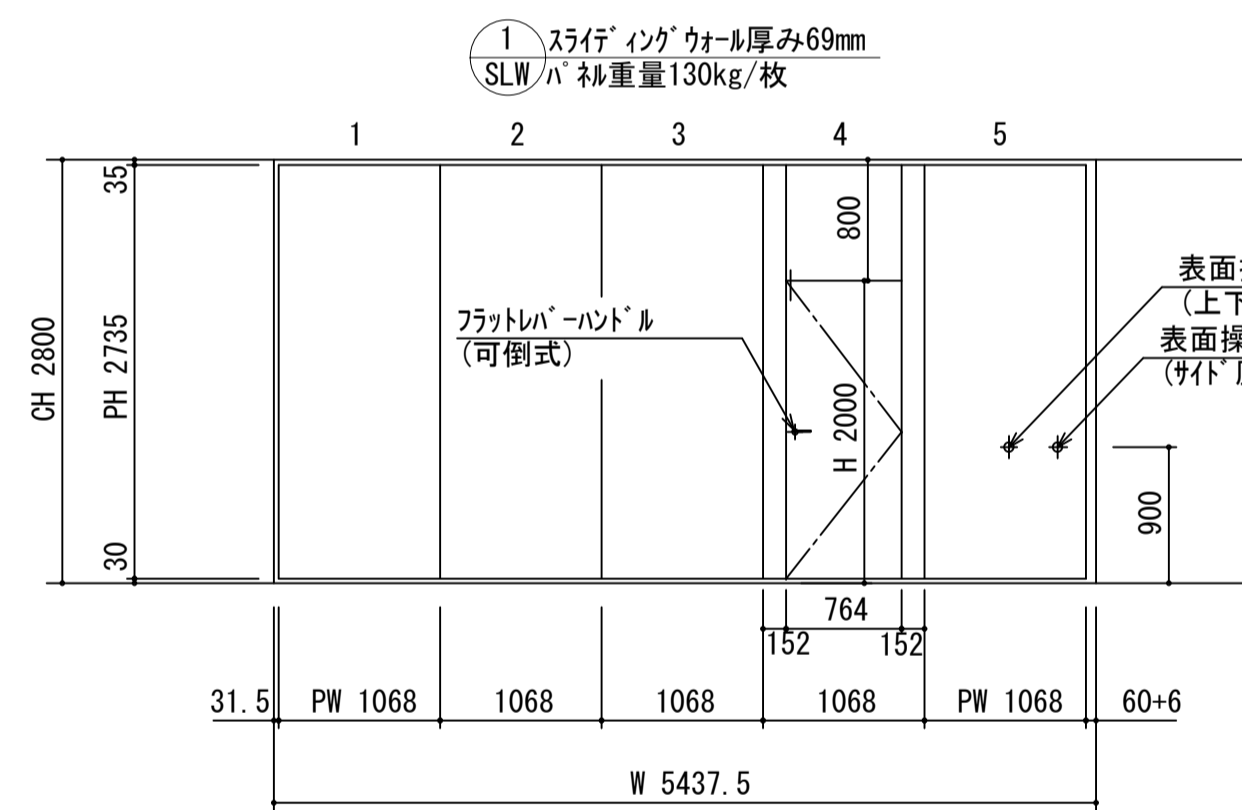
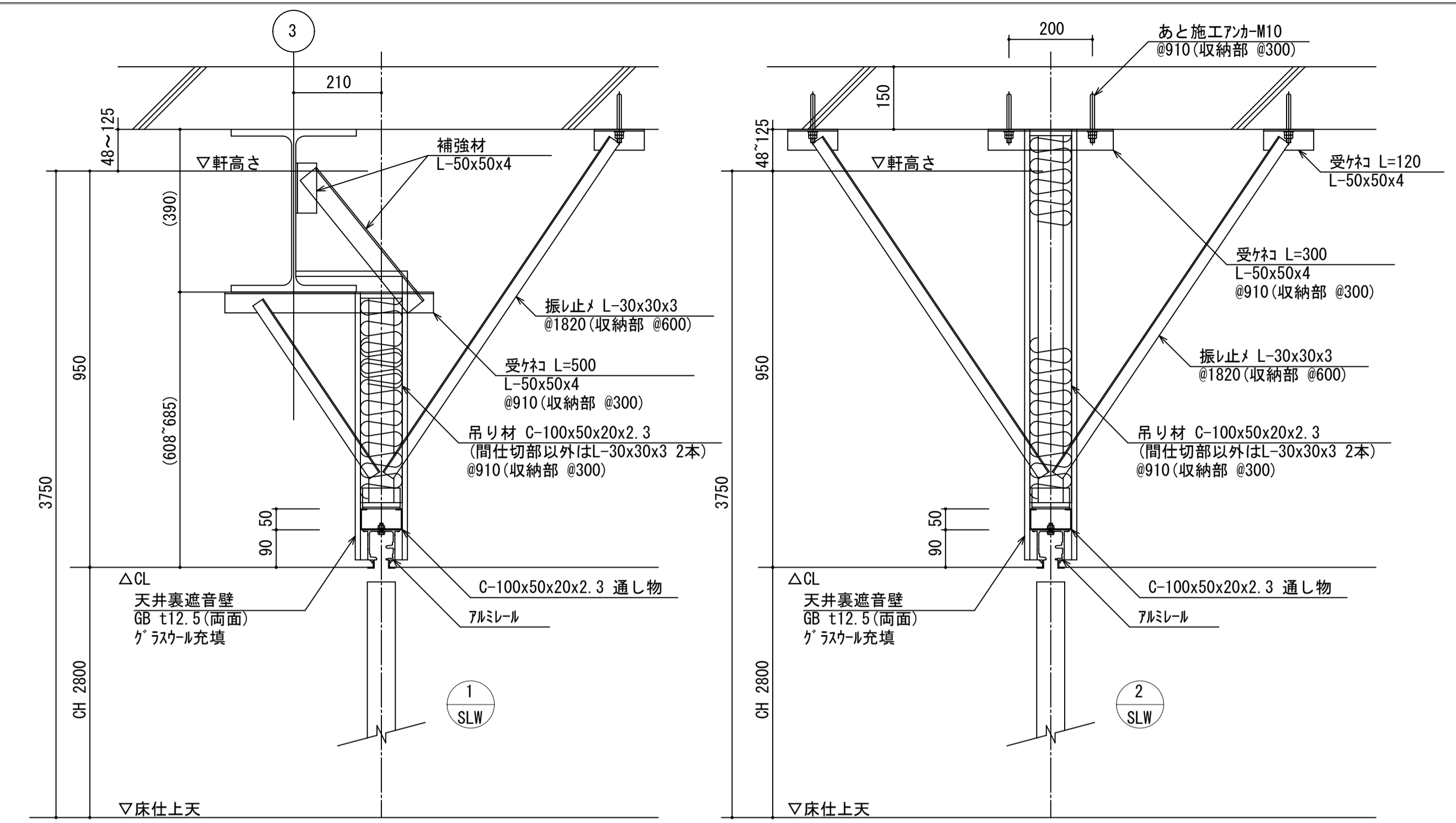
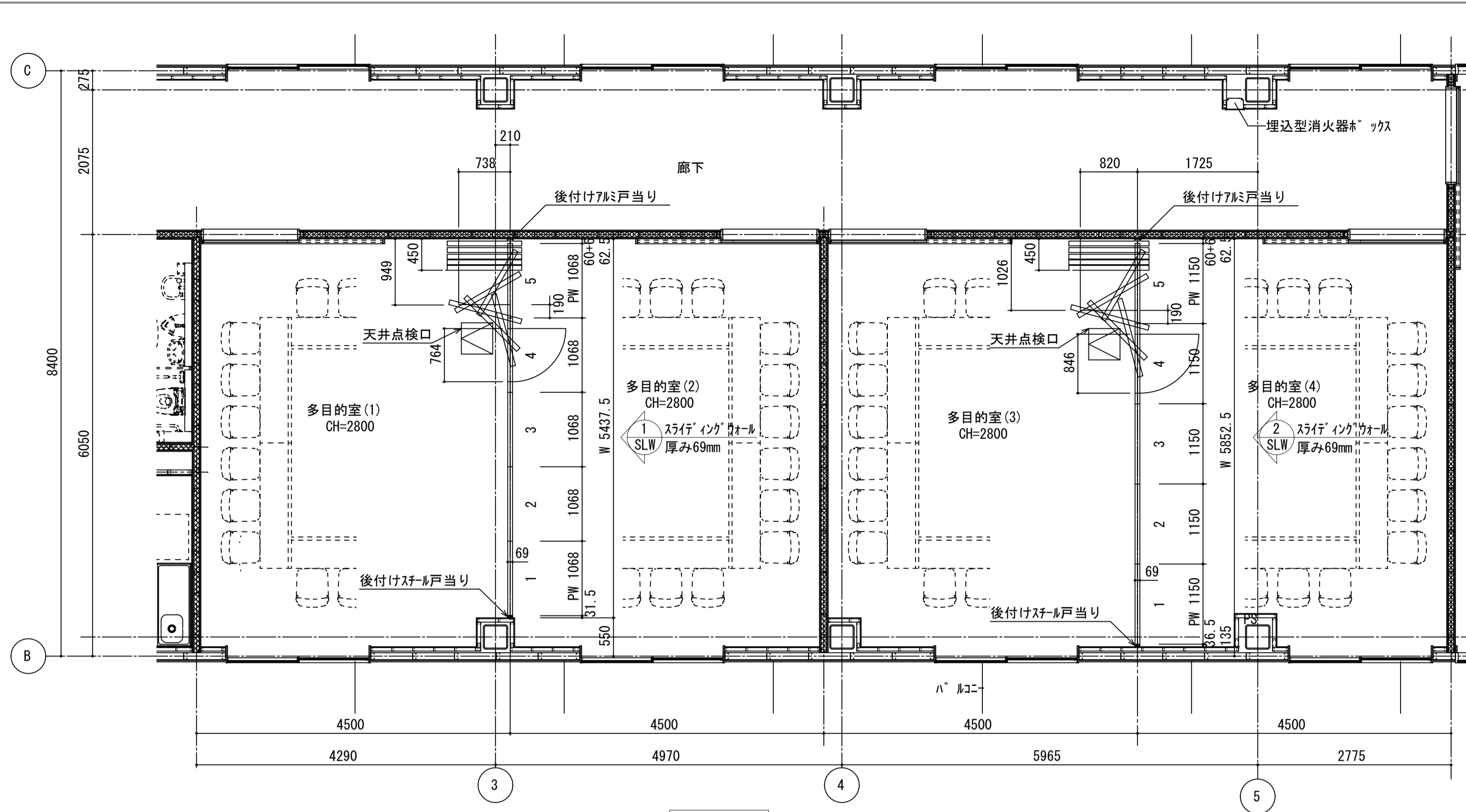
◇仕様表 (参考品番:小松ケル工業(株) SB-GPRタイプ)

項目	部材	材料
ハ' 柵	SWハ' 柵表面材	高圧メラミン樹脂化粧板
	SWハ' 柵芯材	発泡'リスフェ'ニト'
付属品	脚金物	T型サ'ート <ヘアライン仕上>
	笠木	7&ミ押出形材 <7&ミマイトリア処理仕上>
	目板	7&ミ押出形材 <7&ミマイトリア処理仕上>
	壁面レール	7&ミ押出形材 <7&ミマイトリア処理仕上>



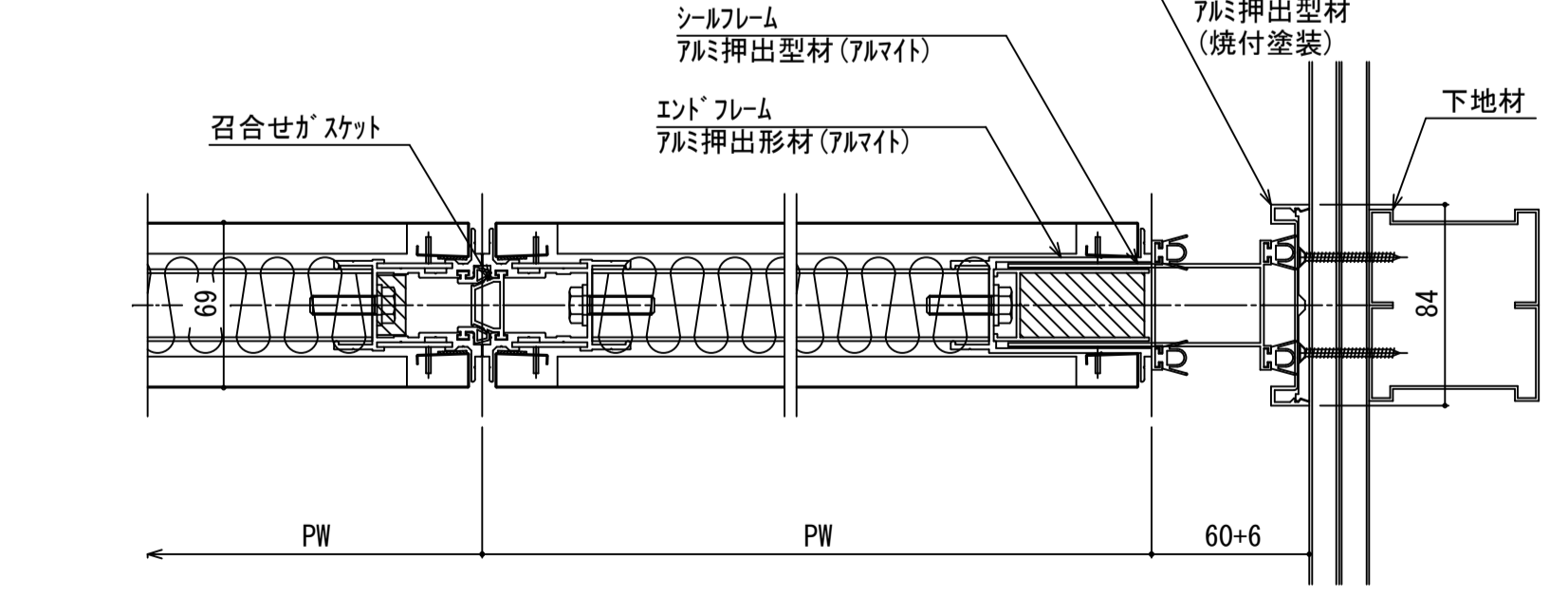
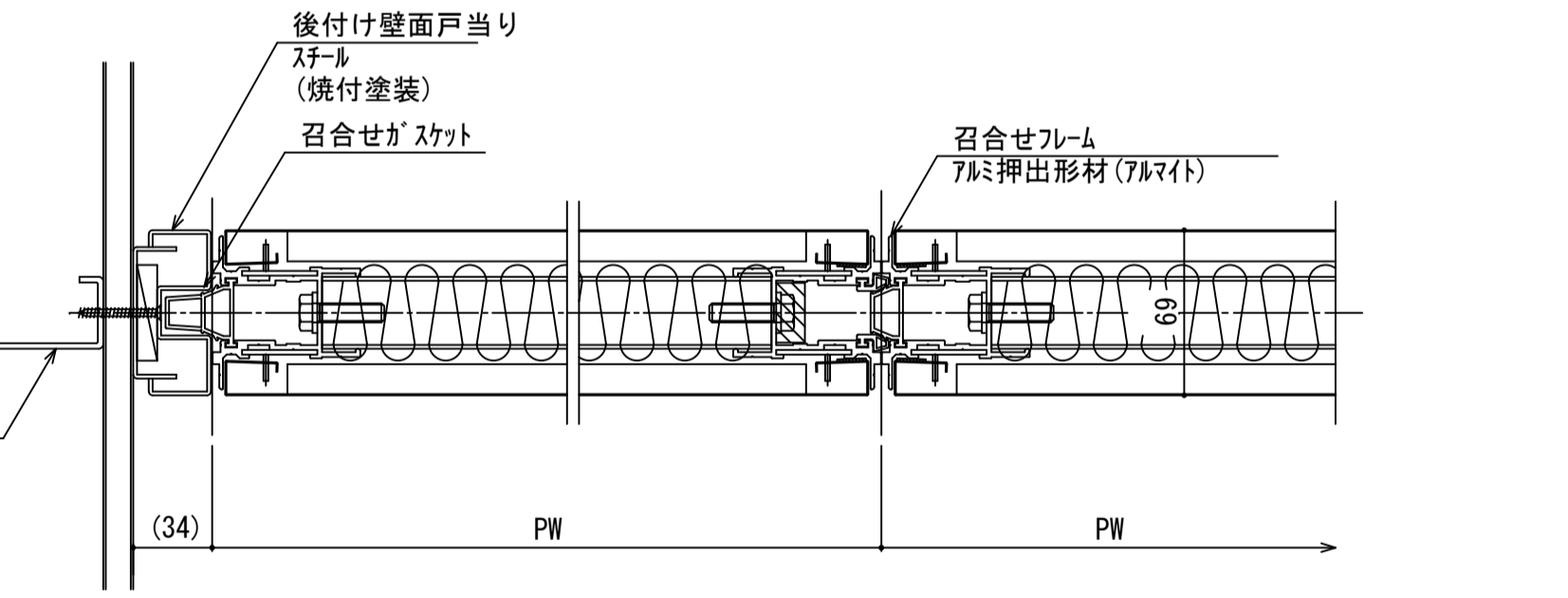
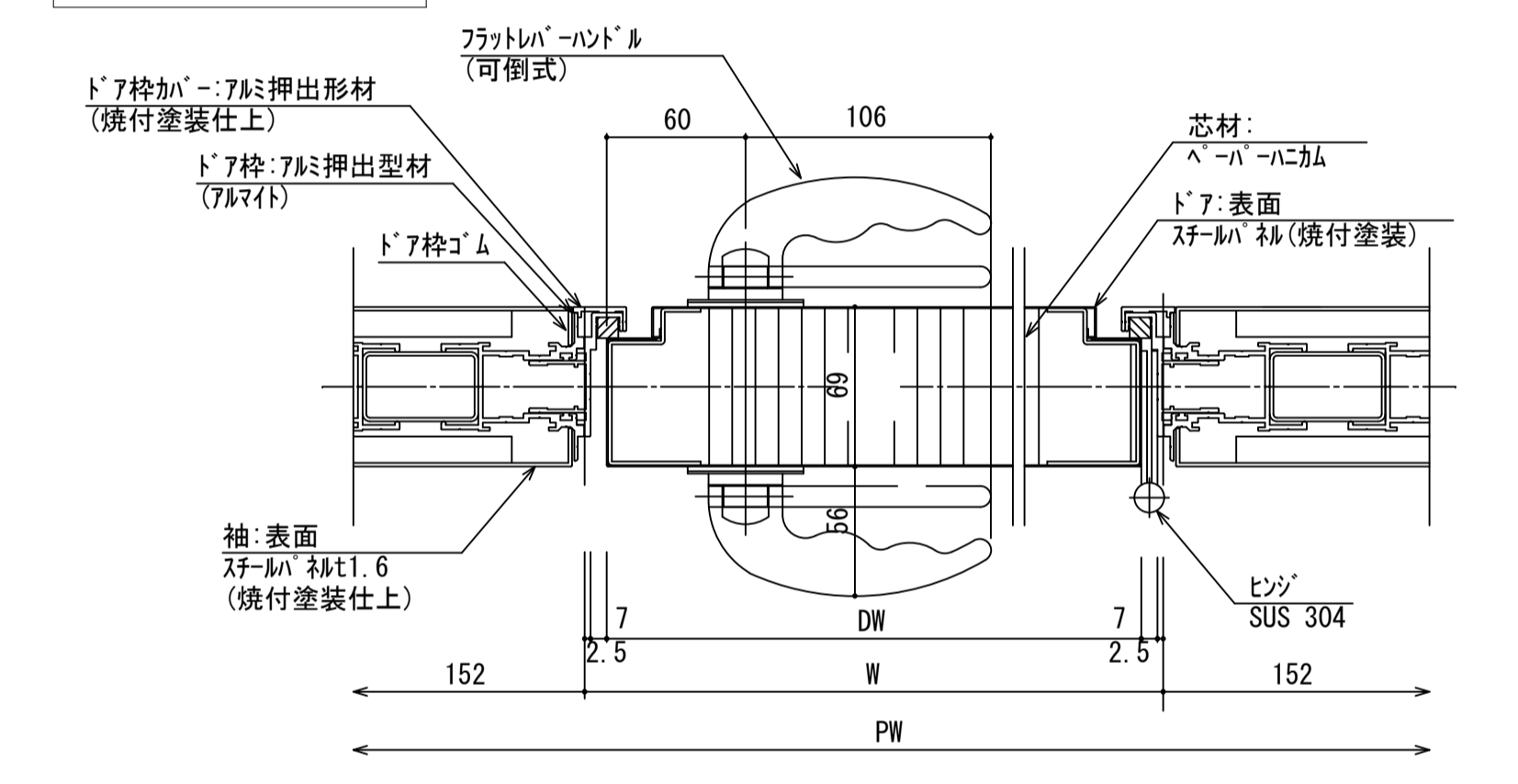
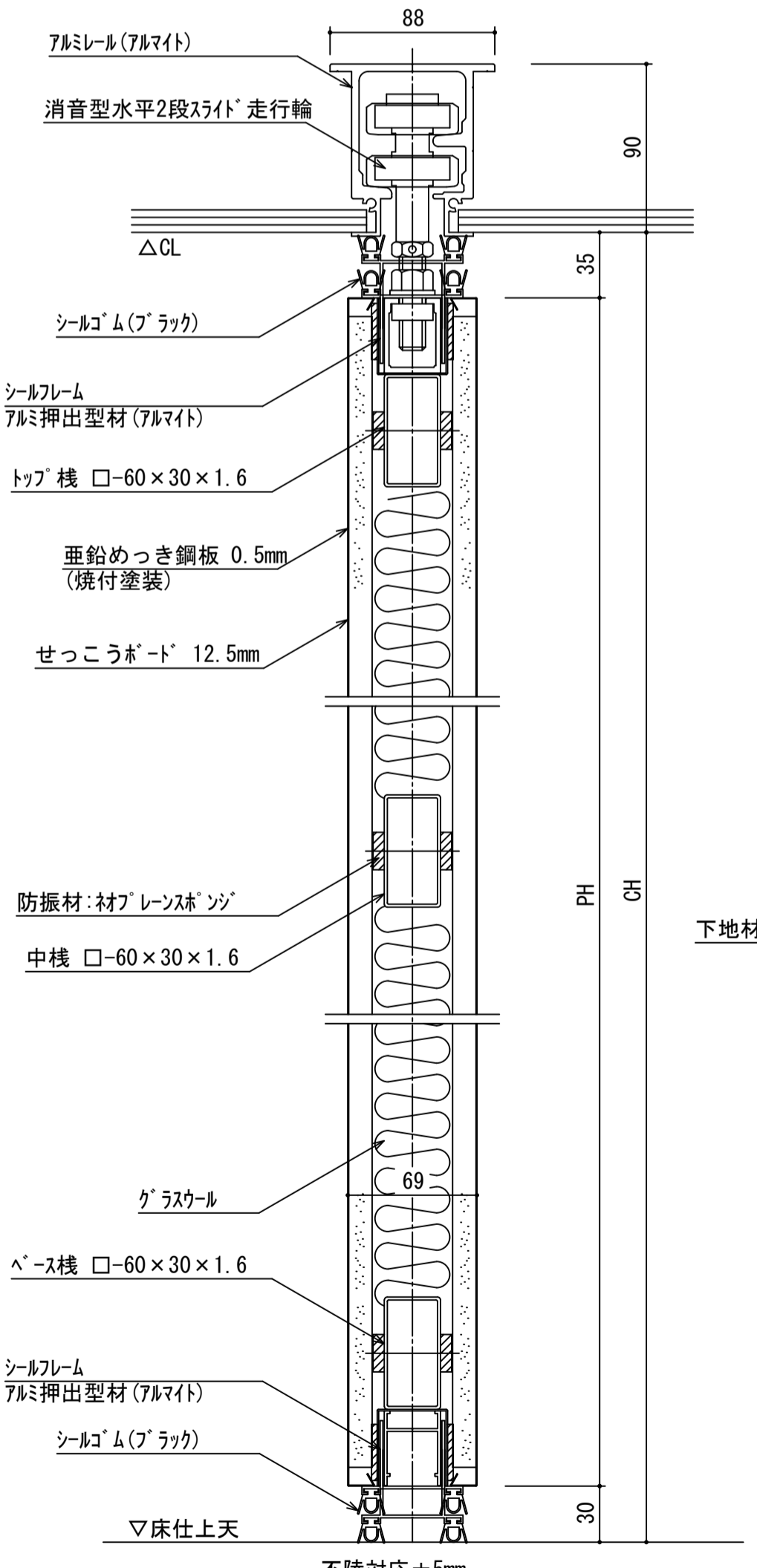
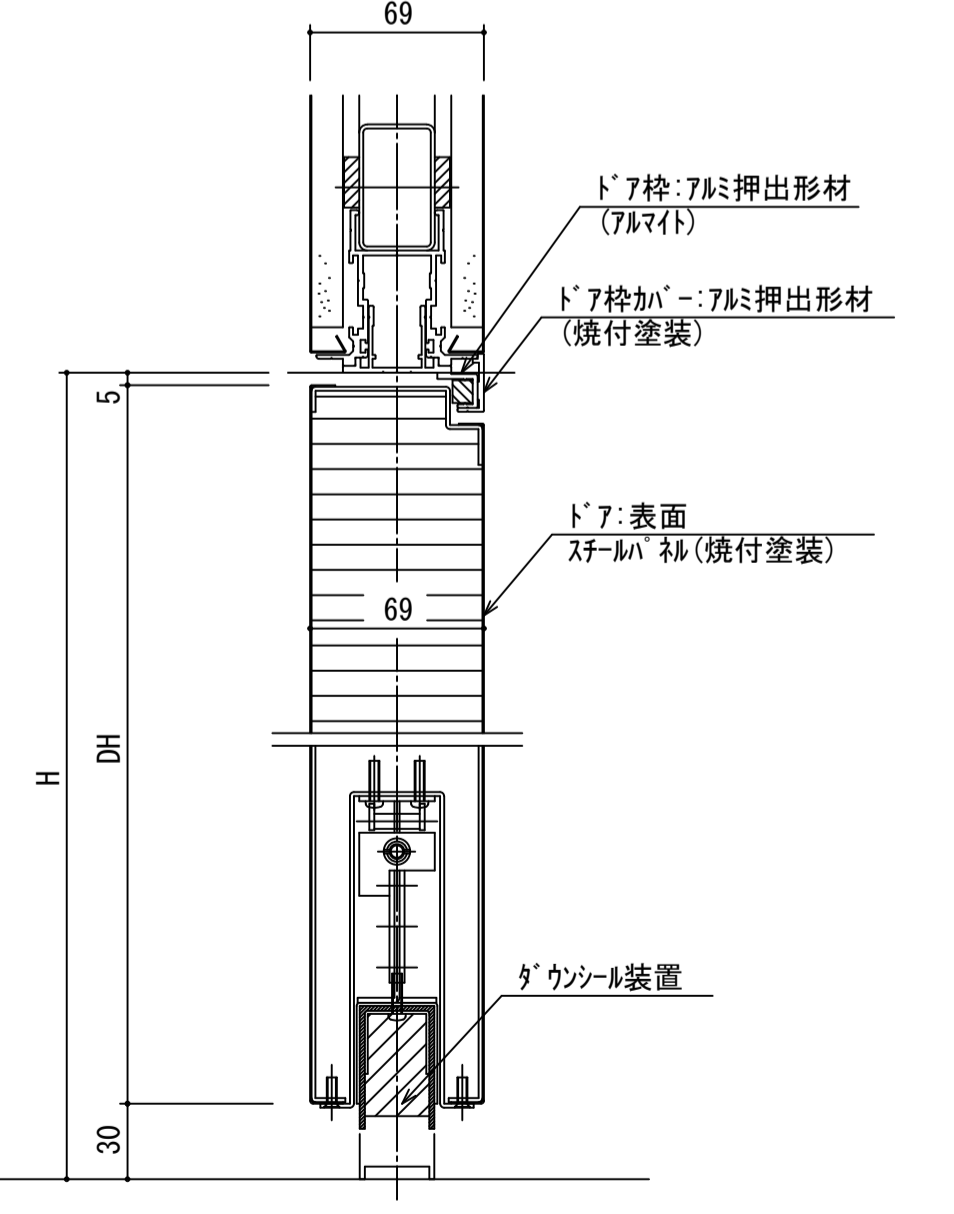






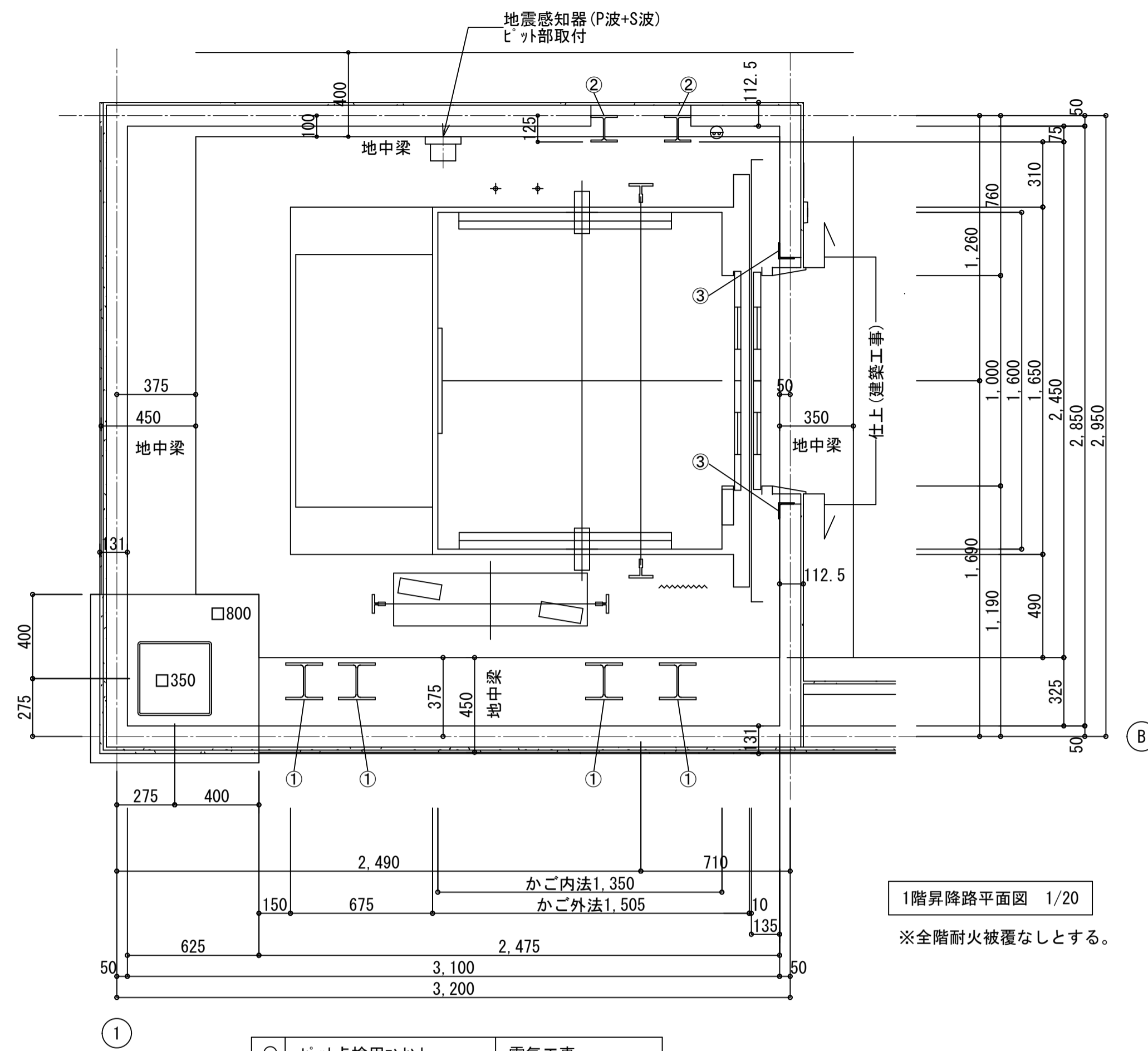
スライディングウォール 厚み69mm

仕様	仕様	仕様
レール仕様	レール	7mm押出型材ハンガ-レール(7mm処理)
ランナー仕様	走行輪	コーナー部 直角レール
	吊ネジ	水平2段スライド 走行輪(ベアリング内蔵)
	表面仕上	M 14
	表面仕上	表面材
	表面材	亜鉛めっき鋼板 0.5mm (焼付塗装)
	表面材	下張り:せっこうボード 12.5mm
	充填材	グラスウール
	骨組	7mmフレーム + 鉄骨造
	フレーム	7mm押出型材(7mm処理)
	召合せ	固定ゴム嵌合
	壁面シールド	機械駆動式(ハンドル操作式)
	上部シールド	機械駆動式(フックセット式ハンドル操作式)
	下部シールド	機械駆動式(フックセット式ハンドル操作式)
	ハネ分離型構造	(廃棄時分別可能)・・・環境対応型

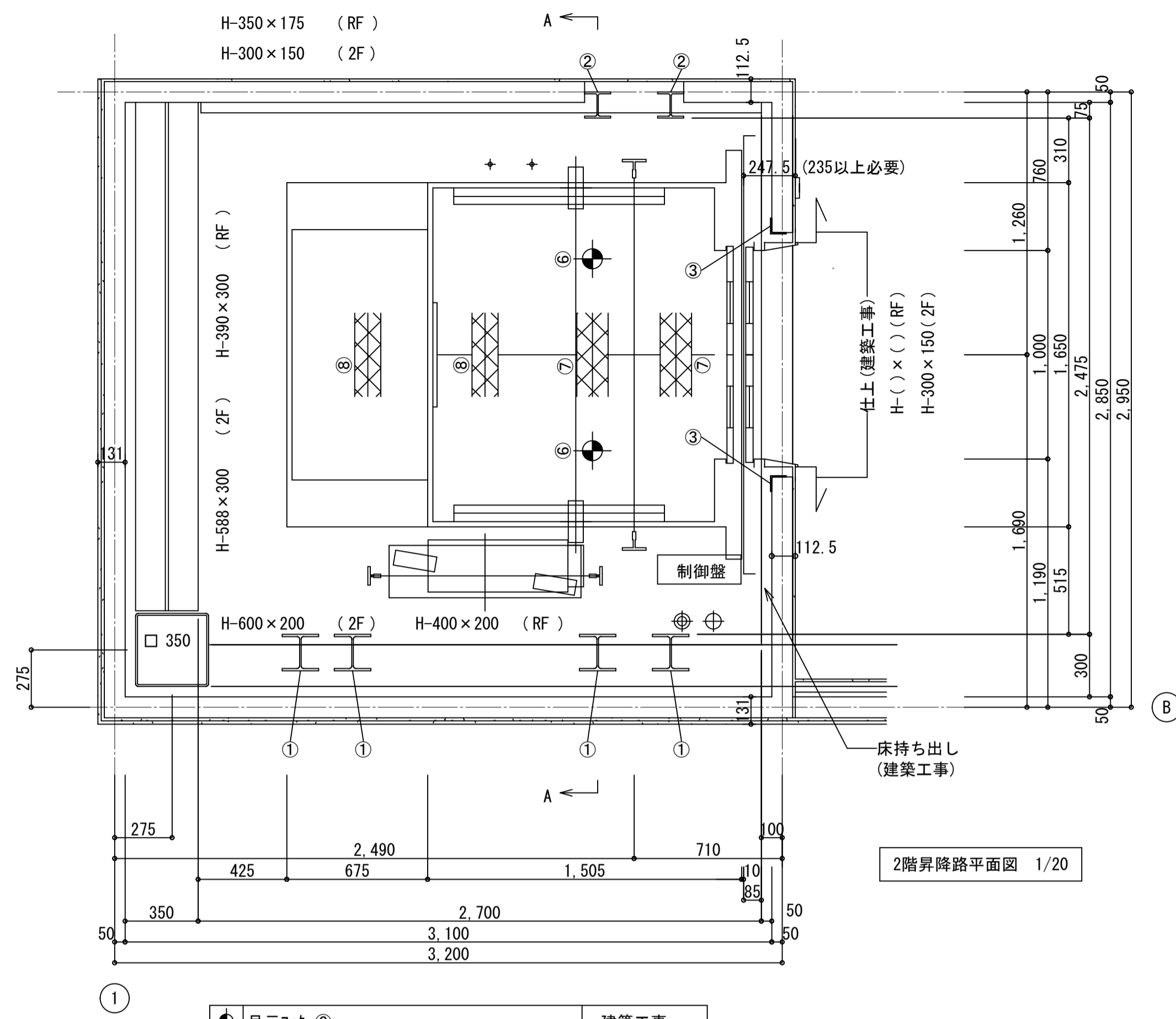


エレベーター仕様	
号機名(台数)	No. 1 (1台)
用途(形式)	乗用 (SPT13-C045) トランク付 車いす仕様
積載量(定員)	900 kg (13人)
速度	45 m/min
制御方式	交流インバータ制御方式(回生無)
操作方式	乗合全自動方式
停止ヶ所・出入口方向	(1.2FL) 2ヶ所 1方向
かご内法(WxDxH)	1600 mm X 1350 mm X 2300 mm
出入口寸法(WxH)	1000 mm X 2100 mm
ドア方式	2枚戸中央開き(電動式)
電動機出力	AC- 4.5 kW (ギヤレス)
電源	動力 三相3線 210 V 60 Hz 照明 単相 100 V 60 Hz
管制運転	地震時 有(P波+S波センサー(3段検知)リスタート機能付) 火災時 有 自家発時 無 浸水時/冠水時 有 全自動形(ビッド冠水時(最寄階))
停電時自動着床装置	有
耐震クラス	A14
かご内連絡装置	24V同時通話インターホ
基本仕様及び標準装備仕様	ローカーイド(かご、おもり) 照明・換気装置自動休止機能 2D多光軸(70°ビーム)ドアモーター 反転時呼び一括キャンセル機能 戸開放時間自動設定 行先階取消し機能 気配りファン機能(非常時4ヶ国語対応) 付発生装置 故障時最寄階自動着床運転 しきい開すきま 広角ミラー付操作盤
三方枠	全階 小枠 鋼板製単色塗装仕上
ドア	全階 鋼板製単色塗装仕上
防犯窓	全階 網入ガラス(t6.8)(JIS R3204)とフロートガラス(t3.0)(JIS R3202)を合わせたもの・[ドア面と面一]
敷居	全階 硬質7mm製
乗場	ボタン 全階 抗菌凸字印ボタン(SIAA認証)
インジケータ	インジケータ 全階 デジタル階床表示式
ボタン	フェースプレート 全階 板曲げ ステンレス製ヘアライン仕上(一部樹脂製)
天井照明	[STD-11]7mmフルーム導光板LED照明
換気装置	ファン
リターンバル	ステンレス製ヘアライン仕上
出入口柱	ステンレス製ヘアライン仕上
ドア	化粧鋼板
防犯窓	網入ガラス(t6.8)(JIS R3204)とフロートガラス(t3.0)(JIS R3202)を合わせたもの・[ドア面と面一]
幕板	化粧鋼板
側板	化粧鋼板
幅木	化粧鋼板
床	ビニル (t2)
敷居	硬質7mm製
操作盤	ボタン 抗菌凸字印ボタン(SIAA認証) インジケータ 液晶(カラーユニバーサルデザイン認証) フェースプレート 標準(広角ミラー付) 抗菌樹脂成形品(SIAA認証・一部鋼板製)

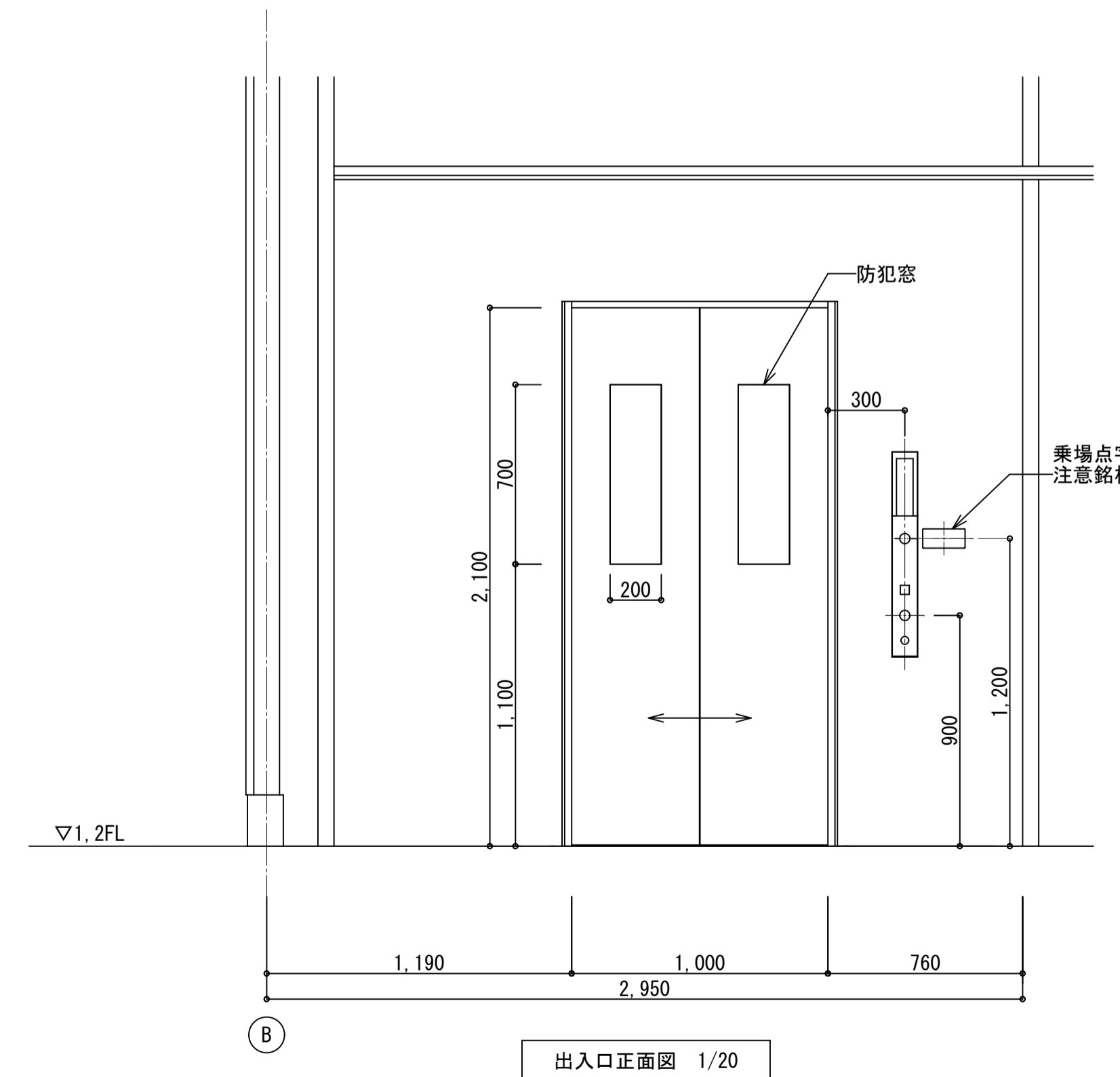
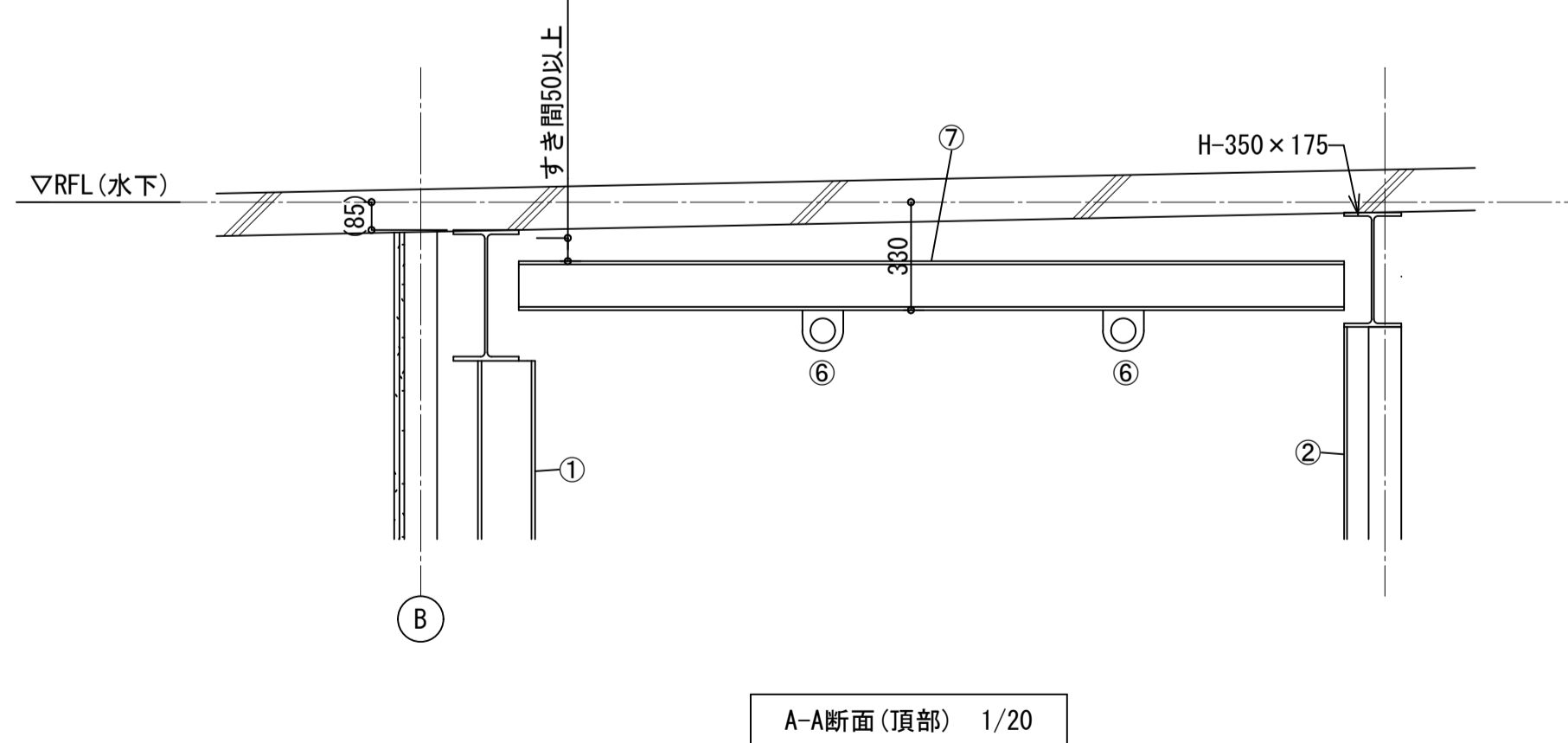
鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
①	レール支持柱	H-175x175x7.5x11
②	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
③	三方枠取付材	L-75x75x6
④	バックアップ取付材	L-65x65x6
⑤	敷居取付材	L-100x100x10
⑥	吊元(荷重9.8kN用)	t12(φ75穴付)
⑦	トリビーム(荷重19.6kN)	H-150x150x7x10
⑧	トリビーム(荷重9.8kN)	H-125x125x6.5x9



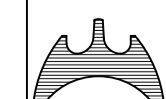
⑥	ビッド点検用コンセント	電気工事
⑧	T.C保護金網	エレベーター工事



⑥	吊元フック ・荷重: 9.8 kN	建築工事
⑦	電源引込み(受電盤への接続) ・動力・照明・接地線 2階FL- 1350 mm 引出長さ3 m	電気工事
⑧	配線引込み ・インター配線・電話線 2階FL- 650 mm 引出長さ3 m	電気工事



株式会社 車田建築設計事務所  
KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES  
1級建築士事務所 登録 22(1)第0587号

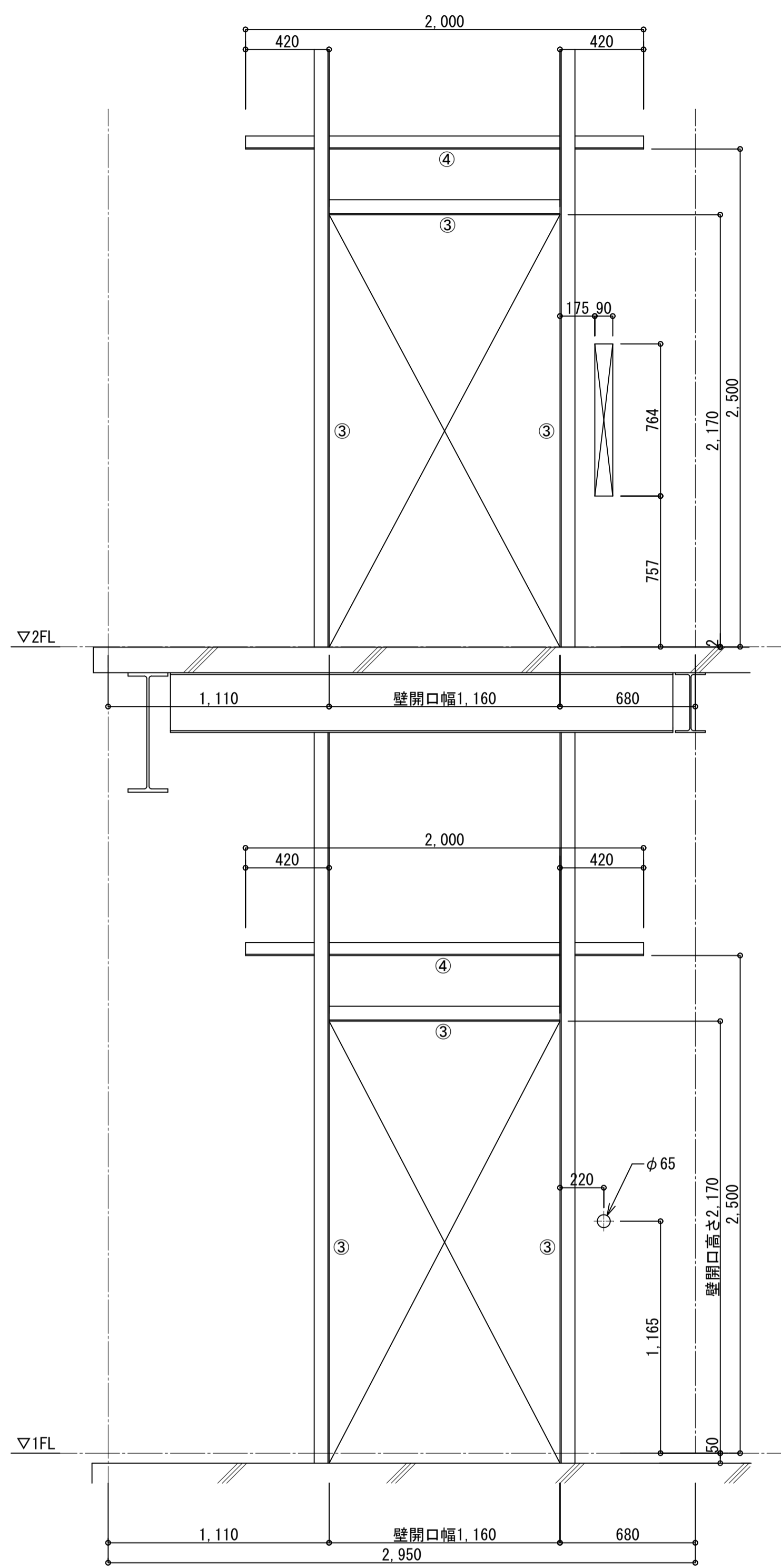


福山市建設局建築部営繕課  
2023年 3月

工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事  
図面名称 【管理棟】昇降機設備図(1)<参考図>

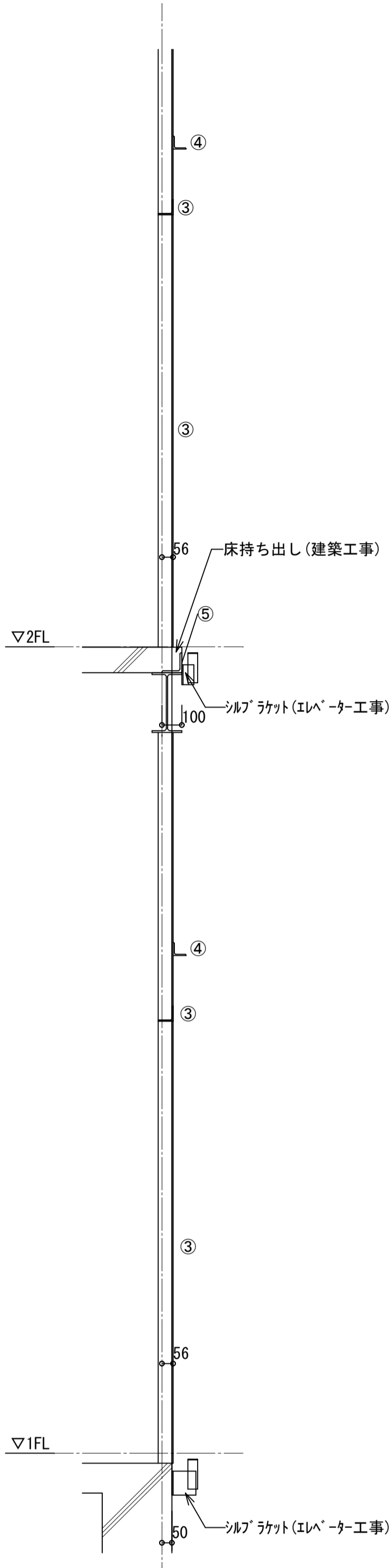
縮尺 1/20

A1版:100%  
A3版:50%  
A-46



出入口壁穴明図 1/20

鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
①	レール支持柱	H-175x175x7.5x11
②	レール支持柱	H-125x125x6.5x9
③	三方枠取付材	L-75x75x6
④	ハックル取付材	L-65x65x6
⑤	敷居取付材	L-100x100x10
⑥	吊元(荷重9.8kN用)	t12(φ75穴付)
⑦	トリビーム(荷重19.6kN)	H-150x150x7x10
⑧	トリビーム(荷重9.8kN)	H-125x125x6.5x9



断面図 1/20

煙感知器詳細

施錠装置付点検扉

1.5mm以上の鋼板製(電気工事)  
リミットスイッチ付(エレベーター工事)

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。  
屋外の場合は、防水形点検扉とする。

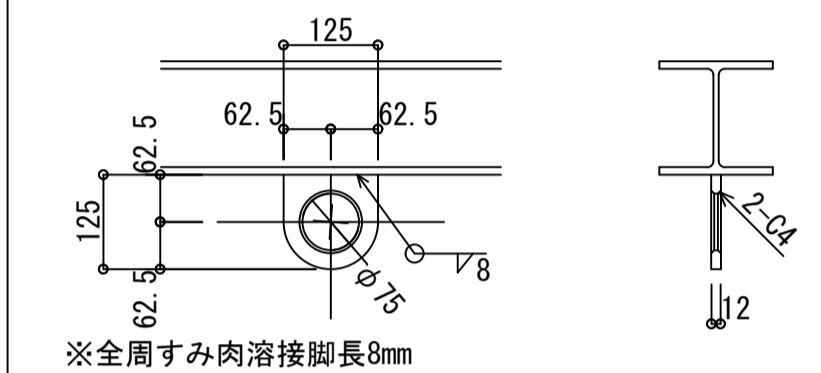
点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用用品として下さい。

- ・ホチキ (KUS-1C(W))
- ・能美防災 (FXS J001A-HU)
- ・ニクシ (NID-T-G)
- ・パナソニック (BV95351+BV95381H)

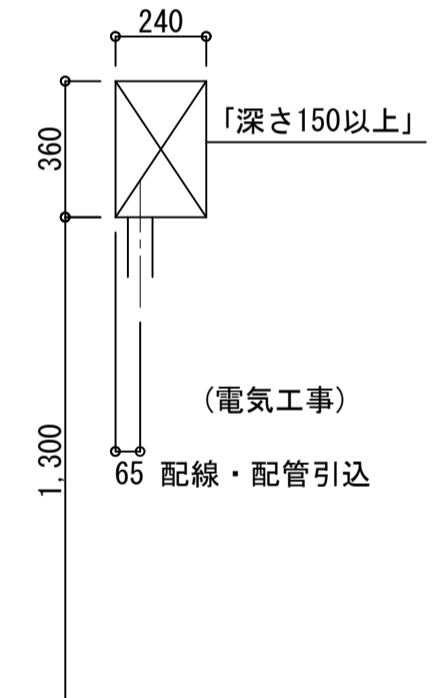
製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります

吊元フック詳細【EHST9】

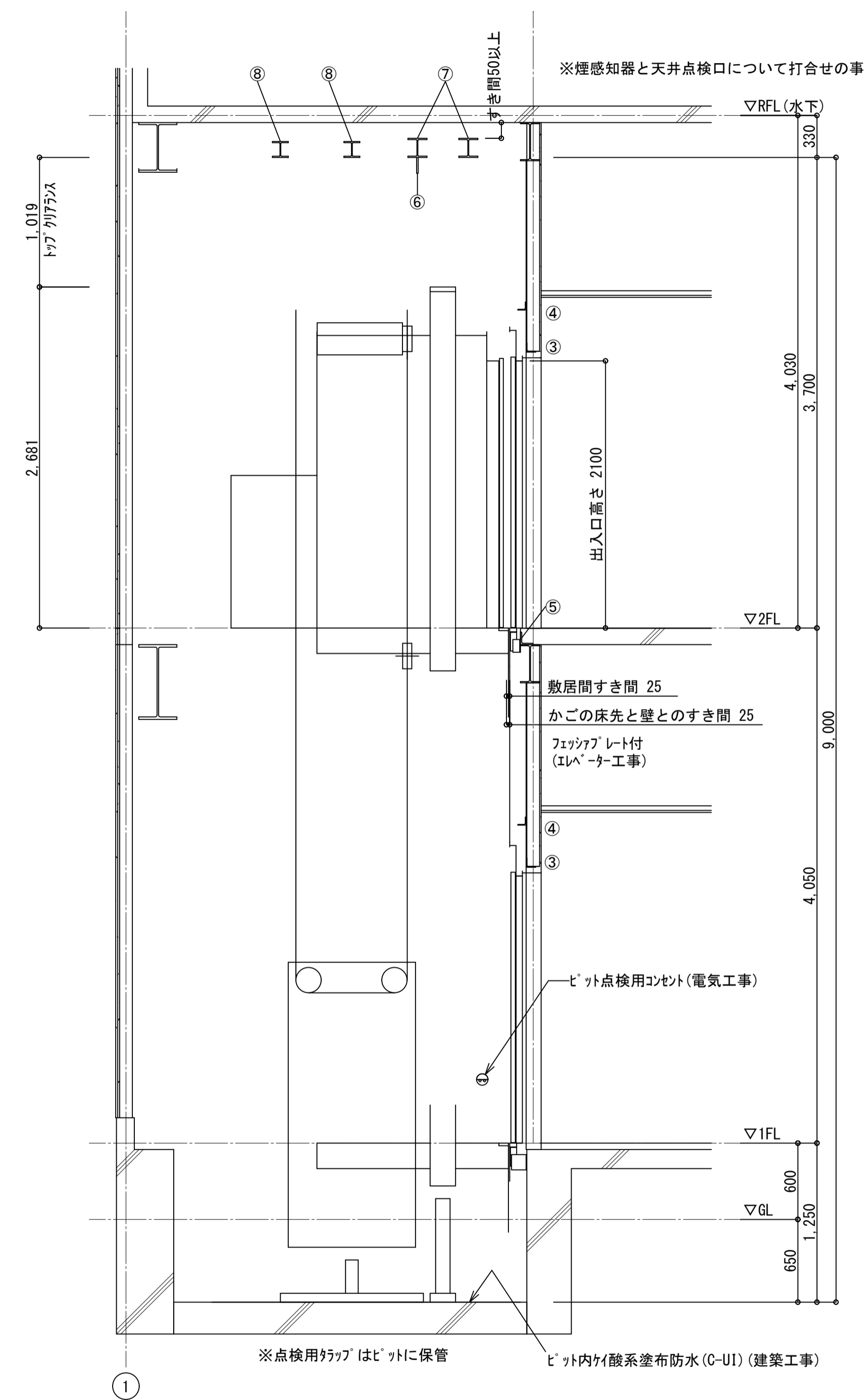
吊元フック荷重: 9.8kN



※全周すみ肉溶接脚長8mm

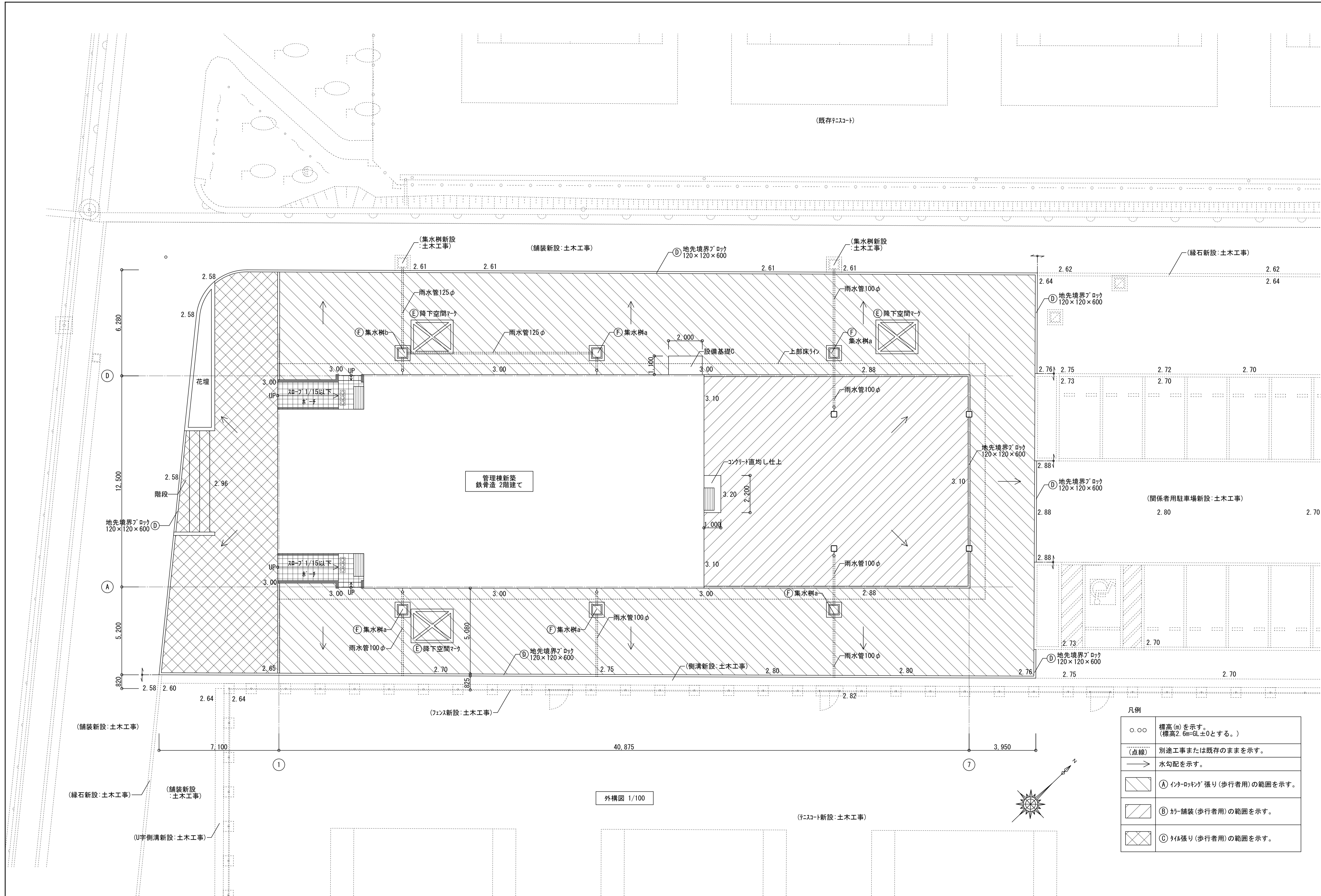


警報壁穴明図 1/20



昇降路縦断面図 1/30

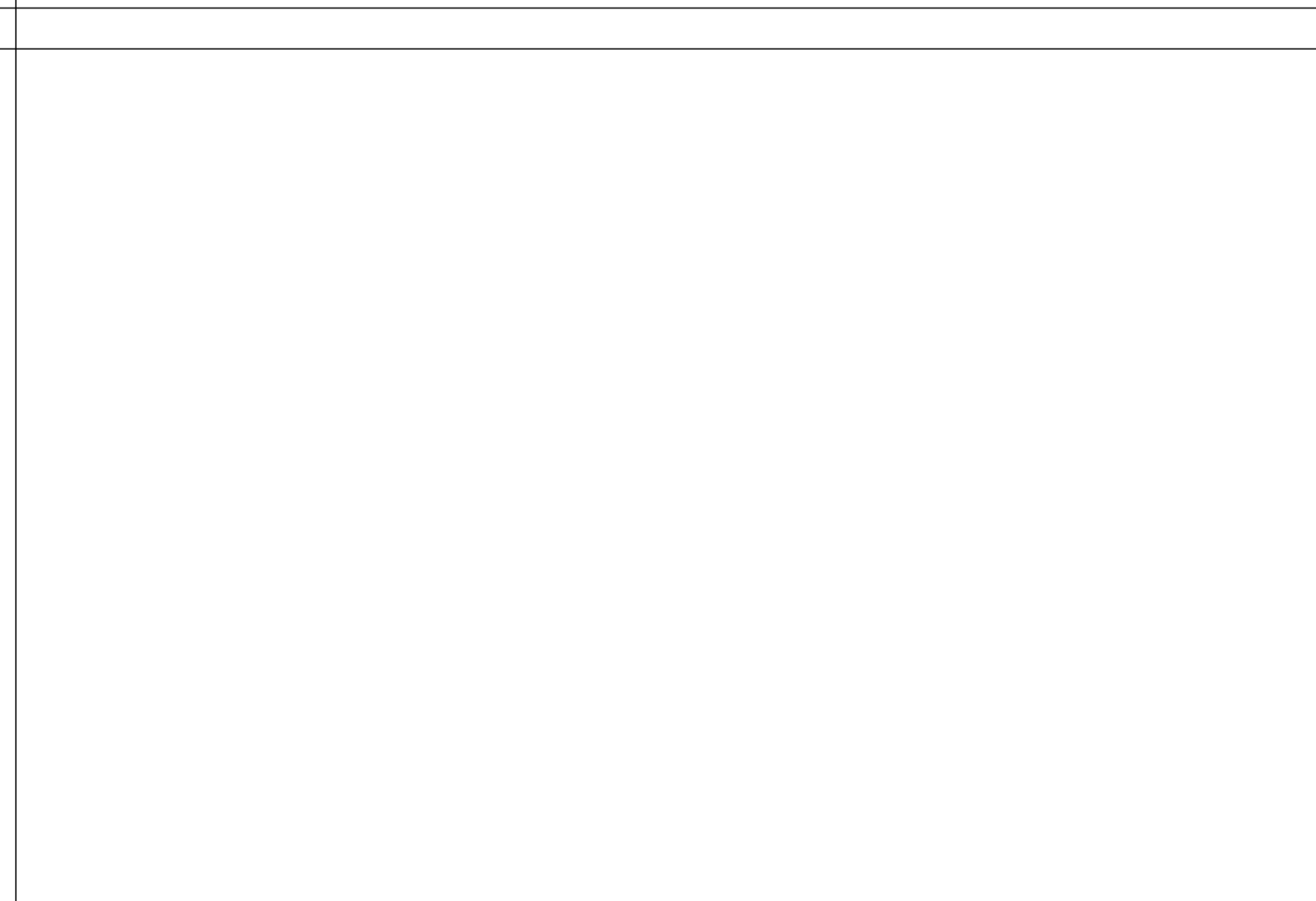
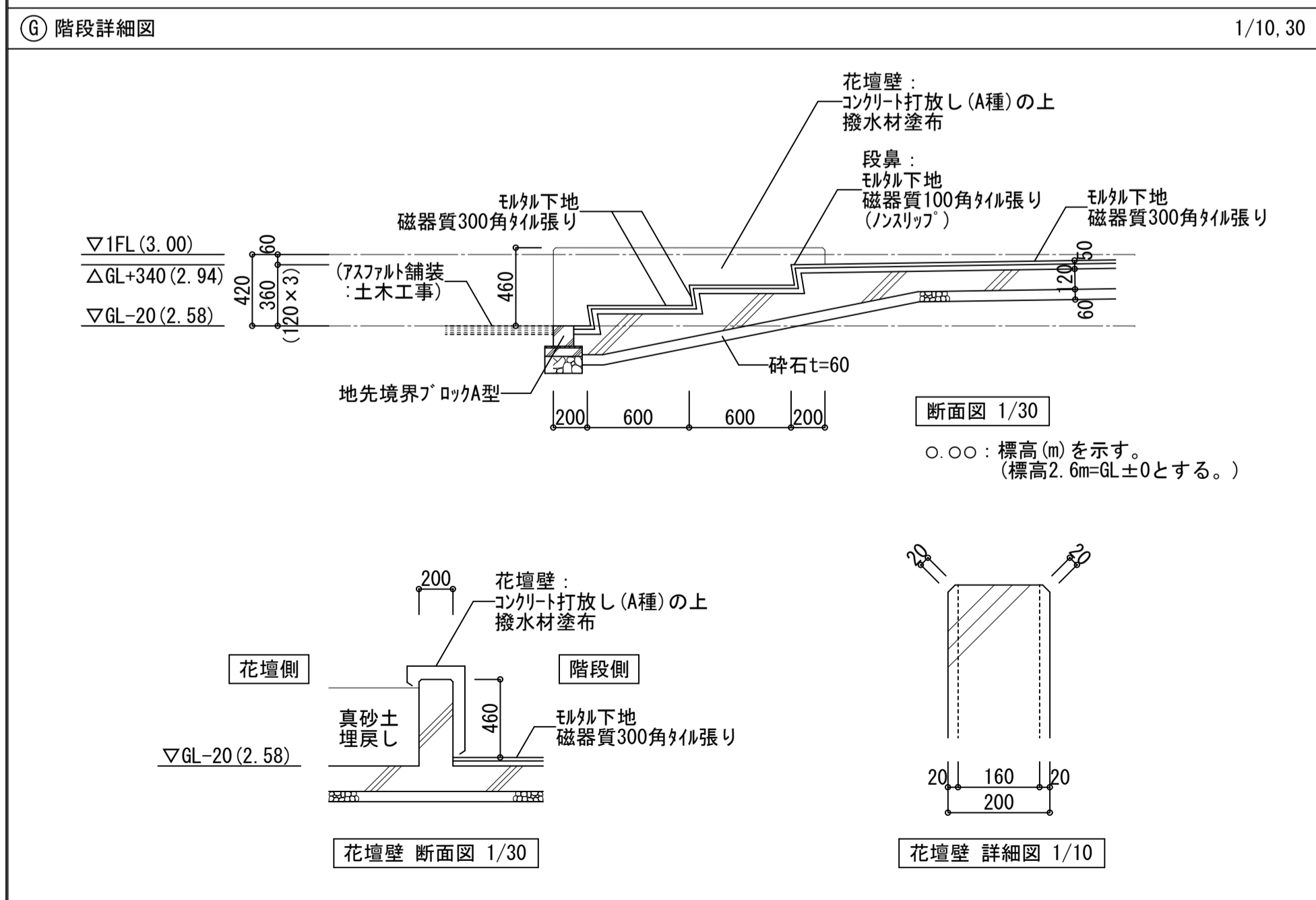
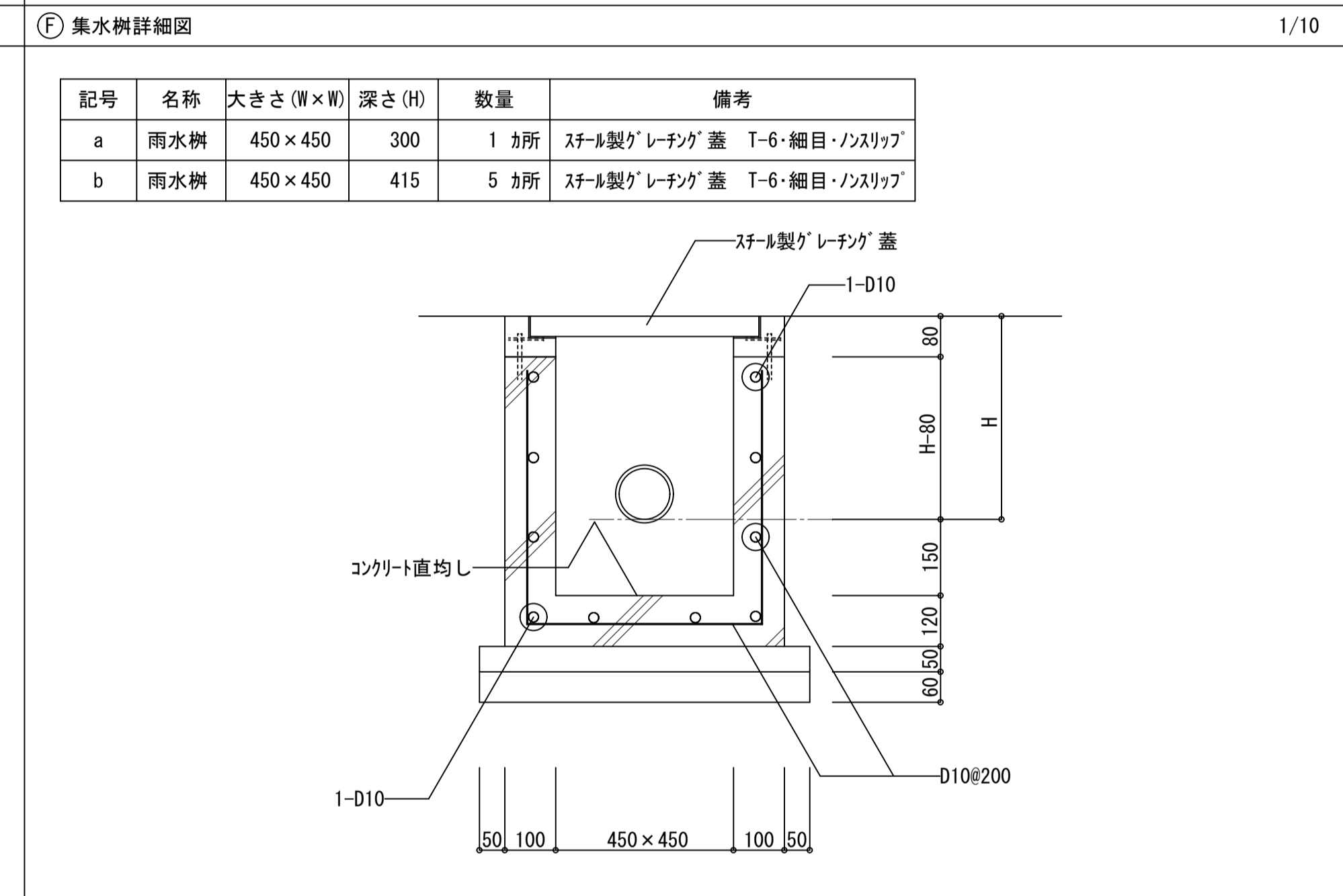
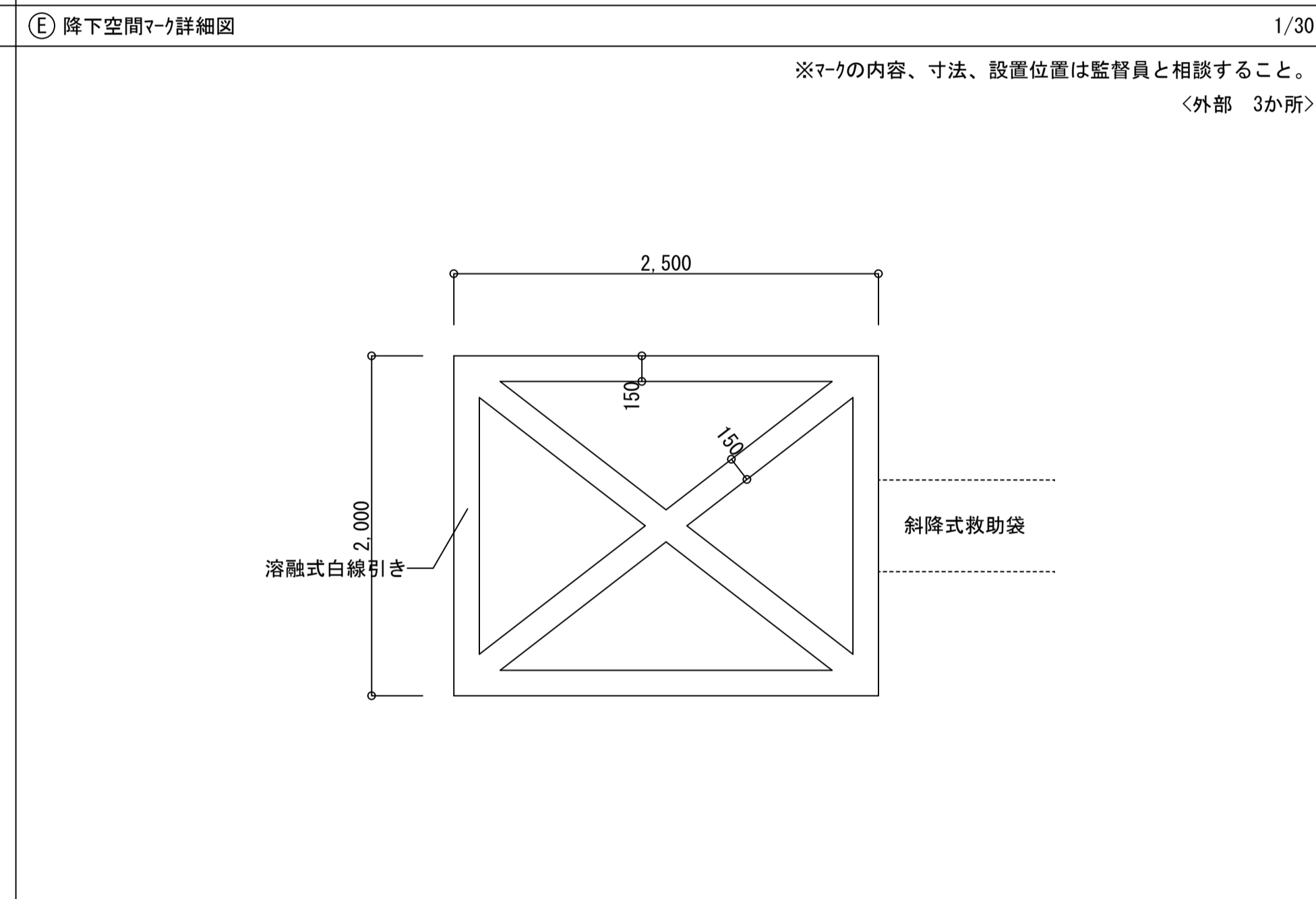
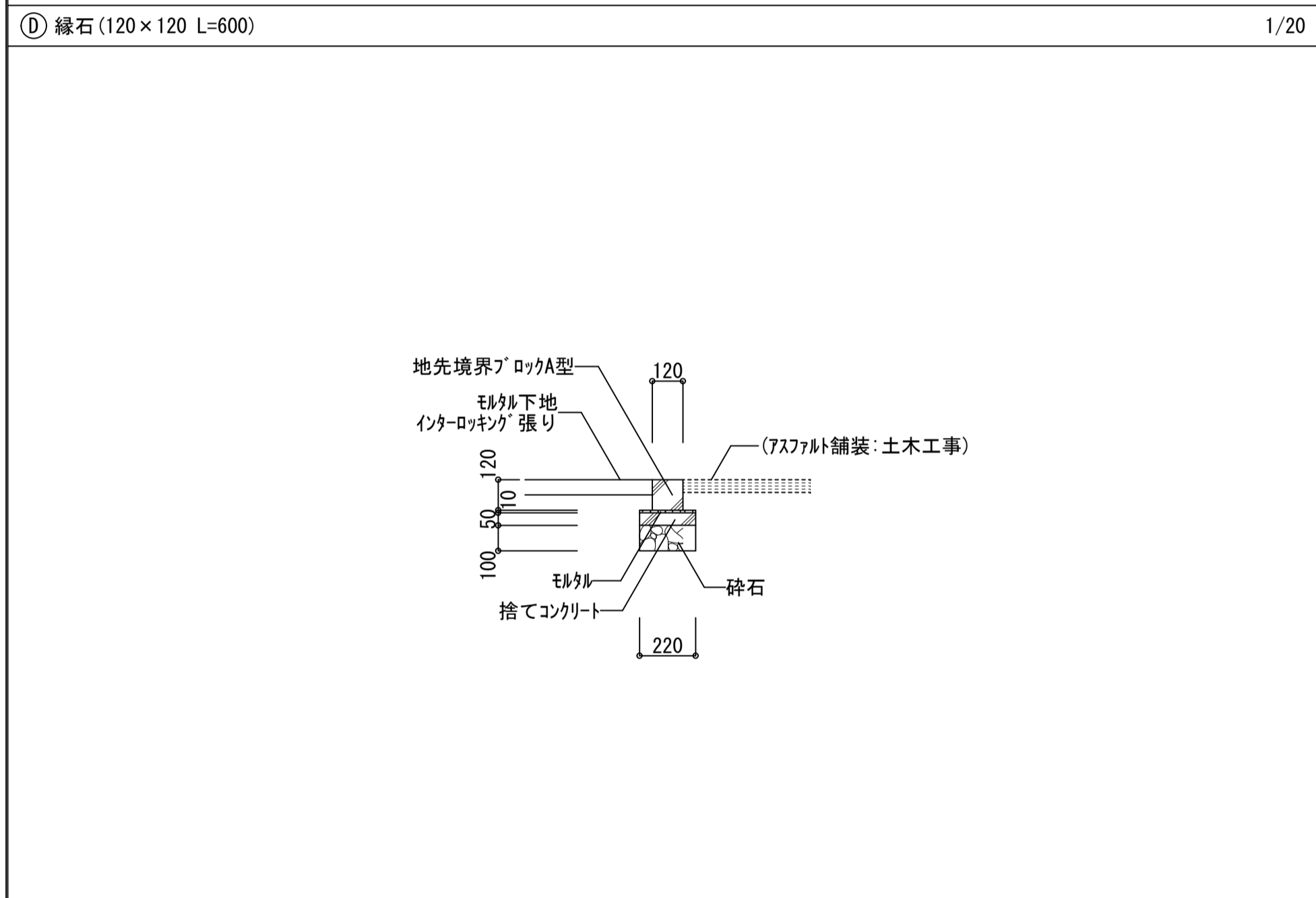
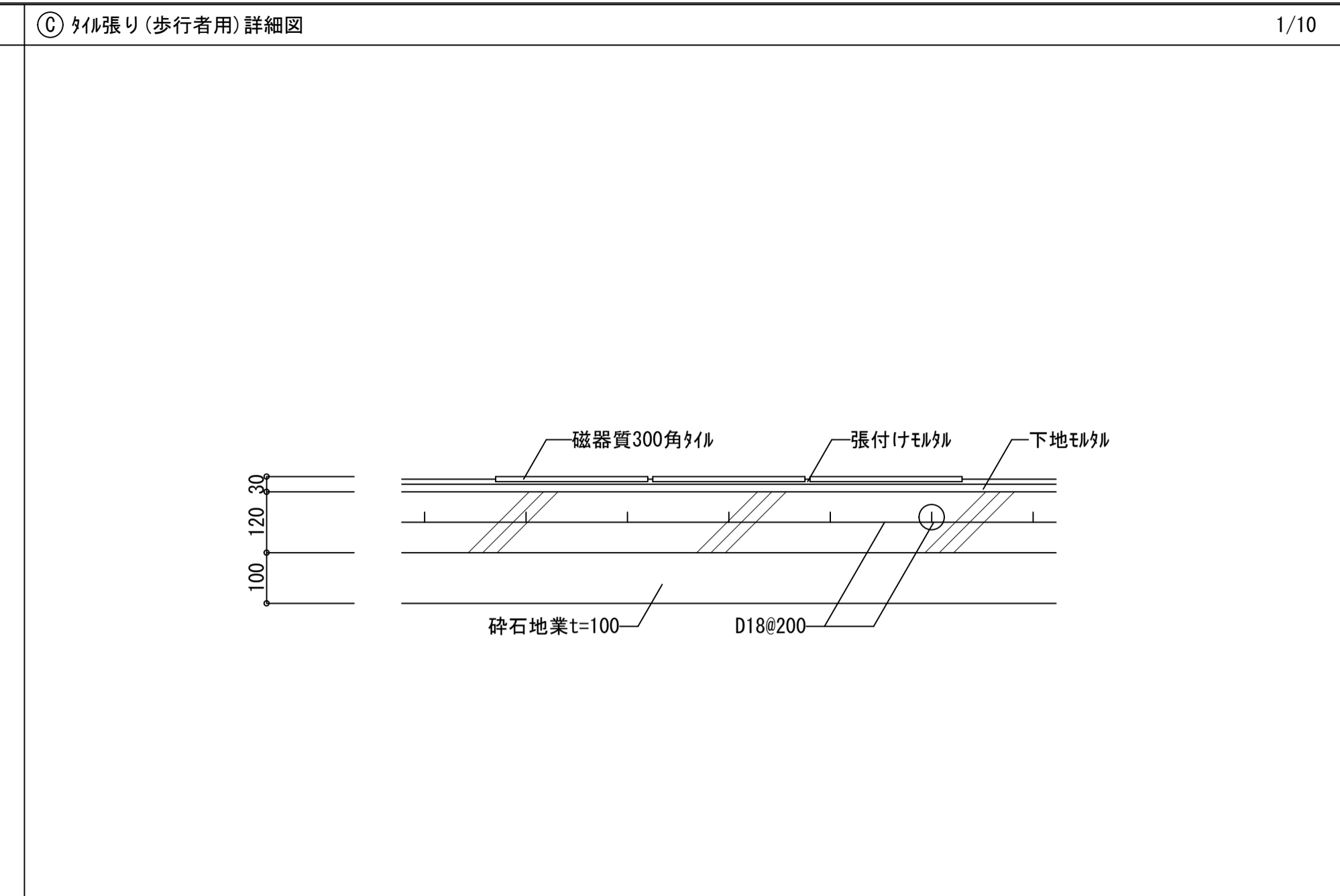
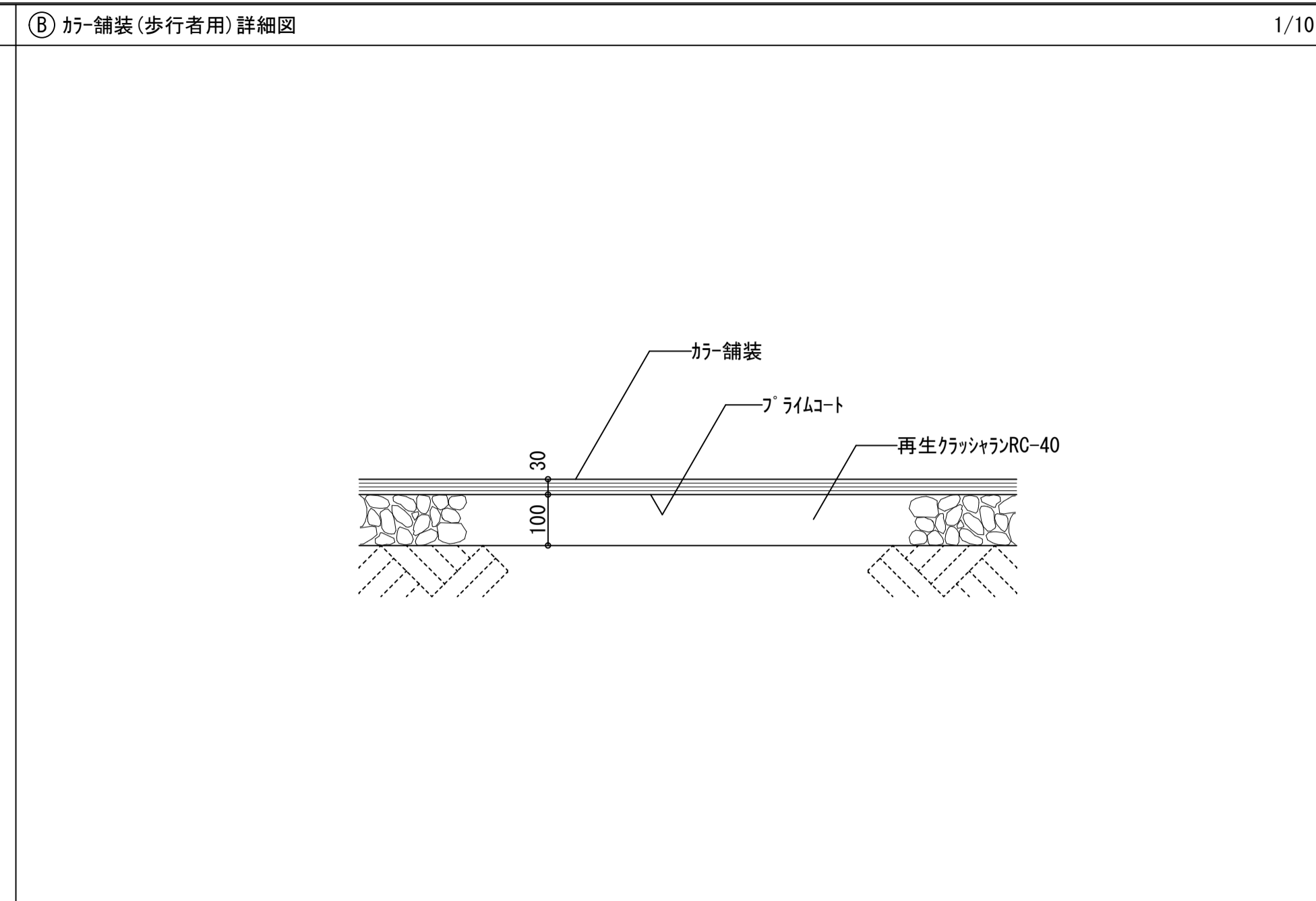
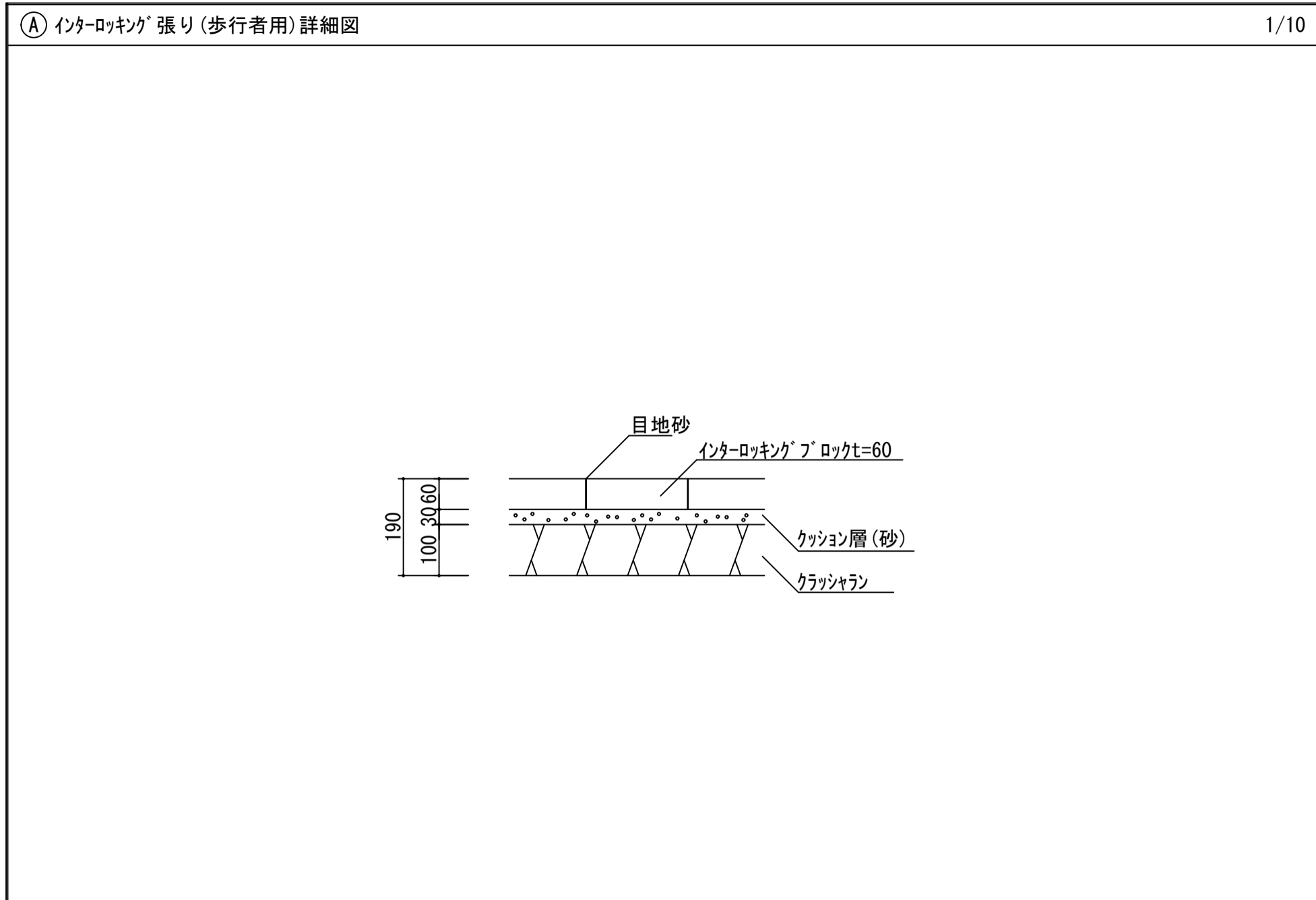
No.1		
ヒット反力		82.40 kN
ヒット衝撃荷重	かご側	71.40 kN
	C/W側	55.60 kN



外構図 1/100

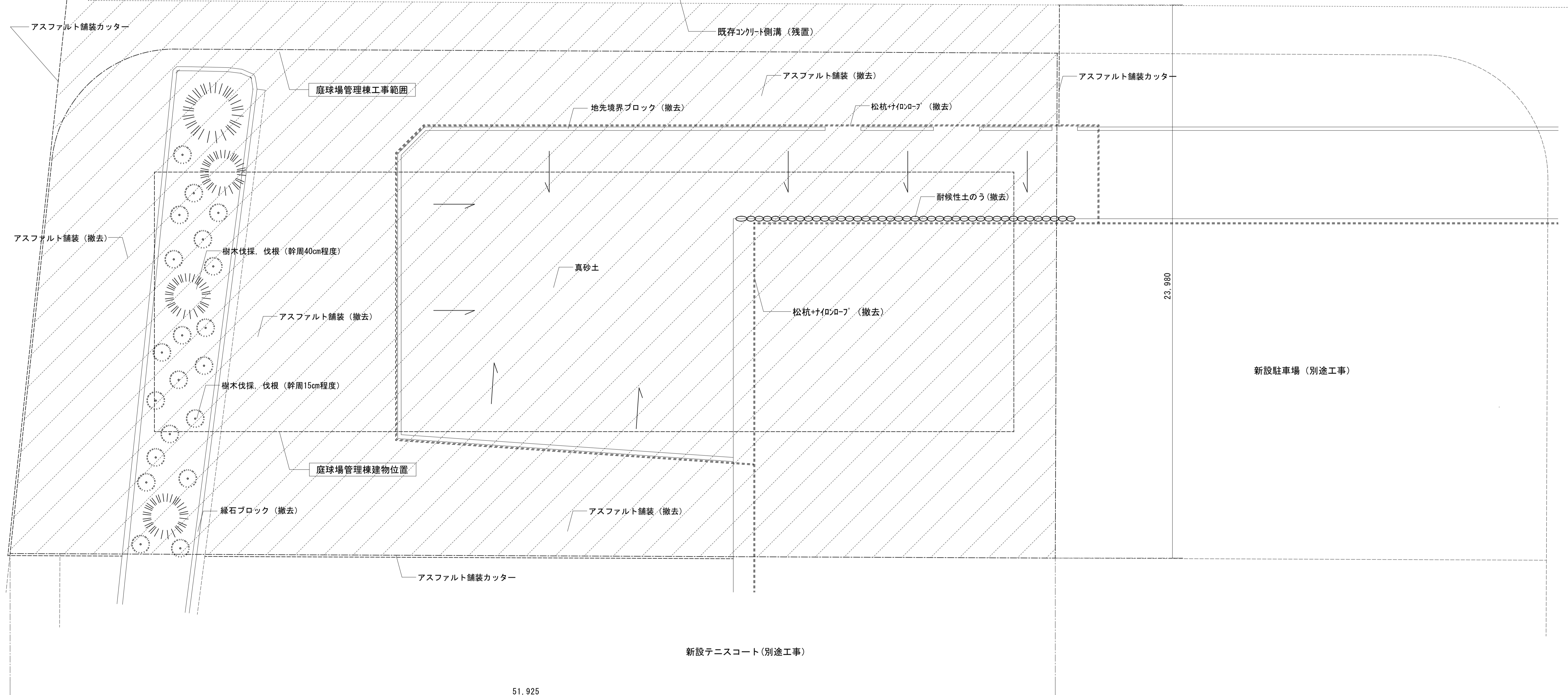
凡例

○.○.○	標高(m)を示す。 (標高2.6m=GL±0とする。)
(点線)	別途工事または既存のままを示す。
→	水勾配を示す。
	(A) インターロック張り(歩行者用)の範囲を示す。
	(B) か-舗装(歩行者用)の範囲を示す。
	(C) タイル張り(歩行者用)の範囲を示す。

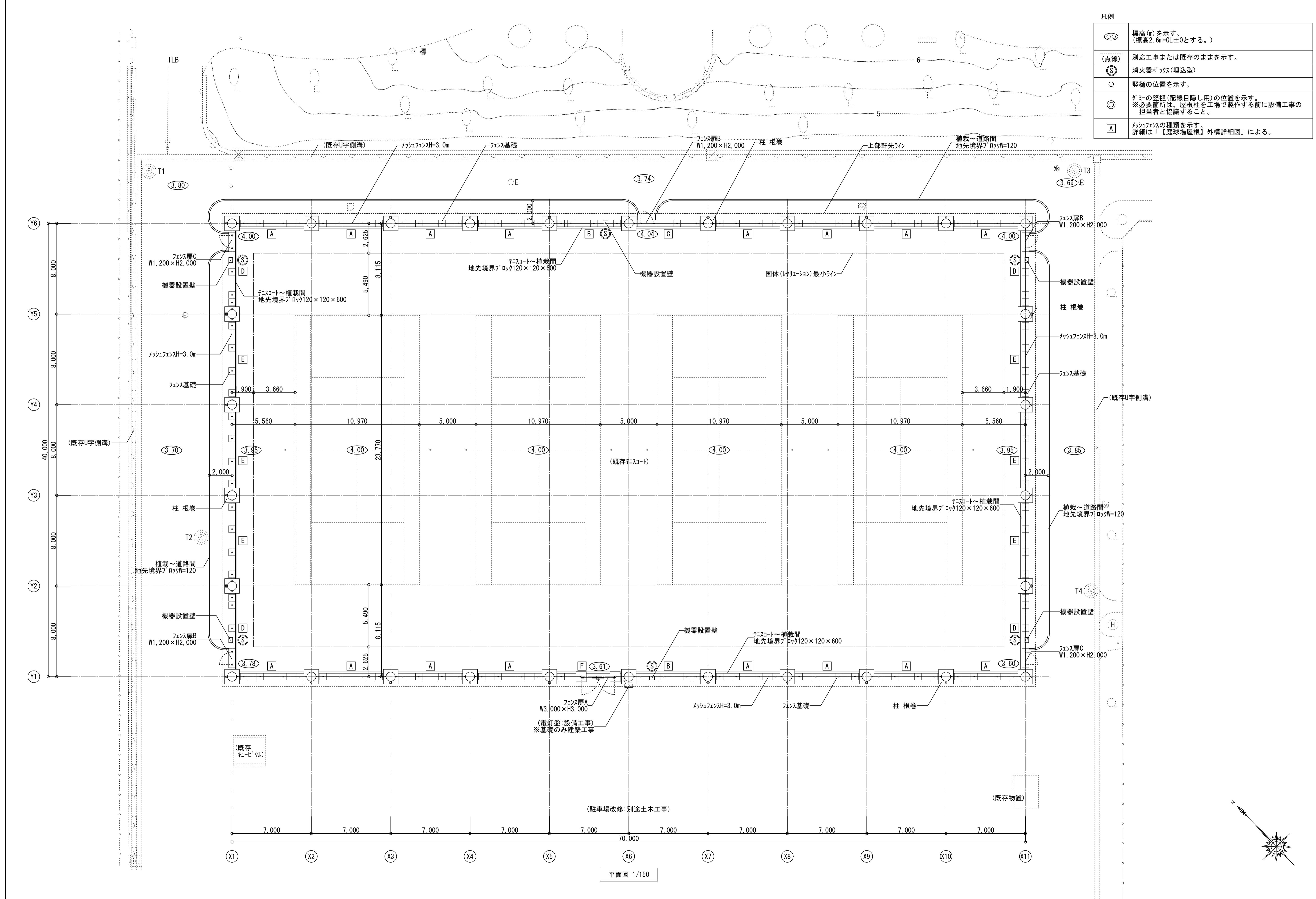


- 凡例
- 地先境界ブロック (撤去)
  - - - 松杭φ90, H=1,200+ナイロンロープ3段張り (撤去)
  - ○ 耐候性土のう (撤去)
  - ▨ 既存外構撤去範囲を示す。

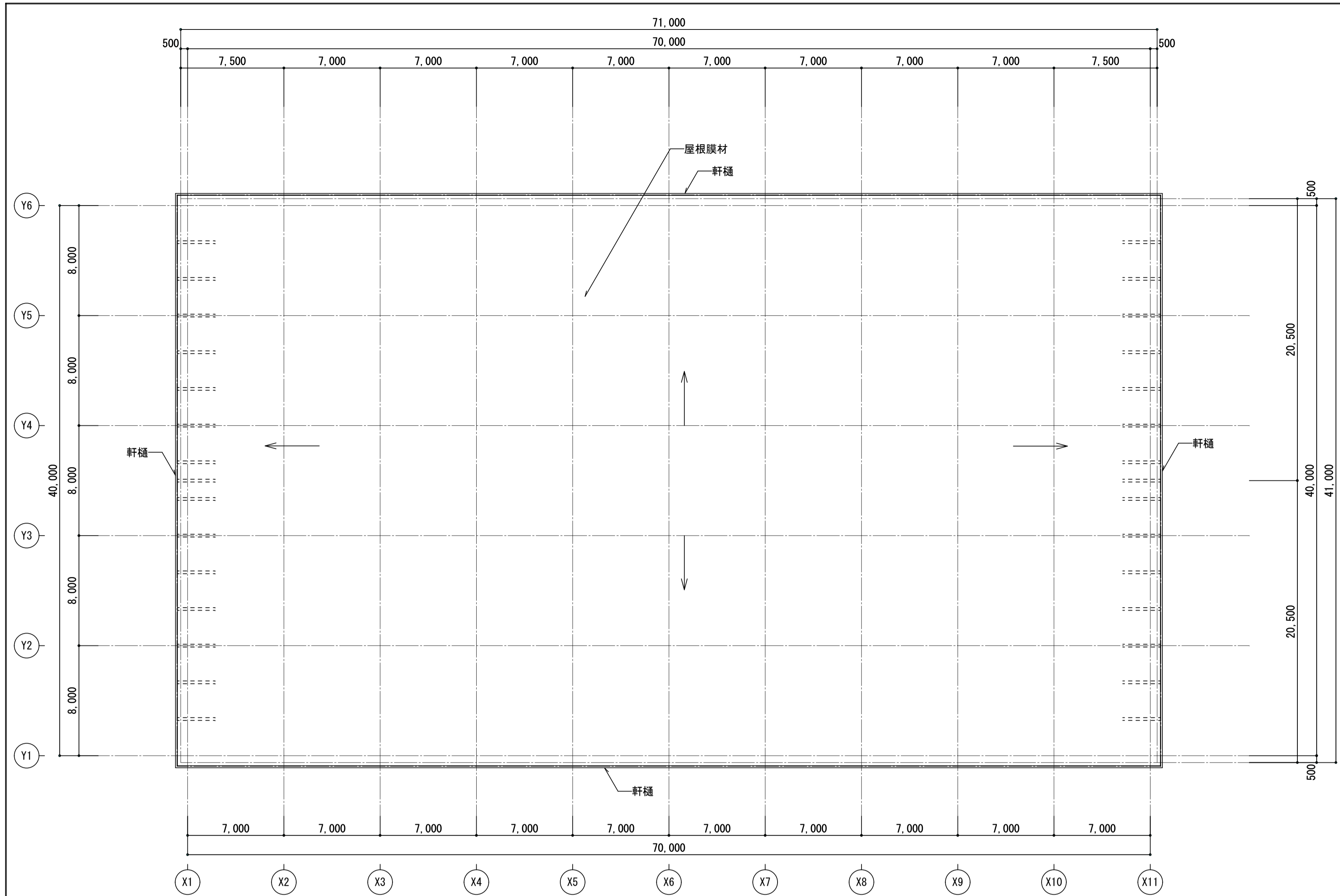
既存テニスコート (別途工事)



凡例	
○	標高(m)を示す。 (標高2.6m=GL±0とする。)
(点線)	別途工事または既存のままを示す。
Ⓢ	消火器ボックス(埋込型)
○	壁柱の位置を示す。
◎	ガミの壁柱(配線目隠し用)の位置を示す。 ※必要箇所は、屋根柱を工場で製作する前に設備工事の 担当者と協議すること。
A	メッシュフェンスの種類を示す。 詳細は「【庭球場屋根】外構詳細図」による。



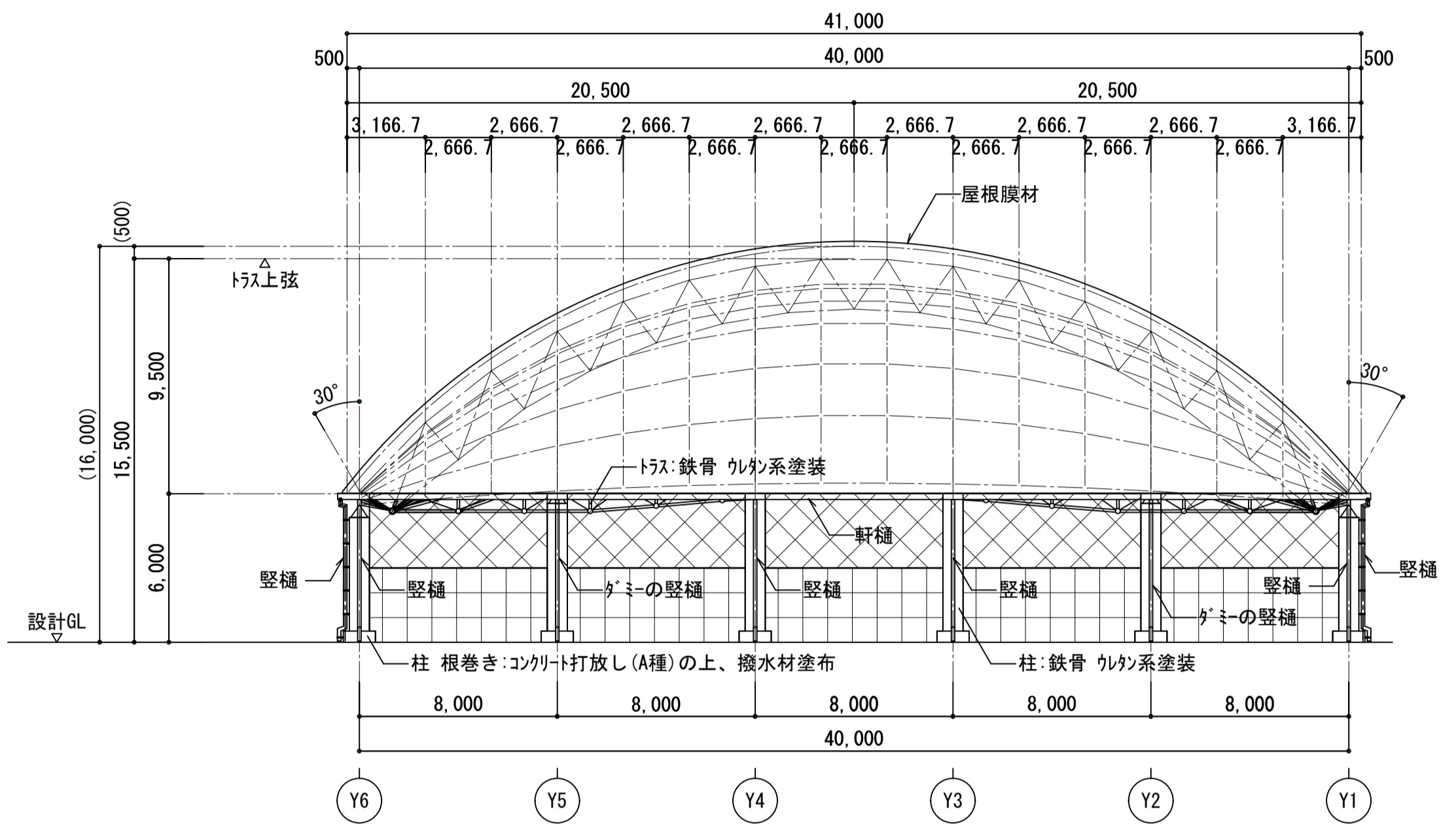
平面図 1/150



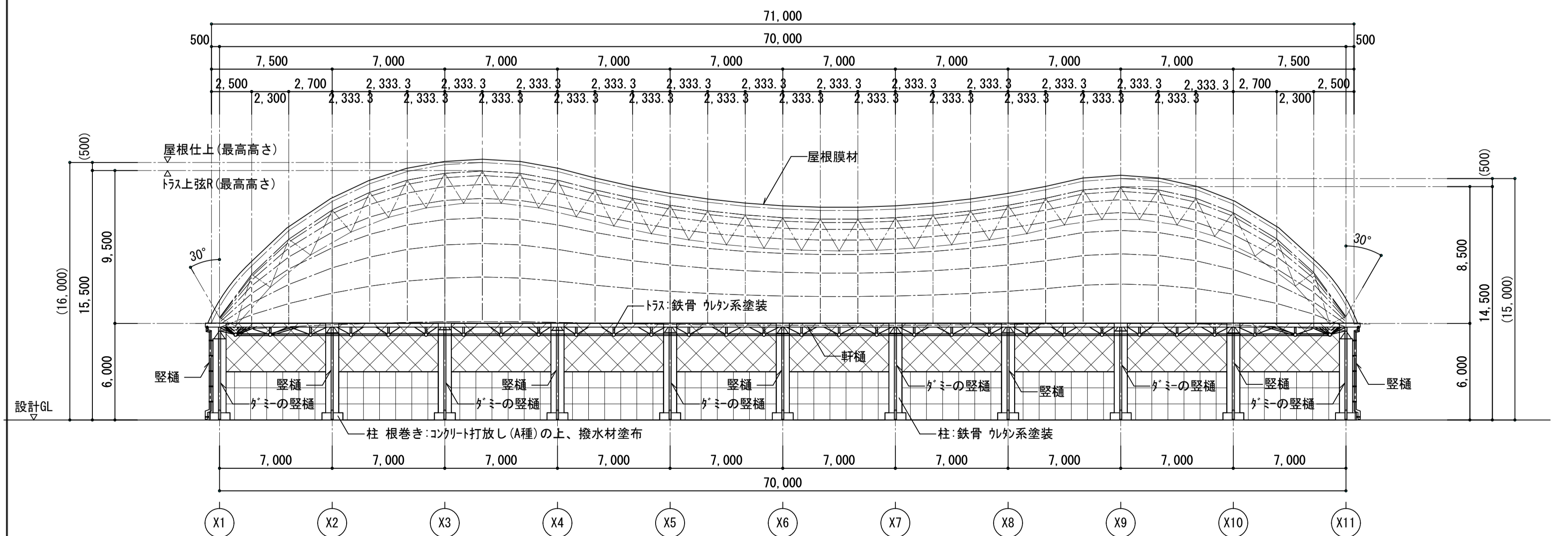
屋根伏図 1/200

印は、水流れ方向を示す

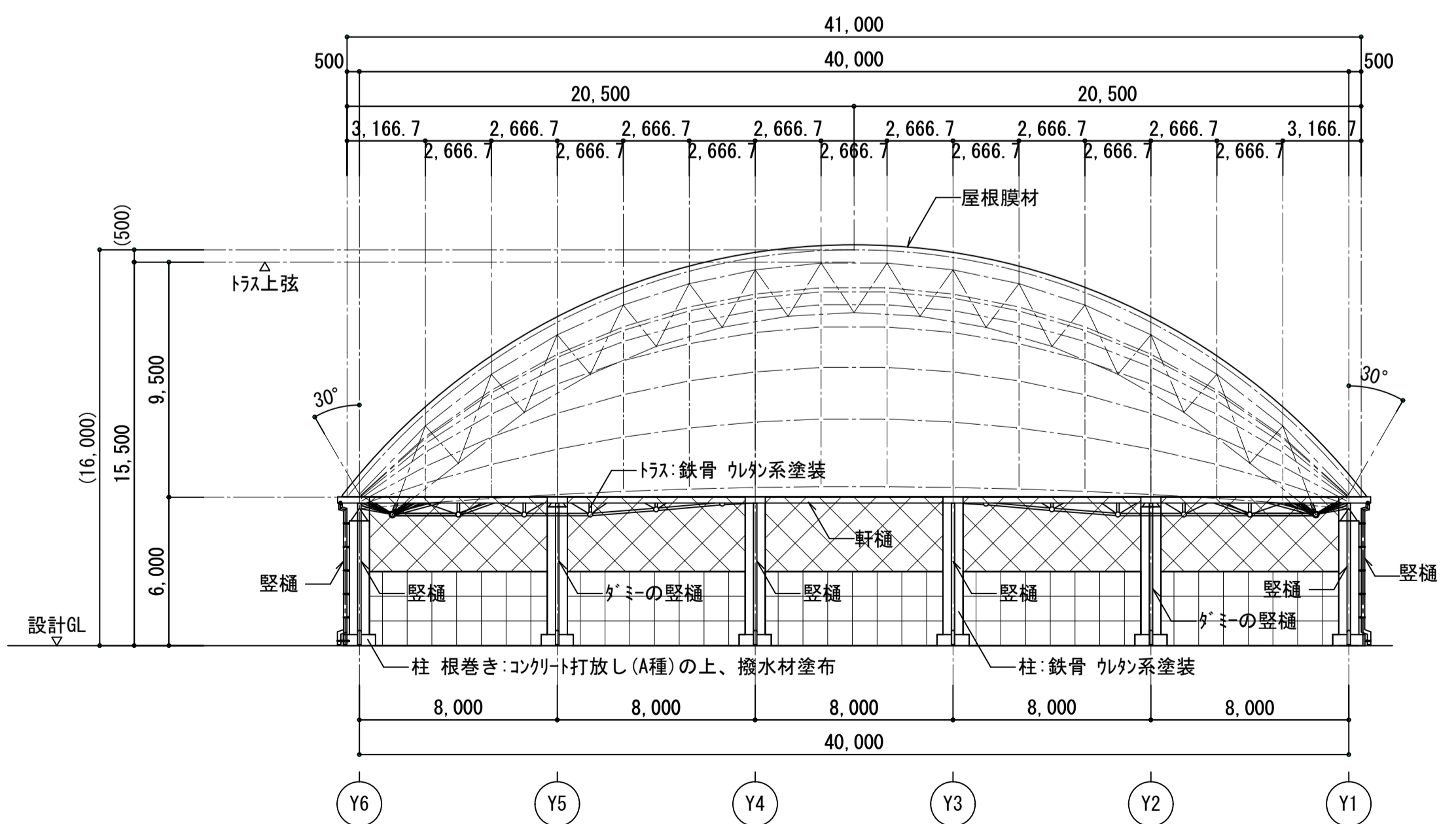
: 防鳥ネットの範囲を示す。  
 ※ リフレクティング リーンネット15mm目  
 : メッシュフェンスH=3.0mの範囲を示す。



東立面図 1/200



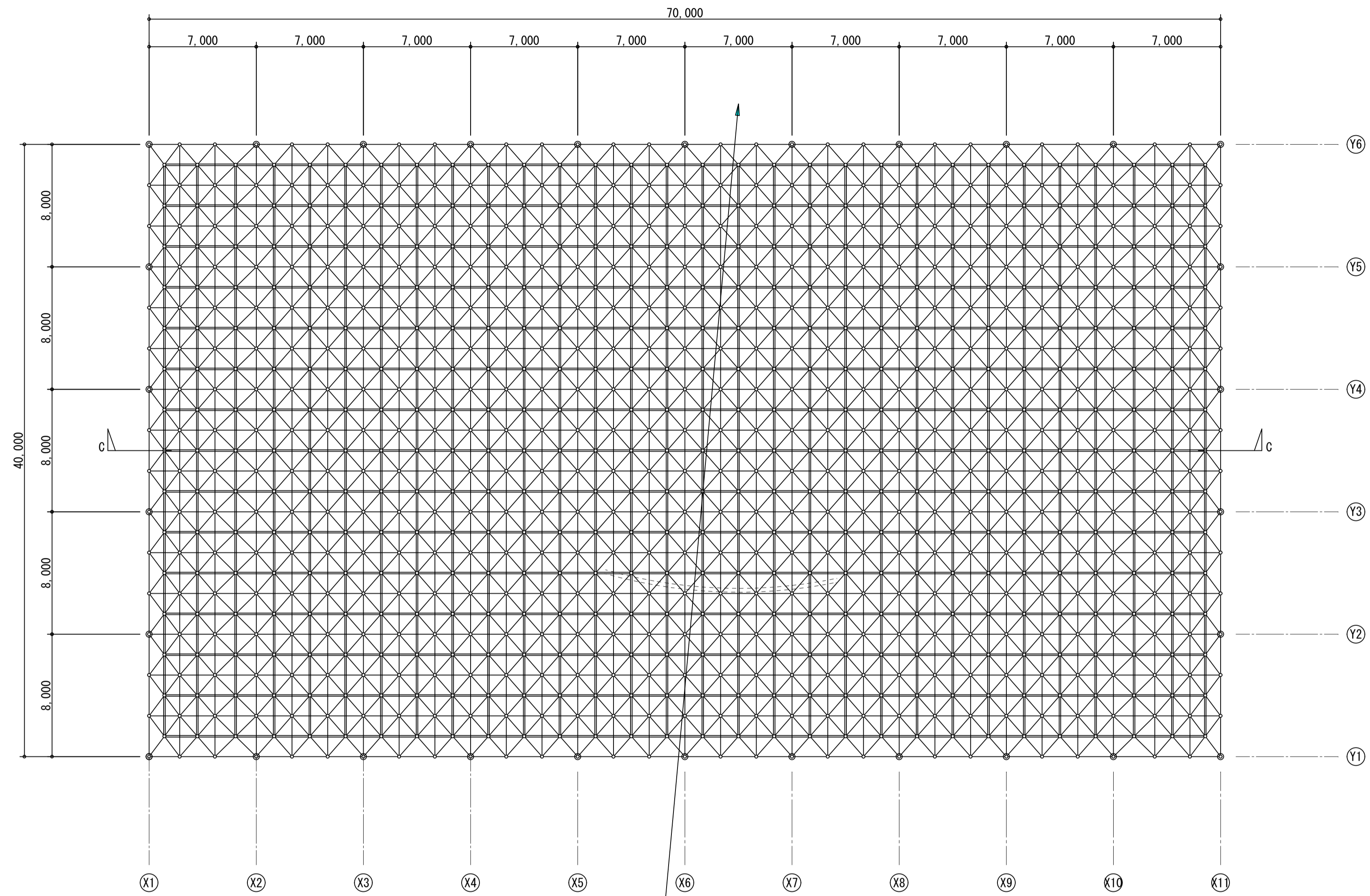
南立面図 1/200



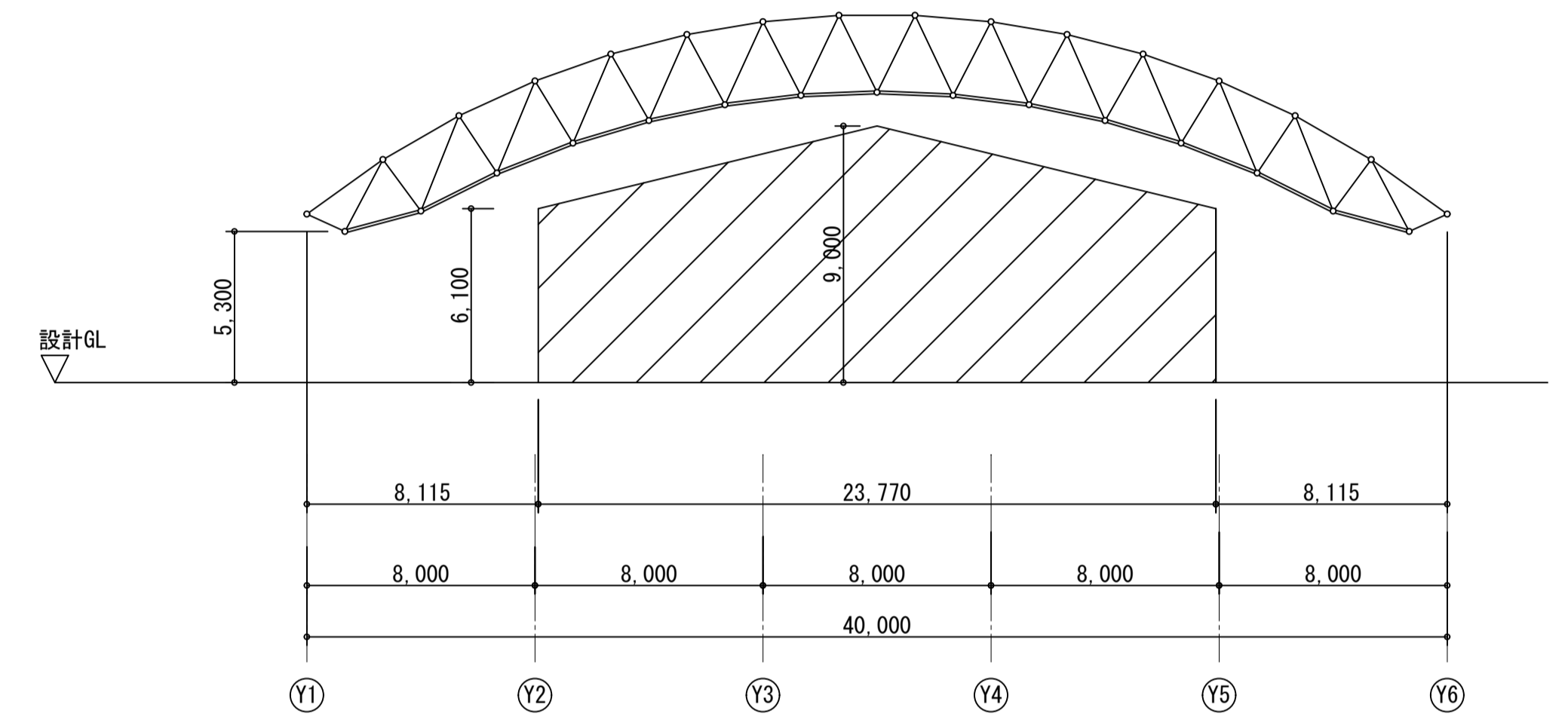
西立面図 1/200

	株式会社 車田建築設計事務所 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES 1級建築士事務所 登録 22(1)第0587号
	福山市建設局建築部営繕課 設計 2023年 3月
工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事 図面名称 【庭球場屋根】屋根伏図、立面図	図面No. A-52 縮尺 1/200 A1版:100% A3版:50%

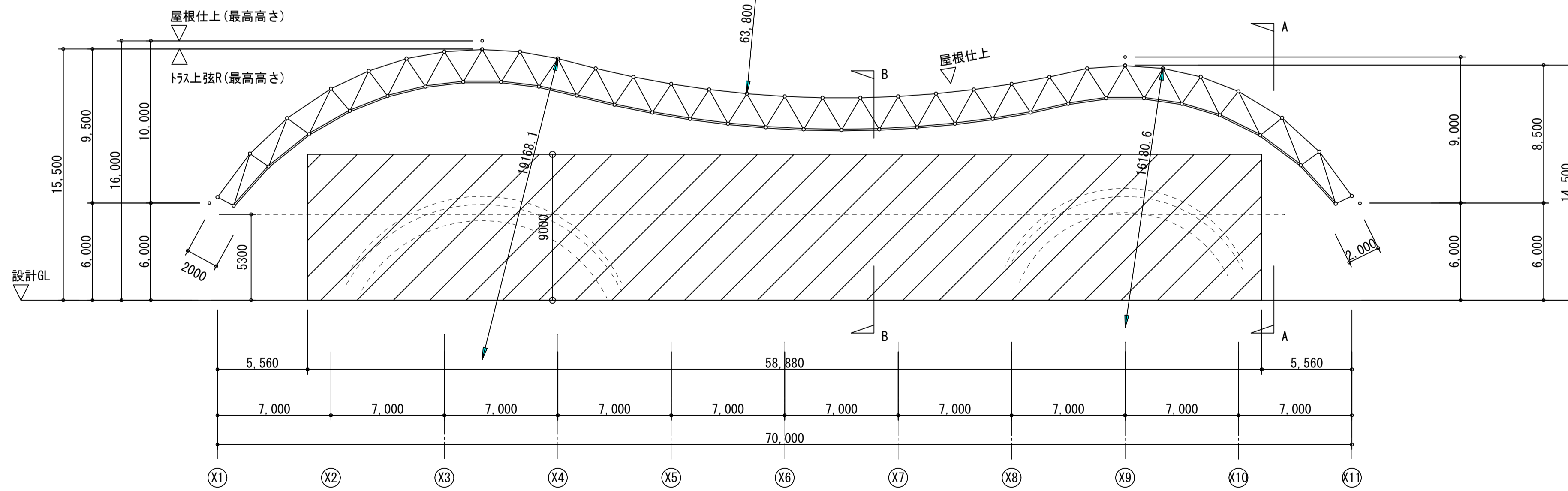




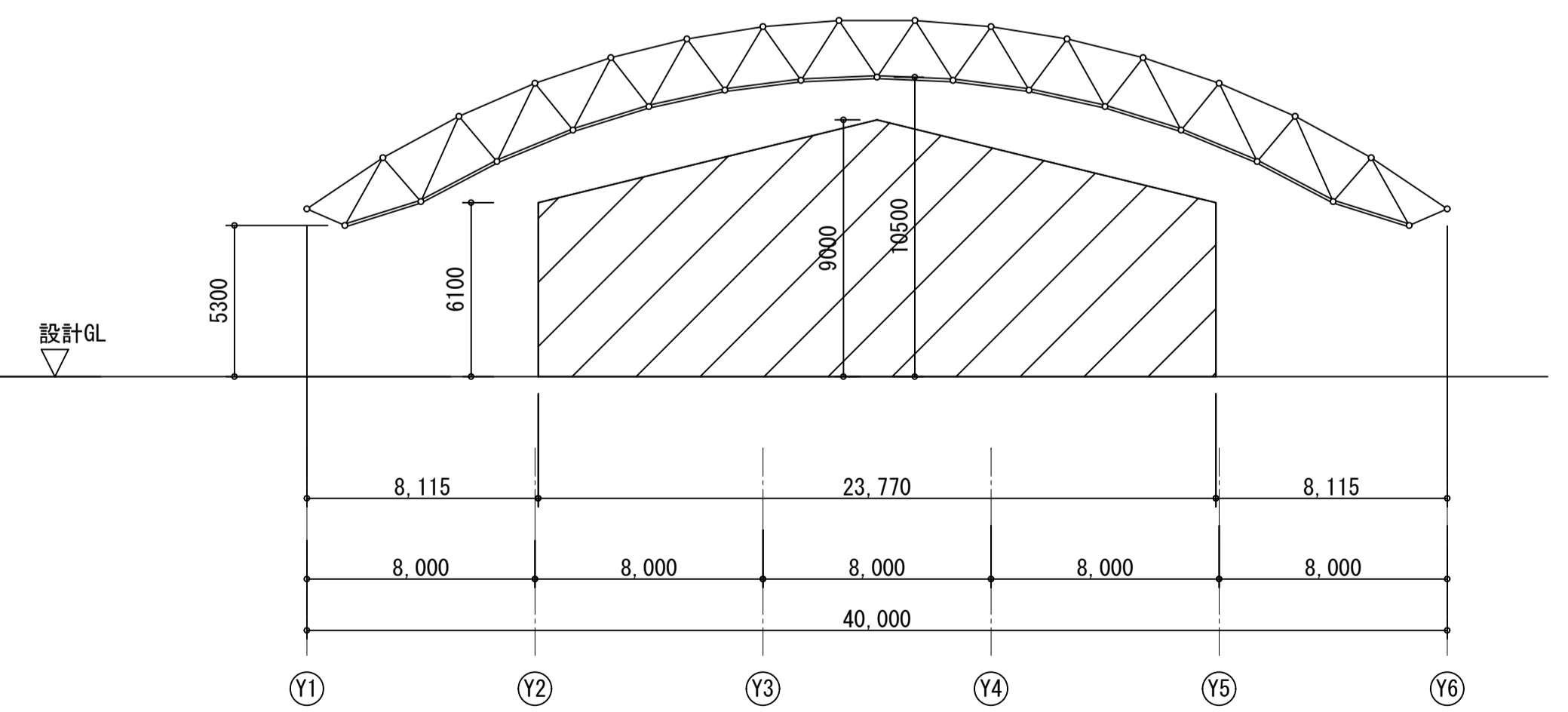
天井伏図 1/200



A-A断面図 1/200

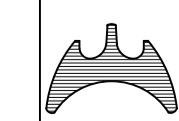


C-C断面図 1/200



B-B断面図 1/200


株式会社 車田建築設計事務所  
 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES  
 1級建築士事務所 登録 22(1)第0587号

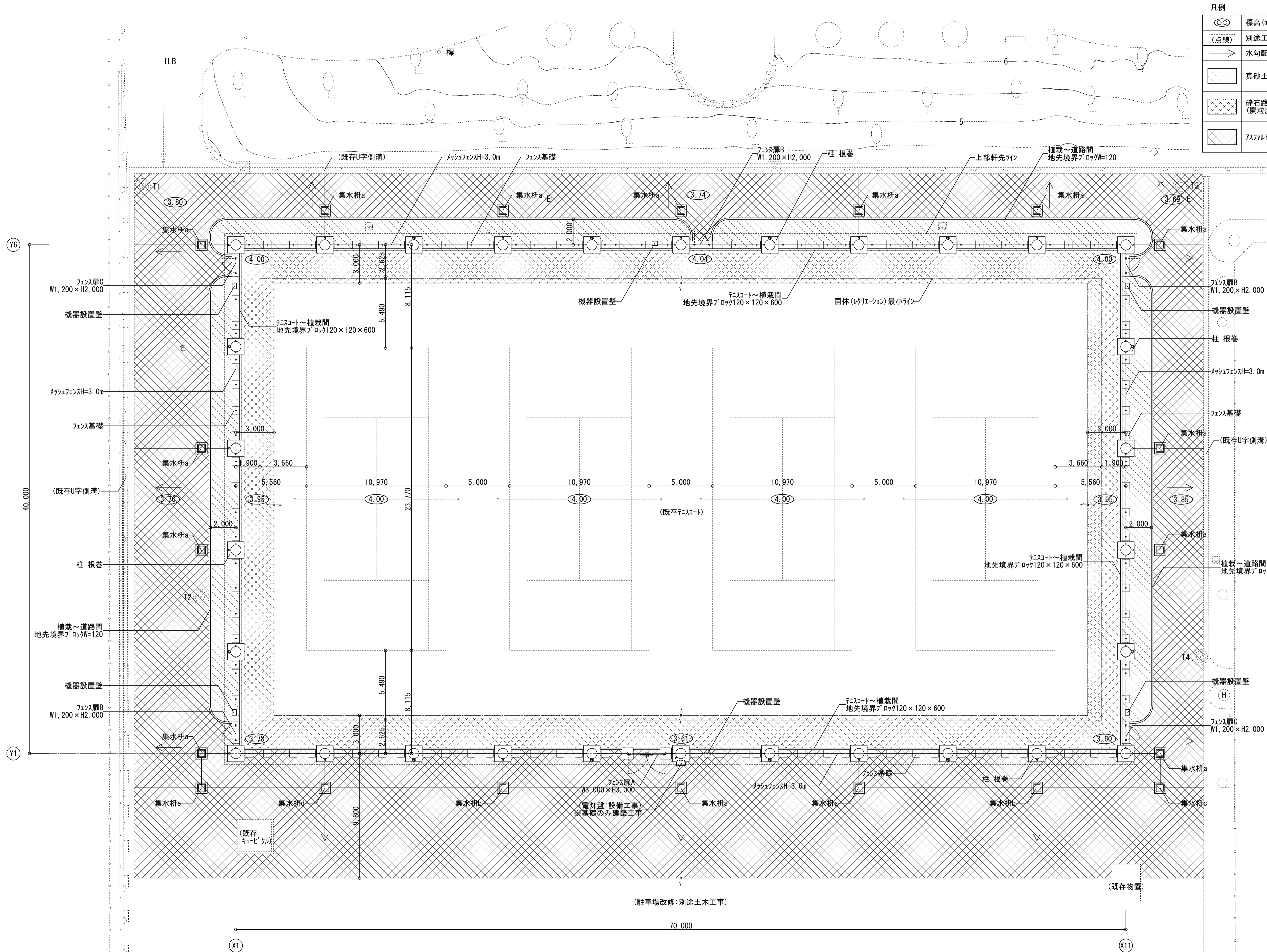


福山市建設局建築部営繕課  
 設計 2023年 3月

工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事	図番No A-53
図名 【庭球場屋根】天井伏図、断面図	縮尺 1/200
	A1版:100% A3版:50%

凡例	
○	標高(m)を示す。(標高2.6m±0とする。)
(点線)	別途工事または既存のままを示す。
→	水勾配を示す。
	真砂土埋戻しの範囲を示す。<273.69㎡>
	砕石路盤Rc40t=150の範囲を示す。<524.26㎡> (開粒度F30t=50、砂入人工芝の復旧は土木工事とする。)
	7スラム舗装(車両用)復旧の範囲を示す。<1,534.63㎡>

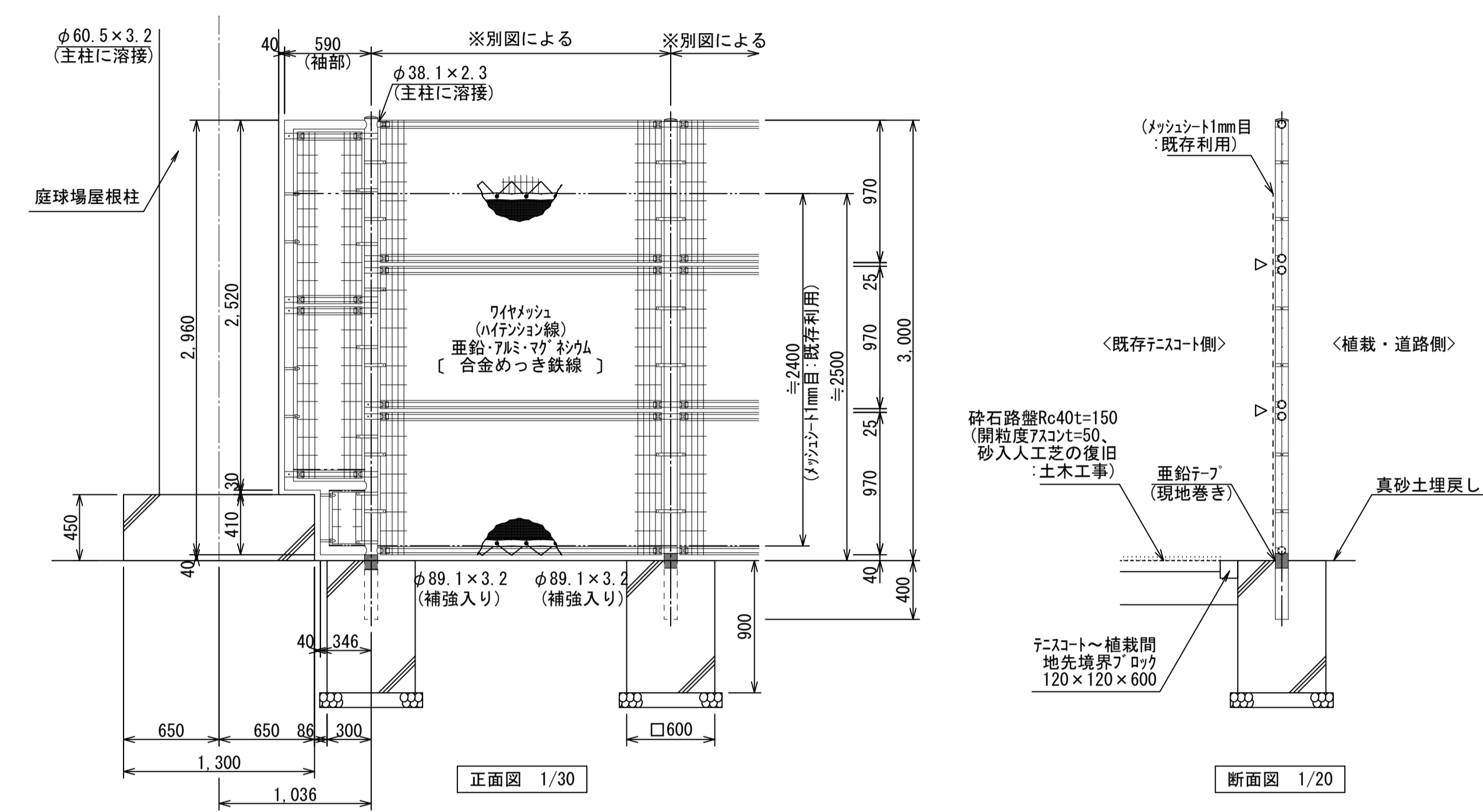
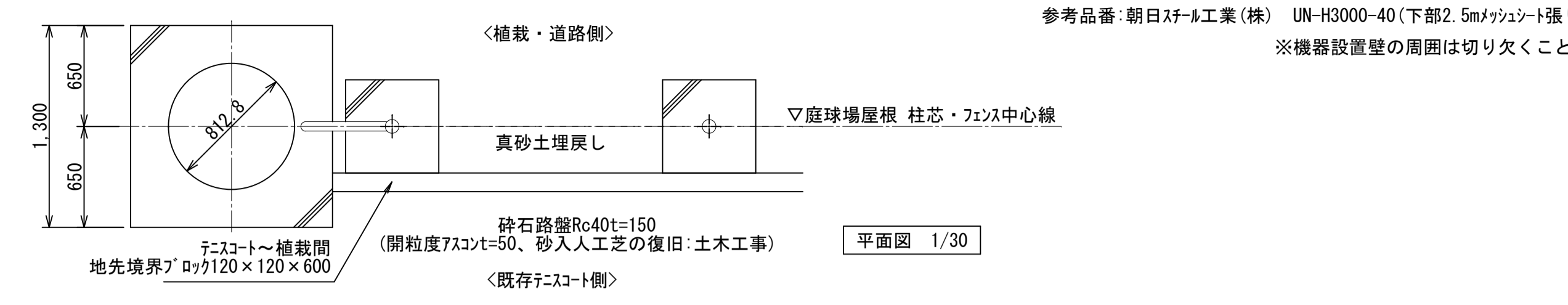
※雨水管の径は、全て150φとする。



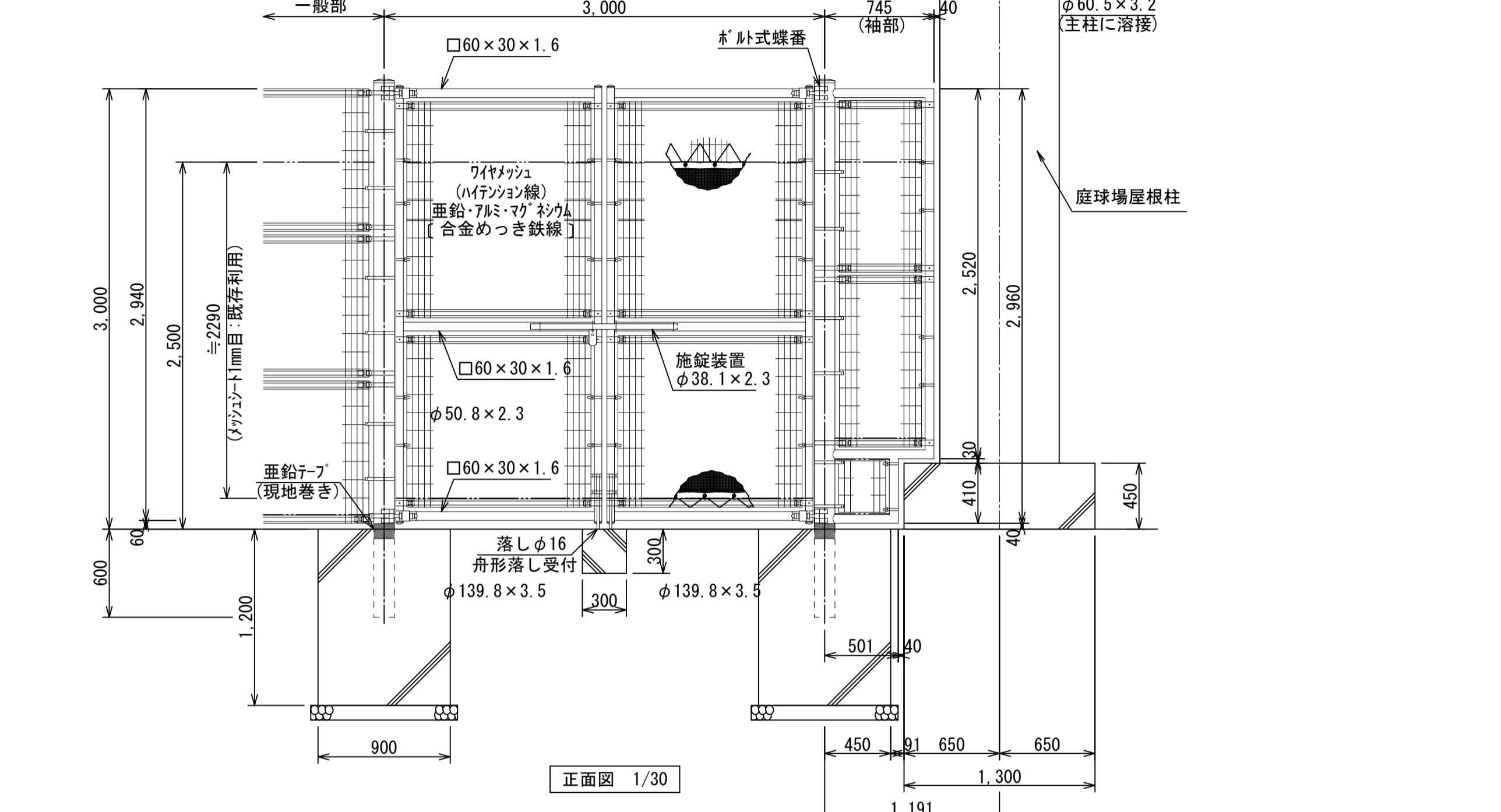
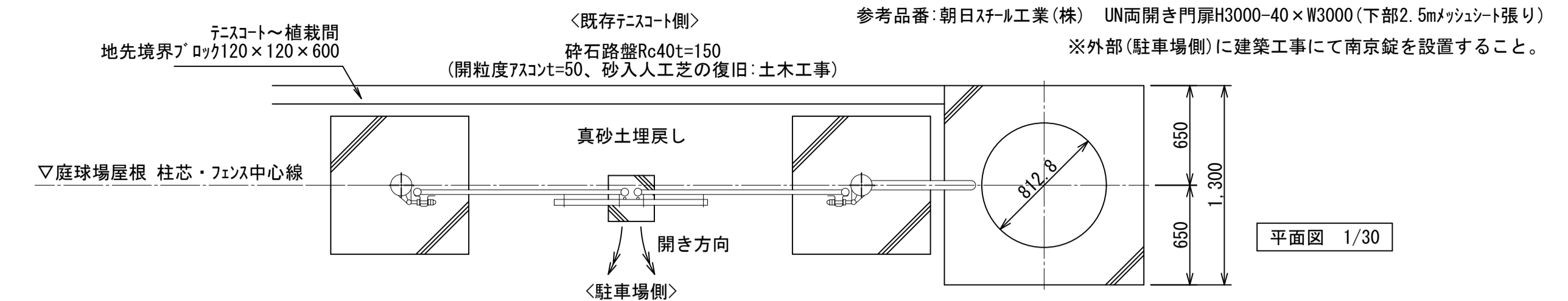
外構図 1/150

メッシュフェンス詳細図

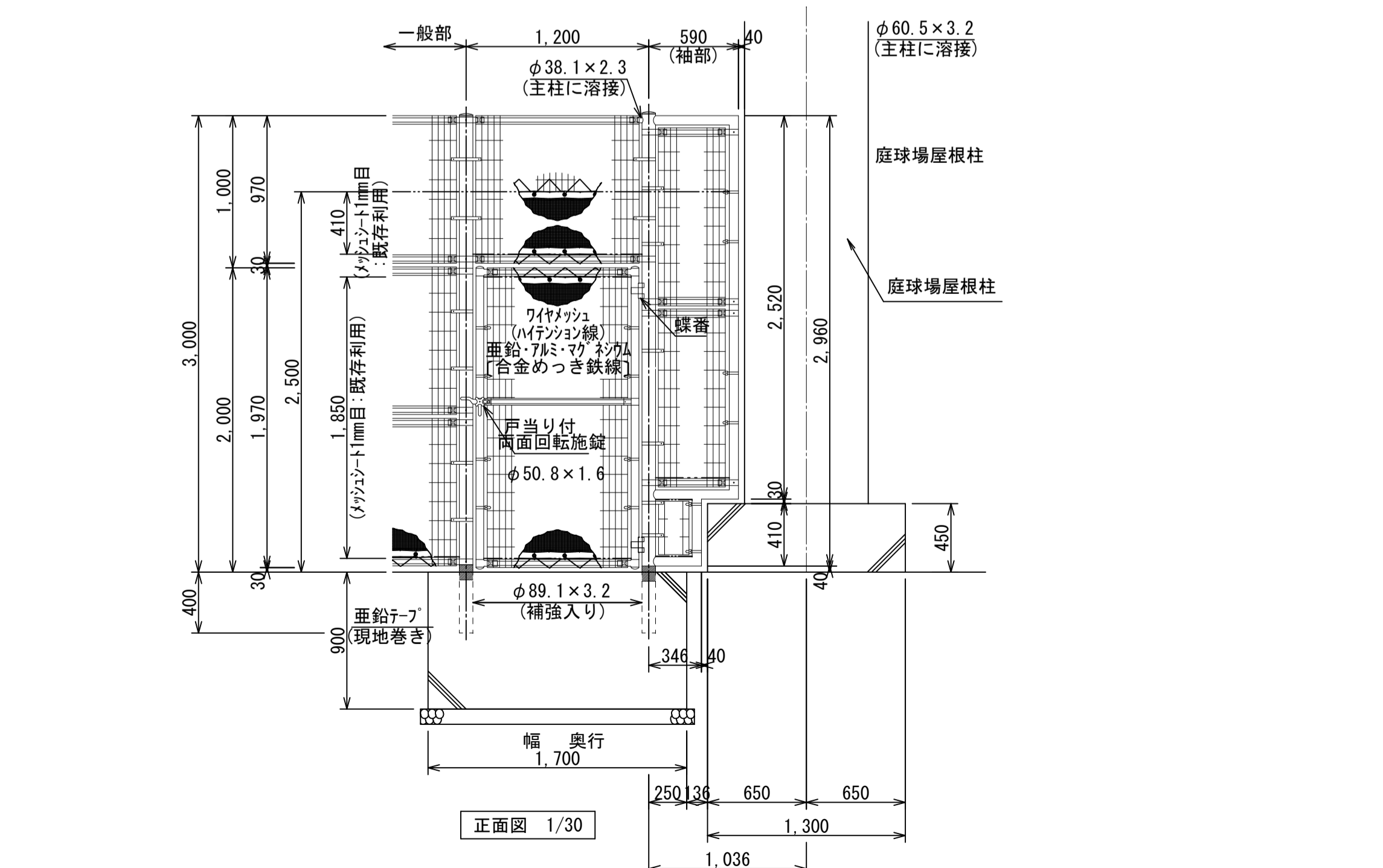
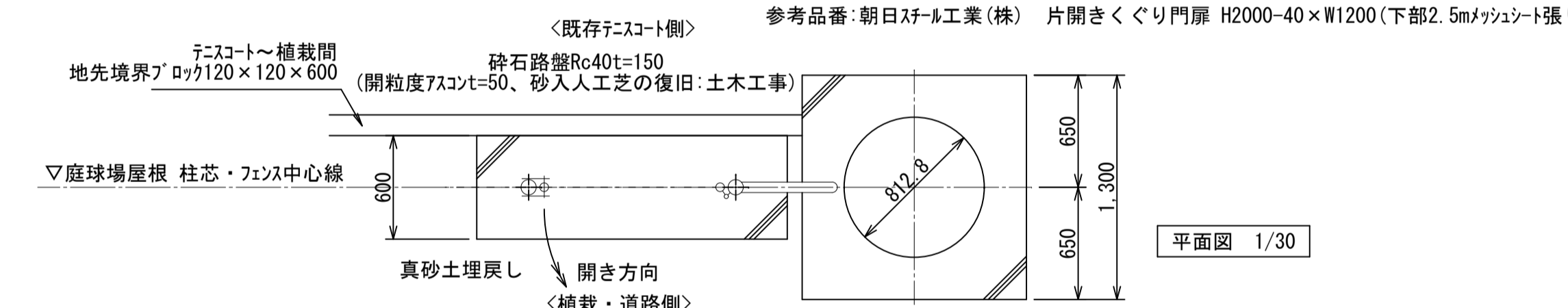
一般部



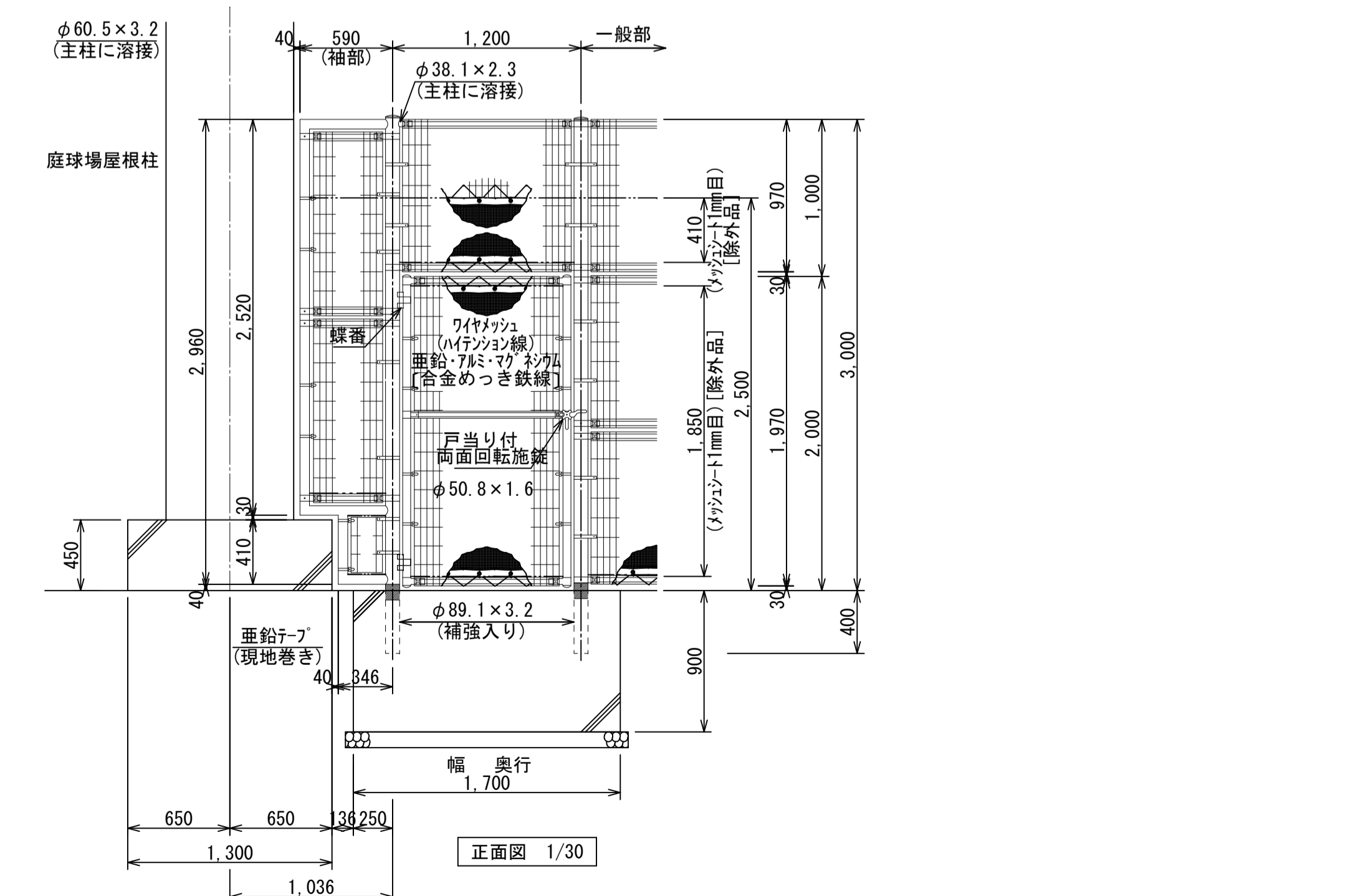
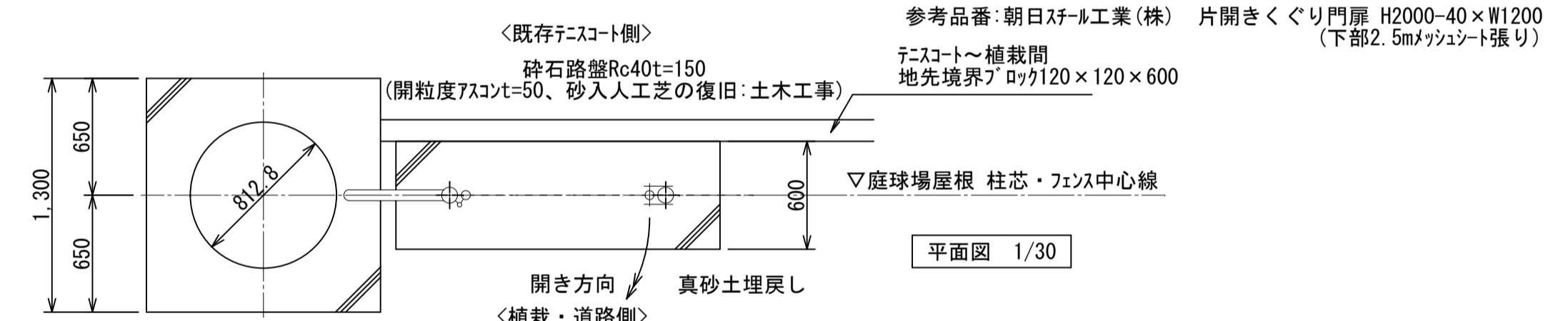
フェンス扉A

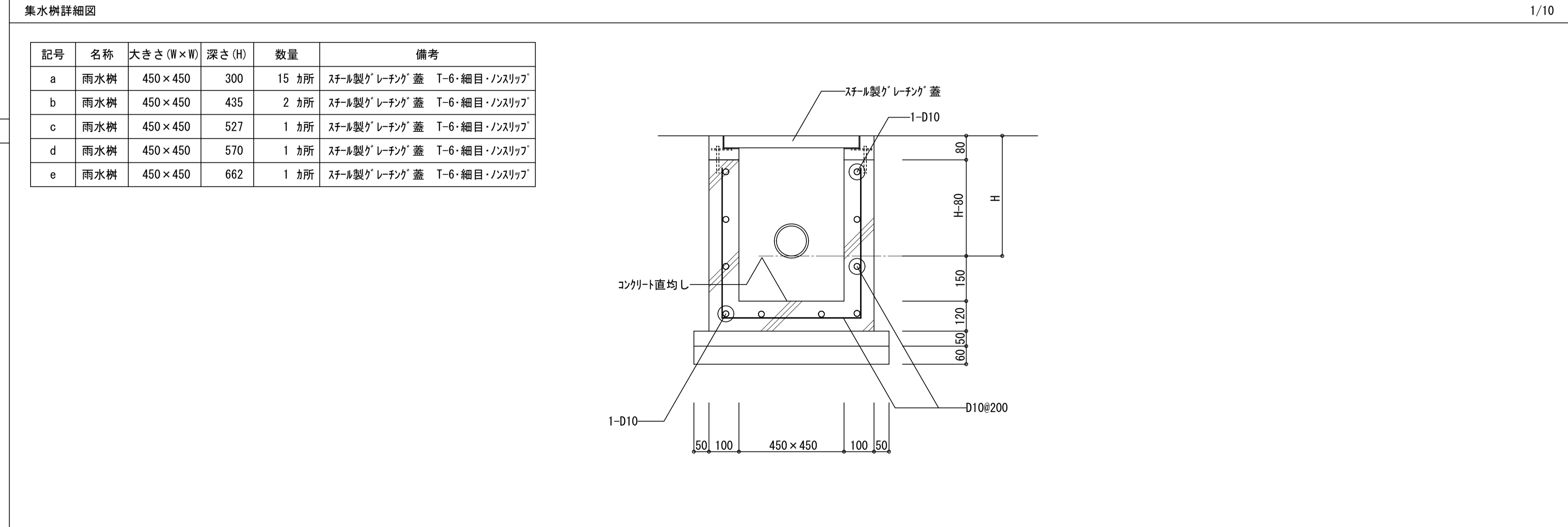
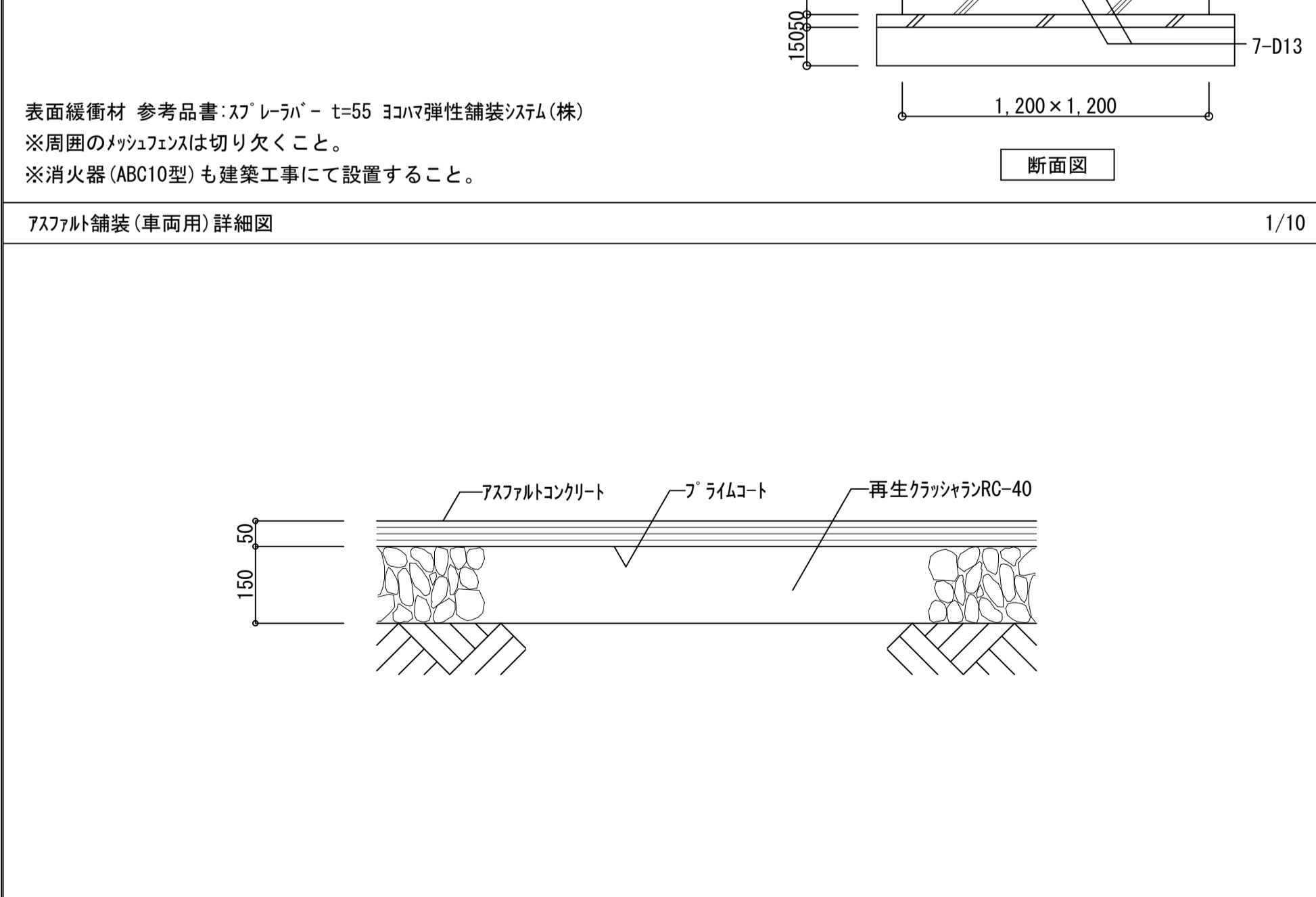
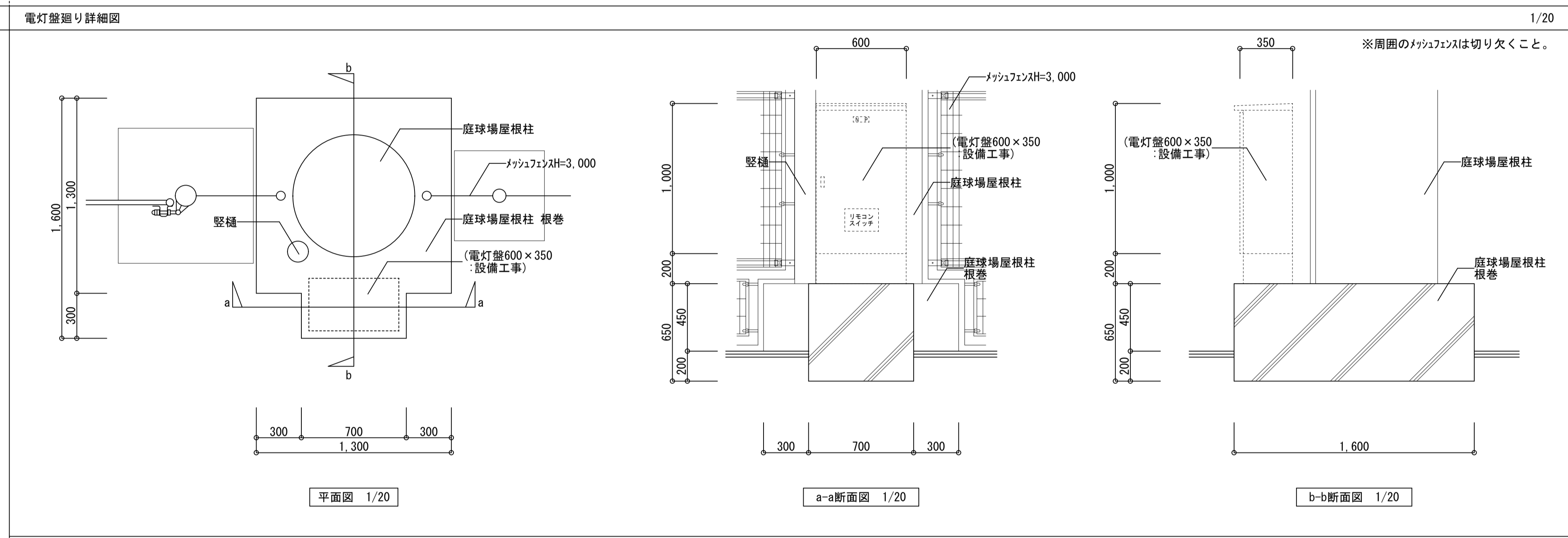
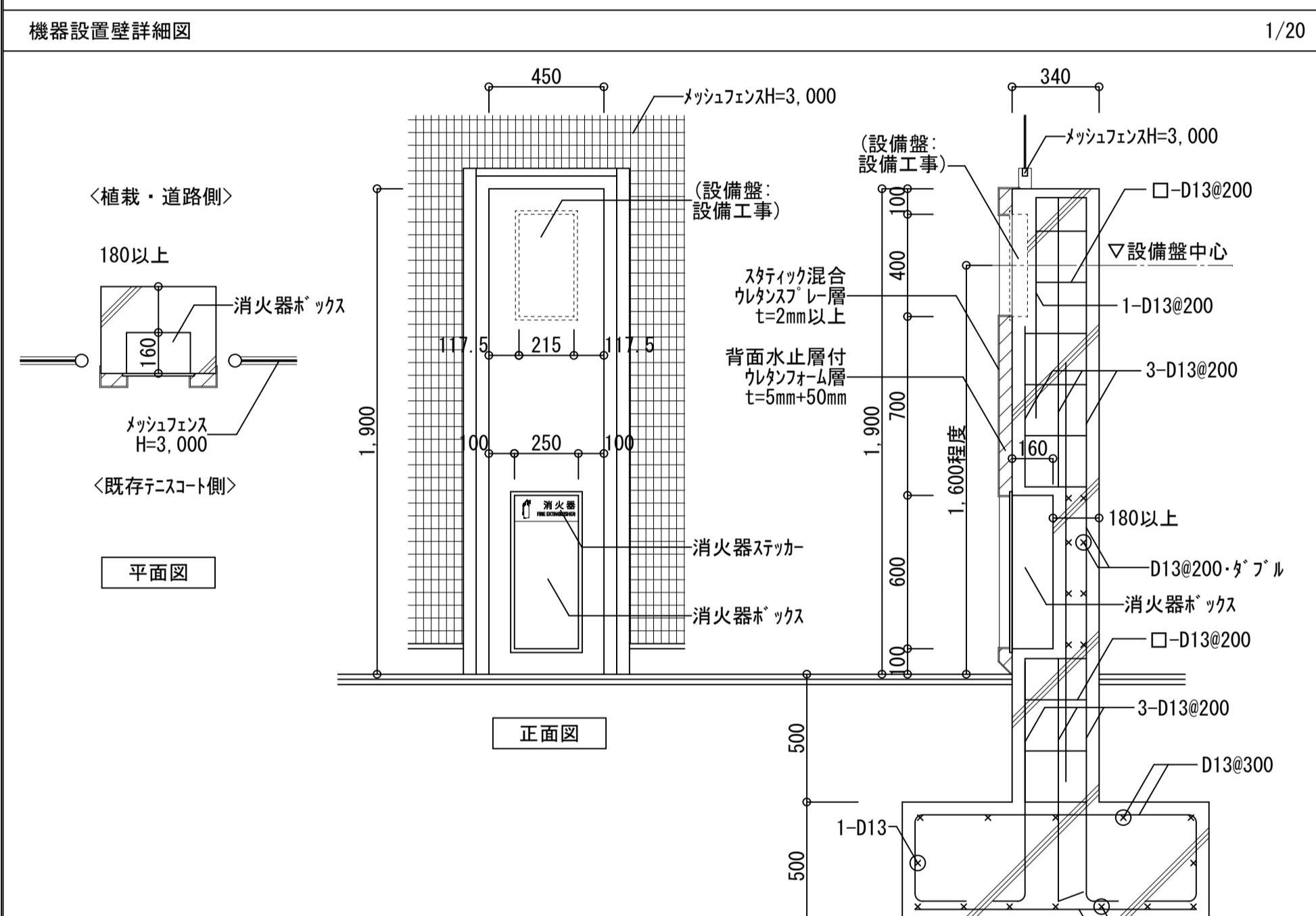
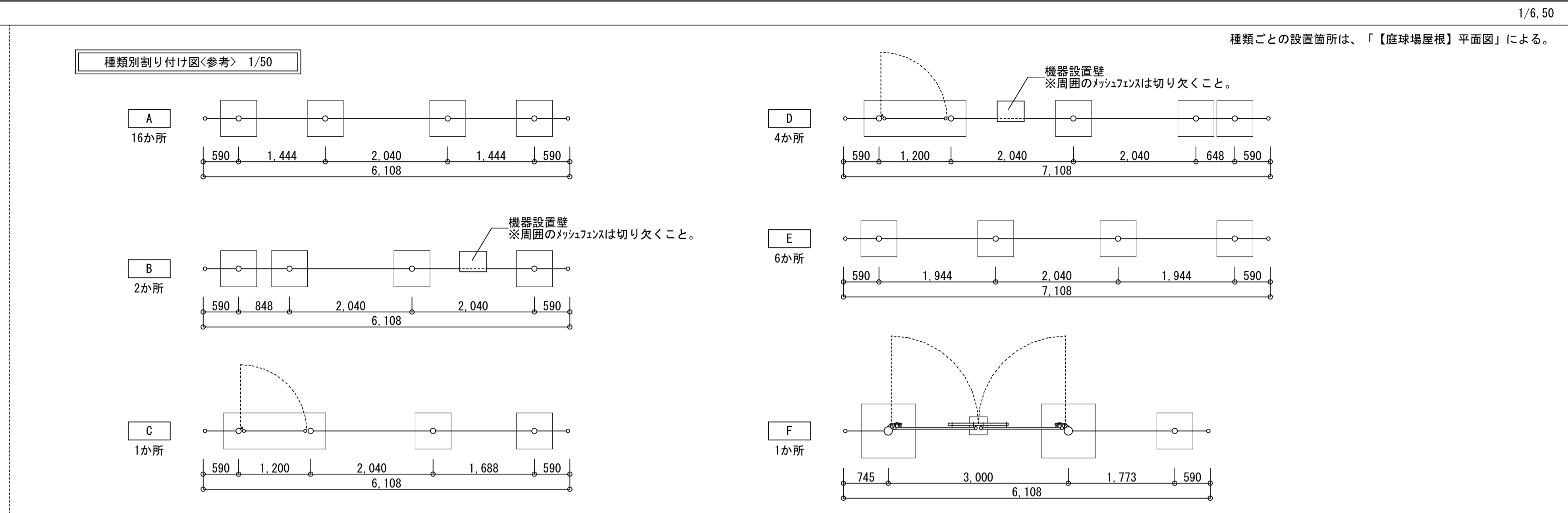
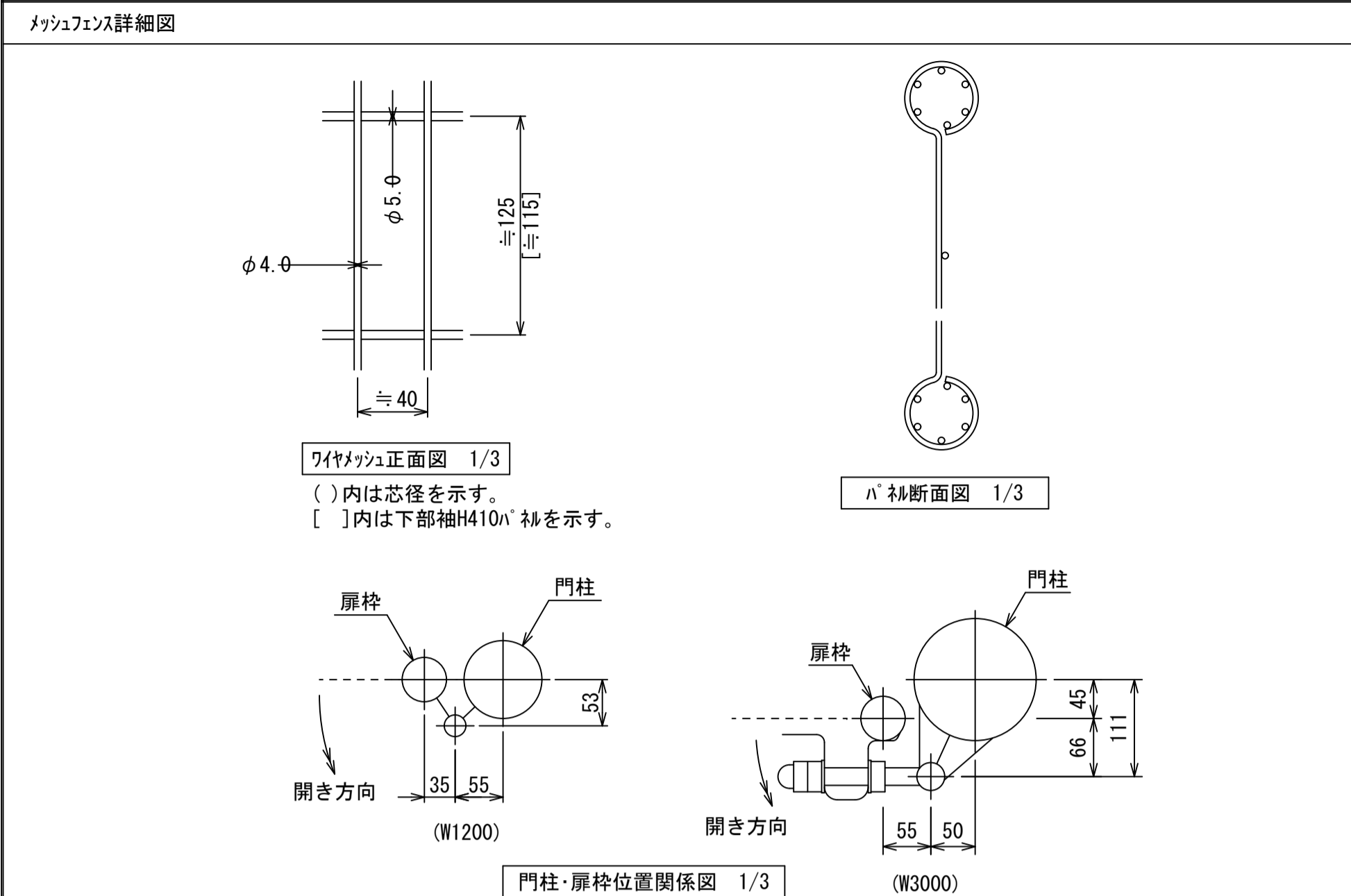


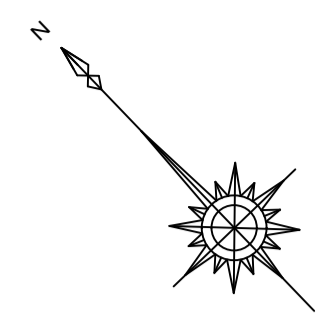
フェンス扉B




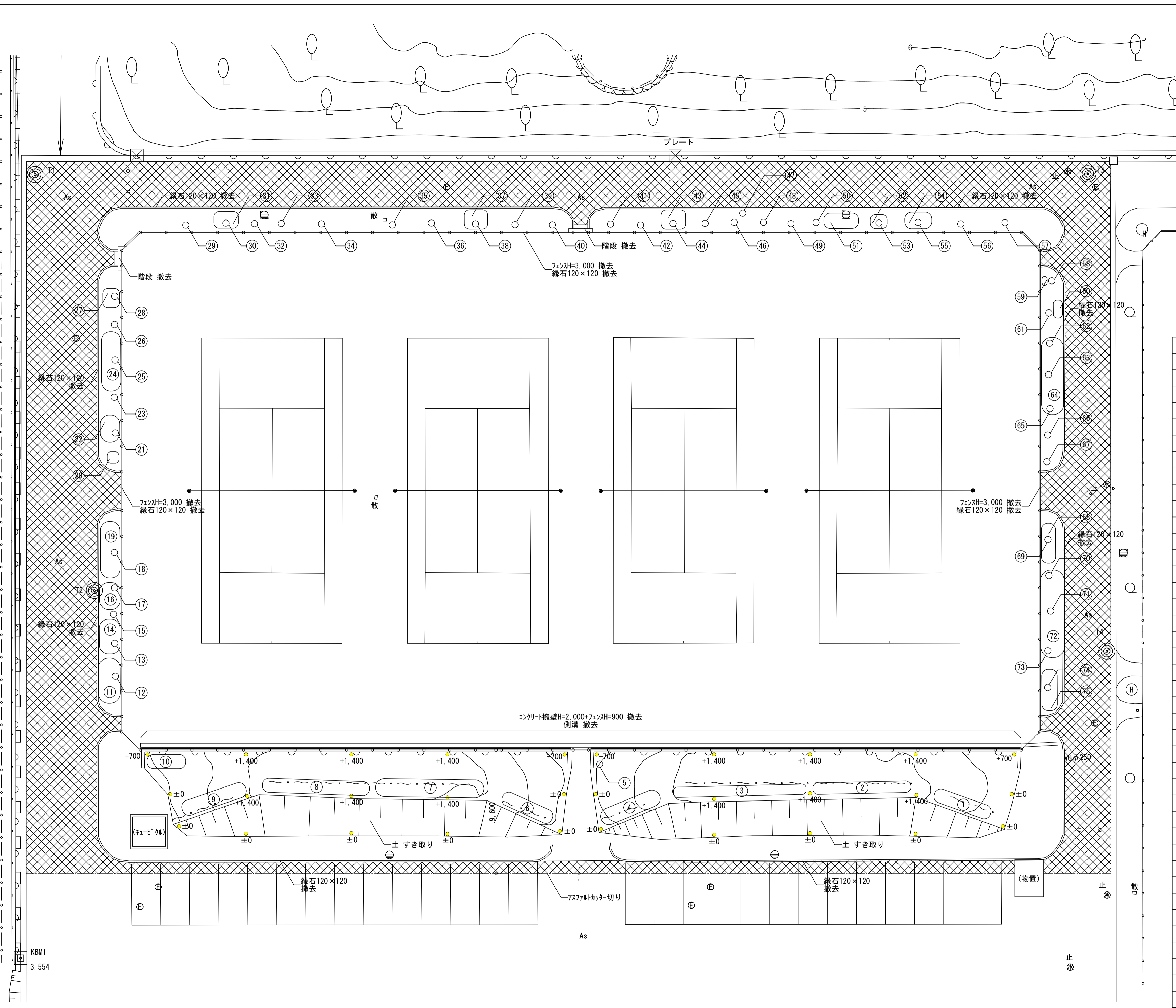
フェンス扉C







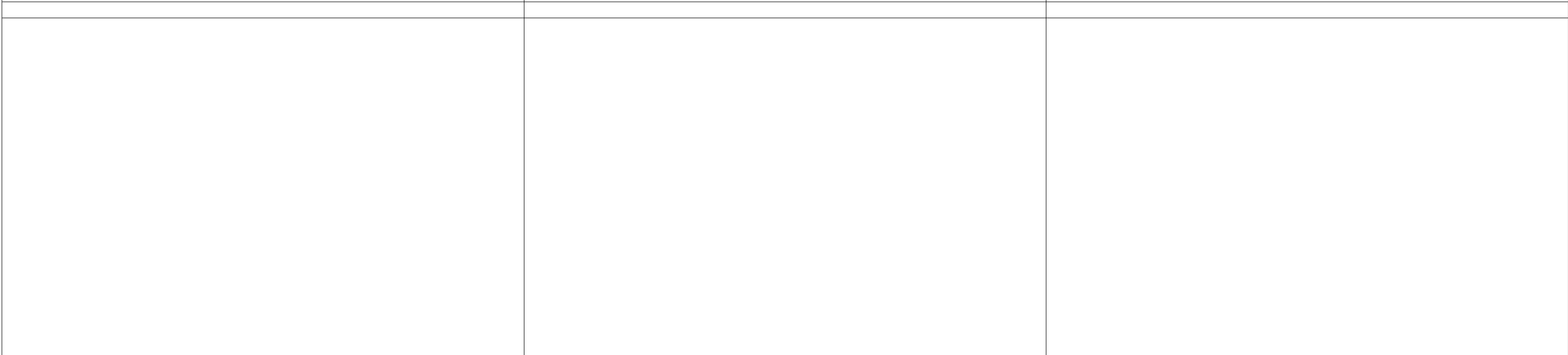
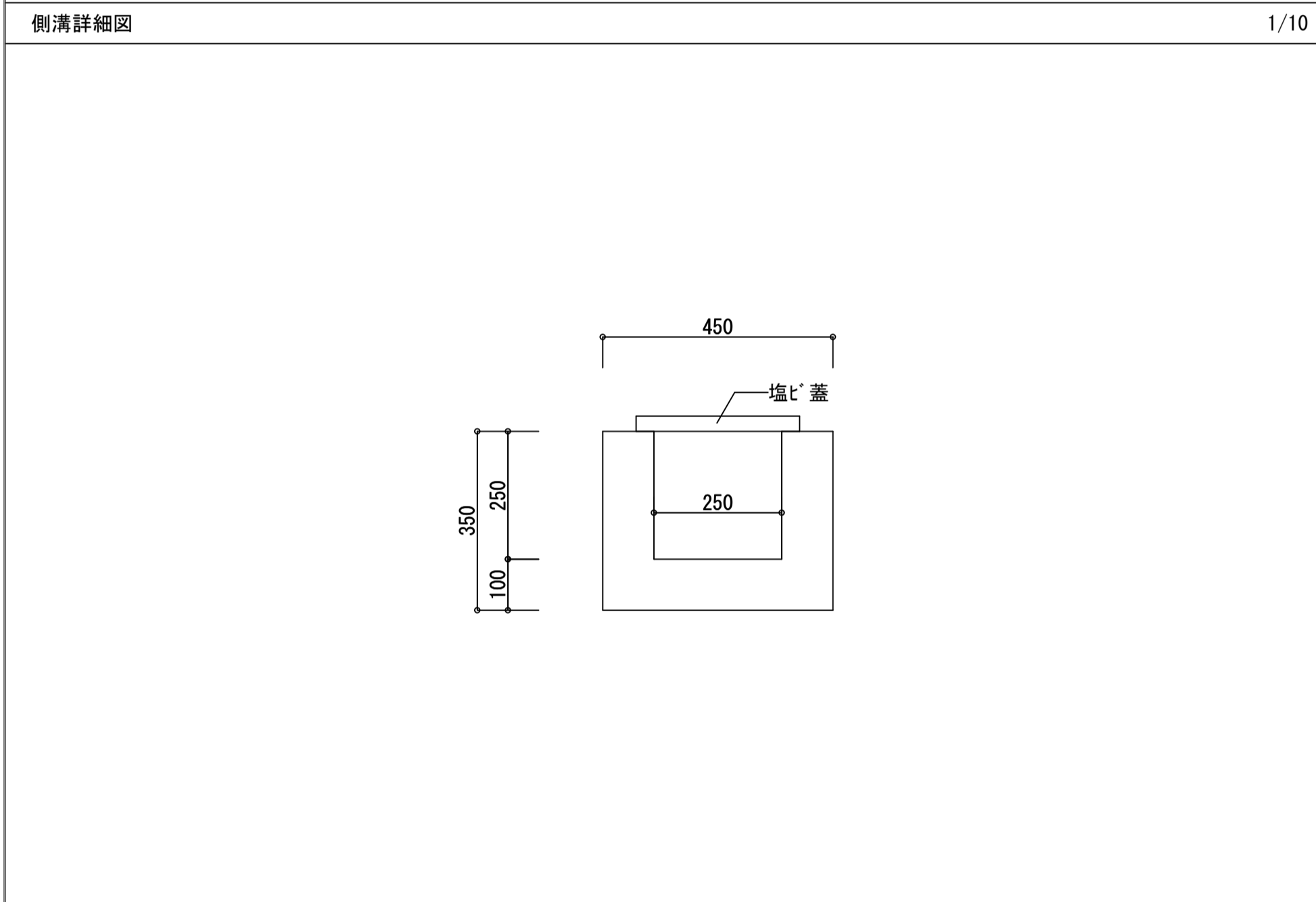
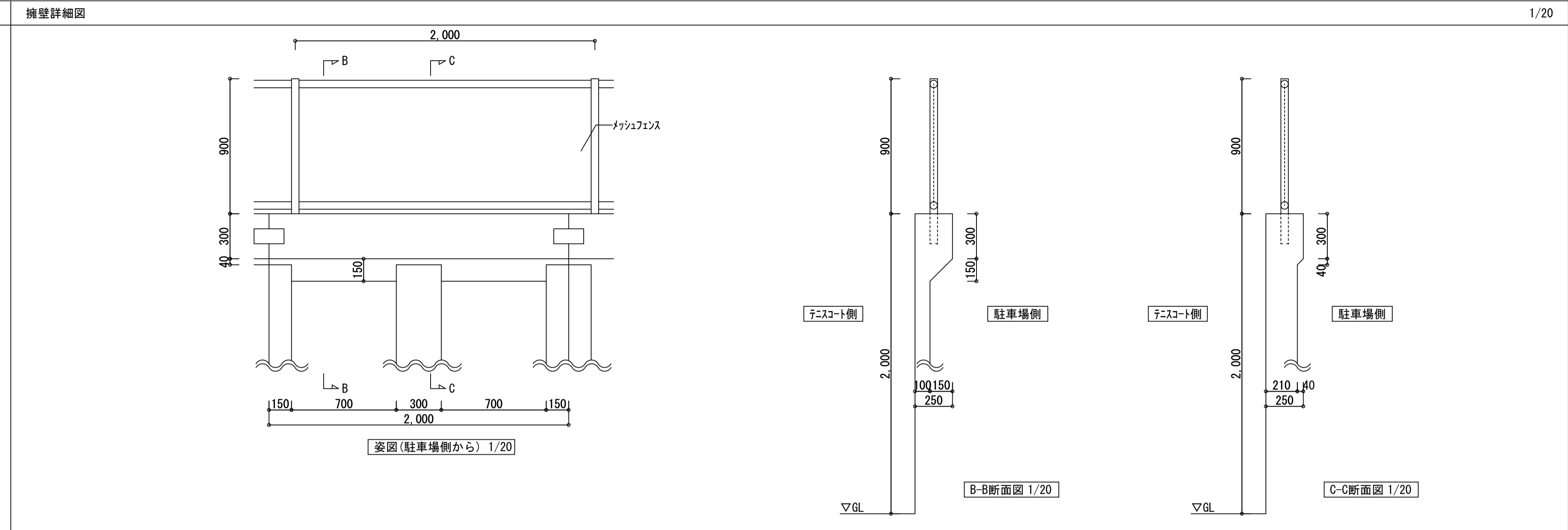
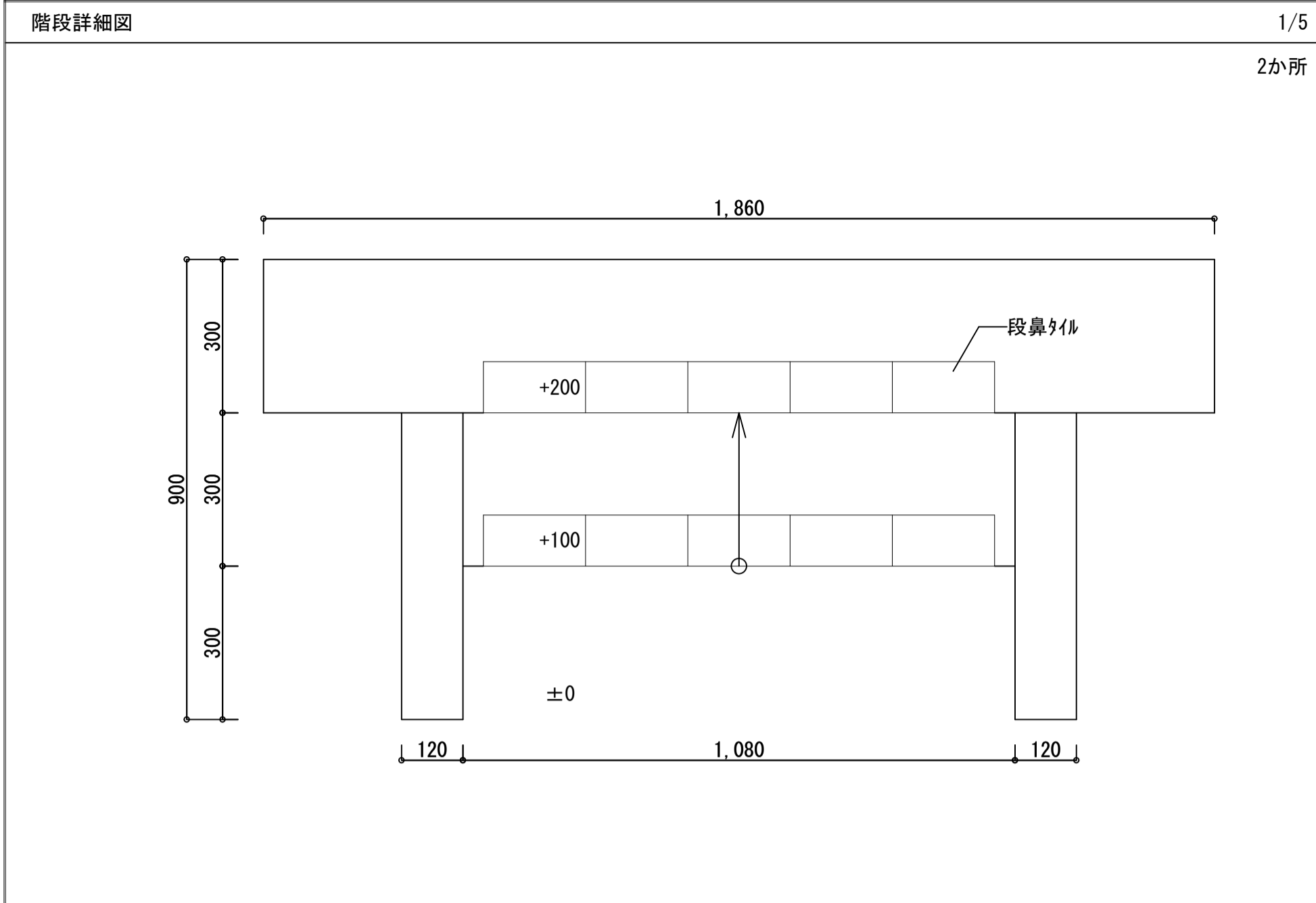
凡例  
 アスファルト舗装撤去の範囲を示す。

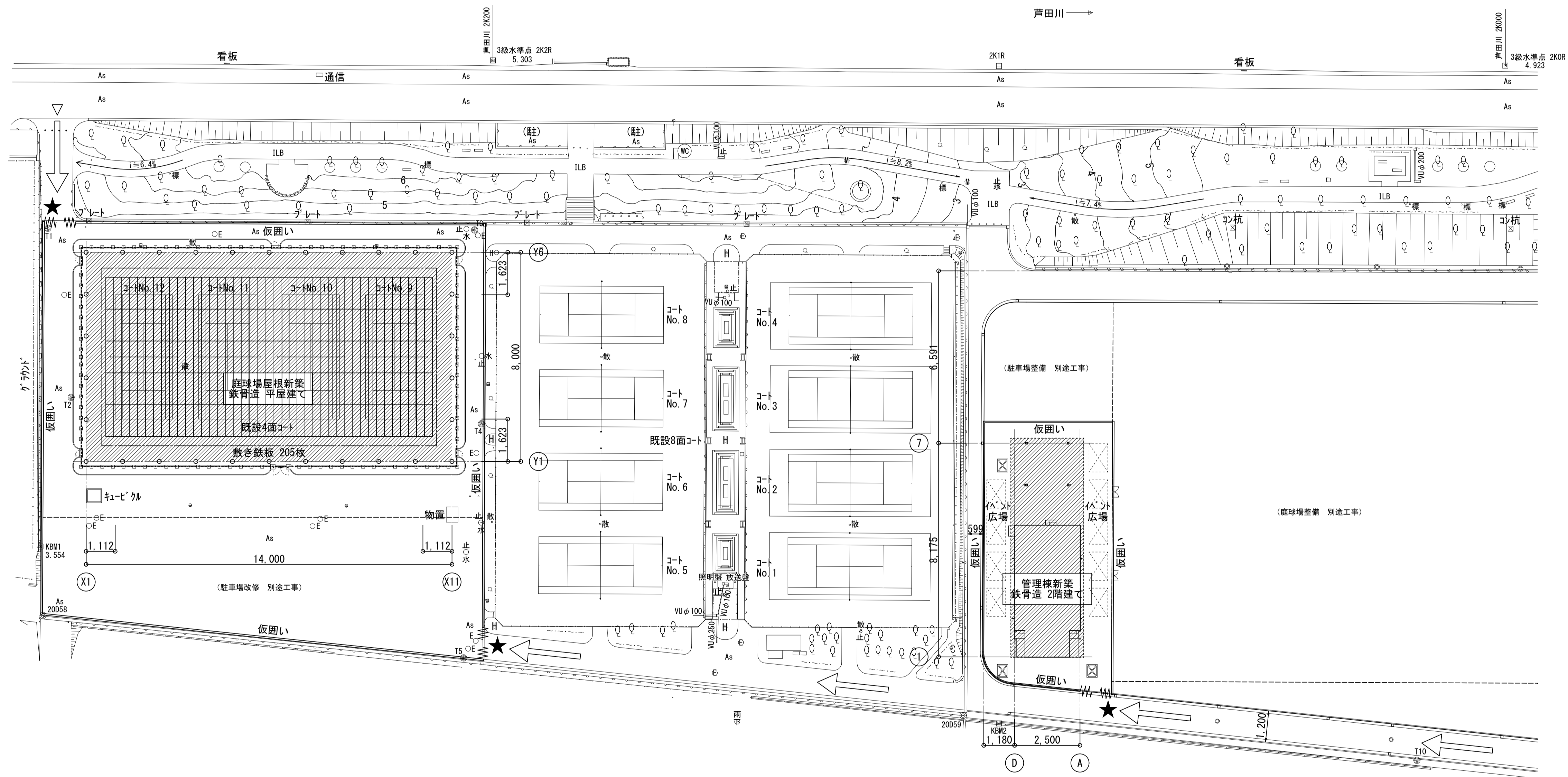
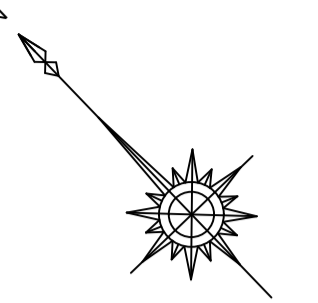


撤去植栽リスト

記号	寸法	幹径	本数	記号	寸法	幹径	本数
①	1100×4600×600	30	14	(41)	1600, H=2100	100	1
②	900×7600×900	30	9	(42)	1000, H=2000	60	1
③	800×10300×1400	60	13	(43)	1500×1900×600	30	8
④	1300×4900×700	30	13	(44)	1300, H=2000	60	1
⑤	3000, H=4500	150	1	(45)	250, H=450	30	1
⑥	1100×4200×600	30	8	(46)	1100, H=2000	60	1
⑦	1400×8400×1500	60	12	(47)	400, H=600	30	1
⑧	1100×8300×900	30	12	(48)	1100, H=2000	60	1
⑨	1200×5200×800	30	10	(49)	1300, H=2000	60	1
⑩	1100×3000×600	30	10	(50)	900, H=1800	60	1
⑪	1700×3500×700	30	12	(51)	1200×2700×1500	60	4
⑫	1400, H=2500	100	1	(52)	1100×1300×400	30	9
⑬	1500, H=2500	100	1	(53)	1300, H=2000	60	1
⑭	1600×2700×1100	60	5	(54)	1300×2100×600	30	8
⑮	1100, H=2000	60	1	(55)	1100, H=2000	60	1
⑯	1600×2100×1300	60	4	(56)	1300, H=3000	100	1
⑰	1300, H=2000	60	1	(57)	1200, H=1800	60	1
⑱	1500, H=2500	100	1	(58)	1500, H=1800	60	1
⑲	1500×4400×700	30	14	(59)	700×400×700	30	1
⑳	900×900×700	30	2	(60)	700×1400×700	30	2
㉑	1500, H=2500	100	1	(61)	1400, H=1500	60	1
㉒	1500×2100×700	30	7	(62)	1200, H=1800	60	1
㉓	1500, H=2500	100	1	(63)	1000, H=1800	60	1
㉔	1500×4600×1300	60	7	(64)	1700×6000×700	30	21
㉕	1500, H=2500	100	1	(65)	1200, H=2000	60	1
㉖	1300, H=2500	100	1	(66)	1400, H=1800	60	1
㉗	1300×1500×600	30	6	(67)	1000, H=1400	60	1
㉘	1600, H=2500	100	1	(68)	1100×3100×800	30	6
㉙	1200, H=2000	60	1	(69)	1200, H=2000	60	1
㉚	1200, H=2500	100	1	(70)	1000, H=1800	60	1
㉛	1200×1700×600	30	6	(71)	1100, H=2000	60	1
㉜	600, H=1000	30	1	(72)	1800×6800×800	30	20
㉝	1700, H=2500	100	1	(73)	1300, H=2000	60	1
㉞	750, H=1200	60	1	(74)	1500, H=2000	60	1
㉟	1800, H=2000	60	1	(75)	1200×3200×1000	60	4
㊱	700, H=700	30	1				
㊲	1500×1800×600	30	8				
㊳	1200, H=2000	60	1				
㊴	1200, H=2000	60	1				
㊵	1600, H=2000	60	1				

KBM1  
3.554





仮囲い計画図 1/500

凡例

	計画建物位置を示す。
	計画建物名を示す。
	工事関係車両動線
	成形鋼板H=2,000(管理棟:142m、庭球場屋根:315m)
	ネットゲート W6,000×H1,800(管理棟:1か所、庭球場屋根:2か所)
	交通誘導員 (いずれかに配置すること)

4 地 業 工 事	1 基礎	※ 直接基礎 ( ・ 地盤改良 ( ・ 表層改良 ・ 柱状改良 ) ) 設計地耐力 KN/m <sup>2</sup> ○ 杭基礎																										
	2 試験及び報告書	試験杭 位置、本数及び寸法 ○ 最初の1本 ・ 図示による (4.2.2) 杭の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.3) 地盤の載荷試験 ※ 行わない ・ 図示による (4.2.4)																										
	3 既製コンクリート杭地業	施工管理技術者 ※適用する (4.3.2) 種類 (4.3.1~8) ・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭) ○ プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭) 上杭: JP-PRC φ500 (1種105N) ・ 外殻鋼管付きコンクリート杭 (SC杭) 下杭: JP-NPH φ500-400-500 (A種105N) SC杭の鋼管材料 ・ SKK400 ・ SKK490																										
	4 鋼杭地業	施工管理技術者 ※適用する (4.4.2) 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 (4.4.1~6) 寸法、継手、性能等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>符号</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m) 及び種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>継手数</th> <th>本数</th> <th>コンクリート強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>長期設計支 持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td>上杭 中杭 下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td>PI</td> <td>φ500 上杭 8.0 中杭 13.0 下杭 65</td> <td>80</td> <td>1</td> <td>12</td> <td>105</td> <td>1800</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 先端部材形状 ○開放形 ・ 半開放形 ・ 閉さく形 なお、特定埋込杭工法における杭材料は JIS 又は認定条件に適合するものとする ネガティブフリクション対策 ※不要 ・ 要 (構造図による) 杭の継手 ・ アーク溶接継手 ・ 標準仕様書 4.3.6 による 溶接材料 ・ 標準仕様書 7.2.5(1)(2) による ・ 構造図による ○機械式継手 (※評定等を受けたもの) 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ○切断しない ・ 切断する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) ※構造図による 杭頭の中継材料 ※コンクリート (基礎コンクリートと同調合) ( ) 施工方法 ・ セメントミルク工法 アースオーガーの支持地盤への掘削深さ ・ 1.5m程度 杭の支持地盤への掘削深さ ・ 1.0m以上 ○特定埋込杭工法 ・ H13国交告 1113号第6による支持力算定式で α=250 程度を採用できる工法 ・ H13国交告 1113号第6による支持力算定式で α=413, β=5.0, γ=0.7 を採用できる工法 工法 ○レボリング拡大根固工法 ・ 中掘り拡大根固工法 杭周囲固定液の使用 ○する ・ しない 杭の精度 水平方向の位置ずれ ○杭径の 1/4 かつ 100mm 以下 杭の傾斜 ○1/100 以内 ・ 評定条件または認定条件による	符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	長期設計支 持力 (kN/本)	備考	試験杭		上杭 中杭 下杭							本杭	PI	φ500 上杭 8.0 中杭 13.0 下杭 65	80	1	12	105	1800
符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	長期設計支 持力 (kN/本)	備考																				
試験杭		上杭 中杭 下杭																										
本杭	PI	φ500 上杭 8.0 中杭 13.0 下杭 65	80	1	12	105	1800																					

5 場 所 打 ち コ ン ク リ ー ト 杭 地 業	1 基礎	施工管理技術者 ※適用する (4.5.2) 寸法等 (4.5.1~7)																										
	2 試験及び報告書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>符号</th> <th>軸径 (mm)</th> <th>杭底径 (mm)</th> <th>杭長 (mm)</th> <th>セツト数</th> <th>長期設計支持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	符号	軸径 (mm)	杭底径 (mm)	杭長 (mm)	セツト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考	試験杭							本杭											
	符号	軸径 (mm)	杭底径 (mm)	杭長 (mm)	セツト数	長期設計支持力 (kN/本)	備考																					
	試験杭																											
本杭																												
3 既製コンクリート杭地業	材料 コンクリートの種類 ・ A種 ※B種 ・ 評定等の内容による コンクリートの設計基準強度 ( ) N/mm <sup>2</sup> 以上 構造体強度補正值 ・ 3N/mm <sup>2</sup> ・ 構造図による ・ 評定等の内容による セメントの種類 ※高炉セメントB種 スランプ値 ※18cm 鉄筋の種類 ※5章鉄筋工事の鉄筋の種類による 鋼管巻き材料 ・ SKK400 ・ SKK490 鋼管径・板厚・長さ ※構造図による 掘削工法 ・ アースドリル工法 (安定液 ※使用する ・ 使用しない) ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 (孔内の水張 ・ 行う ・ 行わない) 併用する工法 ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 ・ SKK400 ・ SKK490 ( ) ・ 掘削杭工法 (安定液 ※使用する ・ 使用しない) 孔壁測定 ※行う 測定方法 ※超音波測定器 測定場所 ※試験杭 ( ) 箇所及び本杭 ( ) 箇所 行わない 鉄筋ごとの補強 ・ 標準仕様書 4.5.4(1)(f)(c) による 鉄筋の最小かぶり厚さ ・ 100mm 鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ ※構造図による 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の 1/4 かつ 100mm 以下 杭の傾斜 ・ 1/100 以内 ・ 評定条件または認定条件による																											
4 鋼杭地業	施工管理技術者 ※適用する (4.4.2) 種類の記号 ・ SKK400 ・ SKK490 (4.4.1~6) 寸法、継手、性能等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>符号</th> <th>杭径 (mm)</th> <th>杭長 (m) 及び種類</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>継手数</th> <th>本数</th> <th>コンクリート強度 (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>長期設計支 持力 (kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td>上杭 中杭 下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td>上杭 中杭 下杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 施工方法 ・ 特定埋込み杭工法 ・ H13国交告 1113号第6による支持力算定式で α=250 程度を採用できる工法 ・ H13国交告 1113号第6による支持力算定式で α= , β= , γ= を採用できる工法 工法 ・ 中掘り拡大根固工法 杭の精度 水平方向の位置ずれ ・ 杭径の 1/4 かつ 100mm 以下 杭の傾斜 ・ 1/100 以内 ・ 評定条件または認定条件による 杭の現場継手 ・ 溶接継手 形状 ・ JIS A 5525 による 溶接材料 ・ 標準仕様書 7.2.5(1)(2) による ・ 構造図による ・ 機械式継手 (※評定等を受けたもの) 機械式継手は評定等により定められた項目の検査を行う 施工は評定等に記された施工管理基準による 杭頭の処理 ・ 処理しない ・ 処理する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) ※構造図による 杭頭の中継材料 ※コンクリート (基礎コンクリートと同調合) ( )	符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	長期設計支 持力 (kN/本)	備考	試験杭		上杭 中杭 下杭							本杭		上杭 中杭 下杭						
符号	杭径 (mm)	杭長 (m) 及び種類	厚さ (mm)	継手数	本数	コンクリート強度 (N/mm <sup>2</sup> )	長期設計支 持力 (kN/本)	備考																				
試験杭		上杭 中杭 下杭																										
本杭		上杭 中杭 下杭																										

7 コ ン ク リ ー ト の 材 料	1 基礎	セメント <table border="1"> <thead> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>使用 部 位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※普通ポルトランドセメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントA種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ シリカセメントA種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントA種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 高炉セメントB種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ フライアッシュセメントB種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 混和材料 ○ AE 剤、AE 減水剤又は高性能 AE 減水剤 ( J I S A 6204 ) ※ フライアッシュ ( J I S A 6201 ) I 種、II 種若しくは IV 種 ※ 高炉スラグ微粉末 ( J I S A 6206 ) ※ シリカフェーム ( J I S A 6207 ) 又は膨張材 ( J I S A 6202 )	セメントの種類	使用 部 位	※普通ポルトランドセメント		・ 高炉セメントA種		・ シリカセメントA種		・ フライアッシュセメントA種		・ 高炉セメントB種		・ フライアッシュセメントB種	
	セメントの種類	使用 部 位														
	※普通ポルトランドセメント															
	・ 高炉セメントA種															
・ シリカセメントA種																
・ フライアッシュセメントA種																
・ 高炉セメントB種																
・ フライアッシュセメントB種																
2 試験及び報告書	8 コンクリート製造工場の選定 ※ レディミクストコンクリート工場の選定は、監督員の承諾を受ける。 (6.4.1) 9 強度 構造体強度補正值 S (N/mm <sup>2</sup> ) 適用箇所 ※建物本体 (6.3.2) (表6.3.2)															
3 既製コンクリート杭地業	10 置中コンクリート ※ 日平均気温の平年値が25度を超える期間にコンクリートを打ち込む場合 (6.12.1~6.12.4) 構造体強度補正值 S (N/mm <sup>2</sup> ) 6.0 N/mm <sup>2</sup> 11 寒中コンクリート 適用期間 ( ) (6.11.1~6.11.6) 12 コンクリートの強度試験 ※ (表6.9.2) による (6.9.1~6.9.5) 構造体コンクリートの4週強度は、公的機関により確認すること。 13 外部に面するコンクリート打放し仕上 ※ 打増厚さ ( ) (6.8.2)															
4 鋼杭地業	14 型枠のせき板 ※ 合板 (12mm) ・ 合板 (15mm) (6.8.2) ・ 床型枠用鋼製デッキプレート (実績等の資料を提出) ・ メッシュ型枠 ( ) ・ 断熱材兼用型枠 (25mm 以下かつ熱抵抗値 1m <sup>2</sup> °C/Kcal 以上) ・ MCR 工法用シート (気泡発泡ポリエチレンシート) ( ) 15 マスコンクリート セメントの種類 ( ) (6.13.2) 混和材料 ( ) 適用箇所 ( ) 16 水密コンクリート <table border="1"> <thead> <tr> <th>水セメント比 ( /wt)</th> <th>スランプ (cm)</th> <th>適用 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※50</td> <td>※15</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 17 打継部 止水板 止水ゴムの製造所 ( ) 適用箇所 ( ) 打継ぎ目地 ※ 図示による ・ 幅 20mm 以上 深さ 10mm 以上 打継ぎ位置 ※ 標仕による 18 無筋コンクリート 適用箇所 ※ 6.14.1 による (6.14.1) 粗骨材の最大寸法 (捨コンクリート及び防水保護コンクリートの場合) (6.14.2) ※ 25mm 以下 コンクリートの品質 (6.14.1)	水セメント比 ( /wt)	スランプ (cm)	適用 箇 所	※50	※15										
水セメント比 ( /wt)	スランプ (cm)	適用 箇 所														
※50	※15															

6 タ ー ン バ ッ ク ル	1 基礎	鋼の種類 ※ 割弁式 (7.2.6) ボルトの種類 ※ 羽子板ボルト					
	2 試験及び報告書	7 デッキプレート (7.2.7)					
	3 既製コンクリート杭地業	8 柱底均しモルタル 材 料 ・ モルタル ○ 無収縮モルタル (表7.2.5) (7.2.9) 工 法 ※A種 ・ B種 (表7.10.2)					
	4 鋼杭地業	9 溶接部の試験 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.12) (表7.6.2~7.6.3) ※行う ・ 行わない 工場溶接の場合 A O Q L ※ 4.0% ・ 2.5% <table border="1"> <thead> <tr> <th>箇 所</th> <th>検査基準</th> <th>※第6水準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 工事現場溶接の場合 ※ 全ての溶接部 10 錆止め塗装 鉄面 ○ J I S K 5674 工場 1 回塗り 現場 1 回塗り (7.8.1~7.8.4) ○ J I S K 5552, 5551, 5551 工場 3 回塗り 現場 回塗り (18.7.2) 垂れめっき面 ※18章 塗装工事による 耐火被覆材の接着面 ・ 行う ・ 行わない (7.8.2)	箇 所	検査基準	※第6水準		
箇 所	検査基準	※第6水準					



鉄筋工事仕様書 No. 1

この仕様書は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）5章鉄筋工事により作成する。この仕様書及び図面に明示なき場合は、公共建築工事標準仕様書（建築工事編）5章鉄筋工事による。

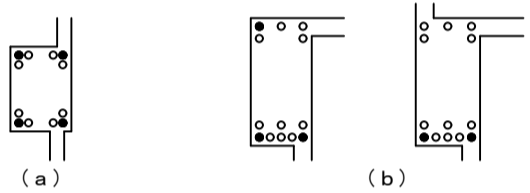
鉄筋の折曲げ基準

Table with columns for bending angle (折曲げ角度), bending diagram (折曲げ図), and development length (折曲げ内法直径(D)) for various concrete strengths (SD295, SD345, SD390).

(注) 1. 片持ちスラブ先端、梁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。

異形鉄筋のフック

- 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にフックを付ける。
7) 柱の四隅にある主筋の重ね継手(下図(a)の●印で示す鉄筋)
(イ) 最上階の柱の四隅にある主筋の柱頭の定着(下図(a)の●印で示す鉄筋)
(ロ) 梁の出隅及び下端の両側にある梁主筋の重ね継手(基礎梁を除く。)(下図(b)の●印で示す鉄筋)
1) 煙突の鉄筋(壁の一部となる場合を含む。)



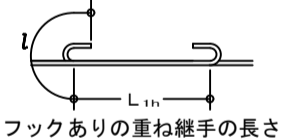
鉄筋の継手及び定着

1. 鉄筋の継手

- 鉄筋の重ね継手は、次による。原則として、D35以上の異形鉄筋については、重ね継ぎ手を用いない。
7) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継ぎ手の長さは、特記による。特記がなければ、耐力壁の鉄筋の重ね継ぎ手の長さは、40d(軽量コンクリートの場合は50d)又は下表の重ね継ぎ手の長さのうちいずれか大きい値とする。
(イ) 7)以外の鉄筋の重ね継ぎ手の長さは、下表による。

Table showing lap length (L1, L2) and development length (Ld) for reinforcement bars of different diameters and concrete strengths.

(注) 1. L1, L2: 重ね継ぎ手の長さ及びフックありの重ね継ぎ手の長さ
2. L1は、下図に示すようにフック部分には含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

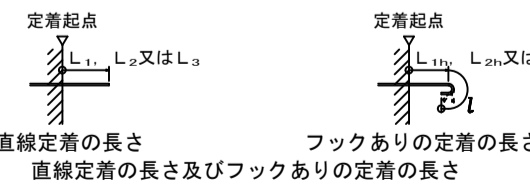


2. 鉄筋の定着

- 7) 鉄筋の定着の長さは、特記による。特記がなければ、下表による。

Table showing development length (Ld) for reinforcement bars under various conditions (e.g., concrete strength, bar diameter).

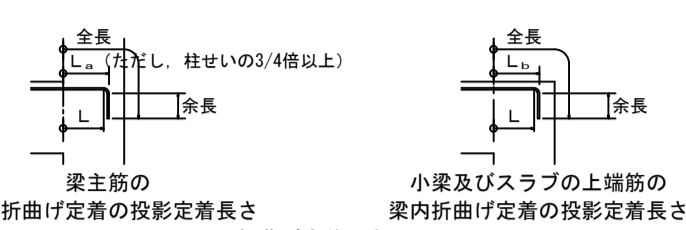
- (注) 1. L1, L2: 2から4まで以外の直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
2. L1, L2: 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックありの定着の長さ
3. L1: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
4. L2: 小梁の下端筋のフックありの定着の長さ。
5. フックありの定着の場合は、下図に示すようにフック部分1を含む。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



4) 定着の方法

仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さsが、フックありの定着の長さを確保できない場合の折曲げ定着の方法は、特記による。特記がなければ、下図により、下記の条件を全て満足するものとする。

- (a) 全長は、7)の直線定着の長さ以上とする。
(b) 余長は、8d以上とする。
(c) 仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さs1及びs2は、下図に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。



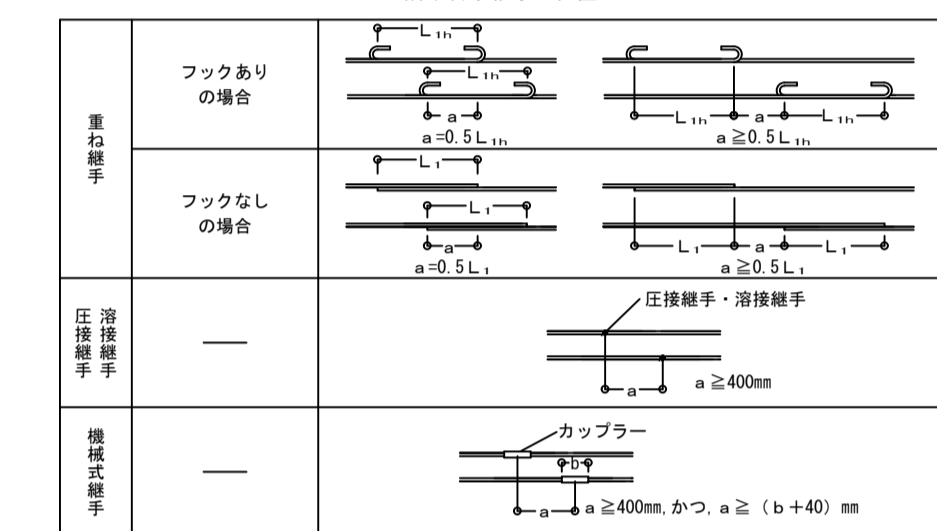
3. 鉄筋の投影定着長さ

Table showing projection development length (Ld) for reinforcement bars in concrete, categorized by concrete strength and bar diameter.

- (注) 1. Ld: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。)

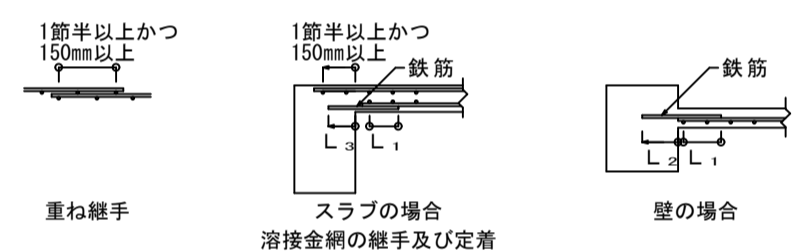
4. 隣り合う継手の位置

隣り合う継手の位置は、下図による。ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。なお、先組み工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同一箇所に設ける場合は、特記による。

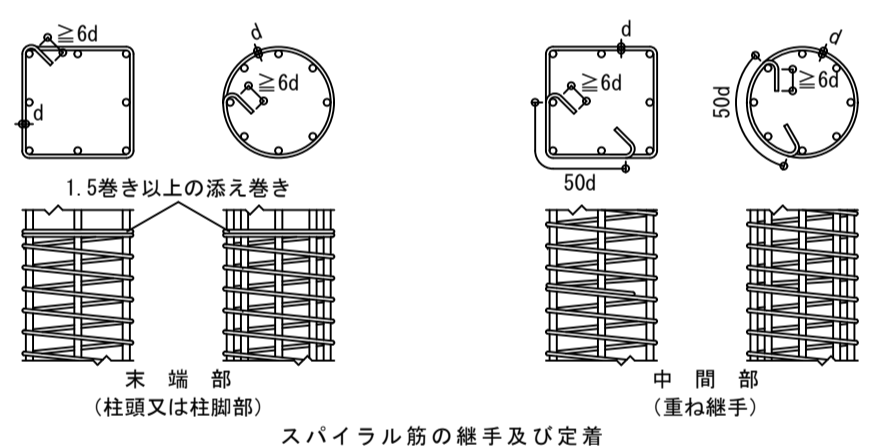


5. 溶接金網の継手及び定着

L1は1.(イ)、L2及びL3は2.(7)による。



6. スパイラル筋の継手及び定着



鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

- 1. 鉄筋(溶接金網含む)の最小かぶり厚さ(mm)
柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

Table showing minimum cover and spacing requirements for reinforcement bars in different structural elements.

- (注) 1. 普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。また、増響を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び壁等で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

2. 鉄筋相互のあき

- 1) 次の値のうち最大のもの以上とする。
(7) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(イ) 25mm
(ウ) 隣り合う鉄筋の径の平均の1.5倍
2) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきも、同様とする。
3) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

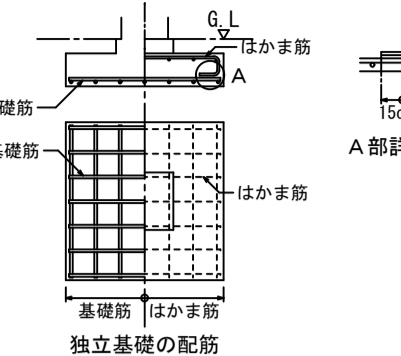
3. 鉄筋の表示記号

Table showing symbols for different types of reinforcement bars (e.g., circular, square, triangular).

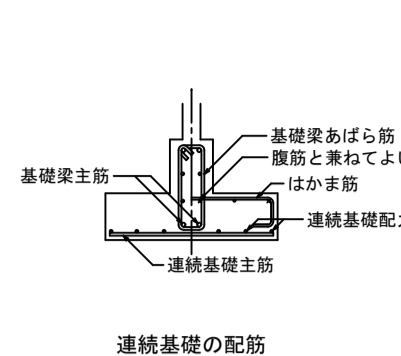
基礎の配筋

1. 直接基礎の配筋

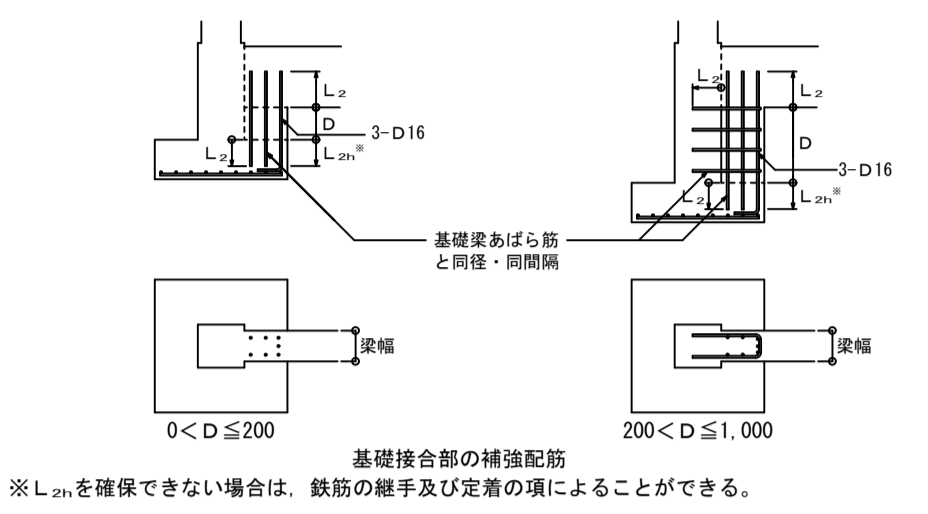
(1) 独立基礎



(2) 連続基礎



2. 基礎接合部の補強配筋



基礎梁の配筋

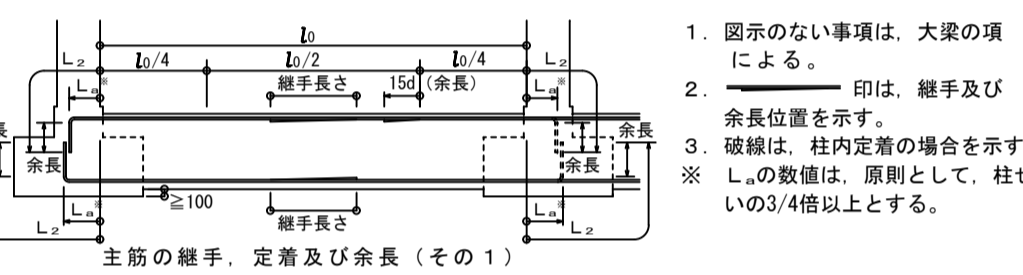
1. 基礎梁主筋の継手、定着及び余長

1) 一般事項

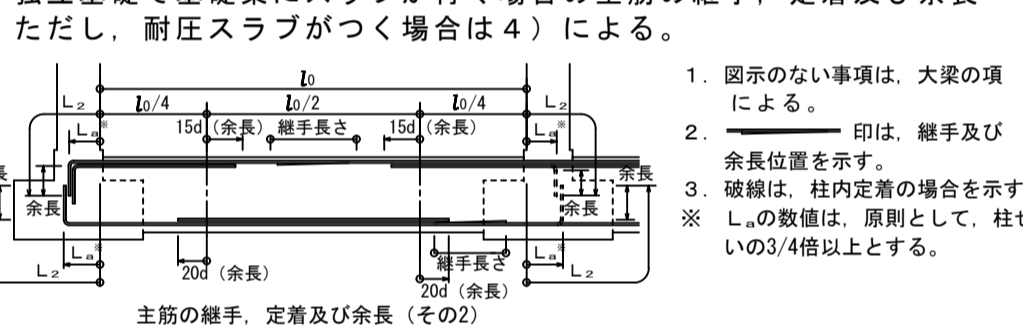
- (7) 梁筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
(イ) 梁筋を柱内に定着する場合は、梁の配筋1.(1)(イ)による。



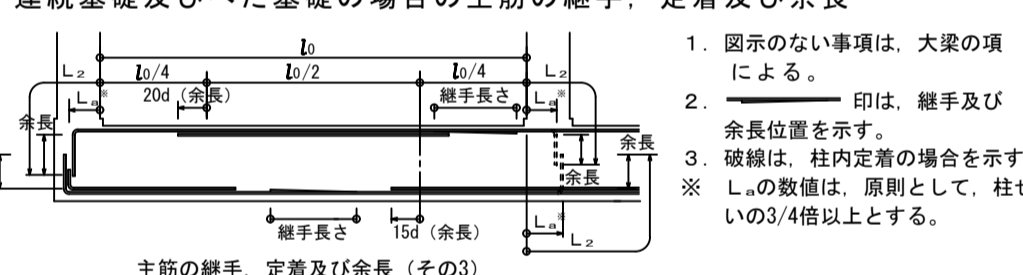
2) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長



3) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長

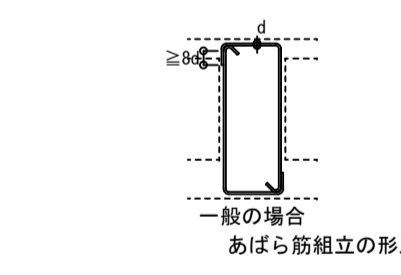


4) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長



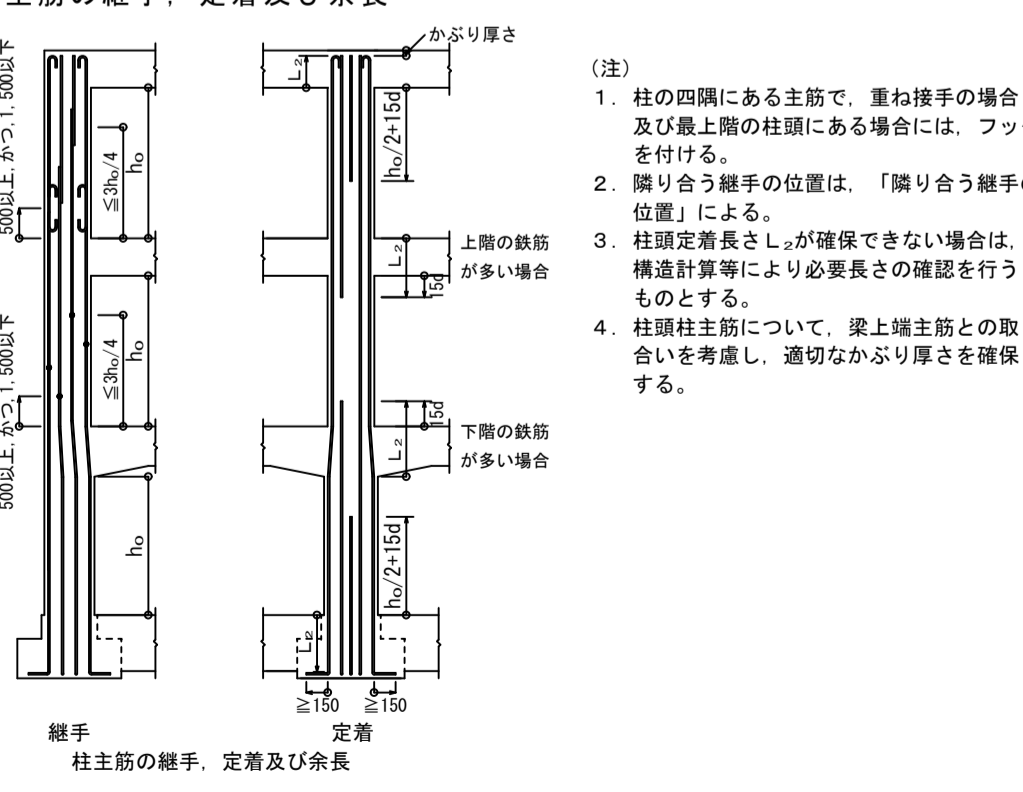
2. 基礎梁のあばら筋

あばら筋組立の形及びフックの位置は、梁の配筋2.(1)による。ただし、梁の上下にスラブがつく場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、下図によることができる。



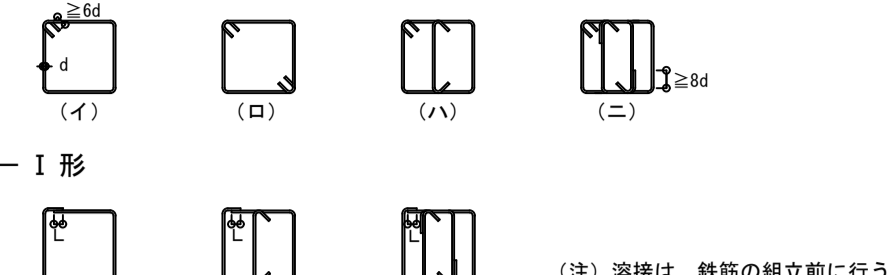
柱の配筋

1. 柱主筋の継手、定着及び余長

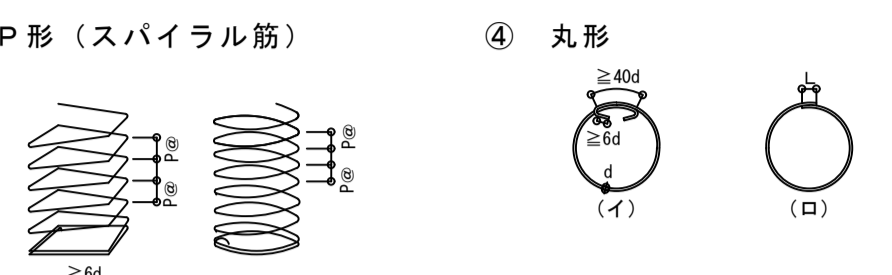


2. 帯筋組立の形及び割付け

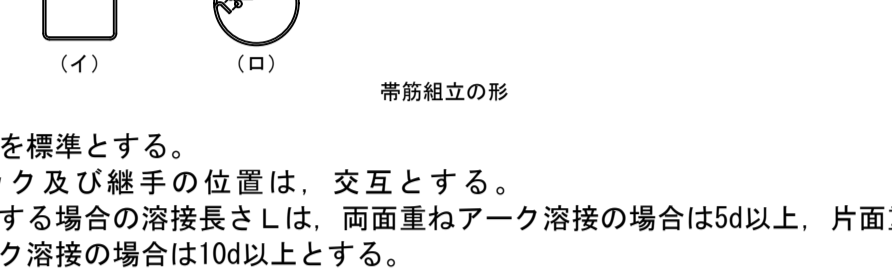
① H形



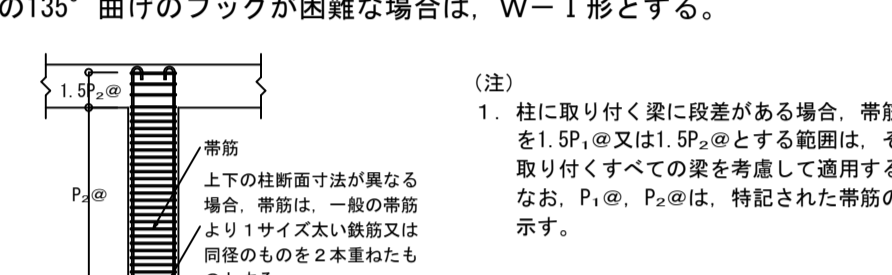
② W-I形



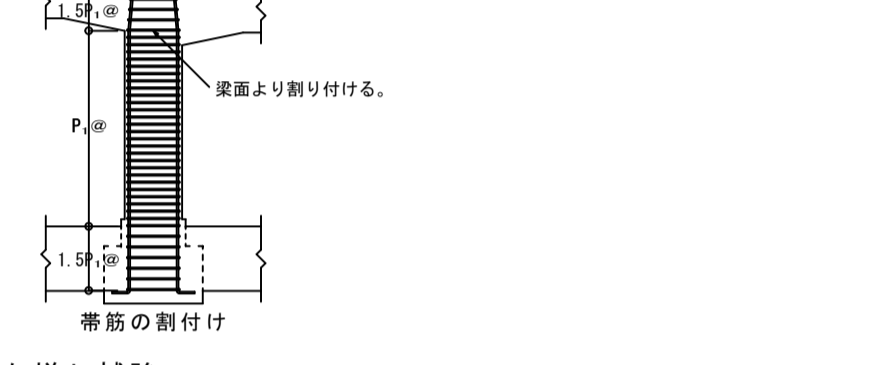
③ S P形(スパイラル筋)



④ 丸形



4. 柱の打ち増し補強

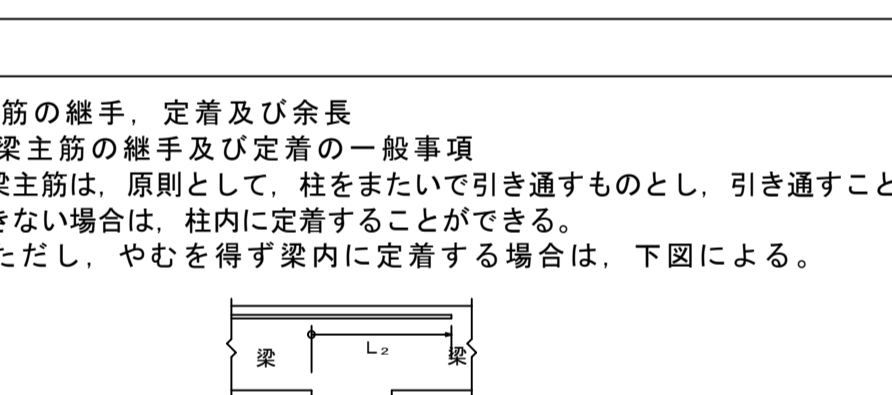


梁の配筋

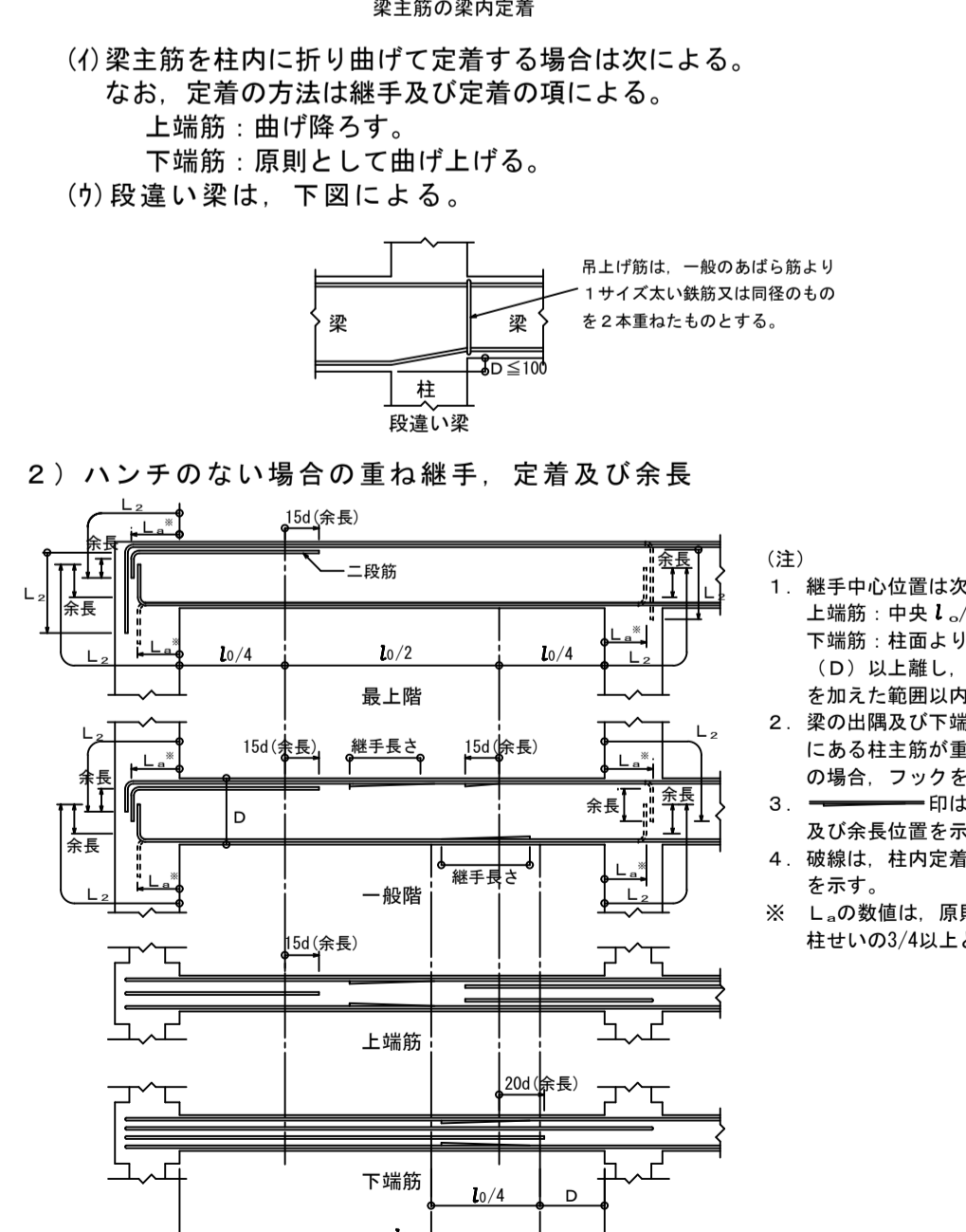
1. 大梁主筋の継手、定着及び余長

1) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項

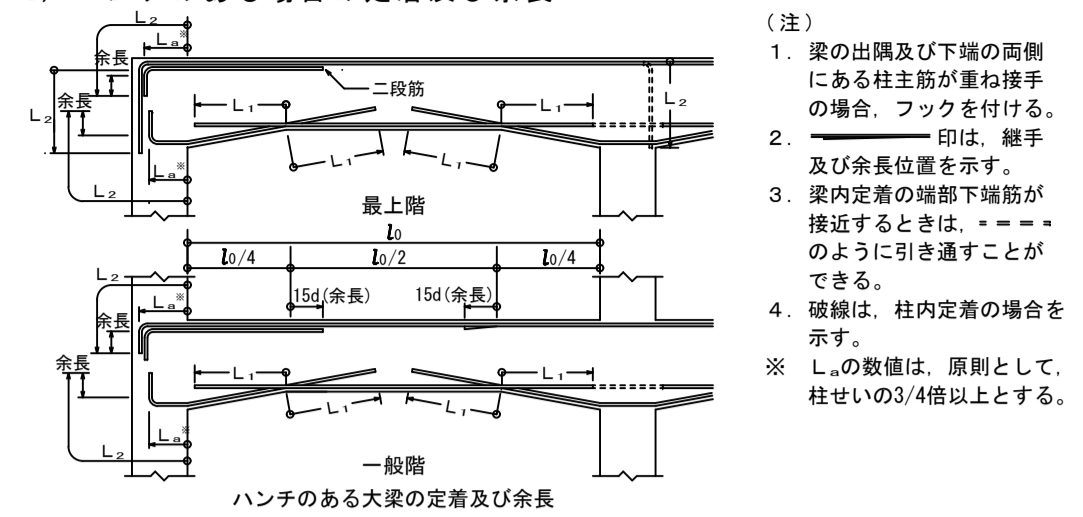
- (7) 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着することができる。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、下図による。
上端筋: 曲げ降ろす。
下端筋: 原則として曲げ上げる。
(ウ) 段違い梁は、下図による。



2) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長

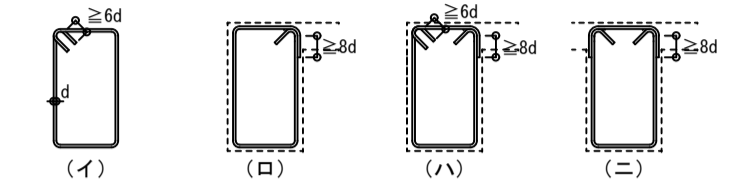


3) ハンチのある場合の定着及び余長



2. あばら筋(小梁、片持ち梁、基礎梁含む)の組立の形及び割付け等

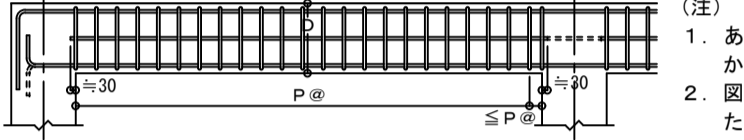
1) あばら筋組立の形及びフックの位置



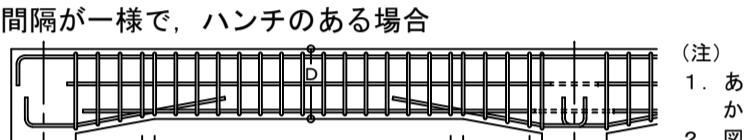
- (1) (イ) 形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)。T形梁の場合は、(ロ)~(ニ)とすることができる。
(2) フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形でスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は、床版の付く側を90°折曲げとする。

2) あばら筋の割付け

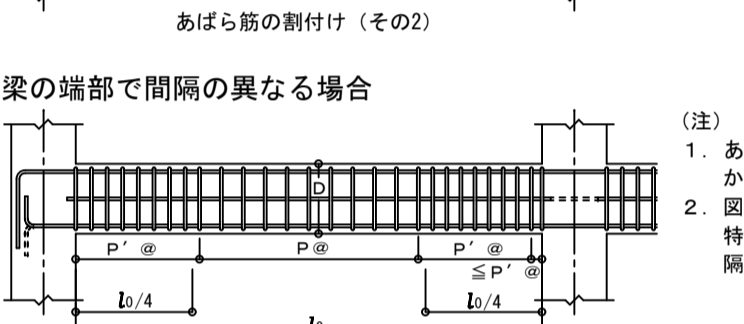
(7) 間隔が一律で、ハンチのない場合



(イ) 間隔が一律で、ハンチのある場合

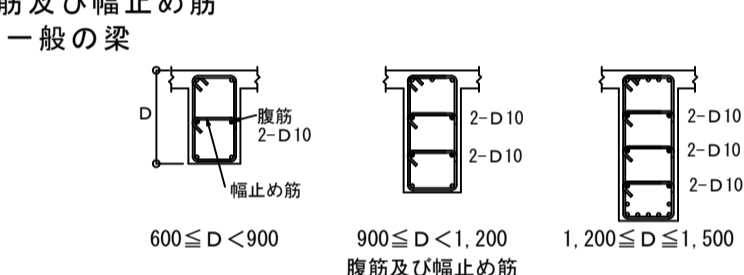


(ウ) 梁の端部で間隔の異なる場合



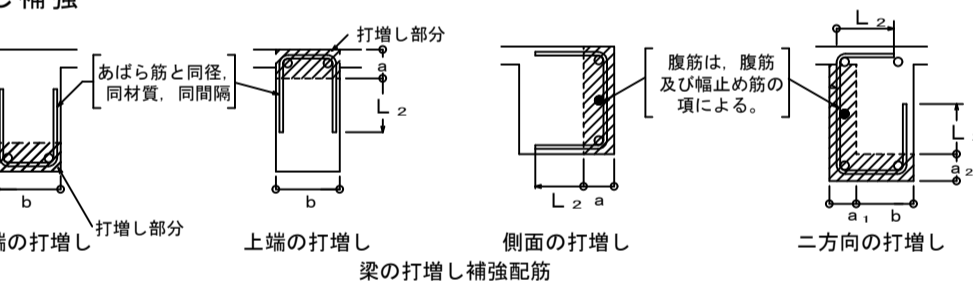
3) 腹筋及び幅止め筋

(1) 一般の梁



- 1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10~1,000φ程度とする。

2. 打ち増し補強

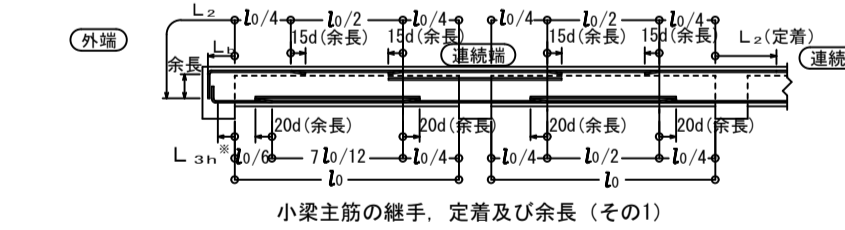


- 1. 梁の打ち増し幅(a, a1, a2)が70mm以上の場合の補強を示す。
2. あばら筋と同一方向の補強筋は、あばら筋と同種、同材質、同間隔とし、定着長さはLdとする。

小梁及び片持ち梁

1. 小梁主筋の継手、定着及び余長

1) 連続小梁の場合



- (注) 1. 継手中心位置は次による。
上端筋: 中央L/2以内
下端筋: 柱面より梁せい(D)以上とし、L/4を加えた範囲以内
2. 梁の出隅及び下端の両側にある柱主筋が重ね継手の場合、フックを付ける。
3. 一印は、継手及び余長位置を示す。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ Ldの値は、原則として、柱せいの3/4以上とする。

2) 単独小梁の場合



- (注) 1. 継手中心位置は次による。
上端筋: 中央L/2以内
下端筋: 柱面より梁せい(D)以上とし、L/4を加えた範囲以内
2. 梁の出隅及び下端の両側にある柱主筋が重ね継手の場合、フックを付ける。
3. 一印は、継手及び余長位置を示す。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ Ldの値は、原則として、柱せいの3/4以上とする。

# 鉄筋工事仕様書 No. 2

## 2. 片持梁主筋の定着及び余長

### 1) 先端に小梁のない場合

(注) 1. 印は、余長位置を示す。  
2. 先端の折曲げ長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。  
3. 図示のない事項は、大図の項による。  
※1. Lの数值は、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。  
※2. Lを確保できない場合は、鉄筋の継手及び定着の項によることとする。

### 2) 先端に小梁がある場合

(注) 1. 図示のない場合は、先端に小梁のない場合の項による。  
2. 先端小梁先端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。  
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

### 2) 壁開口部補強筋の定着長さは、下図による。

### 3) 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を緩やかに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

## 5. 壁の打増し補強配筋

壁の打増し厚さ(a)が50mm以上の場合の補強を示す

## 6. パラベットの配筋

### 4. 先端に壁が付く場合の配筋は、下図による。

## 5. スラブ開口部の補強 (スラブ開口の最大径が700mm以下の場合に限る。)

- 1) スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (L=2L1) シングルを上下筋の内側に配筋する。
- 2) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

## 6. 出隅部及び入隅部の補強

### 1) 屋根スラブの出隅部及び入隅部

## 6. 出隅部及び入隅部の補強

### 1) 屋根スラブの出隅部及び入隅部

## 階段の配筋

### 1. 片持ちスラブ形階段

片持ちスラブ形階段の基準配筋は、下表及び下図により、寸法及び配筋種別は、特記による。

配筋種別	KA 1	KA 2
配筋図		
配筋種別	KA 3	KA 4
配筋図		

(注) 1. 壁筋は、片持ちスラブ階段を受ける壁の基準配筋による。  
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦におろす。  
3. スラブ配筋の継手及び定着の長さは、[鉄筋の定着長さ]のL1とする。

### 2. 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)	配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB 1	D13-200@	KB 5	D16-150@
KB 2	D13-150@	KB 6	D16-125@
KB 3	D13-100@	KB 7	D16-100@
KB 4	D13, D16-150@		

## 2. 梁貫通孔の補強形式

### H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下筋	配筋図
H 1	なし	なし	なし	なし	
H 2	2-2-D13				
H 3	4-2-D13				
H 4	4-2-D16				
H 5	4-2-D16				
H 6	4-2-D19				
H 7	4-2-D22				

(注) - - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

### M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M 1	2-2-D13		
M 2	4-2-D13		
M 3	4-2-D13		
M 4	6-2-D13		

(注) - - - - は、一般部分のあばら筋を示す。

### MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH 1	なし	なし		
MH 2	2-2-D13			
MH 3	2-2-D13			
MH 4	4-2-D13			
MH 5	4-2-D16			
MH 6	4-2-D16			
MH 7	4-2-D19			

(注) 1. 大臣認定による既製品を使用する場合は、適用条件はすべて認定内容による。  
2. 1) 大図の項による既製品を使用する場合は、適用条件はすべて認定内容による。  
3. コンクリートブロック帳壁との取合い

## 壁及びその他の配筋

### 1. 壁の基準配筋

#### 1) 壁の基準配筋

壁の基準配筋は下図による。

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	
W15A	D10-150@シングル	
W15B	D10-100@シングル	
W18A	D10-200@ダブル	
W18B	D10-150@ダブル	
W20A	D10-200@ダブル	
W20B	D10-150@ダブル	

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

#### 2) 片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋

片持ちスラブ形階段を受ける壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	壁筋の配筋種別
KW1	縦筋 D13-200@ダブル 横筋 D10-200@ダブル		KA 1 KA 3
KW2	縦筋 D13-150@ダブル 横筋 D10-200@ダブル		KA 2 KA 4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

### 2. 壁の継手及び定着

## スラブの配筋

### 1. スラブの基準配筋

#### 1) スラブの基準配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10, D13-150@	D10-150@
S 2	同上	D13-150@	S 9	同上	D10-200@
S 3	同上	D10, D13-150@	S 10	D10, D13-200@	D10, D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S 11	同上	D10-200@
S 5	同上	D10, D13-150@	S 12	同上	D10-250@
S 6	同上	D10-150@	S 13	D10-200@	D10-200@
S 7	D10, D13-150@	D10, D13-150@	S 14	同上	D10-250@

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

### 2. スラブ筋の定着及び受け筋

### 2) 片持ちスラブの出隅部

### 7. スラブの打継ぎ補強等

#### 1) 土間スラブの打継ぎ補強

#### 2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

### 2) 二辺固定スラブ形階段

### 7. スラブの打継ぎ補強等

#### 1) 土間スラブの打継ぎ補強

#### 2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

### 2) 二辺固定スラブ形階段

### 7. スラブの打継ぎ補強等

#### 1) 土間スラブの打継ぎ補強

#### 2) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

### 3. 壁の交差部及び端部の配筋は、下図による。

### 4. 壁開口部の補強

#### 1) 耐震壁を除く壁開口部の補強筋は、A形又はB形とする。

壁開口部補強筋 (A形)			壁開口部補強筋 (B形)		
壁の種別	補強筋	補強筋	壁の種別	補強筋	補強筋
W12, W15	1-D13	1-D13	W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13	W18, W20	4-D13	2-D13

### 3. 片持ちスラブの基準配筋

#### 1) 片持ちスラブの基準配筋

配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
CS 1	上 D13-100@ 下 D13-200@	CS 5	上 D10-200@ 下 D10-400@
CS 2	上 D13-150@ 下 D13-300@	CS 6	上 D10, D13-200@ 下 -
CS 3	上 D10, D13-150@ 下 D10, D13-300@	CS 7	上 D10-200@ 下 -
CS 4	上 D10, D13-200@ 下 D10-200@		

### 4. 段差のあるスラブの補強

## 梁貫通孔及びその他の配筋

### 1. 梁貫通孔の配筋

- 1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、下図による。
- 2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこの外接円とする。
- 3) 孔の上下方向の位置は、梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい) の範囲に設けてはならない。
- 4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- 5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- 6) 縦筋及び上下筋は、あばら筋の形に配筋する。
- 7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、下図による。
- 8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- 9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- 10) 溶接金網の貫通部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- 11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

### 2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強



鉄骨工事仕様書 No. 2

9. 溶接部の形状・寸法

Table with 3 columns: Item (項目), Diagram (図), and Limit Value (限界値). It details specifications for girth stiffeners, lap joints, and undercutting.

10. 工作及び組立

Table with 5 columns: Name (名称), Diagram (図), Management Allowance (管理許容差), Limit Allowance (限界許容差), and Measuring Instrument (測定器具). It covers various assembly details like lap joints, butt joints, and corner joints.

11. 高力ボルト

Table with 5 columns: Name (名称), Diagram (図), Management Allowance (管理許容差), Limit Allowance (限界許容差), and Measuring Instrument (測定器具). It specifies requirements for high-strength bolts.

12. 溶接

Table with 5 columns: Name (名称), Diagram (図), Management Allowance (管理許容差), Limit Allowance (限界許容差), and Measuring Instrument (測定器具). It details welding joint specifications.

Table with 5 columns: Item (項目), Diagram (図), Management Allowance (管理許容差), Limit Allowance (限界許容差), and Measuring Instrument (測定器具). It covers various types of lap joints and girth stiffeners.

13. 溶接継手の種類別開先標準

1. 突合せ溶接

(1) 突合せ継手 (B) の開先標準

Table with 5 columns: Name (名称), Diagram (図), Management Allowance (管理許容差), Limit Allowance (限界許容差), and Measuring Instrument (測定器具). It details the bevel standards for lap joints.

(2) T形継手 (T) の開先標準

Table with 4 columns: H (Bevel for T-joint), A (Automatic T-joint), and diagrams for various joint types and sizes.

(3) かど継手 (L) の開先標準

Table with 4 columns: H (Bevel for corner joint), A (Automatic corner joint), and diagrams for various joint types and sizes.

2. 隅肉溶接

(1) 隅肉溶接 (F) の開先標準

Table with 4 columns: H (Bevel for fillet weld), A (Automatic fillet weld), and diagrams for various joint types and sizes.

(2) 隅肉溶接のサイズ

Table with 2 columns: Size (サイズ) and Diagram (図). It lists standard sizes for fillet welds.

14. 鉄骨工事精度

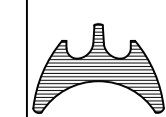
1. 製品

Table with 5 columns: Name (名称), Diagram (図), Management Allowance (管理許容差), Limit Allowance (限界許容差), and Remarks (備考). It details manufacturing tolerances for steel components.

Table with 5 columns: Name (名称), Diagram (図), Management Allowance (管理許容差), Limit Allowance (限界許容差), and Remarks (備考). It details manufacturing tolerances for various steel components.

2. 工事現場

Table with 5 columns: Name (名称), Diagram (図), Management Allowance (管理許容差), Limit Allowance (限界許容差), and Remarks (備考). It details manufacturing tolerances for construction site conditions.



立体トラス工事特記仕様書

1 適用範囲

- 屋根立体トラス

2 構造形式

- 建築基準法第37条第二号の規定に適合するトラス用機械式継手を用いたシステムトラスとする。

3 構造の概要

- このシステムトラスは、部材とグローブ（球形に加工した接合部材）にて構成される。
- 部材の端末にはボルトが組み込まれており、そのボルトの外側にはナット状のワッパーがはまっている。このワッパーは打込みピンでボルトに接合されており、これを回転させることでボルトがグローブにねじ込まれる。（図1参照）
- 部材応力はスリーブを介して引張力はボルトによって、圧縮力はワッパーによってグローブに伝えられる。

4 用語の定義

（本設計に使用する固有の名称を次のように定める。）

- グローブ（接合部材）
  - トラスの節点に使用する球形の接合部材で、部材のボルトと取り合うためにねじ孔を有する。
- 支承グローブ
  - トラスの支持点に使用する接合部材で、リブ、ベースプレート等を溶接で組み合わせたもの。
- 部材
  - パイプの端末にスリーブを溶接し、ボルト、ワッパー等の部品を組み込んだもの。
- パイプ（主部材）
  - 部材本体の中核をつかさどる鋼管。
- スリーブ（端部金物）
  - パイプ端末に溶接される部品で、パイプからの力をボルト及びワッパーに伝える。
- トラスボルト
  - 部材端末に位置し、グローブと部材を接合する役割を持つ。軸部にはワッパーと接合するためにピン孔を有する。
- ワッパー
  - スリーブとグローブの中間に位置し、打込みピンにてボルトと接合しており、これを回転させることでボルトがグローブにねじ込まれる。
- 打込みピン
  - ワッパーとボルトを接合させるピン部品。
- 付加孔
  - グローブのボルト孔で部材が取付く以外のものを付加孔という。この孔を利用して母屋受金物やその他金物を取付ける。（図2参照）



締めボルト

5 材料

○ グローブ					
5T（支承グローブ）	JIS G 3106	溶接構造用圧延鋼材	SM490A相当品	φ260	
6T（一般グローブ）	JIS G 4053・4052	クロムモリブデン鋼	SCM435・SCM435H	φ110～φ220	
	JIS G 4053・4052	クロムモリブデン鋼	SCM440・SCM440H	φ260～φ300	
○ パイプ	JIS G 3444	一般構造用炭素鋼管	STK400		
○ スリーブ	JIS G 3101	一般構造用圧延鋼材	SS400		
○ トラスボルト					
9T	JIS G 4053・4052	クロムモリブデン鋼	SCM435・SCM435H	M20～M36	
○ ワッパー	JIS G 4051	機械構造用炭素鋼鋼材	S45C		
○ 打込みピン	JIS G 4314	ばね用ステンレス鋼線	SUS304WPB	M20～M36用	
○ プレート類（支承部に使用）	JIS G 3101	一般構造用圧延鋼材	SS400		
	JIS G 3136	建築構造用圧延鋼材	SN490B		
○ 普通ボルト（支承部接合ボルト）	JIS B 1180	六角ボルト	強度区分 4.6, 4.8		

6 防錆

- 支承グローブ
  - 素地ごしらえ B種（プラスト）
  - 無機ジンクプライマー 15μm × 1回（工場塗装）
  - エポキシ系プライマー 40μm × 1回（現場塗装）
  - 厚膜エポキシプライマー 500μm × 1回（現場塗装）
  - エポキシ系中塗 30μm × 1回（現場塗装）
  - ウレタン系上塗 25μm × 1回（現場塗装）
- グローブ・ワッパー
  - 乾式亜鉛めっき 15 g/m<sup>2</sup>（工場処理）
  - エポキシ系プライマー 40μm × 2回（現場塗装）
  - エポキシ系中塗 30μm × 1回（現場塗装）
  - ウレタン系上塗 25μm × 1回（現場塗装）
- パイプ
  - 素地ごしらえ B種（プラスト）
  - ジンクエポキシプライマー 40μm × 1回（工場塗装）
  - エポキシ系中塗 50μm × 2回（工場塗装）
  - ウレタン系上塗 25μm × 1回（工場塗装）
- トラスボルト
  - 乾式亜鉛めっき 15 g/m<sup>2</sup>（工場処理）

※ 上記鉄骨部は現場組立完了後に改めて防錆塗料の欠陥部をタッチアップする。

7 その他

- トラスに取り付くあらゆる2次部材は節点に取り付ける事を原則とする。
- 図面に示すトラスの寸法は製作寸法とする。  
（トラス自重および固定荷重による変形後の寸法を示すものではない。）

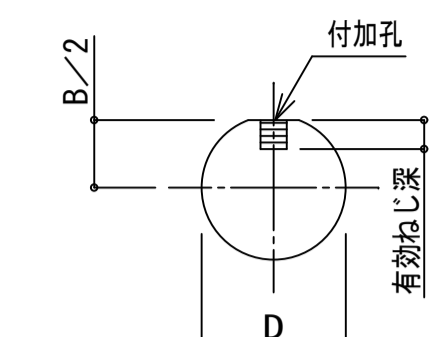


図2：付加孔詳細図

付加孔	有効ねじ深
M16	18
M20	22
M24	26

鋼製接続コネクタ	D	B
① φ50/46	50	46
② φ85/78	85	78
③ φ110/103	110	103
④ φ130/120	130	120
⑤ φ150/136	150	136
⑥ φ180/160	180	160
⑦ φ200/182	200	182
⑧ φ220/192	220	192
⑨ φ260/240	260	240
⑩ φ300/270	300	270

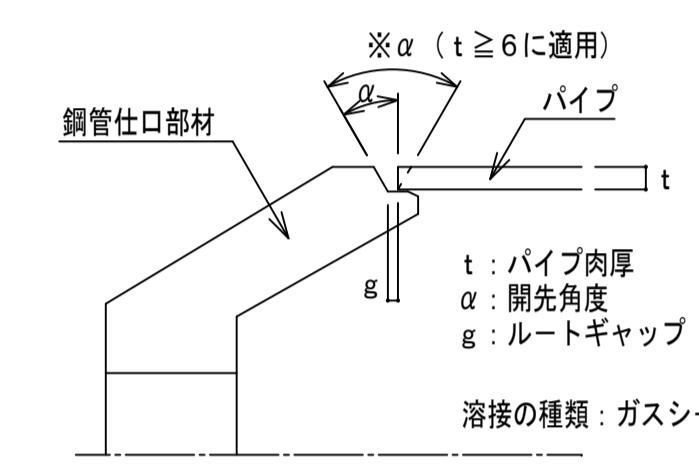


図3：パイプと鋼管仕口部材の溶接部開先形状図

パイプ径	t	α (°)	g
φ34.0	2.3	45	1.0
φ42.7	2.3	45	1.0
φ48.6	3.2	40	1.0
φ60.5	3.2	30	2.0
φ76.3	3.2, 4.2	30	2.0
φ89.1	3.2, 4.2	30	2.0
φ101.6	4.2	30	2.0
φ114.3	4.5	30	2.0
φ139.8	4.5	30	2.0
φ165.2	4.5	30	2.0
	5.0	30	3.0
φ190.7	5.3	25	3.0
φ216.3	5.8	25	3.0
	8.2	※50	3.0
φ267.4	6.6, 9.3	※50	3.0
φ318.5	6.9, 10.3	※50	3.0

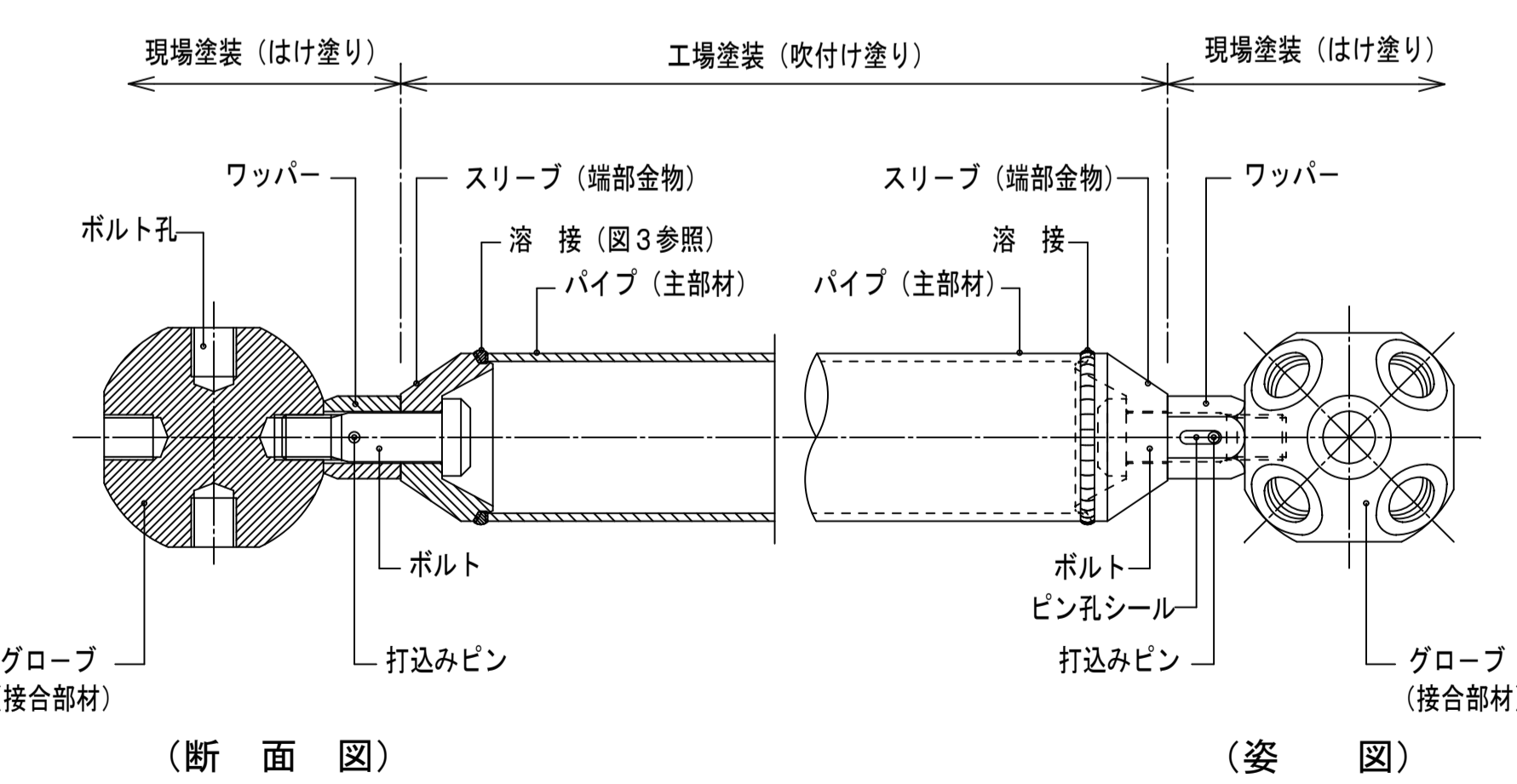


図1：立体トラス接合部詳細図

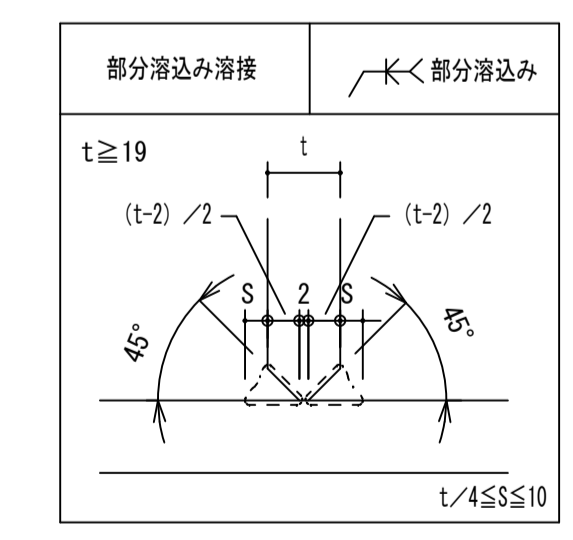


図4：支承リブプレート溶接詳細図

# 膜構造建築物 設計概要書(2次部材)

鉄骨工事	一般構造用鋼材 ●SS400 [鋼板・平鋼・形鋼] ●STK400 ○STKR400 ●STK490 [炭素鋼鋼管] ○STKR490 [角形鋼管] ○SSC400 [軽量形鋼] ○その他 ( )	建築構造用鋼材 ○SN400A ○SN400B ○SN400C ○SN490A ○SN490B ●SN490C																																																								
	溶接構造用鋼材 ○SM490A ○その他 ( )																																																									
	●F10T (S10T) ○F8T (溶融亜鉛めっき高力ボルト) *摩擦接合では鉄骨の摩擦面の処理に注意する。摩擦面のすべり係数を0.45以上(溶融亜鉛めっきされた鉄骨の場合は0.40以上)確保するため、「プラスト処理・特殊塗料塗布、他」を行なう。																																																									
高力ボルト																																																										
中ボルト	●JIS規格品 (SW付き) ○その他 ( )																																																									
溶接	隅肉溶接のサイズ <table border="1"> <tr><td>t</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td></tr> <tr><td>S</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td></tr> </table> <table border="1"> <tr><td>t</td><td>19</td><td>22</td><td>25</td><td>28</td><td>30</td><td>32</td><td>36</td><td>40</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>S</td><td>11</td><td>13</td><td>15</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>21</td><td>24</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 		t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	t	19	22	25	28	30	32	36	40						S	11	13	15	17	18	19	21	24					
t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16																																													
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12																																													
t	19	22	25	28	30	32	36	40																																																		
S	11	13	15	17	18	19	21	24																																																		
鋼管の溶接	一部突合せ一部隅肉溶接 適用条件 交角 $\theta \geq 30^\circ$ 管径比 $d/D \leq 1$ d: 支管外径 D: 主管外径  <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">位置</th> <th rowspan="2">図</th> <th rowspan="2">適用管厚</th> <th colspan="2">寸法</th> </tr> <tr> <th><math>\psi</math></th> <th>注</th> </tr> <tr> <td rowspan="4">X部</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">2</td> <td><math>90^\circ \leq \psi \leq 120^\circ</math></td> <td><math>120^\circ &lt; \psi \leq 150^\circ</math></td> </tr> <tr> <td>Te</td> <td><math>\geq 1.4T</math></td> <td><math>\geq T</math></td> </tr> <tr> <td>G</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td><math>\alpha</math></td> <td><math>\geq 45^\circ</math></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">Y部</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">2</td> <td><math>90^\circ \leq \psi \leq 120^\circ</math></td> <td><math>\psi &gt; 120^\circ</math></td> </tr> <tr> <td>Te</td> <td><math>\geq 1.4T</math></td> <td><math>\geq T</math></td> </tr> <tr> <td>G</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td><math>\alpha</math></td> <td><math>\geq 45^\circ</math></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">Z部</td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">2</td> <td><math>\psi</math></td> <td><math>30^\circ \leq \psi \leq 90^\circ</math></td> </tr> <tr> <td>Te</td> <td><math>\geq 1.4T</math></td> <td></td> </tr> <tr> <td>G</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>S</td> <td><math>\leq 2T</math></td> <td></td> </tr> </table>		位置	図	適用管厚	寸法		$\psi$	注	X部		2	$90^\circ \leq \psi \leq 120^\circ$	$120^\circ < \psi \leq 150^\circ$	Te	$\geq 1.4T$	$\geq T$	G	0		$\alpha$	$\geq 45^\circ$		Y部		2	$90^\circ \leq \psi \leq 120^\circ$	$\psi > 120^\circ$	Te	$\geq 1.4T$	$\geq T$	G	0		$\alpha$	$\geq 45^\circ$		Z部		2	$\psi$	$30^\circ \leq \psi \leq 90^\circ$	Te	$\geq 1.4T$		G	0		S	$\leq 2T$								
位置	図	適用管厚				寸法																																																				
			$\psi$	注																																																						
X部		2	$90^\circ \leq \psi \leq 120^\circ$	$120^\circ < \psi \leq 150^\circ$																																																						
			Te	$\geq 1.4T$	$\geq T$																																																					
			G	0																																																						
			$\alpha$	$\geq 45^\circ$																																																						
Y部		2	$90^\circ \leq \psi \leq 120^\circ$	$\psi > 120^\circ$																																																						
			Te	$\geq 1.4T$	$\geq T$																																																					
			G	0																																																						
			$\alpha$	$\geq 45^\circ$																																																						
Z部		2	$\psi$	$30^\circ \leq \psi \leq 90^\circ$																																																						
			Te	$\geq 1.4T$																																																						
			G	0																																																						
			S	$\leq 2T$																																																						

塗装工事	2液形ポリウレタンエナメル塗り			
	工程	塗料名	塗布量(※)	塗装方法
膜工事	1 素地調整	1種ケレン (プラスト処理) / ISO Sa 2・1/2		
	2 下塗り (1回目)	ジンクリッチプライマー JIS K 5552	0.14	吹付・はけ
	3 下塗り (2回目)	構造物用さび止めペイント JIS K 5551 A種	0.14	吹付・はけ
	4 下塗り (3回目)	エポキシ樹脂雲母状酸化鉄塗料 (M10)	0.14	吹付・はけ
	5 中塗り	鋼構造物用耐候性塗料 JIS K 5659 (中塗り塗料)	0.14	はけ・吹付
	6 上塗り	鋼構造物用耐候性塗料 JIS K 5659 (上塗り塗料3級)	0.10	はけ・吹付
※現場接合・損傷部素地調整		2種ケレン (サンダー等) / ISO St 3		
下塗り (1, 2, 3回)		変性エポキシ樹脂プライマー JASS 18 M-109	0.14	(×3回)
※(kg/m <sup>2</sup> )				
注意事項	上塗り塗料のJIS規格(相当品)は光沢品を規定している為、艶調整を行う場合はJIS規格(相当品)に該当しくなくなります。			
樋工事	軒樋		材質 PL-1.5t ○塩ビ堅樋 ○溶融亜鉛メッキ 仕上げ:アクリル焼付塗装 ○アルミ ○無し ●SUS	
	縦樋		材質 P-φ139.8×2.0t ○塩ビ堅樋 ○溶融亜鉛メッキ 仕上げ:アクリル焼付塗装 ○アルミ ○無し ●SUS	

膜材料	A種膜材料 (AP-450) 四フッ化エチレン樹脂コーティングガラス繊維布 (厚0.8mm) フッ素樹脂+酸化チタン光触媒粒子含有 (両面) PIAJ認証マーク取得商品同等品  国土交通省告示第666号第二、2、二の表の(一)に適合する膜材料: 【認定番号】 ・MMEM-0081-1 (建築基準法第37条第二号) ・NM-4723 (建築基準法第2条第九号 不燃材料)  ※下記を保証すること。 ・瑕疵担保保証: 2年 ・屋根膜からの漏水保証: 10年 ※引き渡し1年後及び2年後の定期点検を含むこと。
膜材溶着部	国土交通省告示第666号第二、5、一の二に規定する接合とする  FEPフィルムを介した熱板溶着接合。 溶着巾 ●75mm ○50mm ○37.5mm 
膜定着部	国土交通省告示第666号第三、1のイに規定する定着方法とする。  <b>1. 膜定着プレート</b> ※膜材は、膜定着プレート又はファスナーでクランプする。 膜定着プレート:アルミ押し出し型材又はアルミプレート (A-6061S-T6) アルマイト9μ、クリア7μ仕上  ファスナー:アルミ押し出し型材 (A-6061S-T6) アルマイト9μ、クリア7μ仕上  <b>2. 膜定着ボルト</b> ボルト径 ●M12 ●M10 ○M8 材質 ●SUS316 ○溶融亜鉛メッキ

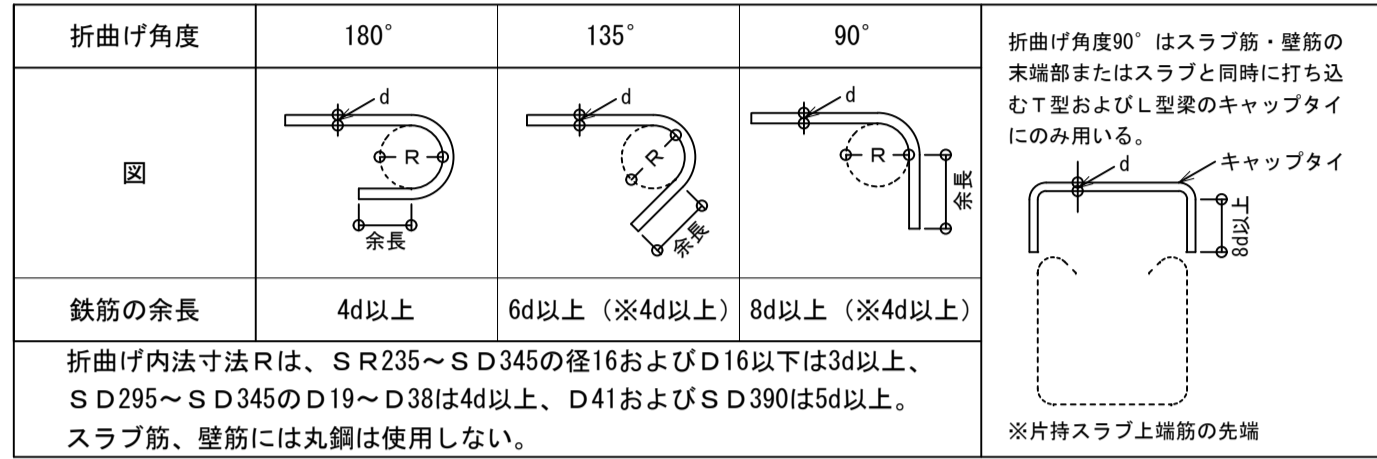
# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

## 1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号  
 d...異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 B...部材の成 R...直径  
 @...間隔 r...半径 Q...中心線 L<sub>0</sub>...部材間の内法距離 h<sub>0</sub>...部材間の内法高さ  
 ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S...HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

## 2. 鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状



### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の使用箇所 による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ 内法寸法R
帯筋 あばら筋 スパイラル筋	S R235, S R295 S D295 S D345	16φ D16 以下	3d以上	4d以上 4d以上 6d以上 8d以上
		D19 以上	4d以上	
上記以外の鉄筋	S D295 S D345 S D390	D16 以下	4d以上	6d以上 8d以上
		D19~D25	6d以上	
		D29~D41	8d以上	

### (3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

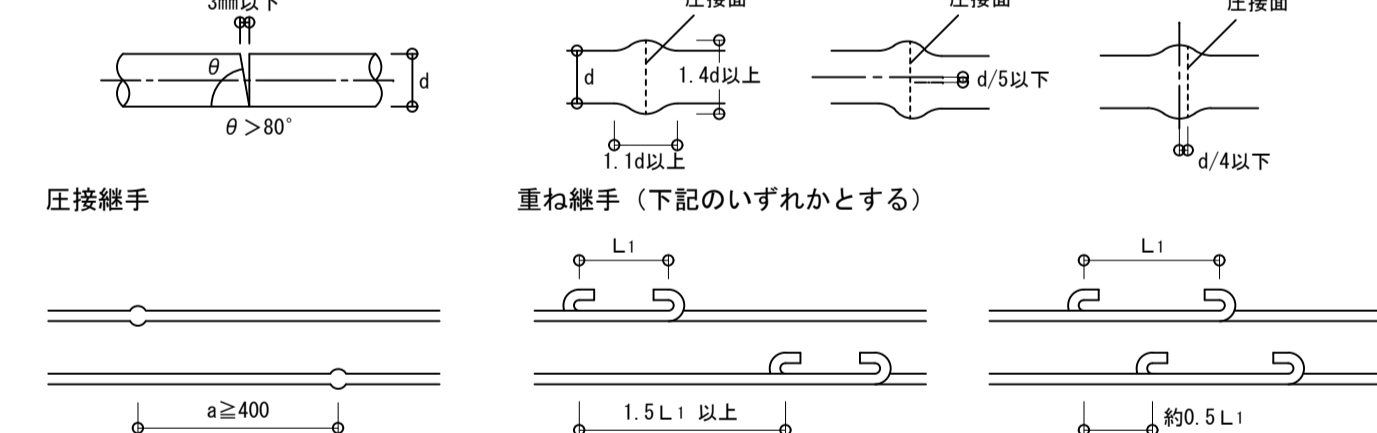
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ			特別の定着および重ね継手の長さ (L <sub>1</sub> )
		一般 (L <sub>2</sub> )	下端筋 (L <sub>3</sub> )		
			小梁	スラブ	
S R235	21, 24	35dフック付	25dフック付	150mmフック付	35dフック付
	18以下	45dフック付			45dフック付
S D295	27~36	40d又は 20dフック付	25d又は 15dフック付	10dかつ150mm以上	40d又は 25dフック付
	21, 24	40d又は 25dフック付			40d又は 30dフック付
S D345	18以下	40d又は 30dフック付			45d又は 35dフック付
	27~36	35d又は 25dフック付			40d又は 30dフック付
S D390	21, 24	40d又は 30dフック付			45d又は 35dフック付

[注] 許容応力度計算、許容応力度等計算、その他の構造計算を要さない小規模建築物は、梁主筋の柱への定着は 40d とする。

### 継手

1. 末端のフックは、定着及び重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細いほうの鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異径鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを越える場合は、圧接としてはならない

### ガス圧接形状

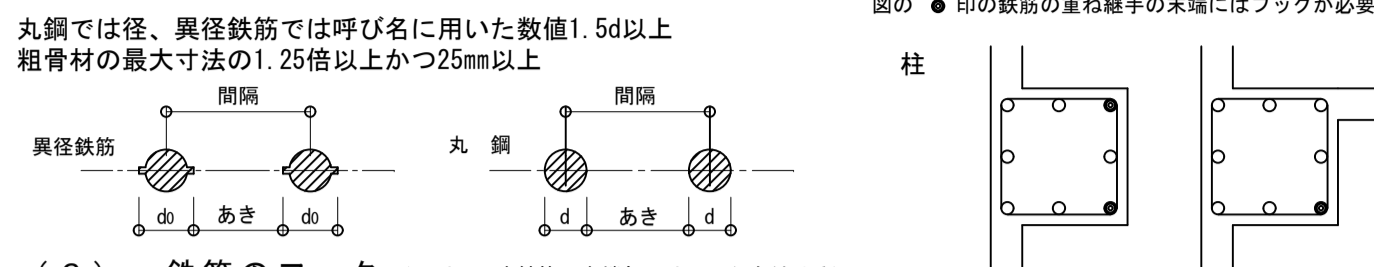


### (4) かぶり厚さ (単位: mm)

部位	設計かぶり厚さ (mm)			
	設計かぶり厚さ	最小かぶり厚さ		
土に接しない部分	屋根スラブ	30	20	
	床スラブ	40 <sup>(1)</sup>	30 (20)	
	非耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50 <sup>(2)</sup>	40 <sup>(1)</sup> (30)
擁壁	屋内	50 <sup>(3)</sup>	40	
	屋外	50 <sup>(2)</sup>	40 <sup>(1)</sup> (30)	
土に接する部分	柱・はり・床スラブ・耐力壁	50	40 <sup>(4)</sup>	
	基礎・擁壁	70	60 <sup>(4)</sup>	

- [注] (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。  
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
 (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
 (4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
 (5) ( ) 内は仕上げがある場合。  
 (6) 土に接する部分のかぶりは増加する厚さを打ち増しとする。

### (5) 鉄筋のあき

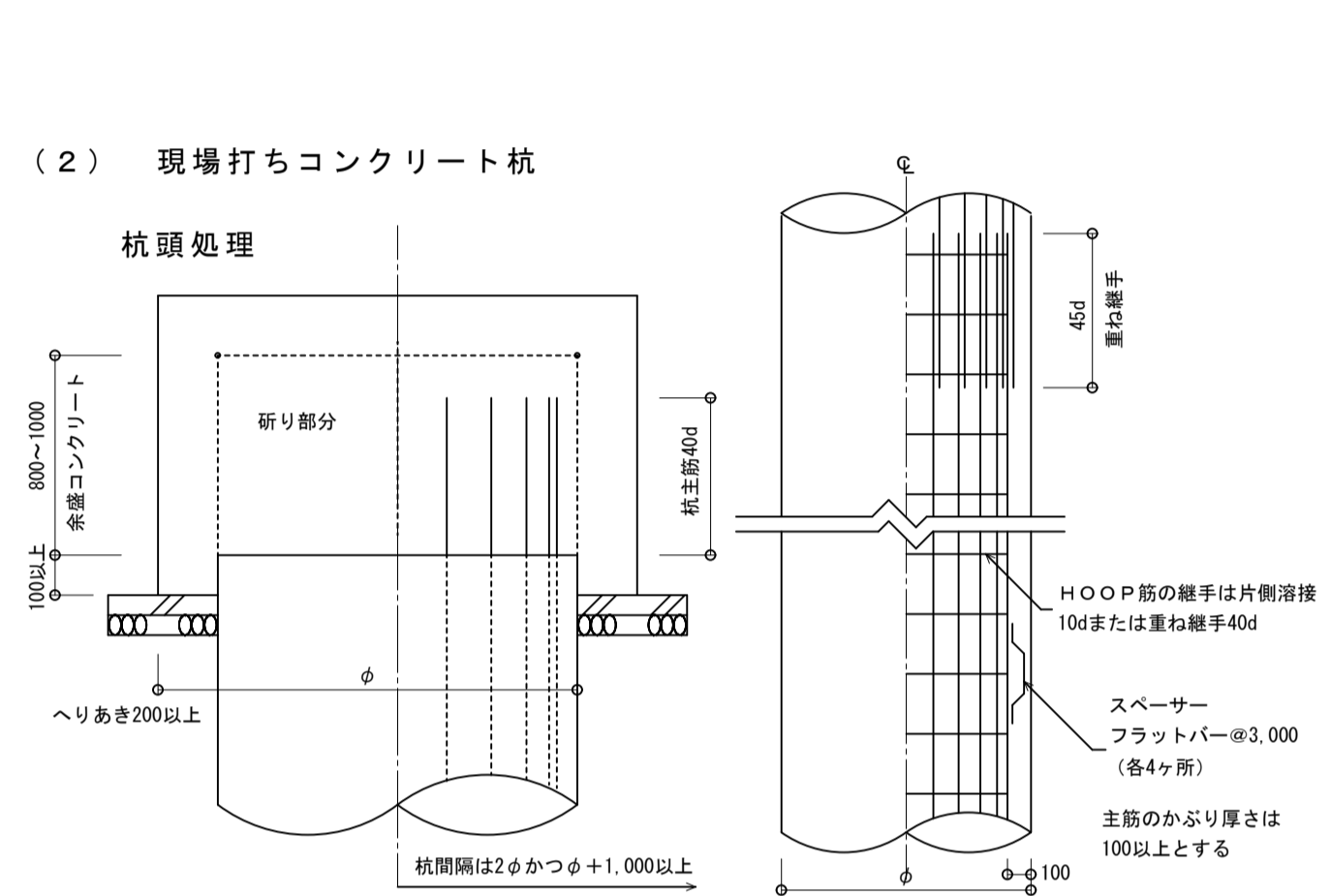


### (6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける)

- 丸鋼
- あばら筋、帯筋
- 煙突の鉄筋
- 柱、梁 (基礎梁は除く) の出隅部分の鉄筋 (右図参照)
- 単純梁の下端筋
- その他、本配筋標準図に記載する箇所

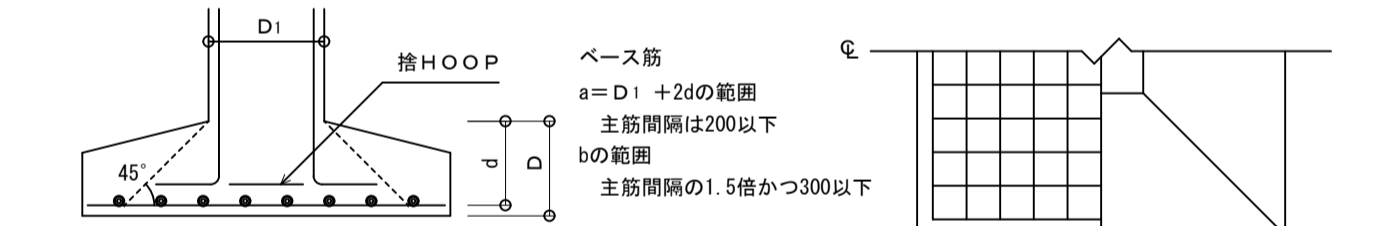
## 3. 杭

- (1) 既製杭、鋼管杭  
杭頭補強筋は、S-\*\*図による。
- (2) 現場打ちコンクリート杭  
杭頭処理

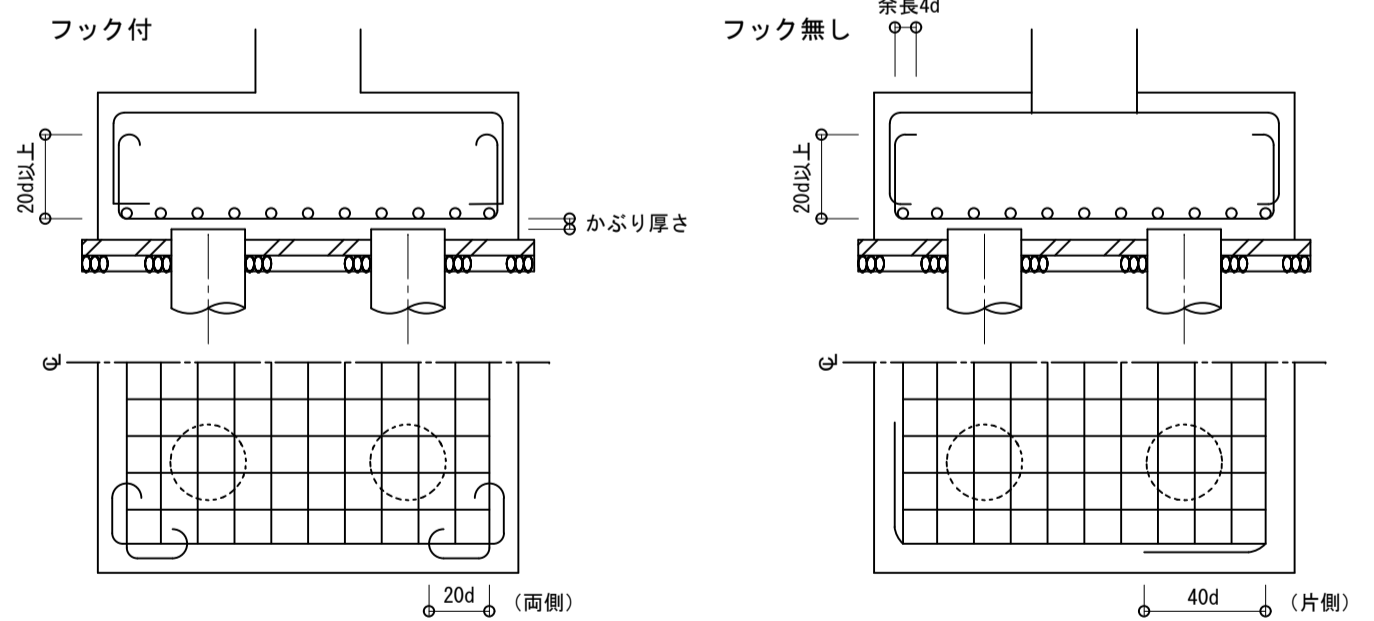


## 4. 基礎

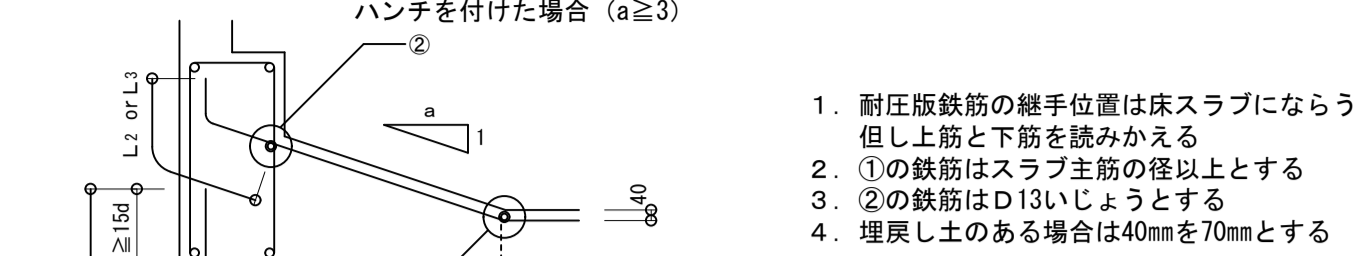
### (1) 直接基礎



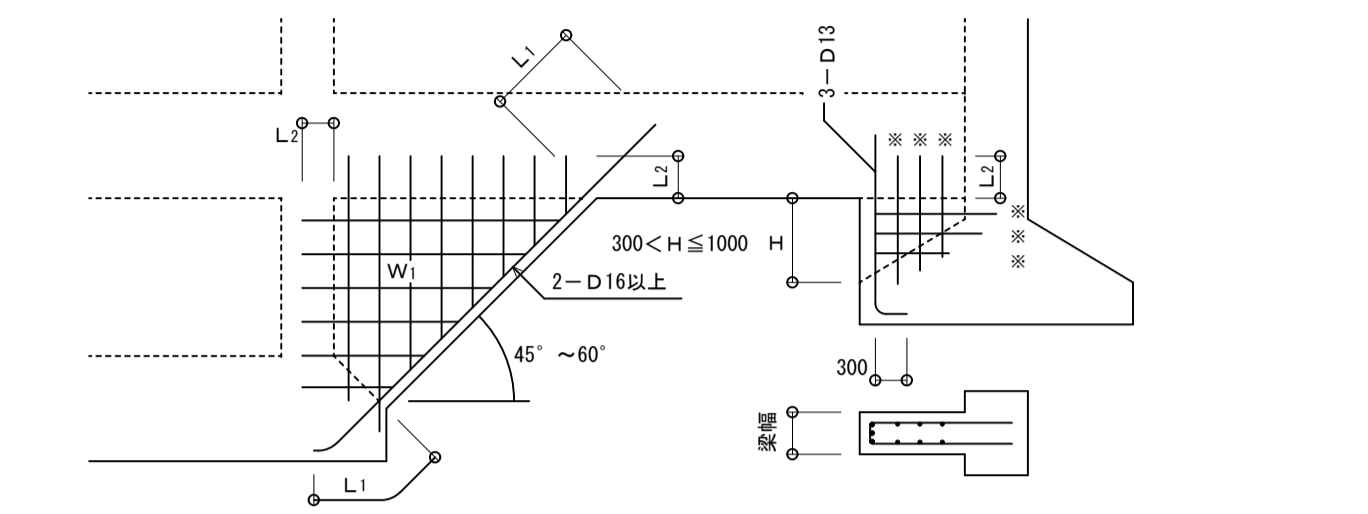
### (2) 杭基礎



### (3) ベタ基礎



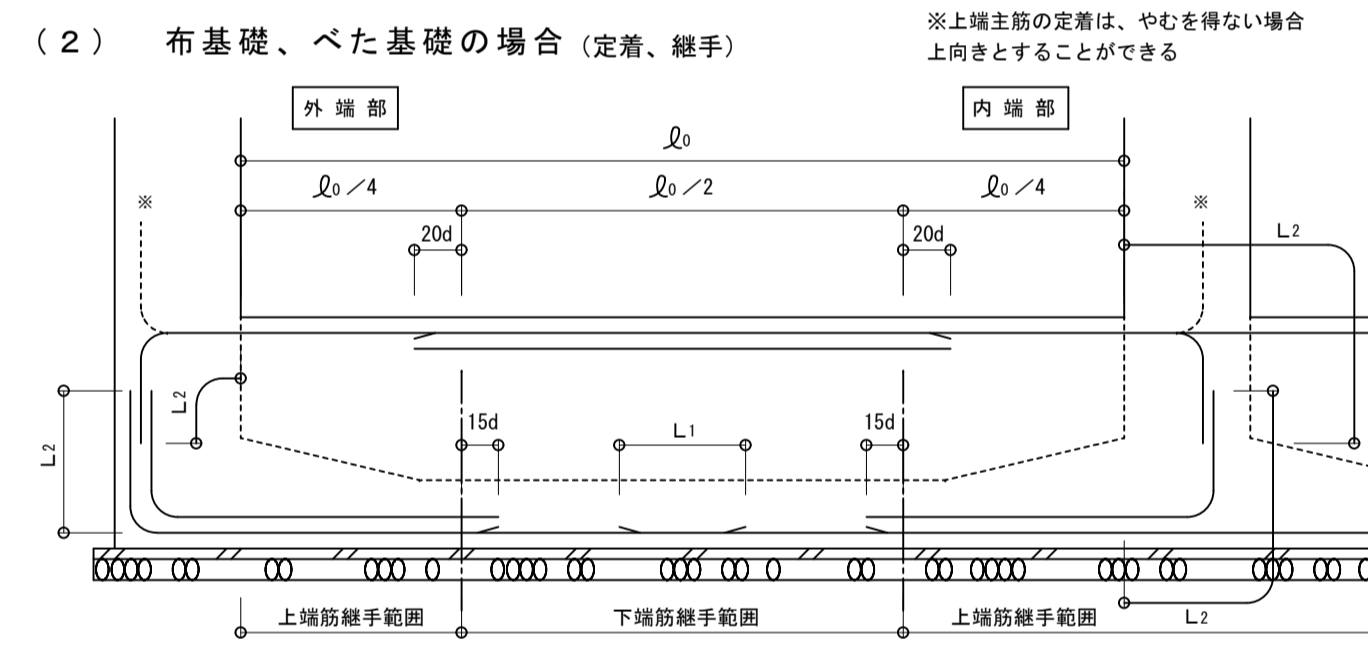
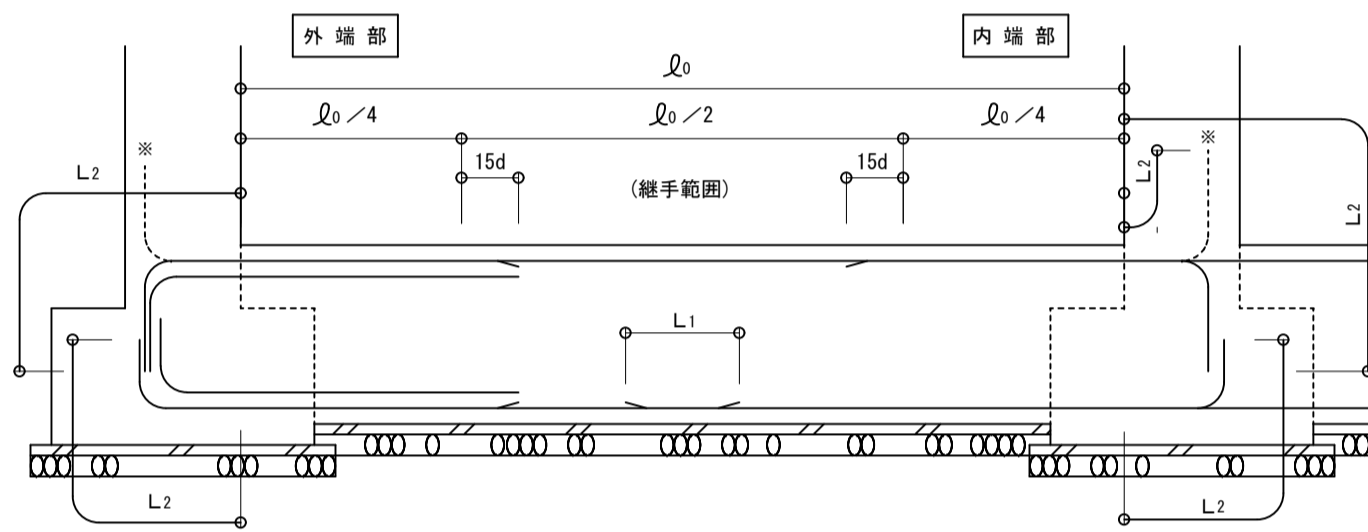
### (4) 基礎接合部の補強



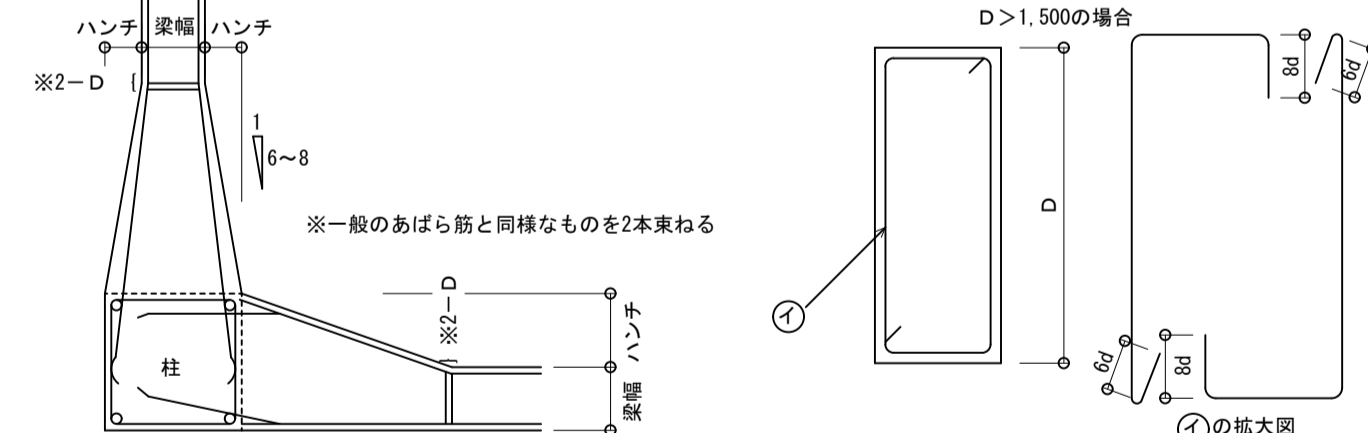
W<sub>1</sub> の三角壁厚さは、200mm以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう。  
 ※印筋は D10@200とする  
 H ≤ 300 のときは、※印筋は不用とする

## 5. 地中梁

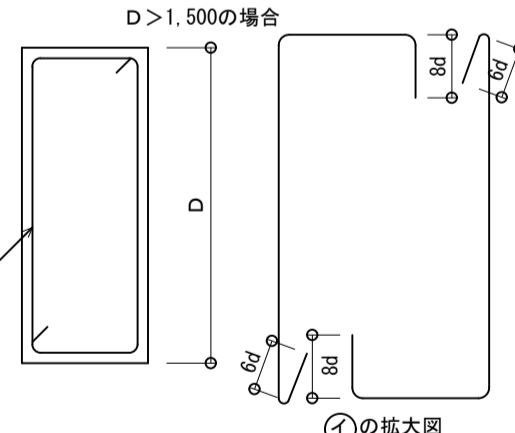
- (1) 独立基礎、杭基礎の場合 (定着、継手)  
(長期荷重が支配的な場合の継手は 7. (2) 大梁継手位置とする)
- (2) 布基礎、べた基礎の場合 (定着、継手)  
※上端主筋の定着は、やむを得ない場合  
上向きとすることができる
- (3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領
- (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領



### (3) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領

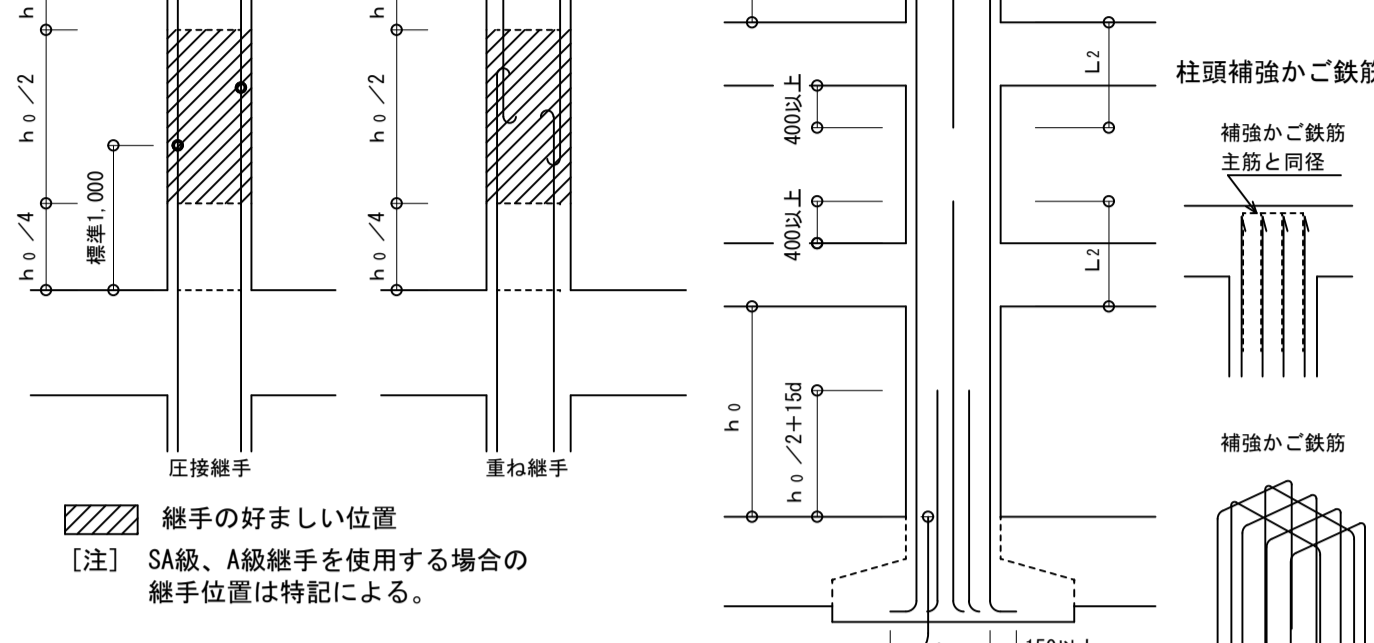
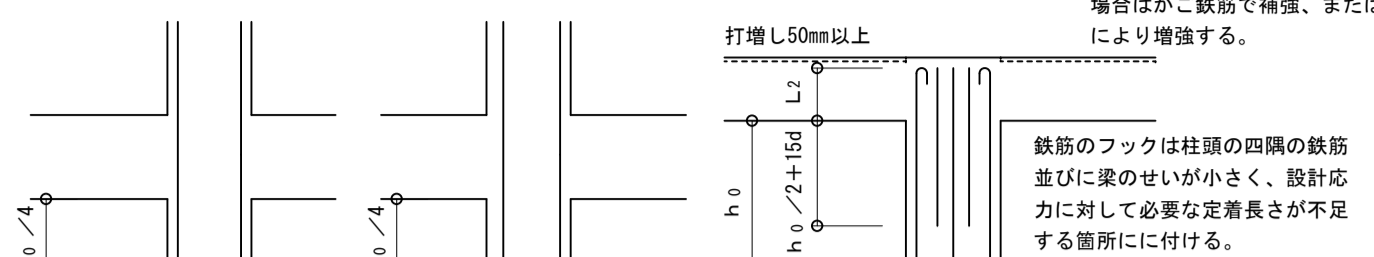


### (4) せいの高い梁のあばら筋加工要領

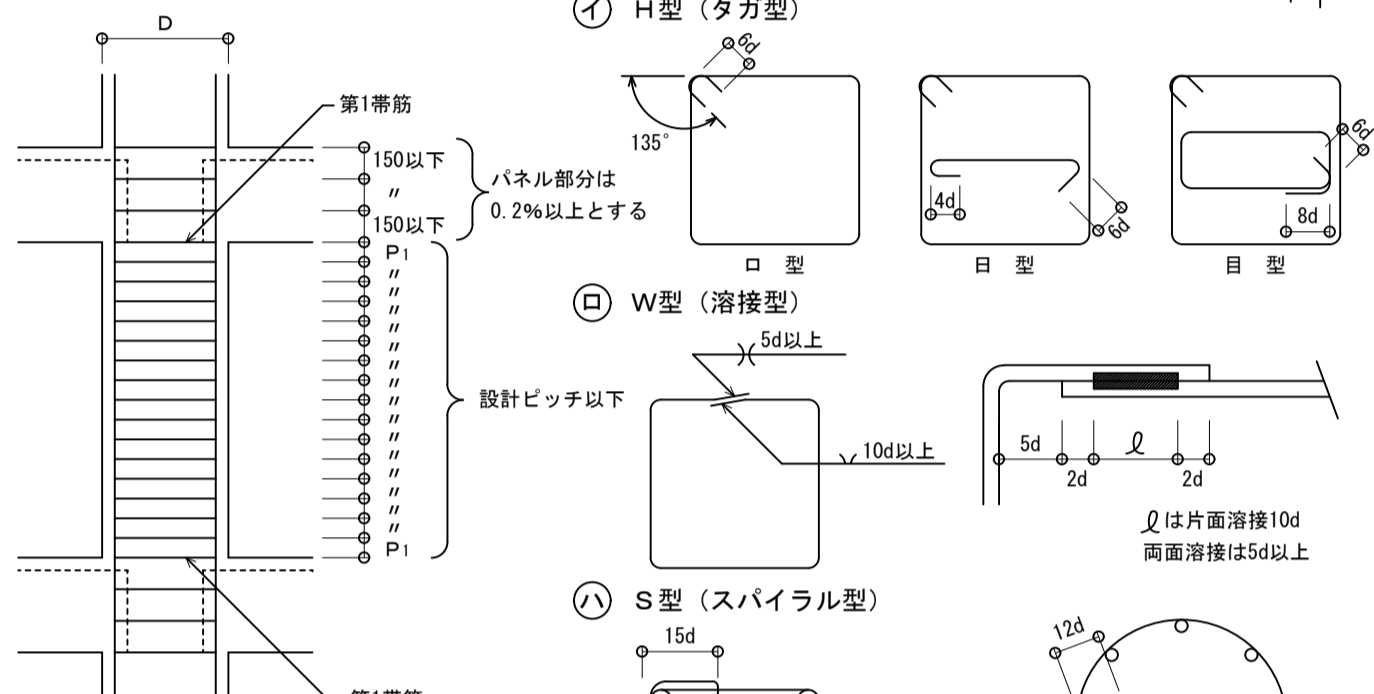


## 6. 柱

### (1) 柱主筋の継手

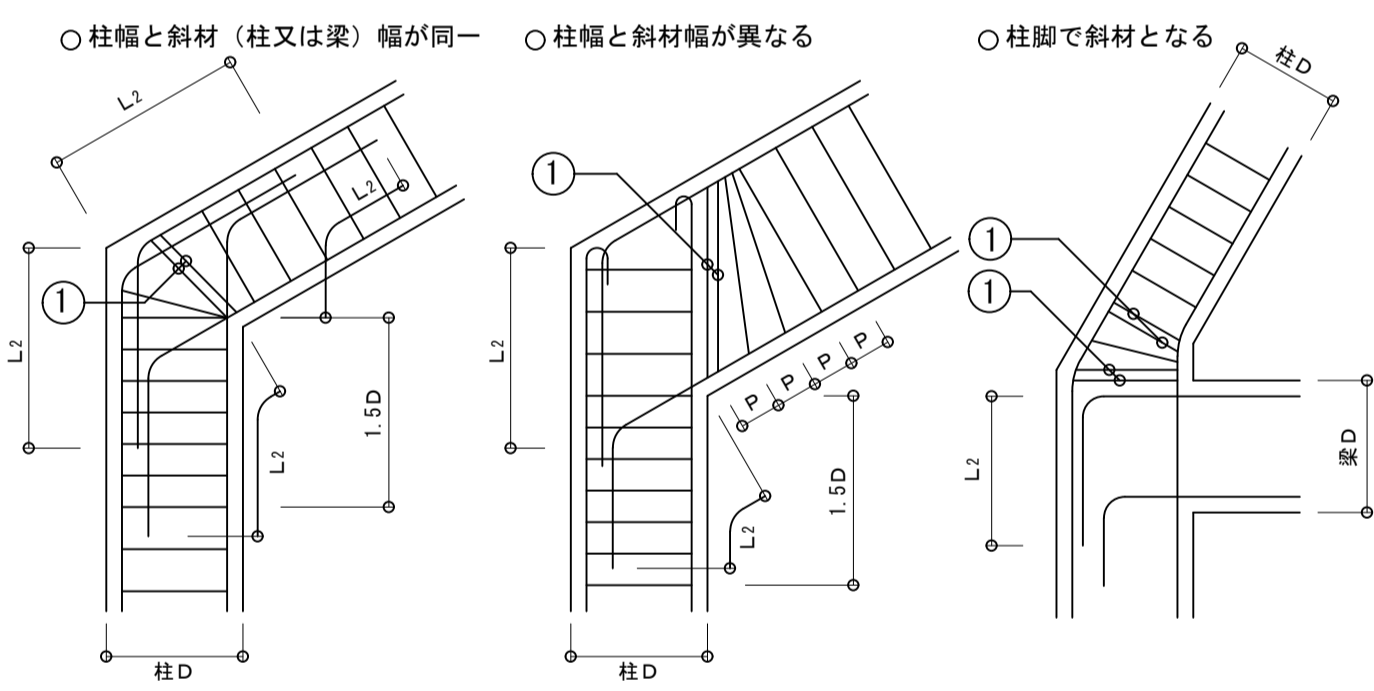


### (3) 帯筋

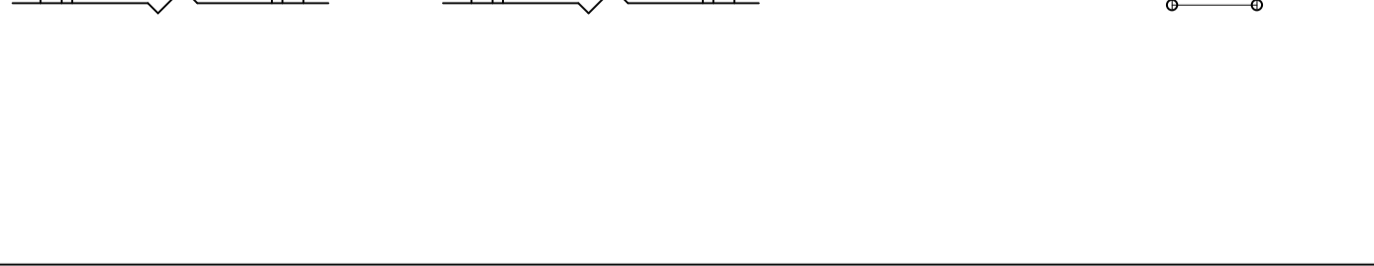
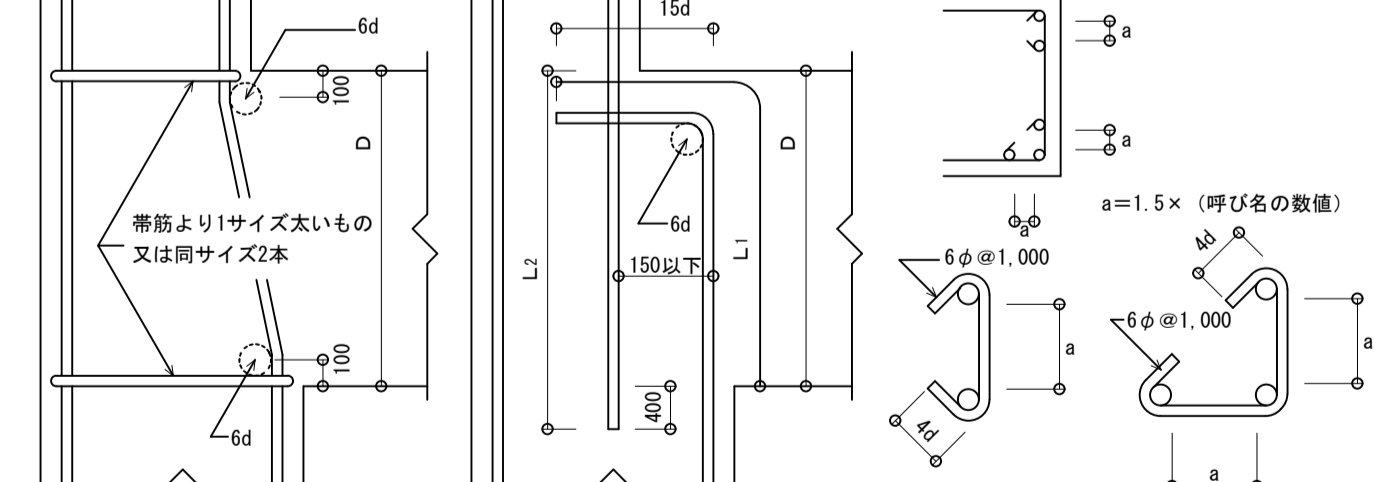


- 注1. 第1帯筋は、梁づらに入れる。
- 注2. W型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける。
- 注3. フックおよび継手の位置は、交互とする。

### (4) 斜め柱・斜め梁



- 注1. 1.5dの範囲の柱の帯筋は1サイズ太いものか、又は同サイズ2本巻きとし@100以下とする。
- 注2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の1サイズ太い鉄筋とする



1級建築士 (大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
 1級建築士 (大臣) 第248850号 第 4097号 濱口 修也  
 構造設計1級建築士

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L: 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) の 2-(3) による

## 7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

① 大梁

② 小梁の定着

③ 片持梁の定着

(2) 大梁主筋の継手 (SA級、A級継手を使用する場合の継手位置は特記による)

(3) あばら筋、腹筋、幅止めの配置

(4) あばら筋の型 (注、床板がない場合は135°以上のフックとする)

(5) 幅止め筋の本数、加工

腹筋	D < 600	不要
幅止め筋	600 ≤ D < 900	2-D10 (9φ) 1段
幅止め筋	600 ≤ D < 1,200	4-D10 (9φ) 2段
幅止め筋	1,200 ≤ D	D10 (9φ) @300以内
幅止め筋	D10 (9φ) @1,000以内で割り付ける	
2段筋受け筋	D10 (9φ) @1,000以内で割り付ける	

## 8. 床板

(1) 定着および継手

① 片持床スラブ

② 一般床スラブ

(2) 屋根スラブの補強

(3) 片持スラブ出隅部補強

(4) 床板開口部の補強 (開口の径500程度の場合)

(5) 床板段差

(6) 土間コンクリート

(7) 釜場

(8) 打継ぎ補強 (ダメ穴打継面について)

## 9. 壁

(1) 定着

① 梁に

② 柱に (平面図)

(2) スリット部 (設計図に記入のあるとき)

(3) 手摺、パラベット

(4) コンクリートブロック積壁

## 10. 柱、梁増打コンクリート補強

(1) 柱

ハッチ部分の面積 A cm <sup>2</sup>	補強タ子筋
A < 500	3-D16
500 ≤ A < 1,000	4-D16
1,000 ≤ A < 1,500	6-D16

(2) 梁

- 補強筋は、梁主筋の段落し径 (D16以上) とする。
- あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする。
- 腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合わせる。
- D ≥ 400の場合は補強筋を3本とする。
- 梁下端増打コンクリートの場合も上端増打コンクリート補強と同様とする。
- ハッチ部分は増打コンクリートを示す。

## 11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

(2) 既製品 (使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

- リング型 □パイプ型 □金網型 □プレート型
- メーカー名・型番: テイエム技研株式会社・MAXウエブレン



# 鉄骨構造標準図

## 1. 一般事項

### (1) 材料及び検査

- (a) 新構造設計特記仕様その1による
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする。但し、ベースプレートの厚さは除く
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法・精度及びその他の結果を添付する

### (2) 工作一般

- (a) 鉄骨製作及び施工に先立ち「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- (c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

### (3) 高力ボルト接合

- (a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (b) 高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、50μm以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- (c) 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

### (4) 溶接接合

- (a) 平成12年建設省告示第1464号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶着金属の性能を満足すること。
- (b) 溶接技能者  
溶接技能者は施工する溶接に適用するJISZ3801(手溶接)又はJISZ3841(半自動溶接)の溶接術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする

#### (c) 溶接機器

- (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A
- (ロ) アークエアガウジング機(直流)
- (ハ) サブマージアーク溶接機一式
- (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
- (ヒ) 溶接電流を測定する電流計
- (ヘ) 溶接棒乾燥器

#### (d) 溶接方法

- アーク手溶接(MC)
- セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC)
- ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
- アークエアガウジング(AAG)

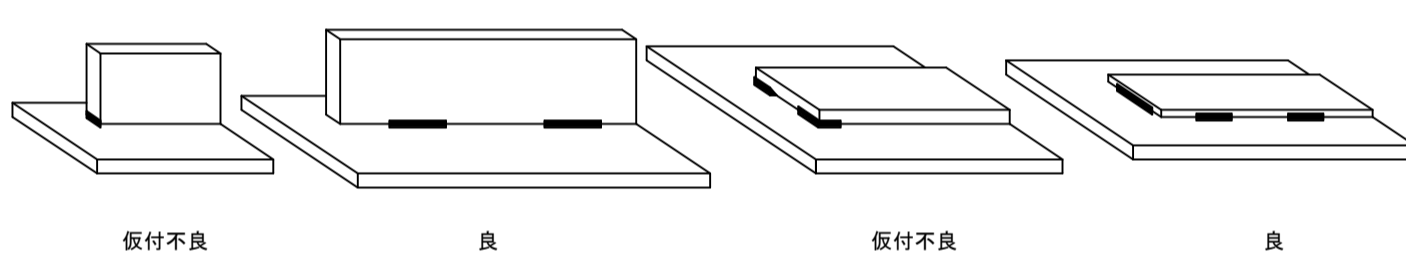
#### (e) 溶接姿勢



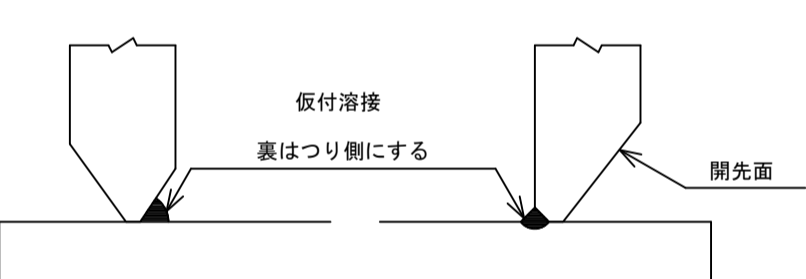
- (f) 組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う

#### (i) 仮付位置

組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



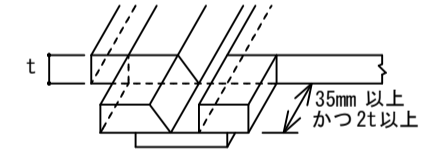
- (a) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



### (g) 溶接施工

#### (i) エンドタブ

- I) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- II) エンドタブの材質は、母材と同質とする
- III) エンドタブの長さは、MC: 35mm以上、NGC、GC: 40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- IV) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出し設計者、又は工事監理者の承認を得る



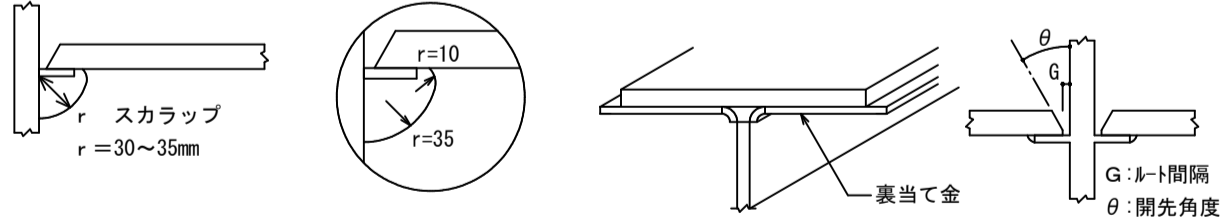
#### (ii) 裏当て金

材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上、巾は25mm以上を原則とする。但し、溶接性能が確認できれば監理者の承認を得て変更することができる

- (n) スカラップ半径は30~35mmと10mmのダブルアルとす

但し梁成がD=150mm未満の場合のスカラップはr=20mmとする

#### (c) ノンスカラップ工法



#### (a) 裏はつり

標準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、アークエアガウジングを行った上で、部材に確認マークを付ける

- (k) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆剤を塗布する。又、開先部を傷めない様に養生を行う

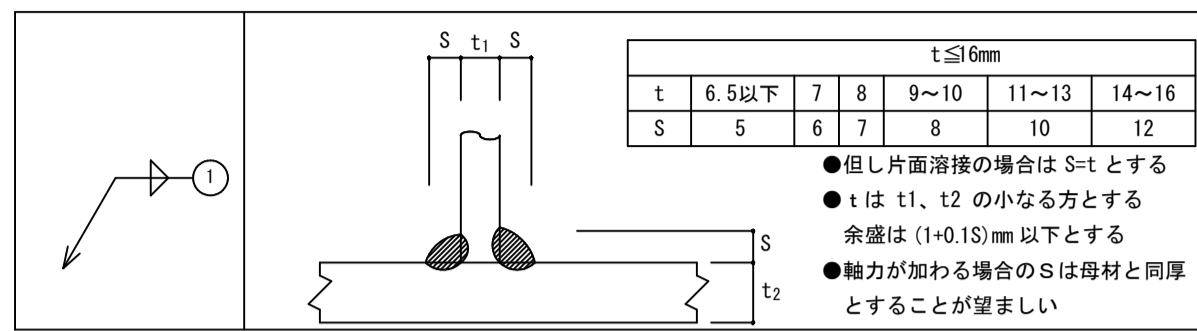
### (5) 塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

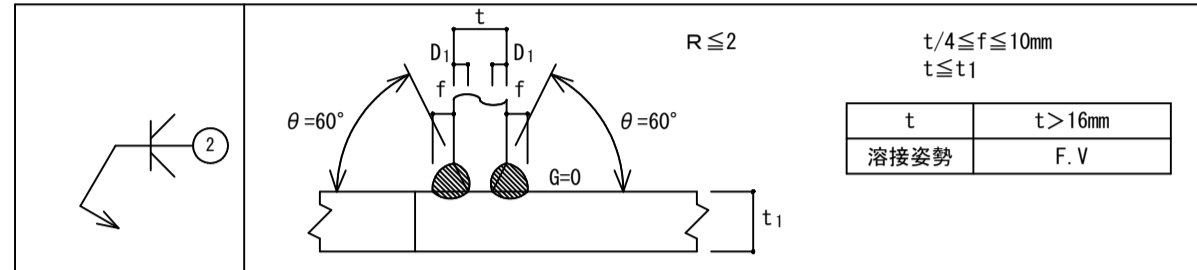
## 2. 溶接規準図

(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位: mm)

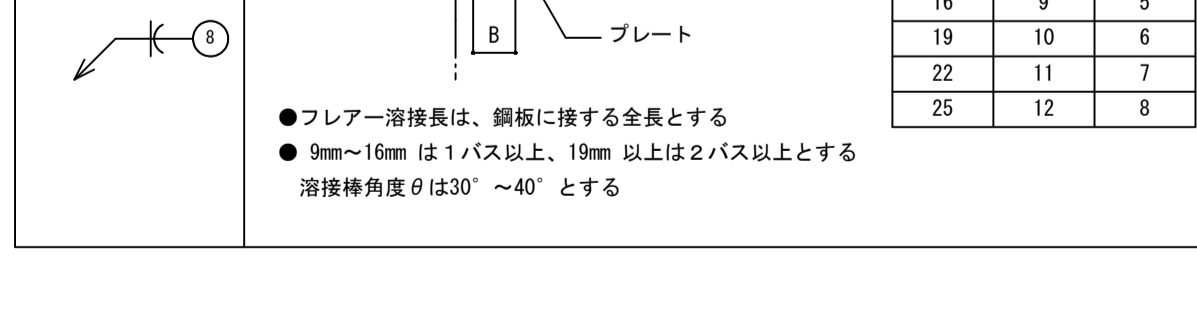
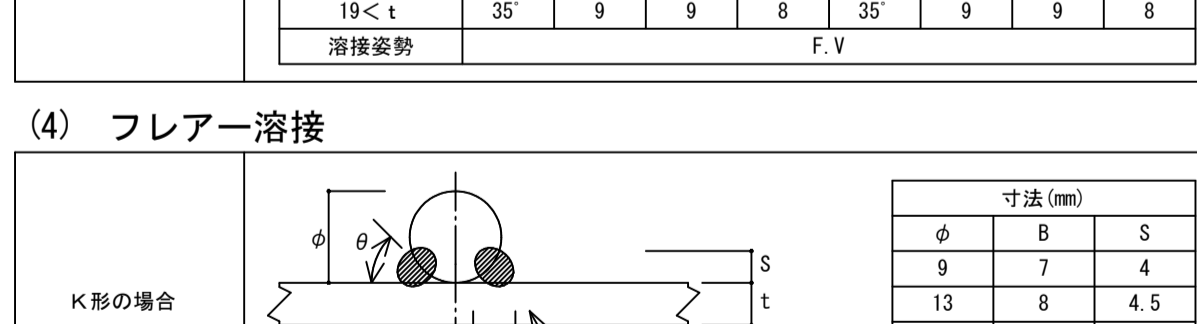
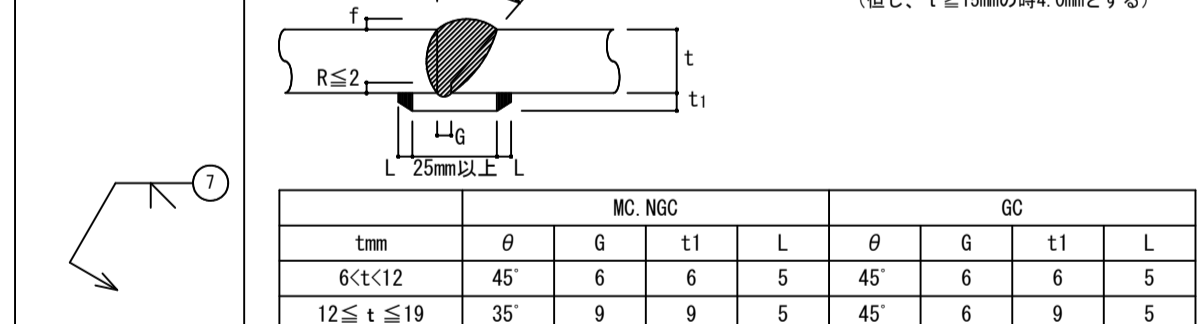
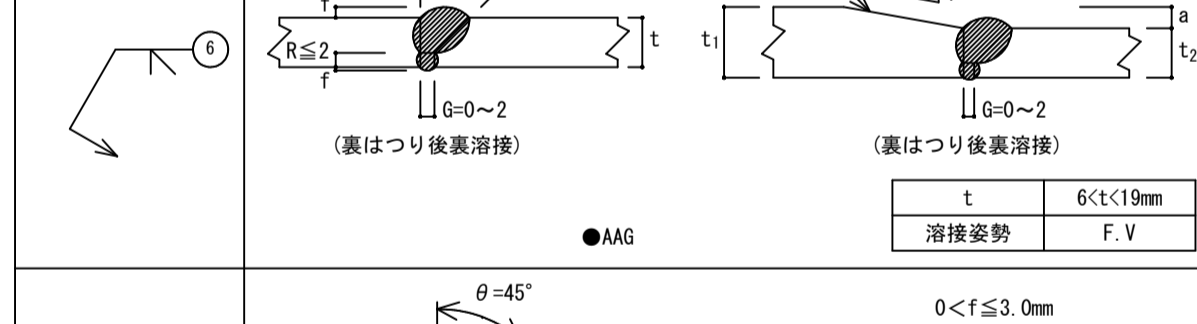
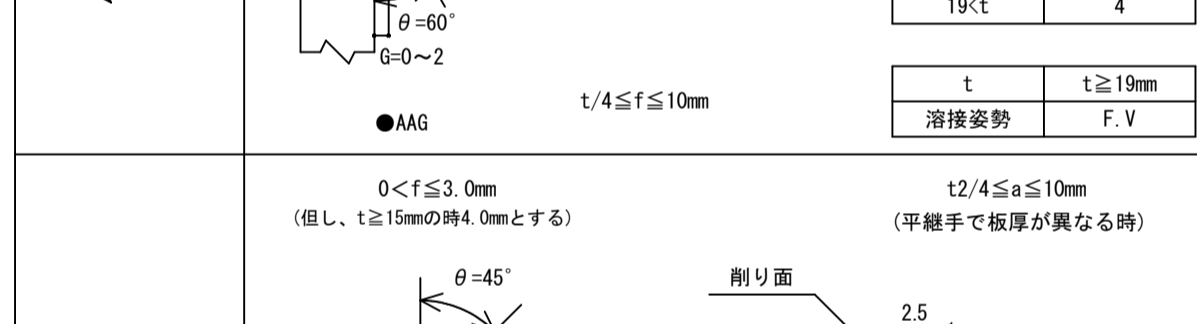
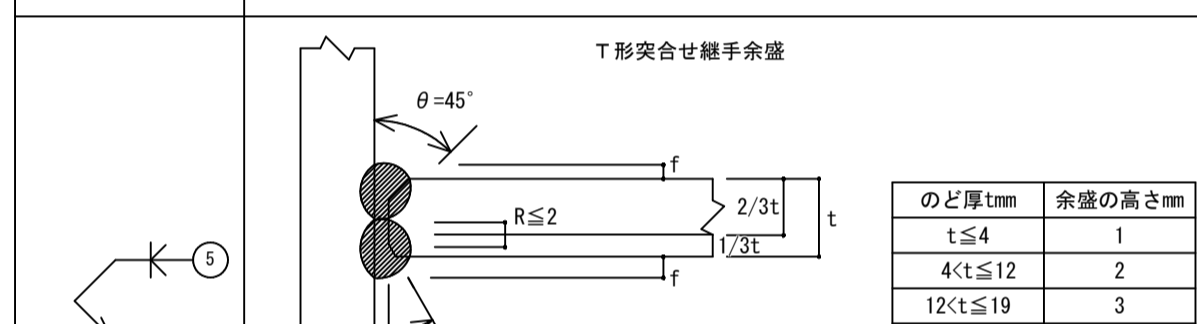
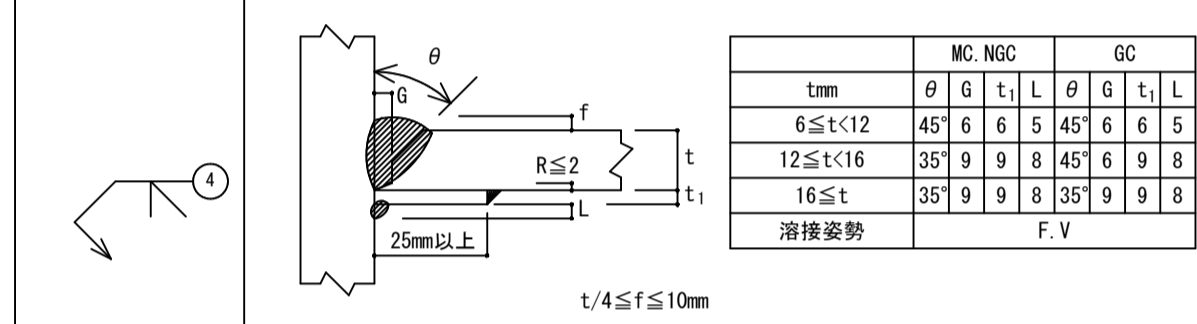
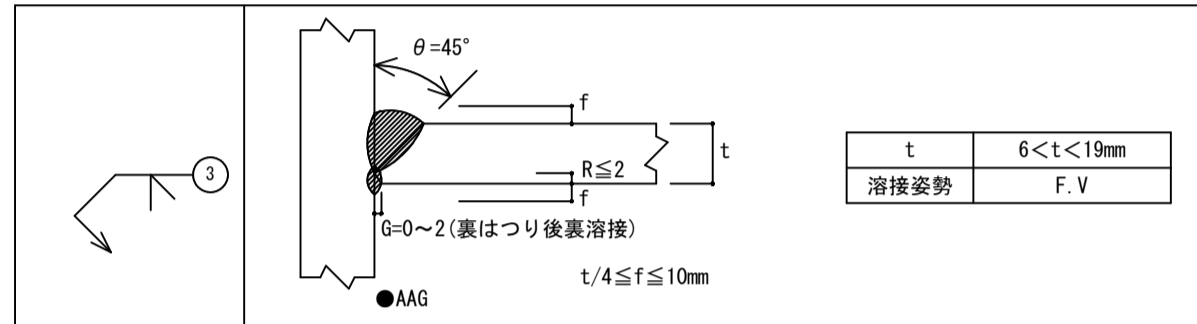
### (1) 隅肉溶接



### (2) 部分溶け込み溶接

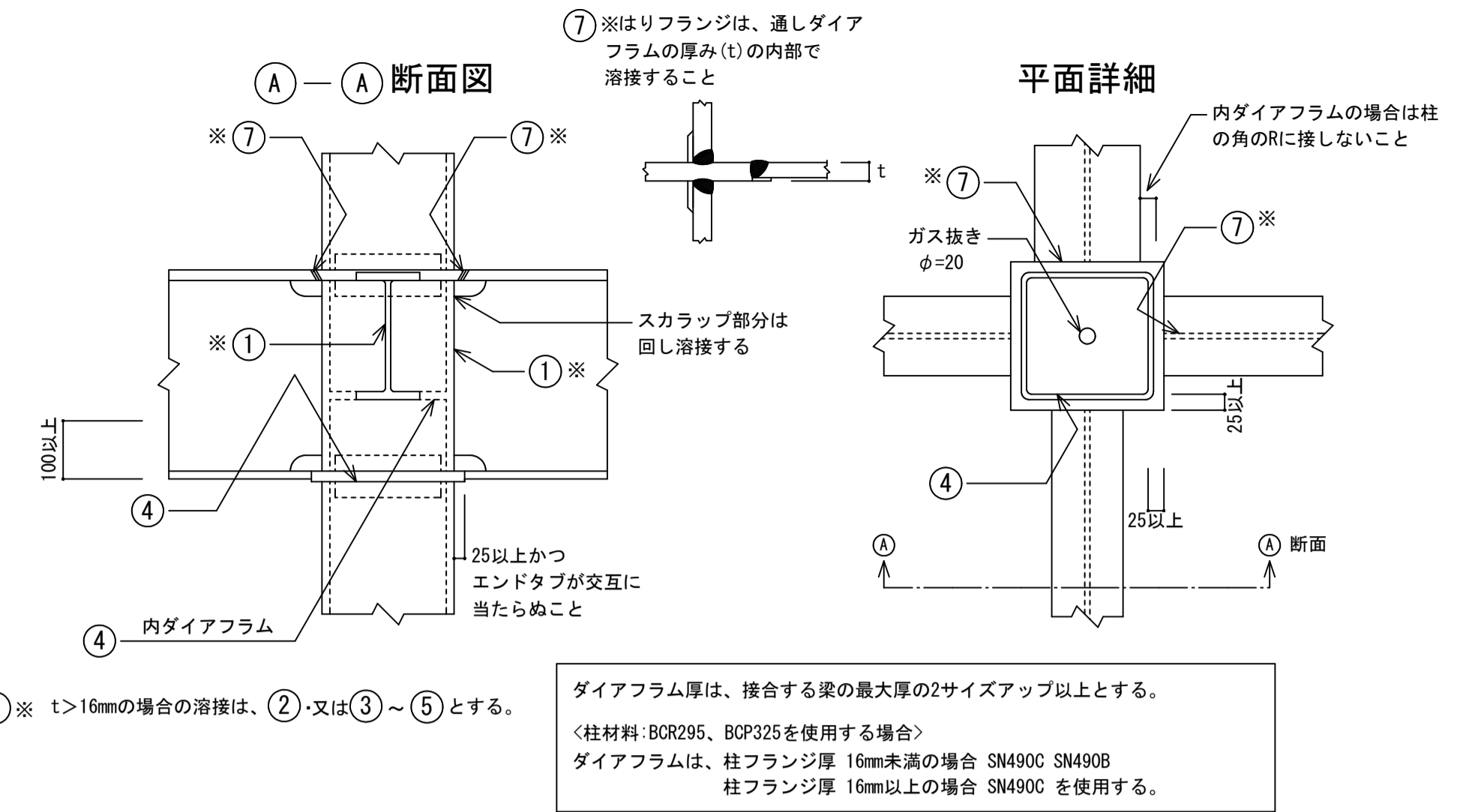
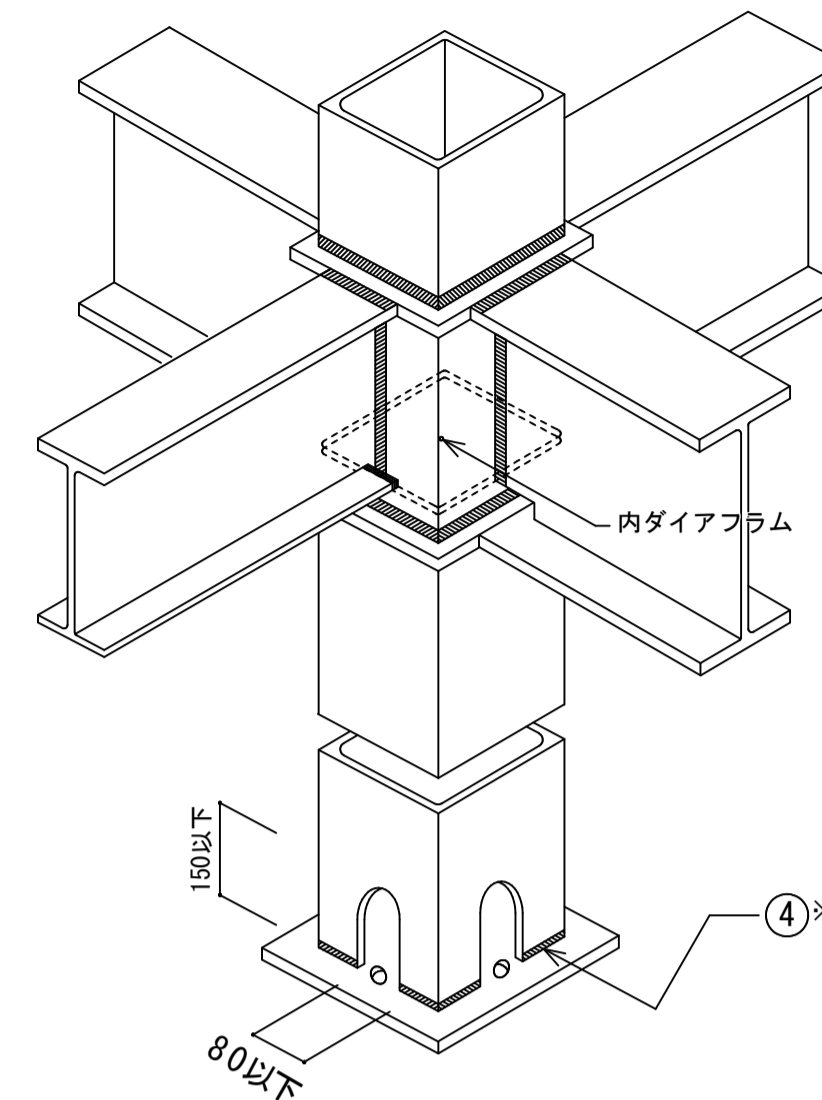


### (3) 完全溶込み溶接



※溶接記号番号を○中に記入のこと

### ●BOX型 (通しダイアフラムの場合)

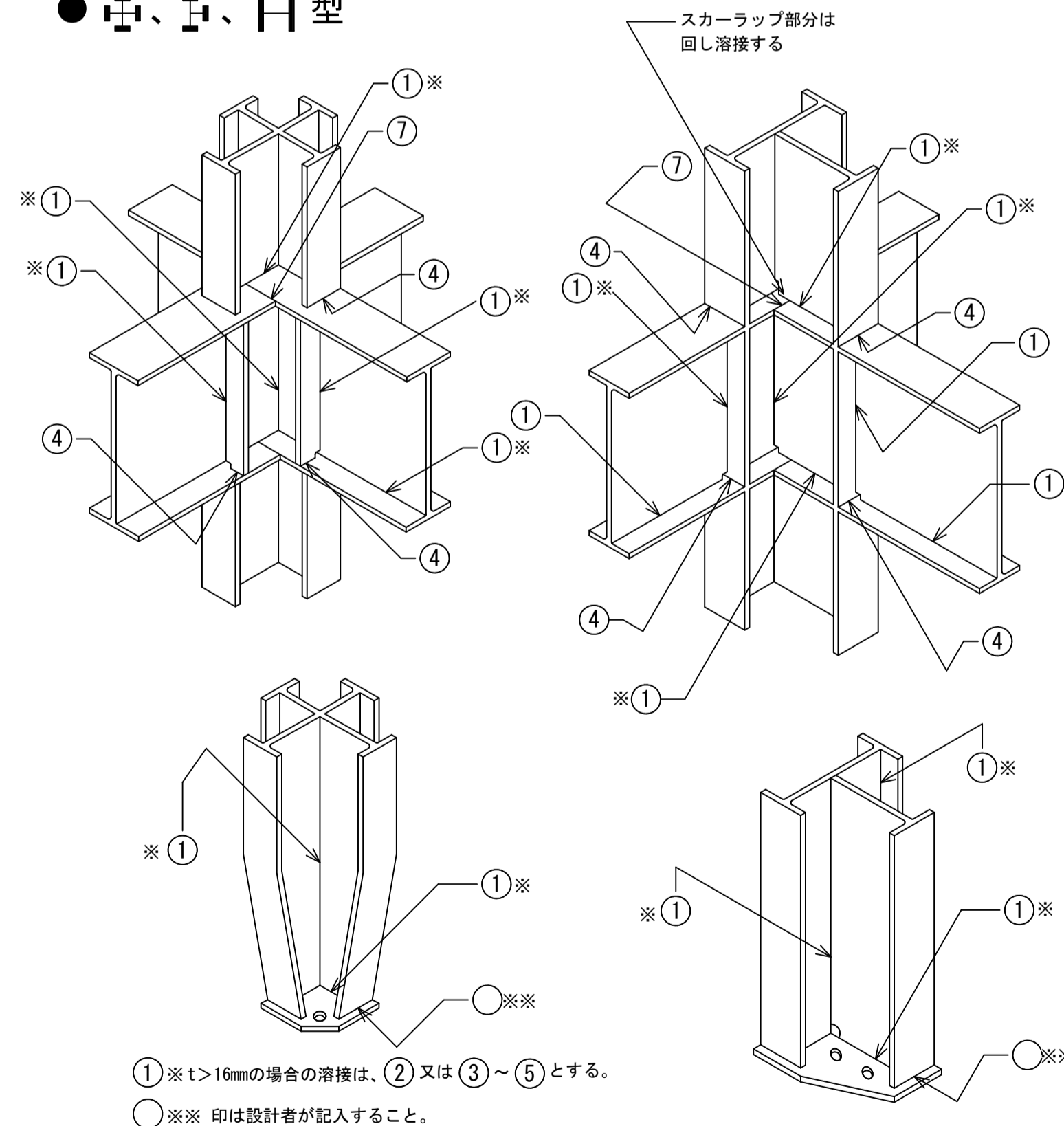


### ●鋼材種別による溶接条件

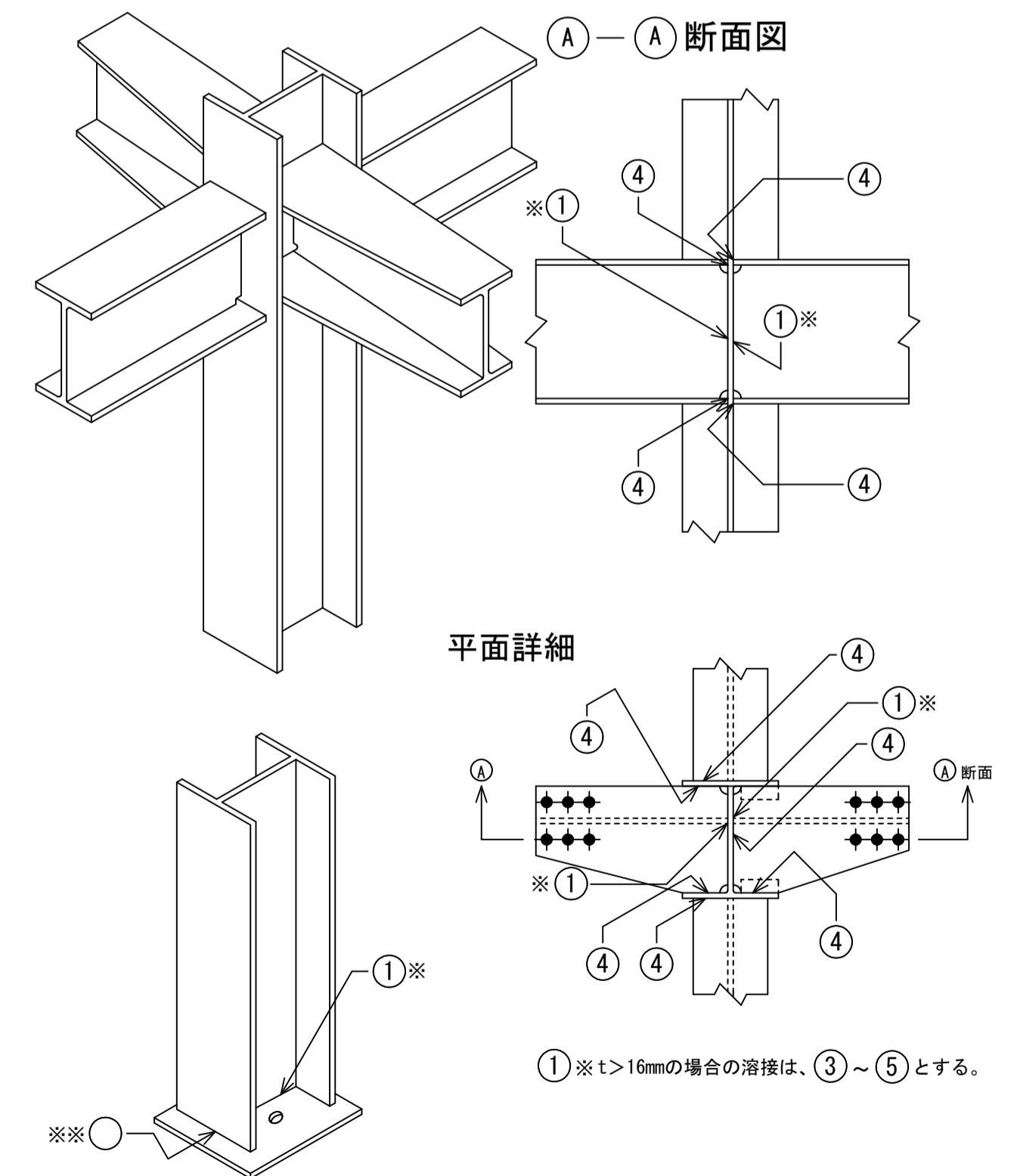
鋼材の種別	溶接材料と入熱・パス間温度		入熱(KJ/cm)	パス温度差(°C)
	溶接材料	入熱(KJ/cm)		
400N/mm <sup>2</sup> 級鋼	JIS Z 3312	40 以下	40 以下	350 以下
	YGM-11, 15			
	YGM-18, 19			
	JIS Z 3315			
490N/mm <sup>2</sup> 級鋼	YGA-50W, 50P	40 "	40 "	350 "
	JIS Z 3312	40 "		
	YGM-11, 15	40 "		
	JIS Z 3315	40 "		

注) STKR, BCR, BCP材はJIS Z 3312のみ使用可  
「新構造設計特記仕様その1 6 鉄骨工事 (2) 認定または登録工場」のグレード別に定められた適用範囲と溶接条件制限事項による。

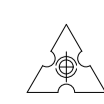
### ●H、I、H型



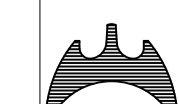
### ●B.H方式



1級建築士(大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
1級建築士(大臣) 第248850号  
構造設計1級建築士 第4097号 浜口 修也



株式会社 車田建築設計事務所  
KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES  
1級建築士事務所 登録 22(1)第0587号



福山市建設局建築部営繕課  
2023年 3月

工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事  
図面名称 鉄骨構造標準図

図面No S-10  
縮尺 \*\*/\*\*

# QLデッキ合成スラブ設計・施工標準 耐火仕様② JFE 建材 株式会社

## 耐火補強筋不要仕様 [耐火認定FP060FL-0099, 0100, 0101, 0102, 0126, FP120FL-0127用]

QLデッキ合成スラブリの設計・施工は、(社)日本建築学会「各種合成構造設計指針・同解説」「鉄骨工事技術指針」「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5鉄筋コンクリート工事及びJASS6鉄骨工事」、(一社)日本鋼構造協会「デッキプレート床構造設計・施工標準 2018」、QLデッキ設計マニュアル・同施工マニュアルによる。

### 設計

材料/デッキプレート [ISO 9001 認証取得]

デッキプレート種類	板厚(mm)	表面処理
■ QL99-50 □ QL99-75	1.0	○亜鉛めっき [○Z12 ○Z27] □JFEエポ(高耐食溶めっき鋼板) [○Y18 ○Y27] □その他( )
		■ 1.2 □ 1.6
材 質	JIS G 3352に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G	

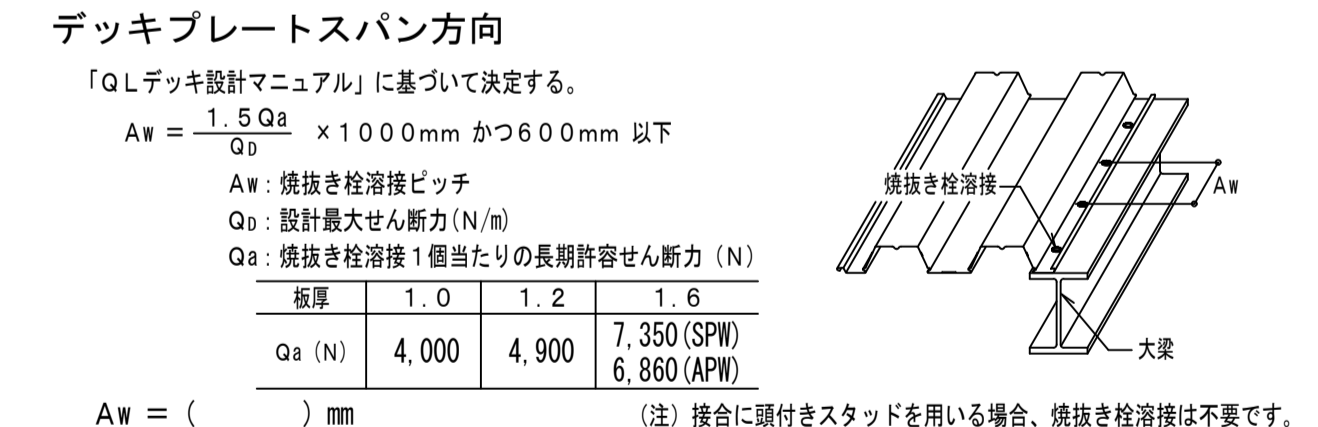
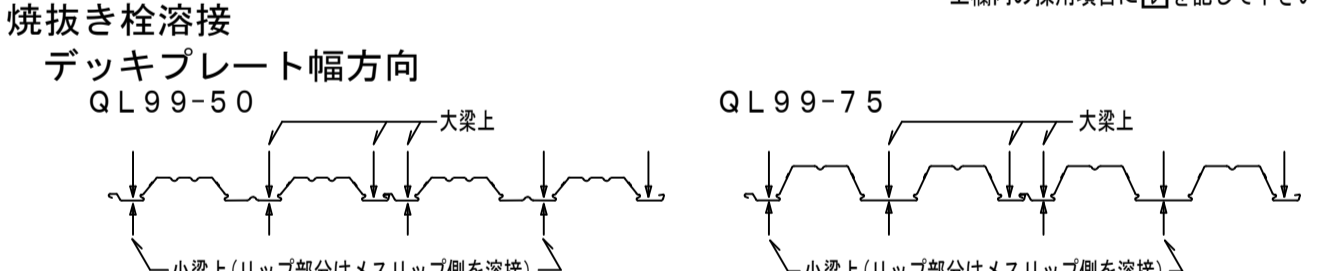
種 類	普通コンクリート
設計基準強度	○18 ○21 ■24 □( ) N/mm <sup>2</sup>
厚さ(QLデッキ山上)	□60 □70 ■80 □85 □90 □95 □100 □( ) mm

溶接金網	JIS G 3551	φ6-75×75	φ6-150×150
φ異形鉄筋 <td>JIS G 3112, 3117</td> <td>○D10-150×150</td> <td>○( )</td>	JIS G 3112, 3117	○D10-150×150	○( )

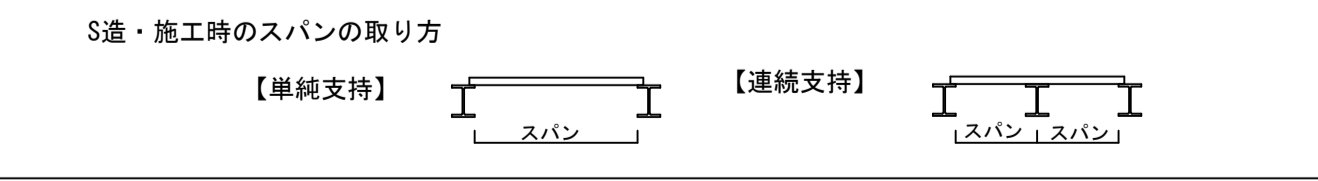
接 合	梁との接合	認定番号
■頭付きスタッド	JIS B 1188 φ13 ■φ16 □φ19 □φ22	FP060FL-0126 FP060FL-0100 FP060FL-0101 FP060FL-0102 FP060FL-0099 FP120FL-0127
□焼抜き栓溶接	下記焼抜き栓溶接の項による	
□打込み鉄	接合面所は特記による	
□その他		

デッキプレート	耐火区分	支持条件	コンクリート種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50	床1時間	単純/連続	普通	不要	■FP060FL-0126
QL99-75					床2時間
その他	指定なし				□FP060FL-0100 □FP060FL-0099 □FP120FL-0127

特 記	支保工有無	その他:
■無	○有	



■施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)	単位 (cm)	
コンクリート厚 (mm)	80	85
スパン (mm)	1.0 1.2 1.6	1.0 1.2 1.6
QL50	単純 2.28 2.42 2.64 2.26 2.39 2.61 2.24 2.37 2.59 2.22 2.35 2.57 2.20 2.33 2.54 2連続 3.06 3.24 3.54 3.03 3.21 3.51 3.01 3.18 3.47 2.98 3.15 3.44 2.95 3.12 3.41 3連続 2.82 2.99 3.29 2.80 2.96 3.23 2.77 2.93 3.20 2.75 2.91 3.17 2.72 2.88 3.15	単純 3.01 3.18 3.48 2.98 3.15 3.45 2.96 3.13 3.42 2.93 3.10 3.39 2.91 3.07 3.37 2連続 3.58 3.85 4.18 3.54 3.82 4.15 3.49 3.76 4.10 3.44 3.71 4.04 3.40 3.67 4.07 3連続 3.50 3.85 4.18 3.47 3.82 4.15 3.44 3.71 4.04 3.39 3.68 3.99 3.38 3.65 3.93



### 耐火仕様

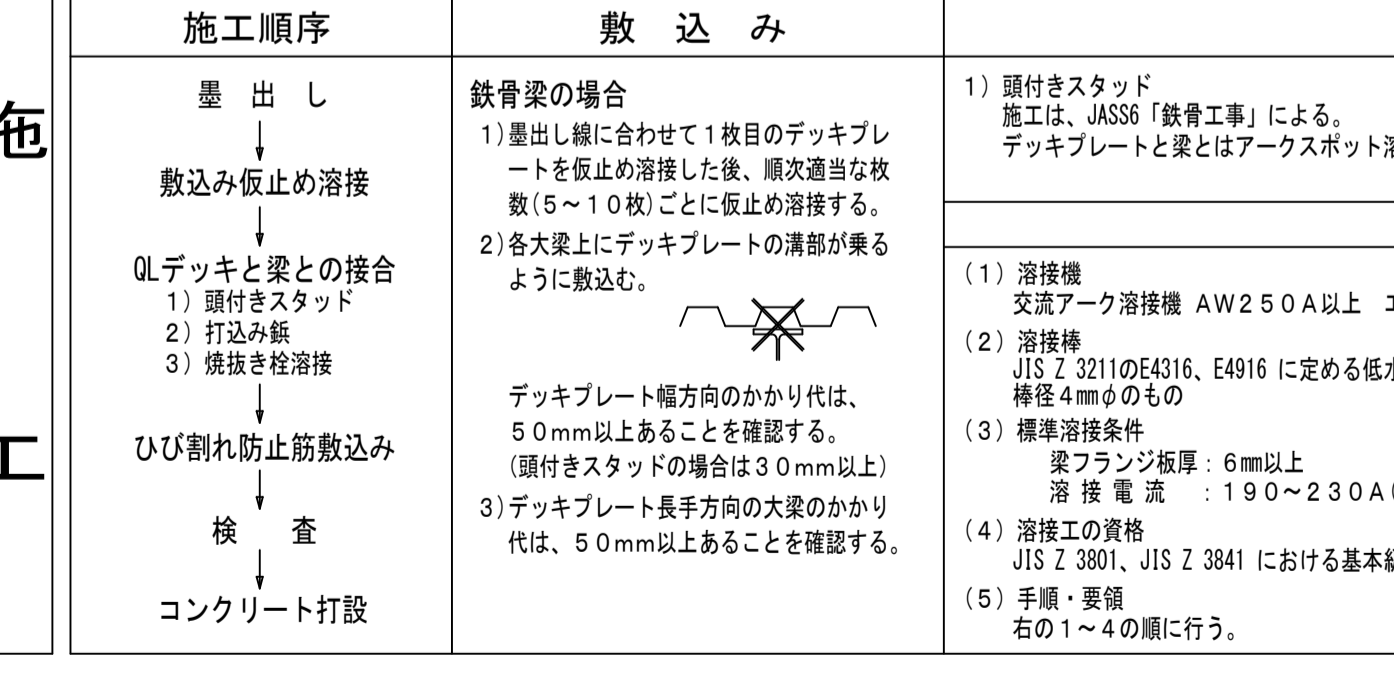
○共通事項 支持梁: 鉄骨梁、コンクリート: 設計基準強度18~36 N/mm<sup>2</sup>の普通コンクリート  
溶接金網 [JIS G 3551] 又は異形鉄筋 [JIS G 3112, G 3117] 寸法は下表参照  
耐火補強筋: 不要

認定番号 [FP060FL-0100 (床1時間耐火)]	デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-50-10	単純支持	連続支持	2.700m以下	80mm以上	5,400N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 打込み鉄(φ4.5) 頭付きスタッド(φ13以上)

認定番号 [FP060FL-0102 (床1時間耐火)]	デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-75-10	単純支持	連続支持	3.000m以下	80mm以上	5,400N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)

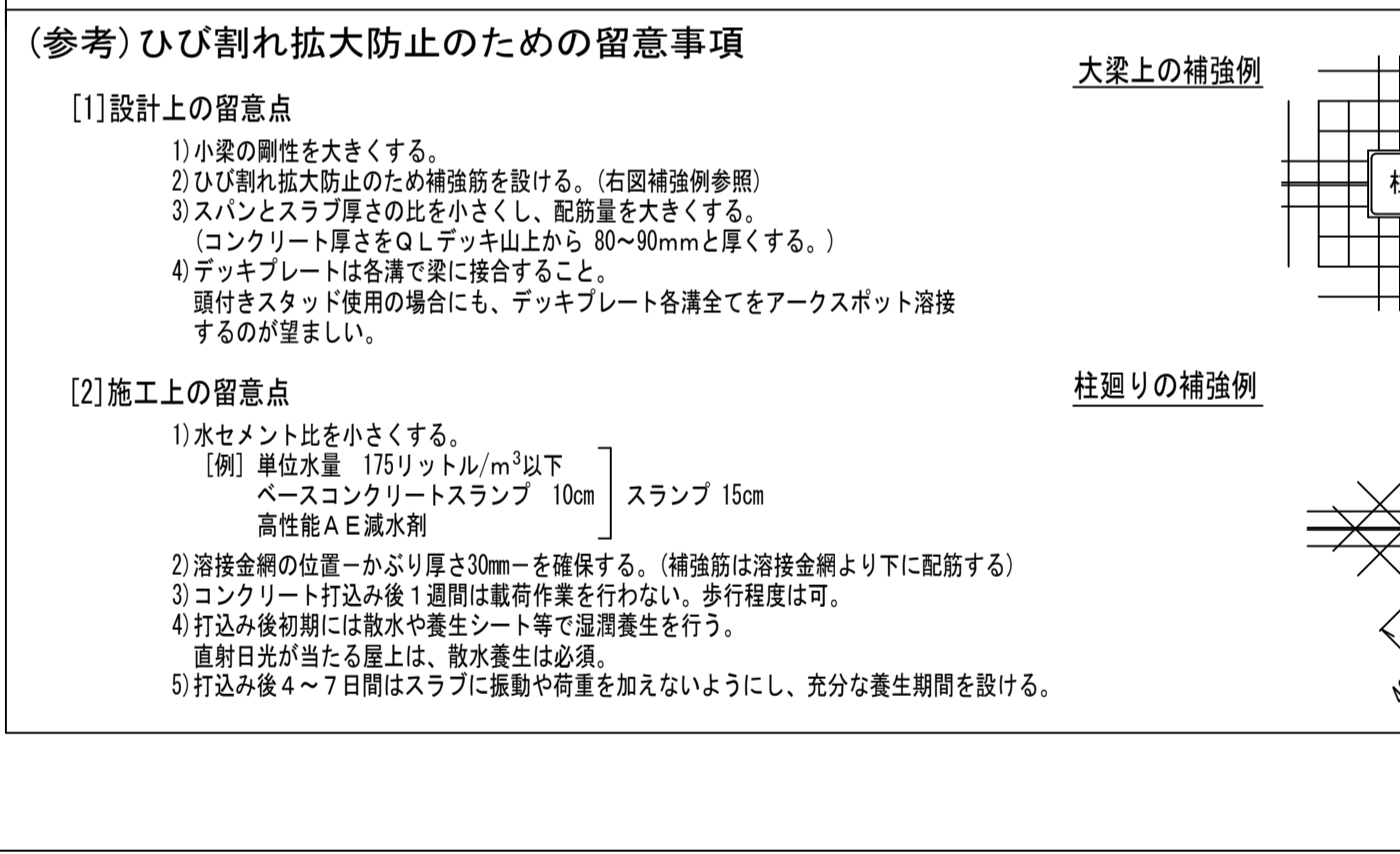
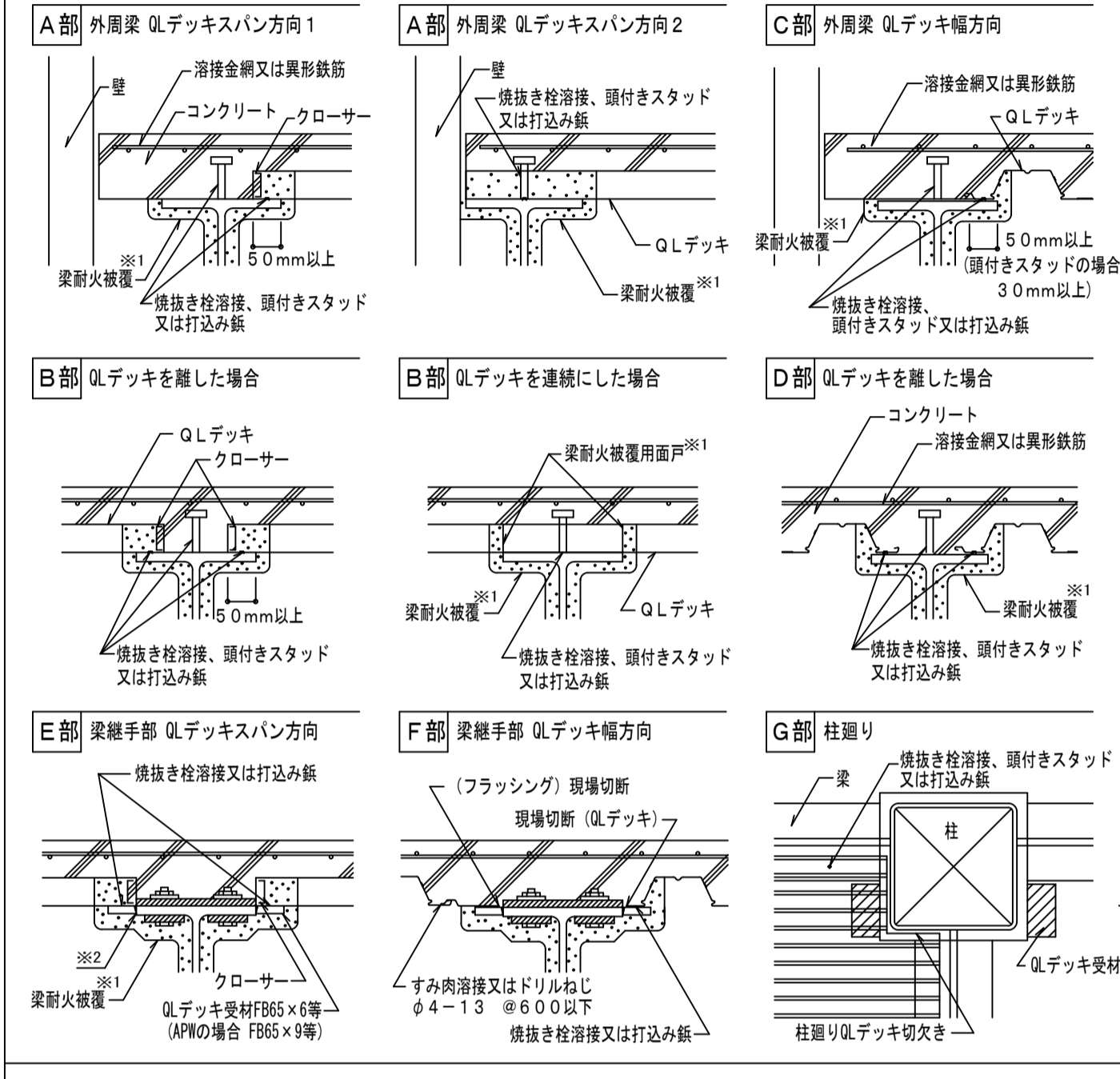
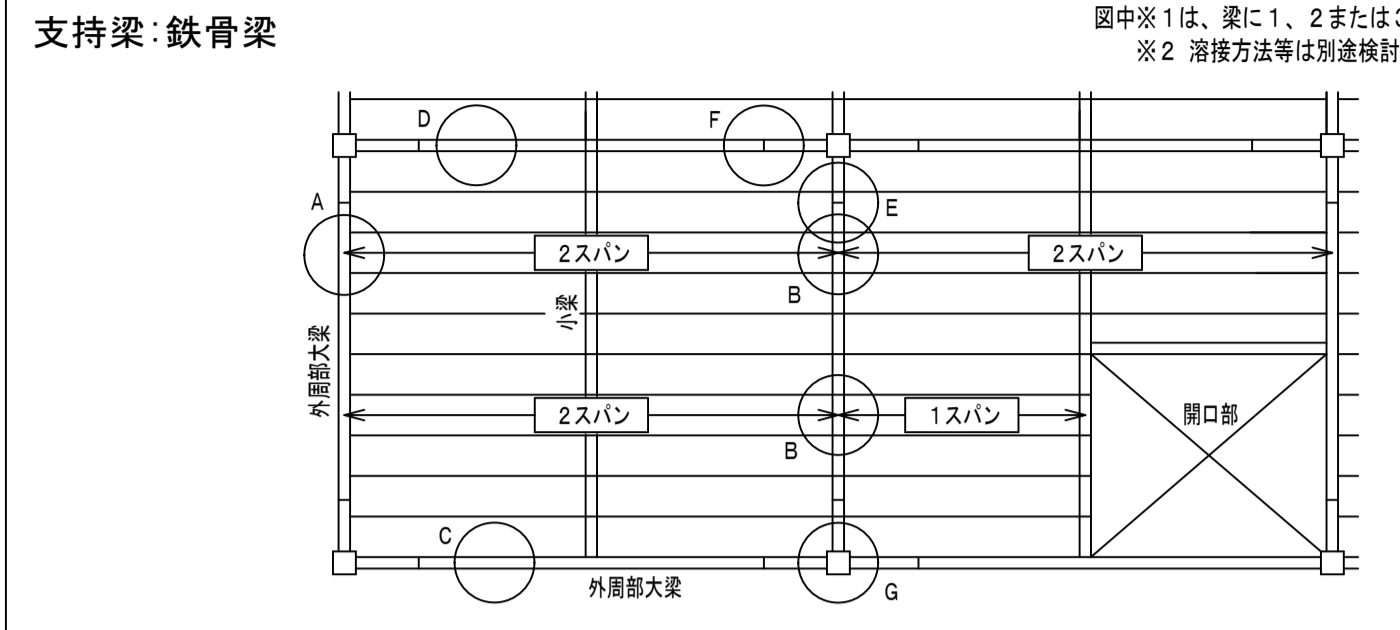
認定番号 [FP060FL-0099 (床1時間耐火)]	デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-75-10	単純支持	連続支持	3.400m以下	80~100mm	3,500N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド(φ16以上)

認定番号 [FP120FL-0127 (床2時間耐火)]	デッキプレート品名	支持形式	支持スパン	コンクリート厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合(径)
QL99-75-10	単純支持	連続支持	2.500m以下	90mm以上	6,000N/m <sup>2</sup> 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接(φ18以上) 頭付きスタッド(φ13以上)

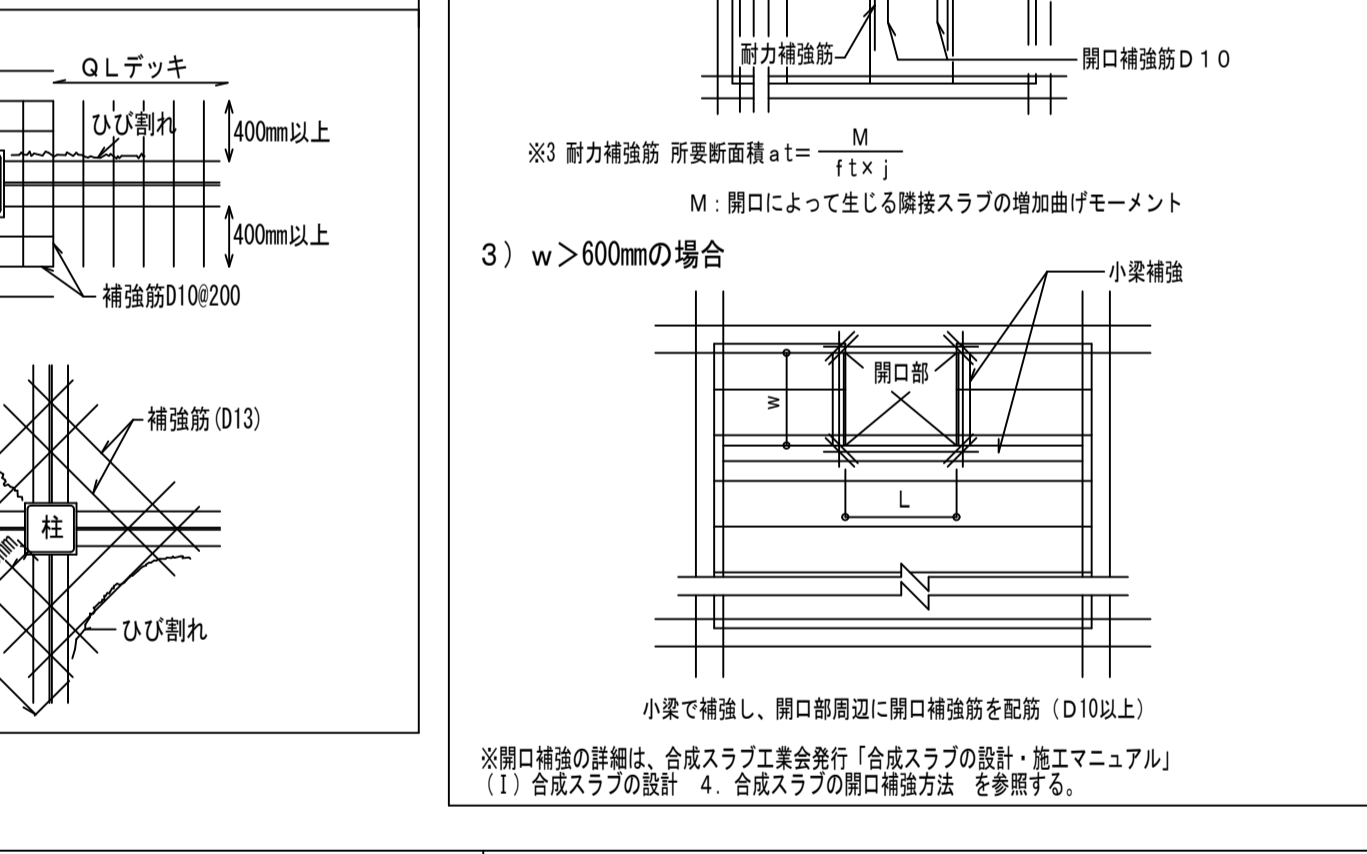
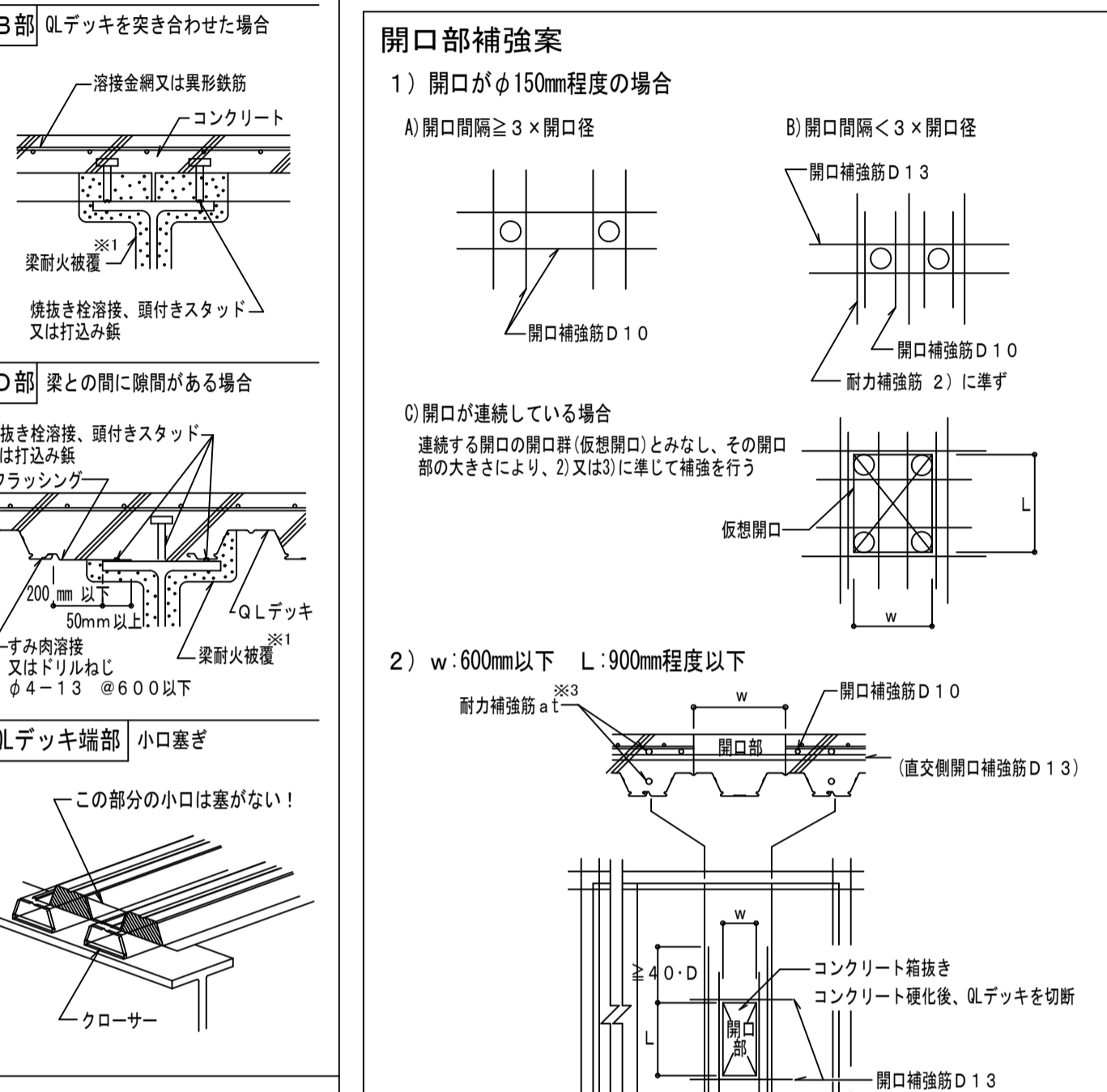
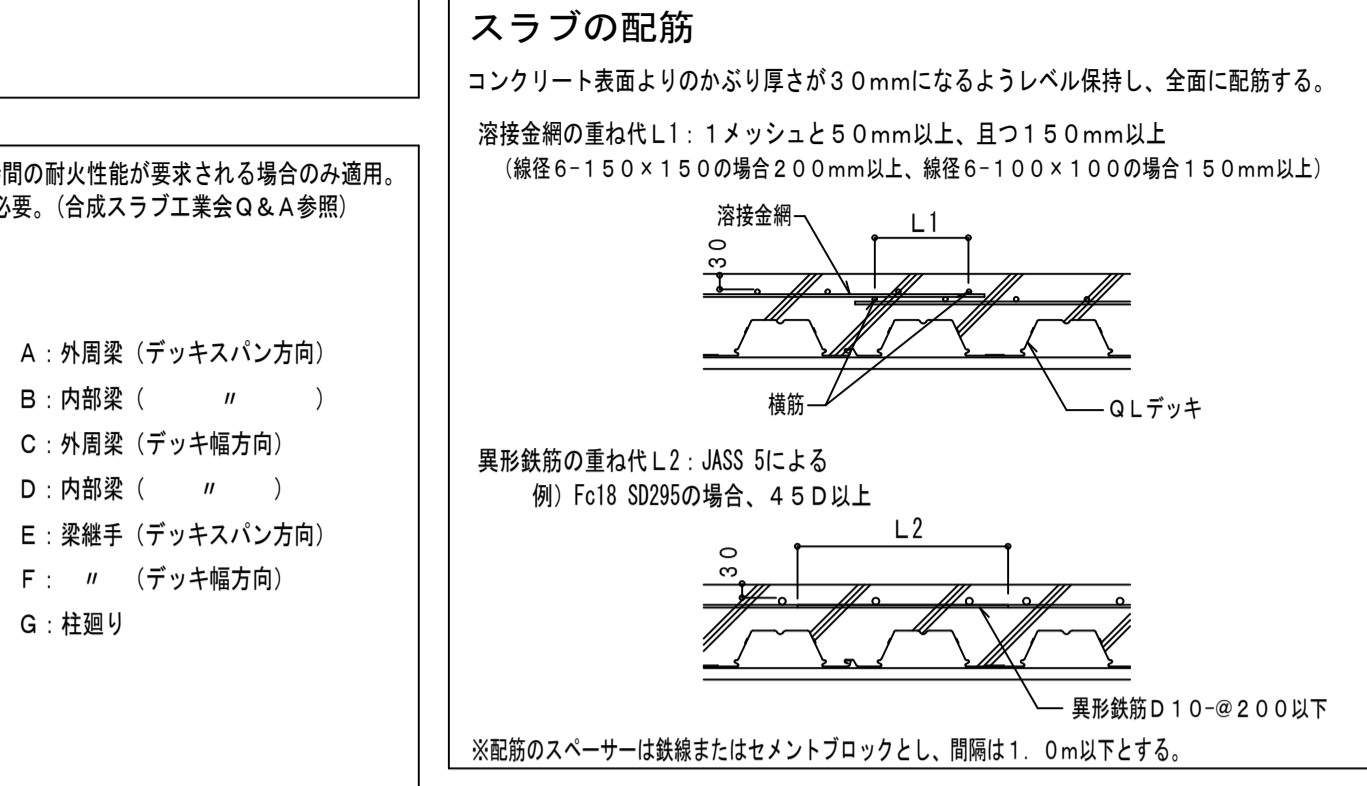


施工順序	敷込み	デッキプレートと梁との接合	検 査
墨出し	鉄骨梁の場合	1) 頭付きスタッド 施工は、JASS6「鉄骨工事」による。 デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接
敷込み仮止め溶接	1) 墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止めの溶接した後、順次適当な枚数(5~10枚)ごとに仮止めの溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの隅部が乗るように敷込む。	2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	ひび割れ防止筋敷込み
QLデッキと梁との接合	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	3) 焼抜き栓溶接 施工は、JASS6「鉄骨工事」による。 デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。	ひび割れ防止筋敷込み
ひび割れ防止筋敷込み	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	4) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 5) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)	コンクリート打設
コンクリート打設	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	6) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 7) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)	

### 標準納まり



施工順序	敷込み	デッキプレートと梁との接合	検 査
墨出し	鉄骨梁の場合	1) 頭付きスタッド 施工は、JASS6「鉄骨工事」による。 デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接
敷込み仮止め溶接	1) 墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止めの溶接した後、順次適当な枚数(5~10枚)ごとに仮止めの溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの隅部が乗るように敷込む。	2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	ひび割れ防止筋敷込み
QLデッキと梁との接合	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	3) 焼抜き栓溶接 施工は、JASS6「鉄骨工事」による。 デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。	ひび割れ防止筋敷込み
ひび割れ防止筋敷込み	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	4) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 5) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)	コンクリート打設
コンクリート打設	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	6) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 7) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)	



施工順序	敷込み	デッキプレートと梁との接合	検 査
墨出し	鉄骨梁の場合	1) 頭付きスタッド 施工は、JASS6「鉄骨工事」による。 デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接
敷込み仮止め溶接	1) 墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止めの溶接した後、順次適当な枚数(5~10枚)ごとに仮止めの溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの隅部が乗るように敷込む。	2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	ひび割れ防止筋敷込み
QLデッキと梁との接合	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	3) 焼抜き栓溶接 施工は、JASS6「鉄骨工事」による。 デッキプレートと梁とはアークスポット溶接等で接合する。	ひび割れ防止筋敷込み
ひび割れ防止筋敷込み	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	4) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 5) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)	コンクリート打設
コンクリート打設	1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接	6) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する) 7) 溶接金網の位置・かぶり厚さ30mmを確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)	



本標準図に記載のない事項は下記による。

- ・建築基準法・同施行令・国土交通省告示等
- ・日本産業規格 (JIS)
- ・鋼構造許容応力度設計基準 2019年改定版 (日本建築学会)

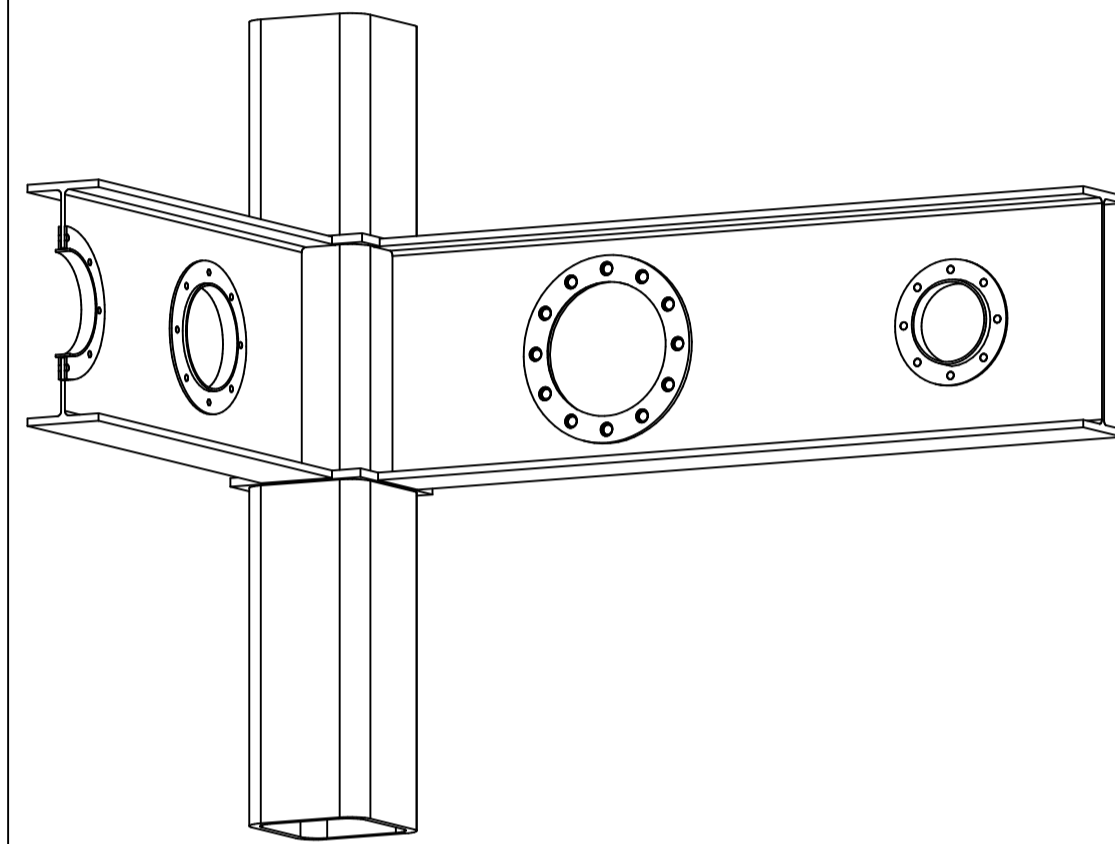
- ・建築工事標準仕様書・同解説 JASS6鉄骨工事 2018年改定版 (日本建築学会)
- ・鉄骨工事技術指針・工事現場施工編 2018年改定版 (日本建築学会)
- ・鉄骨工事技術指針・工場製作編 2018年改定版 (日本建築学会)
- ・建築構造用高性能590N/mm (SA440) 設計・溶接施工指針 2004年版 (日本鉄鋼連盟)
- ・(別紙第1) グレード別の適用範囲と別記事項 (日本鉄骨評価センター)

### 1. 工法概要

フリードーナツゼロ (以下、本工法) は、鉄骨梁のウェブ貫通孔補強工法である。

ウェブ貫通孔の両側にドーナツ状の平鋼 (FDリング) を密着させた後、FDリングに設けられた溶接用孔内と梁ウェブとをプラグ溶接し、FDリングと梁を一体化させウェブ貫通孔を補強する。

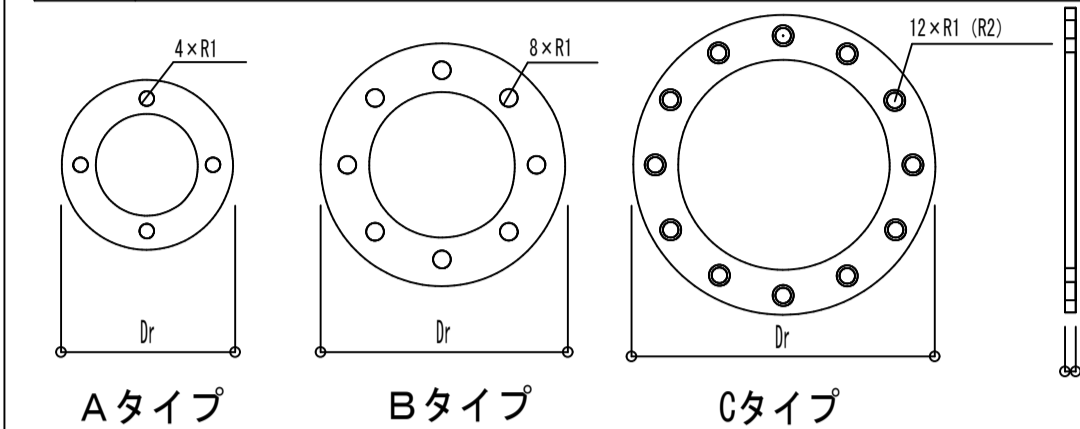
部品の構成は、呼び径φ100からφ390までのものは、めねじ加工したFDリング2枚とおねじ加工したスリーブ管 (FDスリーブ) 1枚からなりφ420以上のものについてはスリーブ管は使用せず、FDリング2枚 (もしくは1枚) で構成されている。



### 2. 構成部品

#### [2.1] FDリング

タイプ	材質	?
A・B	SM490A (JIS G 3106) (F値325N/mm <sup>2</sup> )	?
C	SM-FD490A2 MSTL-0320 (F値325N/mm <sup>2</sup> ) 建築基準法第37条第2項に基づく指定建築材料	?

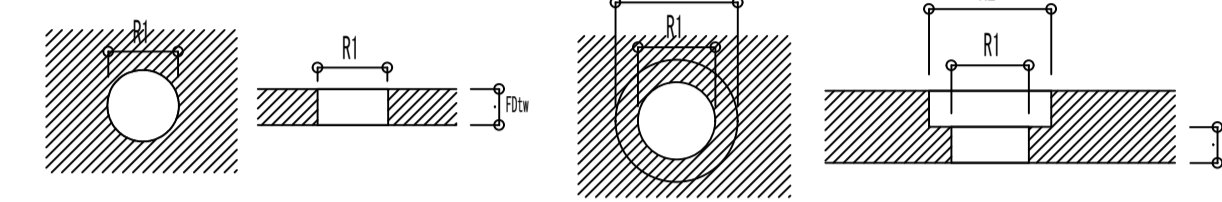


#### [2.2] FDスリーブ ※1

材質	?
STK400 (JIS G 3444) (F値235N/mm <sup>2</sup> )	?

※1 FD420N以上はFDスリーブを使用しない。

#### [2.3] プラグ溶接孔形状 (FDリング A、Bタイプ)



・フリードーナツゼロの種類と構成部品 単位 (mm)

製品記号	呼び径 d	重量 ※2 (kg)	タイプ	外径 Dr	板厚 t	枚数 (枚)	FDリング プラグ溶接用孔形状		FDスリーブ	
							孔数 × 孔径 R1 (R2)	溶接孔深さ FdTw	内径 ds	長さ Ls
FD100N	100	3.0	A	181	9	2	4 × 20	9	102	60
FD125N	125	3.8	A	207	9	2	4 × 20	9	127	60
FD150N	150	5.8	A	256	9	2	4 × 23	9	151	60
FD175N	175	7.8	B	300	9	2	8 × 23	9	175	60
FD200N	200	10	B	346	9	2	8 × 23	9	200	60
FD250N	250	13	B	396	9	2	8 × 23	9	249	60
FD300N	300	18	B	470	9	2	8 × 23	9	298	60
FD340N	340	18	B	500	9	2	8 × 23	9	337	60
FD390N	390	23	B	570	9	2	8 × 23	9	387	60
FD420N (FD420Ns)	※3 420	35 (17)	C	600	16	2	12 × 31 (42)	9	—	—
FD500N (FD500Ns)	※3 500	53 (27)	C	700	19	2	12 × 37 (50)	9	—	—
FD580N (FD580Ns)	※3 580	71 (36)	C	800	19	2	12 × 37 (50)	9	—	—
FD660N (FD660Ns)	※3 660	88 (44)	C	900	19	2	12 × 37 (50)	9	—	—
FD740N (FD740Ns)	※3 740	106 (53)	C	1000	19	2	12 × 37 (50)	9	—	—

※2 FD100N～FD390N FDリング2枚とFDスリーブ1本の合計 FD420N～FD740N FDリング2枚の合計  
※3 Cタイプ (FD420N～FD740N) は、片側補強 (FDリング1枚) と両側補強 (FDリング2枚) があり、片側補強仕様の場合は表中の○内の表記となる (重量についても同様)。

注) 本工法は、横補剛が必要な梁の横補剛を不要とするものではない。

### 4. 施工

#### [4.1] 保守管理

入荷したフリードーナツゼロは、曲がりや変形、ねじ部に傷がつかないように平坦な台の上に整理整頓して保管する。

#### [4.2] 資格

- (1) 溶接作業の品質を管理する溶接技術者は、鉄骨製作管理技術者2級またはWES2級の資格を有する経験者とする。
- (2) 溶接技能者はJIS Z 3841に規定された半自動溶接技術検定試験の種類における下向 (SA-2F、SA-3F) の資格を有する者とする。

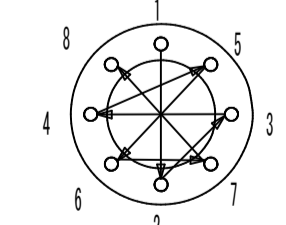
#### [4.3] 溶接材料及び溶接条件

溶接材料及び溶接条件の標準は下表の通りとする。ただし梁材がSA440材の場合はYGN21、YGN22、YGN23、YGN24を使用することが出来る。

規格	種類	ワイヤ径 (mm φ)	アーク電圧 (V)	アーク電流 (A)
JIS Z 3312	YGN11 YGN13	1.2, 1.4	28~40	280~360

#### [4.4] プラグ溶接の注意点

- (1) 溶接姿勢は下向きとする。
- (2) 溶接部は溶接に先立ち、水分、ごみ、さび、油、塗料などの溶接に支障のあるものを取り除く。
- (3) 気温-5℃未満の場合は溶接を行わない。
- (4) 予熱は梁ウェブの材質により以下の指針に準拠して行う。  
SA440: 建築構造用高性能590N/mm (SA440) 設計・溶接施工指針 2004年版 (日本鉄鋼連盟)  
TMP2鋼: (別紙第1) グレード別の適用範囲と別記事項 (日本鉄骨評価センター)  
その他: 鉄骨工事技術指針・工場製作編 (日本建築学会)
- (5) FDリングと梁ウェブの隙間 (肌すき) は1mm以下とする。
- (6) 溶接開始位置は特に定めないが、溶接順序は対角線上に行う。

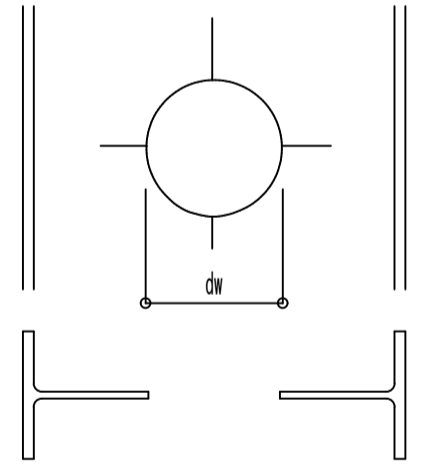


- (7) プラグ溶接は、十分な溶け込みが得られるように、初層は確実に行う。初層の十分な溶け込みを得るために、トーチ角度を20°～30°に保つようまわしながら行う。

#### [4.6] 施工手順

##### 【共通】

##### (1) 梁ウェブの孔あけ

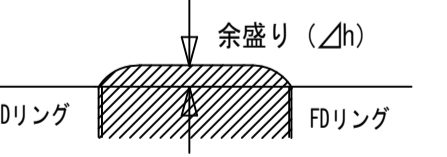


FDリングの取付け位置を確認しウェブにケガキし下孔をあける。

注) FDリングが梁フィレット部に干渉しないことを確認する。

注) 下孔まわりのバリをグラインダー等で取り除き、FDリングとの接触面の浮きさび、汚れ等を除去する。

##### (8) 余盛り高さ (Δh) は0mm<Δh≤4mmとする。



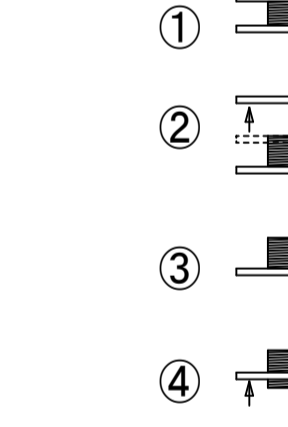
##### [4.5] 組立て溶接

- (1) 組立て溶接は原則として行わない。
- (2) 組立て溶接を施す場合は、FDリングの縁に施し、ショートボードにならないようビード長さ、脚長ピッチを確保する。プラグ溶接孔内に組立て溶接を施してはならない。

記号	下孔径 d <sub>w</sub> (mm)
FD100N	117
FD125N	142
FD150N	168
FD175N	193
FD200N	219
FD250N	270
FD300N	321
FD340N	358
FD390N	409
FD420N (s)	430
FD500N (s)	510
FD580N (s)	590
FD660N (s)	670
FD740N (s)	750
管理許容差	±2mm

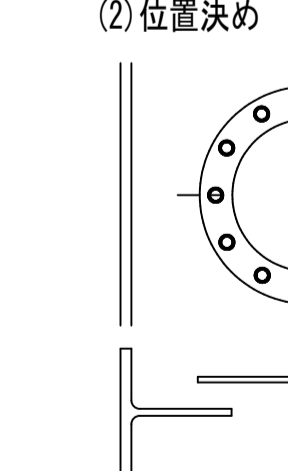
#### [FD100N～FD390N]

##### (2) 位置決め



セット組みされているFDリング・スリーブを1枚外し、もう一方のFDリングの位置を調節する。FDリングの位置は、ウェブの厚みを考慮しFDスリーブの両側の出が均等になるようにする。

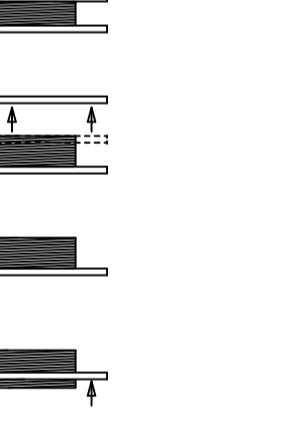
##### (3) プラグ溶接



FDリングをシャコ万等を用いて梁ウェブに密着させる。注) FDリングの溶接用孔をけがき線に合わせる。注) FDリングを1枚で、且つ連続孔を同じ向きで溶接するとはりが重む場合があります。

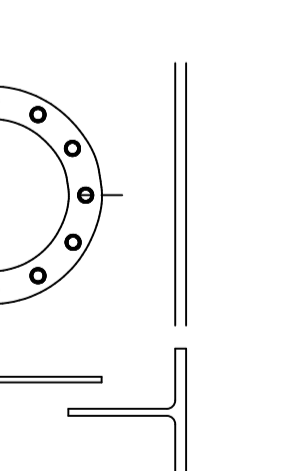
#### [FD420N～FD740N (FD420Ns～FD740Ns含む)]

##### (2) 位置決め



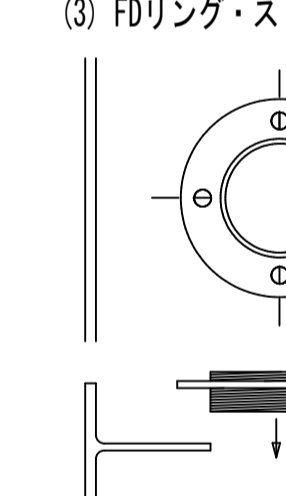
底目地表面

##### (3) プラグ溶接



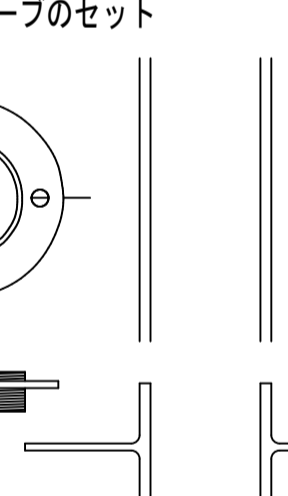
注) プラグ溶接は底目地表面より[4.4] (8) に規定する余盛りを確保するよう行う。

#### (3) FDリング・スリーブのセット



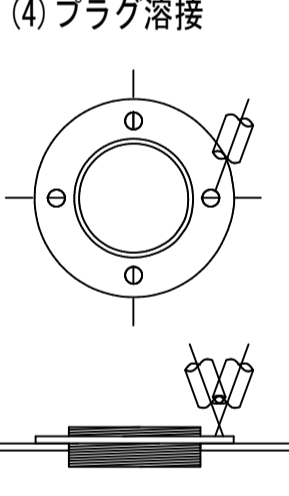
(2) で用意したFDリング・スリーブをウェブ孔に挿入する。注) FDリングの溶接用孔をけがき線に合わせる。

#### (4) プラグ溶接



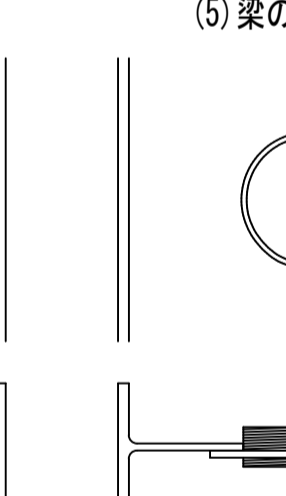
FDリングの溶接用孔 (全箇所) をプラグ溶接する。プラグ溶接はFDリングの表面より [4.4] (8) に規定する余盛りを確保するよう行う。

#### (5) 梁の反転



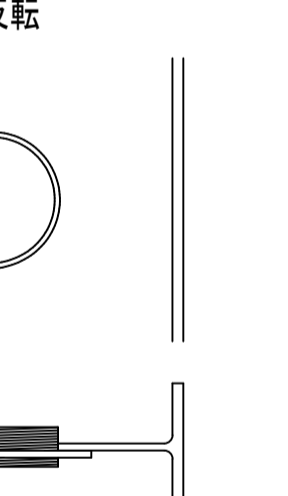
梁を反転する。

#### (6) FDリングのセット



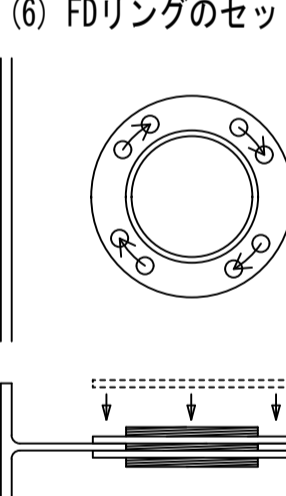
(2) で取り外したFDリングをFDスリーブに螺合し、締め付ける。溶接用孔を利用して追い締めする。

#### (7) プラグ溶接



(4) に同じ。

#### (8) 検査・完成



スラグ・スパッタを除去する。目視にて外観検査を行う。



# ハイベースNEO工法設計施工標準 (ハイベースNEO工法は、S造及びCFT造に適用)

2021/8

大臣認定 MSL-0404.0180 (Gタイプ用ベースプレート)  
MBLT-0042~0046 (アンカー用ボルトセット)  
BCJ評定-ST0058 (Gタイプ)  
BCJ評定-ST0059 (エコタイプ)

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、およびハイベースNEO工法設計ハンドブックに準拠する。

## 設計

### 1. 材質

(1) ベースプレート・アンカーボルト・ナット・座金・定着板

エコタイプ (EB型式、EM型式、EH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	エコナット	ナット	座金	定着板
規格	JIS G3136	TMCP鋼	HAB (大臣認定取得材)	大臣認定取得材	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106
ねじの種類	—	—	メートル並目	メートル並目	メートル並目	—
備考	SN490B 板厚40mm以下	SN490相当 板厚40mm超	降伏比 70%以下	—	強度区分5	SM490A

エコタイプのベースプレート上ナットはエコナットを使用する。

Gタイプ (GB型式、GM型式、GH型式)

	ベースプレート	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490b HCW490st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	—	—	メートル並目	—	—
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下	—	SM490A	SS400

※1 国土交通大臣認定 (MSLT-0404.0180) ※2 国土交通大臣認定 (MBLT-0042~0046)  
※3 M72は細目ねじ ※4 建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定を取得した材料を使用

(2) ベースプレート下面のモルタル

後詰めモルタル ハイベース工法無収縮モルタルNX-2000、又はクイック3およびこれと同等以上の無収縮性モルタル ※ センクシアが供給するものに限る

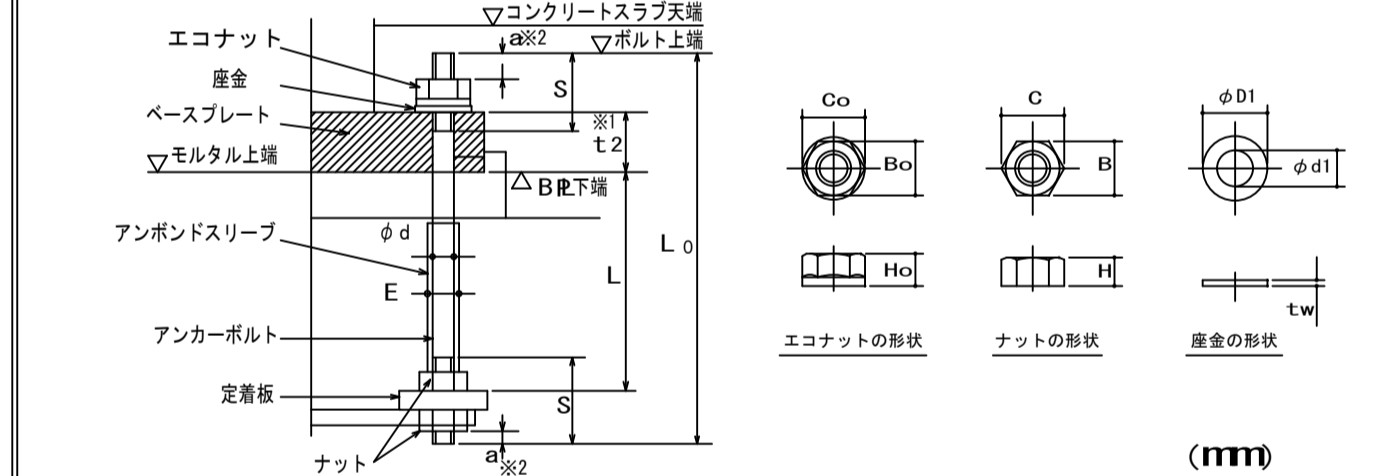
中心塗り部分モルタル ○無収縮モルタルパッド用又は普通モルタル (NX-2000及びクイック3は使用不可。)  
○強度はこれに接するコンクリートの強度以上

(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート ○設計基準強度は、 $F_c = 18 \sim 36 \text{ N/mm}^2$
鉄筋	JIS G 3112 「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼
柱形	ヘリあき量は、ベースプレート外形寸法の0.1倍以上確保しなければならない。

### 2. アンカーボルトのセット寸法

エコタイプ用アンカーボルト部品



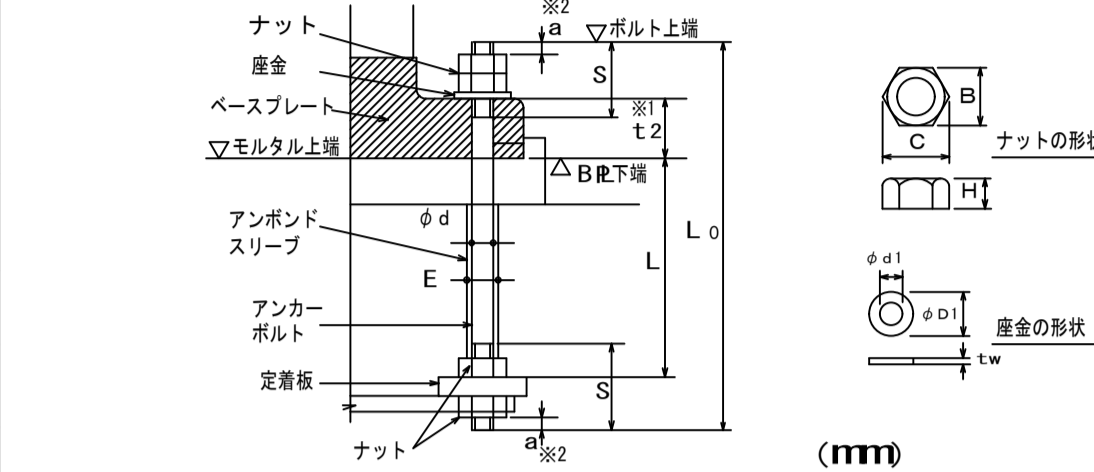
ねじの呼び	アンカーボルト		エコナット	ナット		座金										
	軸径	長さ		高さ	対角距離	厚さ	内径									
M24	24	3	105	10	480	645	29	22	46	53	19	36	42	6	25	56
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	60			
M36	36	4	130	16	720	925	41	33	55	64	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	38	65	75	34	65	75	9	43	78

※1 t<sub>2</sub> はベースプレート台座厚さを示し、ハイベースNEO型式によって変わります。  
※2 a寸法は設置誤差を考慮した設計時の最小寸法です。  
※3 上段はEB型式及びEM型式のアンカーボルト4本タイプ、下段はそれ以外のエコタイプの場合の寸法です。

### 注意

・エコタイプのアンカーボルトはシングルナットとしておきますので、ゆるみ止め処置としてコンクリートスラブで被覆してください。  
・コンクリートによる被覆を行わない場合は、二重ナット等のゆるみ止め処置が必要です。  
・その場合、せん断耐力が変わる可能性がありますのでセンクシアにご相談ください。  
・アンカーボルト上部には必ずエコナットを使用してください。通常のナットでは所定の性能が発揮できません。

Gタイプ用アンカーボルト部品



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボルトスリーブ	ナット		座金							
	軸径	長さ		高さ	対角距離	厚さ	内径						
M24	24	3	105	10	480	645	29	19	36	42	6	25	44
M30	30	3.5	130	13	600	800	35	24	46	53	6	31	56
M36	36	4	130	16	720	925	41	29	55	64	6	37	66
M42	42	4.5	155	18	840	1080	48	34	65	75	9	43	78
M48	48	5	180	22	960	1200	54	38	75	87	9	50	92
M56	56	5.5	210	24	1120	1420	62	45	85	98	9	58	105
M64	64	6	230	28	1280	1600	70	51	95	110	12	66	115
M72	72	6	250	30	1440	1800	79	58	105	121	12	74	125

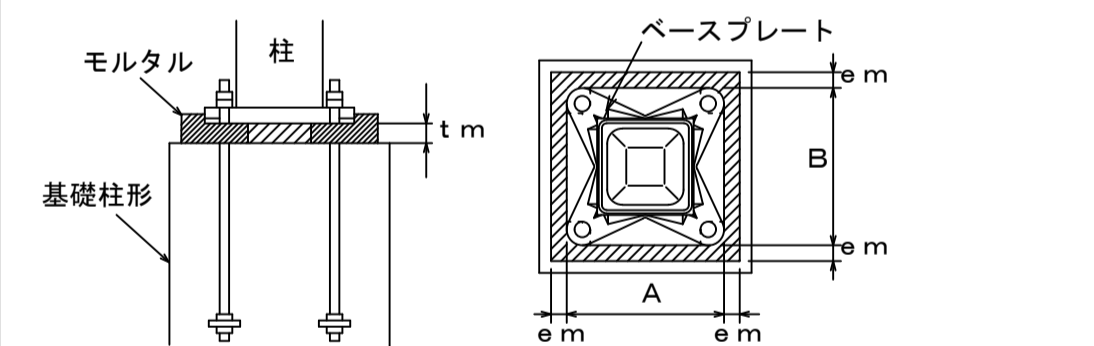
### 注意

・Gタイプのアンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。  
・一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置が必要です。  
・(一重ナットとする場合は、センクシアにご相談ください。)

ベースプレートのアンカーボルト孔径 (mm)									
ねじの呼び	M24	M30	M36	M42	M48	M56	M64	M72	
エコタイプ孔径	38	44	50	57	-	-	-	-	
Gタイプ孔径	-	38	45	53	61	70	79	87	

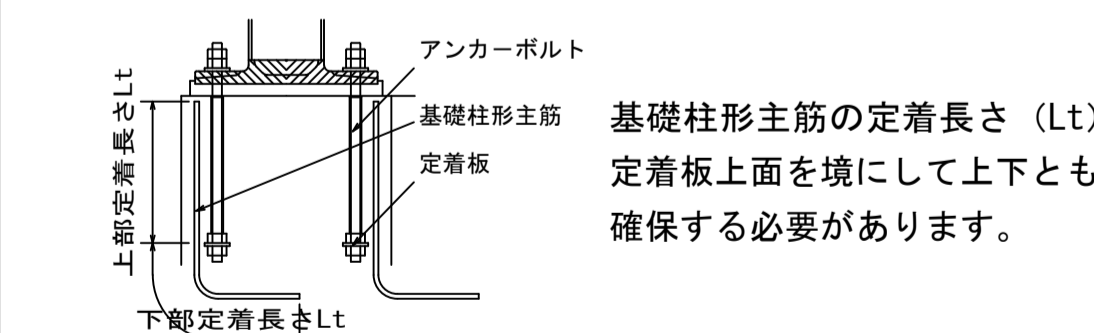


### 3. ベースプレート下面モルタルの標準寸法



各部名称	寸法	備考
中心塗り部分モルタルの厚さ (t <sub>m</sub> )	標準寸法 t <sub>m</sub> =50mm	許容範囲 30 ≤ t <sub>m</sub> ≤ 70mm
ベースプレート周辺のモルタル幅 (e <sub>m</sub> )	e <sub>m</sub> ≥ 30mm	許容範囲 e <sub>m</sub> ≥ 25mm

### 4. 基礎柱形主筋の定着長さ (最小値)



基礎柱形主筋の定着長さ (L<sub>t</sub>) は、定着板上面を境にして上下とも確保する必要があります。

## 工場加工

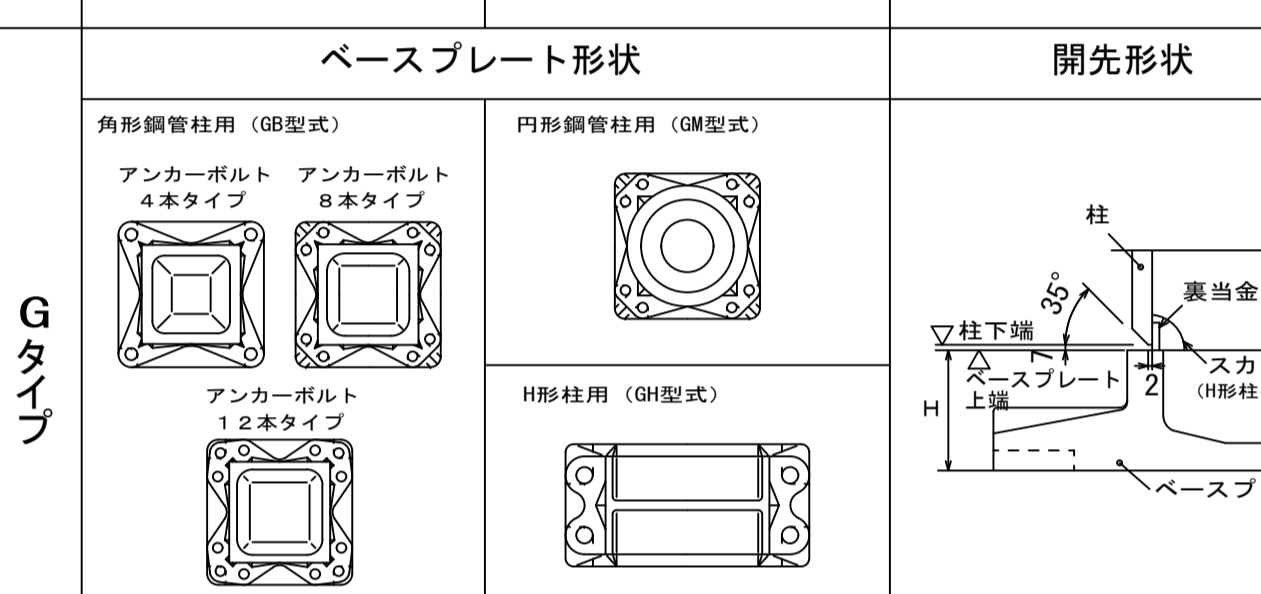
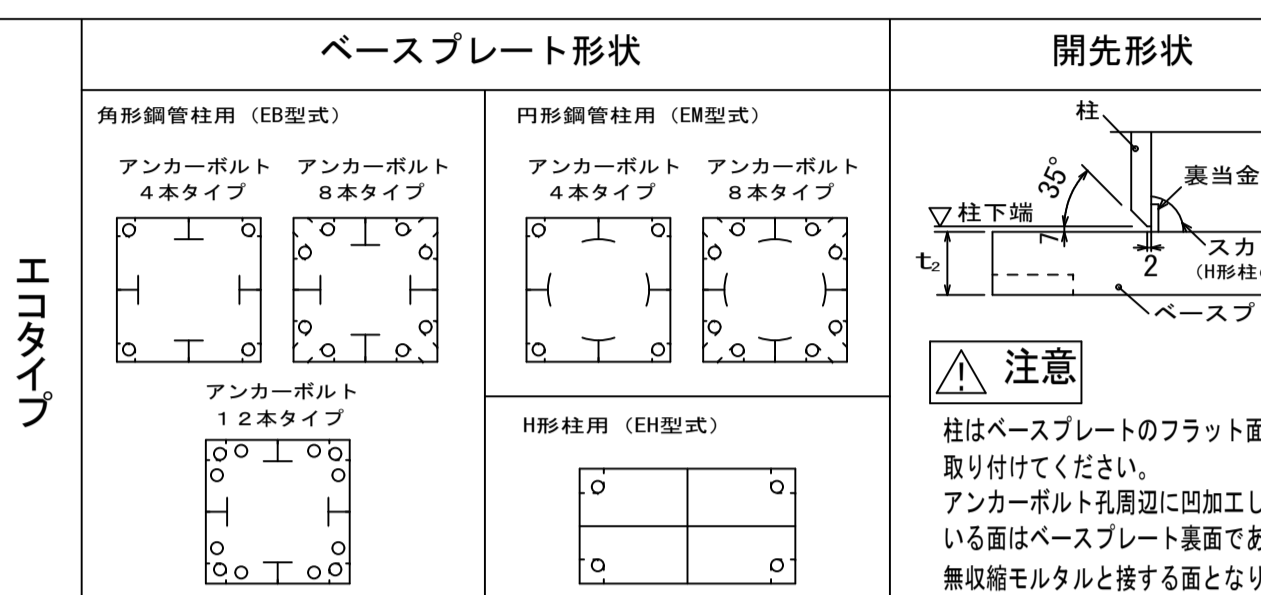
### 1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系 490 N/mm <sup>2</sup> 級高張力鋼用 (JIS Z3211、旧JIS Z3212) 相当以上
ガスシールドアーク溶接	軟鋼及び 490 N/mm <sup>2</sup> 級高張力鋼用溶接用ソリッドワイヤ (JIS Z3312) 相当以上

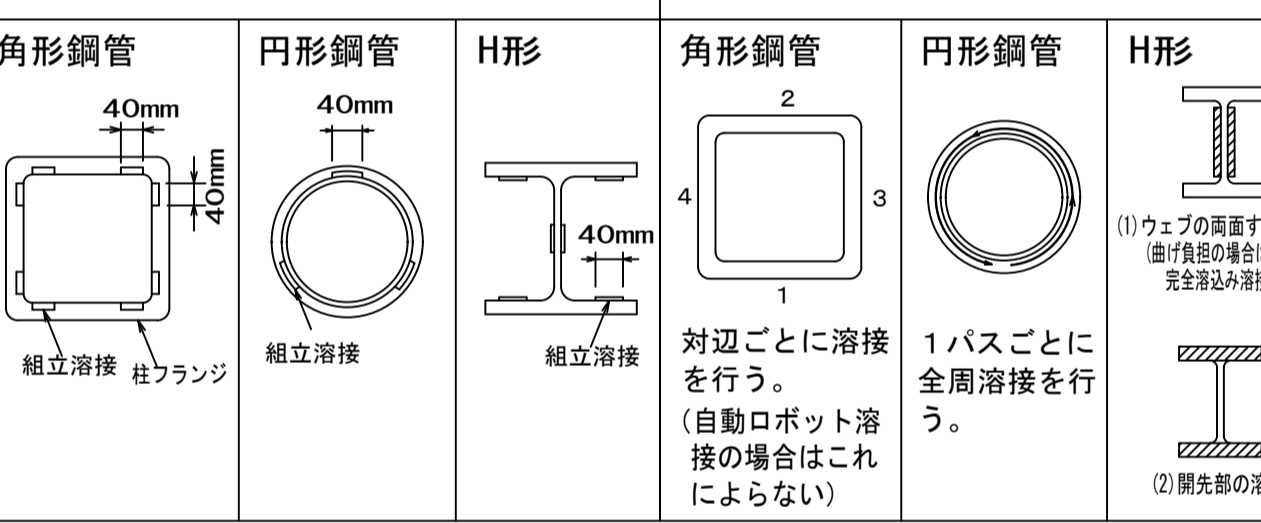
※高強度柱材を用いる場合、JASS6等の指針に従い柱とハイベースの強度ランクの高い方に適した溶接材料を使用する。

### 2. ベースプレートの鉄骨柱への取付け (柱端部に開先を設ける)

※ 柱とベースプレートの溶接は完全溶込み溶接  
開先はMC-TL-1B、GC-TL-1Bによる ※開先形状は参考

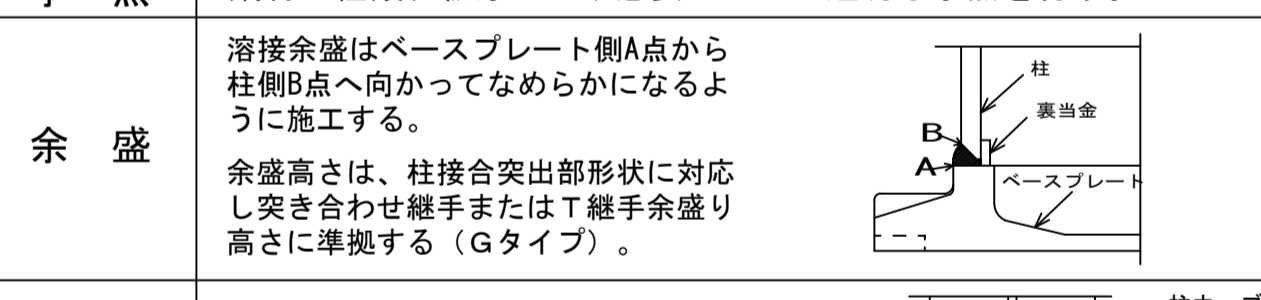


### 3. 組立溶接



### 5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。



### 6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査による。  
不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。  
(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

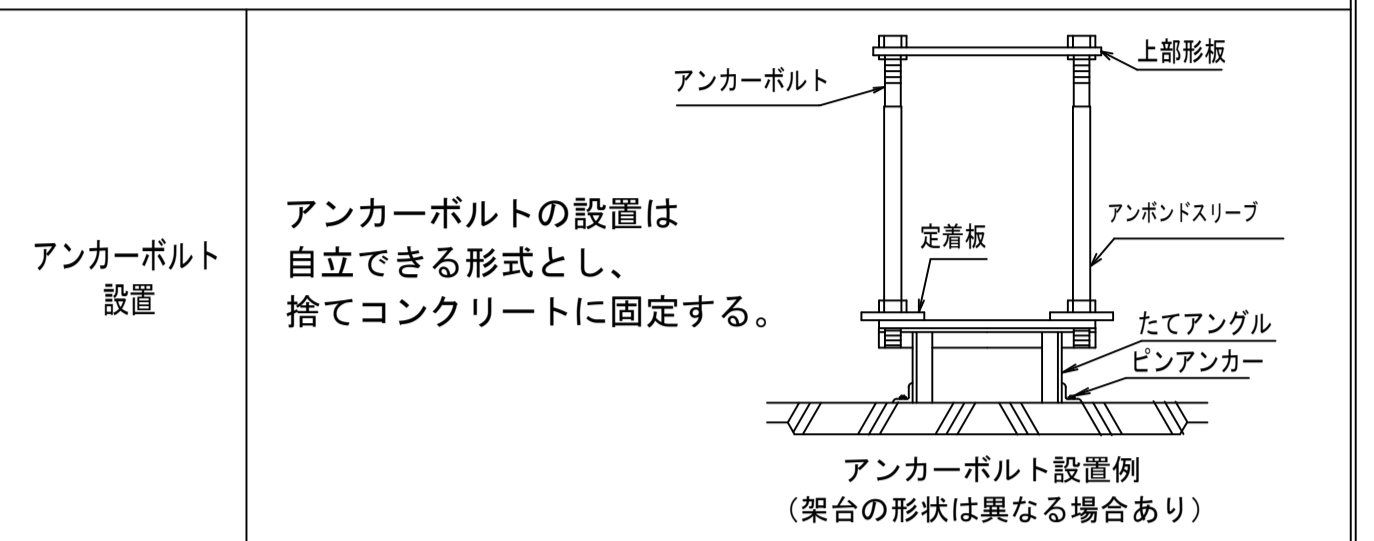
### 注意

- アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、これらの施工は、センクシアが定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務付けられています。)
- アンカーボルト及びナットは加熱、溶接、加工は絶対に行わないでください。
- 設置後のアンカーボルトのねじ部は打ちきざりやコンクリートが付着しないようねじ部の保護養生をしてください。
- 建て入れ直しのワイヤをアンカーボルトにとらないでください。
- 本資料以外の施工方法で行った場合、ハイベースNEOの性能が発揮できなくなります。

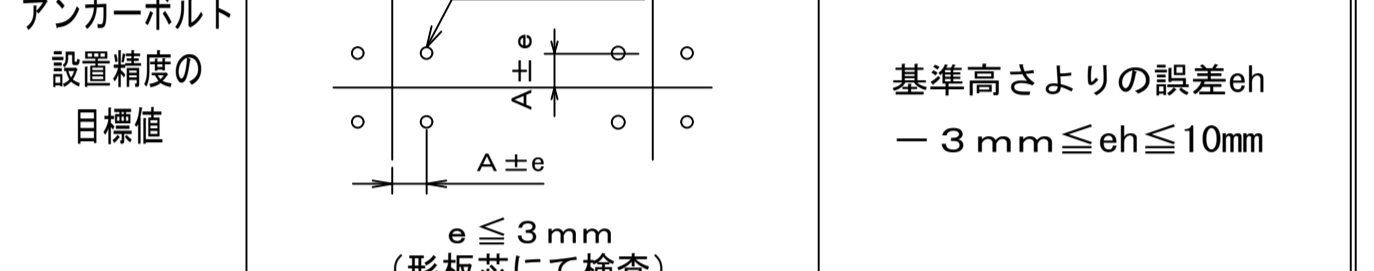
## 現場施工

(注) : センクシアの担当範囲

- 捨てコンクリート打設  
柱脚部の捨てコンクリートの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。
- 墨出し
- アンカーボルト搬入 (#)
- アンカーボルト据付 (#)



アンカーボルト設置は自立できる形式とし、捨てコンクリートに固定する。

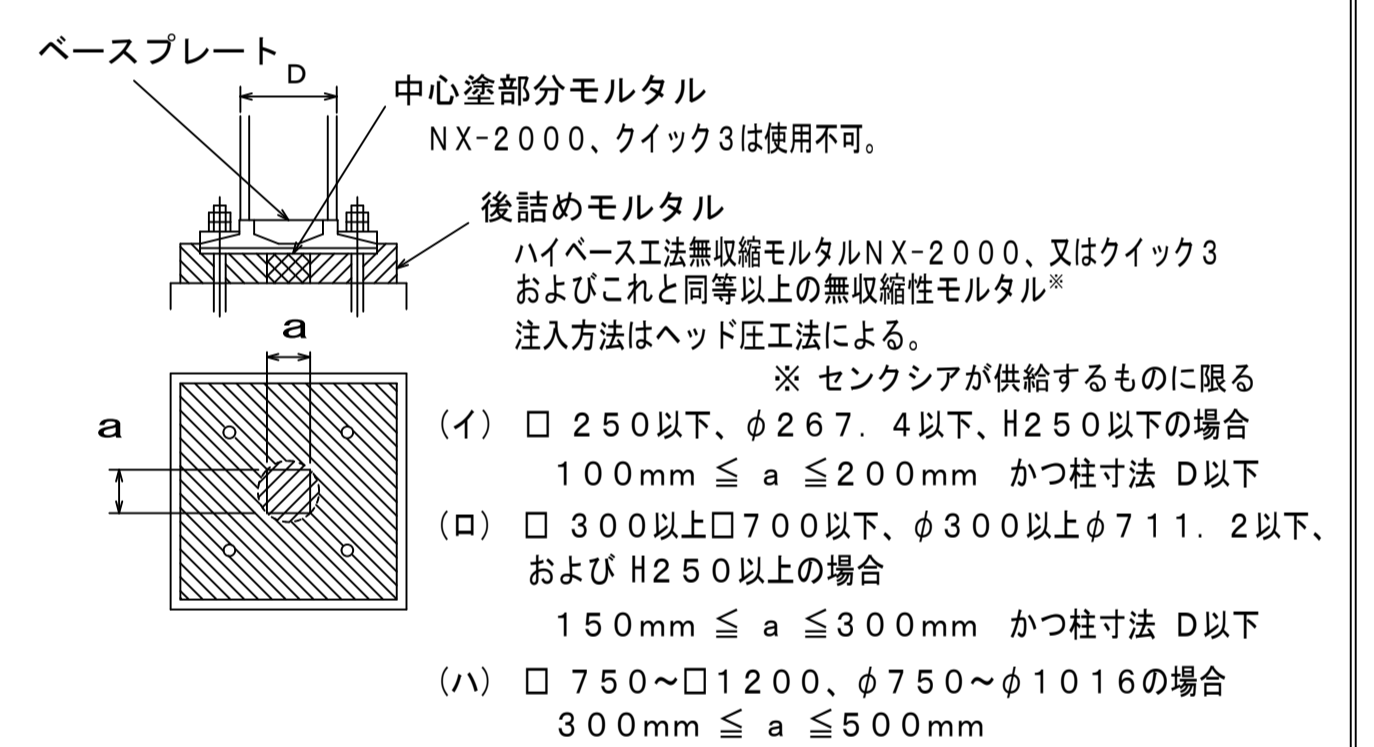


### 5. 鉄筋配筋・型枠の立込み

### 6. 基礎コンクリート打設

基礎柱形上面の目荒らし・水洗いを行ってください。

### 7. 中心塗り部分モルタル施工



中心塗り部分モルタル及び後詰めモルタルの養生  
基礎、基礎ばりコンクリートの強度以上となるよう養生期間を確保すること。

EB, GB, EM, GM, EH型式 GH型式

8. 鉄骨建方  
アンカーボルト締付  
アンカーボルトは隙間がないよう確実に締め付けを行う。

9. モルタル注入枠設置 (#)  
後詰めモルタル充填 (#)

10. アンカーボルト締付 (#)  
予備締め  
マーキング  
ナット回転法による本締め  
(30°回転、許容差 ±10°)

11. モルタル注入枠取り外し

施工完了後、ハイベースNEO工法のチェックシートに工事記録を記載する。

## センクシア株式会社

本社 TEL 03-4214-1932  
札幌 TEL 011-708-1177  
東北 TEL 022-213-5595

URL <https://www.senqcia.co.jp/>  
関東 TEL 027-322-9411  
中部 TEL 052-582-3356  
北陸 TEL 076-233-5260

関西 TEL 06-6395-2133  
中国国 TEL 082-240-1630  
九州 TEL 092-452-0341



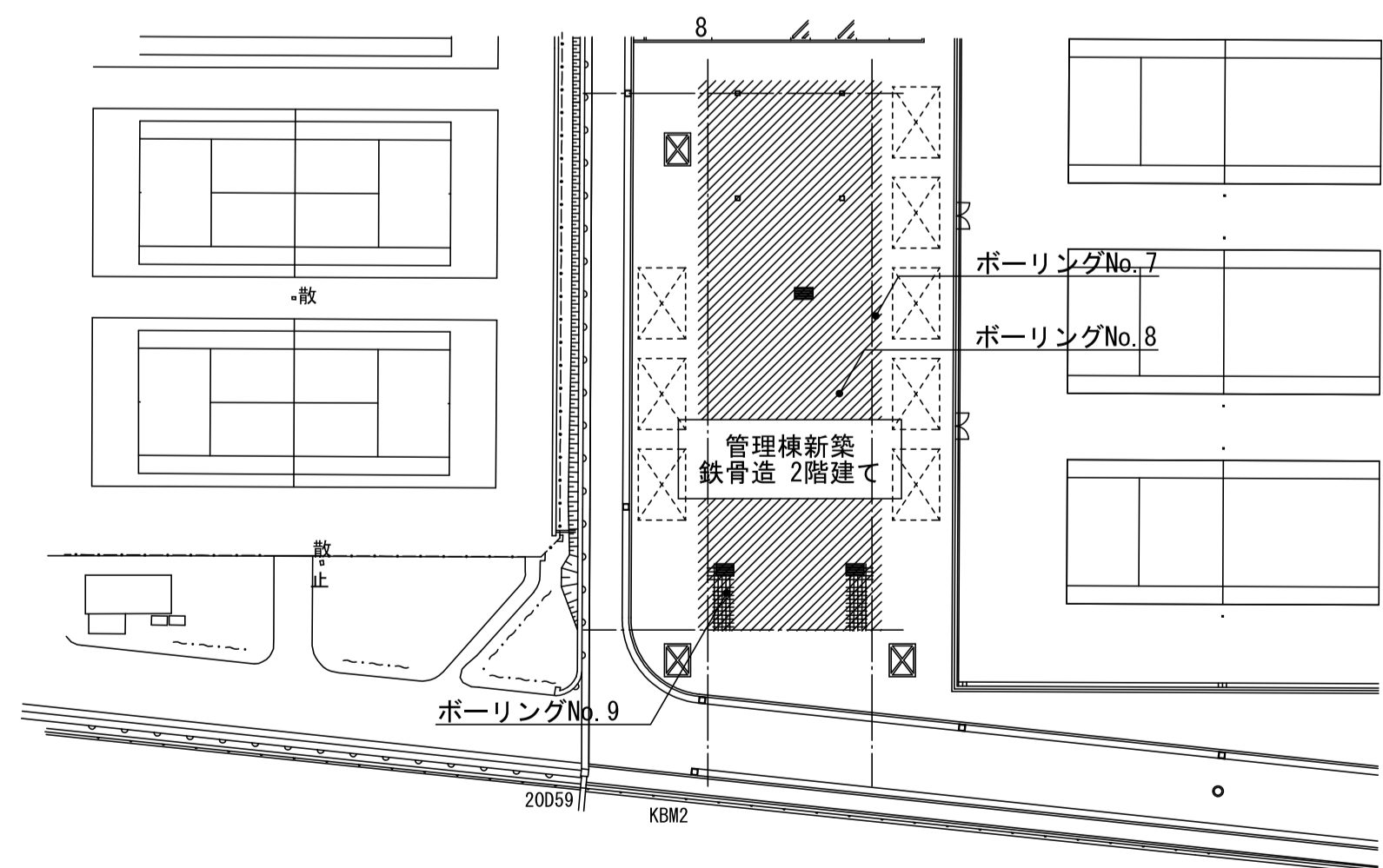
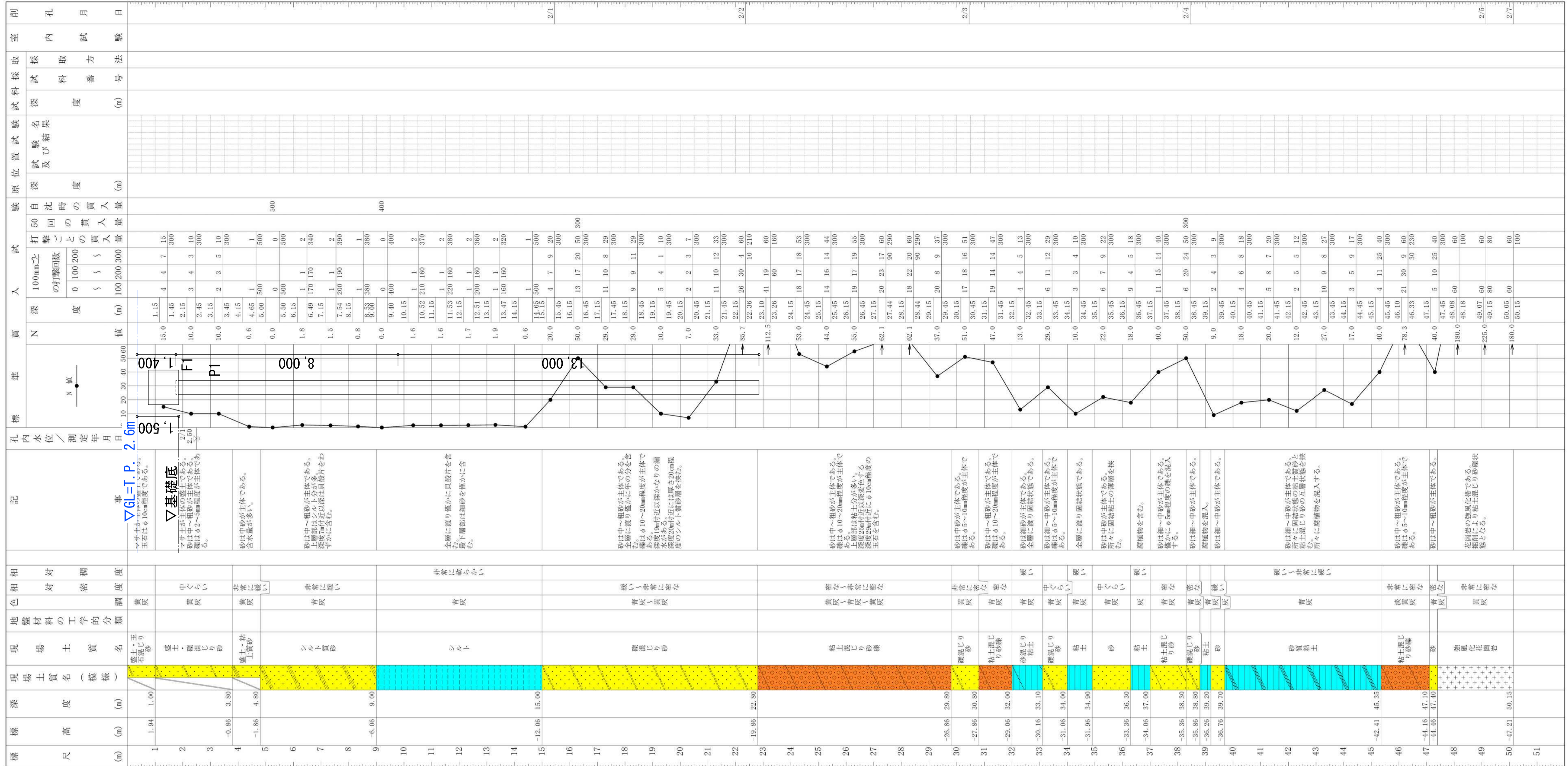




土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 福山市竹ヶ端運動公園庭球場整備他新築工事に伴う地質調査委託
事業名または工事名 調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

Table with project details including location (広島県福山市水呑町地内), investigation period (令和04年02月01日~令和04年02月07日), and contact information for Kurumada Architect & Associates.



配置図 1/500
建物名 : 計画建物名を示す。

1級建築士 (大臣) 第236981号 渡邊 桂司
1級建築士 (大臣) 第248850号 構造設計1級建築士 第4097号 浜口 修也

株式会社 車田建築設計事務所
KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES.
1級建築士事務所 登録 22(1)第0687号

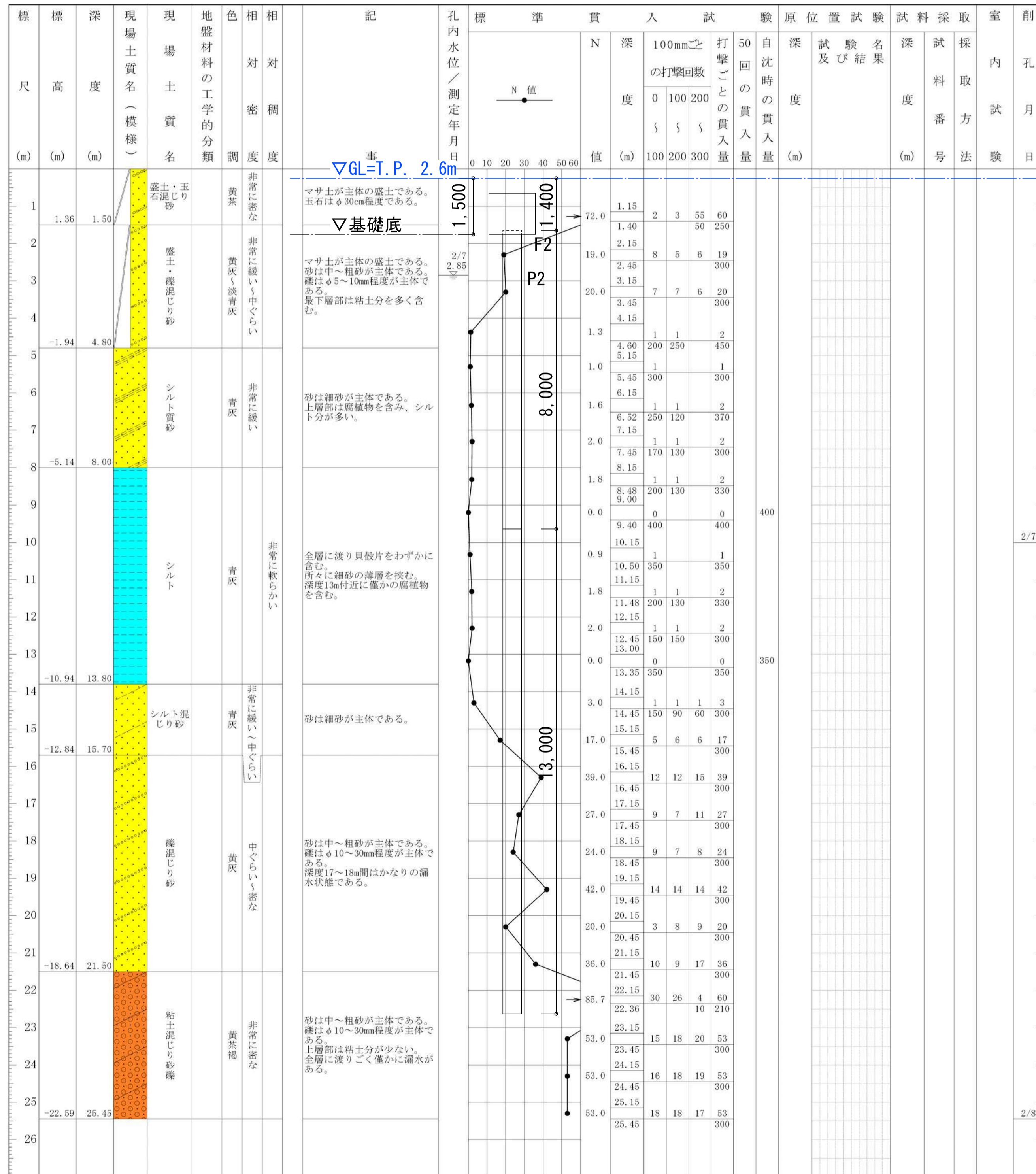
福山市建設局建築部営繕課
2023年 3月

工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備他新築工事
【管理棟】ボーリングデータ1
図面No. S-18

土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 福山市竹ヶ端運動公園庭球場屋根他新築工事に伴う地質調査委託  
 事業名または工事名  
 調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

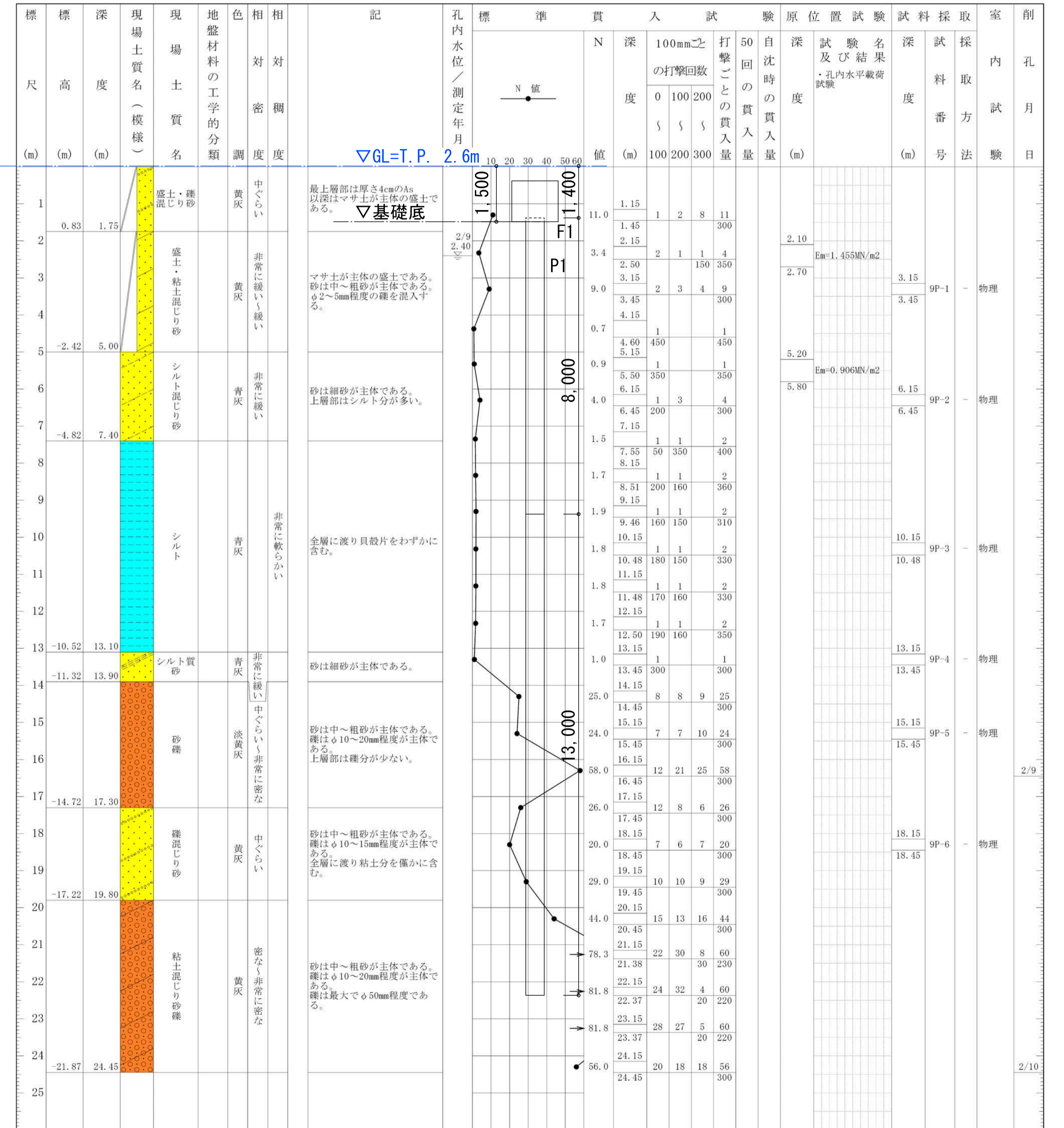
ボーリング名	No.7	調査位置	広島県福山市水呑町地内	北緯	34° 26' 39.30"
発注機関	広島県福山市	調査期間	令和4年02月07日～令和4年02月08日	東経	133° 23' 29.44"
調査業者名	株式会社 都市総合設計事務所 電話(084-948-0788)	管理者	橋本 浩 地質調査技師 第15311号	照査技術者	岡山 茂雄
孔口標高	T.P. 2.86 m	角	方位	コ	ア
総削孔長	25.45 m	度	位	土屋 研 地質調査技師 第07295号	ボーリン グ責任者 高橋 豊 地質調査技師 第05920号
		使用機種	東邦地下工機製 D-0型		
		エンジン	ヤンマー製 TF90M	ポンプ 東邦地下工機製 BG-3型	



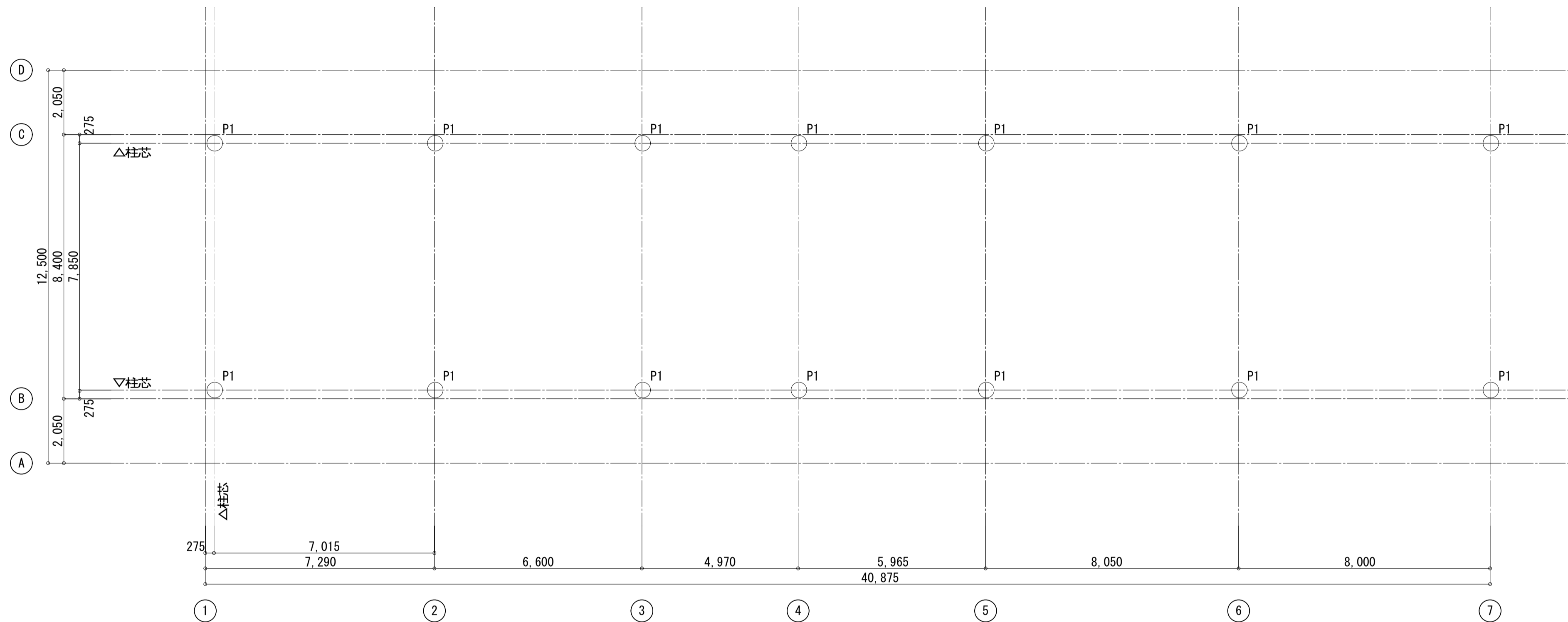
土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調査名 福山市竹ヶ端運動公園庭球場屋根他新築工事に伴う地質調査委託  
 事業名または工事名  
 調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.9	調査位置	広島県福山市水呑町地内	北緯	34° 26' 38.96"
発注機関	広島県福山市	調査期間	令和4年02月09日～令和4年02月10日	東経	133° 23' 28.65"
調査業者名	株式会社 都市総合設計事務所 電話(084-948-0788)	管理者	橋本 浩 地質調査技師 第15311号	照査技術者	岡山 茂雄
孔口標高	T.P. 2.58 m	角	方位	コ	ア
総削孔長	24.45 m	度	位	土屋 研 地質調査技師 第07295号	ボーリン グ責任者 高橋 豊 地質調査技師 第05920号
		使用機種	東邦地下工機製 D-0型		
		エンジン	ヤンマー製 TF90M	ポンプ 東邦地下工機製 BG-3型	



1級建築士 (大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
 1級建築士 (大臣) 第248850号  
 構造設計1級建築士 第 4097号 浜口 修也



杭伏図 1/100

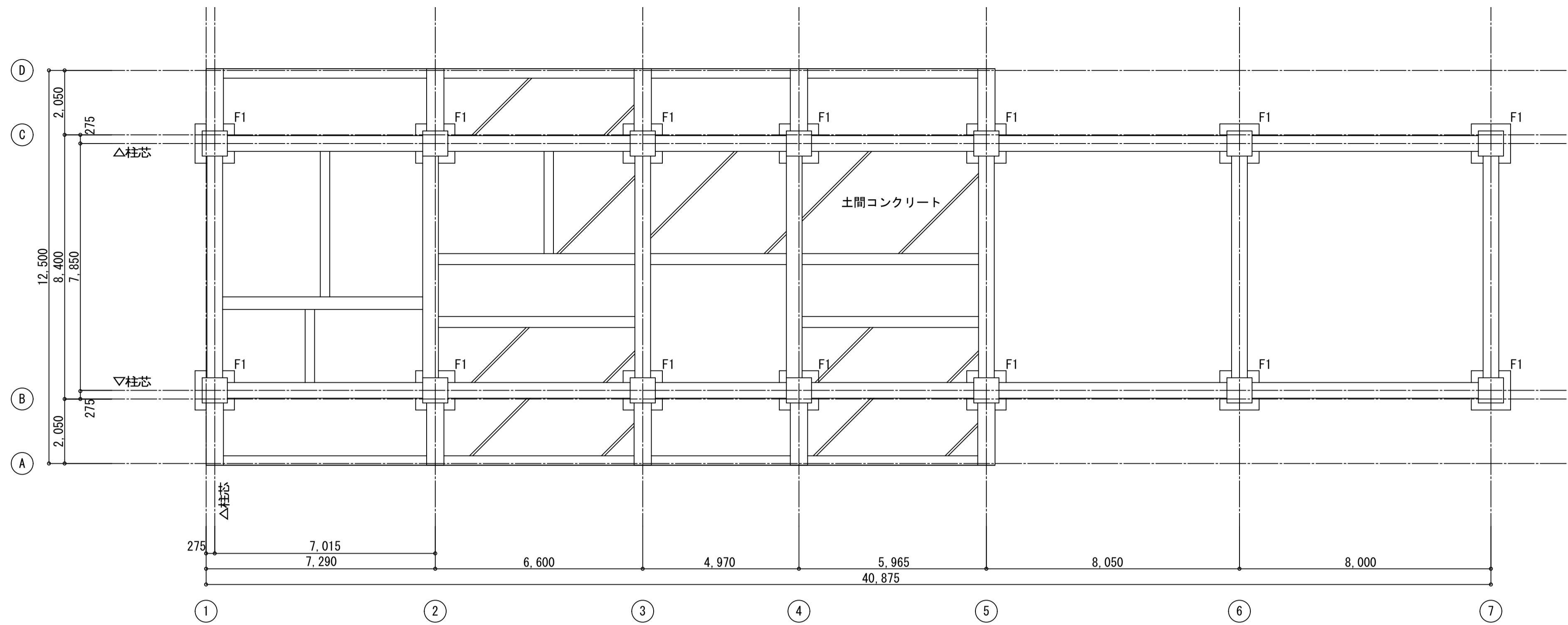
特記無き限り下記による  
 杭頭レベルはGL-1.400とする。

杭リスト

杭工法：プレボーリング拡大根固め工法（大臣認定工法）  
 下表支持力が確保できる仕様とすること。  
 （Smart-MAGNUM工法同等）  
 また、根固め液は認定基準に基づくメーカー仕様とする。

杭符号	記号	杭(区間)	杭径(mm)・杭種	杭長(m)	杭全長(m)	杭天端設計GL-(m)	拡大掘削部径(mm)	根固め部径(mm) (拡大比ωp)	拡翼掘削部長(m)	杭下拡大根固め部長さLL(m)	長期支持力	本数	杭先端深さ	備考	杭頭補強筋 (パイルスタット工法) (KSW490材)	
															本数・径	定着長さ
P1	○	上杭	JP-CPRC φ500 (IV種105N)	8.0	21.0	1.4	650	650 (1.18)	-	0.50	1800 kN/本	14本	GL-22.4m	PJ継手	12-D25	40d
		下杭	JP-NPH φ500-400-500 (A種105N)	13.0												

1級建築士（大臣） 第236981号 渡邊 桂司  
 1級建築士（大臣） 第248850号  
 構造設計1級建築士 第 4097号 浜口 修也

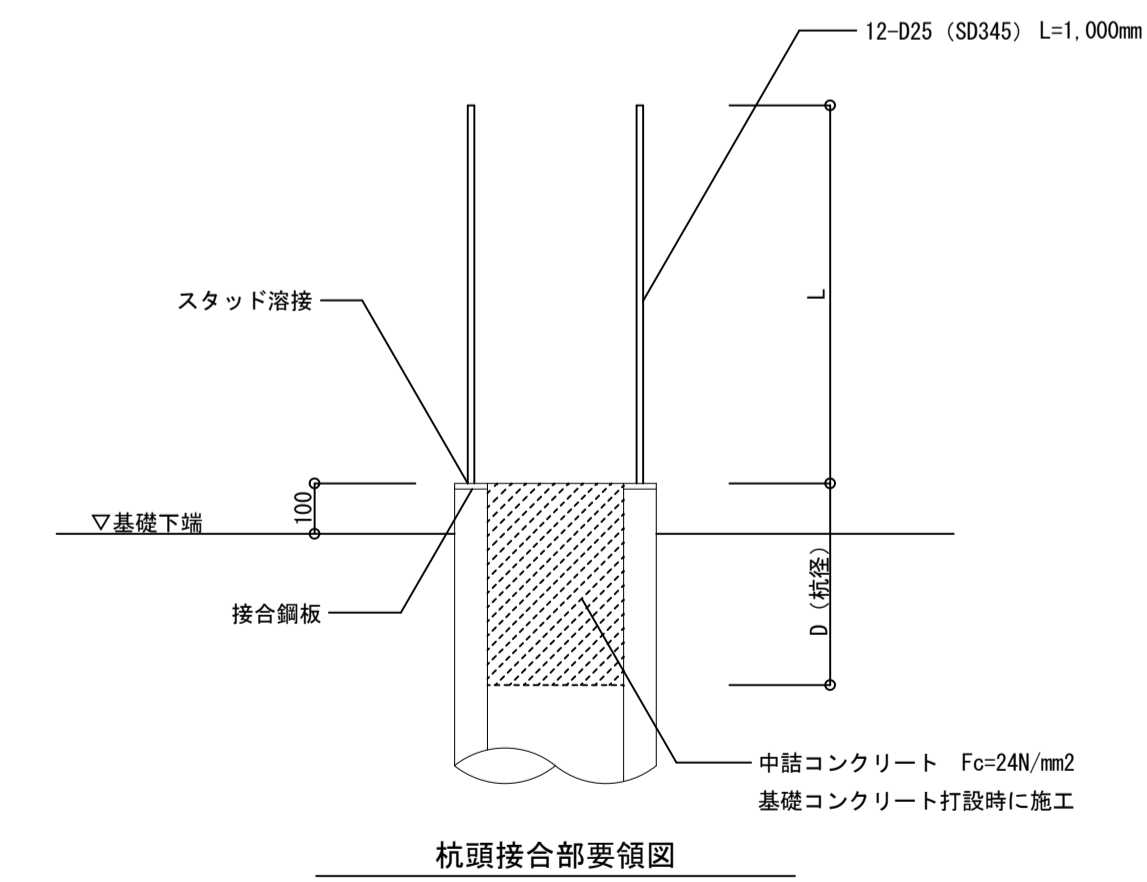
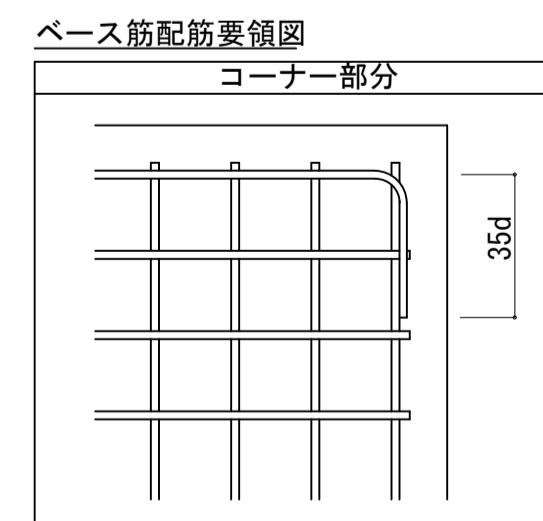
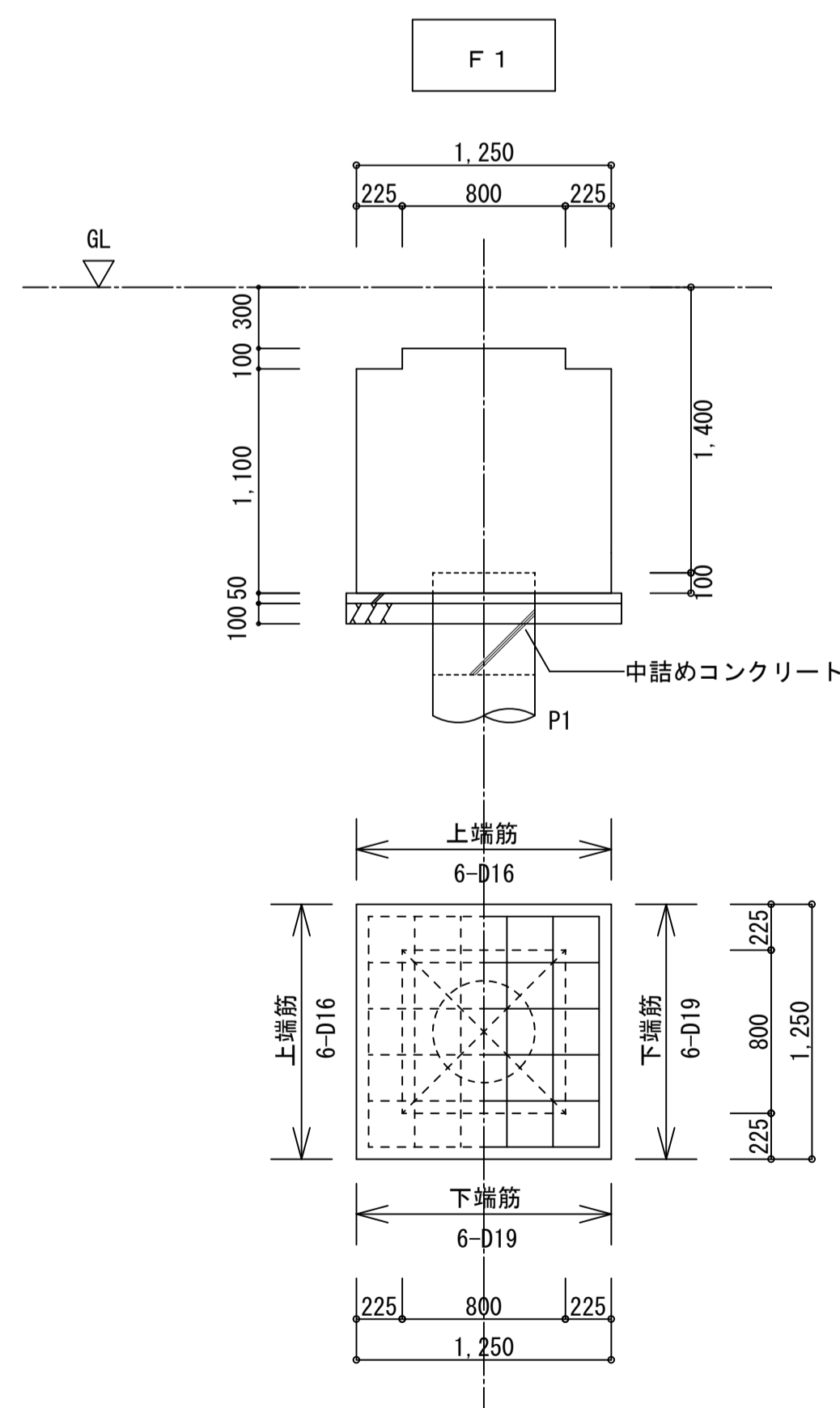


基礎伏図 1/100

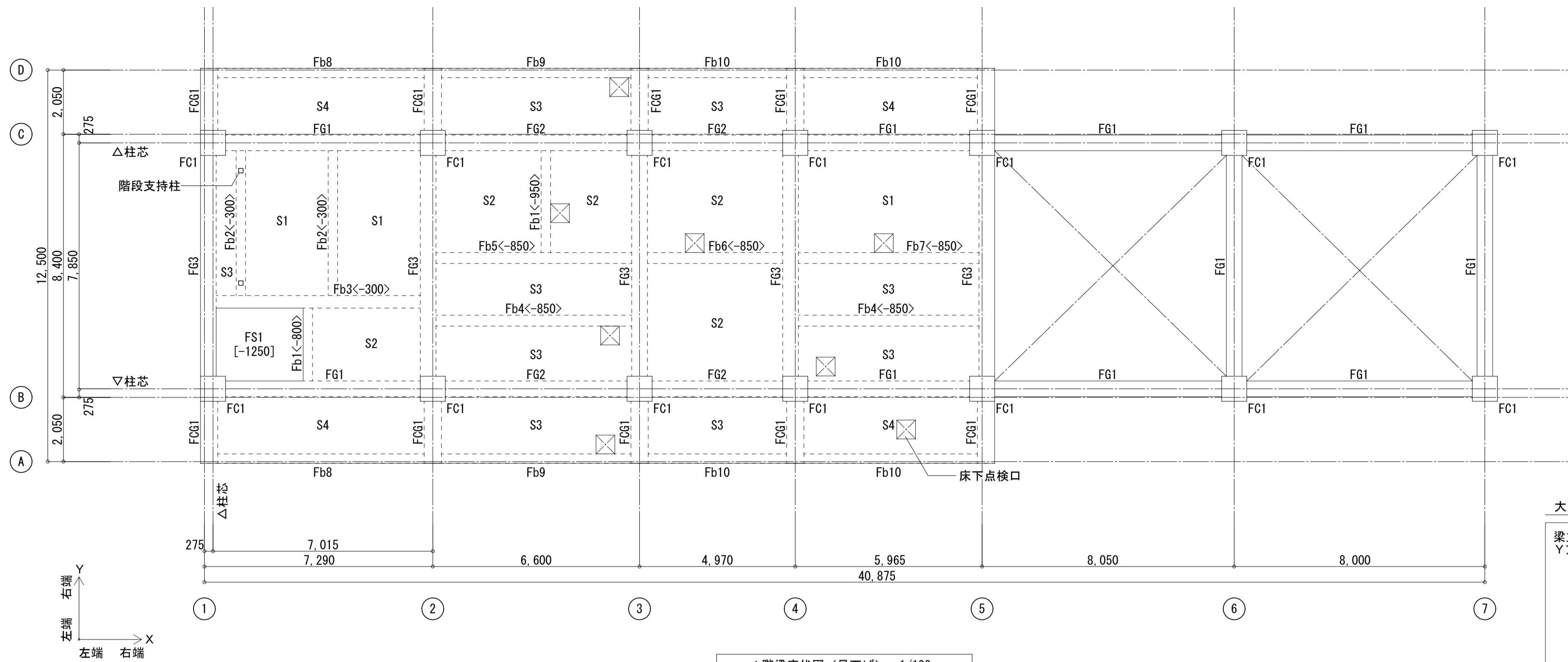
スラブリスト

符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向
			全 域	全 域
土間 コンクリート	150	上端筋	D10@200	D10@200
		下端筋	D10@200	D10@200

特記無き限り下記による  
 基礎天レベルはGL-400とする。  
 土間天レベルはGL-1050 (1FL-1650)とする。

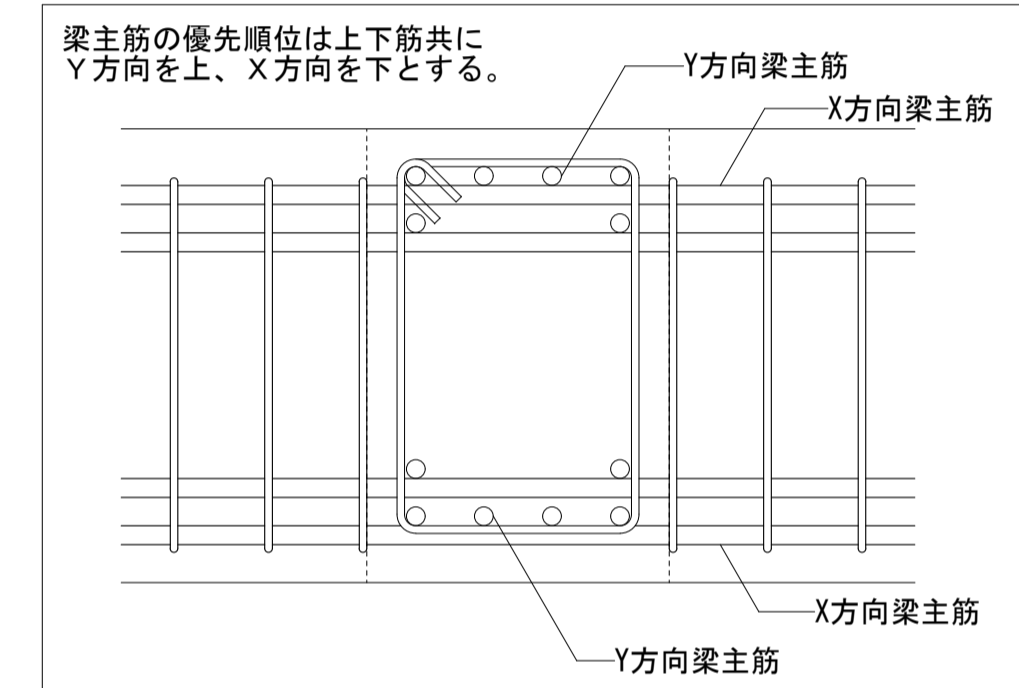


1級建築士 (大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
 1級建築士 (大臣) 第248850号  
 構造設計 1級建築士 第 4097号 浜口 修也

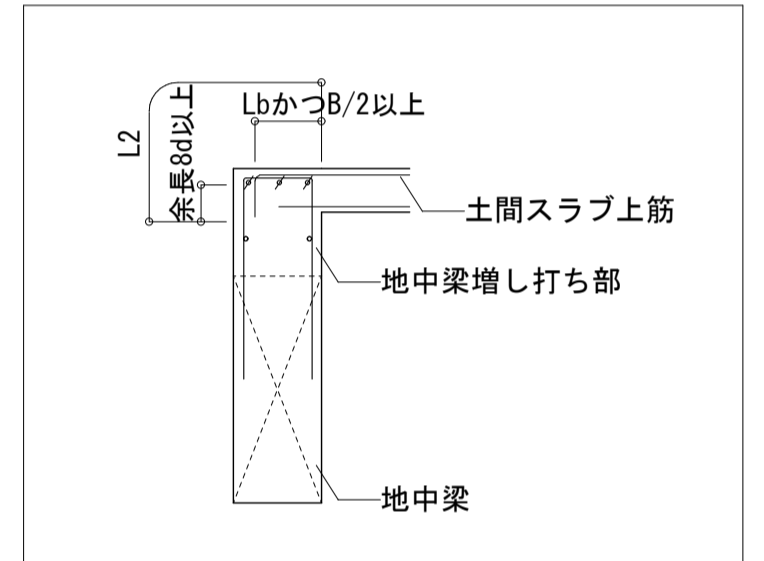


特記無き限り下記による  
 梁天端レベルは 1FL-900 とする。  
 < >内数値は、1FLからの梁天端レベルを示す。  
 スラブ天端レベルは 1FL-仕上厚さ とする。  
 [ ]内数値は、1FLからのスラブ天端レベルを示す。  
 スラブは土間スラブとする。  
 ※土間スラブの鉄筋を地中梁に定着させる。  
 ※土間スラブの撤去は不可である。  
 基礎柱 FC1 は柱脚配置図による。

大梁主筋配筋要領



土間スラブと地中梁の取合い部補強要領



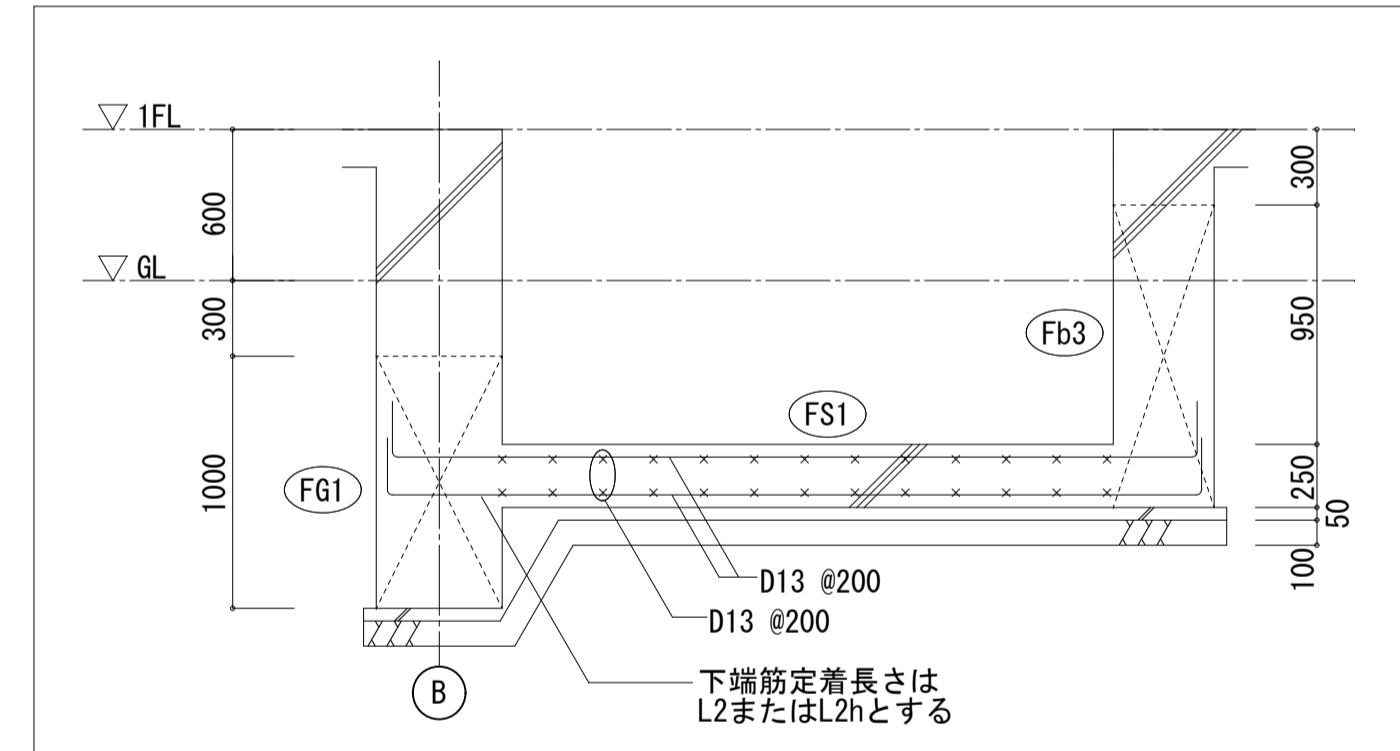
大梁・片持梁リスト S=1/30

符号	FG1	FG2	FG3	FCG1	
位置	全断面	全断面	全断面	元端	先端
▽1FL					
1F階					
断面寸法	500 x 1000	500 x 1000	500 x 1000	550 x 1000	550 x 750
上端筋	4/4-D22	3/3-D22	4-D25/4-D25	6/4-D22	
下端筋	4/4-D22	3/3-D22	4-D25/4-D22	4-D25	
あばら筋	□-D10-@150	□-D10-@150	□-D13-@175	□-D13-@150	
腹筋	4-D13	4-D13	4-D13	4-D13	

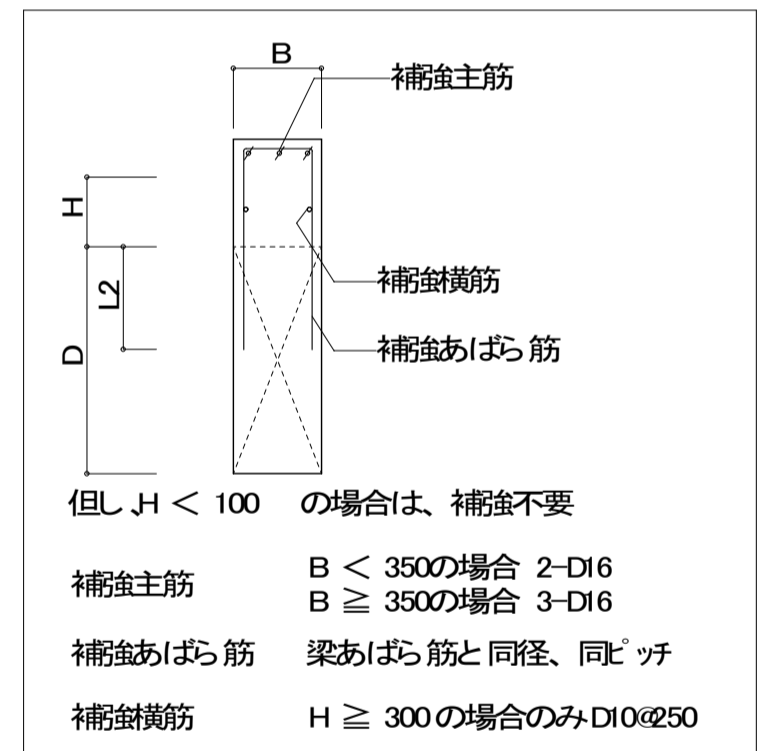
スラブリスト

符号	厚さ	位置	短辺方向 全 域	長辺方向 全 域	備考
S1	150	上端筋	D10・D13@150	D10@150	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S2	150	上端筋	D10・D13@150	D10・D13@150	
		下端筋	D10@200	D10@200	
S3	150	上端筋	D10@200	D10@200	一方向 スラブ
		下端筋	D10@200	D10@200	
S4	150	上端筋	D13@200	D10@200	一方向 スラブ
		下端筋	D10@200	D10@200	
FS1	250	上端筋	D13@200	D13@200	EVビット 底板
		下端筋	D13@200	D13@200	
土間スラブ	150	上端筋	D10@200	D10@200	
		下端筋	D10@200	D10@200	

EVビット 配筋要領図 S=1/30



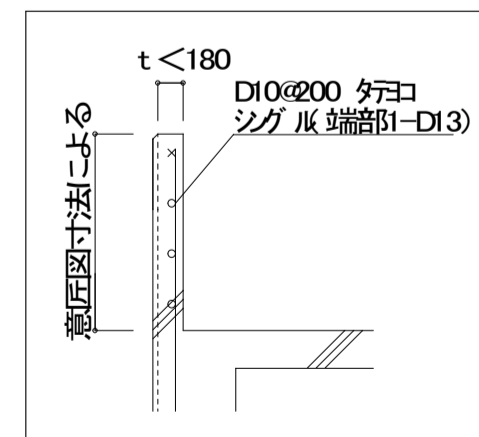
基礎梁増し筋補強要領図



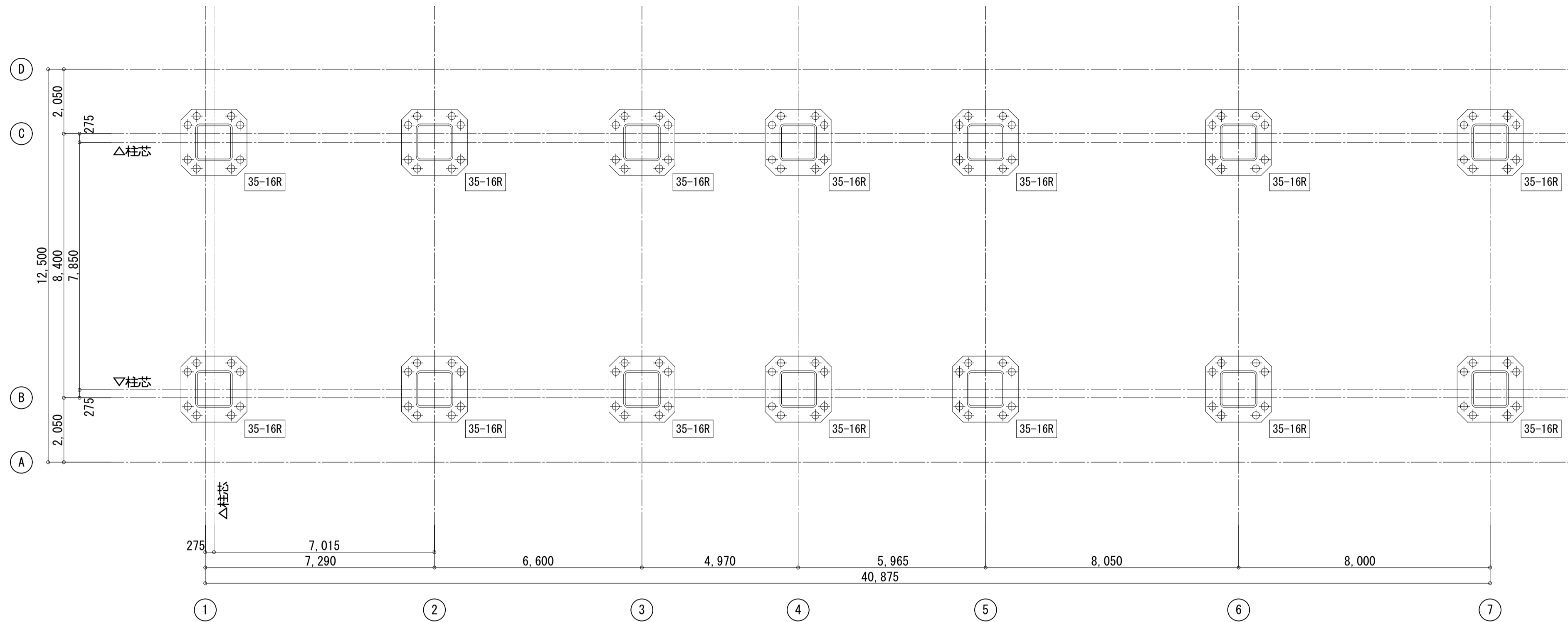
小梁リスト S=1/30

符号	Fb1	Fb2		Fb3		Fb4		Fb5		Fb6		Fb7		Fb8		Fb9		Fb10		
位置	全断面	両端	中央	両端	中央	両端	中央	左端	中央	右端	両端	中央	左端	中央	右端	左端・中央	右端	左端	中央・右端	全断面
▽1FL																				
断面																				
B x D	300x700	300x700		400x1200		350x800		350x800		350x800		350x800		300x750		300x750		300x750		300x750
上端筋	3-D22	3-D22	3-D22	4-D25	4-D25	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3/2-D22	3/2-D22	3-D22	3/2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22/2-D16	3-D22/2-D16	3-D22	3-D22
下端筋	3-D22	3-D22	3-D22/2-D19	4-D25	4/2-D25	3-D22	3/2-D22	3-D22	3/2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3/2-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22	3-D22
S T P	□-D10@200	□-D10@200		□-D10@150		□-D10@200		□-D10@150		□-D10@150		□-D10@150		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200		□-D10@200
腹筋	2-D10	2-D10		6-D10		4-D10		4-D10		4-D10		4-D10		2-D10		2-D10		2-D10		2-D10

立上り壁筋配筋要領図

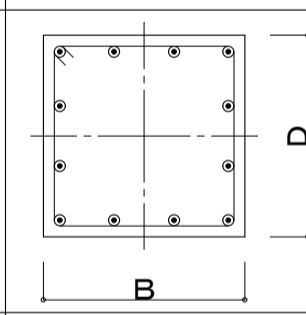


1級建築士 (大臣) 第236981号 渡邊 桂司 1級建築士 (大臣) 第248850号  
 構造設計 1級建築士 第 4097号 浜口 修也



1階梁床伏図（見上げ） 1/100

基礎柱リスト S=1/30

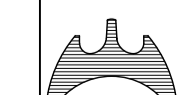
符号	FC1
断面	
B × D	800 × 800
主筋	12-D25
フープ筋	D13-@100

1級建築士（大臣） 第236981号 渡邊 桂司  
 1級建築士（大臣） 第248850号  
 構造設計1級建築士 第4097号 浜口 修也

※本工法が採用された限り、本図書を使用する。



株式会社 車田建築設計事務所  
 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES  
 1級建築士事務所 登録 22(1)第0587号



福山市建設局建築部営繕課

設計 2023年 3月

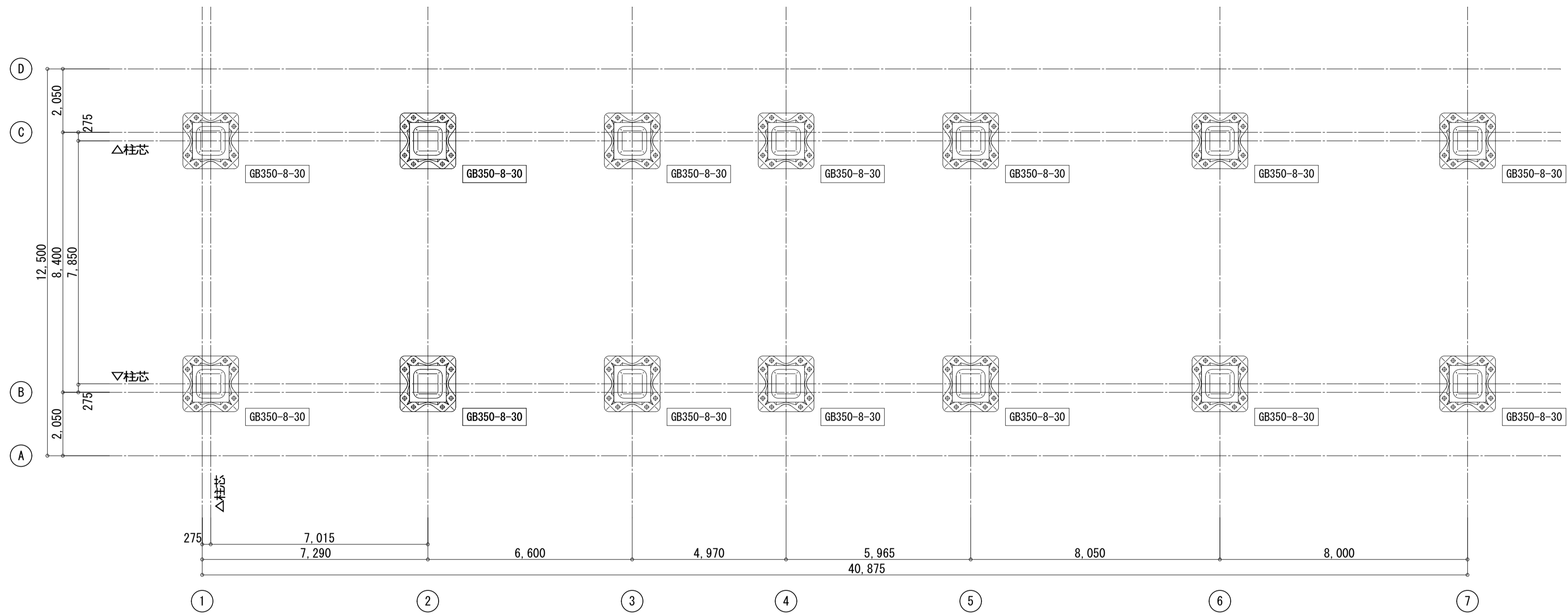
工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事

図書名称 【管理棟】柱脚配置図 ベースバック柱脚工法

縮尺 1/100 (A1)

図番No

S-23



1階梁床伏図 (見上げ) 1/100

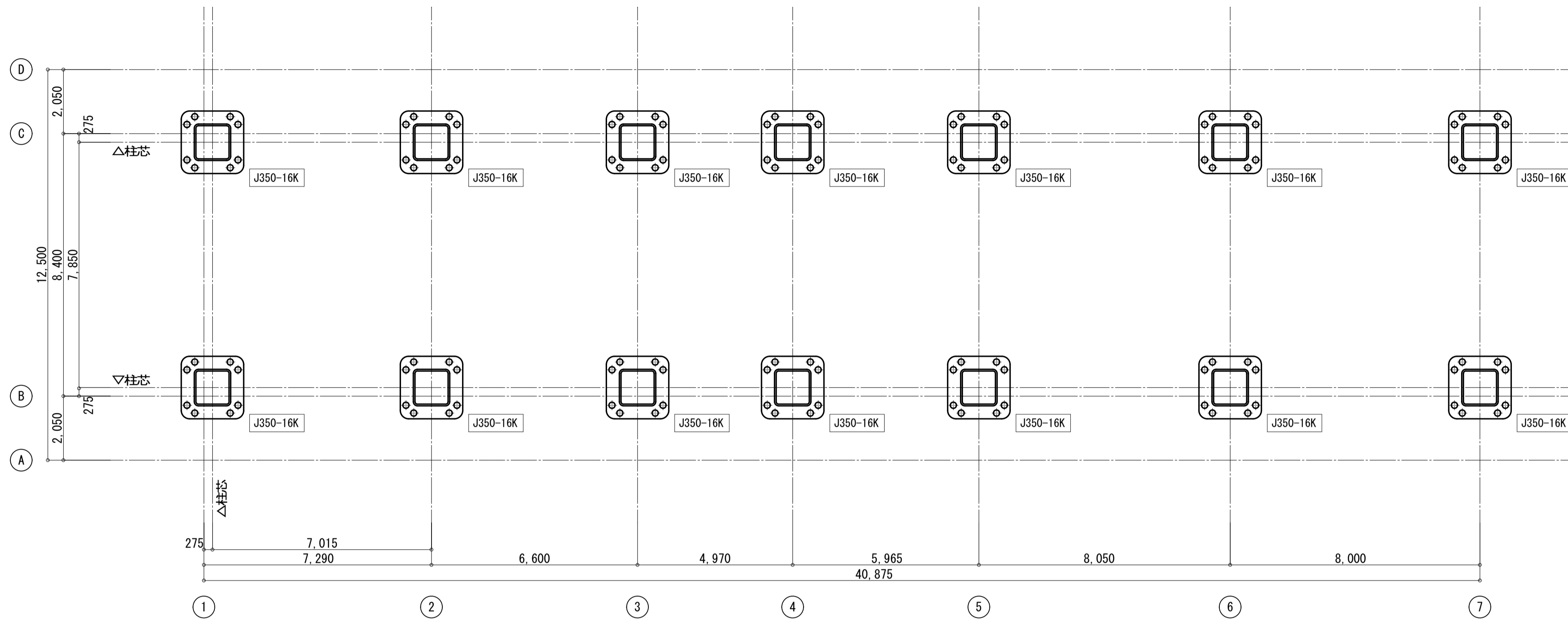
特記無き限り下記による  
柱脚部のみS=1/30で作図

基礎柱リスト S=1/30

符号	FC1
断面	
B × D	800 × 800
主筋	16-D25
フープ筋	D13-@150

1級建築士 (大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
1級建築士 (大臣) 第248850号  
構造設計 1級建築士 第 4097号 浜口 修也

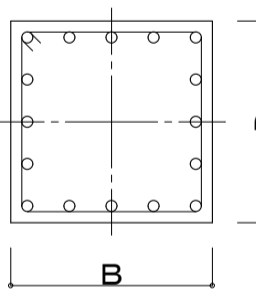
※本工法が採用された限り、本図書を使用する。



1階梁床伏図（見上げ） 1/100

特記無き限り下記による  
柱脚部のみS=1/30で作図

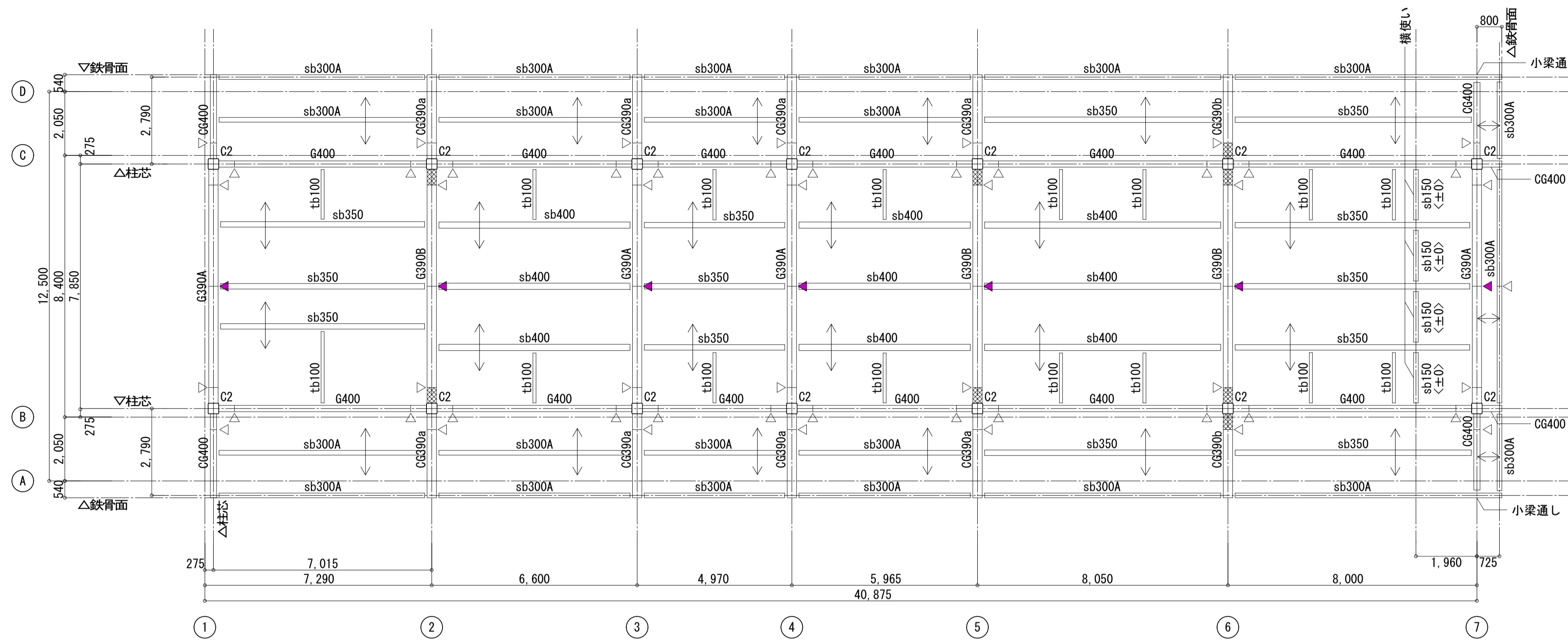
基礎柱リスト S=1/30

符号	FC1
断面	
B × D	800x800
主筋	16-D22
フープ筋	D13-@100

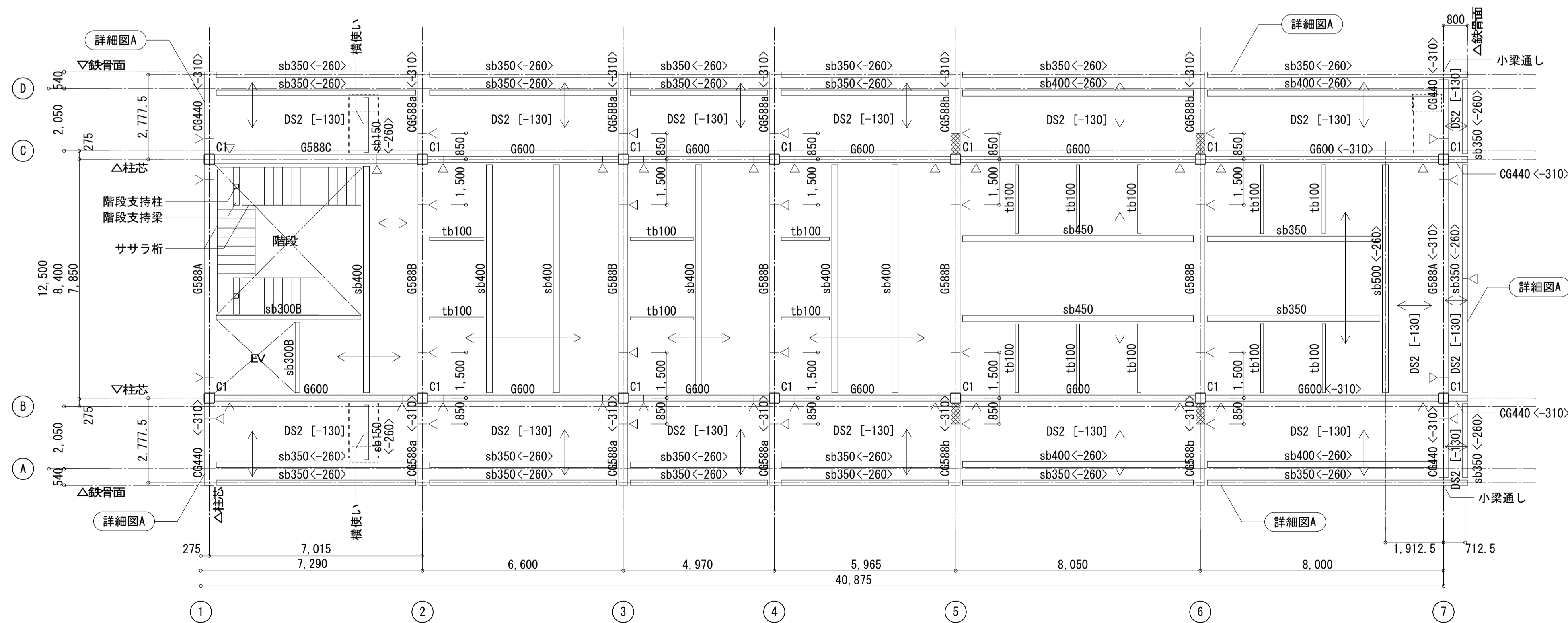
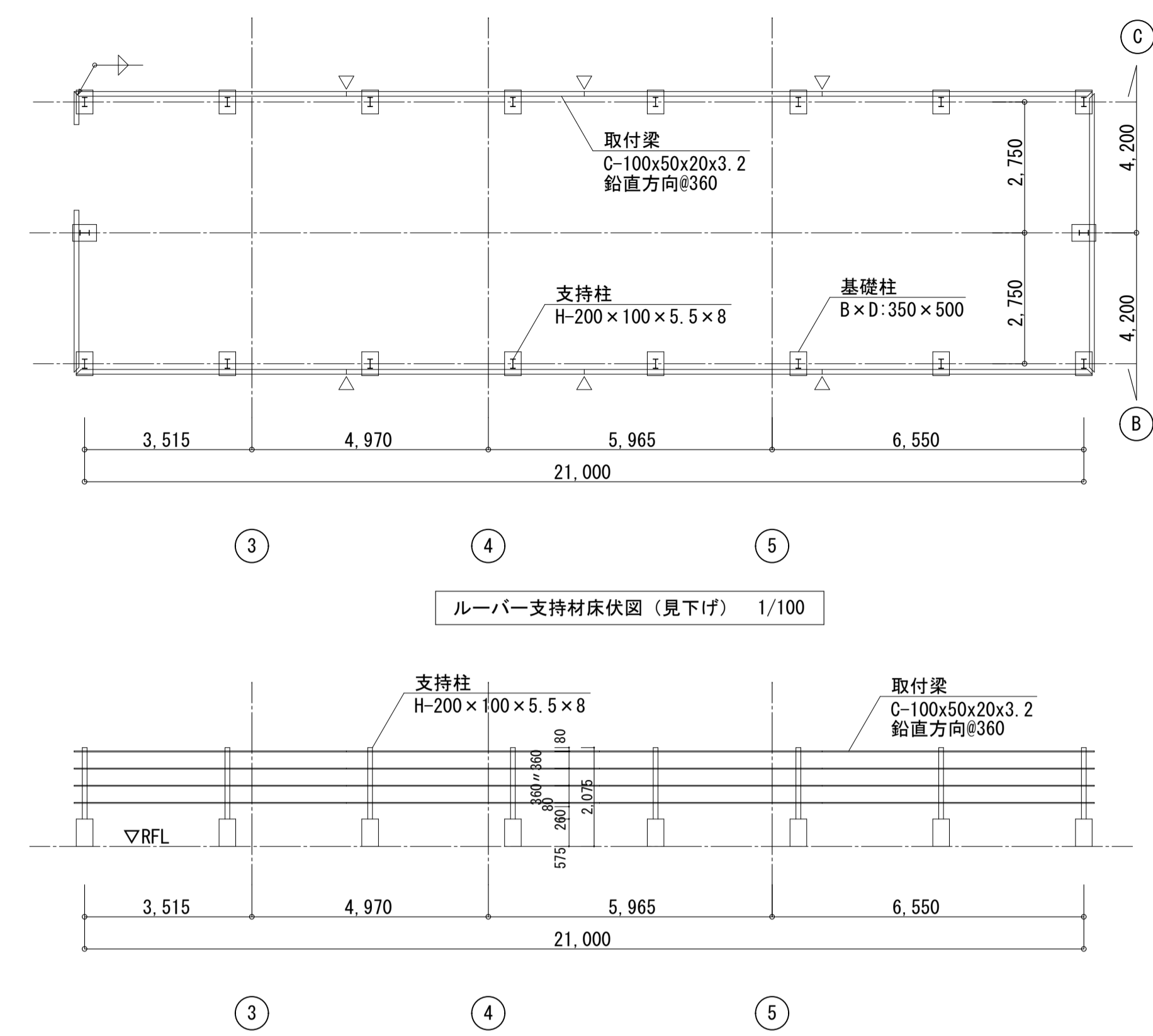
1級建築士（大臣） 第236981号 渡邊 桂司  
1級建築士（大臣） 第248850号  
構造設計1級建築士 第4097号 浜口 修也

※本工法が採用された限り、本図書を使用する。



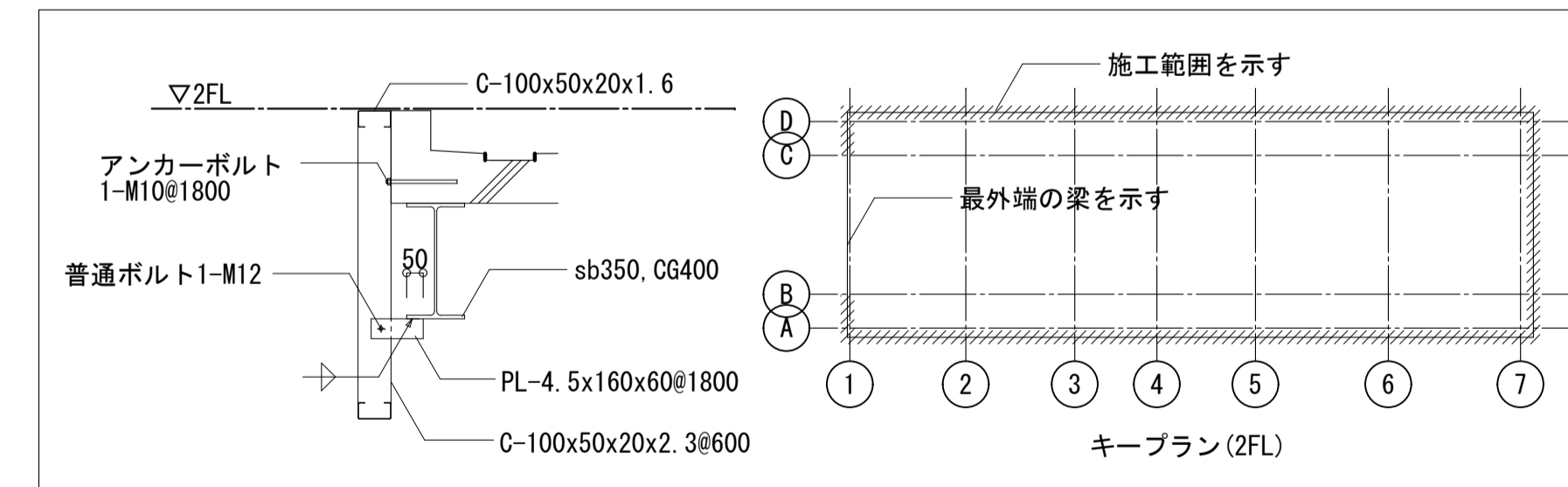


2階柱 R階梁床伏図 (見上げ) 1/100 ※勾配屋根の梁レベルは軸組図・鉄骨架構図による。



1階柱 2階梁床伏図 (見上げ) 1/100

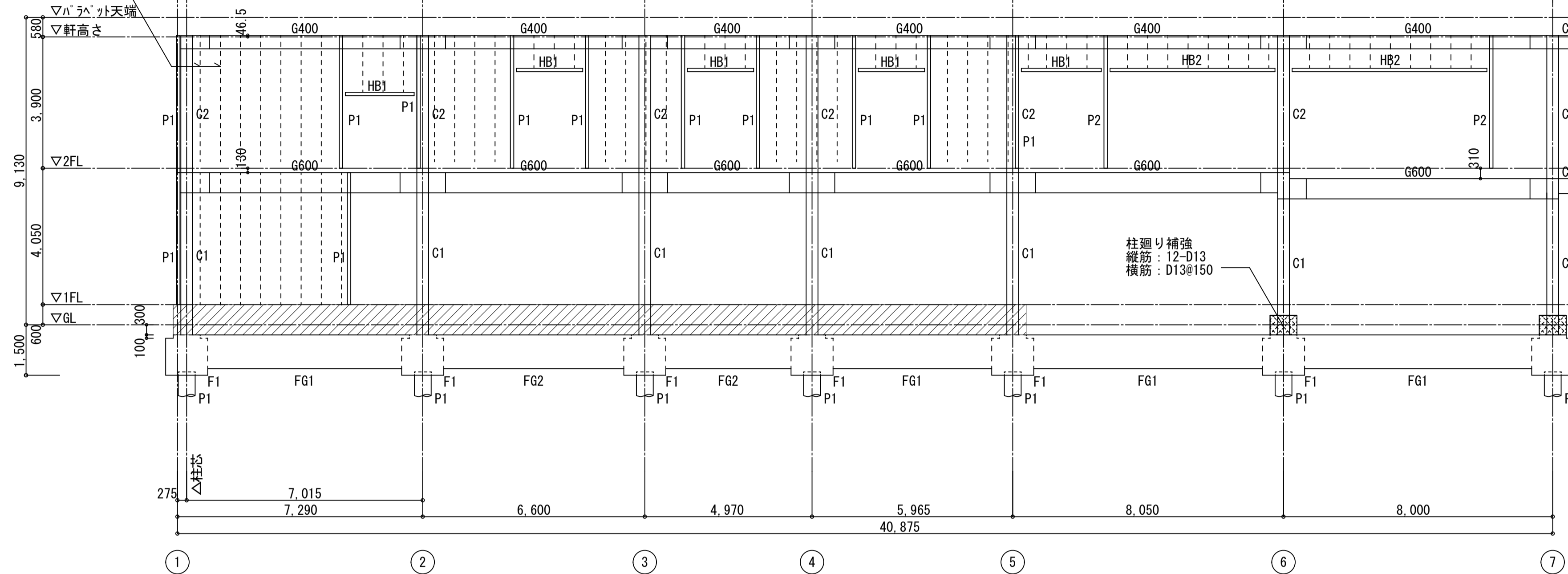
詳細図A バルコニー先端外壁取付要領図 1/20



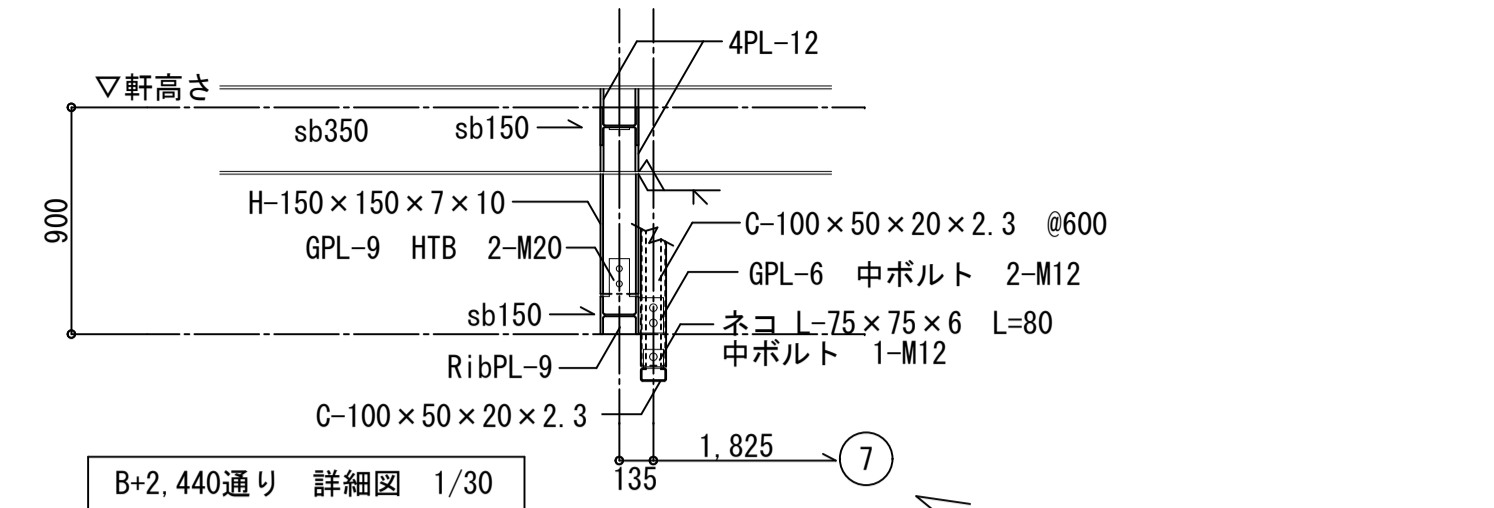
特記無き限り下記による  
 デッキプレートはDS1とする。  
 梁天端レベルはFL-130とする。  
 大梁継手は柱面から500とする。  
 △は梁の継手位置を示す。  
 ▲は大梁の切断・溶接加工を示す。  
 < >内数値は、FLからの梁天端レベルを示す。  
 [ ]内数値は、FLからのスラブ天端レベルを示す。  
 [ ]は、SN490B材を示す。  
 <->は、デッキプレート敷込み方向及びスパンを示す。

1級建築士 (大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
 1級建築士 (大臣) 第248850号 第248850号  
 構造設計1級建築士 第 4097号 浜口 修也

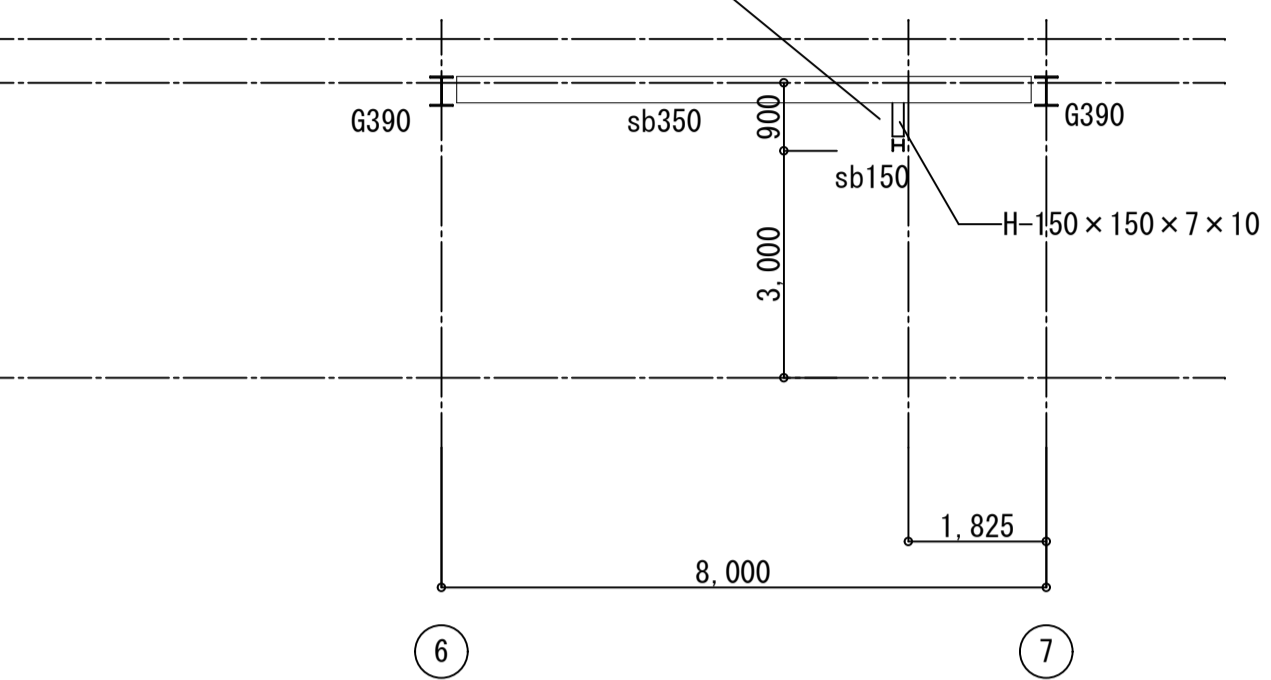
縦筋線: C-100x50x20x2.3@600



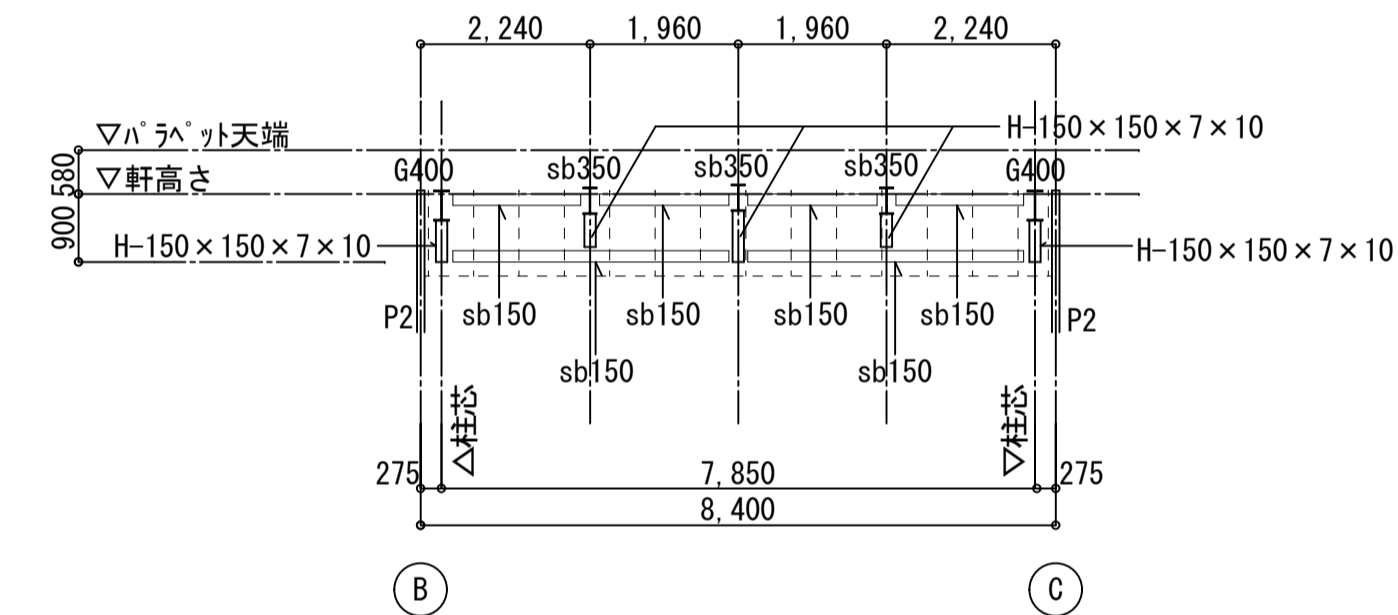
Bフレーム軸組図 1/100



B+2,440通り 詳細図 1/30

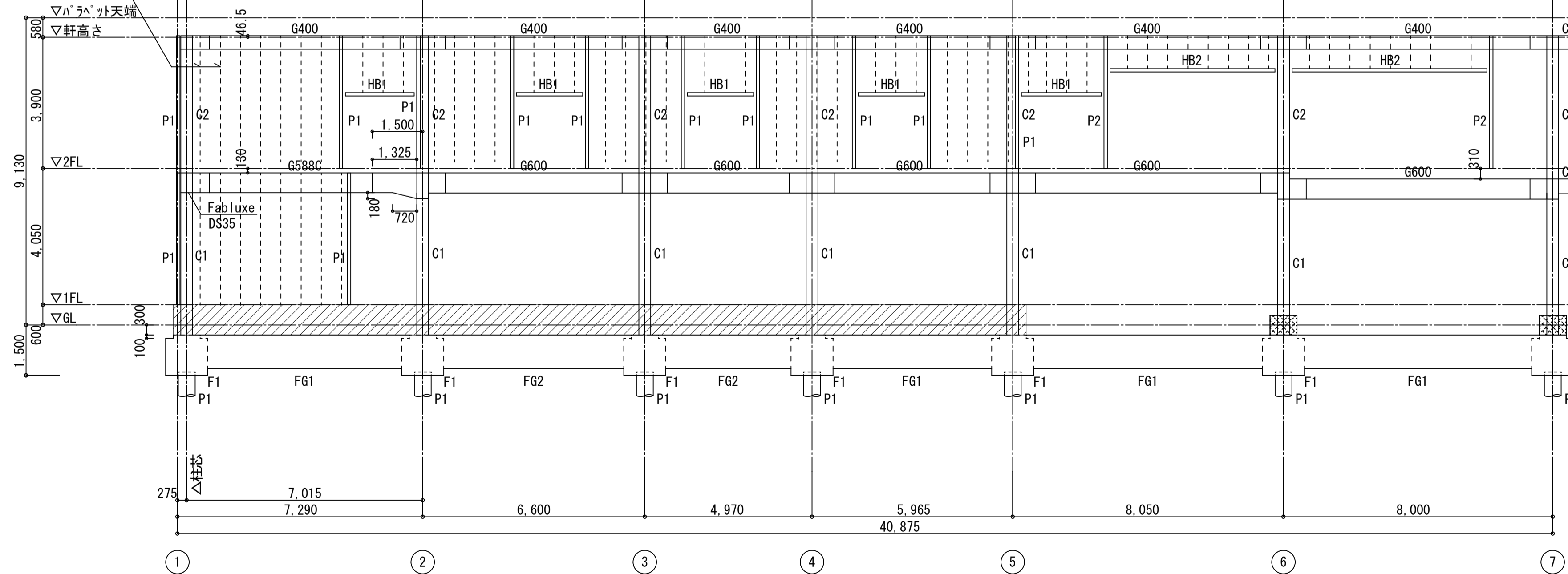


B+2,440通り 軸組図 1/100



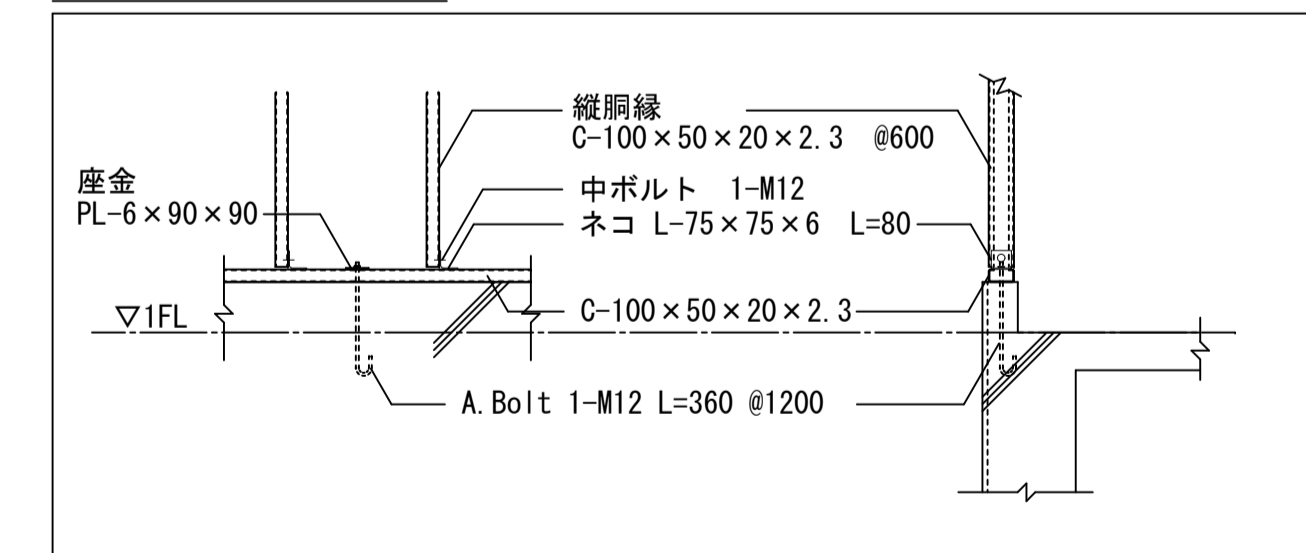
7-1,960通り 軸組図 1/100

縦筋線: C-100x50x20x2.3@600



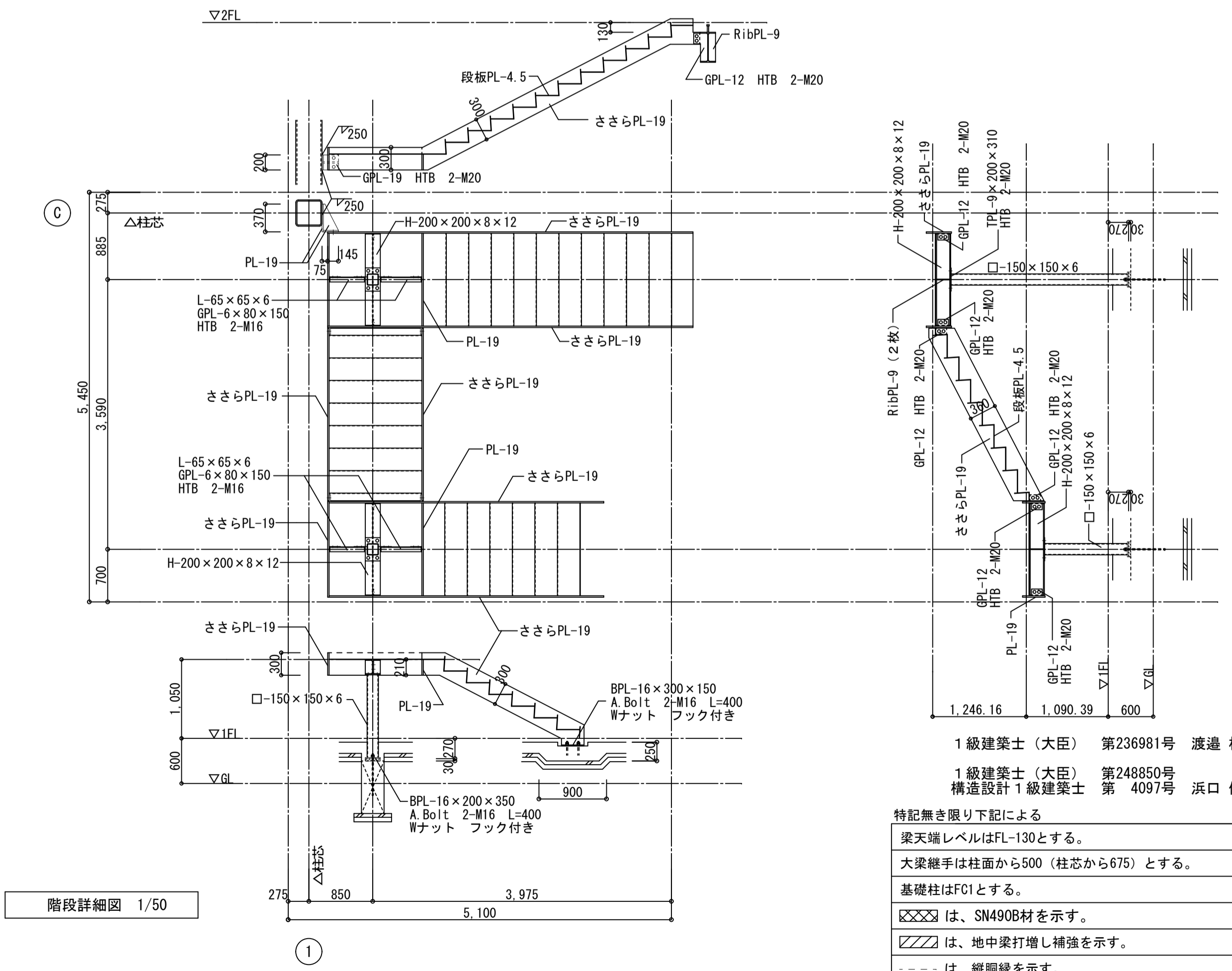
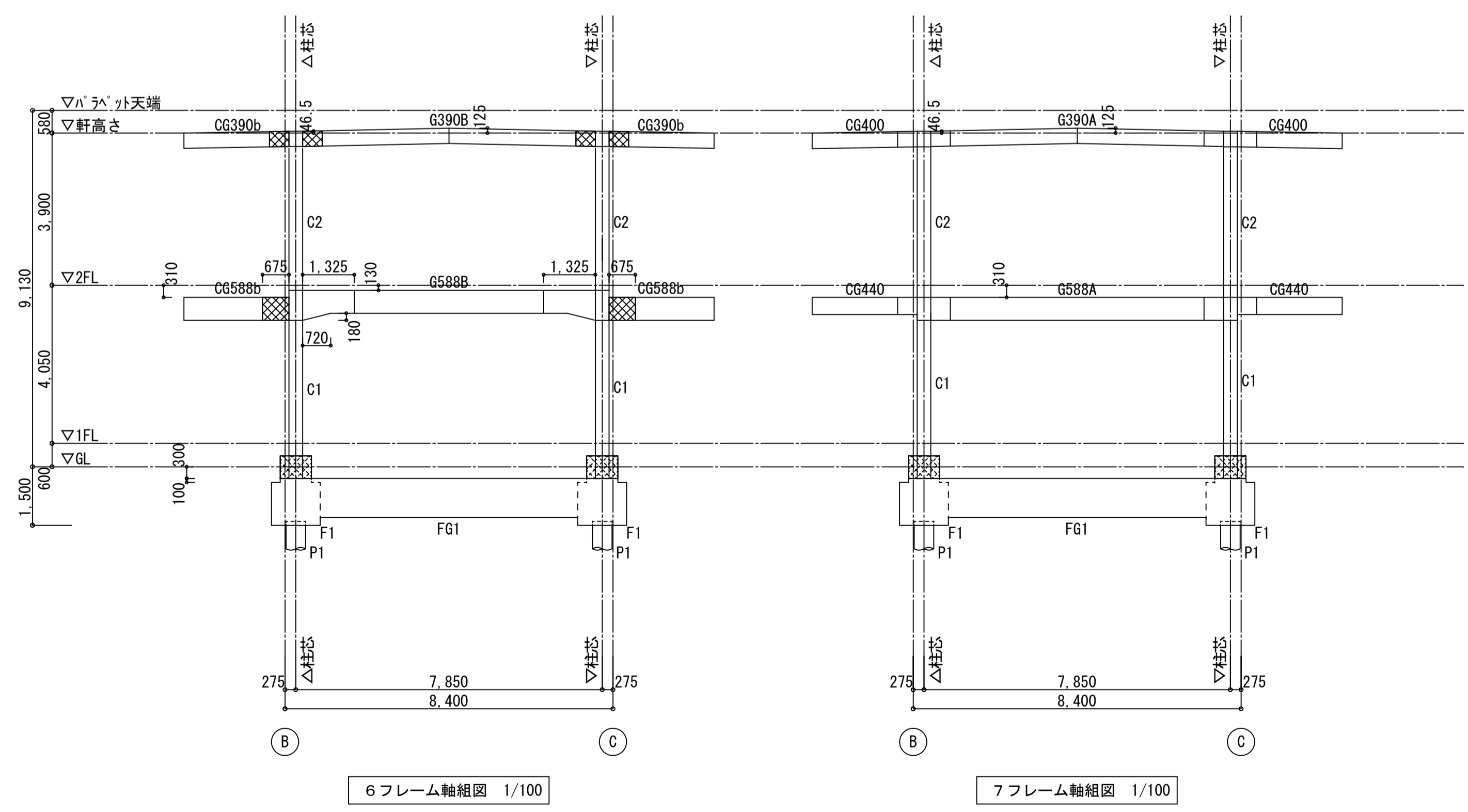
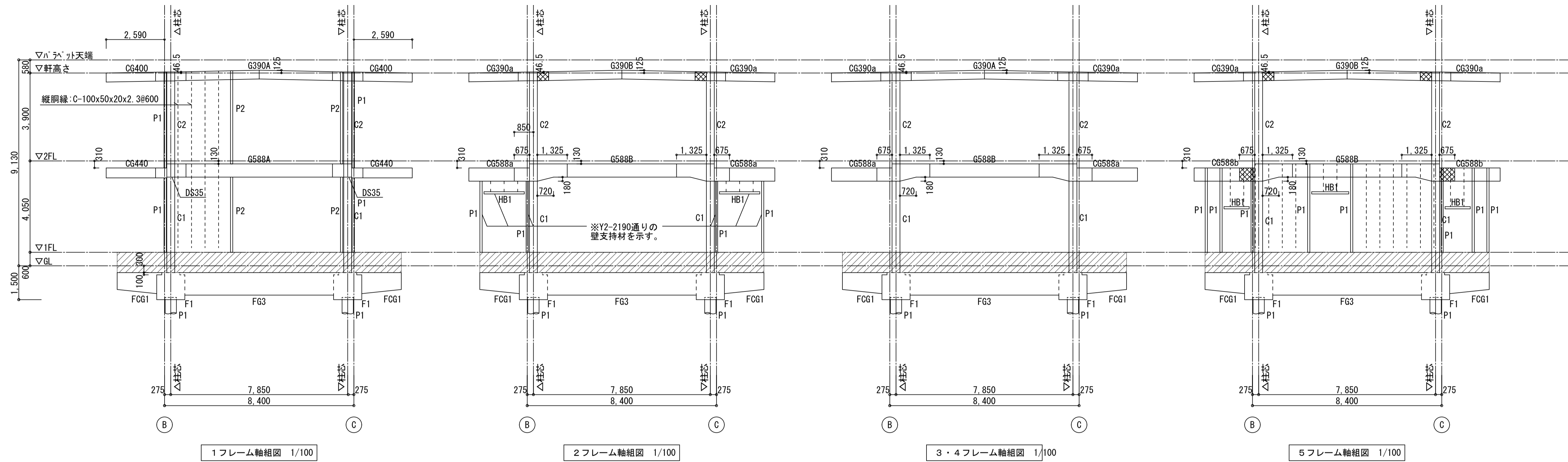
Cフレーム軸組図 1/100

胴縁柱脚部取付要領図 1/30



特記無き限り下記による
梁天端レベルはFL-130とする。
大梁継手は柱面から500(柱芯から675)とする。
基礎柱はFC1とする。
斜線は、基礎梁打増し補強を示す。
--- は、縦筋線を示す。

1級建築士(大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
 1級建築士(大臣) 第248850号 浜口 修也  
 構造設計1級建築士 第4097号



1級建築士 (大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
 1級建築士 (大臣) 第248850号 第4097号 浜口 修也  
 構造設計 1級建築士

特記無き限り下記による

梁天端レベルはFL-130とする。
大梁継手は柱面から500 (柱芯から675) とする。
基礎柱はFC1とする。
⊗は、SN490B材を示す。
▨は、地中梁打増し補強を示す。
- - - は、縦筋線を示す。

大梁・片持梁継手リスト S=1/20 特記無き高力ボルトはF10T(S10T)とする。スライスプレートはSN400A材とする。

H-588×300×12×20			H-600×200×11×17			H-440×300×11×18			H-390×300×10×16			H-400×200×8×13		
フランジ	PL-530×300×12(外添板) PL-530×110×16(内添板)	10-M20	フランジ	PL-410×200×12(外添板) PL-410×80×12(内添板)	6-M20	フランジ	PL-440×300×12(外添板) PL-440×110×12(内添板)	8-M20	フランジ	PL-440×300×12(外添板) PL-440×110×12(内添板)	8-M20	フランジ	PL-410×200×9(外添板) PL-410×80×9(内添板)	6-M20
ウェブ	2PL-440×290×9	8-M20	ウェブ	2PL-440×290×9	8-M20	ウェブ	2PL-320×170×9	5-M20	ウェブ	2PL-260×170×9	4-M20	ウェブ	2PL-260×170×9	4-M20

※ハンチ付きの場合、RH鋼側にフィラープレート設置  
t=4.5 SN400A 自然発錆処理

小梁継手リスト2 S=1/20 特記無き高力ボルトはF10T(S10T)とする。

H-350×175×7×11			H-300×150×6.5×9		
フランジ	PL-290×175×9(外添板) PL-290×70×9(内添板)	4-M20	フランジ	PL-290×150×9(外添板) PL-290×60×9(内添板)	4-M20
ウェブ	2PL-260×170×6	3-M20	ウェブ	2PL-200×170×6	2-M20

大梁・片持梁リスト

符号	RF	部材	備考
G588A		H-588x300x12x20	φ16スタッド 48本以上
G588B		H-588x300x12x20	両側ハンチ BH-768x300x12x25 φ16スタッド 48本以上
G588C		H-588x300x12x20	片側ハンチ BH-768x300x12x25 φ16スタッド 48本以上
G600		H-600x200x11x17	φ16スタッド 34本以上
G390A		H-390x300x10x16	φ16スタッド 48本以上
G390B		H-390x300x10x16	両端部SN490B材 φ16スタッド 48本以上
G400		H-400x200x8x13	φ16スタッド 34本以上
CG588a		H-588x300x12x20	
CG588b		H-588x300x12x20	柱側SN490B材
CG440		H-440x300x11x18	
CG390a		H-390x300x10x16	
CG390b		H-390x300x10x16	柱側SN490B材
CG400		H-400x200x8x13	

小梁・二次部材リスト

符号	部材	G. PL	BOLT	備考
sb500	H-500×200×10×16	G. PL-12.0	HTB. 5-M20	
sb450	H-450×200×9×14	G. PL-12.0	HTB. 4-M20	
sb400	H-400×200×8×13	G. PL-12.0	HTB. 4-M20	
sb350	H-350×175×7×11	G. PL-9.0	HTB. 3-M22	
sb300A	H-300×150×6.5×9	G. PL-9.0	HTB. 3-M20	
sb300B	H-300×150×6.5×9	G. PL-12.0	HTB. 6-M20	
sb150	H-150×150×7×10	G. PL-9.0	HTB. 2-M20	横使い
tb100	2C-100x50x20x3.2	G. PL-6.0	HTB. 2-M16	SSC400
縦胴縁	C-100x50x20x2.3	G. PL-6.0	4T普通ボルト2-M12	SSC400 ピッチ600
開口補強	□-100x100x3.2	G. PL-6.0	4T普通ボルト2-M12	STKR400
HB1	□-100x100x3.2	G. PL-6.0	4T普通ボルト2-M12	STKR400
HB2	□-100x100x4.5	G. PL-6.0	4T普通ボルト2-M12	STKR400
P1	□-100x100x3.2	G. PL-6.0	4T普通ボルト2-M16	STKR400
P2	□-100x100x4.5	G. PL-6.0	4T普通ボルト2-M16	STKR400
階段	サヤ桁: PL-300(210)x19 踏板・踊場床: PL-4.5	G. PL-12.0	HTB. 2-M20	
階段支持梁	H-200x200x8x12			
階段支持柱	□-150x150x6.0	B. PL-16.0	HTB. 4-M16	STKR400
ルーバー支持柱	H-200×100×5.5×8	B. PL-16.0		SN400B
ルーバー取付梁	C-100x50x20x3.2	G. PL-6.0	HTB. 2-M16	SSC400 ピッチ360

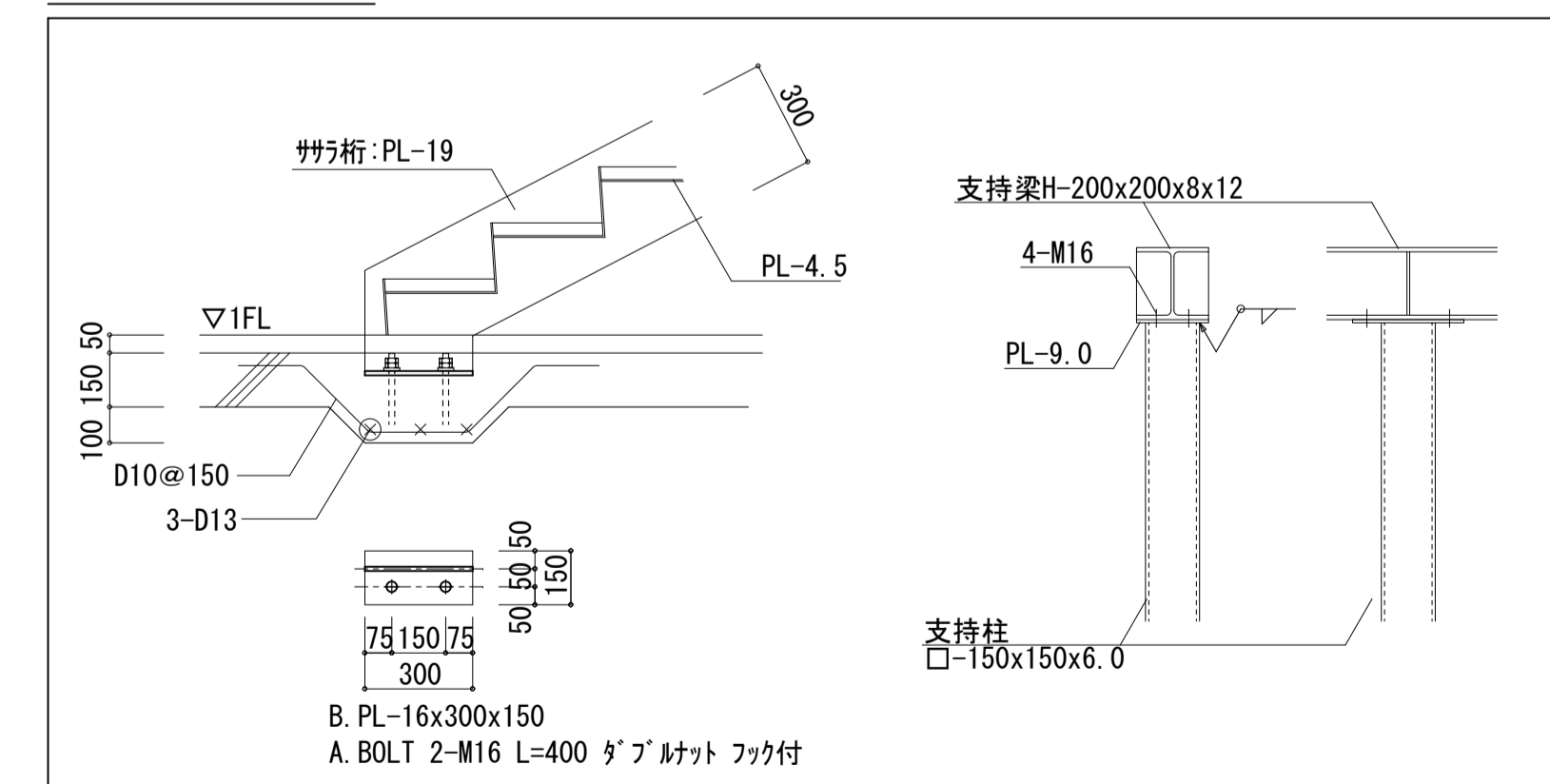
小梁・胴縁継手リスト1 S=1/20 特記無き高力ボルトはF10T(S10T)とする。

H-500×200×10×16		H-450×200×9×14		H-400×200×8×13		H-350×175×7×11		H-300×150×6.5×9		H-300×150×6.5×9		C-100×50×20×2.3	
G. PL	PL-12.0	G. PL	PL-12.0	G. PL	PL-12.0	G. PL	PL-9.0	G. PL	PL-9.0	G. PL	PL-12.0	G. PL	PL-6.0
H T B	5-M20	H T B	4-M20	H T B	4-M20	H T B	3-M22	H T B	3-M20	H T B	6-M22	中ボルト	2-M12

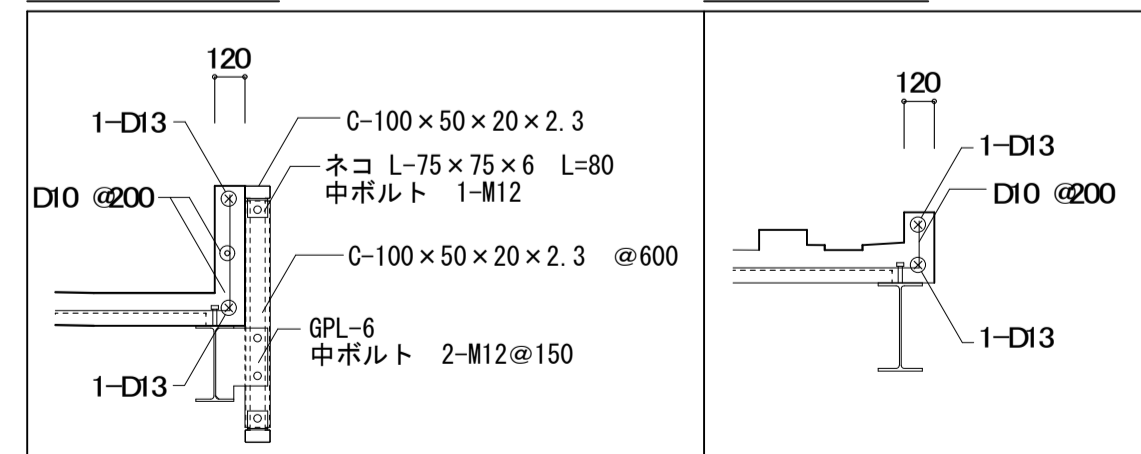
柱断面リスト S=1/20

符号	C1	C2
断面	□-350x350x16.0	□-350x350x12.0
	1階	2階

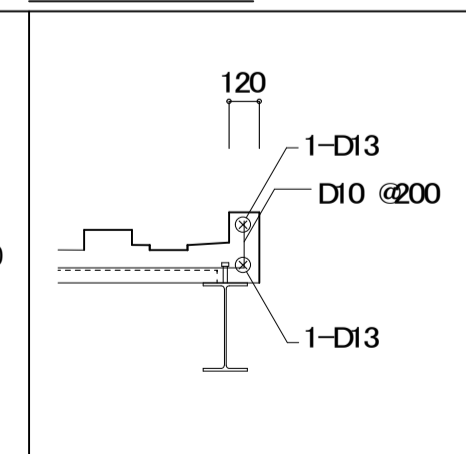
階段詳細図 S=1/20



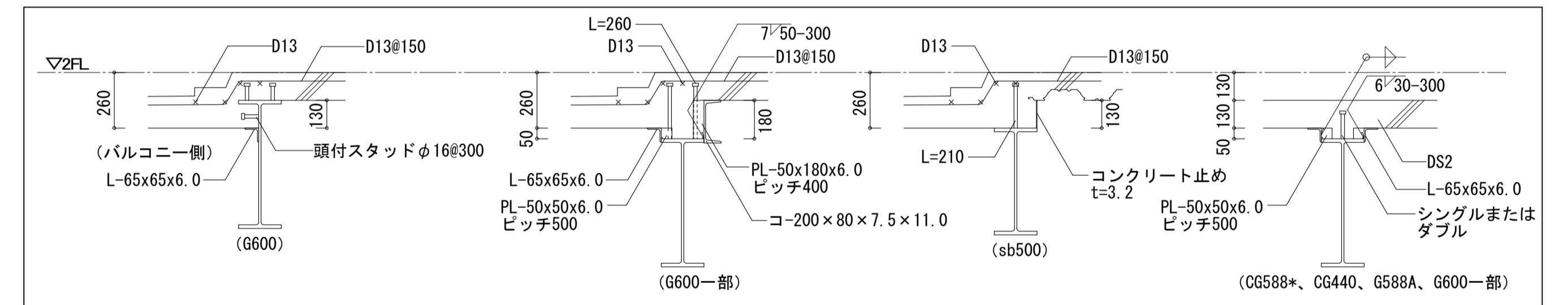
パラベットの配筋図 S=1/30



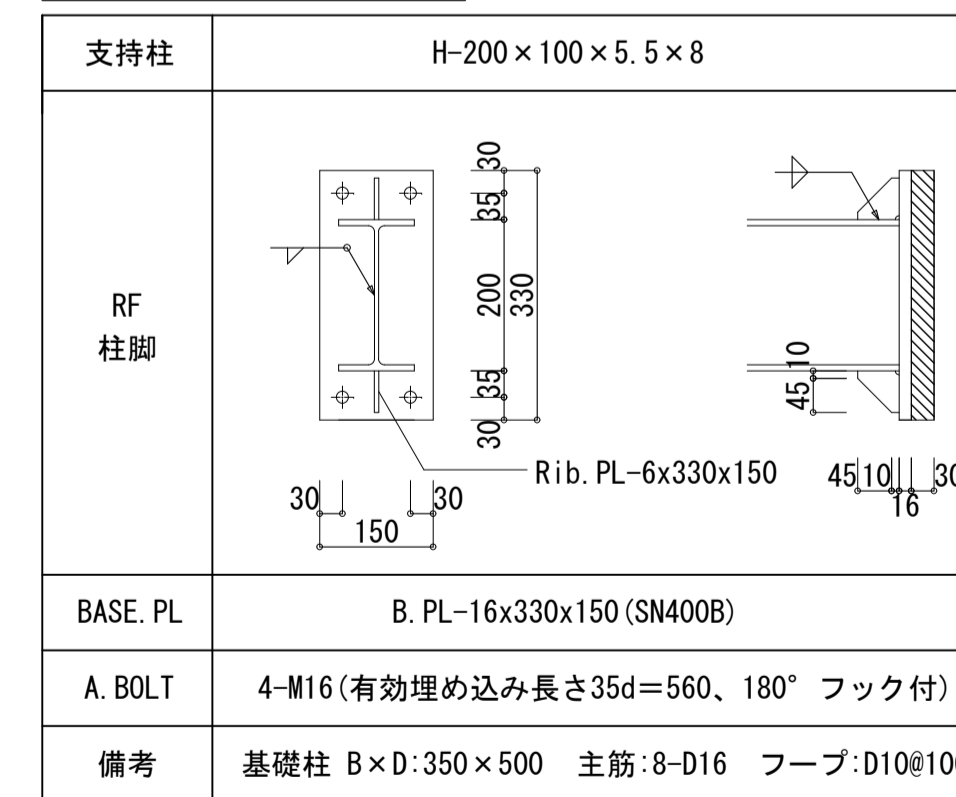
ハコニ先端配筋図 S=1/30



デッキ段差補強要領



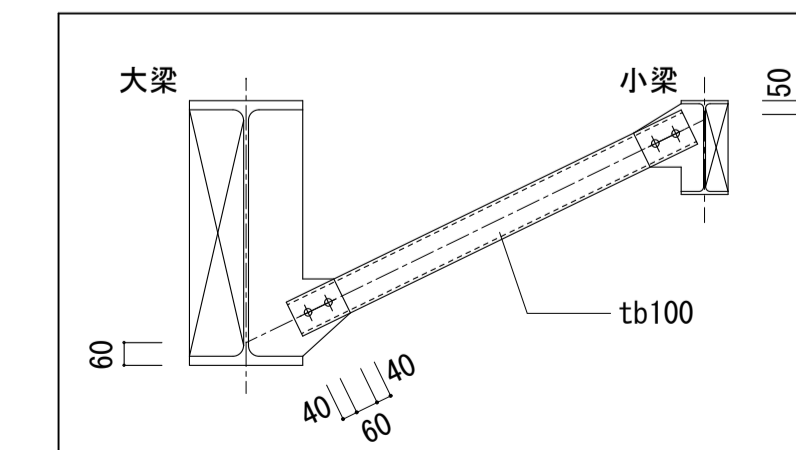
ルーバー支持柱詳細図 S=1/10



合成デッキスラブリスト S=1/30

符号	DS1	DS2
形状	ワイヤーメッシュ 6φ-100×100	同DS1
接合形式	大梁: スタッド φ16@300 L=80 ダブル その他の梁: スタッド φ16@300 L=80 シングル	大梁: スタッド φ16@300 L=80, 260 ダブル 片持梁: スタッド φ16@300 L=130 シングル 小梁: スタッド φ16@300 L=80 シングル

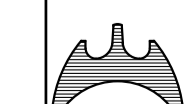
tb100取合い要領図



1級建築士(大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
1級建築士(大臣) 第248850号  
構造設計1級建築士 第 4097号 浜口 修也



株式会社 車田建築設計事務所  
KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES  
1級建築士事務所 登録 22(1)第0587号

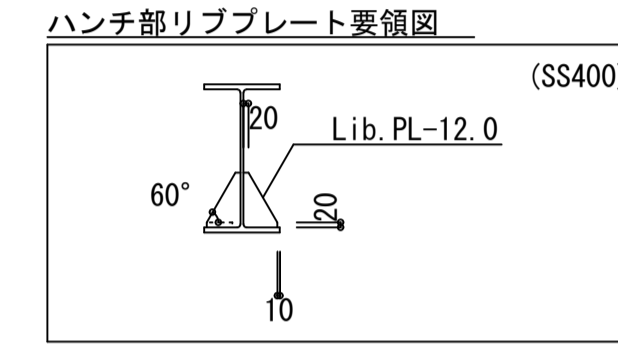
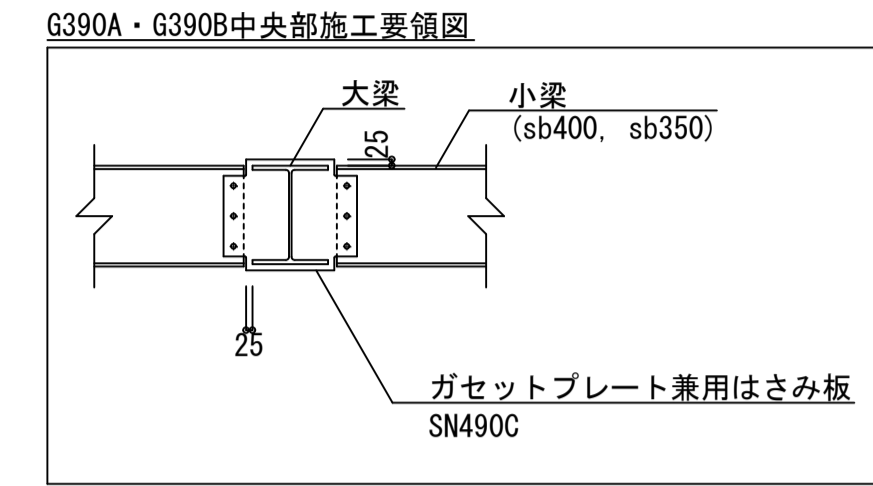
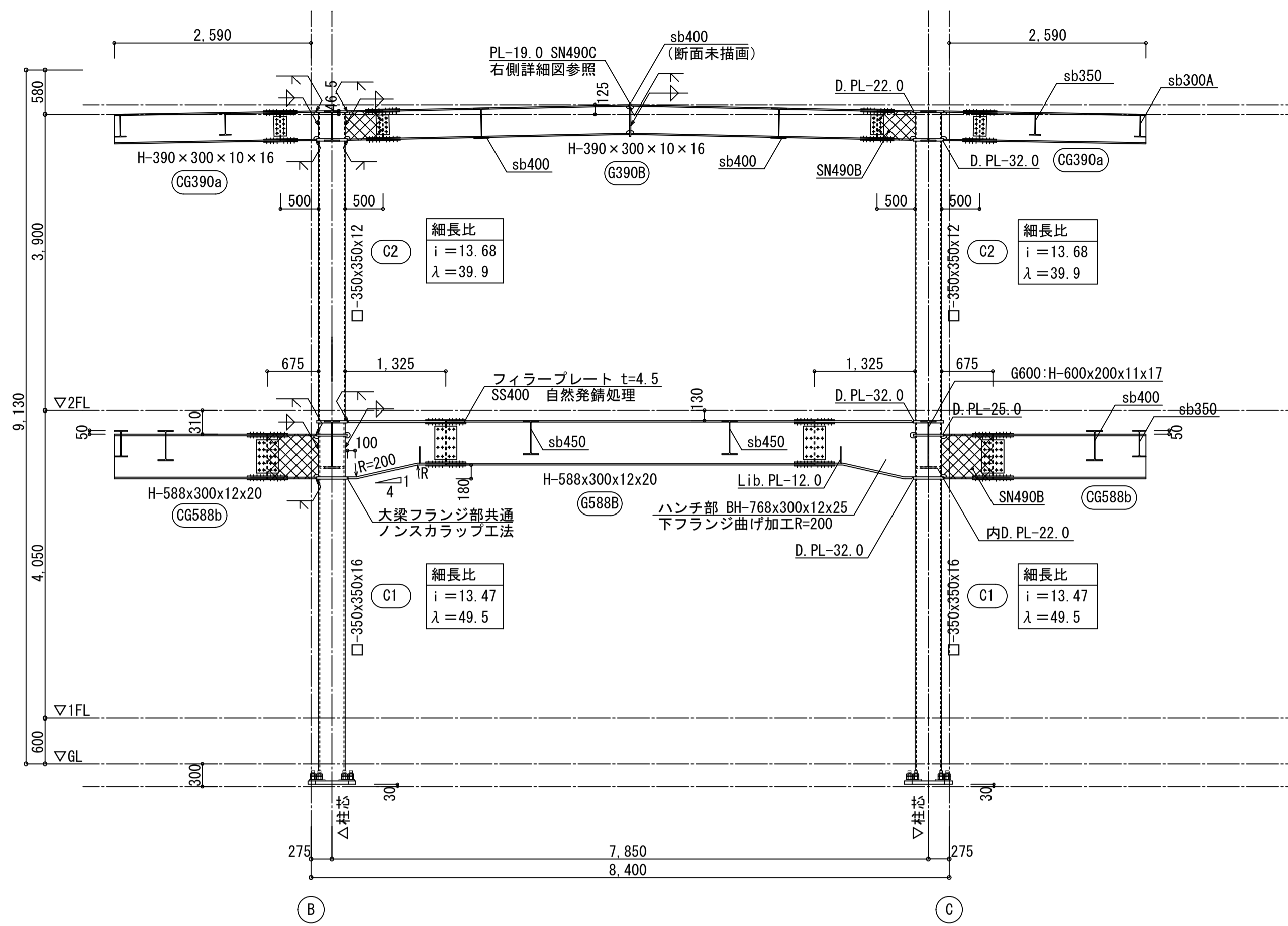


福山市建設局建築部営繕課  
2023年 3月

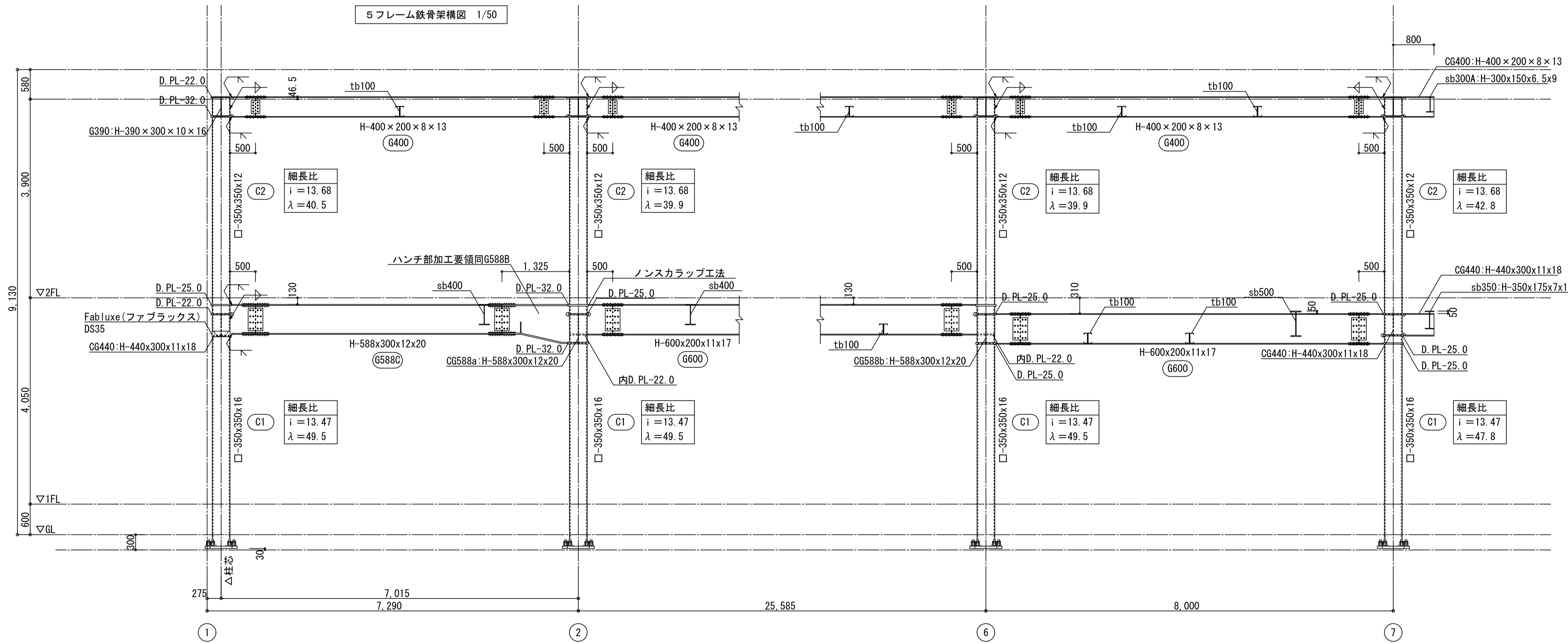
工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事  
図面名称 【管理棟】鉄骨部材リスト・部分詳細図  
縮尺 1/100 (A1)

図面No

S-29



仕口の標準  
 ・通しダイヤフラム SN490C  
 $t1 \geq t1, t2$ の大きい方+6mmを原則とする  
 $t2 \geq t1, t2$ の大きい方+6mm  
 かつ、 $(H1-H2) + t2 + 6mm$   
 ・内ダイヤフラム SN490B  
 $t1 \geq t1, t2$ の大きい方+3mmを原則とする  
 $t2 \geq t1, t2$ の大きい方+3mm  
 かつ、 $(H1-H2) + t2 + 3mm$   
 $H1, H2$  1つの柱に取合う各々の大梁せい  
 $t1, t2$  1つの柱に取合う各々の大梁フランジ厚さ



Cフレーム鉄骨架構図 1/50

1級建築士 (大臣) 第236981号 渡邊 桂司  
 1級建築士 (大臣) 第248850号  
 構造設計1級建築士 第 4097号 浜口 修也

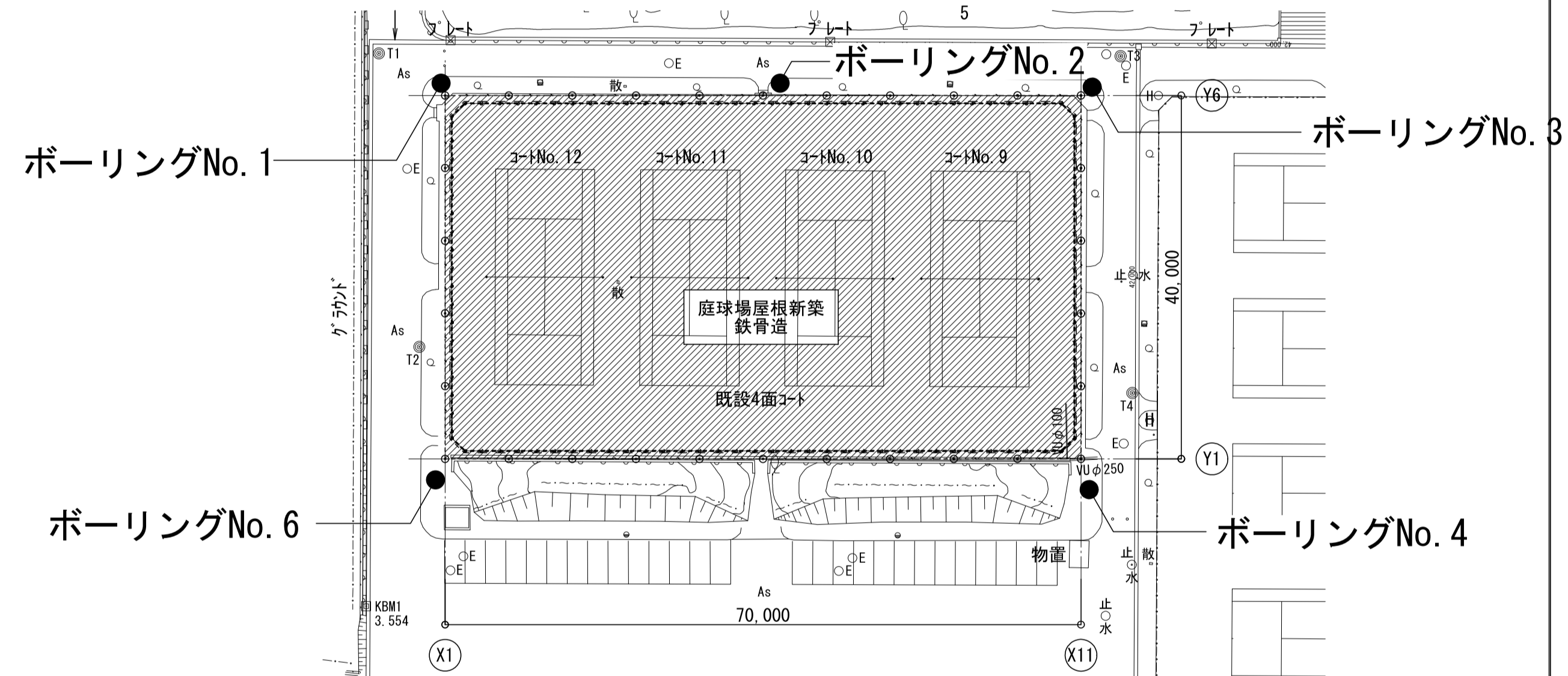
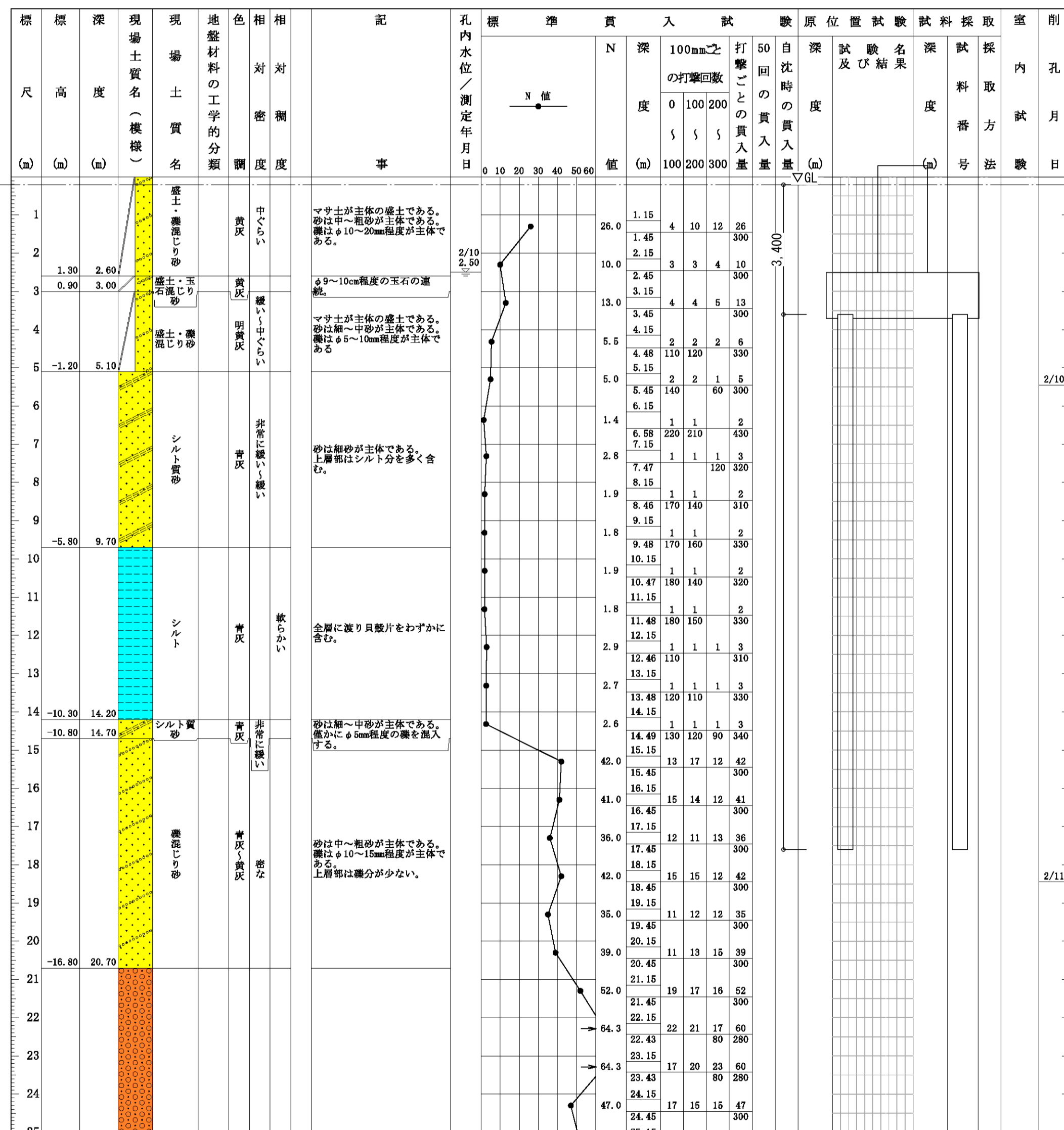
### 土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 福山市竹ヶ端運動公園庭球場屋根他新築工事に伴う地質調査委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

ボーリング名	No.1		調査位置	広島県福山市水呑町地内		北緯	34° 26' 44.79"	
発注機関	広島県福山市		調査期間	令和04年02月10日～令和04年02月15日		東経	133° 23' 26.35"	
調査業者名	株式会社 都市総合設計事務所		管理	橋本 浩	照査	阿山 茂雄	コア	土屋 研
孔口標高	T.P. 3.90 m		電話	(084-948-0788)	技術者	第15311号	ボーリン	中島 達也
総削孔長	36.45 m		角	180°	方	北	地盤	不均
			度	0°	位	270°	配	0°
							使用	試験機
							ポンプ	東邦地下工機製 BG-3型

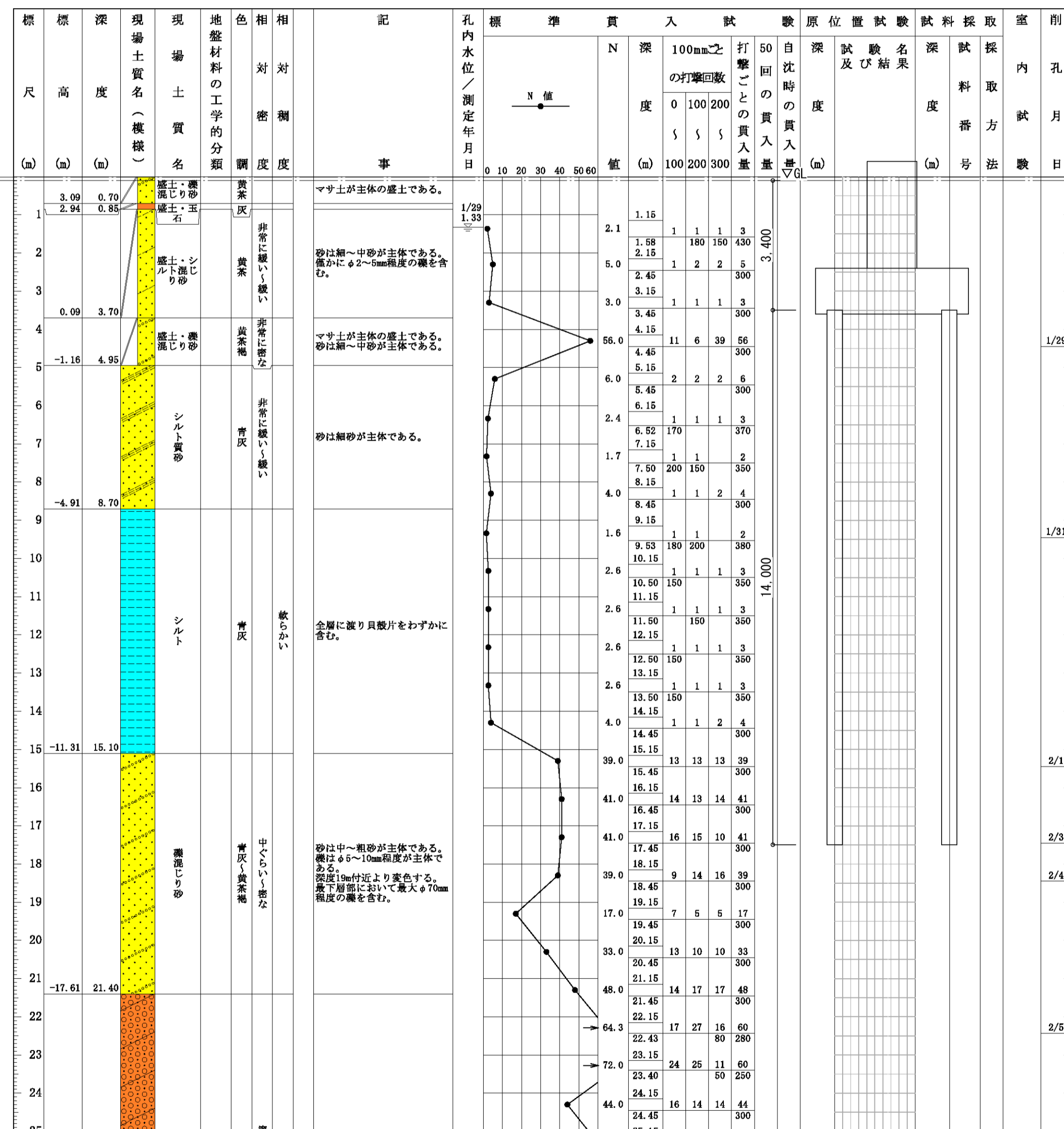


配置図 1/500  
 計画建物位置を示す。  
 建物名：計画建物名を示す。  
 設計GL=3.73

土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 福山市竹ヶ端運動公園庭球場整備他新築工事に伴う地質調査委託
事業名または工事名
調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

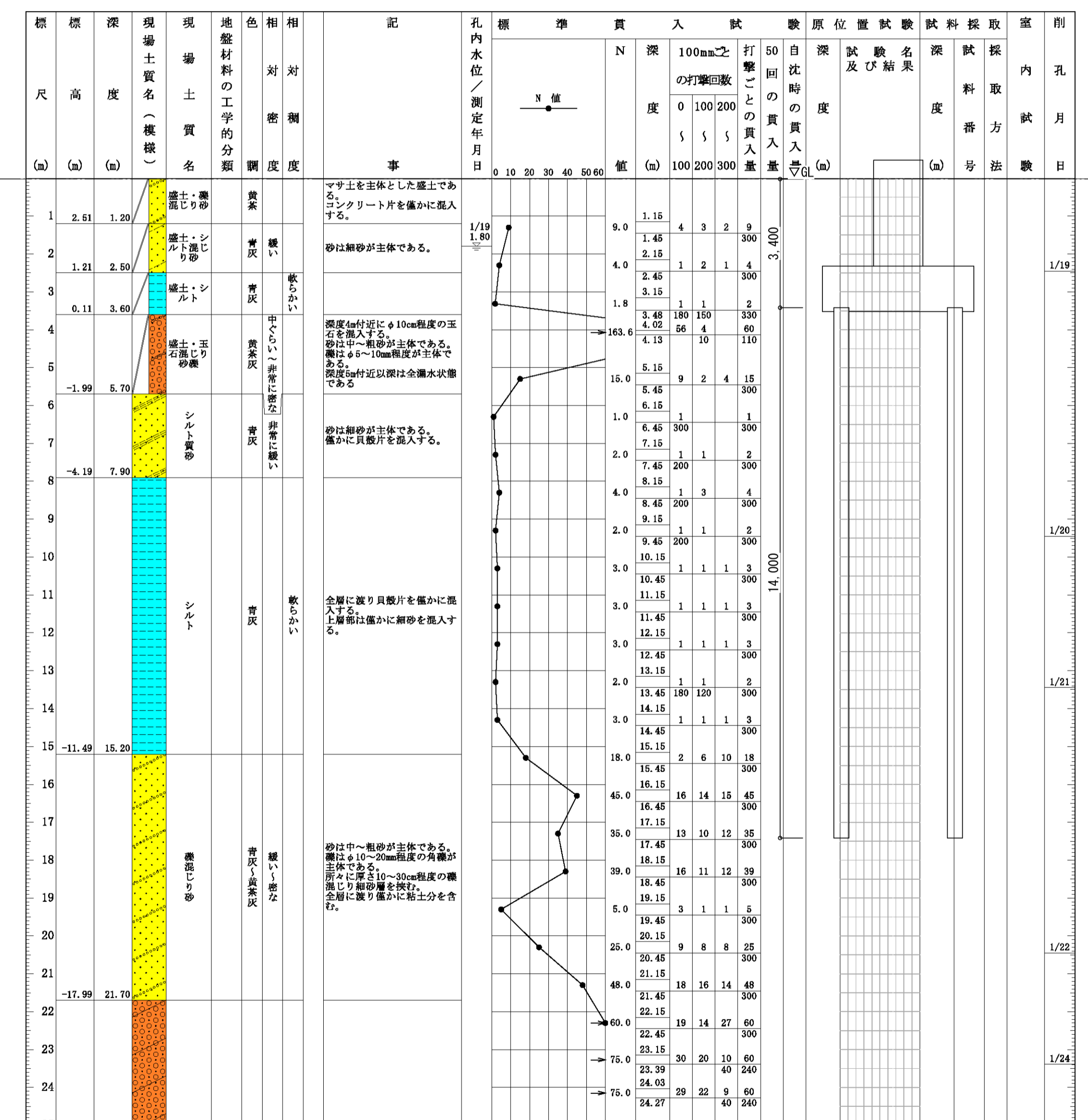
Table with project details for No. 2, including location (広島県福山市水呑町地内), dates (令和04年01月29日~令和04年02月08日), and equipment used (東邦地下工機製 D2-C型).



土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 福山市竹ヶ端運動公園庭球場整備他新築工事に伴う地質調査委託
事業名または工事名
調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

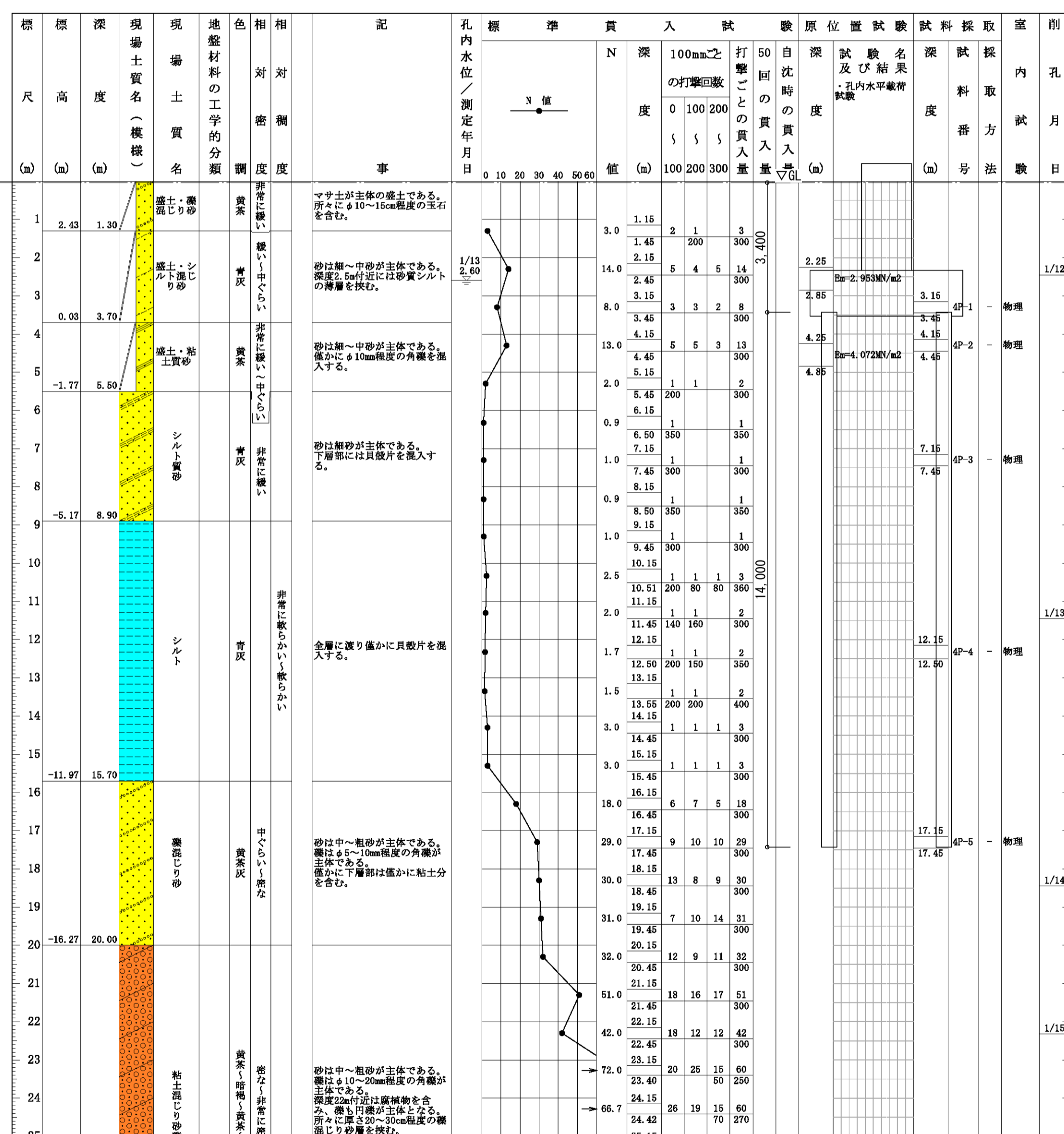
Table with project details for No. 3, including location (広島県福山市水呑町地内), dates (令和04年01月19日~令和04年01月26日), and equipment used (東邦地下工機製 D2-C型).



土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 福山市竹ヶ端運動公園庭球場屋根他新築工事に伴う地質調査委託
事業名または工事名
調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

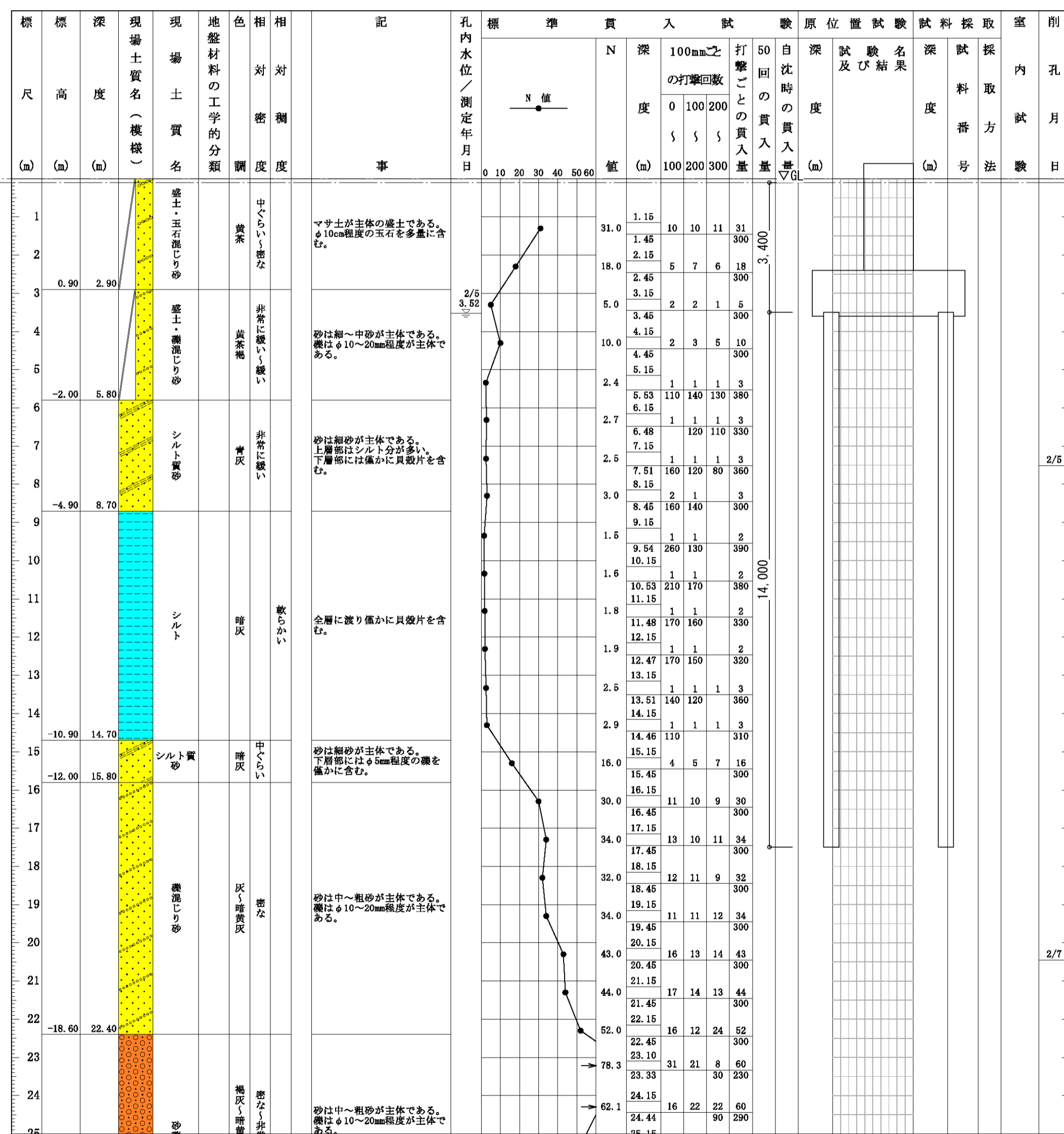
Table with 2 rows and 4 columns: ボーリング名 No.4, 調査位置 広島県福山市水呑町地内, 北緯 34° 26' 41.92", 東経 133° 23' 26.04". Includes details on equipment and personnel.



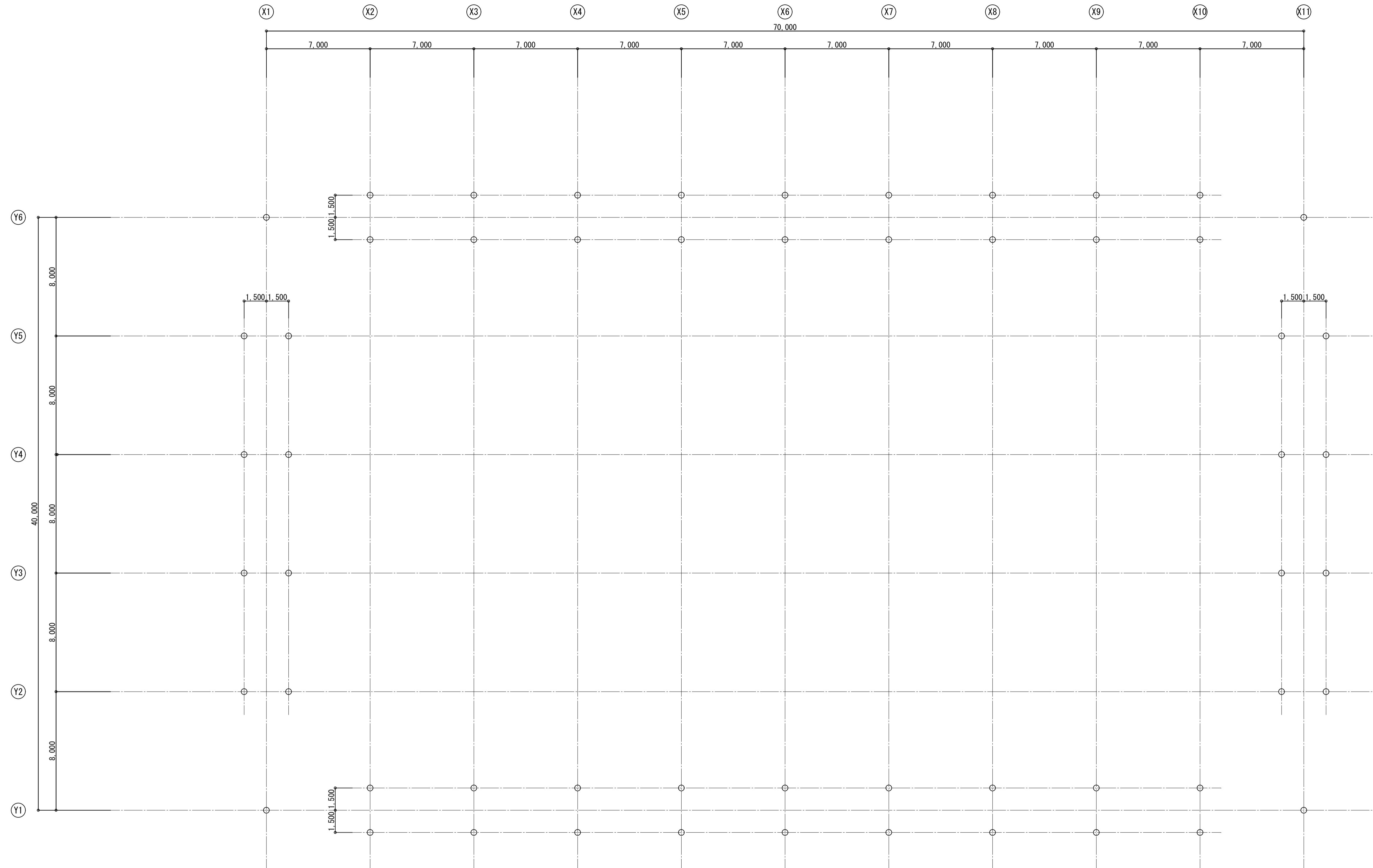
土質ボーリング柱状図 (標準貫入試験)

調査名 福山市竹ヶ端運動公園庭球場屋根他新築工事に伴う地質調査委託
事業名または工事名
調査目的及び調査対象 建築 構造物基礎

Table with 2 rows and 4 columns: ボーリング名 No.6, 調査位置 広島県福山市水呑町地内, 北緯 34° 26' 43.57", 東経 133° 23' 24.00". Includes details on equipment and personnel.







杭伏図 1/150

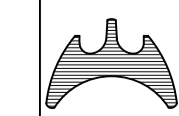
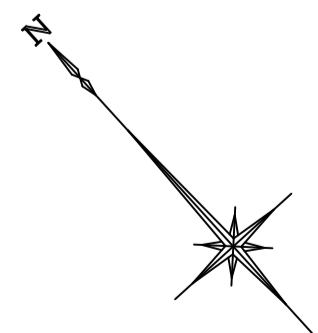
特記なき限り下記による

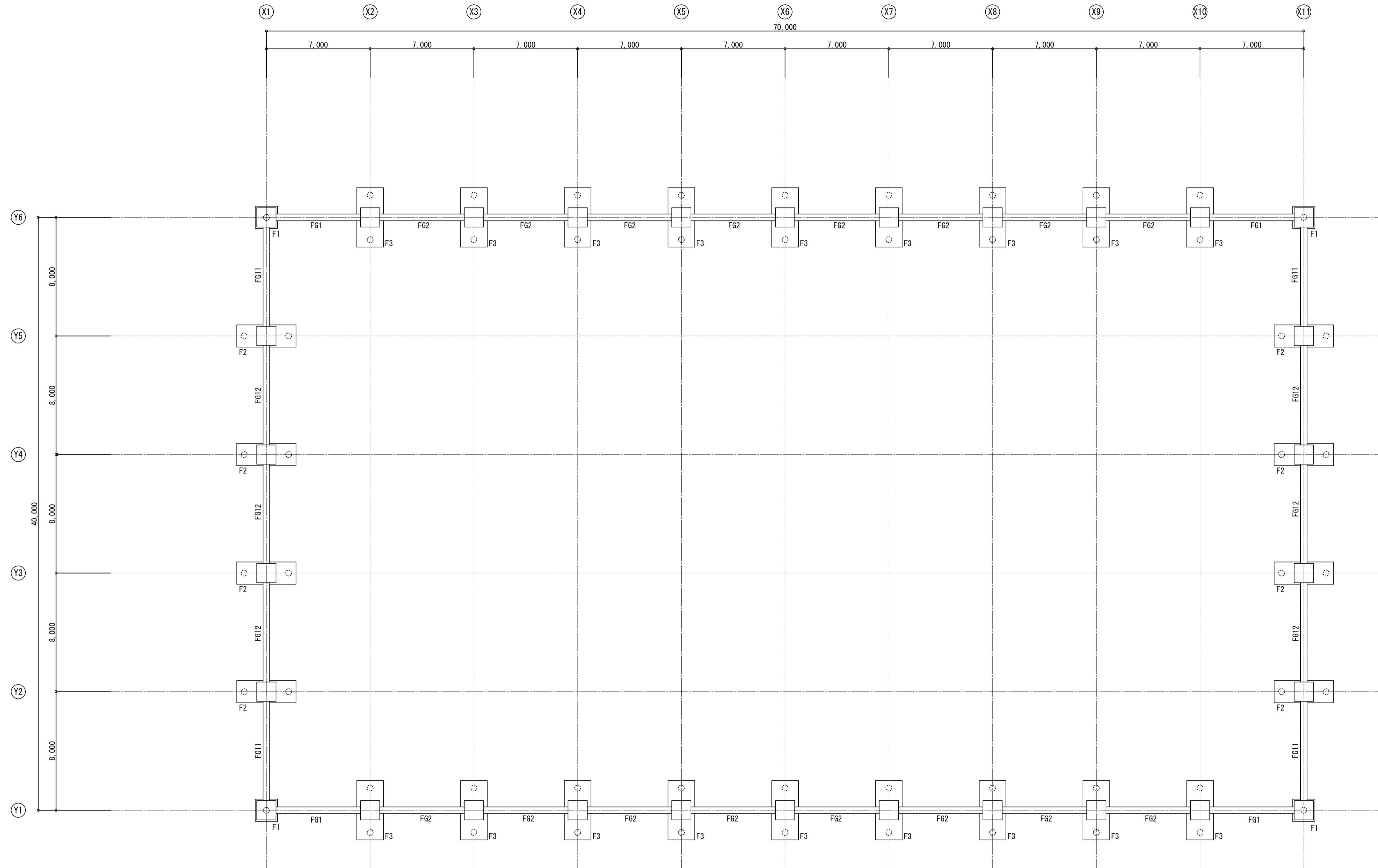
1. 杭はP1とする。
2. 通り芯=杭芯とする。

杭リスト

杭工法：プレボーリング拡大根固め工法（大臣認定工法）  
 下表支持力及び引抜抵抗力が確保できる仕様とすること。  
 （Smart-MAGNUM工法（標準型）同等）  
 また、根固め液は認定基準に基づくメーカー仕様とする。

杭符号	記号	杭(区間)	杭径(mm)・杭種	杭長(m)	杭全長(m)	杭天端設計GL-(m)	拡大掘削部径(mm)	根固め部径(mm) (拡大比α <sub>up</sub> )	拡翼掘削部長(m)	杭下拡大根固め部長さLL(m)	長期支持力	短期引抜抵抗力	本数	杭先端深さ	備考	杭頭補強筋 (パイルスタッド工法) (KSM490材)	
P1	○	上杭	JP-CPRC φ400 (IV種85N)	5.0	14.0	3.4	750	750 (1.25)	-	0.50	750 kN/本	470 kN/本	56本	GL-17.4m	PJ継手	本数・径	定着長さ
		下杭	JP-NPH φ550-400 (C種85N)	9.0												8-D25	40d

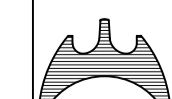
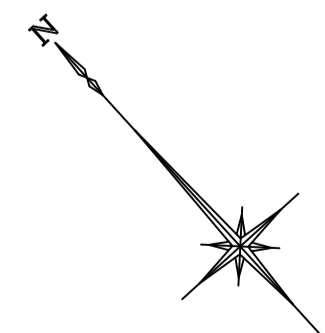




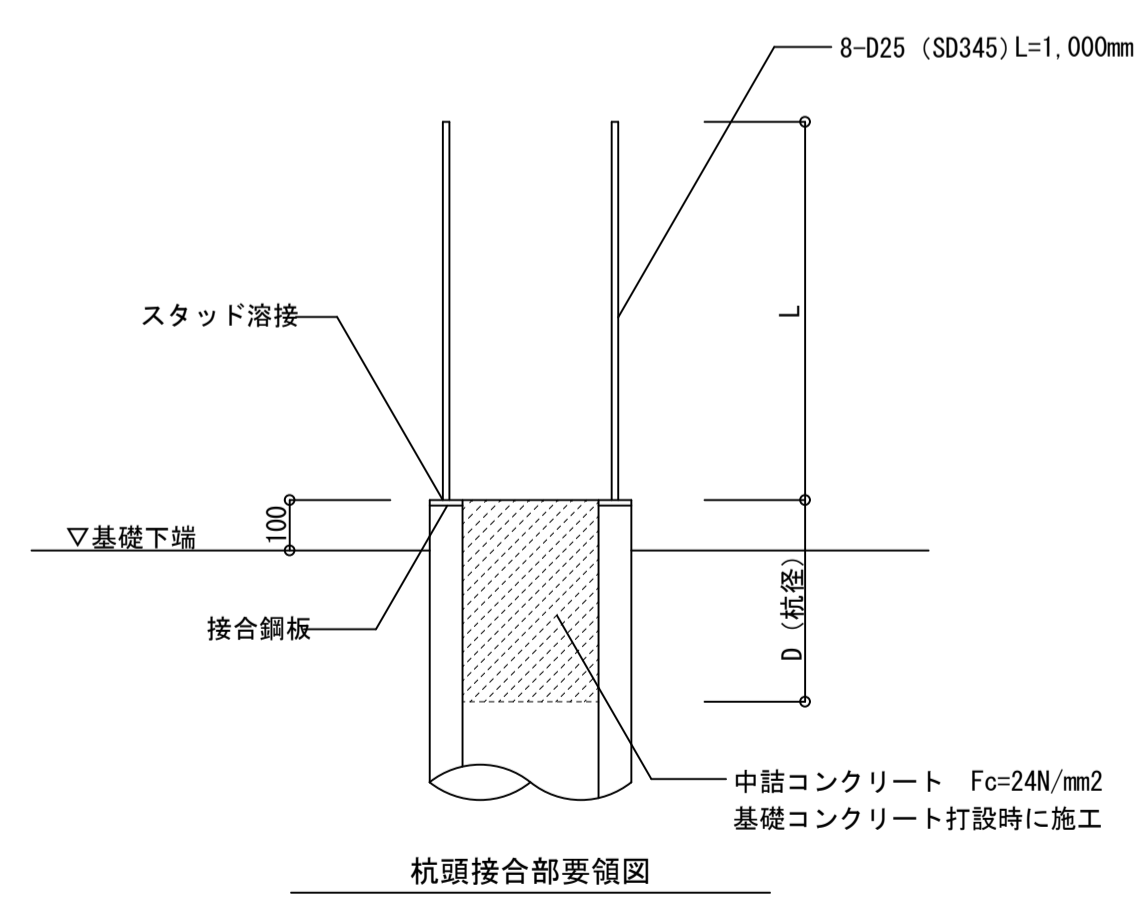
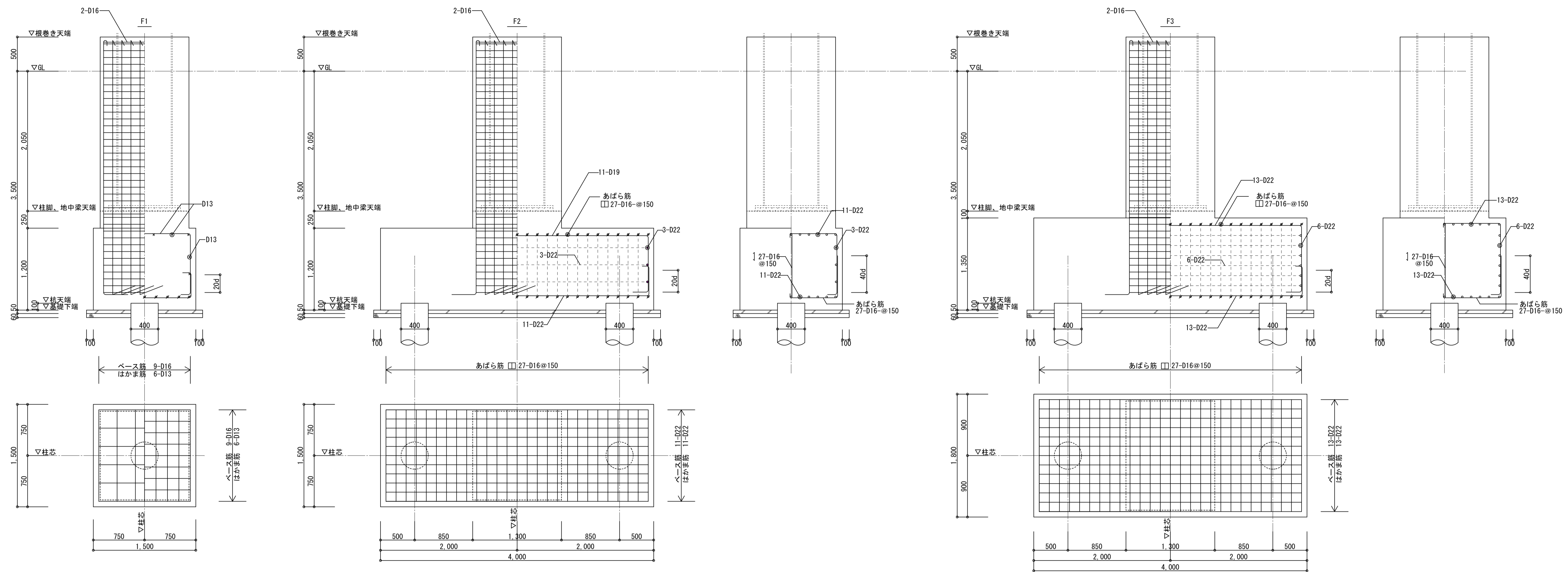
基礎伏図 1/150

特記なき限り下記による

1. 設計GL=3.73m
2. 特記なき基礎下端レベルは、GL-3.500とする。
3. 通り芯=基礎芯=柱芯とする。
4. 地中梁天端は、GL -2.050とする。
5. 柱はRC1とし、根巻き柱脚天端は、GL+500とする。

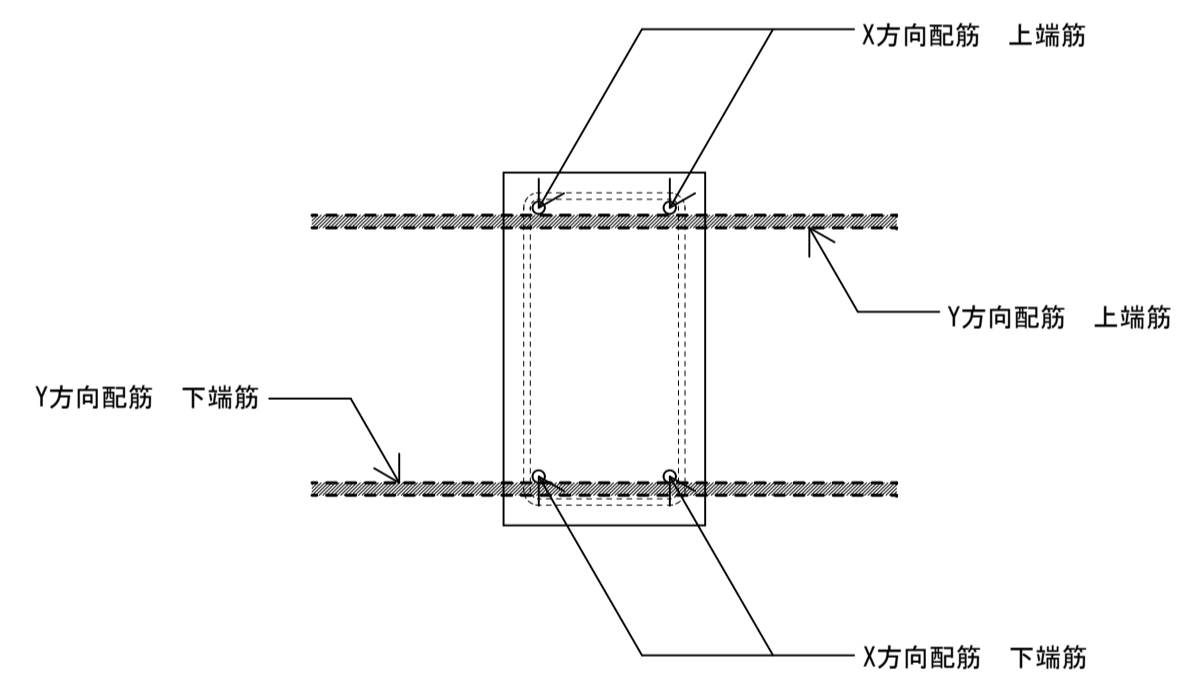


基礎リスト 1/30



地中梁リスト 1/30 幅止め筋 D10-@1000

符号	F61	F62	F611	F612		
位置	全断面	全断面	全断面	全断面		
▽GL						
断面						
寸法 (bxD)	450 × 900	450 × 900	450 × 900	450 × 900		
上端筋	6-D25	5-D25	6-D25	4-D25		
下端筋	6-D25	5-D25	6-D25	4-D25		
あばら筋	□ -D13@200	□ -D13@200	□ -D13@200	□ -D13@200		
腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10		
備考						



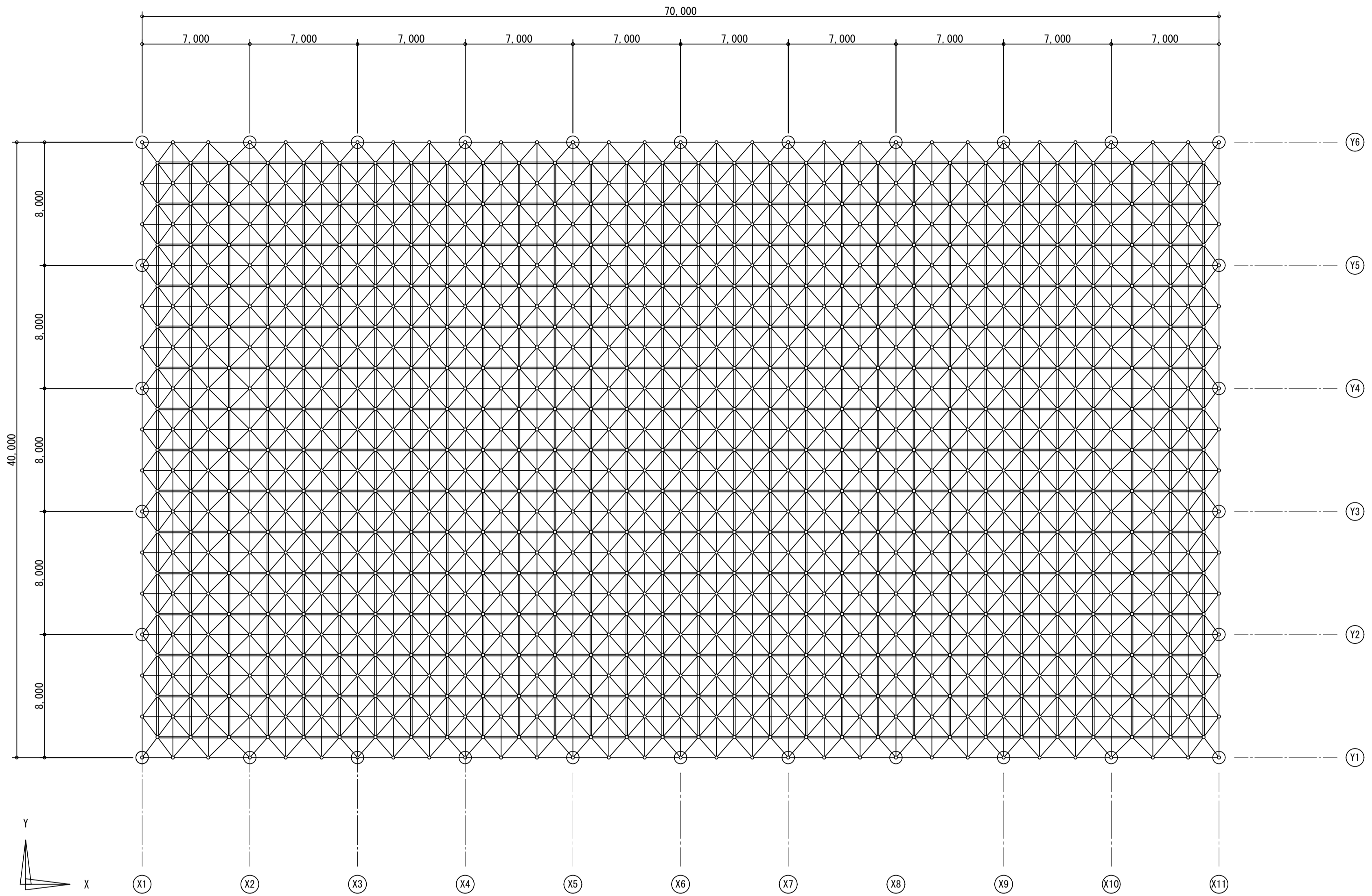
大梁主筋の位置関係の優先は上記とする

柱リスト 1/40

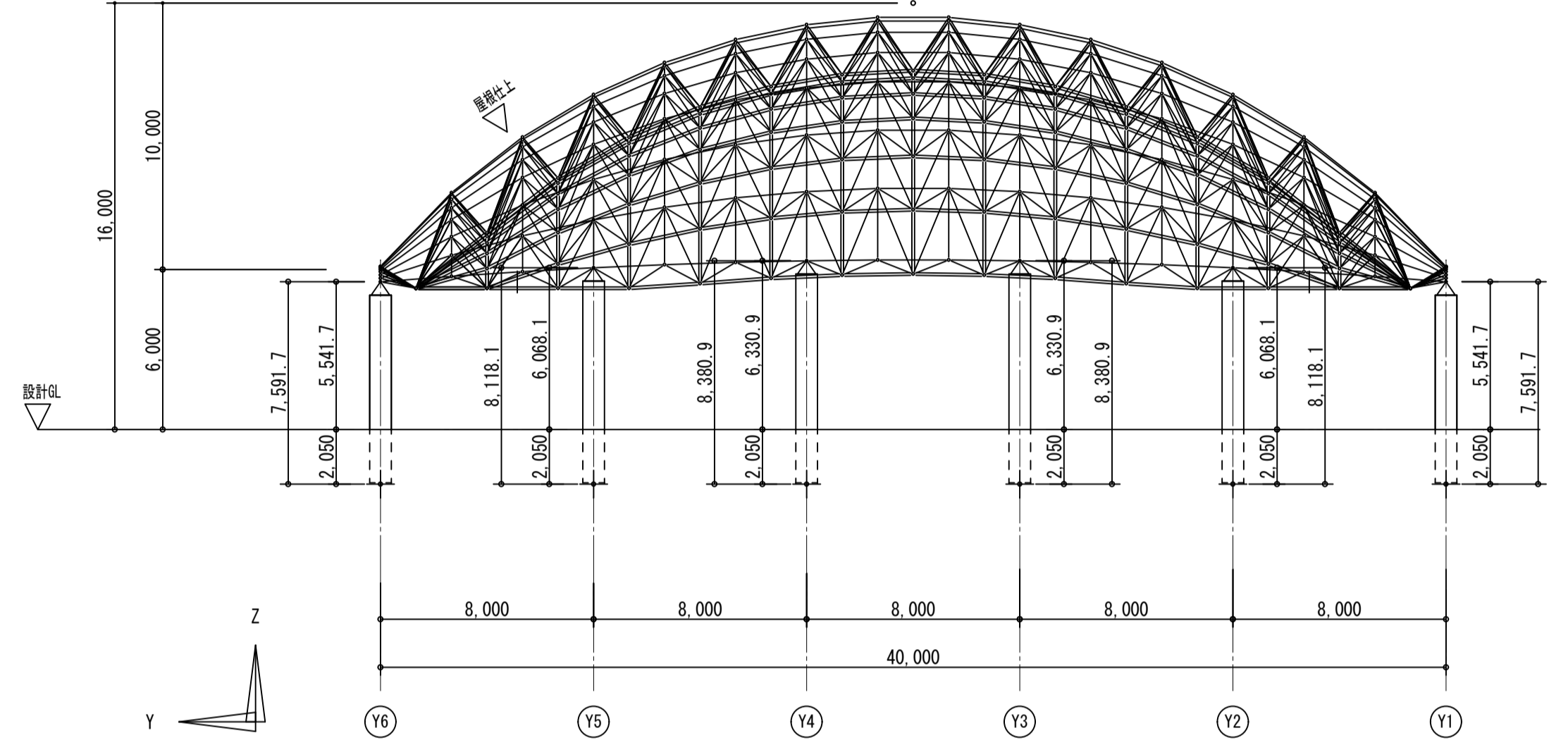
符号	RC1	
位置	脚部	根巻き部
断面		
寸法 (bxD)	1,300x1,300	1,300x1,300
主筋	32-D25	32-D25
帯筋	□ -D16@100	□ -D16@100
備考		

特記事項

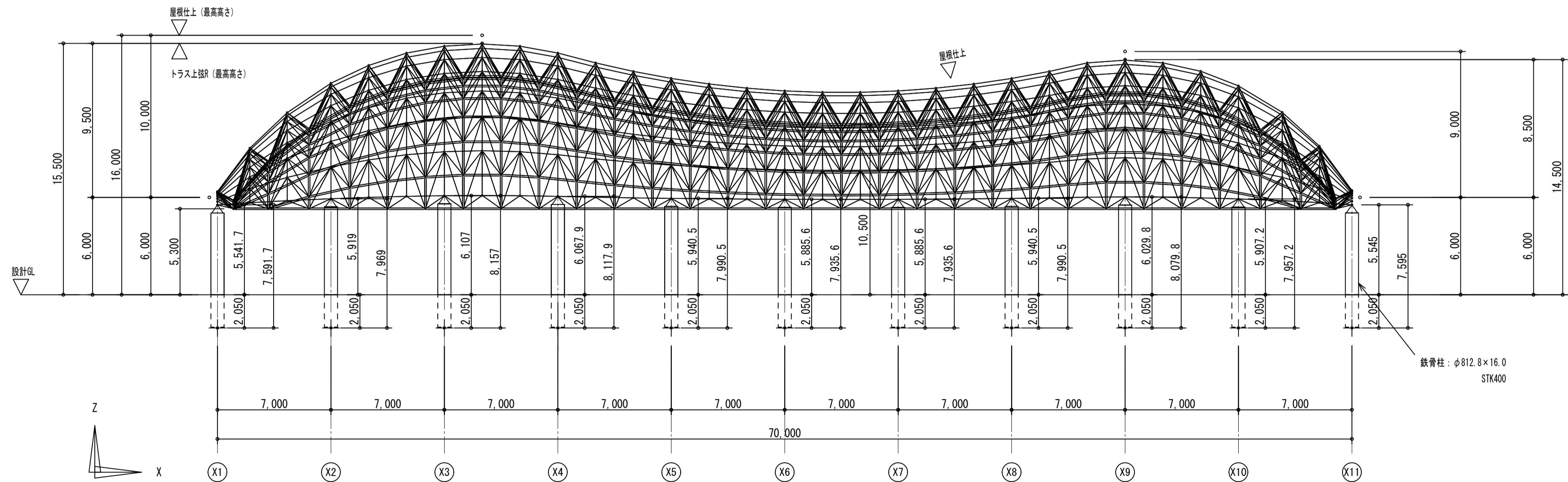
上弦材	
斜材	
下弦材	
グローブ	
支承部	



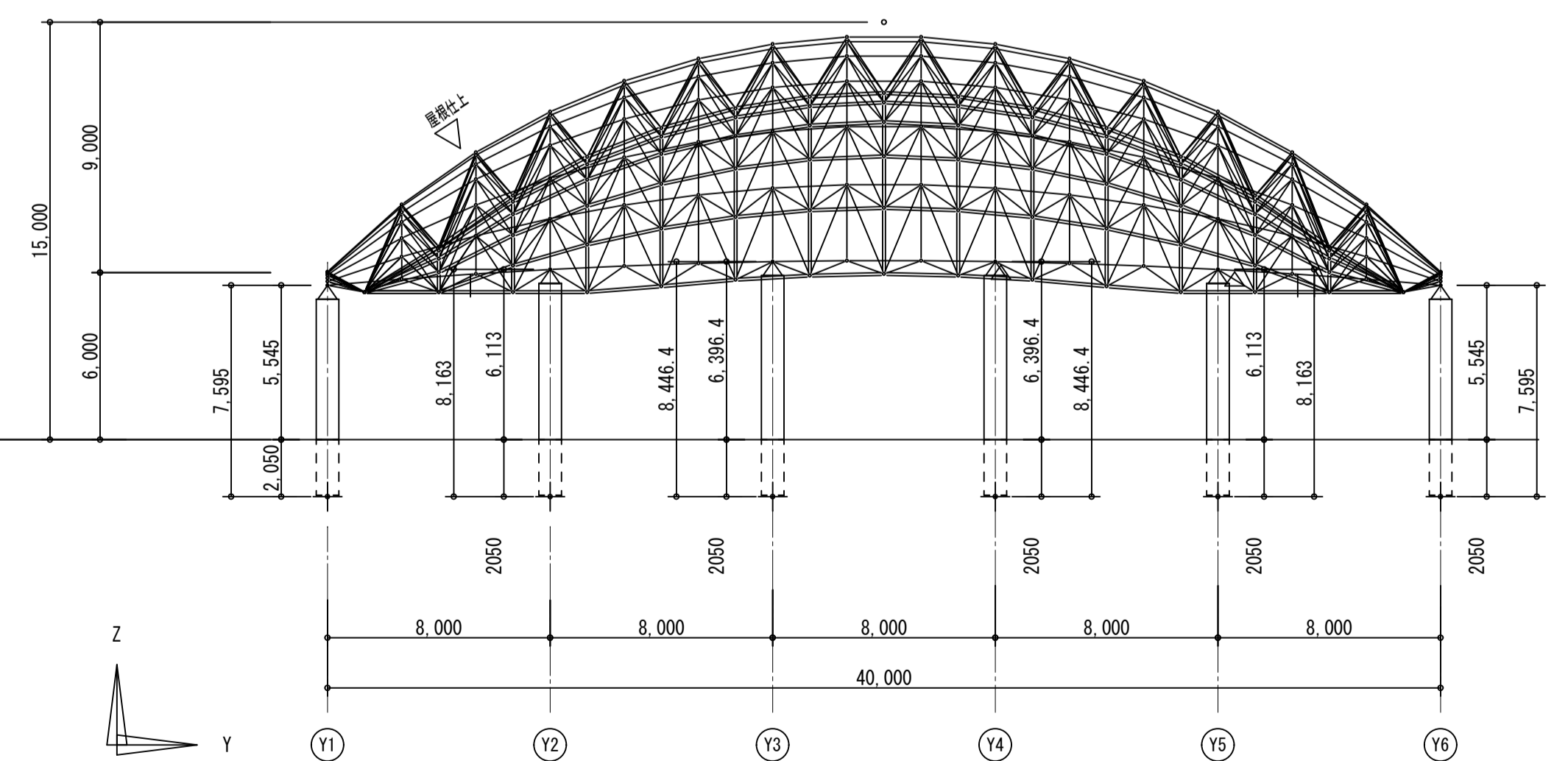
トラス伏図 1 : 200



X1 立面図 1 : 200



立面図 1 : 200



X11 立面図 1 : 200

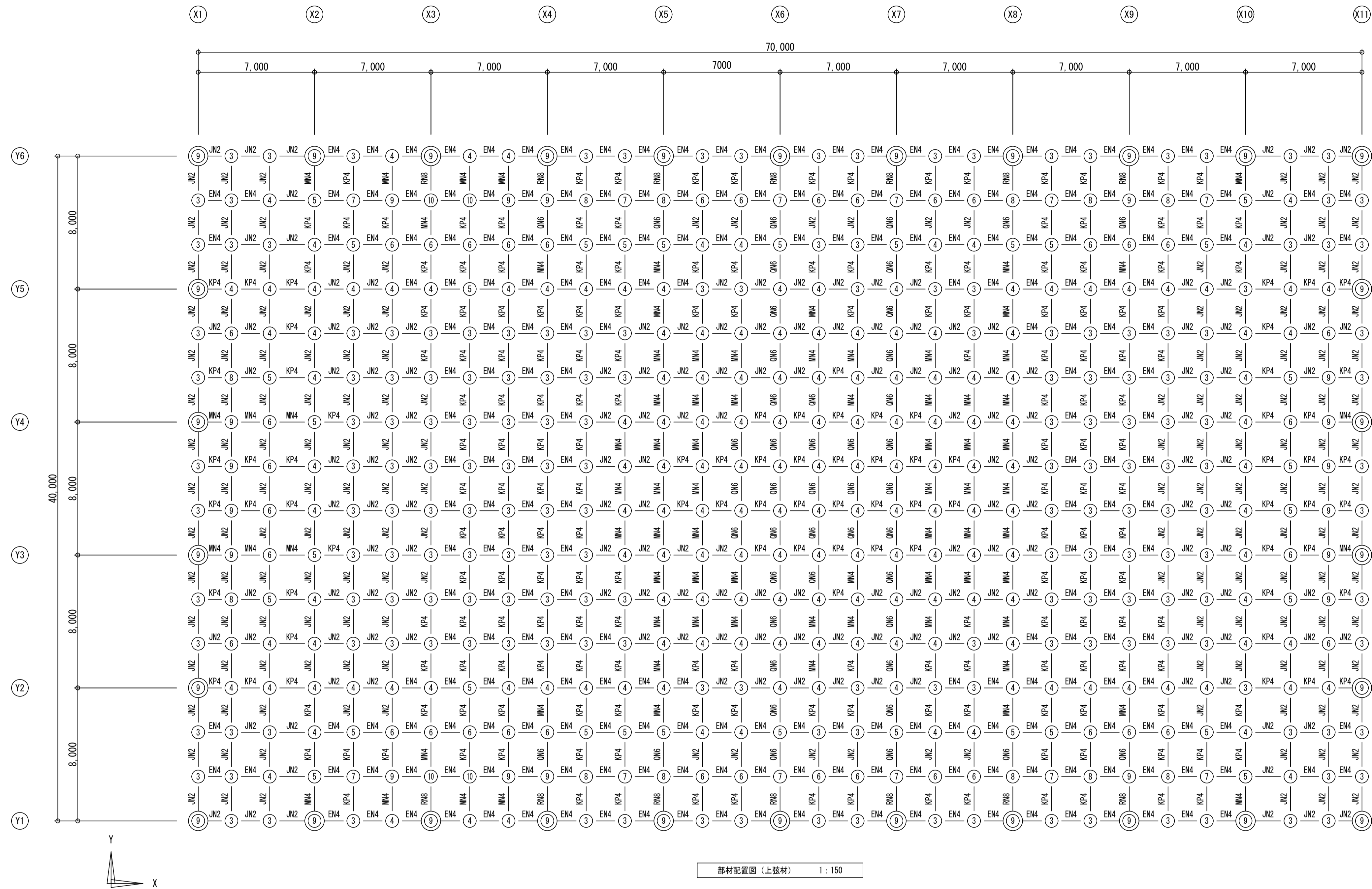

株式会社 車田建築設計事務所  
 KURUMADA ARCHITECT & ASSOCIATES  
 1級建築士事務所 登録 22(1)第0587号



福山市建設局建築部営繕課  
 設計 2023年 3月

工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事  
 図面名称 トラス伏図 立面図

図番 No. S-38  
 縮尺 1:200  
 A1版:100%  
 A3版:50%

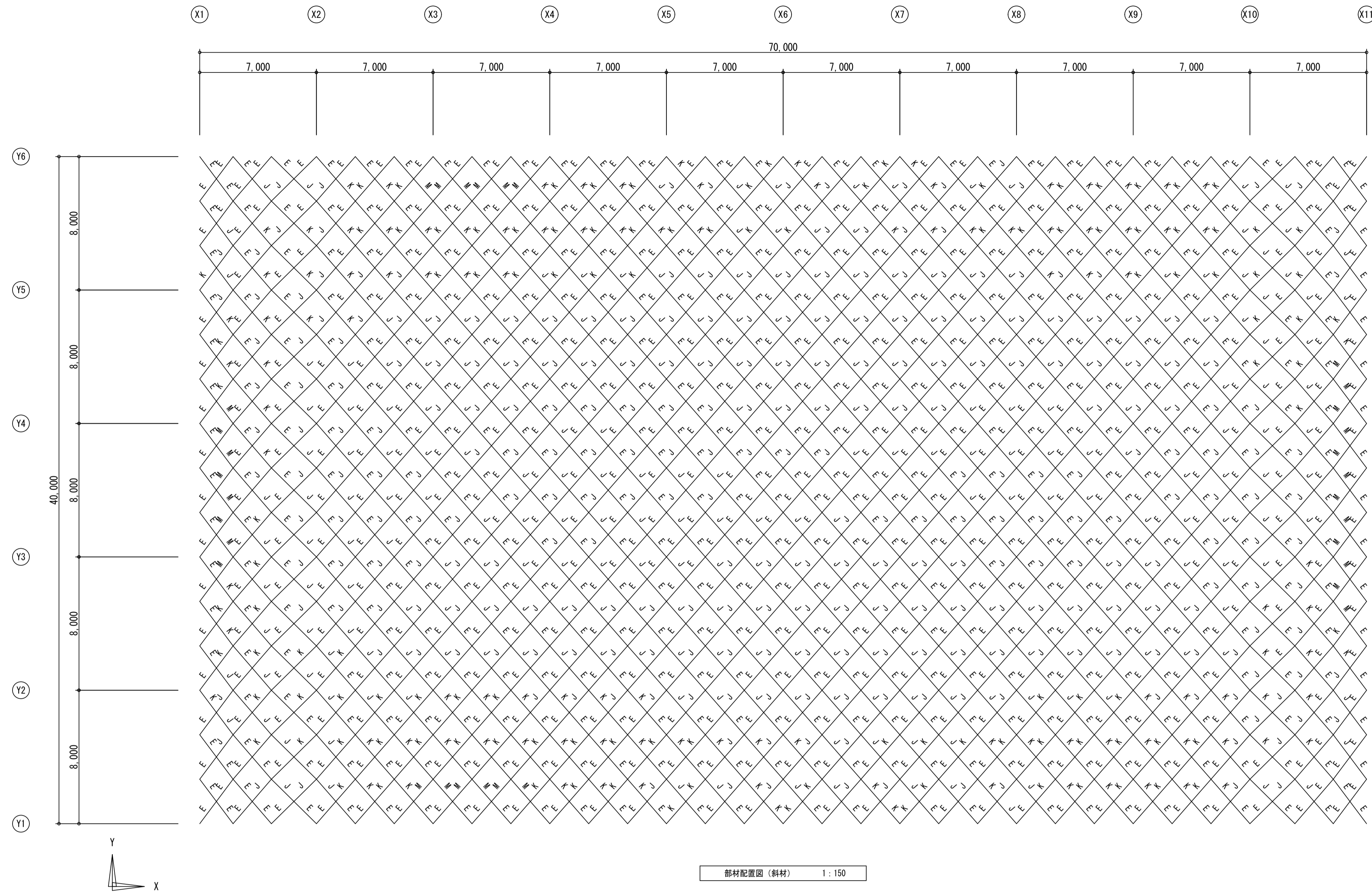


部材配置図 (上弦材) 1:150

部材リスト (上弦材)

パイプ							
記号	パイプ	ボルト	備考	記号	パイプ	ボルト	備考
EN4	P- 60. 5x 3. 2	M20		MN4	P-101. 6x 4. 2	M27	
JN2	P- 76. 3x 3. 2	M20		QN6	P-114. 3x 4. 5	M30	
KP4	P- 89. 1x 4. 2	M24		RN8	P-139. 8x 4. 5	M36	

グローブ								
記号	グローブ	備考	記号	グローブ	備考	記号	グローブ	備考
③	φ-110/103		⑥	φ-180/160		⑨	φ-260/240	
④	φ-130/120		⑦	φ-200/182		⑩	φ-260/240	球状支承グローブ
⑤	φ-150/136		⑧	φ-220/192			φ-300/270	

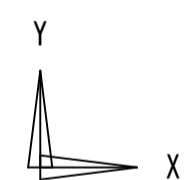
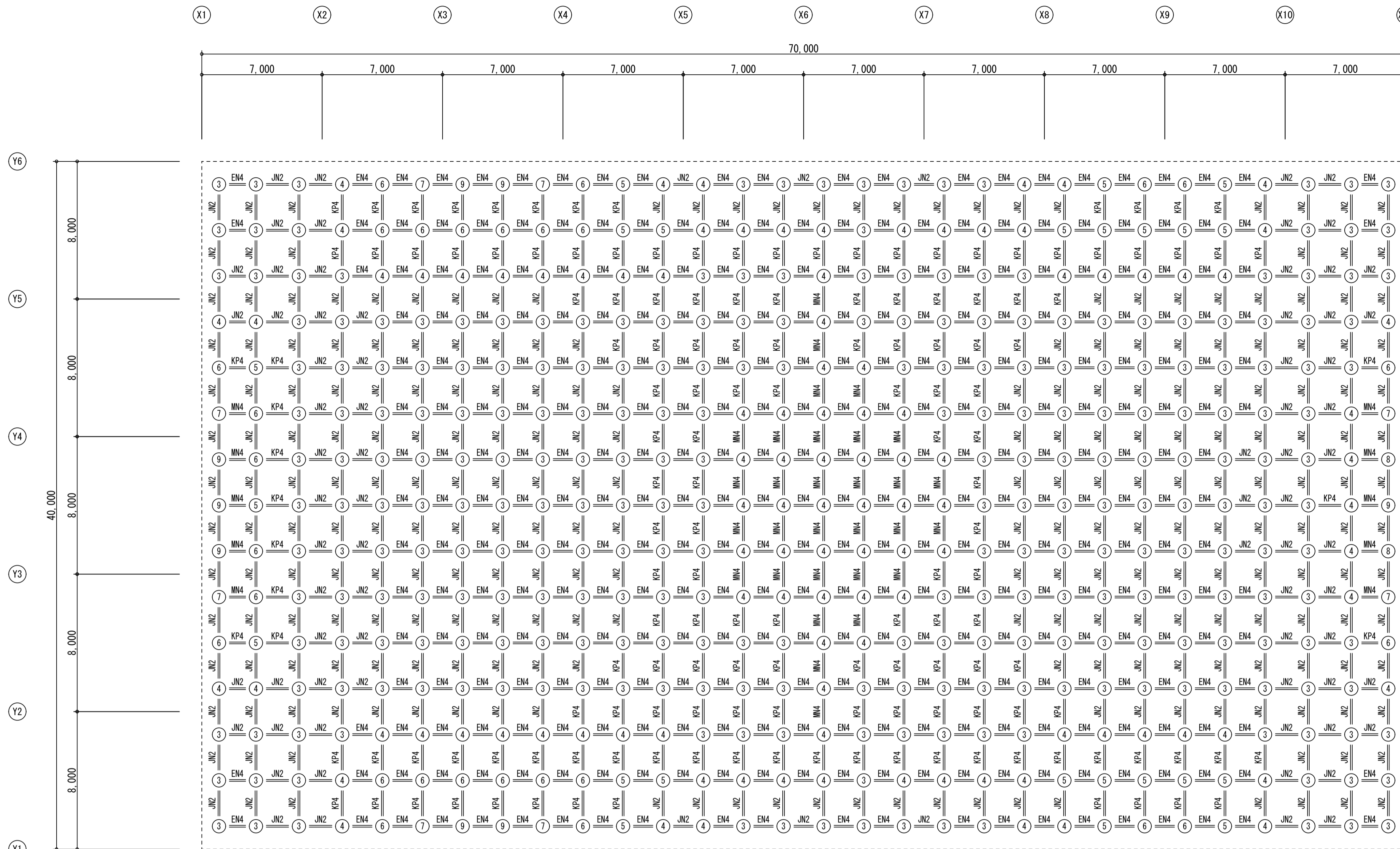


部材配置図 (斜材) 1 : 150

部材リスト (斜材)

パイプ

記号	パイプ	ボルト	備考	記号	パイプ	ボルト	備考
E	P- 60.5x 3.2	M20	(EN4)	M	P-101.6x 4.2	M27	(MN4)
J	P- 76.3x 3.2	M20	(JN2)				
K	P- 89.1x 4.2	M24	(KP4)				



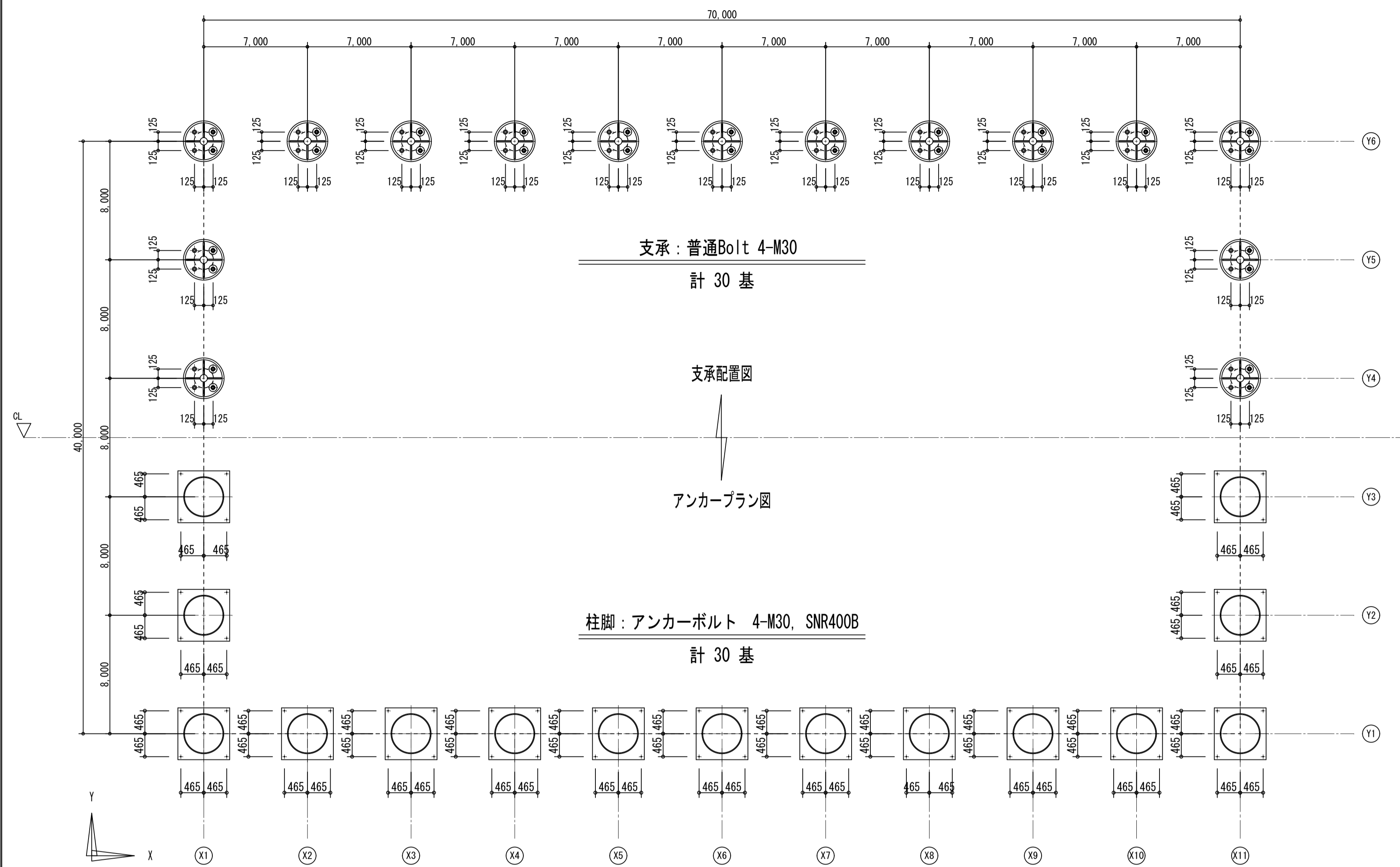
部材配置図 (下弦材) 1 : 150

部材リスト (下弦材)

パイプ				グローブ			
記号	パイプ	ボルト	備考	記号	パイプ	ボルト	備考
EN4	P- 60.5x 3.2	M20		MN4	P-101.6x 4.2	M27	
JN2	P- 76.3x 3.2	M20					
KP4	P- 89.1x 4.2	M24					

グローブ			
記号	グローブ	備考	備考
③	φ-110/103		
④	φ-130/120		
⑤	φ-150/136		
⑥	φ-180/160		
⑦	φ-200/182		
⑧	φ-220/192		
⑨	φ-260/240		

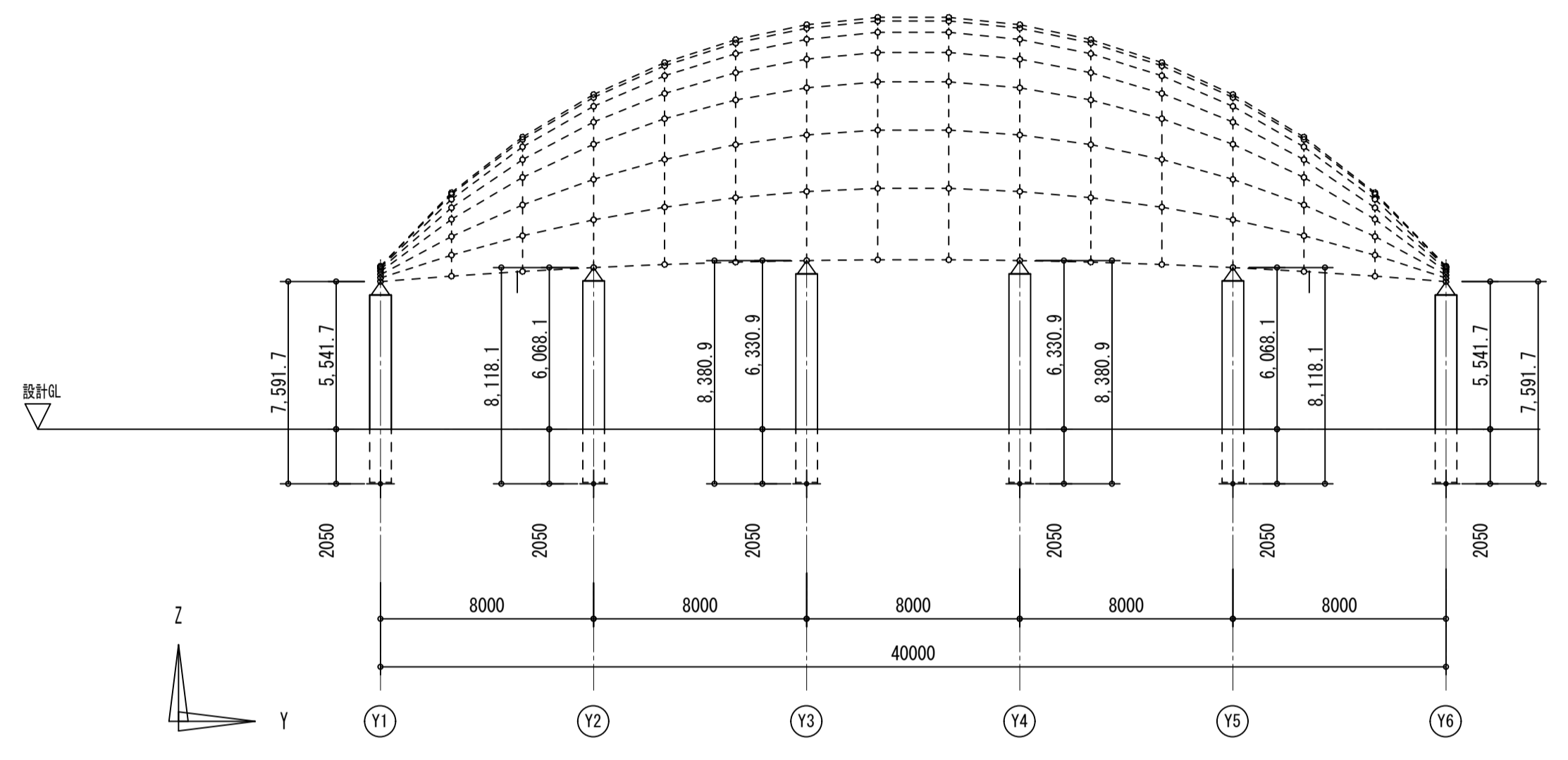




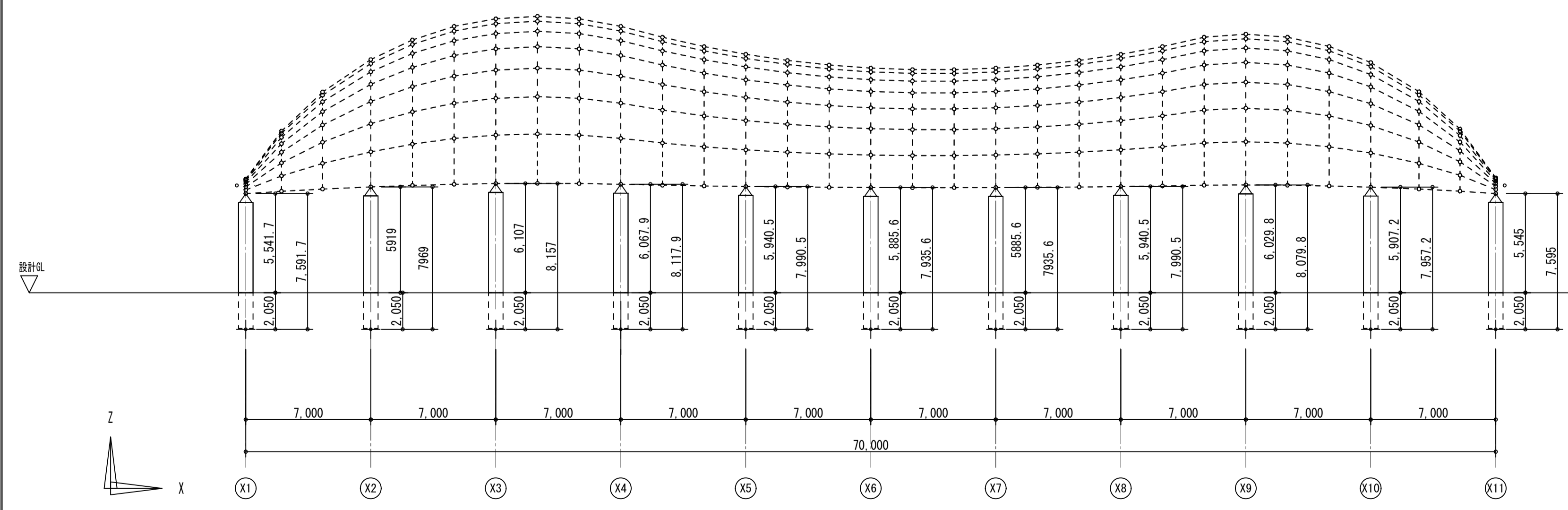
支脚配置図 1 : 200 (1 : 40)  
アンカープラン図 1 : 200 (1 : 60)

部材リスト

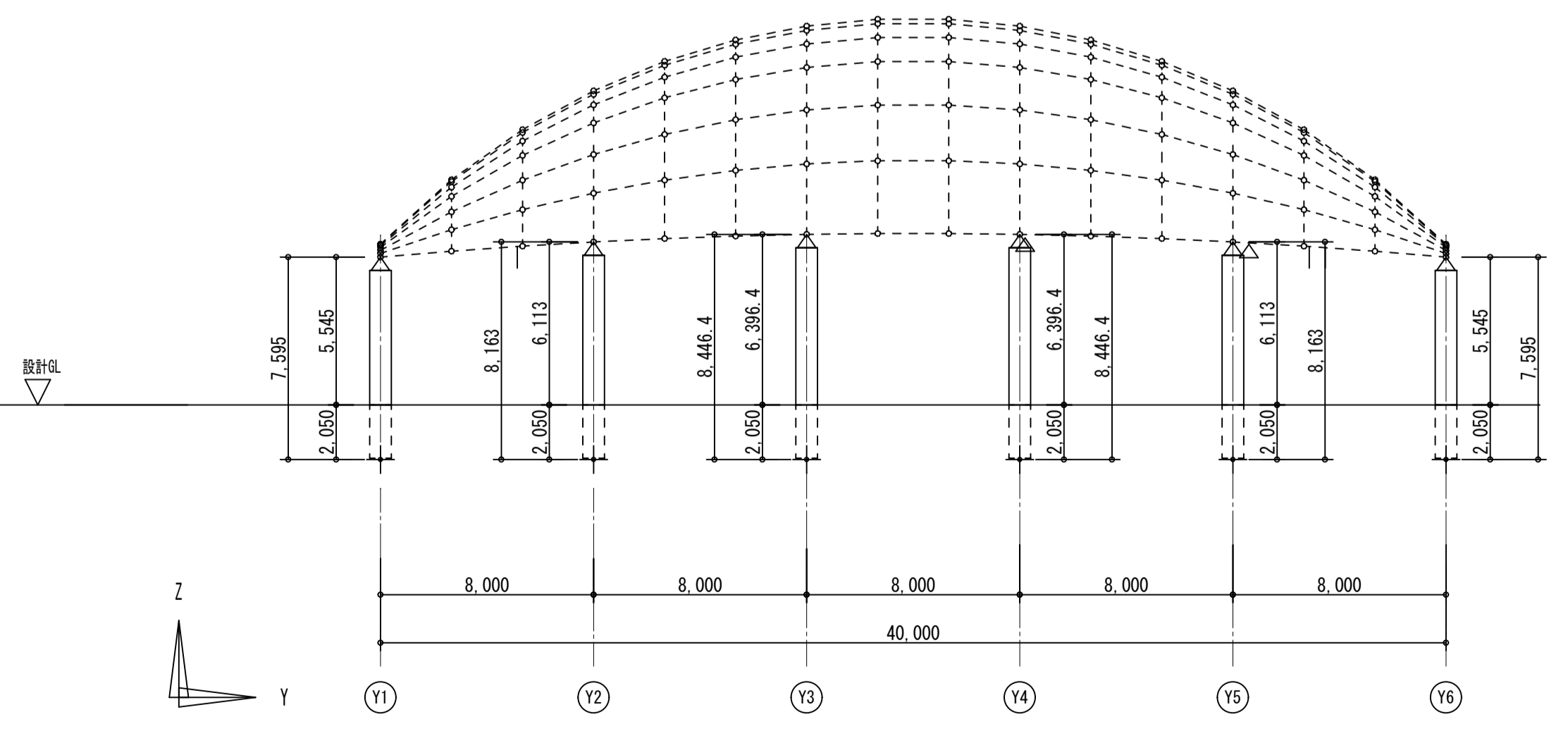
名称	使用部材
鉄骨柱	φ812.8×16.0, STK400



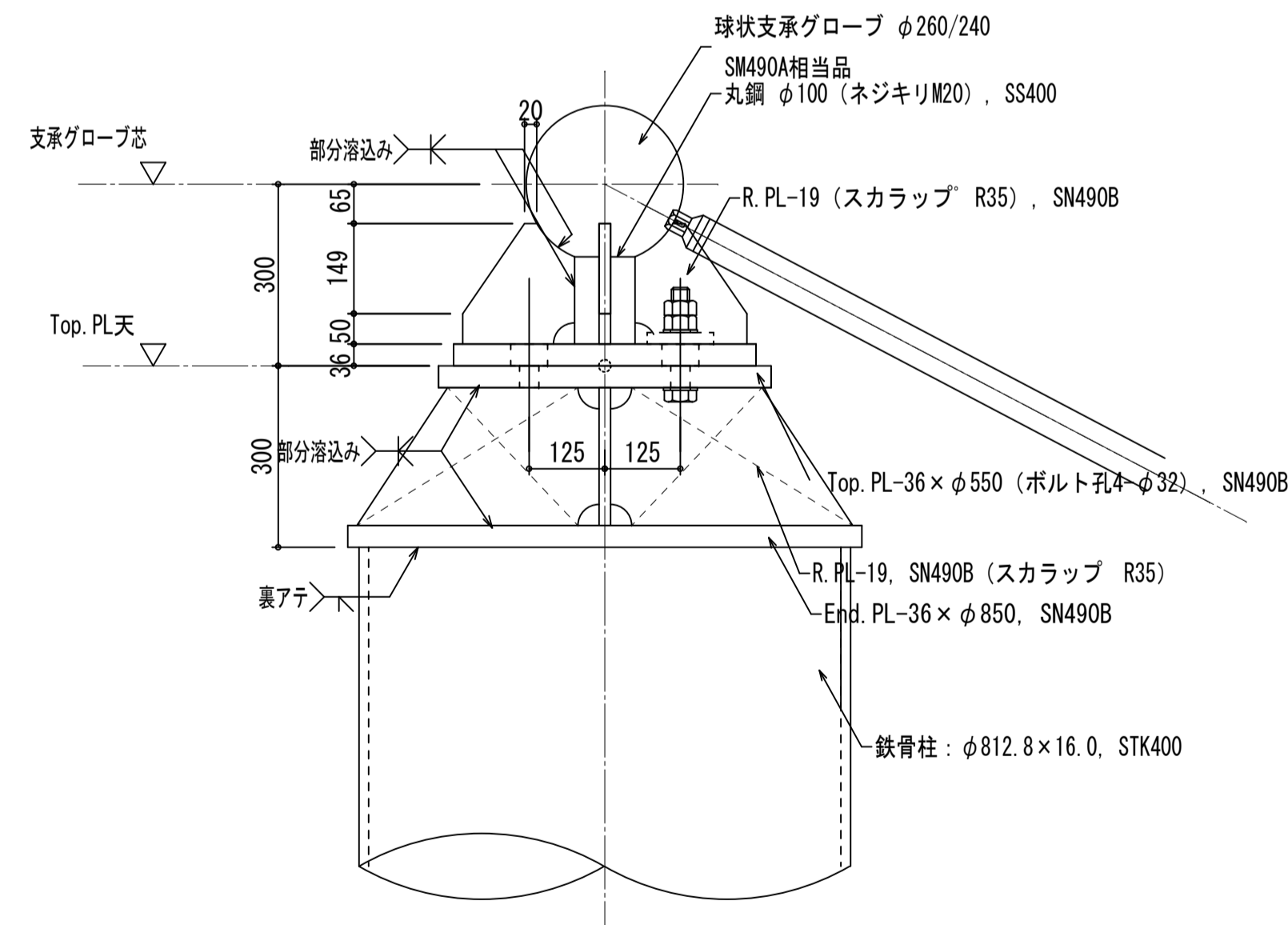
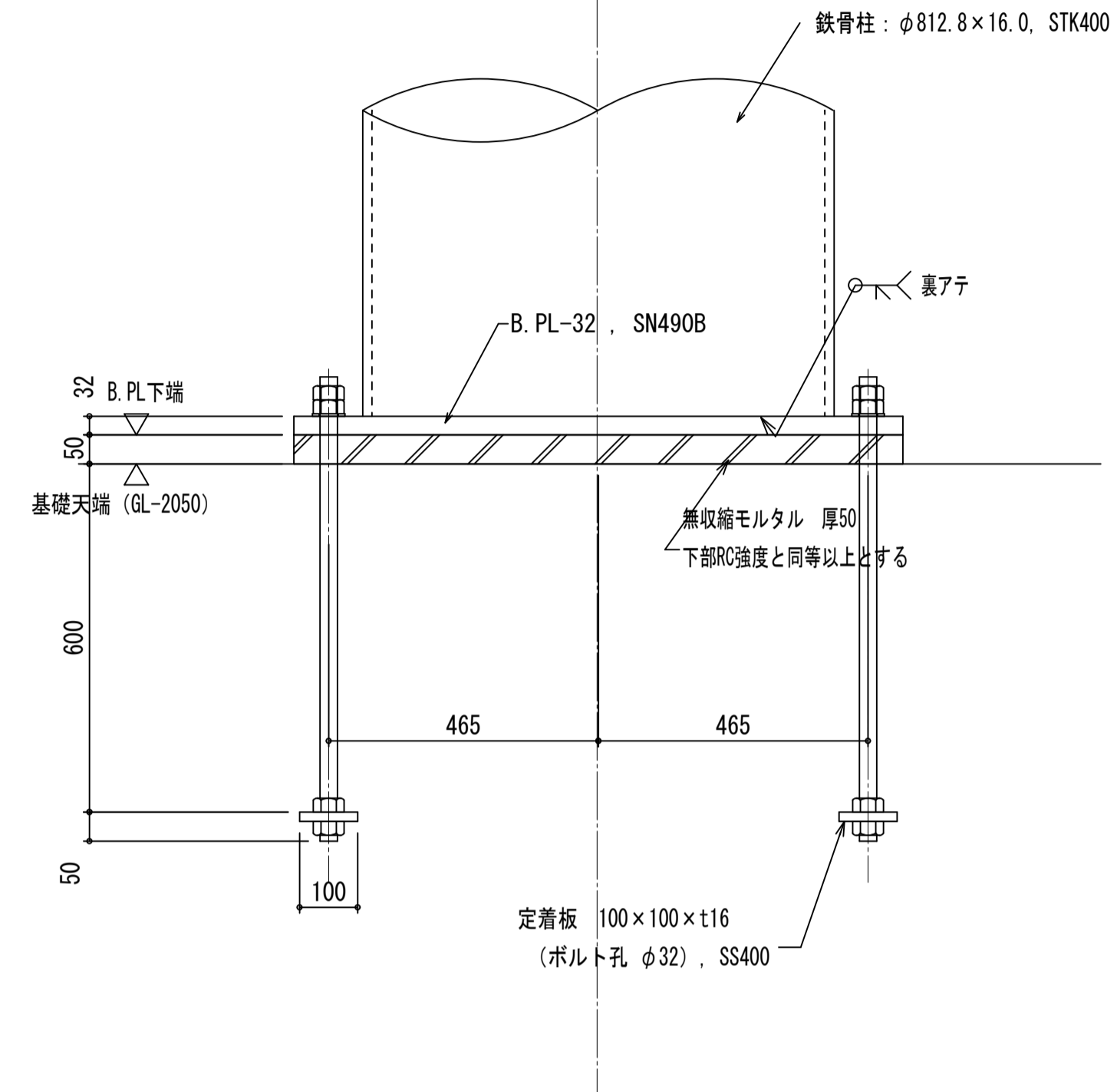
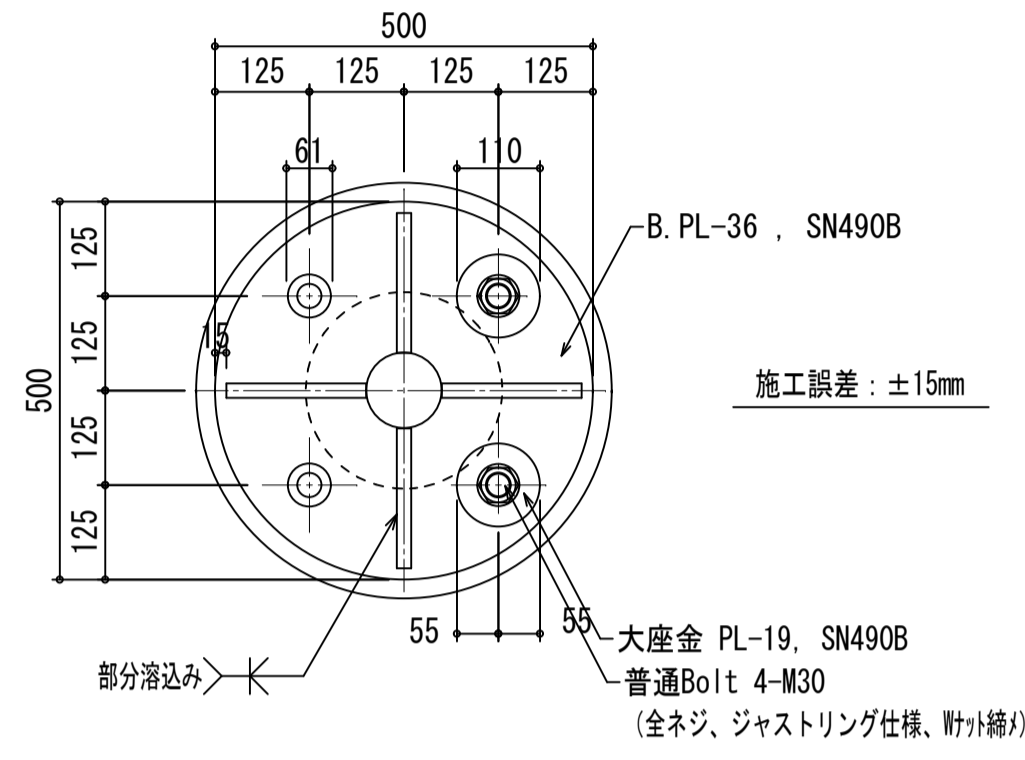
X1 鉄骨柱図 1 : 300



Y1, Y6 鉄骨柱図 1 : 200

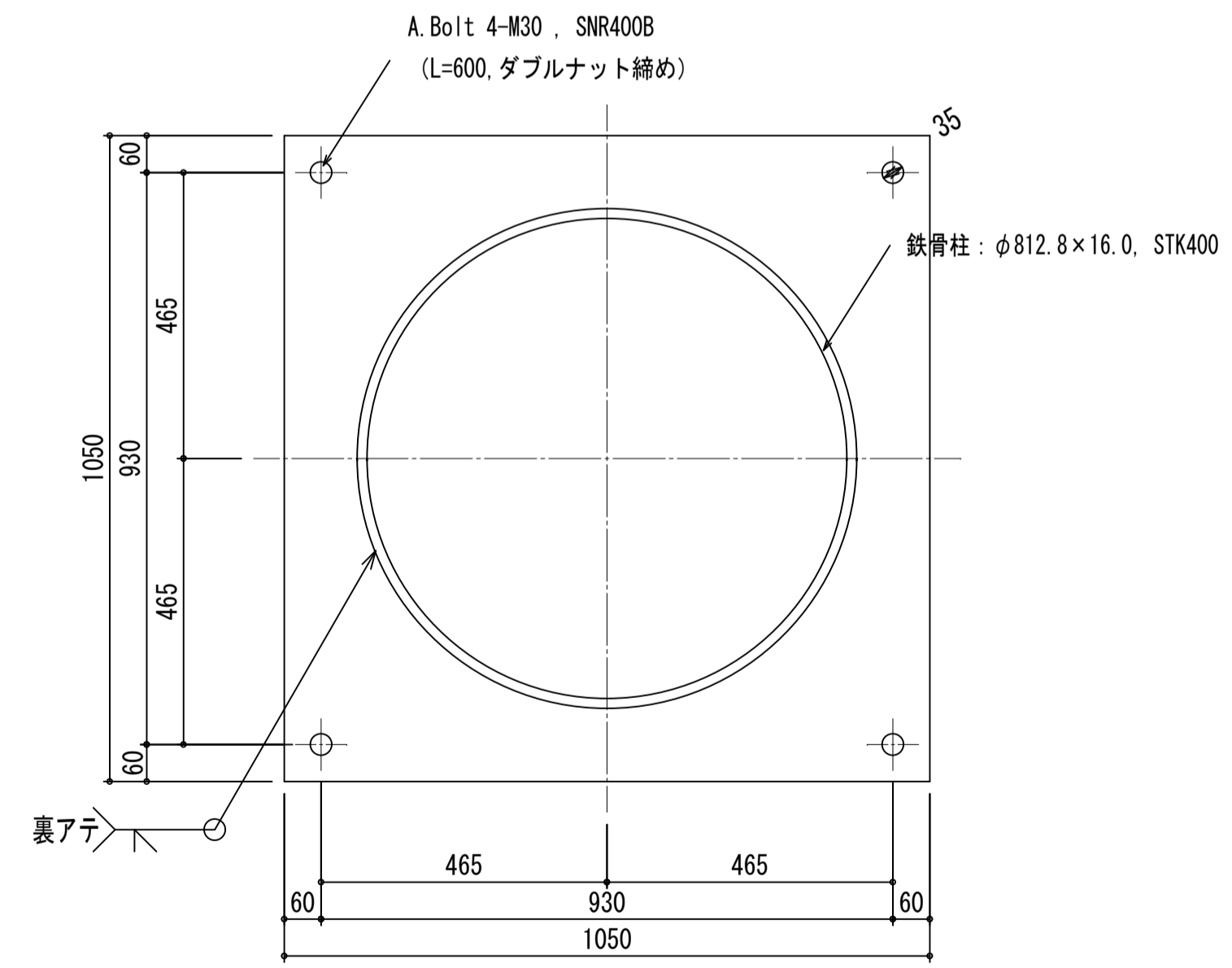


X11 鉄骨柱図 1 : 200



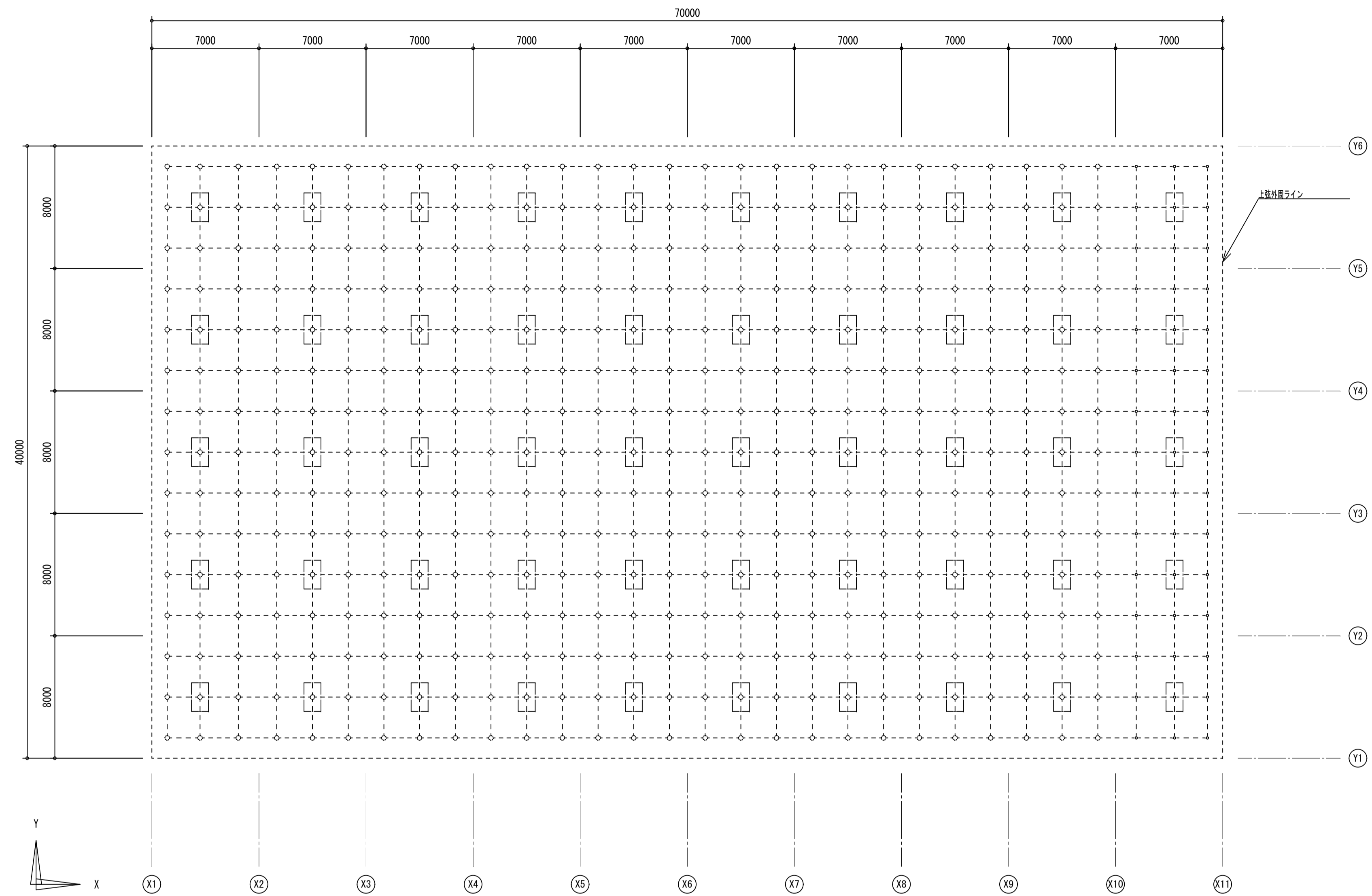
支承詳細図 1:10

計 30 基

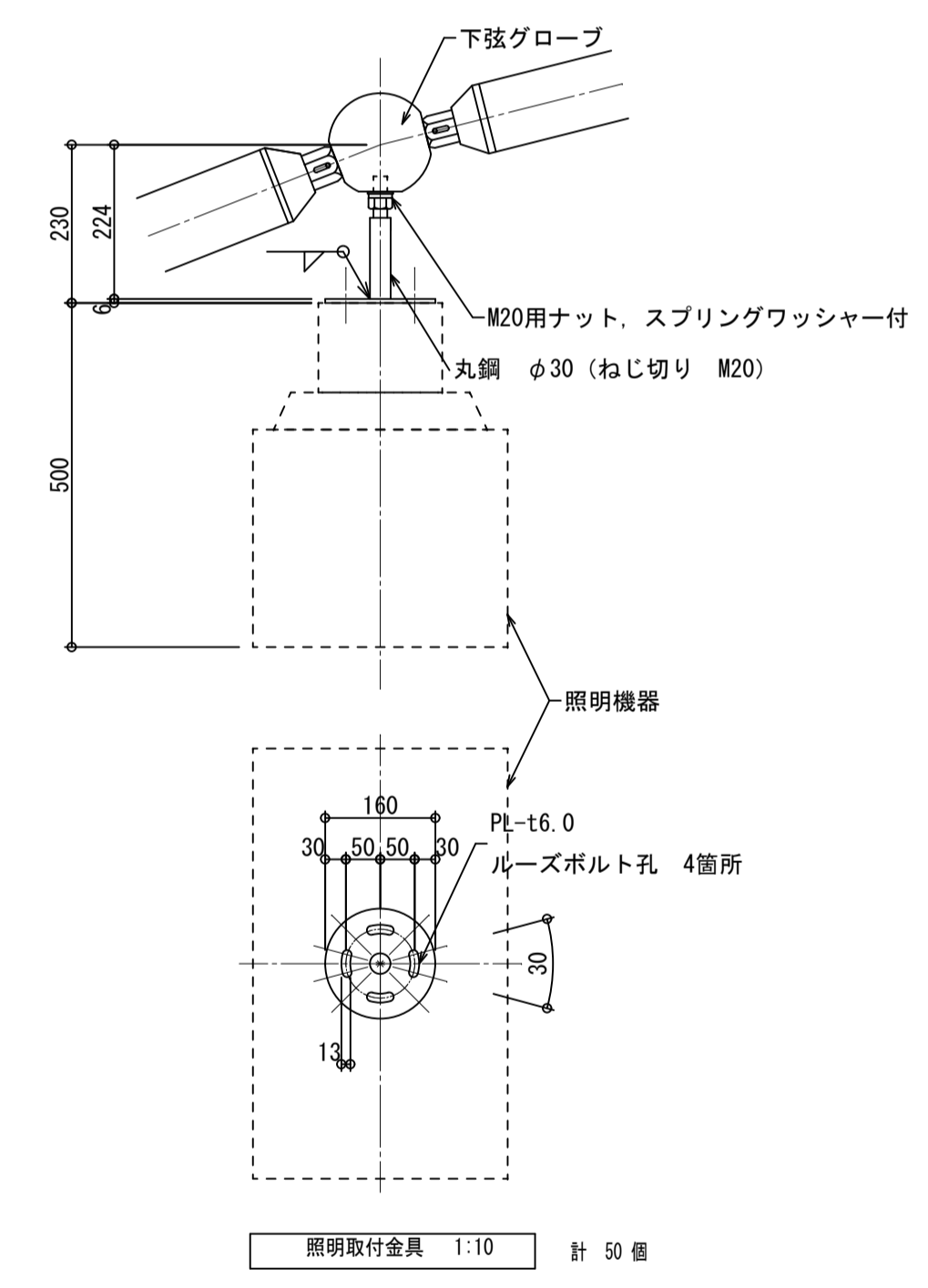


柱脚詳細図 1:10

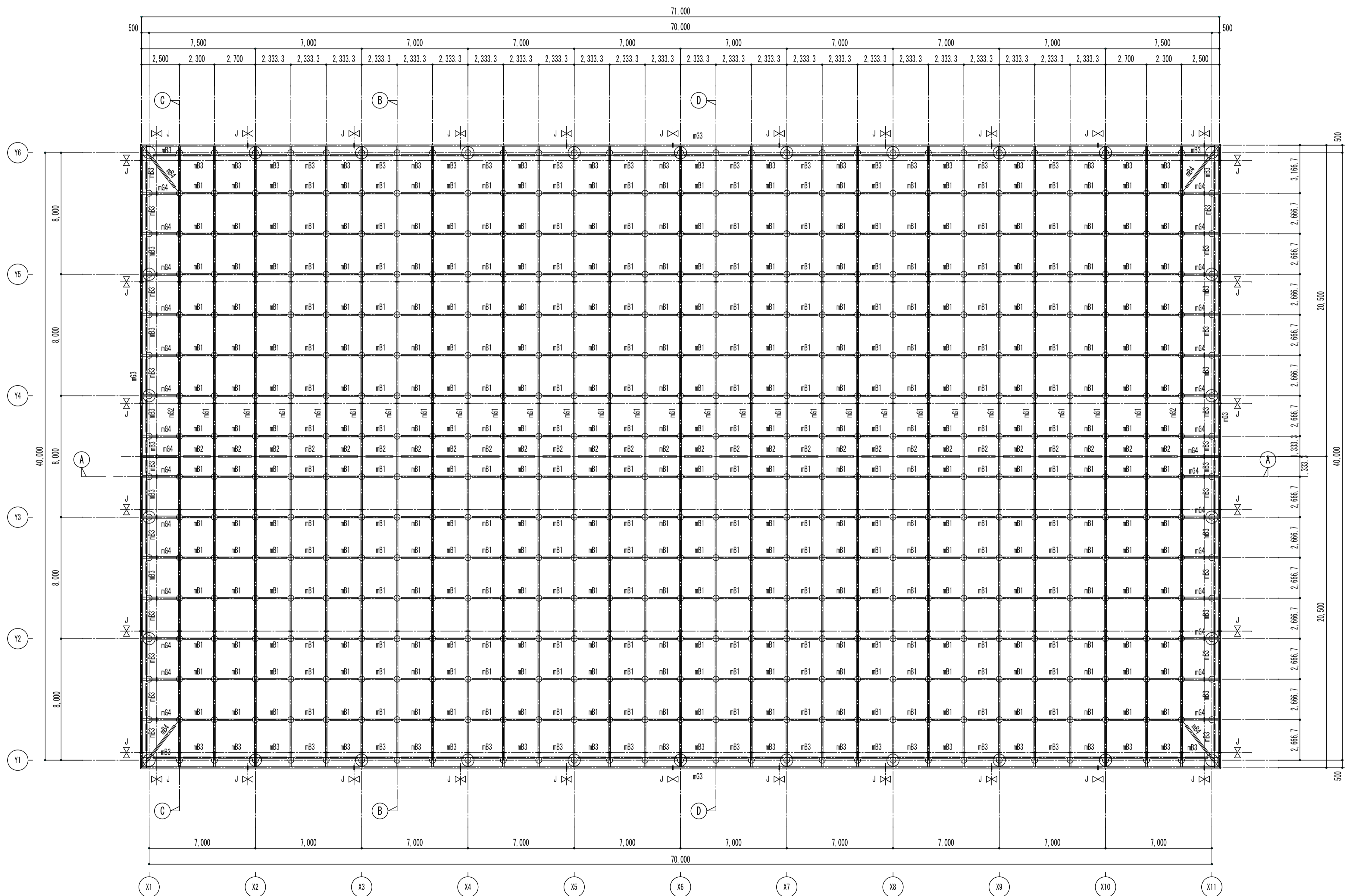
計 30 基



下弦伏図 1:200  
印 は照明取付金具位置を示す (50ヶ所)

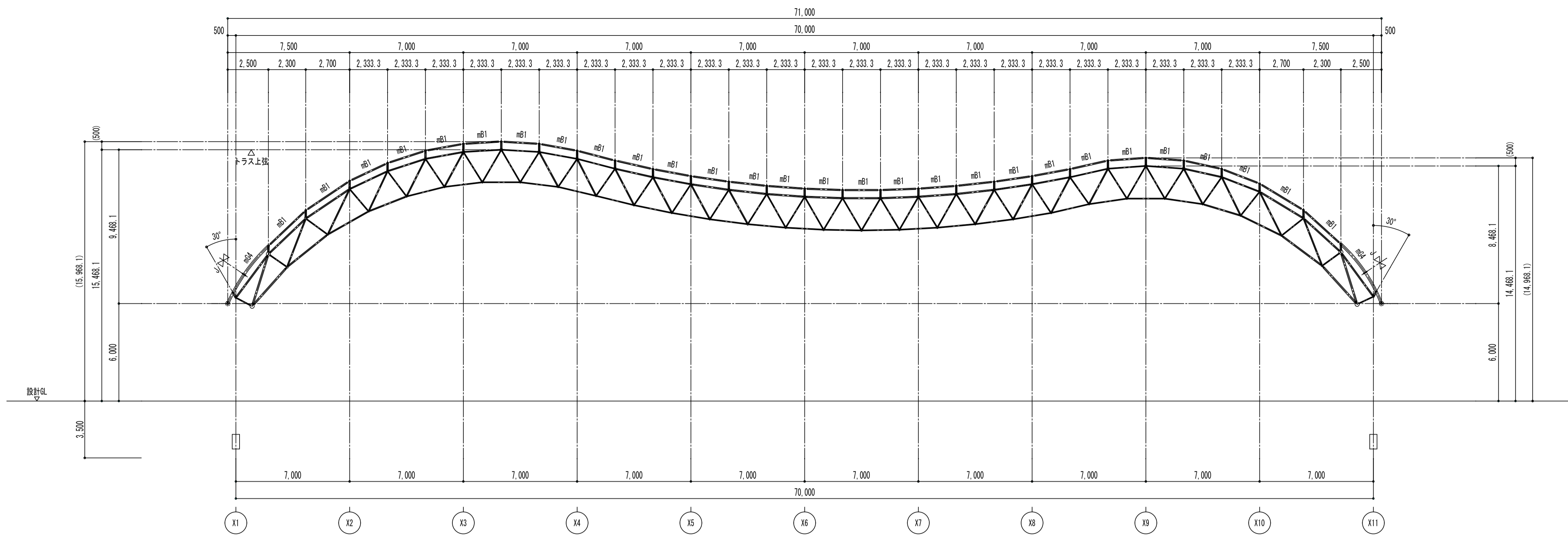


MEMBER LIST		
符号	部材	材質
m61	P-114.3φ×4.5t	STK400
m62	P-139.8φ×4.5t	STK400
m63	P-139.8φ×4.5t	STK400
m64	P-139.8φ×4.5t	STK490
m81	P-89.1φ×3.2t	STK400
m82	P-101.6φ×4.2t	STK400
m83	P-89.1φ×3.2t	STK400
m84	P-139.8φ×4.5t	STK490
PL類		SS400



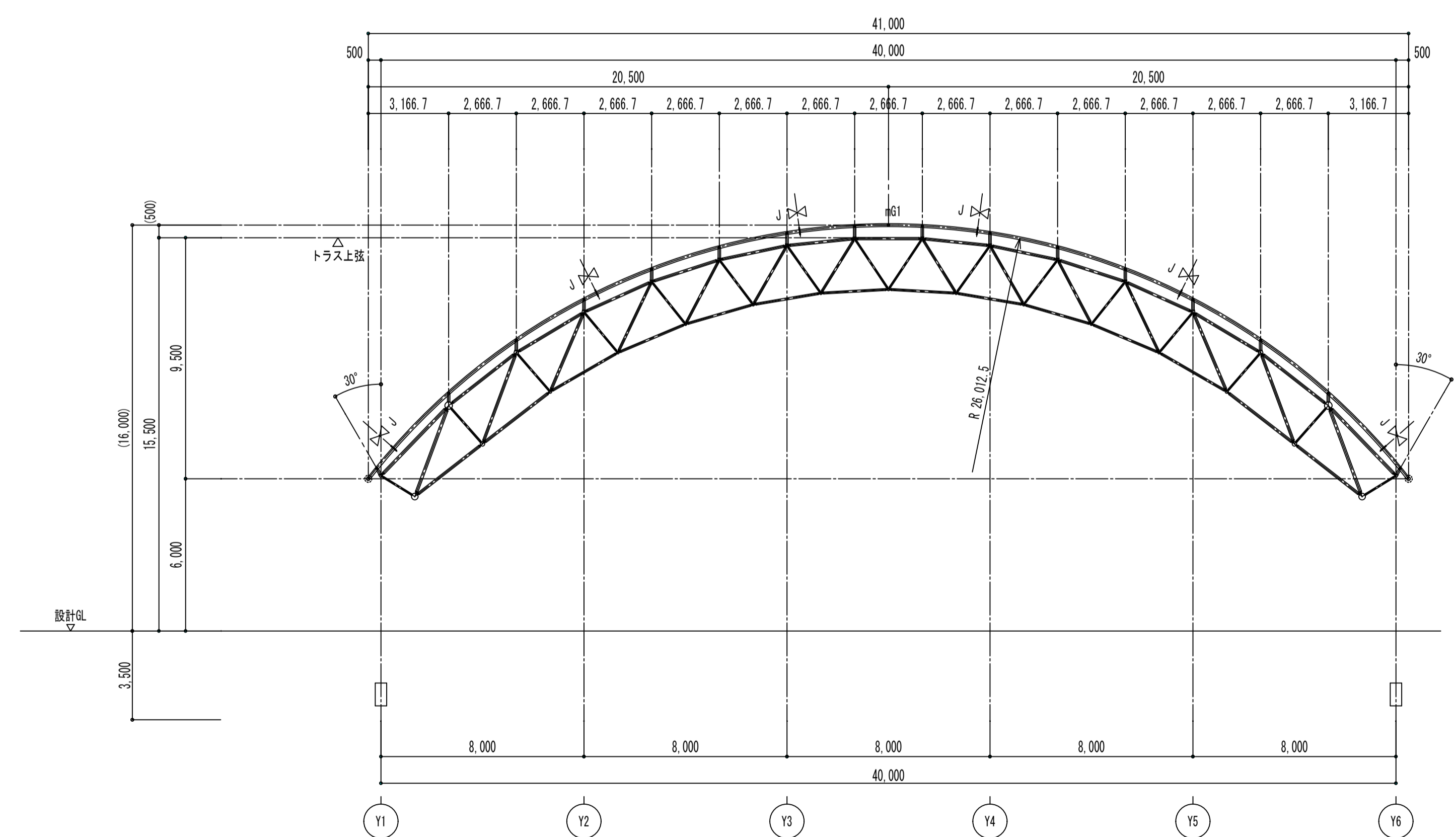
小屋伏図 S=1:150

○印はトラスと取合う位置を示す。  
 ⊕印は現場フランジジョイント位置案を示す。  
 運搬・加工を検討の上、鉄骨業者にて最終決定とする。



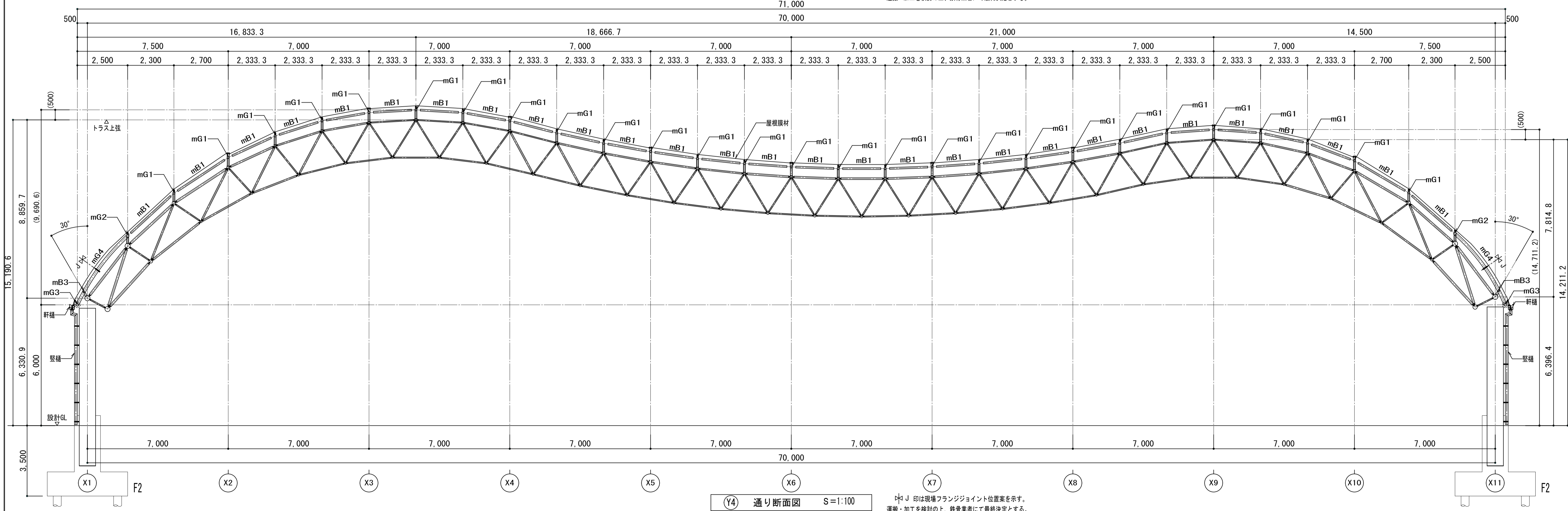
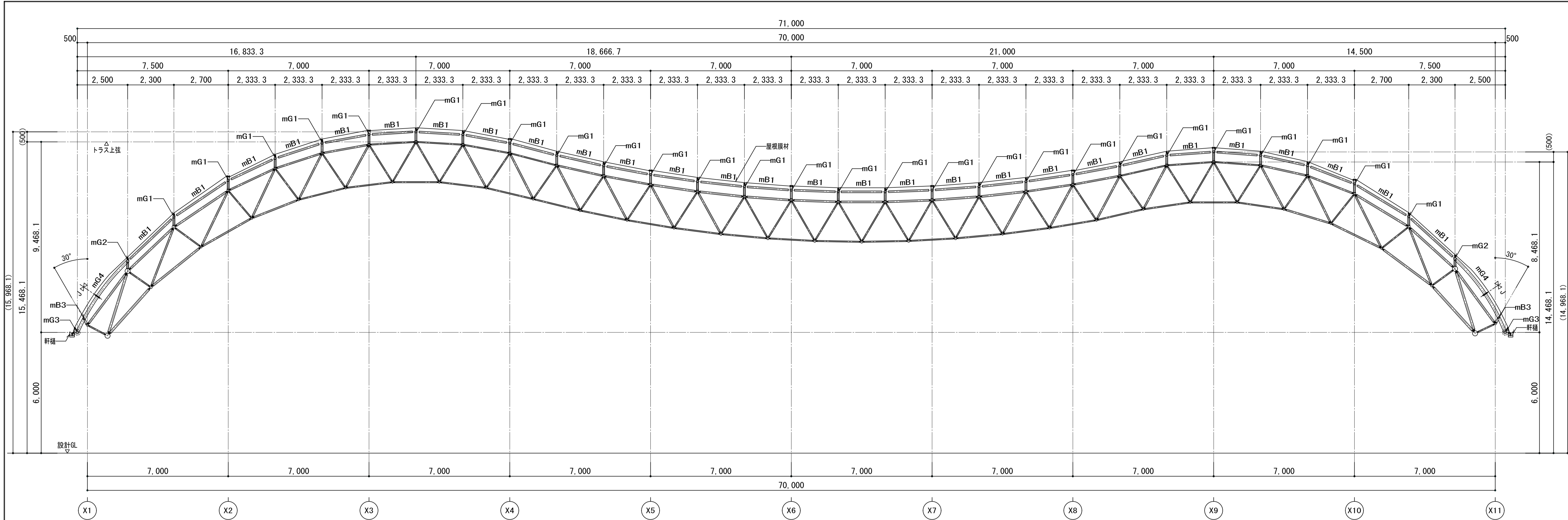
Ⓐ-Ⓐ 軸組図 S=1:150

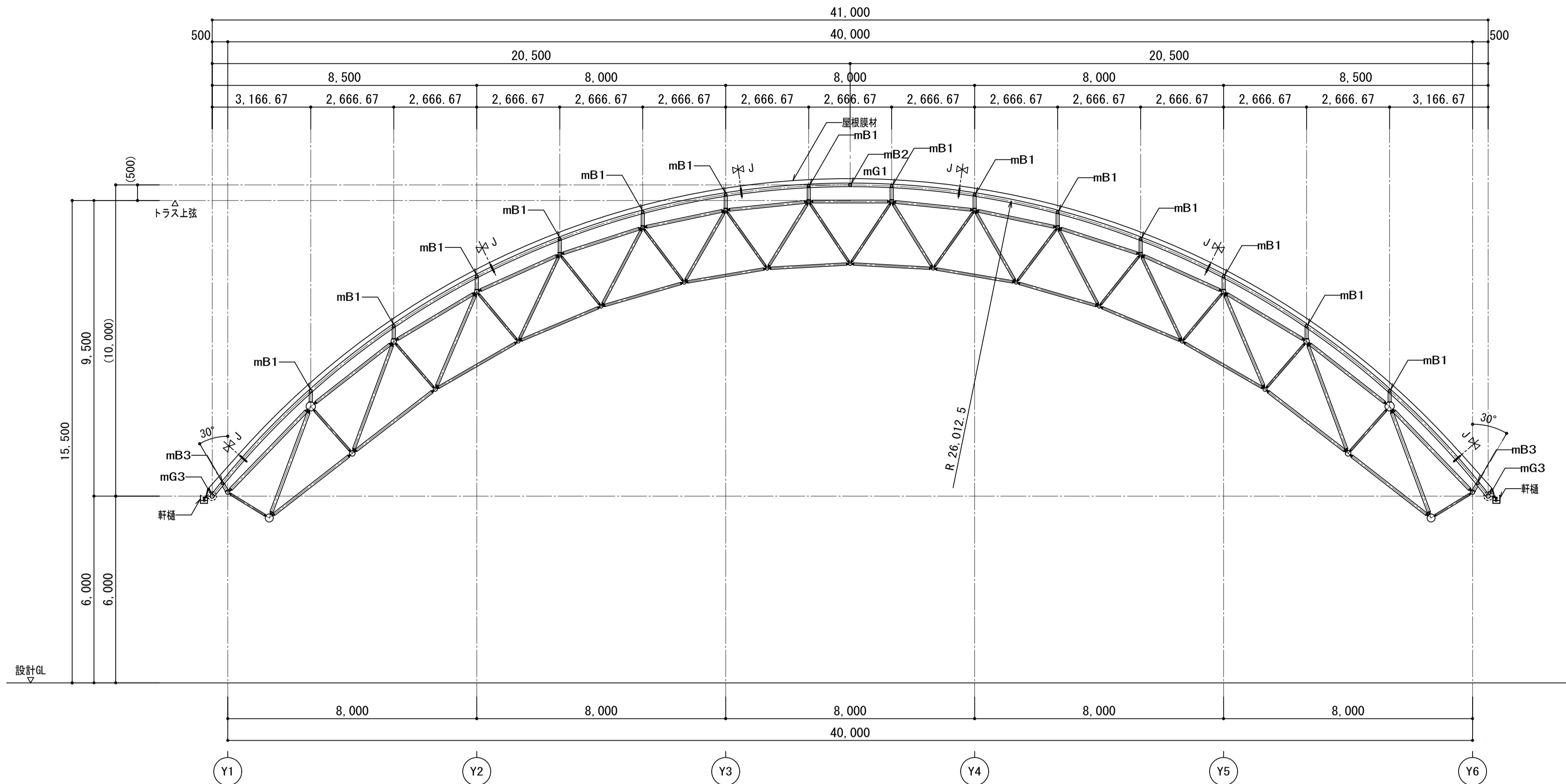
※ J 印は現場フランジジョイント位置を示す。  
運搬・加工を検討の上、鉄骨業者にて最終決定とする。



Ⓑ-Ⓑ 軸組図 S=1:150

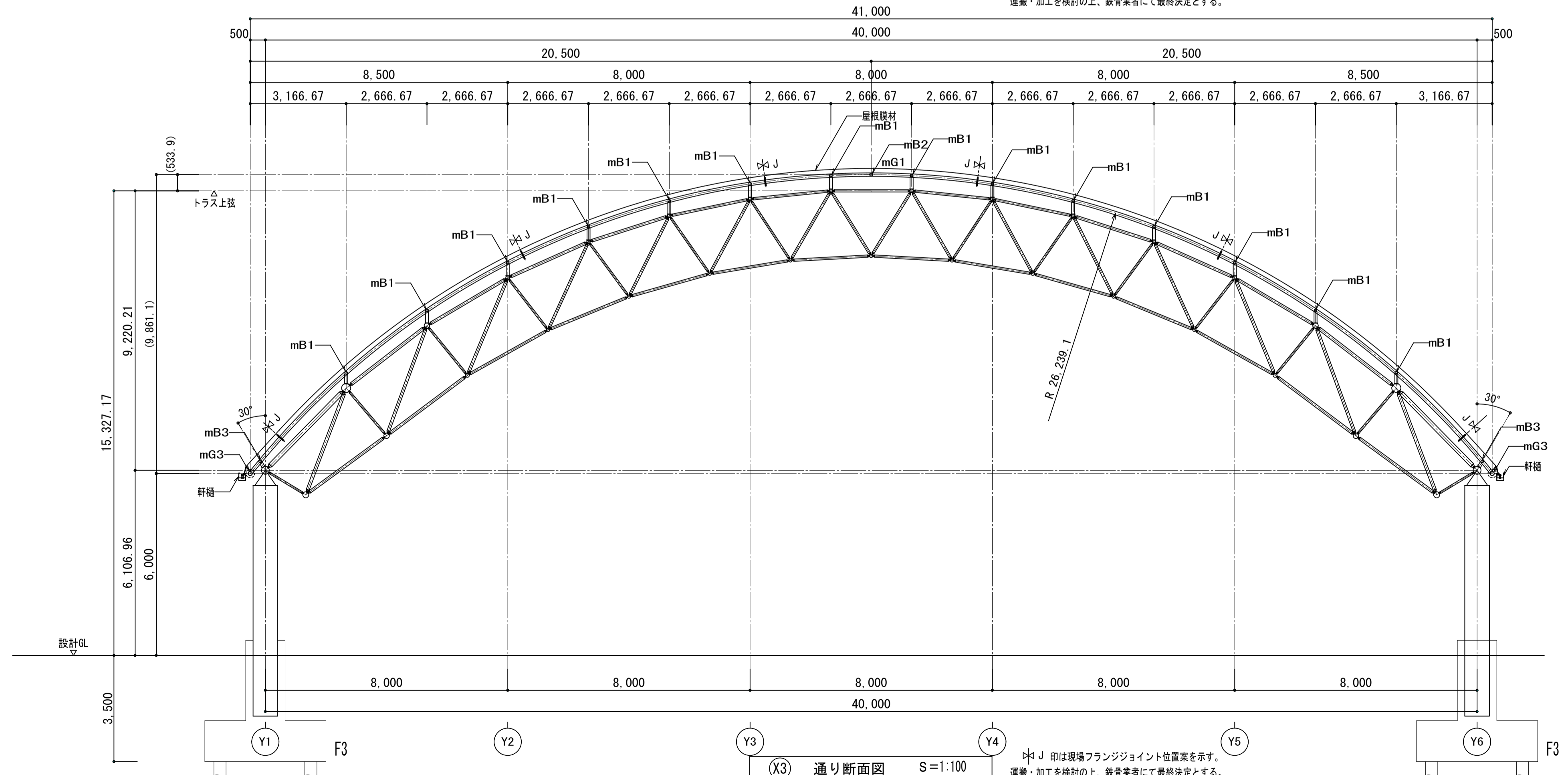
※ J 印は現場フランジジョイント位置を示す。  
運搬・加工を検討の上、鉄骨業者にて最終決定とする。





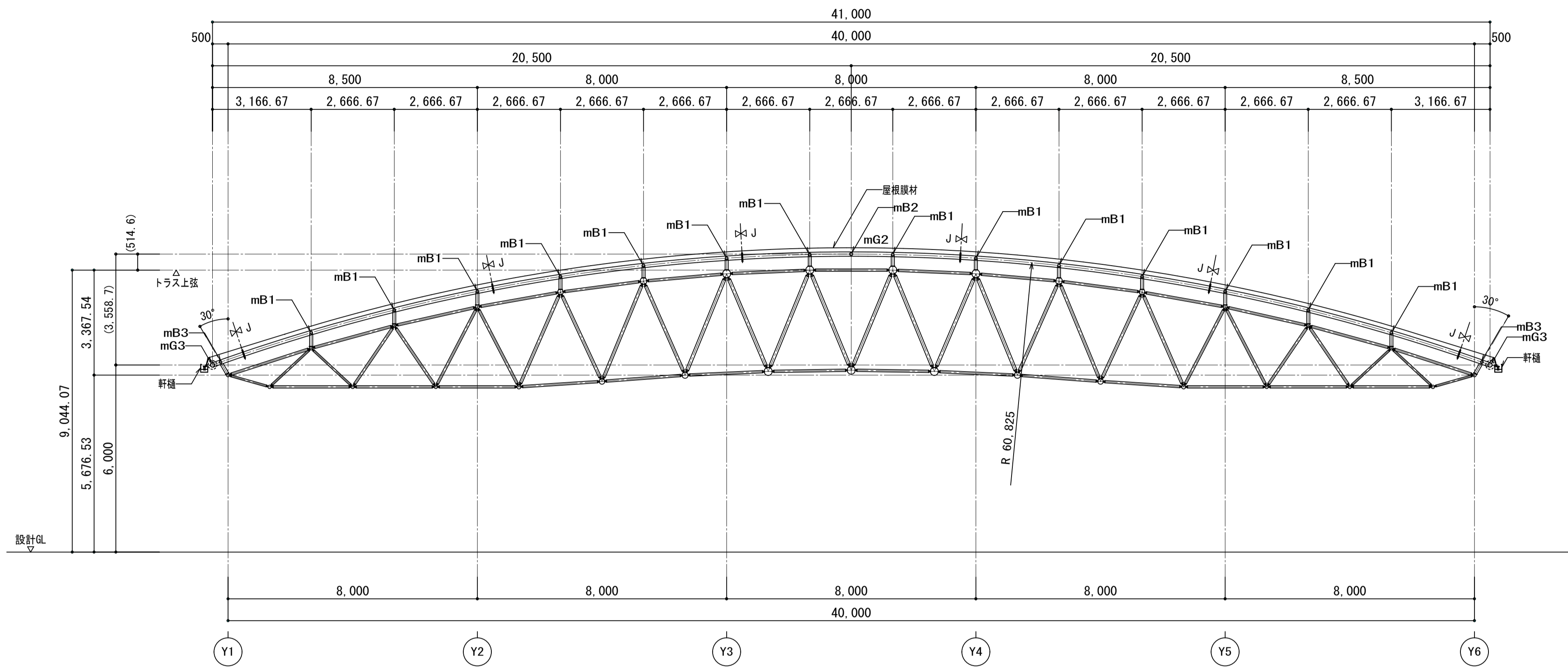
(B-B) 断面図 S=1:100

※ J 印は現場フランジジョイント位置案を示す。  
運搬・加工を検討の上、鉄骨業者にて最終決定とする。



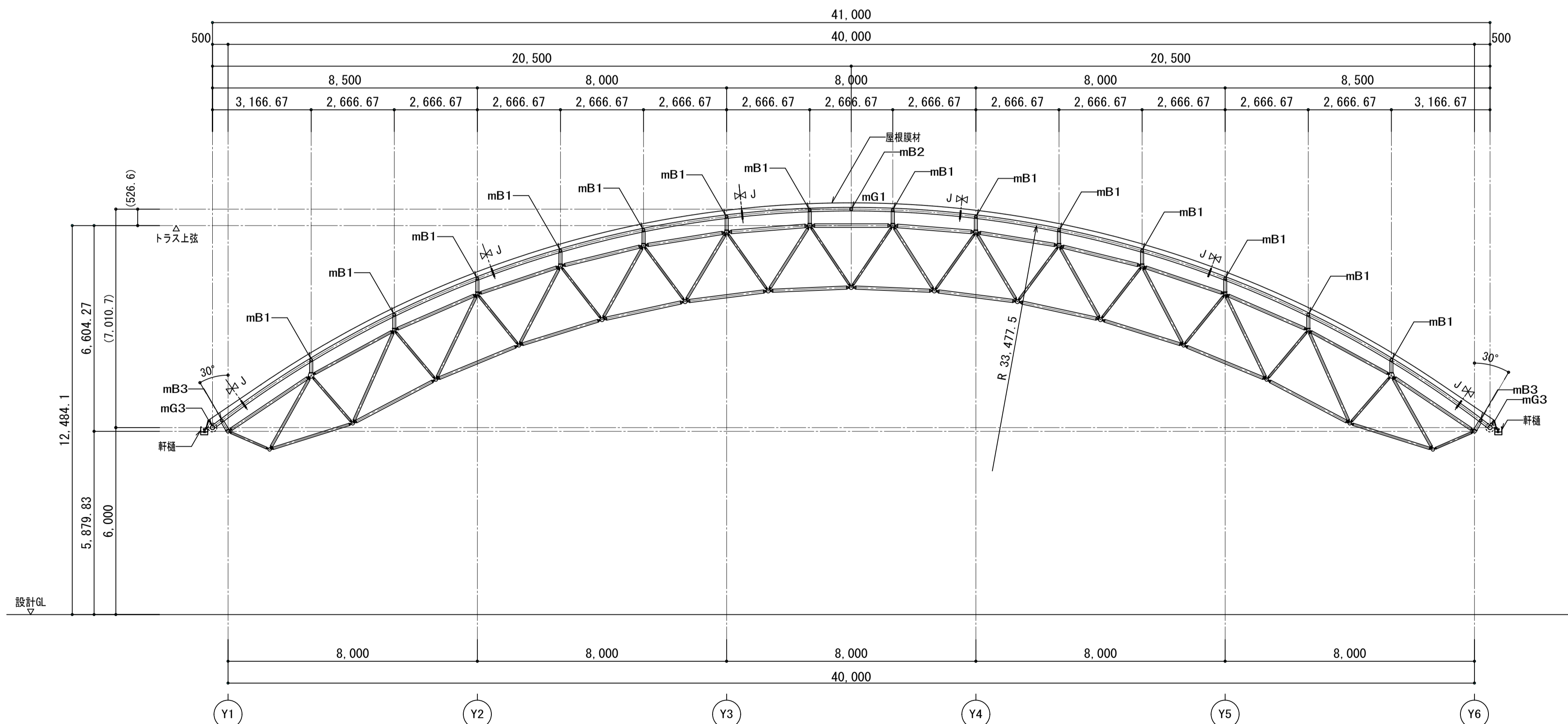
(X3) 通り断面図 S=1:100

※ J 印は現場フランジジョイント位置案を示す。  
運搬・加工を検討の上、鉄骨業者にて最終決定とする。



C-C 断面図 S=1:100

J印は現場フランジジョイント位置案を示す。  
運搬・加工を検討の上、鉄骨業者にて最終決定とする。

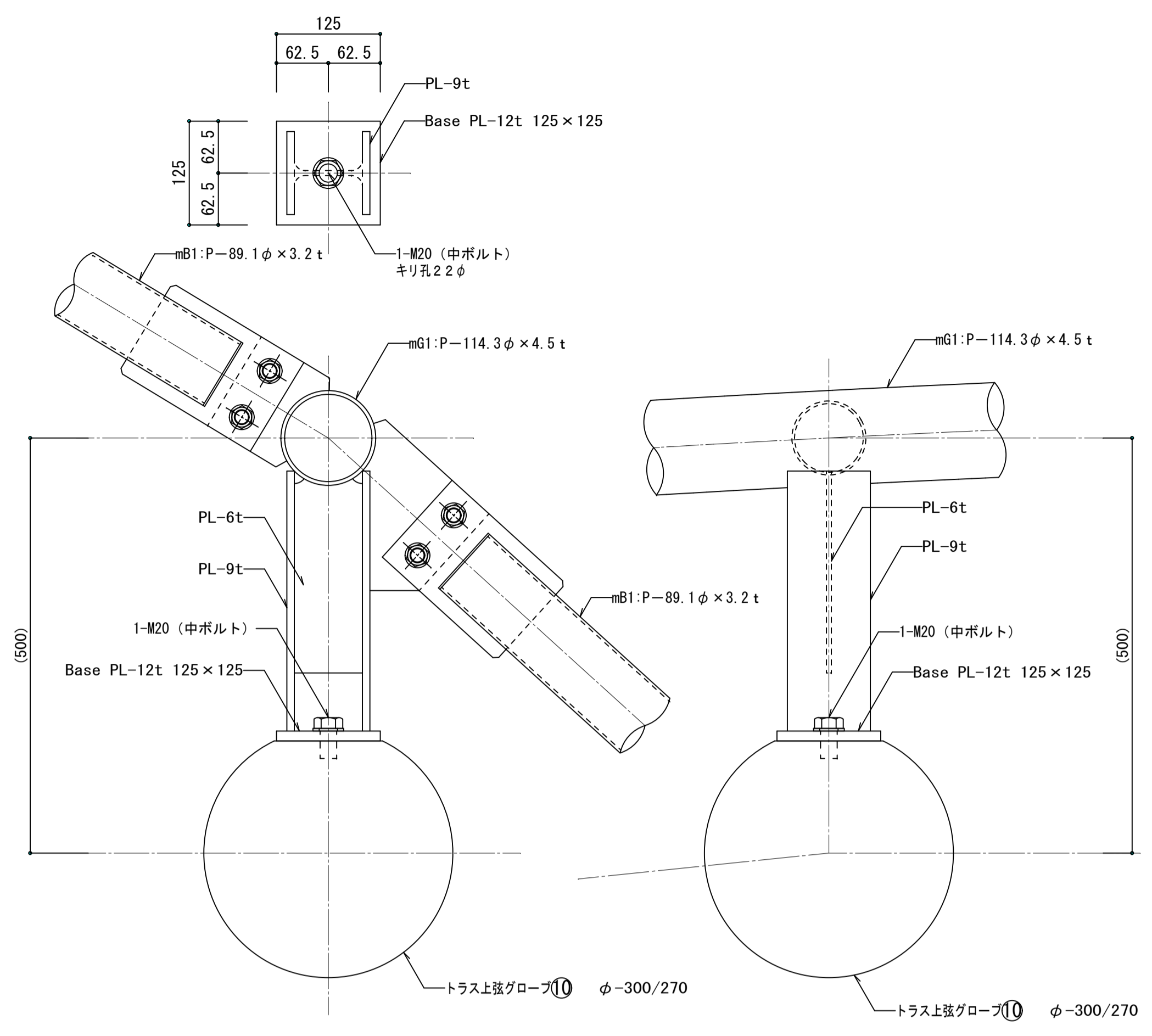


D-D 断面図 S=1:100

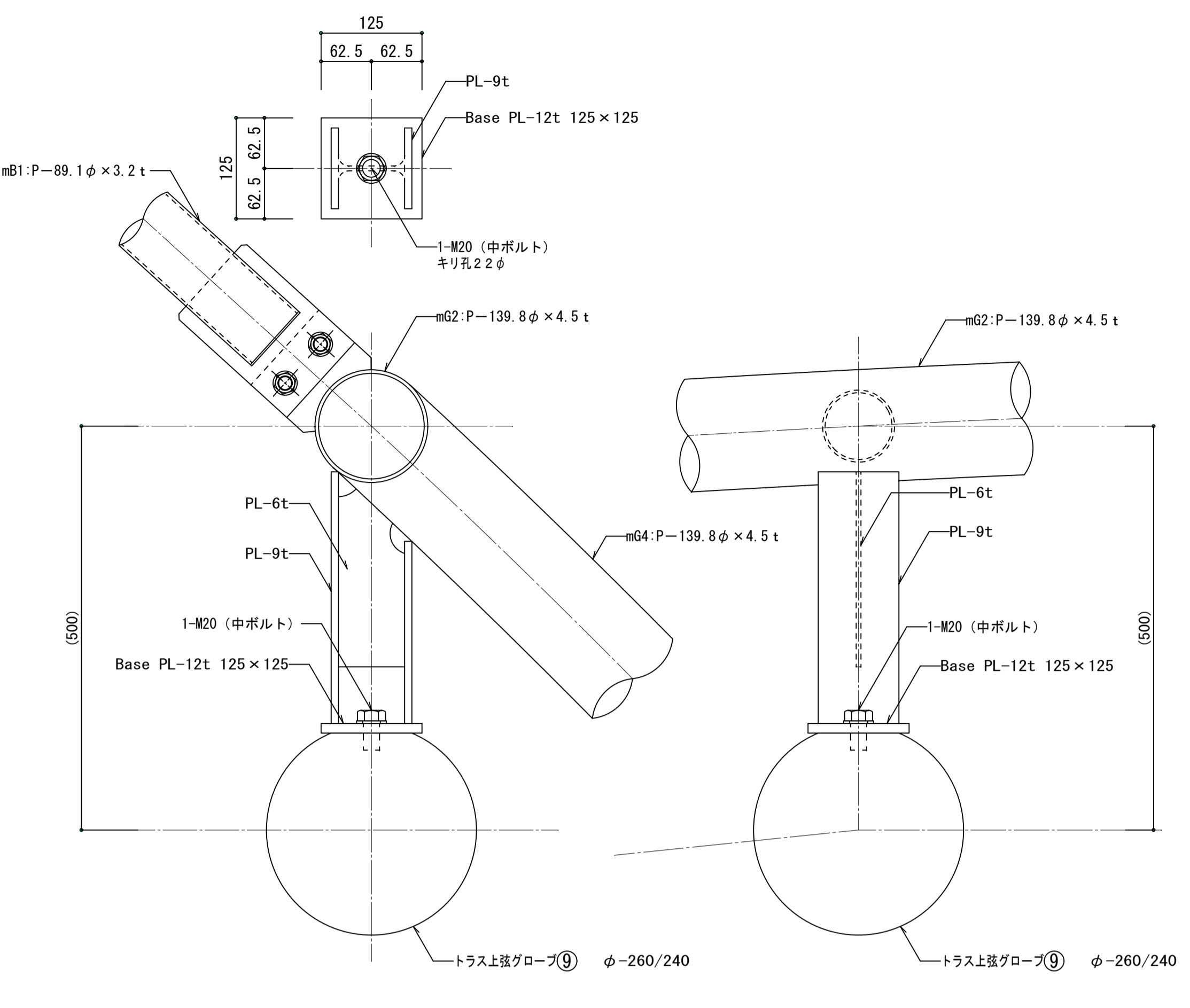
J印は現場フランジジョイント位置案を示す。  
運搬・加工を検討の上、鉄骨業者にて最終決定とする。



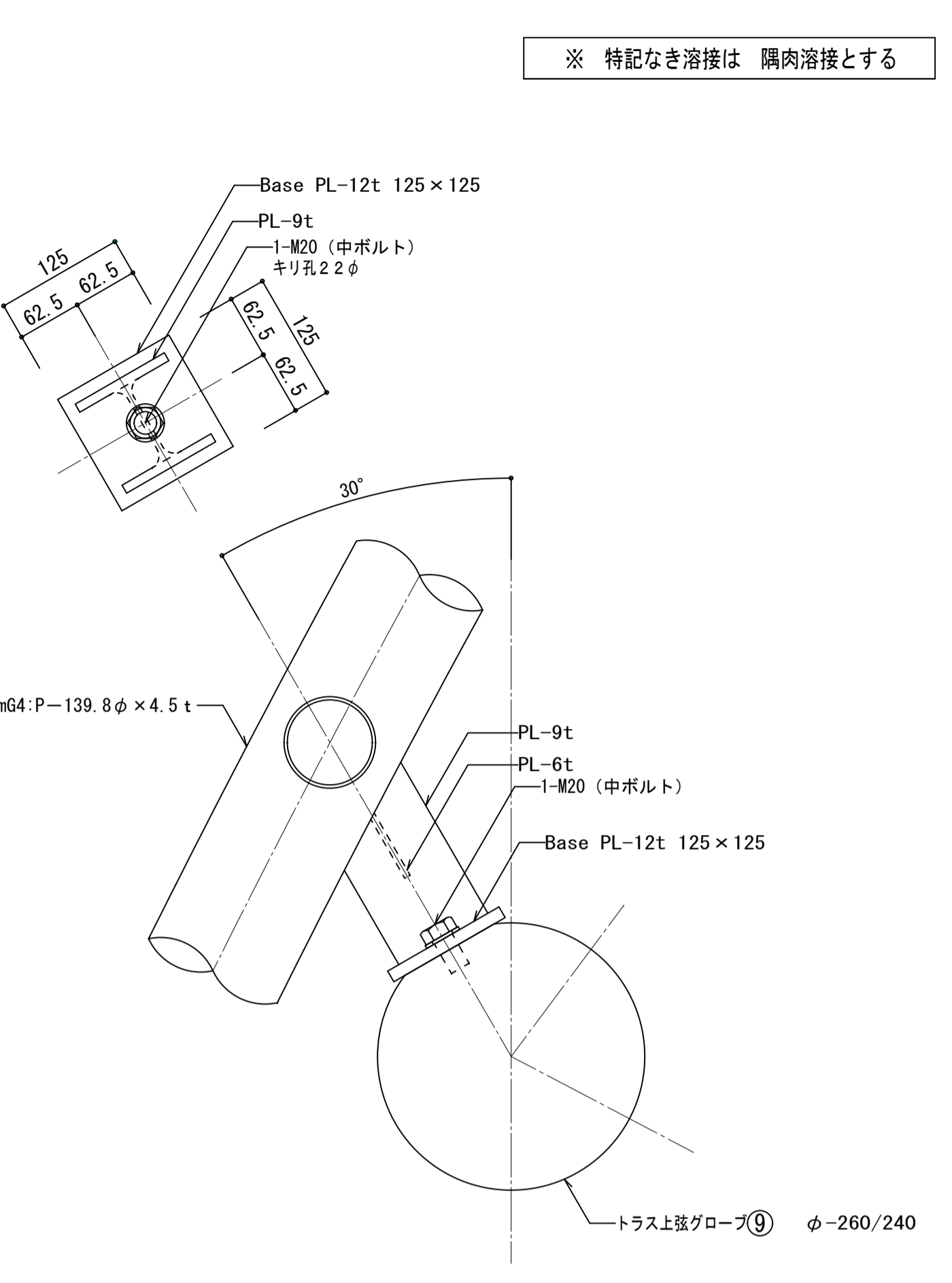
※ 特記なき溶接は 隅肉溶接とする



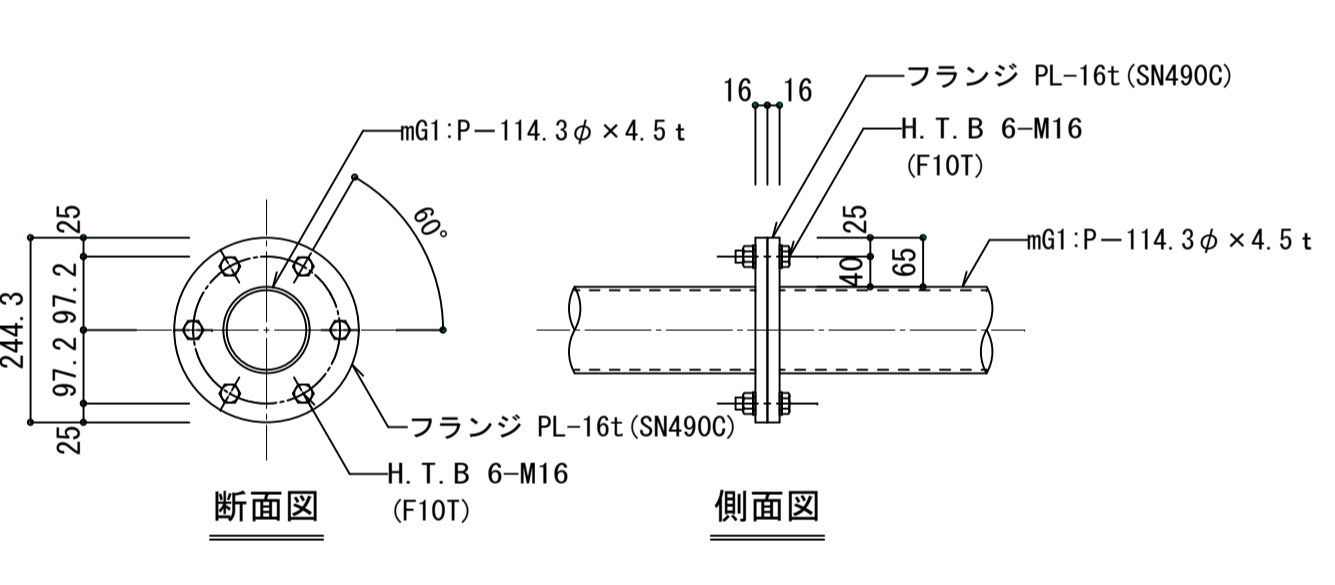
mG1-グローブ取合い部詳細図 S=1:5



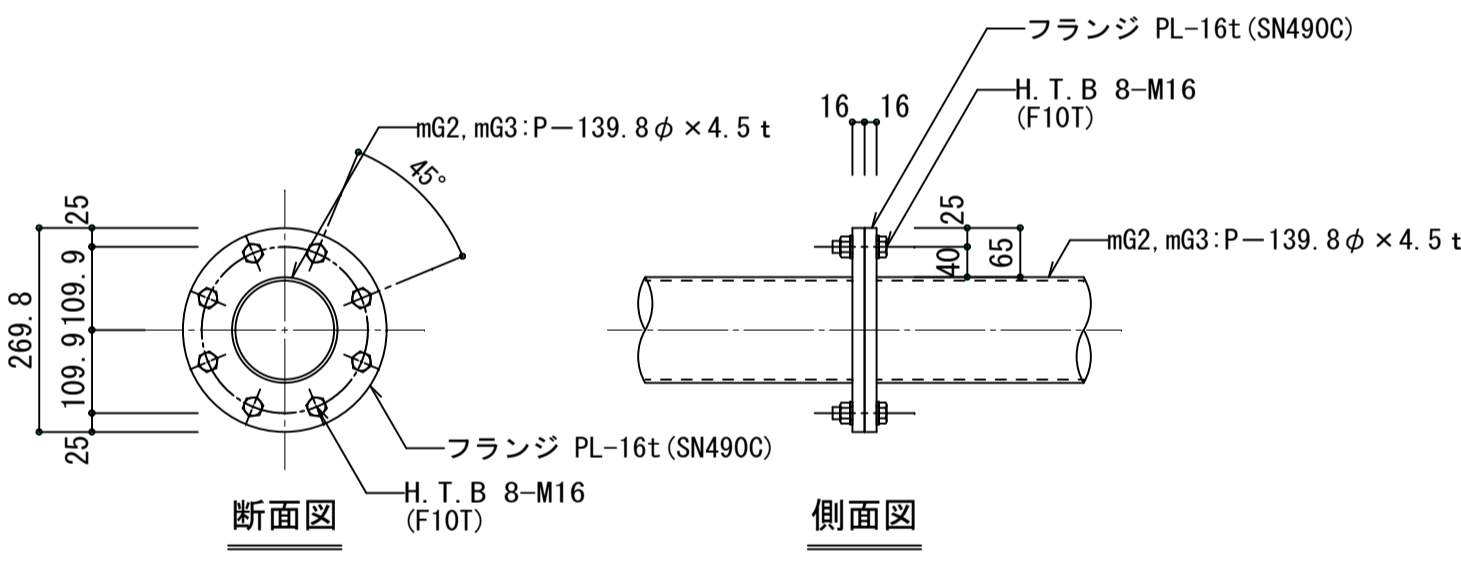
mG2-グローブ取合い部詳細図 S=1:5



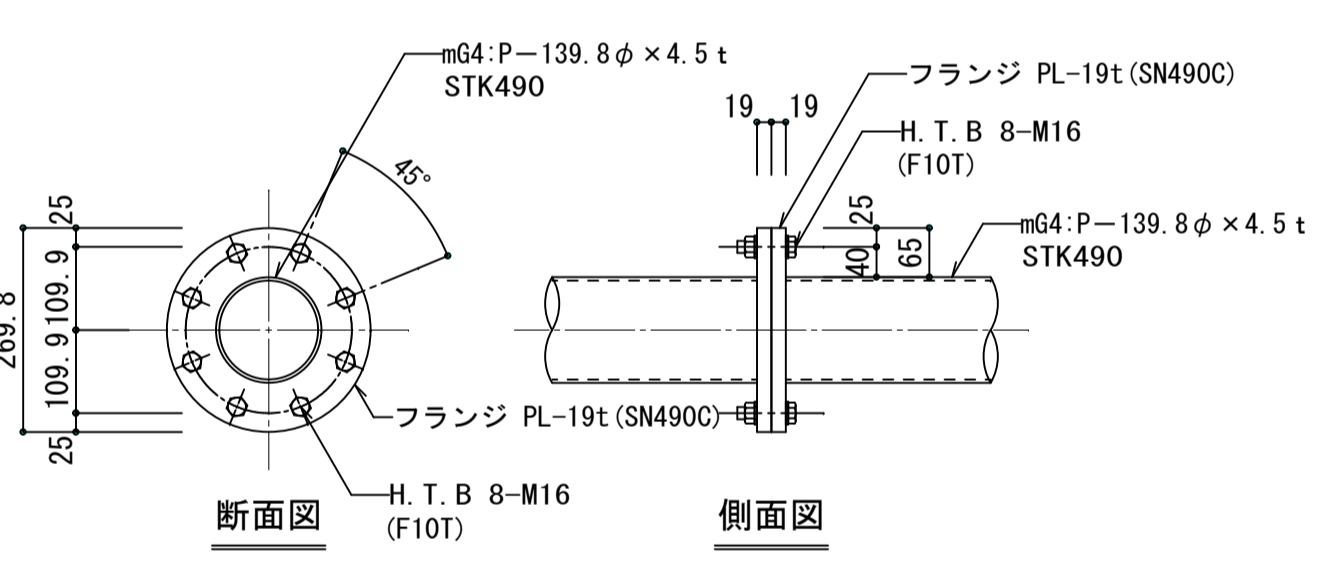
mG4-グローブ取合い部詳細図 S=1:5



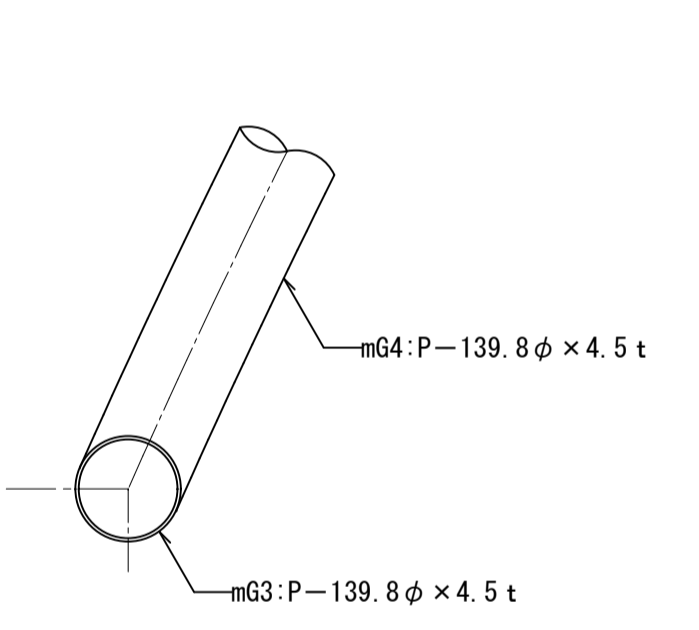
mG1 フランジ詳細図 S=1:10



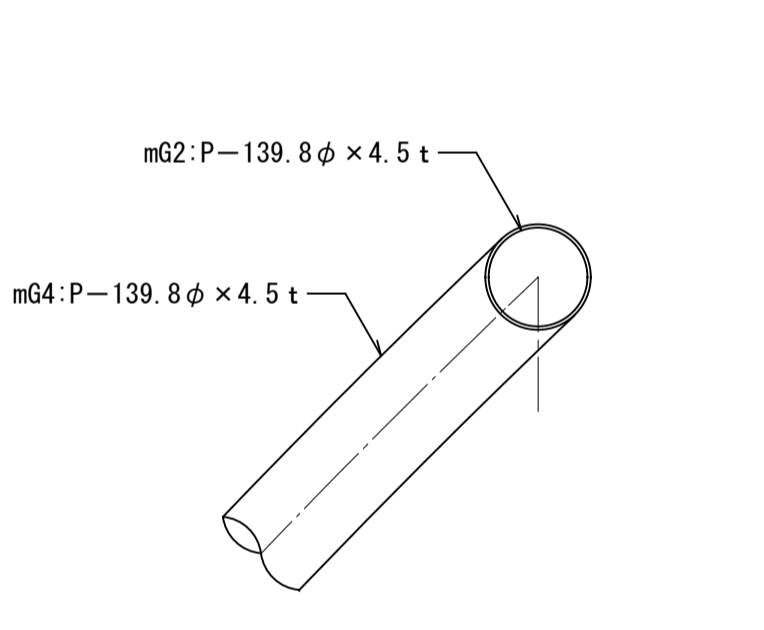
mG2, mG3 フランジ詳細図 S=1:10



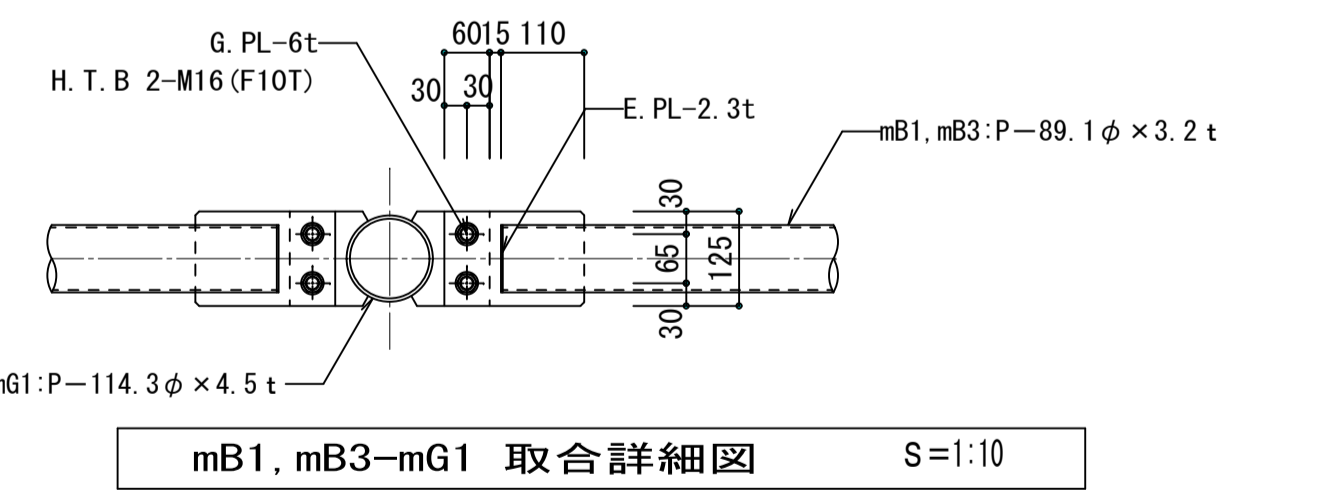
mG4 フランジ詳細図 S=1:10



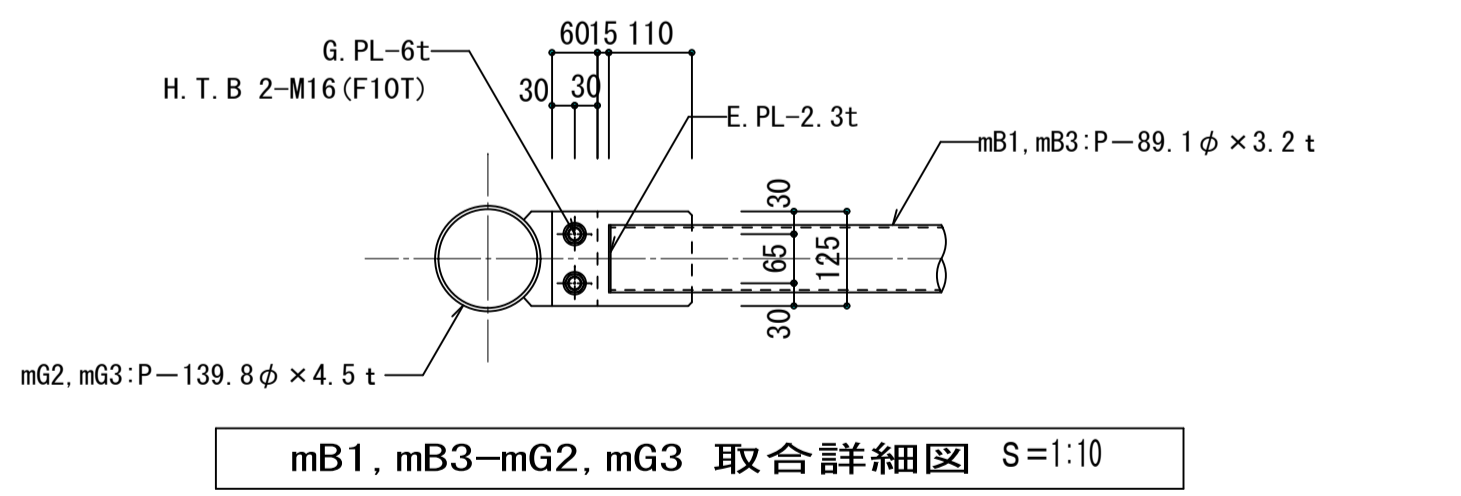
mG4-mG3 取合詳細図 S=1:10



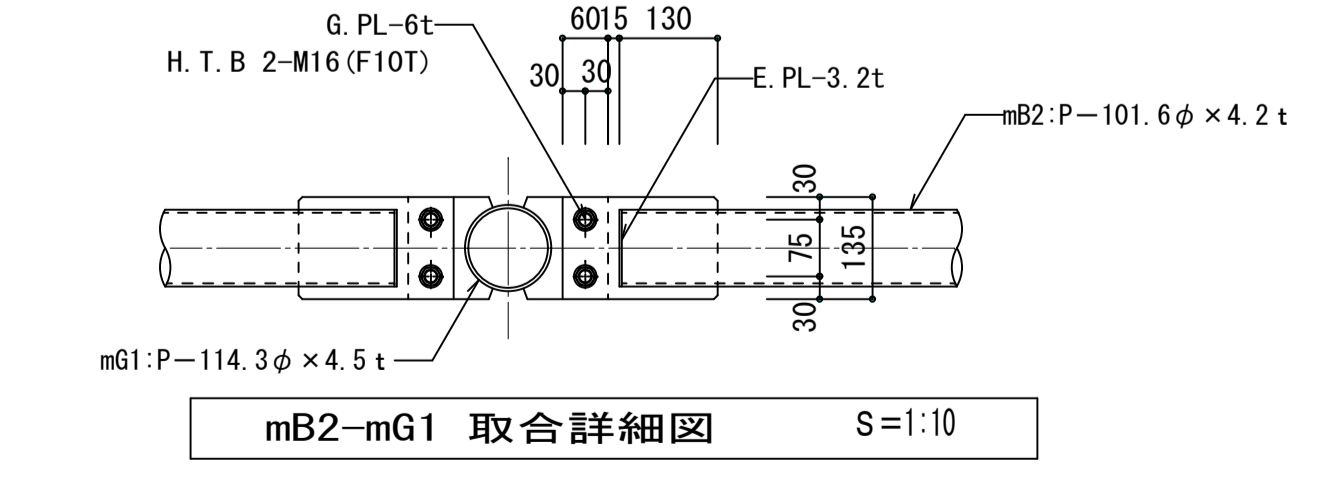
mG4-mG2 取合詳細図 S=1:10



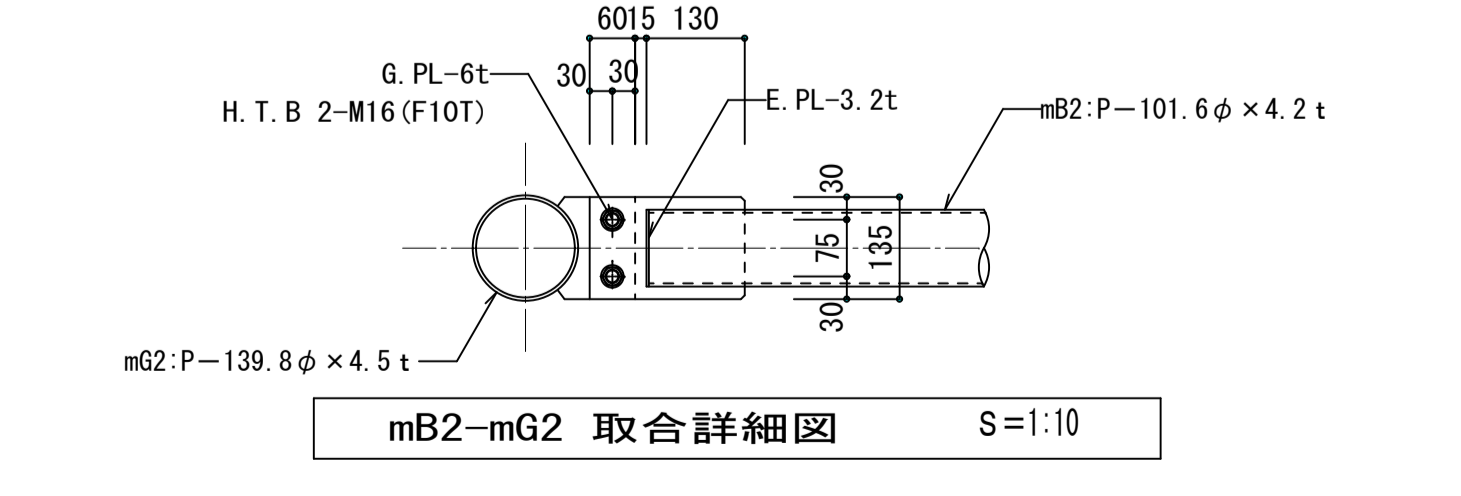
mB1, mB3-mG1 取合詳細図 S=1:10



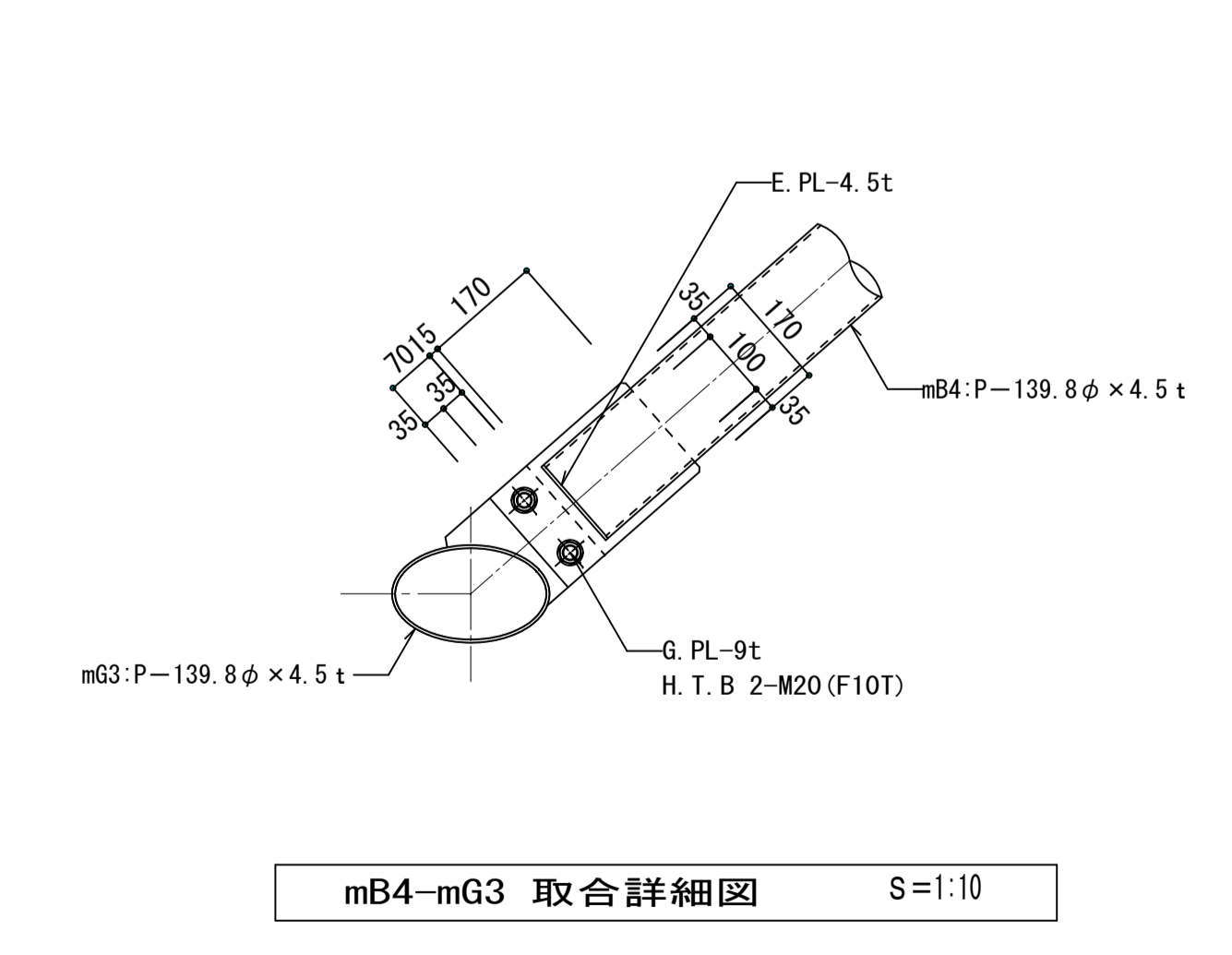
mB1, mB3-mG2, mG3 取合詳細図 S=1:10



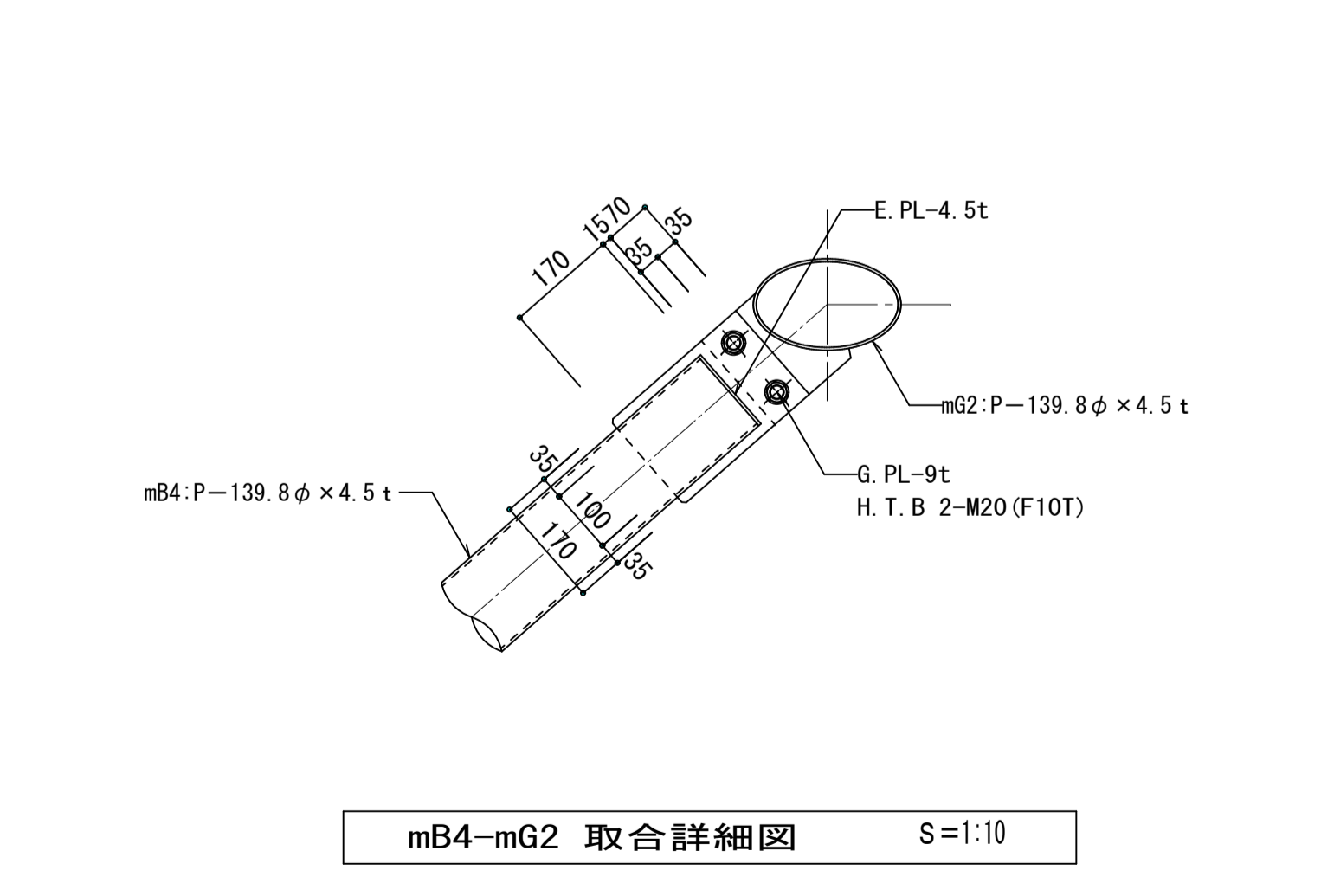
mB2-mG1 取合詳細図 S=1:10



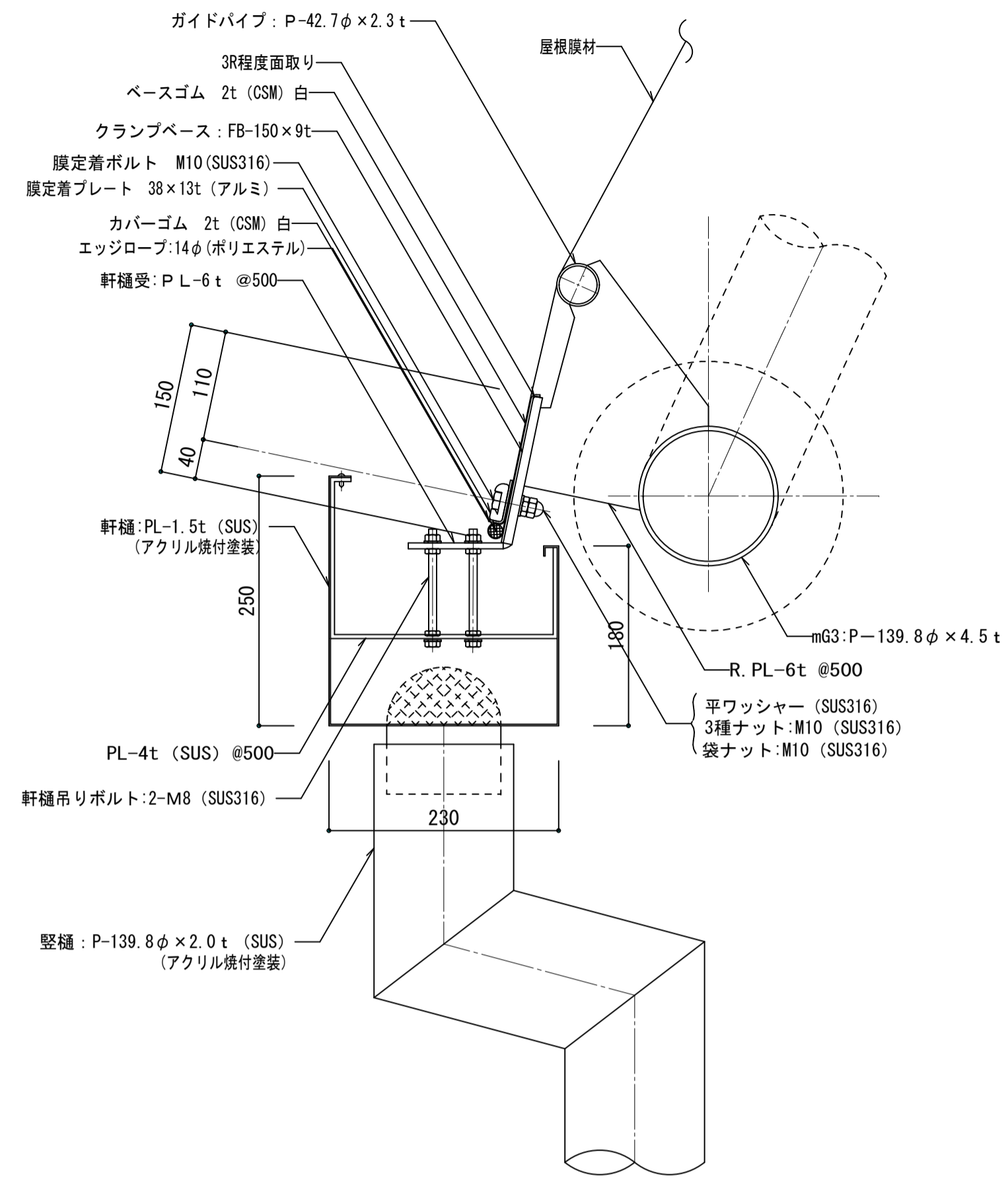
mB2-mG2 取合詳細図 S=1:10



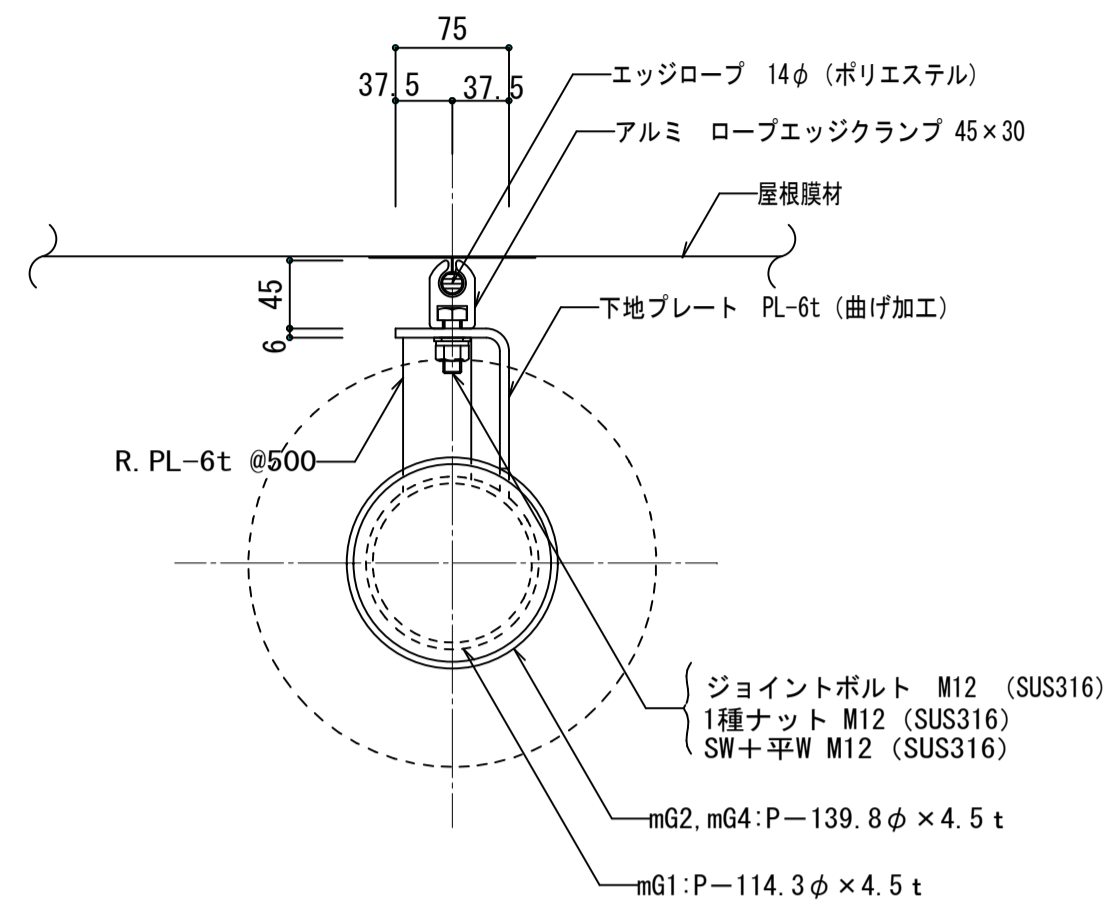
mB4-mG3 取合詳細図 S=1:10



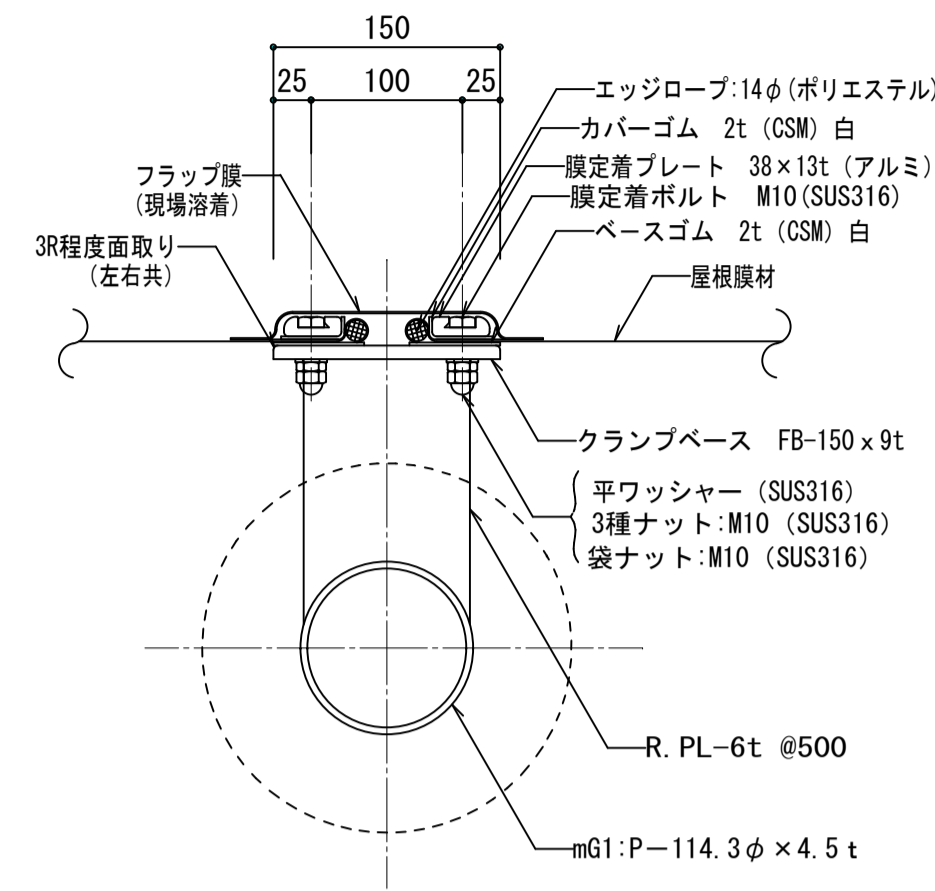
mB4-mG2 取合詳細図 S=1:10



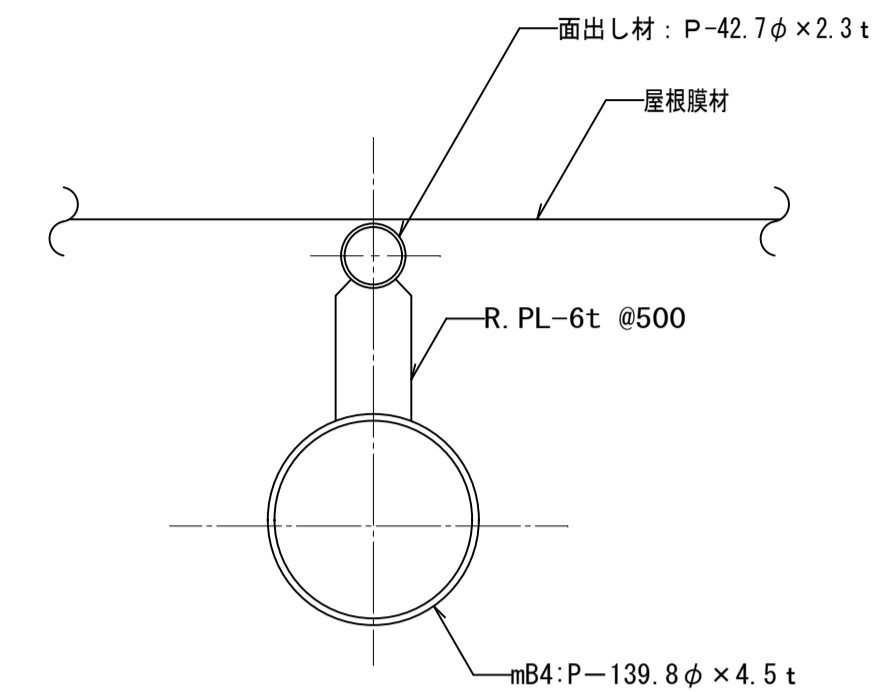
(a)-(a) 断面図 S=1:5  
外周膜定着部詳細図 (水下部)



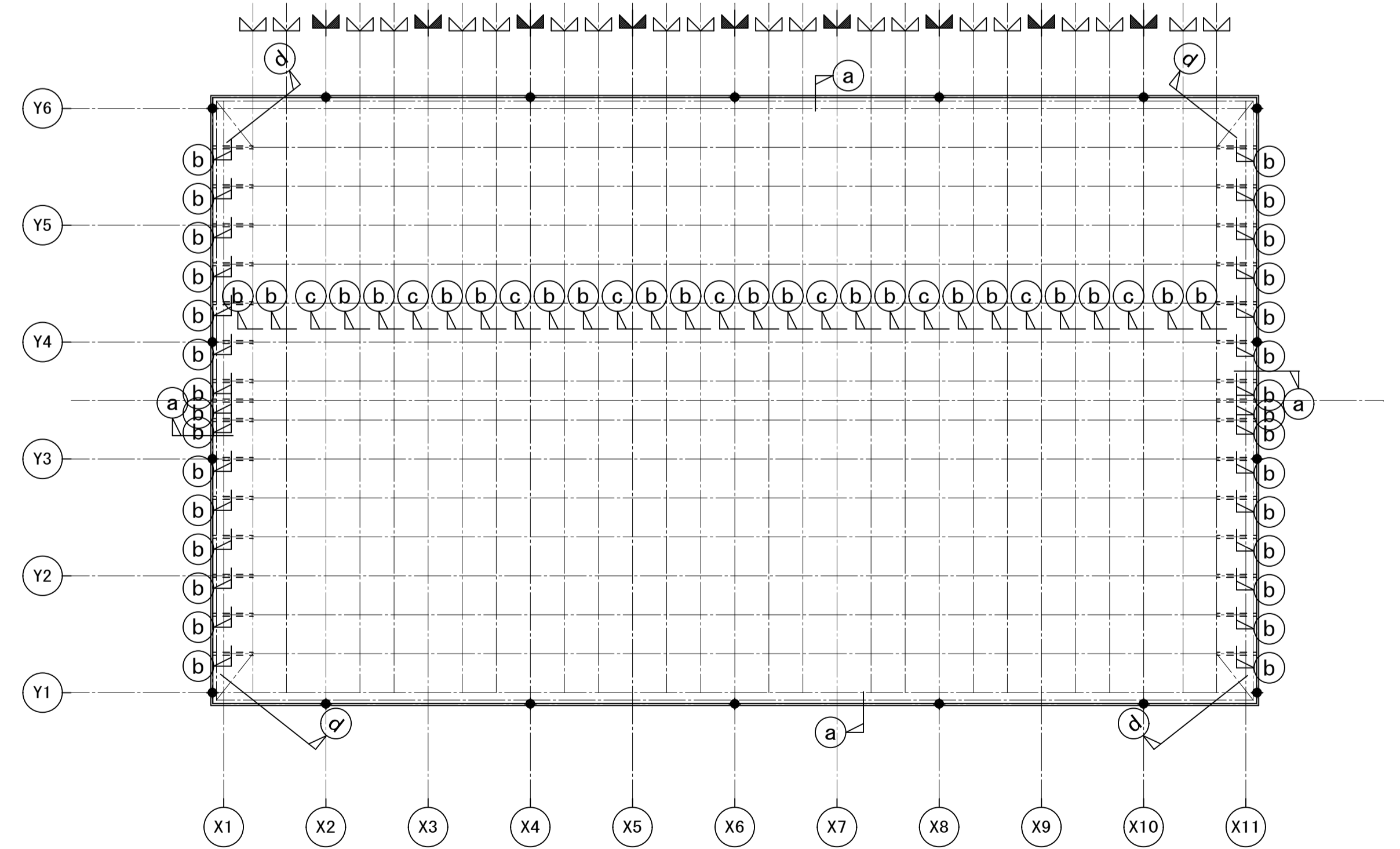
(b)-(b) 断面図 S=1:5  
中間膜定着部詳細図



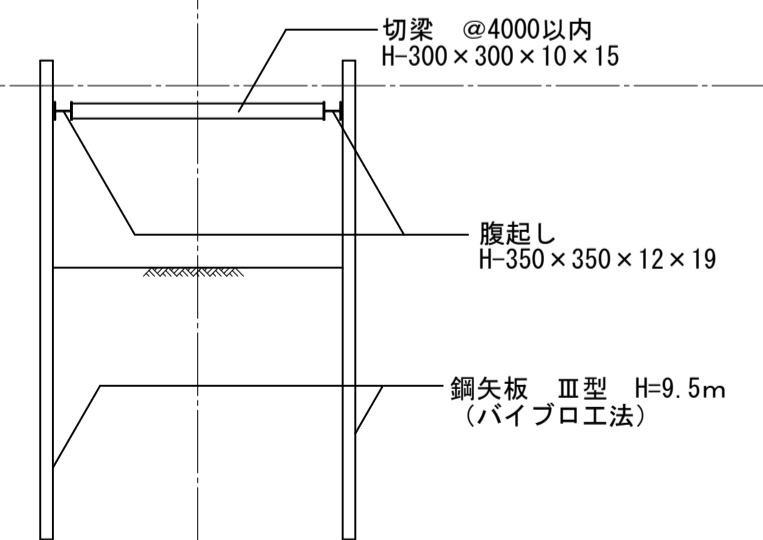
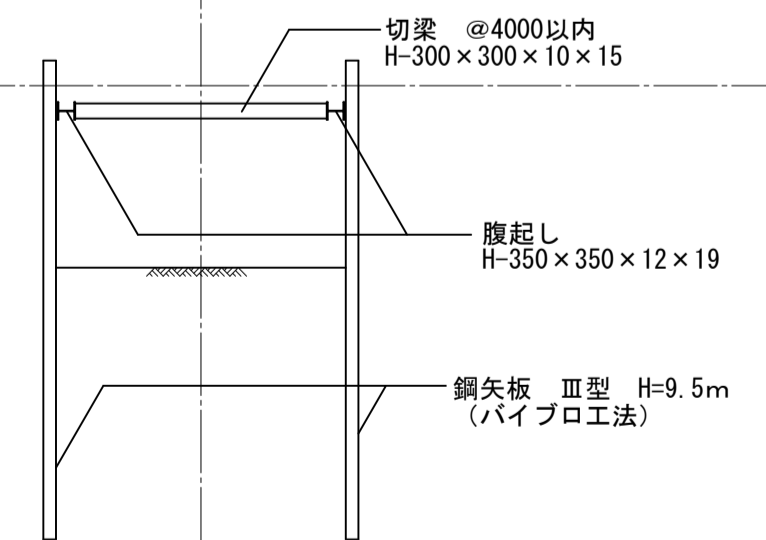
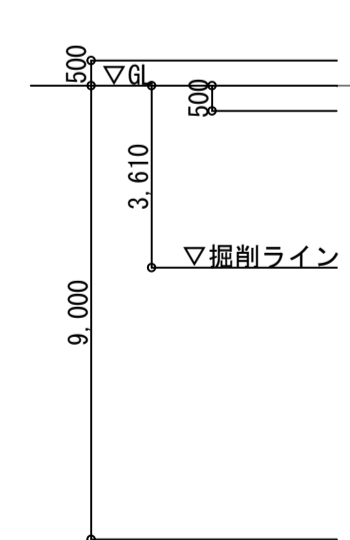
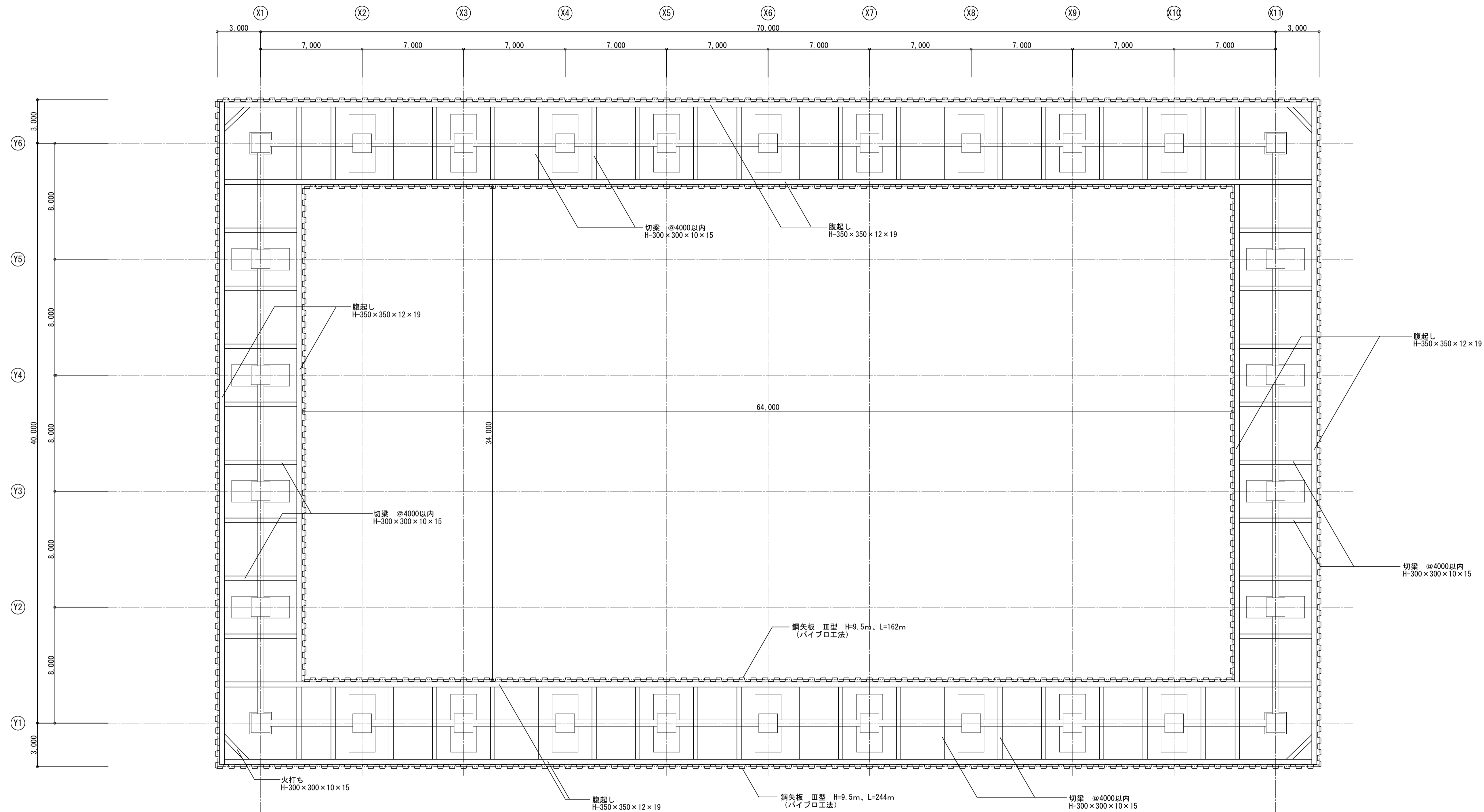
(c)-(c) 断面図 S=1:5  
膜分割部詳細図



(d)-(d) 断面図 S=1:5  
中間膜接触部詳細図



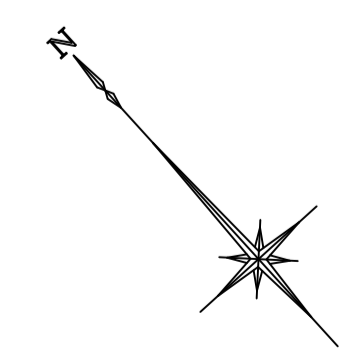
KEY PLAN S=1:300



(山留め)  
鋼矢板 Ⅲ型 H=9m 山留め面積=3,857㎡  
有振動工法 (パイロ工法)

(水替)  
釜場排水  
仮設水替ポンプ10台、ノッチタンク2台  
山留め、及び水替えについては、予め施工計画書を監督官に提出して承認を受けること。

土留め計画図 1/150



# 参考数量書

§ 工事名称 竹ヶ端運動公園庭球場整備上家新築工事

§ 工事場所 福山市水呑町4748番地

## 特記事項

- 1 この数量書は、福山市建設工事請負契約約款1条に定める「設計図書」ではなく参考数量です。従って、契約後の変更等を含意するものではありません。
- 2 数量の算出は次の基準によっています。

※ 「建築数量積算基準・同解説」 (建築工事建築数量積算研究会制定)













建築主体工事						
名	称	数	量	単位	金 額	備 考
直接仮設		1		式		
土工		1		式		
地業		1		式		
鉄筋		1		式		
コンクリート		1		式		
型枠		1		式		
鉄骨		1		式		
防水		1		式		
タイル		1		式		
木工		1		式		
屋根及びとい		1		式		
金属		1		式		
左官		1		式		
建具		1		式		
塗装		1		式		
内外装		1		式		
ユニット及びその他		1		式		
とりこわし		1		式		
管理棟外構		1		式		
発生材処理		1		式		





建築主体工事					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
土工		1	式		
計					
地業		1	式		
計					
鉄筋		1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
型枠		1	式		
計					
鉄骨	本体鉄骨	1	式		
鉄骨	屋内階段	1	式		
鉄骨	胴縁	1	式		
鉄骨	ルーフ鉄骨	1	式		
鉄骨	昇降機	1	式		
計					
防水	外部	1	式		
防水	内部	1	式		

建築主体工事					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
タイル	外部	1	式		
タイル	内部	1	式		
計					
木工		1	式		
計					
屋根及びとい		1	式		
計					
金属	外部	1	式		
金属	内部	1	式		
計					
左官	外部	1	式		
左官	内部	1	式		
計					
建具	アルミニウム製建具	1	式		
建具	鋼製建具	1	式		
建具	鋼製軽量建具	1	式		
建具	ステンレス製建具	1	式		
建具	シャッター	1	式		
建具	トイレブース	1	式		

建築主体工事					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
建具	スライディングウォール	1	式		
建具	ガラス	1	式		
計					
塗装	外部	1	式		
塗装	内部	1	式		
計					
内外装	外部	1	式		
内外装	内部	1	式		
計					
ユニット及びその他	外部	1	式		
ユニット及びその他	内部	1	式		
ユニット及びその他	サイン	1	式		
計					
とりこわし		1	式		
計					
管理棟外構	構内舗装等	1	式		
管理棟外構	雨水排水	1	式		
計					
発生材処理	運搬	1	式		
発生材処理	処分	1	式		





建築主体工事					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
土工		1	式		
計					
地業		1	式		
計					
鉄筋		1	式		
計					
コンクリート		1	式		
計					
型枠		1	式		
計					
防水		1	式		
計					
左官		1	式		
計					
庭球場屋根		1	式		
計					
ユニット及びその他		1	式		
計					

















建築主体工事		鉄骨		本体鉄骨		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
H形鋼	SS400 H-300×150×6.5×9	5.7	t			
H形鋼	SS400 H-350×175×7×11	12.1	t			
H形鋼	SS400 H-400×200×8×13	9.4	t			
H形鋼	SS400 H-450×200×9×14	1.2	t			
H形鋼	SS400 H-500×200×10×16	0.7	t			
H形鋼	SS400 H-150×150×7×10	0.6	t			
H形鋼	SN400B H-400×200×8×13	6.1	t			
H形鋼	SN400B H-600×200×11×17	7.6	t			
H形鋼	SN400B H-390×300×10×16	8.3	t			
H形鋼	SN400B H-440×300×10×16	1.5	t			
H形鋼	SN400B H-588×300×12×20	10.6	t			
H形鋼	SN490B H-390×300×10×16	0.4	t			
H形鋼	SN490B H-588×300×12×20	1.2	t			
角形鋼管	BCR295 □-350×350×12	7.4	t			
角形鋼管	BCR295 □-350×350×16	11.2	t			
溝形鋼	SS400 [-200×80×7.5×11	0.5	t			
山形鋼	SS400 L-65×65×6	1	t			
軽量リップ溝形鋼	SSC400 C-100×50×20×3.2	0.9	t			
切板	SS400 PL-3.2	30	kg			
切板	SS400 PL-6	0.3	t			

建築主体工事		鉄骨		本体鉄骨		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
切板	SS400 PL-9	0.9	t			
切板	SS400 PL-12	0.3	t			
切板	SN400 A PL-9	1.9	t			
切板	SN400A PL-12	2.7	t			
切板	SN400A PL-16	0.8	t			
切板	SN400B PL-12	0.9	t			
切板	SN490B PL-25	1.7	t			
切板	SN490C PL-19	0.4	t			
切板	SN490C PL-22	0.7	t			
切板	SN490C PL-25	0.5	t			
切板	SN490C PL-32	1.5	t			
[特殊高力ボルト]		1	式			別紙 00-0016
[頭付スタット <sup>®</sup> ]		1	式			別紙 00-0017
[弾性露出柱脚]	ペ-スバックグラウト, レベルモルタル含む	1	式			別紙 00-0018
[ファブラックス]	建築構造用柱梁接合部鋼材	1	式			別紙 00-0019
スクラップ 控除		1	式			別紙 00-0020
工場製作費		1	式			別紙 00-0021
現場施工費		1	式			別紙 00-0022
鉄骨運搬費		1	式			別紙 00-0023
アンカーボルト埋込み		1	式			別紙 00-0024



建築主体工事		鉄骨		屋内階段		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
H形鋼	SS400 H-200×200×8×12	0.1	t			
角形鋼管	STKR400 □-150×150×6	0.1	t			
山形鋼	SS400 L-65×65×6	10	kg			
切板	SS400 PL-4.5	0.8	t			
切板	SS400 PL-6	10	kg			
切板	SS400 PL-9	20	kg			
切板	SS400 PL-12	20	kg			
切板	SS400 PL-16	20	kg			
切板	SS400 PL-19	1.3	t			
[アンカーボルト]	M16 L=400フック付 材工共	1	式			別紙 00-0026
[特殊高力ボルト]		1	式			別紙 00-0027
スクラップ 控除		1	式			別紙 00-0028
工場製作費		1	式			別紙 00-0029
現場施工費		1	式			別紙 00-0030
鉄骨運搬費		1	式			別紙 00-0031
アンカーボルト埋込み		1	式			別紙 00-0032
柱底均しモルタル		1	式			別紙 00-0033
計						





建築主体工事		鉄骨		昇降機		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
H形鋼	SS400 H-175×175×7.5×11	1.2	t			
H形鋼	SS400 H-150×150×7×10	0.2	t			
H形鋼	SS400 H-125×125×6.5×9	0.5	t			
山形鋼	SS400 L-100×100×10	40	kg			
山形鋼	SS400 L-75×75×6	0.1	t			
山形鋼	SS400 L-65×65×6	20	kg			
吊元ピース	荷重9.8KN用 t-12 φ75穴付	1	式			
特殊高力ボルト		1	式			別紙 00-0049
アンカーボルト		1	式			別紙 00-0050
アンカーボルト埋込み		1	式			別紙 00-0051
柱底均しモルタル		1	式			別紙 00-0052
スクラップ控除		1	式			別紙 00-0053
工場製作費		1	式			別紙 00-0054
現場施工費		1	式			別紙 00-0055
鉄骨運搬費		1	式			別紙 00-0056
計						















建築主体工事		金属		外部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
軽量鉄骨天井下地	25形(屋外) ふところ1.0m未満 下地張りなし @300 インサート別途	535	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨天井 開口部補強		1	式			別紙 00-0057
天井インサート	デッキ用	535	m <sup>2</sup>			
アルミ製笠木	W=275	207	m			
ステンレス製手摺	34φ(2段)・H=750 HL	8.8	m			
ステンレス製壁付手摺	34φ(2段)・HL	7.3	m			
ステンレス製靴ふきマット	1300*600	3	か所			
アルミ製目隠しルーバー	アルミ押出形材(シルバー)84×16@90 取付用ストリンガー共	65.7	m <sup>2</sup>			
アルミ製笠木 コーナー役物	W=275	8	か所			
ステンレス製 屋上点検用ハッチ	600角	1	か所			
アルミ製 目隠しルーバー用 両開き扉	扉枠:C-60*30*20*2.3 丁番・本締錠 アルミ製目隠しルーバー別途	1	か所			
樹脂被覆 アルミ製ルーバー	30×50 @≒500	299	m <sup>2</sup>			
ステンレス製排水目皿	50φ	3	か所			
天井廻縁	アルミ製	97.2	m			
ガラス手摺	H=1150・足元取付金物共 ガラス別途	98.1	m			
コーナーカート	樹脂製 65×65×16 H=1000	20	か所			
鋼製タラップ	W=400・H=2400 タラップ :21φ@300	1	か所			
計						

建築主体工事		金属		内部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
軽量鉄骨壁下地	50形 下地張りなし @300	79.4	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りなし @300	228	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨壁下地	65形 下地張りあり @450	114	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨壁下地	100形 下地張りなし @300	31.3	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨壁 開口部補強		1	式			別紙 00-0058
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @225 インサート別途	127	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りなし @300 インサート別途	57.8	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨天井下地	19形(屋内) ふところ1.5m未満 下地張りあり @360 インサート別途	371	m <sup>2</sup>			
軽量鉄骨天井 開口部補強		1	式			別紙 00-0059
天井インサート	デッキ用	556	m <sup>2</sup>			
床点検口	屋内用 一般型充填用 アルミ製枠 アルミ目地 鍵有 600角	8	か所			
天井点検口	一般タイプ アルミ製 内外枠共額縁 450角	25	か所			
ステンレス製床見切	W=20	8.2	m			
タラップ(足掛)	ステンレス製 8-31-1	32	本			
鋼製手摺H=1150	手摺:FB-9*50・支柱:□-25*25 横材・手摺子:16*16*1.2@110 樹脂被覆手摺40φ2段共	6.8	m			
階段すべり止め金物	ステンレス製 ゴムなし W=35 接着工法	32.5	m			
樹脂被覆壁付手摺 (2段)	40φ・アルミ製ブラケット共	3.4	m			
鋼製階段手摺(斜部)H=900	手摺:FB-9*50・支柱:□-25*25 横材・手摺子:16*16*1.2@110 樹脂被覆手摺40φ2段共	14.8	m			
鋼製階段手摺(水平部)H=900	手摺:FB-9*50・支柱:□-25*25 横材・手摺子:16*16*1.2@110 樹脂被覆手摺40φ2段共	3.8	m			
ステンレス製排水目皿	50φ	10	か所			

建築主体工事		金属		内部		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
天井廻縁	塩化ビニル製	468	m			
ステンレス製巾木	高さ60・HL	82	m			
ステンレス製天板	W=150*20*1.5・HL	2.2	m			
ステンレス製天板	W=200*20*1.5・HL	9.1	m			
ステンレス製天板	W=100*20*1.5・HL	2.3	m			
ステンレス製足元笠木	140*25・HL	6	m			
塩ビ製クレーンクゴ蓋	W=150	1.8	m			
ステンレス製巾木見切り	40*25・HL	3.9	m			
手摺	樹脂被覆 L型 φ 34 1450+350*700	1	か所			
手摺	樹脂被覆 L型 φ 34 1700+2150*700	1	か所			
手摺	樹脂被覆 L型 φ 34 1250+350*700	1	か所			
手摺	樹脂被覆 L型 φ 34 1500*700	1	か所			
手摺	樹脂被覆 L型 φ 34 600*700	12	か所			
手摺	樹脂被覆 小便器用 φ 34(木目調)	1	か所			
手摺	樹脂被覆 可動 φ 34	2	か所			
手摺取付下地補強	PL-4.5*900*800	3	か所			
手摺取付下地補強	PL-4.5*200*360	2	か所			
手摺取付下地補強	PL-4.5*300*500	2	か所			
手摺取付下地補強	PL-4.5*W200	20.6	m			
視覚障害者誘導表示(誘導)	300*300 ステンレス紙(4個/枚)	28	か所			

























建築主体工事		建具		ガラス		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
複層ガラス (F4+A6+FL5)	特寸 2.0㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	2.7	㎡			
複層ガラス (FL5+A6+FL5)	特寸 2.0㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	24.6	㎡			
複層ガラス (FL6+A6+FL6)	特寸 2.0㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	11.9	㎡			
複層ガラス (強化5+A6+FL5)	特寸 2.0㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	69.8	㎡			
複層ガラス (強化6+A6+FL6)	特寸 2.0㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	20.9	㎡			
強化ガラス	厚さ 5mm 特寸 2.0㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	26.3	㎡			
型板ガラス	厚さ6 特寸 2.18㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	2.3	㎡			
型板ガラス	厚さ4 特寸 2.18㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	1.5	㎡			
フロート板ガラス	厚さ6 特寸 2.18㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	11.1	㎡			
フロート板ガラス	厚さ5 特寸 2.18㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	18.1	㎡			
フロート板ガラス	厚さ3 特寸 2.18㎡以下 ガラスとめ材別途 清掃別途	0.3	㎡			
ガラス手摺用ガラス	H=1000 強化合わせガラスt=6+6	98.1	m			
ガラスとめ(シーリング)	シリコン 1成分形 SR-1	632	m			
ガラス清掃		190	㎡			
衝突防止マーク	40×20 カッティングシート (こもりイメージ)	144	か所			
計						







建築主体工事		内外装		内部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
床防塵塗料塗り		14.6	m <sup>2</sup>			
ビニル床シート張り	無地 厚さ2.0 織布積層ビニルシートFS 多湿部 熱溶接工法	15.1	m <sup>2</sup>			
複層ビニル床タイル張り	厚3.0 複層ビニル床タイルFT 多湿床	277	m <sup>2</sup>			
防滑性ビニル床シート	無地 厚さ2.0 織布積層ビニルシートFS 多湿部 熱溶接工法	38.7	m <sup>2</sup>			
防滑性ビニル床シート	無地 厚さ2.0 織布積層ビニルシートFS 一般床 熱溶接工法	6	m <sup>2</sup>			
防滑性ビニル床シート (抗菌性)	無地 厚さ2.0 織布積層ビニルシートFS 多湿部 熱溶接工法	52.1	m <sup>2</sup>			
防滑性ビニル床シート (抗菌性)	無地 厚さ2.0 織布積層ビニルシートFS 一般床 熱溶接工法	7.2	m <sup>2</sup>			
ビニル幅木張り	高さ60	238	m			
壁 せっこうボード 張り(GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付けV目地 -	365	m <sup>2</sup>			
壁 せっこうボード 張り(GB-R)	厚12.5 不燃 RC、CB直張り 突付けV目地 -	0.1	m <sup>2</sup>			
壁 シーリング せっこうボード 張り(GB-S)	厚12.5 不燃 RC、CB直張り 突付けV目地 -	0.2	m <sup>2</sup>			
壁 シーリング せっこうボード 張り(GB-S)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付けV目地 -	20.7	m <sup>2</sup>			
壁 シーリング せっこうボード 張り(GB-S)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード下地 突付け -	102	m <sup>2</sup>			
壁 ハスベ紙張り	厚10	67.7	m <sup>2</sup>			
天井 ハスベ紙張り	厚10	18.4	m <sup>2</sup>			
壁 化粧けい酸 カルシウム板張り	厚6 目地シーリング共	223	m <sup>2</sup>			
天井 せっこうボード 張り(GB-R)	厚12.5 不燃 突付け	39.3	m <sup>2</sup>			
天井 不燃化粧 せっこうボード 張り	厚9.5 不燃 突付け	109	m <sup>2</sup>			
天井 不燃積層 せっこうボード 張り(GB-NC)	厚 9.5 不燃 化粧有り(トラバーチン) 突付け	18.2	m <sup>2</sup>			
天井 ロックウール 化粧吸音板張り (DR)	フラット内部用 厚12 不燃 下張GB-NC 厚 9.5共	371	m <sup>2</sup>			







建築主体工事		ユニット及びその他		内部		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
掲示板	900×900 マグネット掲示用:カー鋼板t=2.0	2	か所			
ベビーカーチェア	TOTO:YKA15R同等	2	か所			
ベビーカーシート	TOTO:YKA24R同等	3	か所			
ユニバーサルシート	LIXIL:AC-US-41同等	2	か所			
フイッティングボード	TOTO:YKA41R同等	2	か所			
ミニキッチン	1200*500*1900H 1口IHヒーター・換気扇・照明付	2	か所			
化粧鏡	2175*900	1	か所			
化粧鏡	1830*900	1	か所			
化粧鏡	750*900 フロント照明付	1	か所			
コインシャワー	一般用	6	か所			
コインシャワー	多目的用	1	か所			
カーテン	1990*2000H 片引き	1	か所			
カーテン	2500*2000H 片引き	1	か所			
カーテン	2395*2000H 片引き	1	か所			
天吊ステンレスカーテンレール	シングル H=500・L=1990・R付	1	か所			
天吊ステンレスカーテンレール	シングル H=500・L=2500・R付	1	か所			
天吊ステンレスカーテンレール	シングル H=500・L=2395	1	か所			
シャワーカーテン	900*1800	6	か所			
シャワーカーテン	1800*2000	1	か所			
カーテンロッド	L=837	6	か所			



































建築主体工事		庭球場屋根				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
【鉄骨工事】						
1. 柱工事						
鋼材費	プレート材	1	式			別紙 00-0075
鋼材費	ボルト類	1	式			別紙 00-0076
アンカーセット	手間のみ	120	本			
工場加工費		85,811	kg			
副資材		85,811	kg			
回転灯取付台	170*100	8	か所			
スピーカー取付台	141*30	2	か所			
スピーカー取付台	314*50	6	か所			
工場防錆塗装費	ショット+ジンク+MIO	697	m <sup>2</sup>			
横持費		1	式			
運搬費		11	台			
アンカーボルト運搬費		1	台			
現場建方費		85,811	kg			
現場塗装費	ウレタン塗装	697	m <sup>2</sup>			
柱底均しモルタル		30	か所			
現場施工費		1	式			
小計						
2. トラス工事						

建築主体工事		庭球場屋根				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
部材製作費1 (TM <sup>ハ</sup> イ <sup>フ</sup> )	φ 60.5*3.2*M20	1,565	本			
	φ 76.3*3.2*M20	1,203	本			
	φ 89.1*4.2*M24	621	本			
	φ 101.6*4.2*M27	152	本			
	φ 114.3*4.5*M30	45	本			
	φ 139.8*4.5*M36	14	本			
部材製作費2 (TM <sup>ク</sup> ロー <sup>フ</sup> )	φ 110	460	個			
	φ 130	271	個			
	φ 150	55	個			
	φ 180	66	個			
	φ 200	20	個			
	φ 220	14	個			
	φ 260	26	個			
	φ 300	4	個			
部材製作費3 (支承部)	φ 260 ベースプレート・リアプレート・座金込み	30	か所			
副資材		1	式			
治具工具損料		3,197	m <sup>2</sup>			
現場組立費		3,197	m <sup>2</sup>			
中間足場	掛のみ ハ <sup>フ</sup> ラ <sup>ン</sup> 別途	3,197	m <sup>2</sup>			
現場塗装費	ウレタン塗装 ク <sup>ラ</sup> フ <sup>ト</sup> ・支 <sup>サ</sup> 承 <sup>ブ</sup> 部 <sup>・</sup> タ <sup>チ</sup> ア <sup>ッ</sup> プ	3,197	m <sup>2</sup>			

建築主体工事		庭球場屋根				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
照明下地	170*100 φ160 PL6t	60	個			
防鳥ネット取付用ア ルト	SUS M20	64	個			
アンカーボルト・型板	材料費のみ	1	式			
運搬費		1	式			
法定福利費		1	式			
小計						
3. 膜下地鉄骨工 事						
鋼材費	所要数量：51,442Kg	1	式			別紙 00-0077
鋼材費	曲げ材	1	式			別紙 00-0078
鋼材費	ボルト	1	式			別紙 00-0079
曲げ加工費	冷間曲げ	24,991	kg			
曲げ横持費		5	台			
工場加工 (主架構材)		37,550	kg			
工場加工 (二次部材)	A種 外周膜定着部	224	m			
工場加工 (二次部材)	A種 中間膜定着部R	1,014	m			
工場加工 (二次部材)	A種 膜分割部R	407	m			
工場加工 (二次部材)	A種 膜接触部R	17	m			
副資材		49,368	kg			
工場防錆塗装	ショット+ジ ンク+エボ +MO	1,593	m <sup>2</sup>			
横持費		1	式			

建築主体工事		庭球場屋根				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
運搬費		9	台			
現場建方費		49,368	kg			
フランジ・ジョイント部補修		238	か所			
現場塗装費		1,593	m <sup>2</sup>			
仕上塗装タッチアップ費		1,593	m <sup>2</sup>			
現場施工費		1	式			
小計						
【屋根工事】						
4. 膜工事						
膜材料	フッ素樹脂酸化チタン光触媒膜 (厚0.8mm) 裁断・溶着・加工含む	3,354	m <sup>2</sup>			
膜押え金物製作費 1	外周膜定着部(直) アルミFB38*13・コーム・SUS <sup>304</sup> 板	224	m			
膜押え金物製作費 2	中間膜定着部R アルミファスナー30*45・SUS <sup>304</sup> 板	1,014	m			
膜押え金物製作費 3	膜分割部R アルミ2FB38*13・コーム・SUS <sup>304</sup> 板	407	m			
運搬費		1	式			
現場取付費		3,354	m <sup>2</sup>			
現場溶着費		407	m			
小計						
5. 金属工事						
軒樋	SUS1.5t (アクリル焼付)	224	m			
落葉がート		224	m			





建築主体工事		とりこわし				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
アスファルト舗装カッター	舗装面 厚さ50mm程度	85	m			
カッター入れ	コンクリート面 厚さ20～30mm	196	m			
アスファルト舗装撤去		76.7	m <sup>3</sup>			
舗装路盤撤去		230	m <sup>3</sup>			
伐採抜根	幹周15cm未満 人力	210	本			
伐採抜根	幹周15～25cm未満 人力	79	本			
伐採抜根	幹周25～40cm未満 機械併用	11	本			
伐採抜根	幹周40～60cm未満 機械併用	1	本			
フェンス撤去	H=1.0程度 支柱、パネル共	66.8	m			
フェンス撤去	H=3.0程度 支柱、パネル共	153	m			
フェンス基礎撤去		78	か所			
すきとり	積み込み共 H300程度	282	m <sup>3</sup>			
コンクリート縁石撤去	集積共	344	m			
コンクリート階段撤去	集積共	0.6	m <sup>3</sup>			
コンクリート擁壁撤去	集積共	23.6	m <sup>3</sup>			
コンクリート排水溝撤去	集積共	6.5	m <sup>3</sup>			
計						













建築主体工事		直接仮設				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
遣方		1	式			別紙 00-0001
遣方	一般	508	m <sup>2</sup>			
計						
墨出し		1	式			別紙 00-0002
墨出し	一般 S造 地上階	886	m <sup>2</sup>			
計						
養生		1	式			別紙 00-0003
養生	一般 S造 地上階	886	m <sup>2</sup>			
計						
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0004
整理清掃 後片付け	一般 S造 地上階	886	m <sup>2</sup>			
計						
地足場		1	式			別紙 00-0005
地足場	掛払い手間 供用60日賃料 基本料 修理費含む	508	m <sup>2</sup>			
計						











建築主体工事		コンクリート				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
コンクリート打設手間	ポンプ圧送含む	1	式			別紙 00-0014
<捨てコン>						
コンクリート打設手間	捨てコンクリート ポンプ 打設 30m3/回程度 S15～S18 - 圧送費、基本料別途	20.7	m3			
コンクリートポンプ 圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	20.7	m3			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1	回			
<ピット土間コン>						
コンクリート打設手間	土間 ポンプ 打設 50m3/回程度 S15～S18 - 圧送費、基本料別途	15.3	m3			
コンクリートポンプ 圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	15.3	m3			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1	回			
<1階床コン>						
コンクリート打設手間	土間 ポンプ 打設 50m3/回程度 S15～S18 - 圧送費、基本料別途	35.5	m3			
コンクリートポンプ 圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	35.5	m3			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1	回			
<基礎コン>						
コンクリート打設手間	基礎部 ポンプ 打設 100m3/回以上 S15～S18 - 圧送費、基本料別途	195	m3			
コンクリートポンプ 圧送	100m3/回以上 基本料金別途加算	195	m3			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金	100m3/回以上	1	回			
<2FLデッキコン>						
コンクリート打設手間	躯体 ポンプ 打設 100m3/回以上 S15～S18 標準階高 圧送費、基本料別途	66	m3			
コンクリートポンプ 圧送	50m3以上100m3/回未満 基本料金別途加算	66	m3			

建築主体工事		コンクリート				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
コンクリート打設手間	ポンプ圧送含む	1	式			別紙 00-0014
コンクリートポンプ圧送基本料金	50m3以上100m3/回未満	1	回			
<RFLデッキコン>						
コンクリート打設手間	躯体ポンプ打設 100m3/回以上 S15～S18 標準階高 圧送費、基本料別途	61.4	m3			
コンクリートポンプ圧送	50m3以上100m3/回未満 基本料金別途加算	61.4	m3			
コンクリートポンプ圧送基本料金	50m3以上100m3/回未満	1	回			
<屋根雑コン>						
コンクリート打設手間	防水保護コンクリートポンプ打設 50m3/回程度 S15～S18 - 圧送費、基本料別途	11.6	m3			
コンクリートポンプ圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	11.6	m3			
コンクリートポンプ圧送基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1	回			
<防水押えコン>						
コンクリート打設手間	防水保護コンクリートポンプ打設 50m3/回程度 S15～S18 - 圧送費、基本料別途	13.4	m3			
コンクリートポンプ圧送	30m3以上 50m3/回未満 基本料金別途加算	13.4	m3			
コンクリートポンプ圧送基本料金	30m3以上 50m3/回未満	1	回			
計						
構造体強度補正值	6N	1	式			別紙 00-0015
構造体強度補正值	基礎コンクリート +6N 呼び強度=30-24N/mm <sup>2</sup> S=15	231	m3			
構造体強度補正值	上部コンクリート +6N 呼び強度=30-24N/mm <sup>2</sup> S=18	139	m3			
計						

建築主体工事		鉄骨		本体鉄骨		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
[特殊高力ボルト]		1	式			別紙 00-0016
トルシア形高力ボルト	S10T M22×60	37	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M22×50	162	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M20×80	1,082	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M20×70	1,414	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M20×60	1,739	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M20×55	233	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M20×50	128	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M20×45	229	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M16×35	137	本			
計						
[頭付スタット]		1	式			別紙 00-0017
頭付スタット	16φ H=260	154	本			
頭付スタット	16φ H=130	132	本			
頭付スタット	16φ H=80	3,809	本			
計						

建築主体工事		鉄骨		本体鉄骨		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
[弾性露出柱脚]	ベースパッドがラウト、レベルモルタル含む	1	式			別紙 00-0018
弾性露出柱脚	BCR295 □-350-16用 大臣認定品 J350-16K	14	か所			
計						
[ファブラックス]	建築構造用柱梁接合部鋼材	1	式			別紙 00-0019
ファブラックス	DS35 大臣認定品	2	か所			
計						
スクラップ 控除		1	式			別紙 00-0020
スクラップ 控除	ヘビ- H2	3.1	t			
計						
工場製作費		1	式			別紙 00-0021
工場加工組立	溶接材料及び溶接手間共	93.7	t			
軽量鉄骨加工 ・組立	母屋. 胴縁の類 一般 普通ボルト締共	0.8	t			
工場溶接	隅肉6mm換算	3,147	m			
錆止め塗料塗り	K5674 工場1回塗り	1,936	m <sup>2</sup>			
DP塗装下塗	JIS K5552, 5551, 5551	18.5	m <sup>2</sup>			
計						

建築主体工事		鉄骨		本体鉄骨		
名 称	摘 要	数 量	単位	単 価	金 額	備 考
現場施工費		1	式			別紙 00-0022
鉄骨現場建方	低層(標準) 建方機械別途	93.7	t			
現場取付費	軽量鉄骨	0.8	t			
トリア形 高力ボルト締付け	トリア鉄骨 1,000本未満 施工手間	4,963	本			
錆止め塗料塗り	K5674 現場1回塗り	1,936	m <sup>2</sup>			
計						
鉄骨運搬費		1	式			別紙 00-0023
鉄骨運搬	11t車	94.6	t			
計						
アンカーボルト埋込み		1	式			別紙 00-0024
アンカーボルト埋込み (B種)	径28以上(主柱) 取付手間	112	本			
計						
デッキプレート		1	式			別紙 00-0025
デッキプレート	合成スラブ用デッキプレート QL 99-5-12 Z12	24.3	t			
デッキプレート敷き込み	焼き抜き栓溶接	1,866	m <sup>2</sup>			
計						

建築主体工事		鉄骨		屋内階段		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
[アンカーボルト]	M16 L=400フック付 材工共	1	式			別紙 00-0026
[アンカーボルト]	M16 L=400フック付 材工共	8	か所			
計						
[特殊高力ボルト]		1	式			別紙 00-0027
トルシア形高力ボルト	S10T M20×65	2	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M20×60	4	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M20×50	25	本			
トルシア形高力ボルト	S10T M16×35	17	本			
計						
スクラップ 控除		1	式			別紙 00-0028
スクラップ 控除	へび - H2	0.1	t			
計						
工場製作費		1	式			別紙 00-0029
工場加工組立	溶接材料及び溶接手間共	2.3	t			
工場溶接	隅肉6mm換算	30.4	m			
錆止め塗料塗り	K5674 工場1回塗り	65.5	m <sup>2</sup>			
計						



建築主体工事		鉄骨		屋内階段		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
現場施工費		1	式			別紙 00-0030
鉄骨現場建方	低層(標準) 建方機械別途	2.3	t			
トルシヤ形 高力ボルト締付け	トルシヤ形 1,000本未満 施工手間	46	本			
錆止め塗料塗り	R5674 現場1回塗り	65.5	m <sup>2</sup>			
計						
鉄骨運搬費		1	式			別紙 00-0031
鉄骨運搬	11t車	2.3	t			
計						
アンカーボルト埋込み		1	式			別紙 00-0032
アンカーボルト埋込み (B種)	径16~19(主柱) 取付手間	8	本			
計						
柱底均しモルタル		1	式			別紙 00-0033
柱底均しモルタル	A種 200×200 厚30	4	か所			
計						

建築主体工事		鉄骨		胴縁		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
[普通ボルト]		1	式			別紙 00-0034
普通ボルト	4T 仕上中 M12×130	87	本			
普通ボルト	4T 仕上中 M12×45	12	本			
普通ボルト	4T 仕上中 M12×30	2,548	本			
計						
[アンカーボルト]		1	式			別紙 00-0035
アンカーボルト	ワット締め 180° フック付 M12×360	93	本			
計						
スクラップ 控除		1	式			別紙 00-0036
スクラップ 控除	ヘビ- H2	0.4	t			
計						
工場製作費		1	式			別紙 00-0037
軽量鉄骨加工 ・組立	母屋. 胴縁の類 一 般 普通ボルト締共	11	t			
工場溶接	隅肉6mm換算	423	m			
錆止め塗料塗り	K5674 工場1回塗り	938	m <sup>2</sup>			
計						



建築主体工事		鉄骨		ル-バー鉄骨		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
[普通ボルト]		1	式			別紙 00-0041
普通ボルト	4T 仕上中 M12×30	75	本			
計						
[アンカーボルト]		1	式			別紙 00-0042
アンカーボルト	ワット締め 180° フック付 M16×560	72	本			
計						
スクラップ 控除		1	式			別紙 00-0043
スクラップ 控除	ヘビ- H2	0.1	t			
計						
工場製作費		1	式			別紙 00-0044
工場加工組立	溶接材料及び溶接手間共	0.7	t			
軽量鉄骨加工 ・組立	母屋. 胴縁の類 一 般 普通ボルト締共	1.2	t			
工場溶接	隅肉6mm換算	13	m			
DP塗装下塗	JIS K5552, 5551, 5551	129	m <sup>2</sup>			
計						



建築主体工事		鉄骨		昇降機		
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
特殊高力ボルト		1	式			別紙 00-0049
特殊高力ボルト	S10T M16×45	54	本			
計						
アンカーボルト		1	式			別紙 00-0050
アンカーボルト	ワット締め M16×400	12	本			
計						
アンカーボルト埋込み		1	式			別紙 00-0051
アンカーボルト埋込み (B種)	径13~16(間柱等) 取付手間	12	本			
計						
柱底均しモルタル		1	式			別紙 00-0052
柱底均しモルタル	A種 200×200 厚30	6	か所			
計						
スクラップ 控除		1	式			別紙 00-0053
スクラップ 控除	へび H2	0.1	t			
計						













建築主体工事		直接仮設				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
遣方		1	式			別紙 00-0061
遣方	一 般	2,800	m <sup>2</sup>			
計						
墨出し		1	式			別紙 00-0062
墨出し	一 般 S造 ビ <sup>ロ</sup> ロ <sup>イ</sup> ー	2,800	m <sup>2</sup>			
計						
養生		1	式			別紙 00-0063
養生	一 般 S造 ビ <sup>ロ</sup> ロ <sup>イ</sup> ー	2,800	m <sup>2</sup>			
計						
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0064
整理清掃 後片付け	一 般 S造 ビ <sup>ロ</sup> ロ <sup>イ</sup> ー	2,800	m <sup>2</sup>			
計						
地足場		1	式			別紙 00-0065
地足場	掛払い手間 供用60日賃料 基本料 修理費含む	2,800	m <sup>2</sup>			
計						















建築主体工事		庭球場屋根				
名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
鋼材費	所要数量 : 51,442Kg	1	式			別紙 00-0077
カ*イ*ト*ハ*イ*	P-42.7*2.3	584	kg			
カ*イ*ト*ハ*イ*	P-89.1*3.2	7,384	kg			
カ*イ*ト*ハ*イ*	P-101.6*4.2	650	kg			
カ*イ*ト*ハ*イ*	P-114.3*4.5	15,554	kg			
カ*イ*ト*ハ*イ*	P-139.8*4.5	4,917	kg			
カ*イ*ト*ハ*イ*	P-139.8*4.5(STK490)	2,007	kg			
フ*レ*ト*材	2.3	142	kg			
フ*レ*ト*材	3.2	15	kg			
フ*レ*ト*材	4.5	6	kg			
フ*レ*ト*材	6	6,891	kg			
フ*レ*ト*材	9	2,427	kg			
フ*レ*ト*材	12	752	kg			
フ*レ*ト*材	16(SN490C)	2,641	kg			
フ*レ*ト*材	19(SN490C)	528	kg			
FB	150*9	6,944	kg			
計						



建築主体工事		庭球場屋根外構		構内舗装等		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
躯体工事		1	式			別紙 00-0080
根切り	総掘り 法付オープンカット	59.7	m <sup>3</sup>			
床付け	総掘り	20.9	m <sup>2</sup>			
埋戻し(B種)	- 発生土	53.4	m <sup>3</sup>			
建設発生土運搬	ダンプトラック 10t積級 パック幅0.8m <sup>3</sup> 土砂 DID区間有り 5.0km以下	6.3	m <sup>3</sup>			
建設発生土処分		6.3	m <sup>3</sup>			
砂利地業	再生切込砕石	2.3	m <sup>3</sup>			
鉄筋コンクリート用 異形棒鋼	JIS G3112 SD295 D13 少量	0.6	t			
鉄筋スクラップ 控除	へび H2	0.02	t			
鉄筋加工組立	RCラーメン構造 階高3.5~4.0m程度 形状単純	0.6	t			
鉄筋運搬費	10t車 30km程度	0.6	t			
普通コンクリート	JIS A5308 呼び強度18 S15 粗骨材20	0.6	m <sup>3</sup>			
普通コンクリート	JIS A5308 呼び強度18 S18 粗骨材20	9.8	m <sup>3</sup>			
普通コンクリート	JIS A5308 呼び強度18 S18 粗骨材20	2	m <sup>3</sup>			
コンクリート打設手間	捨てコンクリート ポンプ打設 30m <sup>3</sup> /回程度 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	0.6	m <sup>3</sup>			
コンクリート打設手間	基礎部 ポンプ打設 100m <sup>3</sup> /回以上 S15~S18 - 圧送費、基本料別途	9.8	m <sup>3</sup>			
コンクリート打設手間	躯体 ポンプ打設 100m <sup>3</sup> /回以上 S15~S18 標準階高 圧送費、基本料別途	2	m <sup>3</sup>			
コンクリートポンプ 圧送	30m <sup>3</sup> 以上 50m <sup>3</sup> /回未満 基本料金別途加算	9.8	m <sup>3</sup>			
コンクリートポンプ 圧送 基本料金	30m <sup>3</sup> 以上 50m <sup>3</sup> /回未満	1	回			
型枠	普通合板型枠 - 基礎部 -	63.4	m <sup>2</sup>			



